

栃木県埋蔵文化財調査報告第 386 集

栗宮宮内遺跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査—

2017.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

あわのみや みや うち い せき
栗宮宮内遺跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査—

2017.3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

粟宮宮内遺跡は、栃木県南部の小山市粟宮地内に位置しています。

この度、主要地方道小山環状線建設に先立ち、路線内に所在する遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。すでに、平成19～20年に1次調査が行われ、古代の鍛冶関連遺物、中世以降の土坑、遺物が確認されています。

今回の2次調査・3次調査では、密集する長形状の土坑群、地下式坑、方形竪穴遺構、井戸跡及びこれらを区画する溝状遺構などを確認しました。中世以降の土師質土器、瓦質土器、陶磁器、鉄製品などが出土し、地域の歴史解明に資する成果が得られました。

本報告書は、平成27年度（2次調査）、平成28年度（3次調査）に実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

本書が県民の皆様にとりまして、郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県県土整備部、小山市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

栃木県教育委員会

教育長 宇田 貞夫

例 言

- 1 本書は、栃木県小山市粟宮地内に所在する粟宮宮内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、平成 27 年及び平成 28 年度栃木県県土整備部道路整備課事業のうち、快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査に伴う記録調査である。
- 3 調査は、栃木県より財団法人とちぎ未来づくり財団へ業務委託され、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもと、実施したものである。
- 4 本遺跡の現地調査及び整理報告作業期間は以下の通りである。

平成 27 年度 発掘調査（発掘）

期 間 平成 27（2015）年 9 月 1 日～平成 27（2014）年 11 月 30 日

担当者 整理課課長 藤田典夫

調査課副主幹 後藤信祐

整理課副主幹 津野 仁

調査課嘱託調査員 大木丈夫

平成 28 年度 発掘調査（発掘・整理・報告）

期 間 （発掘） 平成 28 年（2016）年 6 月 1 日～平成 28（2016）年 11 月 30 日

（整理・報告） 平成 28 年（2016）年 8 月 1 日～平成 29（2017）年 3 月 30 日

担当者 （発掘） 整理課課長 塚本師也

調査課嘱託調査員 大木丈夫

（整理・報告） 調査課副主幹 篠原浩恵

- 5 本書の執筆・報告書作成は篠原浩恵が行った。
- 6 粟宮宮内遺跡の調査にあたり、以下の事業を委託した。
基準点測量及び基準杭設定・航空写真撮影・遺構実測図：中央航業株式会社
岩石肉眼鑑定：パリノ・サーヴェイ株式会社
- 7 発掘調査中における遺構の写真撮影は担当者が行った。遺物写真は報告書印刷に伴い株式会社松井 P・T・O・印刷が行った。
- 8 金属製品の保存処理・X 線撮影は埋蔵文化財センター調査部資料普及課副主幹車塚哲久が行った。
- 9 発掘調査・報告書作成にあたっては、次の方々から御指導・御協力を賜った。
栃木県県土整備部 栃木県教育委員会事務局文化財課 小山市教育委員会
- 10 発掘調査の参加者は、次の通りである。

平成 27 年度

荒井和子 海老原一夫 山本賀津子 山本照子 大橋ひさい 鈴木勇 阿部孝志 阿久津慧

横山政雄 片野廣 佐藤常幸 小崎重男 澤田照子 澤田福華 小崎俊也 澤田光央 小泉トモ子

平成 28 年度

荒井和子 天野崇弘 海老原一夫 山本照子 大橋ひさい 鈴木勇 阿部孝志 阿久津慧 横山政雄

片野廣 佐藤常幸 小崎重男 澤田照子 澤田福華 小泉トモ子 鈴木英男

- 11 整理・報告書作成作業の参加者は次の通りである。

和田恵美・佐藤愛・熊谷早苗・長道子・鈴木知子 図版データ化 佐藤愛

- 12 本遺跡の調査概要は、埋蔵文化財センター年報・栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、本書をもって正式報告とする。
- 13 本遺跡の出土遺物・図面写真等資料等については、栃木県が保有し、栃木県埋蔵文化財センターに保管、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが管理している。

凡 例

1 遺跡

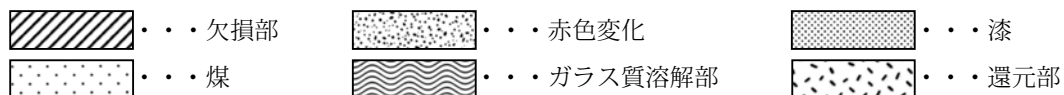
- (1) 遺跡の略号は OY-AW (OYamashi-AWanomiya) である。1 次～3 次調査の別を明示するため、第 2 次調査に「2」(OY-AW 2)、第 3 次調査に「3」(OY-AW 3) の枝番を伏す。

2 遺構

- (1) 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所が用いる SA (塀・柵列)・SD (溝)・SE (井戸)・SK (土坑)・SX (性格不明遺構) に準拠する。地下式坑・方形竪穴については、現地調査を踏襲し「SK」とする。
- (2) 遺構図の縮尺は原則として 1/80 を用いる。これ以外の縮尺を用いる場合は挿図中にスケールで示す
- (3) セクション図の「L.H.」は線上が標高を示す。
- (4) 方位は国土方眼座標に拠っている。
- (5) 土層堆積図の番号は堆積の順序を示すものではない。
- (6) 遺構図中の点線の示すものは本文に記載する。

3 遺物

- (1) 実測図の縮尺は原則として 1/4 を用い、これ以外の縮尺を用いる場合は挿図中にスケールで示す。
- (2) 挿図中の遺物番号は、遺構毎の出土番号及び遺物観察表並びに写真図版に対応する。
- (3) 縄文土器の断面図に網掛けしたものは、胎土中に繊維を含む。
- (4) 須恵器の断面図は黒塗りで示す。
- (5) 土器実測図のスクリーントーンは以下を示す。



- (6) 遺物実測図・拓影図で内外面を示したものは、左側に外面、右側に内面を基本に表示した。
- (7) 石器・礫の左右面は任意であり、観察表中の表面は左面、裏面は右面を指すが、使用状況を示すものではない。
- (8) 図版・観察表及び本文の番号は一致する。
- (9) 事実記載及び観察表中の () 付き数値は残存値、[] 付き数値は推定値を示したものである。
- (10) 胎土の色調は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修 1996 年版) を参照した。
- (11) 土器類・陶磁器類の胎土については、以下に区分した

〈土師器・須恵器〉

A：きめ細かい B：ややきめ細かい C：やや粗い D：粗い

1：白色粒子 2：黒色粒子 3：灰白色粒子 4：赤褐色粒子 5：ガラス質粒子

6：砂粒 7：小礫

〈土師質土器〉

胎土 A：きめ細かい。混入物が目立たない。

胎土 B：ややきめ細かい。混入物（細粒等）を少量含む。

胎土 C：ややきめ細かい。混入物（細粒等）をやや多く含む。

〈瓦質土器〉（内耳土器は胎土 C・D により区分する）

胎土 A：きめ細かい。混入物が目立たない。

胎土 B：ややきめ細かい。白色細粒・細砂粒を少量含む。

胎土 C：若干きめが粗い。混入物をやや多く含む。雲母粒子を含まない。

胎土 D：若干きめが粗い。混入物をやや多く含む。雲母粒子を含む。

〈陶器〉

胎土 A：極めてきめ細かい。（精緻）混入物が目立たない。

胎土 B：きめ細かい。（精緻）混入物が目立たない。

胎土 C：きめ細かい。混入物を少量含む。

胎土 D：ややきめ細かい。混入物を含む。

胎土 E：若干きめが粗い。混入物をやや多く含む。

〈磁器〉

胎土 A：きめ細かい。（精緻）混入物が目立たない。

胎土 B：きめ細かい。（精緻）混入物を少量含む。

胎土 C：きめ細かい。混入物を含む。

胎土 D：ややきめ細かい。混入物を含む。

胎土 E：若干きめが粗い。混入物を少量含む。

胎土 F：若干きめが粗い。混入物を含む。

参考文献：2010 池田敏広 栃木県埋蔵文化財調査報告書第 330 集『下陰遺跡Ⅱ（遺物編）』

- (12) 石製品・礫の○付き数字は附章石材肉眼鑑定結果表に対応する。
- (13) 遺構・遺物の縮尺は不統一である。
- (14) 実測図に同時掲載する遺物の縮尺は任意である。

目次

序	
例言	i
凡例	ii
目次	iv
第1章 調査にいたる経緯と経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の方法	4
第2章 遺跡の環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	9
第3章 確認された遺構と遺物	13
第1節 調査の概要	13
1. 基本土層	13
第2節 2次調査	13
1. 調査の概要	2. 地下式坑 (1) 調査の概要 (2) 地下式坑
3. 方形竪穴遺構 (1) 調査の概要 (2) 方形竪穴遺構	
4. 土坑 (1) 調査の概要 (2) 土坑	5. 井戸跡 (1) 調査の概要 (2) 井戸跡
6. 溝状遺構 (1) 調査の概要 (2) 溝状遺構	7. 柵列 (1) 調査の概要 (2) 柵列
8. ピット (1) 調査の概要 (2) ピット	9. 2次調査遺構外出土遺物
第3節 3次調査	144
1. 調査の概要	2. 地下式坑 (1) 調査の概要 (2) 地下式坑
3. 土坑 (1) 調査の概要 (2) 土坑	4. 井戸跡 (1) 調査の概要 (2) 井戸跡
5. 溝状遺構 (1) 調査の概要 (2) 溝状遺構	6. ピット (1) 調査の概要 (2) ピット
7. 性格不明遺構 (1) 調査の概要 (2) 性格不明遺構	
8. 3次調査遺構外出土遺物 (1) 調査の概要 (2) 遺構外出土遺物	
第4節 金属器・鉄滓・陶磁器	277
1. 金属器	2. 鉄滓
3. 陶磁器	
第4章 まとめ	294
第1節 調査の概要	294
第2節 遺構	294
1. 地下式坑	2. 土坑
3. 井戸跡	4. 溝状遺構
5. ピット	6. 遺構配置
第3節 出土遺物	299
1. 出土遺物の概要	2. 遺物の出土状況
3. 出土遺物	
第4節 栗宮宮内遺跡2次・3次調査	303
附章 自然科学分析	304
栗宮宮内遺跡発掘調査に係る岩石肉眼鑑定業務	304

挿図目次

第1図	栗宮宮内遺跡位置図 ……………	3	第33図	第74・75・81・82・84・641号土坑・ 第89・642号溝状遺構実測図 ……………	93
第2図	1～3次調査区配置図 ……………	5	第34図	第83・86・90・91・96・97・134号土坑・ 第88・708号ピット実測図 ……………	94
第3図	栗宮宮内遺跡遺構配置図 ……………	6	第35図	第98・99・103・104・135・136号土坑 実測図 ……………	95
第4図	栃木県地形区分図 ……………	7	第36図	第108・110・112・115・137～139・735・ 736号土坑・第145号井戸跡・第140・ 146～151号ピット実測図 ……………	96
第5図	周辺地形区分図 ……………	8	第37図	第111・116・154～159・591・592号 土坑・第593号ピット実測図 ……………	97
第6図	周辺遺跡分布図 ……………	11	第38図	第113・117・119・598・601・602号 土坑・第594～597号ピット実測図 ……	98
第7図	基本土層図 ……………	14	第39図	第121・152・589・590・625・628号 土坑実測図 ……………	99
第8図	2次調査 I区 遺構配置図 ……………	20	第40図	第76・78・79・85号土坑実測図 ………	99
第9図	2次調査 II区 遺構配置図 ……………	21	第41図	第94・711～714・716～733号土坑・ 第715号ピット実測図 ……………	100
第10図	2次調査 III-1区 遺構配置図 ……………	22	第42図	第94・711～714・716～733号土坑・ 第342号ピット重複模式図 ……………	100
第11図	2次調査 III-2区 遺構配置図 ……………	23	第43図	第94・711～714・716～733号土坑 実測図 ……………	101
第12図	2次調査 III-3区 遺構配置図 ……………	24	第44図	第4・8・23・28・35・37・41号土坑 出土遺物実測図 ……………	103
第13図	第1号地下式坑・第2・3・15～17・ 122・123号土坑実測図 ……………	29	第45図	第42～44・46～48・51・54・69・ 71・73・75号土坑出土遺物実測図 ……	104
第14図	第9・10号地下式坑・第5～8・18・ 125～131号土坑実測図 ……………	30	第46図	第78・79・82・83・94・104・107・ 113・115号土坑出土遺物実測図 ………	105
第15図	第9・10号地下式坑・第5～8・125～ 131号土坑実測図実測図 ……………	31	第47図	第613・626号土坑出土遺物実測図 ……	106
第16図	第11号地下式坑・第565号方形竪穴 遺構・第132号土坑実測図 ……………	31	第48図	第26・27・30・77・100・118・566号 井戸跡実測図 ……………	116
第17図	第705号地下式坑・第707号方形竪穴 遺構・第87・92・93号井戸跡・第95・704・ 706号土坑実測図 ……………	32	第49図	第77・92・93号井戸跡出土遺物実測図 ……	117
第18図	第106・114号地下式坑・第25・153号 土坑・第154・155号ピット実測図 ……	33	第50図	第19・21号溝状遺構・第142号土坑・ 第143号井戸跡・第141号ピット実測図 ……	122
第19図	第1・10・106・114・565号埋地下式坑 出土遺物実測図 ……………	34	第51図	第19・21号溝状遺構・第142・144号 土坑実測図 ……………	123
第20図	第24・109号方形竪穴遺構・第567号 土坑・第603・604号井戸跡実測図 ……	37	第52図	第64・72・633号溝状遺構・第33・35・39・ 44・52・69・626・627・737号土坑実測図 ……	124
第21図	第105号方形竪穴遺構・第101・102・ 107・133号土坑実測図 ……………	38	第53図	第19・21号溝状遺構出土遺物実測図 ……	125
第22図	第24・105号方形竪穴遺構出土遺物 実測図 ……………	38	第54図	第21号溝状遺構出土遺物実測図(1) ……	126
第23図	第4・20・22・23・29・31・32号土坑 実測図 ……………	85	第55図	第21号溝状遺構出土遺物実測図(2) ……	127
第24図	第28・40・47・48・50・53・55・599・600・ 649～651号土坑実測図 ……………	86	第56図	第120号柵列・第200・574～588号 ピット実測図(1) ……………	130
第25図	第37・51・643～648号土坑実測図 ……	87	第57図	第120号柵列・第200・574～588号 ピット実測図(2) ……………	131
第26図	第38・41・45・46・49・635～639・ 738・739号土坑・第600～610・740 ～744号ピット実測図 ……………	88	第58図	第120号柵列出土遺物実測図 ……………	132
第27図	第56・58・60・63・65・66・73号土坑・ 第611・624・634・640号ピット実測図 ……	89	第59図	第34～37・39・605・629～632号 ピット実測図 ……………	133
第28図	第42・43・54・613～619号土坑 実測図(1) ……………	90	第60図	第57・59・62・652～677号ピット実測図 ……	134
第29図	第42・43・54・613～619号土坑内 ピット配置図 ……………	90	第61図	第678～703・734号ピット実測図 ……	135
第30図	第42・43・54・613～619号重複 模式図 ……………	90	第62図	遺構外出土遺物実測図 ……………	142
第31図	第42・43・54・613～619号土坑 実測図(2) ……………	91	第63図	D-Ⅱ区全体図 ……………	145
第32図	第61・67・68・70・71・80・612・620～623・ 710号土坑・第709号ピット実測図 ……	92	第64図	第214号地下式坑・第217・249・258号 土坑・第760・761号ピット実測図 ……	149

第 65 図	第 338 号地下式坑・第 385 号土坑 実測図 ……………150	第 85 図	第 410～415・419・420・806 号土坑・ 第 500・556・558・559・832～835 号ピット実測図 ……………210
第 66 図	第 370 号地下式坑・第 371 号溝状遺構 実測図 ……………151	第 86 図	第 421～426・432～440・444・451・ 452 号土坑・第 441～443・492・830 号ピット実測図…………… 211
第 67 図	第 374 号地下式坑・第 364・376 号溝状 遺構・第 340 号井戸跡・第 328・343・ 344・348～350・354・366・372・373・ 375・383・386・852 号土坑・第 853～ 860 号ピット実測図 ……………152	第 87 図	第 446～450・484・841・843～846 号土坑・第 840・842 号ピット実測図 … 212
第 68 図	第 374 号地下式坑・第 364・376 号溝状 遺構・第 340 号井戸跡・第 328・343・ 344・348～350・354・366・372・373・ 375・383・386・852 号土坑・第 853・ 854・856・857・860 号ピット実測図 ……153	第 88 図	第 453・454・456～459・461～465・ 467～469・810・811・814・818 号土坑・ 第 812・813・815～817・819 号ピット 実測図 …………… 213
第 69 図	第 214・338・374 号土坑出土遺物 実測図 ……………155	第 89 図	第 470・485・487～490・519・522・561・ 836 号土坑・第 518 号ピット実測図 ……214
第 70 図	第 374 号土坑出土遺物実測図 (1) ……156	第 90 図	第 220・221・239・249・250・254・ 259・266・332 号土坑出土遺物実測図 …216
第 71 図	第 374 号土坑出土遺物実測図 (2) ……157	第 91 図	第 332・375 号土坑出土遺物実測図 ……217
第 72 図	第 204・205・211・242～248・250～ 254・268・762～766 号土坑・第 767～ 781 号ピット実測図 ……………194	第 92 図	第 381・386・410・447・469・489 号 土坑出土遺物実測図 ……………218
第 73 図	第 202 号溝状遺構・第 206・207・213・ 230・231 号井戸跡・第 215・219・228・237・ 240 号土坑・第 785 号ピット実測図 ……196	第 93 図	第 485 号土坑出土遺物実測図 ……………219
第 74 図	第 208・212・216・220・241・259・270 号 土坑・第 218・746 号ピット実測図 ……198	第 94 図	第 203・265・269・337・339・353・ 862 号井戸跡・第 861 号ピット実測図 …228
第 75 図	第 221～227 号土坑・第 782～784 号 ピット実測図 ……………199	第 95 図	第 380・399・405・445 号井戸跡 実測図 ……………229
第 76 図	第 209 号井戸跡・第 236・239・257 号 土坑・第 229・232～235・747～759 号ピット実測図 ……………200	第 96 図	第 207・209・263・269・445 号井戸跡 出土遺物実測図 ……………230
第 77 図	第 19 号溝状遺構・第 255・256・266・ 271 号土坑実測図 ……………201	第 97 図	第 243 号井戸跡出土遺物実測図 ……231
第 78 図	第 263・788 号井戸跡・第 260～262・ 264・272・273 号土坑実測図 ……202	第 98 図	第 12・201 号溝状遺構・第 786・787 号 ピット実測図 ……………243
第 79 図	第 274・275・315・317・322・324～327・ 336 号土坑・第 321 号井戸跡実測図 ……203	第 99 図	第 13・14 号溝状遺構・第 277～287 号 ピット実測図 ……………244
第 80 図	第 333 号井戸跡・第 341・342・345～ 347・351・367・381 号土坑・第 867～ 869 号ピット実測図 ……………204	第 100 図	第 13 号溝状遺構・第 795・799 号ピット 実測図 ……………245
第 81 図	第 387・396・400～404・406～408・ 416～418・837 号土坑・第 507・560 号 ピット実測図 ……………205	第 101 図	第 114 号溝状遺構実測図 ……………245
第 82 図	第 409 号土坑・第 466・471～475・477・ 479～482・502・520・552・847～851 号ピット実測図…………… 206	第 102 図	第 276 号溝状遺構・第 341 号土坑 実測図 ……………246
第 83 図	第 379・393 号溝状遺構・第 368・369・ 378・384・389・390・862 号井戸跡・ 第 332・352・365・377・382・391・ 392・394・395・398・863・865 号 土坑・第 864・866 号ピット実測図 ……207	第 103 図	第 12～14 号溝状遺構出土遺物実測図 …248
第 84 図	第 379・393 号溝状遺構・第 368・369・ 378・384・389・390・862 号井戸跡・ 第 332・352・365・377・382・391・ 392・394・395・398・865 号土坑・ 第 864 号ピット実測図 ……………208	第 104 図	第 14 号溝状遺構出土遺物実測図 (1) …249
		第 105 図	第 14 号溝状遺構出土遺物実測図 (2) …250
		第 106 図	第 19 号溝状遺構出土遺物実測図 ……251
		第 107 図	第 201・202・364 号溝状遺構出土遺物 実測図 ……………252
		第 108 図	第 371・376・393 号溝状遺構出土遺物 実測図 ……………253
		第 109 図	第 329～331・355～363 号ピット 実測図 ……………260
		第 110 図	第 483・486・493～498・501・503～ 505・523・524・551・554・555・562・ 563・820～823 号ピット実測図……………261
		第 111 図	第 499・506・508～517・525～532・ 534～550・824～829 号ピット実測図 …262
		第 112 図	第 334・491 号性格不明遺構・第 335・ 807・870 号ピット実測図 ……………270
		第 113 図	遺構外出土遺物実測図 ……………276
		第 114 図	金属器実測図 ……………278

第115 図	古銭実測図	279	第121 図	3次調査区出土陶磁器実測図(4)	288
第116 図	2次調査区出土陶磁器実測図(1)	283	第122 図	3次調査 A区 遺構配置図	291
第117 図	2次調査区出土陶磁器実測図(2)	284	第123 図	3次調査 B区 遺構配置図	292
第118 図	3次調査区出土陶磁器実測図(1)	285	第124 図	3次調査 C区 遺構配置図	293
第119 図	3次調査区出土陶磁器実測図(2)	286	第125 図	3次調査 D区 遺構配置図	294
第120 図	3次調査区出土陶磁器実測図(3)	287	第126 図	2次・3次調査遺構配置図	298

表 目 次

表1	周辺遺跡一覧表	12	表48	遺構外(Ⅱ区)出土遺物観察表	143
表2	栗宮宮内遺跡遺構一覧表	15	表49	遺構外(Ⅲ-1区)出土遺物観察表	143
表3	第10号地下式坑出土遺物観察表	35	表50	遺構外(第2次調査区内)出土遺物観察表	143
表4	第12号地下式坑出土遺物観察表	35	表51	第214号土坑出土遺物観察表	157
表5	第106号地下式坑出土遺物観察表	35	表52	第338号土坑出土遺物観察表	157
表6	第114号地下式坑出土遺物観察表	35	表53	第374号土坑出土遺物観察表	157
表7	第24号方形竪穴遺構出土遺物観察表	39	表54	第220号土坑出土遺物観察表	218
表8	第105号方形竪穴遺構坑出土遺物観察表	39	表55	第221号土坑出土遺物観察表	218
表9	第4号土坑出土遺物観察表	107	表56	第239号土坑出土遺物観察表	218
表10	第8号土坑出土遺物観察表	107	表57	第249号土坑出土遺物観察表	218
表11	第23号土坑出土遺物観察表	107	表58	第250号土坑出土遺物観察表	220
表12	第28号土坑出土遺物観察表	107	表59	第254号土坑出土遺物観察表	220
表13	第35号土坑出土遺物観察表	107	表60	第259号土坑出土遺物観察表	220
表14	第37号土坑出土遺物観察表	107	表61	第266号土坑出土遺物観察表	220
表15	第41号土坑出土遺物観察表	107	表62	第332号土坑出土遺物観察表	220
表16	第42号土坑出土遺物観察表	108	表63	第375号土坑出土遺物観察表	221
表17	第43号土坑出土遺物観察表	108	表64	第381号土坑出土遺物観察表	221
表18	第44号土坑出土遺物観察表	109	表65	第386号土坑出土遺物観察表	221
表19	第46号土坑出土遺物観察表	109	表66	第410号土坑出土遺物観察表	221
表20	第47号土坑出土遺物観察表	109	表67	第447号土坑出土遺物観察表	221
表21	第48号土坑出土遺物観察表	109	表68	第469号土坑出土遺物観察表	221
表22	第51号土坑出土遺物観察表	109	表69	第489号土坑出土遺物観察表	221
表23	第54号土坑出土遺物観察表	109	表70	第485号土坑出土遺物観察表	221
表24	第69号土坑出土遺物観察表	109	表71	第207号井戸跡出土遺物観察表	232
表25	第71号土坑出土遺物観察表	109	表72	第209号井戸跡出土遺物観察表	232
表26	第73号土坑出土遺物観察表	109	表73	第243号井戸跡出土遺物観察表	232
表27	第75号土坑出土遺物観察表	110	表74	第263号井戸跡出土遺物観察表	232
表28	第78号土坑出土遺物観察表	110	表75	第269号井戸跡出土遺物観察表	232
表29	第79号土坑出土遺物観察表	110	表76	第445号井戸跡出土遺物観察表	232
表30	第82号土坑出土遺物観察表	110	表77	第12号溝状遺構出土遺物観察表	254
表31	第83号土坑出土遺物観察表	110	表78	第13号溝状遺構出土遺物観察表	254
表32	第94号土坑出土遺物観察表	110	表79	第14号溝状遺構出土遺物観察表	254
表33	第104号土坑出土遺物観察表	111	表80	第19号溝状遺構出土遺物観察表	256
表34	第107号土坑出土遺物観察表	111	表81	第201号溝状遺構出土遺物観察表	256
表35	第113号土坑出土遺物観察表	111	表82	第202号溝状遺構出土遺物観察表	256
表36	第115号土坑出土遺物観察表	111	表83	第364号溝状遺構出土遺物観察表	257
表37	第613号土坑出土遺物観察表	111	表84	第371号溝状遺構出土遺物観察表	257
表38	第626号土坑出土遺物観察表	112	表85	第376号溝状遺構出土遺物観察表	257
表39	第77号井戸跡出土遺物観察表	117	表86	第393号溝状遺構出土遺物観察表	258
表40	第92号井戸跡出土遺物観察表	118	表87	3次調査区確認ピット表	263
表41	第93号井戸跡出土遺物観察表	118	表88	遺構外出土遺物観察表	277
表42	第21号溝状遺構ピット一覧表	123	表89	2次調査区出土金属器観察表	280
表43	第19号溝状遺構出土遺物観察表	127	表90	3次調査区出土金属器観察表	280
表44	第21号溝状遺構出土遺物観察表	127	表91	2次調査区出土鉄滓観察表	282
表45	第120号柵列出土遺物観察表	132	表92	3次調査区出土鉄滓観察表	282
表46	2次調査区確認ピット表	136	表93	2次調査区出土陶磁器観察表	288
表47	遺構外(Ⅰ区)出土遺物観察表	142	表94	3次調査区出土陶磁器観察表	289

図版目次

図版一	遺構 調査区遠景 - 思川をのぞむ (3次調査A区) - (南上空から) 調査区遠景 - 安房神社をのぞむ (3次調査 D区) - (南上空から)	図版八	遺構 SD-19・21 (南東から) SD-21 遺物出土状況 (西から) SD-21 遺物出土状況 (東から) SD-64 (北東から) 3次調査区A区調査風景 (南西から) 3次調査D区全景 (西から) SK-214 (地下式坑) (南東から) SK-370 (地下式坑) (北東から)
図版二	遺構 1～3次調査区全景	図版九	遺構 SK-338 (地下式坑) (北東から) SK-338 (地下式坑) (南東から) SK-374 (地下式坑)・SD-364 (北東から) SK-204・762 (北東から) SK-208 (西から) SK-216 (西から) SK-219 (南から) P-19 グリッド SK-221 付近土坑群 (北から)
図版三	遺構 2次調査Ⅲ-2区全景 (北西から) 2次調査Ⅲ-3区全景 (北西から) SK-1 (地下式坑)・SK-2・3・16・122・123 (東から) SK-9・10 (地下式坑) (南から) SK-15・17 (地下式坑) (西から) SK-25 (地下式坑) (北東から) SK-106 (地下式坑) (北西から) SK-114 (地下式坑) (北東から)	図版一〇	遺構 SK-241・259 (南西から) Q-19 グリッド SK-211 付近土坑群 (北東から) Q-19 グリッド SK-247 付近土坑群 (北から) SK-255・256・264・266・SD-19 (北から) SK-258 (南西から) SK-260～262・SE-263 (北西から) SK-314 (南東から) SK-322・SE-321 (北東から)
図版四	遺構 SK-142 (地下式坑)・SK-144・SD-19 (南から) SK-565 (地下式坑) (西から) SK-705 (地下式坑)・SK-707 (方形竪穴)・ SK-95・706 (北から) SK-24 (方形竪穴)・SE-603・604 (南西から) SK-105 (方形竪穴)・SK-101 (西から) SK-109 (方形竪穴) (南西から) SK-567 (方形竪穴) (南から) SK-4・104 (北東から)	図版一一	遺構 SK-325・326 (西から) SK-343 (北から) SK-348～350 (北西から) SK-365 (西から) C区 L-11 グリッド付近 SK-418 周辺 (北西から) SK-438 周辺 (南東から) SK-485 (南西から) SK-487 周辺 (南西から)
図版五	遺構 SK-20 (南から) SK-23 (南から) SK-33・35・44・52・SD-64 (北東から) SK-41 (南から) SK-42・43 付近 (南から) SK-42・43 付近遺物出土状況 (南から) SK-46 (南から) SK-47 (南から)	図版一二	遺構 SE-203 (北から) SE-209 (北西から) SE-243 (東から) SE-337 (北から) SE-380 (南西から) SD-13・14 全景 (北東から) SD-14 湧水状況 (北東から) SD-14 調査風景 (北東から)
図版六	遺構 SK-61 (北西から) SK-82 (北東から) SK-85 (北から) SK-107 (南西から) SK-111・155～159 (東から) SK-113・228・229・P-189 (北から) SK-115・137～139 (南東から) SK-121 (北東から)	図版一三	遺構 SD-12 全景 (西から) SD-19 (北から) SD-202 (南西から) SD-276 (北から) SD-364・376 (南東から) SD-379・393 (北から) SX-491 (南から) P-229 遺物出土状況 (南東から)
図版七	遺構 Ⅲ-3区 L-10 グリッド付近土坑群 (北東から) SE-13 (北東から) SE-26 (南から) SE-87 (西から) SE-93 (南西から) SE-118 (北東から) SK-145・SE-110 (北東から) SA-120 (北東から)		

図版一四	遺物	
	SK-106 (地) .5	SK-42.5
	SK-54.1	SE-77.1
	SE-77.2	SE-93.3
	SD-21.15	SD-21.18
	SD-21.25	SD-21.28
	SK-374 (地) .18	SK-374 (地) .19
	SK-374 (地) .24	SK-374 (地) .34
	SK-374 (地) .39	SK-374 (地) .36
	SK-374 (地) .37	SK-374 (地) .38

図版一六	遺物	
	遺構外 .16	遺構外 .17
	遺構外 .19	SD-14.37
	SD-19.15	SE-243.1

図版一五	遺物	
	SK-239.1	SK-239.2
	SK-332.1	SK-332.3
	SK-332.4	SK-332.5
	SK-332.6	SK-332.7
	SK-485.2	SK-375.3
	SK-485.3	SK-485.4
	SE-445.1	SD-19.7・8
	SD-19.6	SD-14.29
	SD-376.5	
	整理作業状況 (遺物洗浄)	
	整理作業参加者	

第1章 調査にいたる経緯と経過

第1節 調査の経緯

粟宮宮内遺跡2次・3次調査は、栃木県県土整備部の行う「快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査」に伴う記録保存のための発掘調査として実施された。

小山市は栃木県南部に位置する。人口165,000人を超える県下第二の都市であり、県南地域の中心である。また、東京から60km圏内にあり、東西南北に走る鉄道（JR東北新幹線・宇都宮線、両毛線・水戸線）、国道（4号国道・新4号国道、50号国道）の結節地として、首都圏の一角を形成する。市街は、市域中央部を南流する思川東岸に広がる。縁辺部は、思川や市域東・西部を南流する田川・巴波川の水利に沃する農業集散地であるとともに、工業団地が造成され、工業地としての発展も目覚ましい。

主要地方道小山環状線（栃木県道33号）は、市街地・農村部・工業地域を結ぶ外周路であり、帰結点は本遺跡の東側の至近に位置する4号国道粟宮南交差点である。交差点付近は、旧来の道路の狭小さや、屈曲の多いルートなどから、交通量の増大に対応できない状況にあったことに加え、思川に架かる旧間中橋が沈下橋であることが、円滑な通行の妨げとなっていた。このため、間中橋を永久橋に架け替え、新たな取り付け道路を整備することが急務となった。路線区内に位置する粟宮宮内遺跡については、平成9・12年度に所在分布調査、平成18年度に確認調査を行い、平成19年度の発掘調査、平成20年度に立ち会い調査をもって1次調査とし、平成22年度に栃木県埋蔵文化財調査報告第336集『千駄塚浅間遺跡・粟宮宮内遺跡』が上梓された。未調査の区域については、用地買収の進捗に併せ、発掘調査を実施し、成果を報告書として刊行する記録保存を行う計画となった。

この計画に則り、平成26年9月に栃木土木事務所と栃木県教育委員会事務局文化財課との間で、埋蔵文化財打合会が行われ、用地買収の進捗がみられた工区について、平成27年度から発掘調査を再開する方向で調整が開始された。

2次調査は、平成27年6月1日付け道整号外「平成27年度埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」にて、県土整備部長から教育委員会教育長あて、発掘作業の依頼がなされた。これを受け、平成27年7月1日付け文財号外「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の費用見積について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あてに、発掘調査の費用見積もりが依頼され、同日付けとち埋文号外「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の費用見積について（回答）」にて費用見積もりの回答を行った。次いで、平成27年8月3日付け文財号外「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あてに、委託契約締結の依頼がなされ、同日付けとち埋文号外「平成27年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について」にて、これを受諾、平成27年8月3日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて、栃木県知事と公益財団とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託契約が取り交わされ、委託業務の契約が締結された。

3次調査は、平成28年5月16日付け道整号外「平成28年度埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」にて、県土整備部長から教育委員会委員長あてに、発掘作業、整理作業・報告書刊行作業の依頼がなされた。これを受け、平成28年5月25日付け文財号外「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の費用見積について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あてに、

第1章 調査にいたる経緯と経過

発掘調査の費用見積もりが依頼がなされ、同日付けとち埋文第20号「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の費用見積もりについて（回答）」にて費用見積もりの回答を行った。次いで、平成28年6月1日付け文財号外「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あて、委託契約締結の依頼がなされ、同日付けとち埋文第44号「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について」にて、これを受諾、平成28年6月1日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて、栃木県知事と公益財団とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託契約が取り交わされ、委託業務の契約が締結された。発掘調査着手後、現地調査の進捗、調査成果に併せ、調査費用について、県土整備部との間で調整が行われ、平成29年2月1日付け文財号外「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の変更委託契約の締結について（依頼）」にて、文化財課長から公益財団とちぎ未来づくり財団理事長あてに、変更委託契約締結の依頼がなされ、同日付けとち埋文第126号「平成28年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（粟宮宮内遺跡）の委託契約の締結について」にて、これを受諾、平成29年2月1日付け「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」にて、栃木県知事と公益財団とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託契約が取り交わされ、委託業務の変更契約が締結された。

以上の契約を執行した結果、平成29年3月30日に本書が上梓され、粟宮宮内遺跡発掘調査（快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査）は終了した。

この間、平成28年11月29日午後14時、1次・2次調査区を含む主要地方道小山環状線（第1図実線）の一部開通に至り、同日午前10時より開通式が行われた。



開通間近の主要地方道小山環状線間中工区と3次調査B区（東から）

第2節 調査の経過

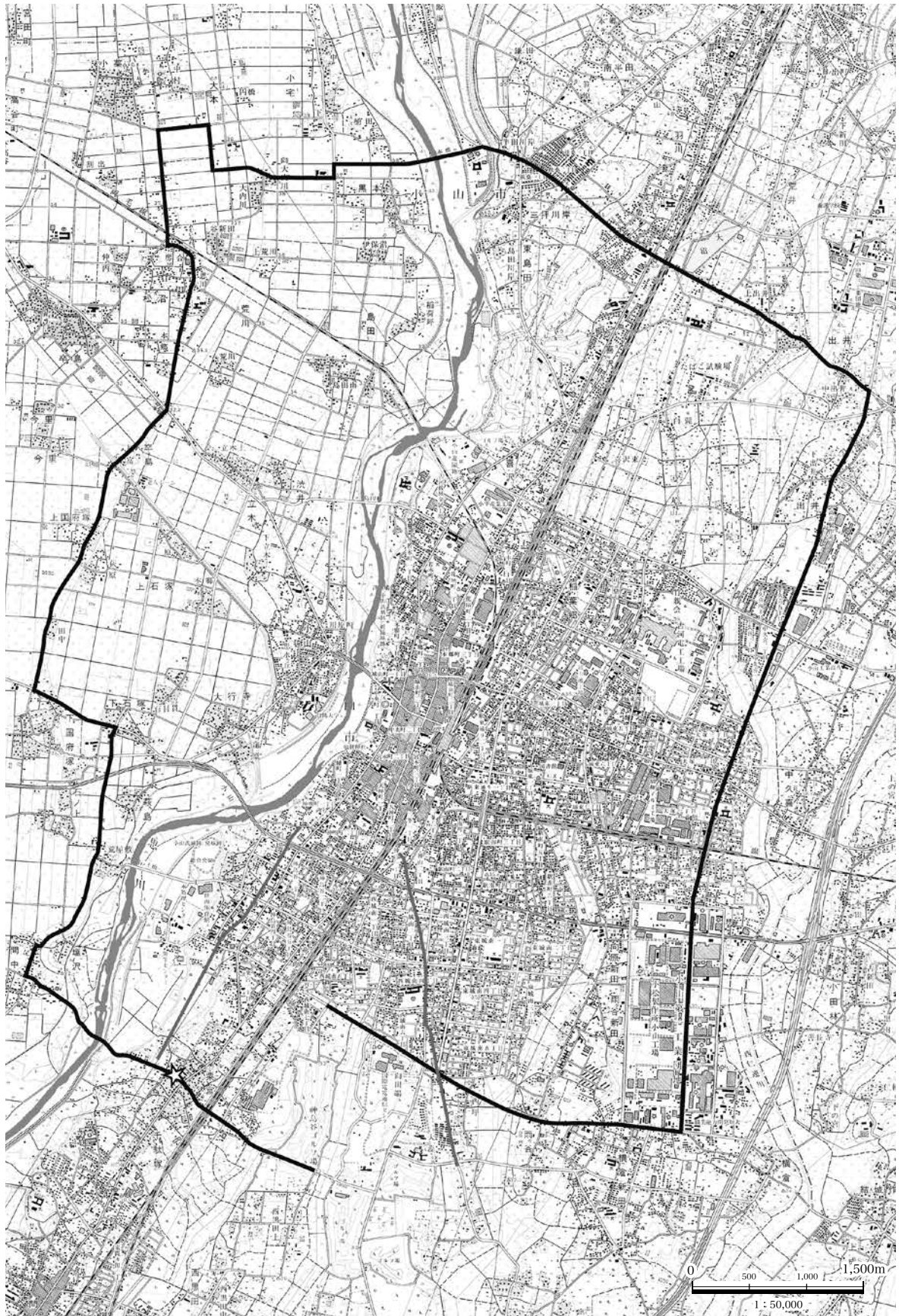
粟宮宮内遺跡2次・3次発掘調査は、平成27・28年度に現地調査を行い、平成28年度に整理作業・報告書作成作業を行った。以下に調査の概略を記す。

平成27年度 現地調査

調査範囲	3,601.5㎡
調査費用	18,066,000円（うち消費税及び地方消費税の額1,338,222円）
契約期間	平成27年8月3日～平成27年3月30日の4ヶ月間
調査期間	平成27年8月3日～平成27年11月30日
調査の経過	平成27年8月4日 栃木土木事務所、県文化財課との現地協議 平成27年8月28日 栃木土木事務所、県文化財課との現地協議 平成27年8月3日～9月11日 発掘諸準備 平成27年9月7日～11月30日 発掘作業 平成27年11月30日 機材・現地事務所撤収

平成28年度 現地調査 整理作業・報告書刊行作業

調査範囲	2,559㎡
------	--------



第1図 粟宮宮内遺跡位置図

第1章 調査にいたる経緯と経過

調査費用 当初 45,256,000円（うち消費税及び地方消費税の額3,352,296円）
変更後 42,477,000円（うち消費税及び地方消費税の額3,146,444円）

契約期間 平成28年6月1日～平成29年3月30日
現地調査6ヶ月間 整理作業・報告書刊行作業8ヶ月間

調査期間 現地調査 平成28年6月1日～平成28年11月30日
整理作業・報告書刊行作業 平成28年8月1日～平成29年3月30日

調査の経過 現地調査

平成27年8月4日 栃木土木事務所、県文化財課との現地協議

平成27年8月28日 栃木土木事務所、県文化財課との現地協議

平成28年6月1日～6月24日 発掘諸準備

平成28年6月27日～11月22日 発掘作業

平成28年11月24日～11月28日 現地埋め戻し

平成28年11月29日 機材・現地事務所撤収

整理作業・報告書作成

平成28年8月1日～平成29年3月30日 栃木県埋蔵文化財センターにて実施

平成29年3月30日 栃木県埋蔵文化財調査報告第386集

『粟宮宮内遺跡-快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山
環状線間中工区に伴う発掘調査-』刊行

第3節 調査の方法

【現地調査】

遺構・遺物の調査は、以下の手順・手法で行った。

1 重機による表土除去後、遺構確認作業及び国家座標に基づくグリッド杭建植。

グリッドは10m四方とし、端数にあたる地区にはm単位で杭を建植。

グリッド・グリッド番号は1次調査に倣う。グリッドは東西方向にアラビア数字、南北方向にアルファベットを付し、西方向および北方向に昇順する。グリッド番号は西辺グリッドラインのアルファベットと南辺グリッドラインのアラビア数字の組み合わせで表記する。

2 遺構・遺物については、以下を基本に行った。

① 遺構の中央に土層観察用のベルト（セクションベルト）を設定、これを残し、覆土の除去。

この間に出土した遺物のついては、遺構ごとに記録した。

② 覆土除去後土層堆積状況を記録（セクション図作成）・写真撮影。

③ セクションベルト除去後、出土遺物の位置・出土高さを記録（遺物出土状況図作成）。

写真撮影後、遺物取り上げ。

④ 遺構全体の平面図作成、レベリング（遺構内の高さを記録）及び写真撮影。

⑤ 平面図・遺物出土状況図の作成については、2次調査は平板測量及び専門業者への委託、3次調査は専門業者への委託による写真図化を行った。

⑥ 諸作図については、1/20の縮尺を基本に行った。

3 遺構写真撮影はデジタルカメラ・35mmリバーサルフィルムを用いた。

【整理作業】

整理作業は栃木県埋蔵文化財センターで行った。

現地作成の実測図及び写真撮影図化による実測図は、事実確認後、第二原図を作成、センターにおいてコンピュータートレースで図版化し、報告書印刷時に修正・補正を行った。

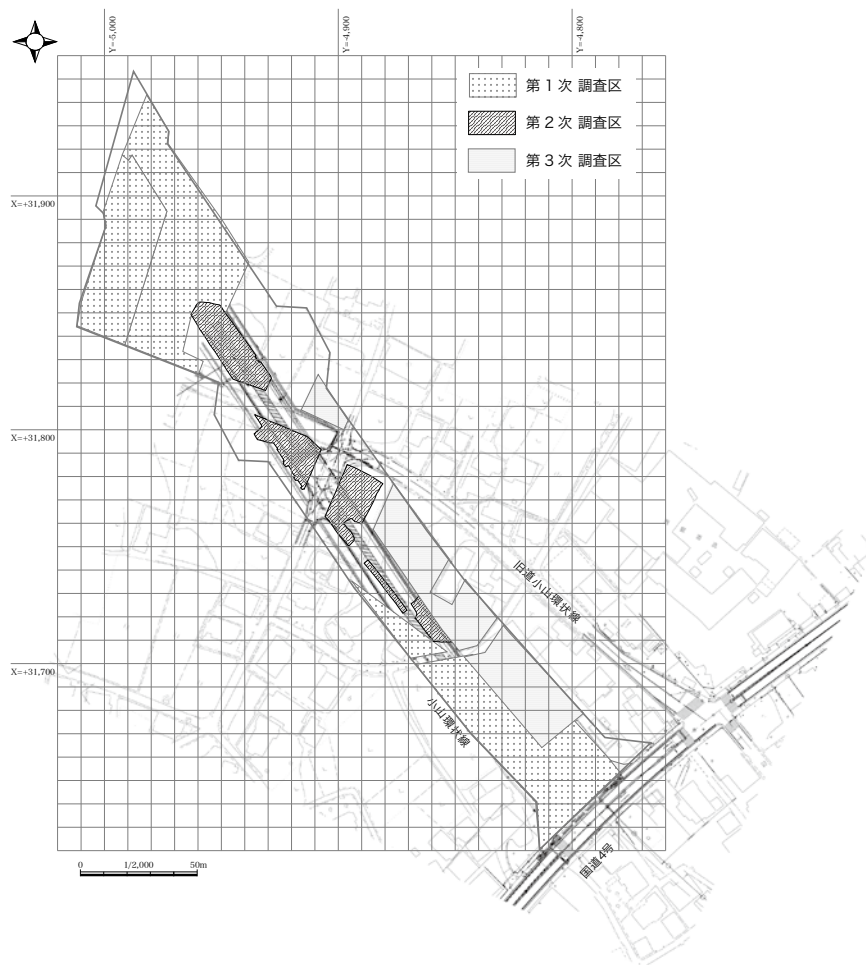
出土遺物は、洗浄・注記作業後接合作業を行い、欠失部分についてはクレイテックスを充填し、復元及び補強、遺物実測図作成を行った。図化した実測図は浄書（トレース）し、専門業者への委託によるスキャン・編集を行いデジタルデータ化し図版とした。

上記の作業に併行して、遺構・遺物の事実記載等の原稿執筆、遺物観察表等の表作成・執筆を行うとともに、遺物の写真撮影を行った。

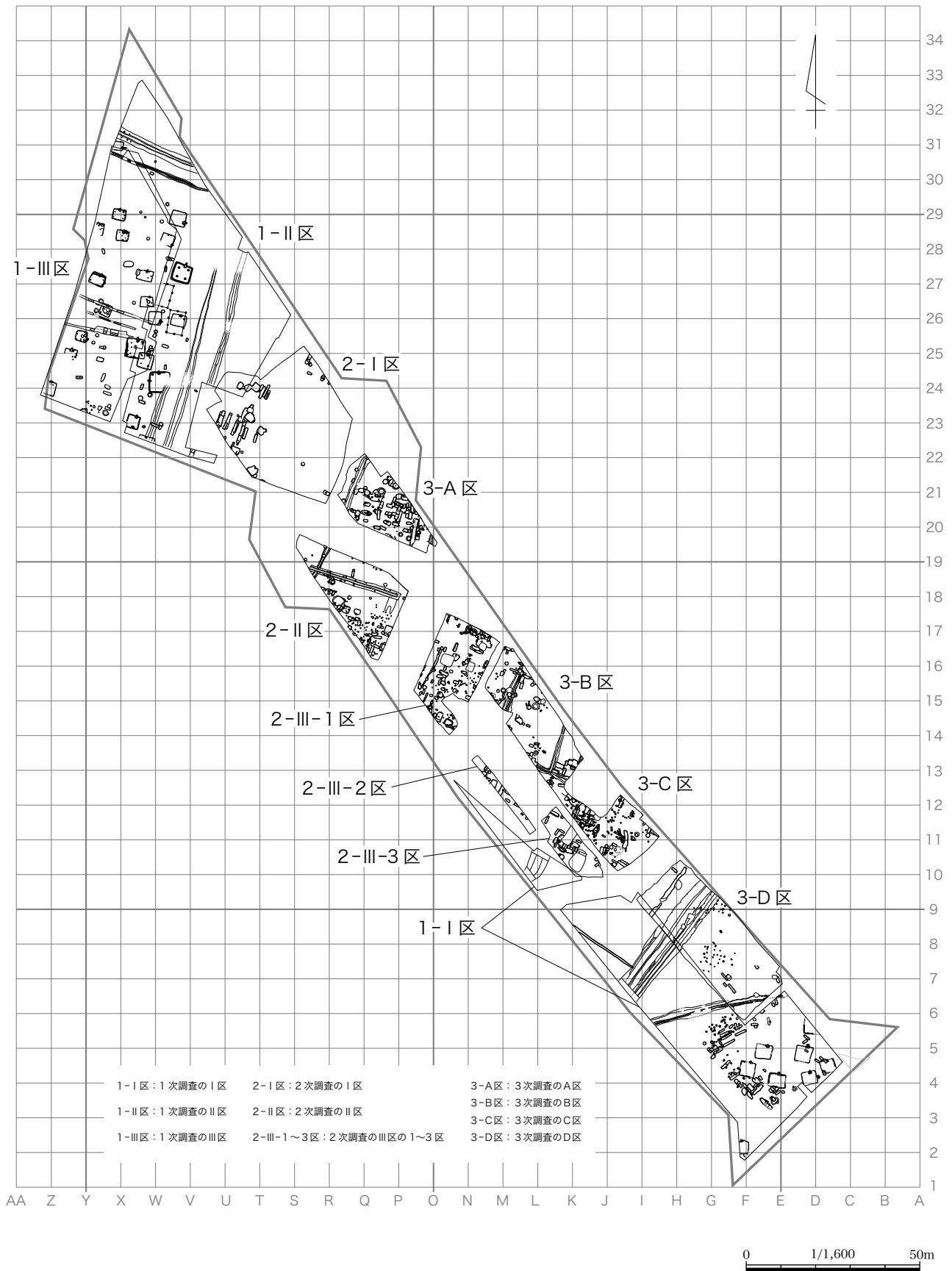
【報告書作成作業】

報告書刊行に必要な実調査以外の原稿執筆・図版作成を行い、遺構・遺物図版、原稿等と併せ割付し、印刷・校正後、刊行となった。

本報告書に係る遺物、遺構・遺物実測図・写真、空中写真等の成果品、各種台帳の整理を行い、収蔵庫・記録保管室に収納し、粟宮宮内遺跡発掘調査の全ての作業を完了した。



第2図 1～3次調査区配置図



第3図 粟宮宮内遺跡遺構配置図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

【位置】

栗宮宮内遺跡は栃木県小山市栗宮地内に所在する。

栃木県は関東平野の最北にあり、東は茨城県、西は群馬県、南は埼玉県、北は福島県に隣接する内陸県である。東・西側の山塊と中央部に開けた細長い平地帯とに三分でき、各々は東部山地・西部山地・中央部平野と呼称される。中央部平地は南に開け、北は福島県中通へと続く地形的特徴から、古来より、関東地方と東北地方を結ぶ交通路とされてきた。

小山市は栃木県南東部にあり、東～南東境は茨城県と接する。県庁所在地である宇都宮市からは南方向約30kmに位置する。古くから交通の要衝として栄え、戦国時代には関東-東北地方を繋ぐ通路上にあって「小山評定」の舞台となった。現在でも、鉄道・幹線道路が縦横に走る結節地であり、東京から60km圏内の首都圏に含まれる。平成17年には人口16万人を超え、文字通り県下第二の都市であり、県南地域の中心である。

市域の中央部は城下町の名残を残す市街地、縁辺部は旧来の農村地に加え、交通網の結節地である利点を活かし、工業団地が造成される。

本遺跡の現況は、日光街道沿いに形成された集落を中心とする。

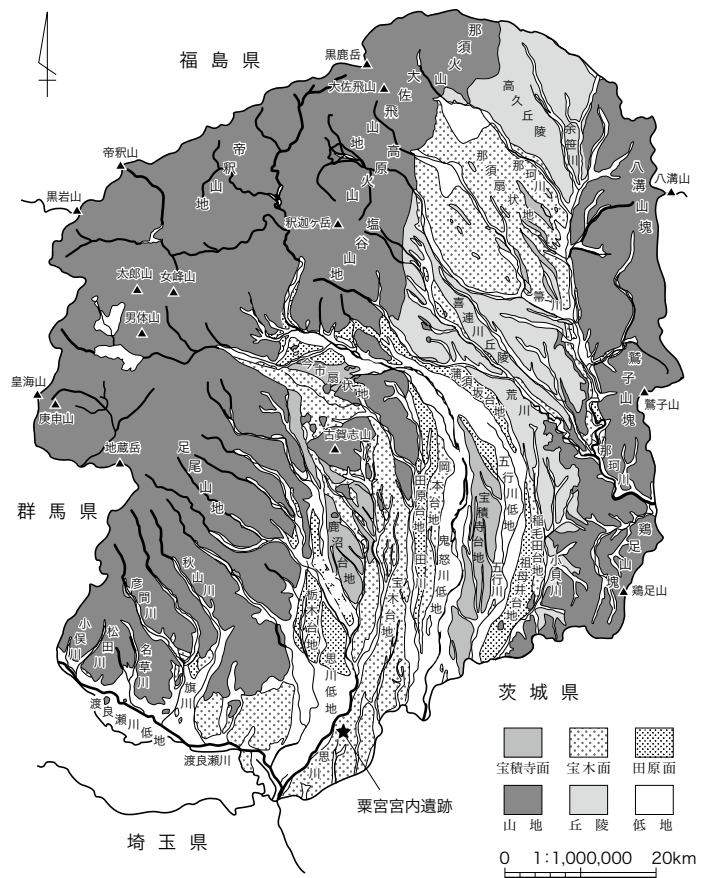
【地形】

本遺跡周辺は、思川東岸、中央部平地西縁辺の南端部にあたる。

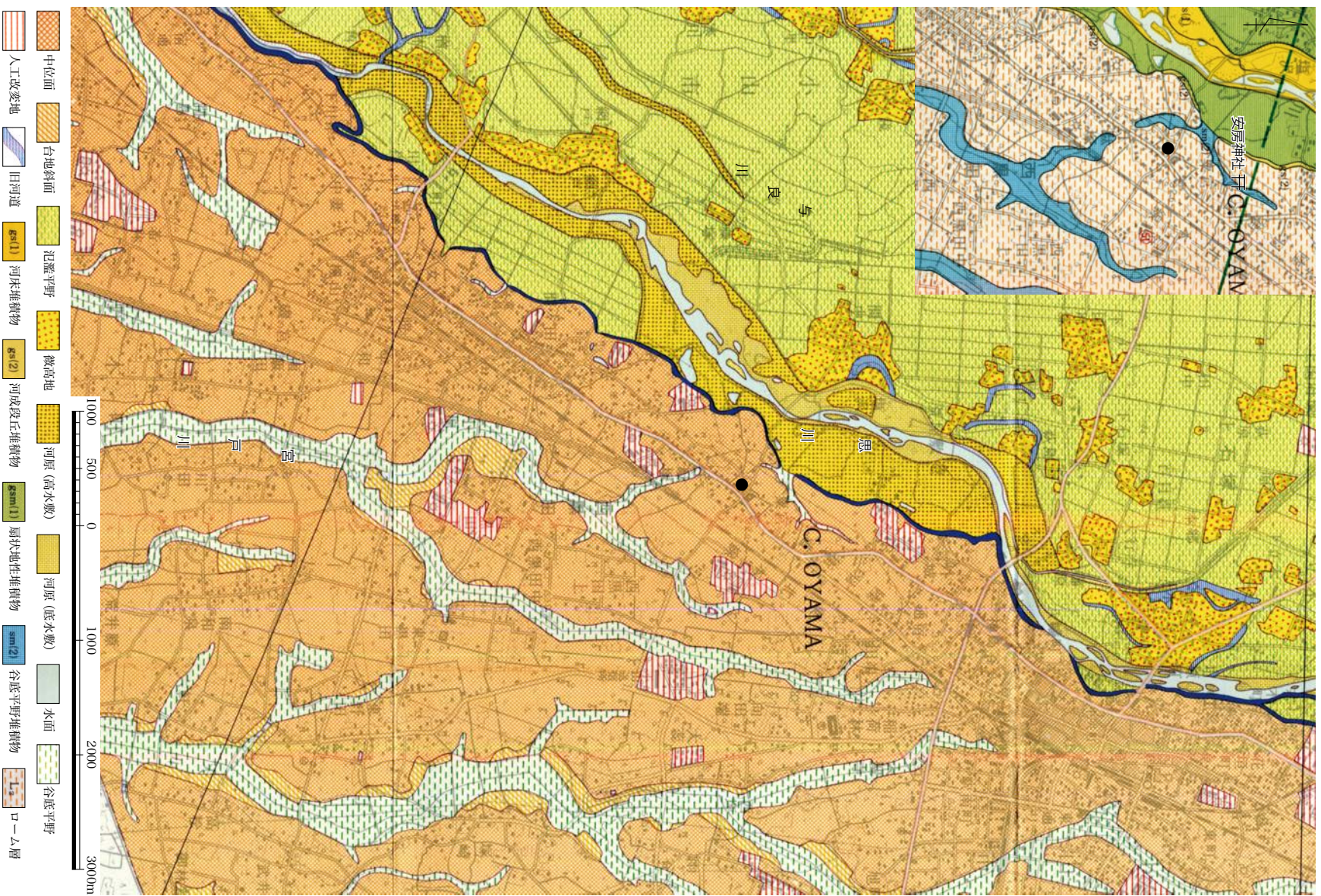
思川は、西部山地の前日光山地を源流とし、渡瀬遊水池を経て渡良瀬川に注ぐ。河岸段丘を形成し、本遺跡をはじめ、多くの遺跡が存在する。

中央部平地は、主として、南流する河川の浸食によってもたらされた細長い沖積低地と河岸段丘面とからなり、堆積した火山灰層（関東ローム層）の層序関係等によって、宝積寺面→宝木面→田原面→絹島低地（沖積低地）に形成時期が区分される。台地は概ね平坦で南北に延び、南に向かって緩やかに傾斜する。

本遺跡はローム層中位の宝木面が形成する小山台地の西縁辺部に位置する。西側の思川低地とは明瞭な崖線によって区分される。小山台地は南流する複数の河川が形成する浸食谷が発達し、台地面を開析する。浸食谷は幅100m前後であり、谷底は水田としての利用が多い。



第4図 栃木県地形区分図



第5図 周辺地形区分図

本遺跡は、遺跡東方約 1.25kmの小山市神鳥谷付近から発する宮戸川に続く小支谷の北端部東側に位置する。本遺跡と西側に位置する千駄塚浅間遺跡とを分かち小支谷である。本遺跡は小支谷に遮られ、台地端部への広がりには確認されないが、思川に面する台地端部は僅かに張り出す地形である。

表層の土壌堆積状況は黒ボク土壌米神統である。風積の黒ボク土壌であり、台地の谷間に沿って分布する。表層腐植はやや淡く、下層は黄褐色である。土性は壤土である。

栗宮宮内遺跡の標高は 31.0 ～ 31.9 m、西側の思川低地面の標高は 15.0 m前後、比高 15.0 m前後である。

【参考文献】

- 1986 年 栃木県企画部資源対策課 『土地分類基本調査 深谷・古河・小山』 栃木県
 1997 年 小山市教育委員会編 『小山市遺跡分布図・地名表』 小山市教育委員会
 栃木県埋蔵文化財調査報告第 233 集 栃木県教育委員会

第2節 歴史的環境

遺跡の位置する小山市内の埋蔵文化財包蔵地の分布状況については、小山市教育委員会刊行『小山市遺跡分布図・地名図〈改訂版〉』（1997年）にて詳細な調査が行われており、市内 419 ヲ所の遺跡の報告がなされている。本遺跡一次調査報告である栃木県埋蔵文化財調査報告第 336 集『千駄塚浅間遺跡・栗宮宮内遺跡』第 2 章第 2 節「周辺の遺跡」はこれらを元に思川東岸域の本遺跡周辺遺跡の記載がなされており、本節は既刊の抜粋を中心とする。

【縄文時代】

調査区内からは、前期から後期の土器片が出土する。

本遺跡周辺においては、本調査同様、前期から後期にかけての遺物の分布が広範囲にわたり確認されている。栗宮宮内遺跡（2）を含め、千駄塚浅間遺跡（1）、下国府塚屋宮遺跡（3）、外城遺跡（13）、神鳥谷遺跡（16）、神鳥谷鍛冶町遺跡（19）、栗宮宮内東遺跡（26）、間々田牧ノ内遺跡（31）、西黒田遺跡（38）羽貫遺跡（39）などがあげられる。また、栗宮宮内北遺跡（22）では、前期黒浜式の竪穴住居跡 2 軒が調査されている。

【古墳時代】

本調査区からは、僅少ではあるが、6 世紀代の可能性のある土師器や須恵器の小片が出土する。

周辺域の主な集落遺跡としては、千駄塚浅間遺跡（1）、神鳥谷遺跡（16）、間々田牧ノ内遺跡（31）などがあげられる。千駄塚浅間遺跡（1）は昭和 61・62 年、平成 3・4・19 年に調査が行われ、前期から後期の竪穴住居跡 160 軒以上が確認される。神鳥谷遺跡（16）は昭和 57 年に調査が行われ、前期の竪穴住居跡 6 軒が確認される。間々田牧ノ内遺跡（31）は平成 2 年に調査が行われ、竪穴住居跡 16 軒が確認される。

周辺の主な古墳群としては、外城古墳群（14）、宮内古墳群（25）、千駄塚古墳群、間々田牧ノ内古墳群（32）、間々田八幡古墳群（33）などがあげられる。思川東岸の河岸段丘上に、南北に連続して古墳群が形成される。これに比し、思川西岸は下国府塚周辺に、妙見古墳跡（6）、国府神社古墳（7）、天神古墳（8）、下国府愛宕塚神社古墳（9）などが散見される程度である。

【奈良・平安時代】

本調査区からは須恵器の小片が出土する。

周辺の遺跡分布から特筆されるのは、本遺跡と小支谷を挟んだ近距離に位置する千駄塚浅間遺跡（1）である。平成 3・4 年に実施された発掘調査において大型掘立柱建物跡 35 棟、基壇建物跡 3 基、「寒川」・「厨」・「寒厨」の墨書土器が確認されている。同時期の竪穴住居が確認されないこと、区画溝内に複数時期におよぶ掘

第2章 遺跡の環境

立柱建物跡が整然と配置されることなどから、官衙関連遺跡の可能性が指摘され、正倉域、もしくは「郡倉別院」と考えられている。

主な集落遺跡としては、外城遺跡（13）、粟宮宮内北遺跡（22）、粟宮宮内東遺跡（26）などがあげられる。外城遺跡（13）は、11次にわたる発掘調査において、竪穴住居跡10軒が確認されている。粟宮宮内北遺跡（22）は竪穴住居跡2軒が確認される。粟宮宮内東遺跡（26）は竪穴住居跡9軒が確認される。

【中世】

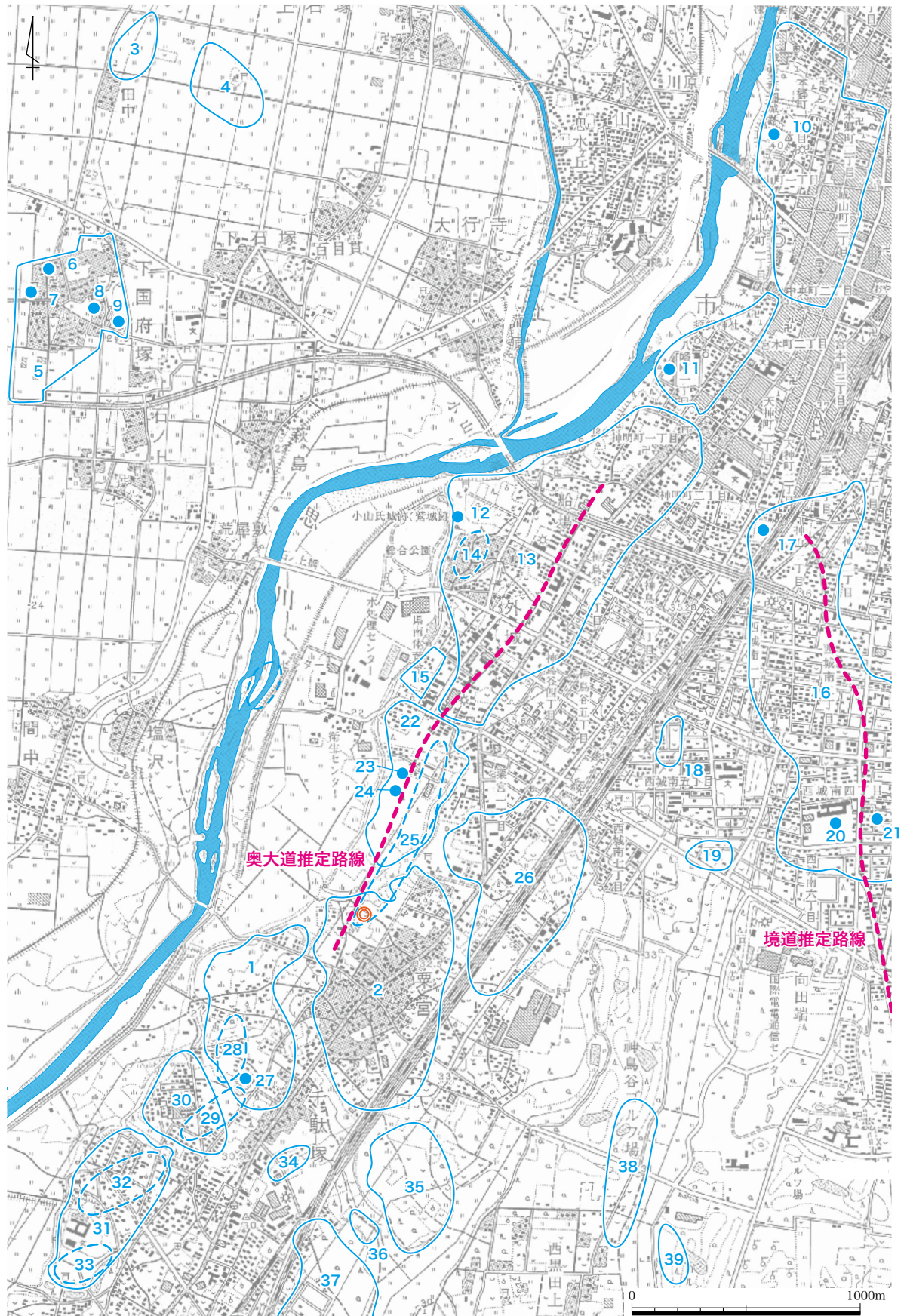
本調査区においては、古瀬戸などの陶器片、「康暦元年」とみられる銘を持つ板碑片、「洪武通宝」・「至大通宝」・「永楽通宝」などの銭貨が出土する。時期を明瞭に推定し得る遺構はないが、近世後半とともに本調査区における主体的な時期を構成するものとみられる。

本遺跡周辺においては、小山氏関連の城跡や館跡が数多く確認される。小山氏は、平安時代中頃に平将門の乱（935年）を鎮圧したうちの一人である藤原秀郷の流れをくみ、6代後の政光から小山性を名乗る。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、神鳥谷遺跡（16）内に所在する神鳥谷曲輪跡（17）に本拠地をおいたとされる。小字名「曲輪」・小名名「百間四面」が残り、規模は一辺200m程度の方形単廓と推定され、東側には土塁が残る。平成19年には、中央部分の発掘調査が行われ、道路跡・掘立柱建物跡・井戸跡などが確認されている。道路跡の道幅は両側の側溝を含め7.0m前後である。南南東方向に走る現在の境街道の道筋に向かうと推定され、小山義政の乱（1380年）の際に、陣取り合戦が行われた大正寺跡（20）・大聖寺跡（21）に至る。小山氏の主な居城としては、神鳥谷曲輪跡（17）の他に、国指定史跡である祇園城跡（10）・鷲城跡（11）の他、長福寺城跡（12）があげられる。いずれも、河岸段丘上に立地する平城であり、数回の調査が実施されている。祇園城跡（10）は、小山氏・御北條氏らが在城した14～17世紀初頭にかけての城郭である。北側の市民病院では約400基もの板碑が出土し、小山氏関連の墓域である可能性が指摘される。また、宮内1号土塁（23）・宮内2号土塁（24）は祇園城下への出入り口である四ヶ口（南口）の一部とされている。鷲城跡（11）は小山義政の乱（1380年）において、義政が本城として立て籠もった城郭であり、長福寺城跡（12）は「新城」に比定される。小山氏に関連する氏族に由来すると推定される居館には、千駄塚浅間遺跡（1）内に所在する仮称「十二所館」、祇園城の西側、思川低地に所在する、粟宮氏の一族である石塚氏の館跡である石塚館跡（4）などがあげられる。

奥大道の調査は、粟宮宮内北遺跡（22）A・B地点発掘調査、外城遺跡（13）第10・4・8次調査区で実施される。外城遺跡（13）第10次調査では、南北約30mにわたり両側に側溝を持つ幅約12.5mの道路跡が確認される。北は祇園城東側、南はお鍋塚北側グラウンド内まで辿ることができる。お鍋塚墓地（◎）には、凝灰岩製の層塔2基や、板碑、五輪塔などの中世石造物が現存する。現在の地割りからも、更に南に延びるものと推定される。

【近世】

本調査区においては、近世後半から近代初頭の陶磁器の出土が多く確認される。時期を明瞭に推定し得る遺構はないが、本調査区における主体的な時期とみられる。本遺跡は、日光街道の間々田宿と小山宿の間点にあたり、街道沿いに集落が形成されていたものと考えられる。また、小山評定の舞台となったとされる祇園城跡（10）内の小山御殿周辺は、平成15年から発掘調査が継続して実施され、様相が明らかにされつつある。



第6図 周辺遺跡分布図

第2章 遺跡の環境

表1 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	種別	時期	主な参考文献・備考
1	千駄塚浅間遺跡	粟宮字宮内・千駄塚字浅間前、小火石・間々田字牧ノ内	官衙・集落・館跡	縄文（前～後期）・古墳（中～終末期）・奈良・平安・中世	『小山市遺跡分布図・地名表』〈改訂版〉（以下『市分布図』）、『小山市史』史料編 原始・古代（以下『市史・原古』）、小山市文化財調査報告書 第33・35・41・43・46・51・59集（以下『市No集』※太字は本報告・細字は年報）、栃木県埋蔵文化財調査報告 第113・129・139・153・183・198・231・233・242・268・298・315・326・327・336集（以下『県No集』※太字は本報告・細字は年報）
2	粟宮宮内遺跡	粟宮字宮内、西添、西道上	集落	縄文（前～後期）・古墳（後～終末期）・奈良・平安・中世・近世	『市分布図』、『市41集』、『県198・326・327・336集』
3	下国府塚星宮遺跡	上国府塚字萩原・国府塚字田中	散布地	縄文（中～後期）	『市分布図』、『市史・原古』
4	石塚館跡	下石塚字星宮	館跡	中世（南北朝）	『市分布図』、『小山市史』史料編 中世（以下『市史・中世』）
5	下国府塚遺跡	下国府塚字国府	散布地	古墳～中世	『市分布図』
6	妙見古墳跡	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』
7	国府神社古墳	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』
8	天神山古墳	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』、『小山市立博物館報 第12号』
9	下国府塚愛宕神社古墳	下国府塚字塚越	古墳	古墳	『市分布図』
10	祇園城跡	城山町1丁目	城跡	中世（室町）	『市分布図』、『市史・中世』、『市12・23・33・41・42・43・46・51・52・54・55・59・60・65・67集』、『県88・183・198・217・231・233・242・262・268・278・285・288・298・306・315・326・327集』・国指定史跡
11	長福城跡	八幡町1丁目	城跡	中世（南北朝）	『市分布図』、『市史・中世』、『県158・183集』
12	鷲城跡	外城字外城	城跡	中世（南北朝）	『市分布図』、『市史・中世』、『市25・42・43・52・59集』、『県129・191・217・231集』・国指定史跡
13	外城遺跡	外城字上台	集落・道路跡	縄文（前期）～近世	『市分布図』、『市41・46・51・60・64・65・68・72・78集』、『県105・139・198・233・242・278・285・298・315・326・327集』
14	外城古墳群	外城字外城	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』、『県33集』・市指定史跡
15	外城中台遺跡	外城字中台	集落	古墳～中世	『市分布図』、『市72集』、『県298・306・326集』
16	神鳥谷遺跡	神鳥谷	集落	縄文～平安	『市分布図』、『市41集』、『県37・81・88・198・298・315・326・327集』
17	神鳥谷曲輪跡	神鳥谷字曲輪	館跡	中世（鎌倉初期）	『市分布図』、『市史・中世』、『市77集』、『県326集』
18	神鳥谷田端遺跡	西城南7丁目	散布地	平安	『市分布図』、『県37集』
19	神鳥谷鍛冶町遺跡	神鳥谷字鍛冶町	散布地	平安	『市分布図』
20	大正寺跡	西城南4丁目	寺院跡	中世	
21	大聖寺跡	西城南4丁目	寺院跡	中世	『県327集』
22	粟宮宮内北遺跡	粟宮字宮内	集落	縄文（前期）・平安	『市分布図』、『小山市史』通史編I 史料補遺編、『市16集』、『県53・81・326集』
23	宮内1号土塁	粟宮字宮内	土塁	不明	『市分布図』、『市史・原古』
24	宮内2号土塁	粟宮字宮内	土塁	不明	『市分布図』、『市史・原古』
25	宮内古墳群	粟宮字宮内	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』、『小山市立博物館報 第10・11号』、『県53・153集』・市指定史跡
26	粟宮宮内東遺跡	粟宮字宮内	集落	縄文（中期）～平安	『市分布図』、『市19・20・39・41・42・43・51・65集』、『県81・153・198・231・242・285・306集』
27	千駄塚古墳	千駄塚字浅間前	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』、『市46・60・65集』、『県233・278集』・県指定史跡
28	千駄塚小火石古墳群	千駄塚字小火石	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』
29	間々田牧ノ内北古墳群	間々田字牧ノ内	古墳	古墳	『市分布図』
30	間々田牧ノ内北遺跡	間々田字牧ノ内	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』、『県315集』
31	間々田牧ノ内遺跡	間々田字牧ノ内	集落	縄文（前～中期）・古墳（後期）～平安	『市分布図』、『市史・原古』、『市40集』、『県298・326・327集』
32	間々田牧ノ内古墳群	間々田字牧ノ内	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』、『市33・40集』、『県105・129・139・153・183集』
33	間々田八幡古墳群	間々田字八幡	古墳	古墳	『市分布図』、『市史・原古』
34	道より東遺跡	千駄塚字雷電前	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
35	中洪辺遺跡	粟宮字中洪辺	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
36	谷千合遺跡	千駄塚字谷千合	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
37	五料遺跡	間々田字五料	集落	古墳・奈良～平安	『市分布図』、『県139・153・210・298・306・326・327集』
38	西黒田遺跡	西黒田字正地	散布地	縄文（前期）～奈良	『市分布図』、『市27集』、『県105集』
39	羽貫遺跡	神鳥谷字羽貫	散布地	縄文（前期）～平安	『市分布図』、『市27集』

第3章 確認された遺構と遺物

第1節 基本土層

1. 基本土層

本遺跡は、思川東岸にあり、標高 31.0 m 前後の河岸段丘上に位置する。遺跡東方約 1.25 m の小山市神鳥谷付近から発する宮戸川が形成する枝葉状の小支谷に面する。

2次調査Ⅰ～Ⅲ区・3次調査A～D区とも、現況は市街地であり、調査区最上層は客土に覆われる。特に、3次調査B区は調査区全体を覆う広範囲かつ深さ 1.0 m に及ぶ攪乱穴によって上層は失われる。

2次調査Ⅲ-1区は最上層には客土である砂利層が確認される。砂利層下には、調査区南西壁東半部 SK-51 付近では礫やロームを含むガレ層、調査区東壁中央部 SK-45 付近では稲田の床土状の還元土層が確認される。

3次調査B区 SK-374 (地下式坑)・SD-371 付近では、攪乱下に黒褐色土、暗褐色土、暗灰褐色土、暗黄褐色土などの自然堆積層が確認される。しかし、SD-371 付近の層序は不整であり、人為的な堆積層の可能性が残る。

遺構の掘り込みは、Ⅲ-1区 SK-51 付近では客土-I・Ⅱ層下のⅢ層、SK-45 付近では客土-I層下のⅢ層に確認される。SK-51 付近のⅢ層はローム層であるが、ローム漸移層の堆積は確認されない。明確な所見はないが、SK-45 付近のⅢ層・B区 SD-371 付近⑤層がローム漸移層あるならば、SK-51 付近のローム漸移層は失われた可能性を考え得る。Ⅲ-1区Ⅰ・Ⅱ層とB区攪乱下の土層との相関関係は明瞭に得なかったが、ローム漸移層、或いは、ローム層の欠失後、Ⅲ-1区Ⅰ・Ⅱ層とB区攪乱下の土層が堆積したと考えられるならば、遺構の上位面は、Ⅲ-1区Ⅰ・Ⅱ層とB区攪乱下の土層の堆積前に失われたと判断できよう。

第2節 2次調査

1. 調査の概要

2次調査は粟宮宮内遺跡当該事業調査区の南西辺に沿った2-I・Ⅱ・Ⅲ-1・Ⅲ-2・Ⅲ-3区の5区の調査を実施した。

2-I区は1次調査1-II区南東にあたる。図上において予想された1次調査1-II区 SD-222 の延長部分は確認し得なかった。

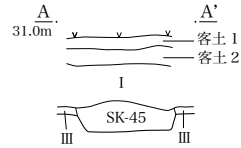
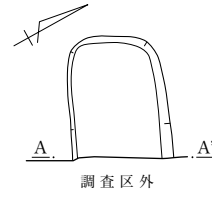
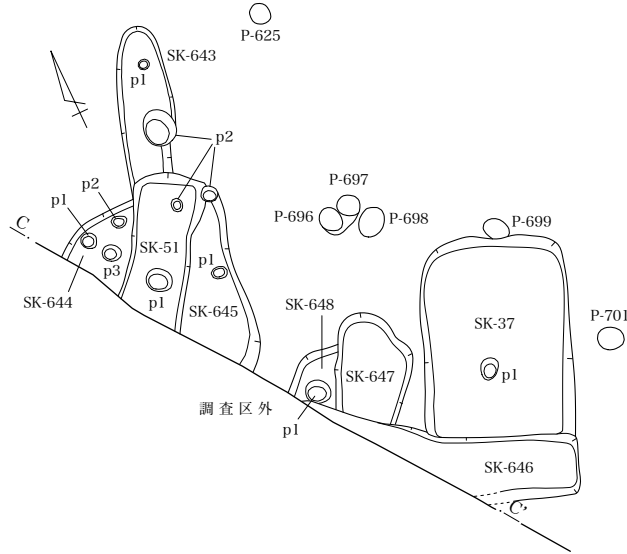
2-II区は3次調査A区の南西側にあたる。SD-19は3次調査SD-19に連繋する遺構とみられ、位置・形状・主軸が似る。但し、底面の傾斜は、2次調査区 SD-19 では南側から北側への傾斜がみられるが、3次調査区 SD-19 の底面レベルからは傾斜は読み取れない。

2-Ⅲ-1区は3次調査B区北側、2-Ⅲ-2は3次調査B区南西側、2-Ⅲ-3区は3次調査C区南西側にあたる。確認された遺構は、地下式坑 10 基、方形竪穴遺構 5 基、土坑 185 基、井戸跡 14 基、溝状遺構 7 基、柵列 1 基、小穴 154 基である。

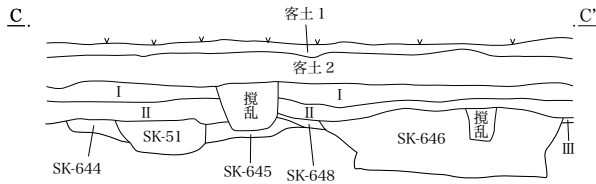
出土遺物は遺物収納箱(小) 50 箱が出土する。縄文時代以降近・現代の遺物が出土するが、主体となるのは土師質土器小皿、内耳土器、陶磁器など、中・近世～近代の遺物である。また、鉄製品、銭貨、鉄滓などの金属製品の出土も確認される。SK-106 からは瓦質の硯や国内産青磁とみられる小片が出土する。銭貨は SK-24 (方形竪穴) から「至道元宝」、SK-37 から「洪武通宝」、SD-19 から「元豊通宝」、I 区遺構外から「至元通宝」、2次調査区内から「開元通宝」の出土が確認される。

第3章 確認された遺構と遺物

2次調査 III-1区



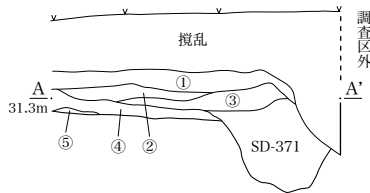
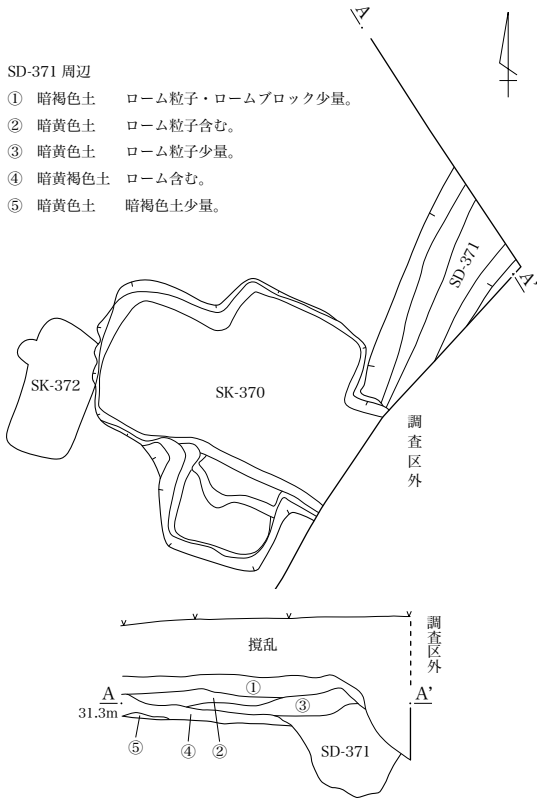
SK-45 周辺
 客土1 砂利
 客土2 還元土 (床土状)
 I 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子含む。
 III 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。



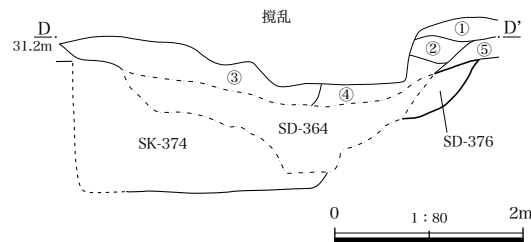
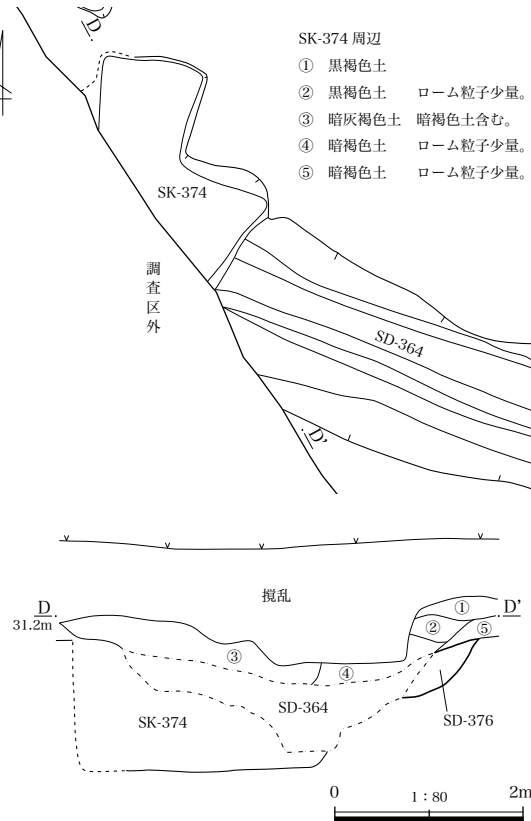
SK-51 周辺
 客土1 砂利
 客土2 ローム・礫混入土
 I 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
 II 暗褐色土 I層よりローム粒子多量。しまりあり。
 III 黄褐色土 ローム地山。

3次調査 B区

SD-371 周辺
 ① 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。
 ② 暗黄色土 ローム粒子含む。
 ③ 暗黄色土 ローム粒子少量。
 ④ 暗黄褐色土 ローム含む。
 ⑤ 暗黄色土 暗褐色土少量。



SK-374 周辺
 ① 黒褐色土
 ② 黒褐色土 ローム粒子少量。
 ③ 暗灰褐色土 暗褐色土含む。
 ④ 暗褐色土 ローム粒子少量。
 ⑤ 暗褐色土 ローム粒子少量。



第7図 基本土層図

遺構から出土する遺物は総じて少ない。小片での出土であることや、時期幅のある遺物構成などから、遺構への帰属は判然としない。このため、遺構の重複関係については、土層の堆積状況を記す。

陶磁器・金属製品・銭貨の挿図・観察表は第4節に記載する。

表2 粟宮宮内遺跡遺構一覧表

遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
SK	1	2次	地下式坑	SK	51	2次	土坑	SK	101	2次	土坑
SK	2	2次	土坑	SK	52	2次	土坑	SK	102	2次	土坑
SK	3	2次	土坑	SK	53	2次	土坑	SK	103	2次	土坑
SK	4	2次	土坑	SK	54	2次	土坑	SK	104	2次	土坑
SK	5	2次	土坑	SK	55	2次	土坑	SK	105	2次	方形竪穴
SK	6	2次	土坑	SK	56	2次	土坑	SK	106	2次	地下式坑
SK	7	2次	土坑	P	57	2次	ピット	SK	107	2次	土坑
SK	8	2次	土坑	SK	58	2次	土坑	SK	108	2次	土坑
SK	9	2次	地下式坑	P	59	2次	ピット	SK	109	2次	方形竪穴
SK	10	2次	地下式坑	SK	60	2次	土坑	SK	110	2次	土坑
SK	11	2次	土坑	SK	61	2次	土坑	SK	111	2次	土坑
SD	12	3次	溝状遺構	P	62	2次	ピット	SK	112	2次	土坑
SD	13	3次	溝状遺構	SK	63	2次	土坑	SK	113	2次	土坑
SD	14	3次	溝状遺構	SD	64	2次	溝状遺構	SK	114	2次	地下式坑
SK	15	2次	土坑	SK	65	2次	土坑	SK	115	2次	土坑
SK	16	2次	土坑	SK	66	2次	土坑	SK	116	2次	土坑
SK	17	2次	地下式坑	SK	67	2次	土坑	SK	117	2次	土坑
SK	18	2次	土坑	SK	68	2次	土坑	SE	118	2次	井戸跡
SD	19	2次・3次	溝状遺構	SK	69	2次	土坑	SK	119	2次	土坑
SK	20	2次	土坑	SK	70	2次	土坑	SA	120	2次	柵列
SD	21	2次	溝状遺構	SK	71	2次	土坑	SK	121	2次	土坑
SK	22	2次	土坑	SD	72	2次	溝状遺構	SK	122	2次	土坑
SK	23	2次	土坑	SK	73	2次	土坑	SK	123	2次	土坑
SK	24	2次	方形竪穴	SK	74	2次	土坑		124	欠番	
SK	25	2次	地下式坑	SK	75	2次	土坑	SK	125	2次	土坑
SE	26	2次	井戸跡	SK	76	2次	土坑	SK	126	2次	土坑
SE	27	2次	井戸跡	SE	77	2次	井戸跡	SK	127	2次	土坑
SK	28	2次	土坑	SK	78	2次	土坑	SK	128	2次	土坑
SK	29	2次	土坑	SK	79	2次	土坑	SK	129	2次	土坑
SE	30	2次	井戸跡	SK	80	2次	土坑	SK	130	2次	土坑
SK	31	2次	土坑	SK	81	2次	土坑	SK	131	2次	土坑
SK	32	2次	土坑	SK	82	2次	土坑	SK	132	2次	土坑
SK	33	2次	土坑	SK	83	2次	土坑	SK	133	2次	土坑
P	34	2次	ピット	SK	84	2次	土坑	SK	134	2次	土坑
SK	35	2次	土坑	SK	85	2次	土坑	SK	135	2次	土坑
P	36	2次	ピット	SK	86	2次	土坑	SK	136	2次	土坑
SK	37	2次	土坑	SE	87	2次	井戸跡	SK	137	2次	土坑
SK	38	2次	土坑	P	88	2次	ピット	SK	138	2次	土坑
SK	39	2次	土坑	SD	89	2次	溝状遺構	SK	139	2次	土坑
SK	40	2次	土坑	SK	90	2次	土坑	P	140	2次	ピット
SK	41	2次	土坑	SK	91	2次	土坑	P	141	2次	ピット
SK	42	2次	土坑	SE	92	2次	井戸跡	SK	142	2次	地下式坑
SK	43	2次	土坑	SE	93	2次	井戸跡	SE	143	2次	井戸跡
SK	44	2次	土坑	SK	94	2次	土坑	SK	144	2次	土坑
SK	45	2次	土坑	SK	95	2次	土坑	SE	145	2次	井戸跡
SK	46	2次	土坑	SK	96	2次	土坑	P	146	2次	ピット
SK	47	2次	土坑	SK	97	2次	土坑	P	147	2次	ピット
SK	48	2次	土坑	SK	98	2次	土坑	P	148	2次	ピット
SK	49	2次	土坑	SK	99	2次	土坑	P	149	2次	ピット
SK	50	2次	土坑	SE	100	2次	井戸跡	P	150	2次	ピット

第3章 確認された遺構と遺物

遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
P	151	2次	ピット	SK	211	3次	土坑	SK	271	3次	土坑
SK	152	2次	土坑	SK	212	3次	土坑	SK	272	3次	土坑
SK	153	2次	土坑	SE	213	3次	井戸跡	SK	273	3次	土坑
SK	154	2次	土坑	SK	214	3次	地下式坑	SK	274	3次	土坑
SK	155	2次	土坑	SK	215	3次	土坑	SK	275	3次	土坑
SK	156	2次	土坑	SK	216	3次	土坑	SD	276	3次	溝状遺構
SK	157	2次	土坑	SK	217	3次	土坑	P	277	3次	土坑
SK	158	2次	土坑	P	218	3次	ピット	P	278	3次	ピット
SK	159	2次	土坑	SK	219	3次	土坑	P	279	3次	ピット
P	160	2次	ピット	SK	220	3次	土坑	P	280	3次	ピット
P	161	2次	ピット	SK	221	3次	土坑	P	281	3次	ピット
P	162	2次	ピット	SK	222	3次	土坑	P	282	3次	ピット
P	163	2次	ピット	SK	223	3次	土坑	P	283	3次	ピット
P	164	2次	ピット	SK	224	3次	土坑	P	284	3次	ピット
P	165	2次	ピット	SK	225	3次	土坑	P	285	3次	ピット
P	166	2次	ピット	SK	226	3次	土坑	P	286	3次	ピット
P	167	2次	ピット	SK	227	3次	土坑	P	287	3次	ピット
P	168	2次	ピット	SK	228	3次	土坑	P	288	3次	ピット
P	169	2次	ピット	P	229	3次	ピット	P	289	3次	ピット
P	170	2次	ピット	SE	230	3次	井戸跡	P	290	3次	ピット
P	171	2次	ピット	SE	231	3次	井戸跡	P	291	3次	ピット
P	172	2次	ピット	P	232	3次	ピット	P	292	3次	ピット
P	173	2次	ピット	P	233	3次	ピット	P	293	3次	ピット
P	174	2次	ピット	P	234	3次	ピット	P	294	3次	ピット
P	175	2次	ピット	P	235	3次	ピット	P	295	3次	ピット
P	176	2次	ピット	SK	236	3次	土坑	P	296	3次	ピット
P	177	2次	ピット	SK	237	3次	土坑	P	297	3次	ピット
P	178	2次	ピット		238	欠番		P	298	3次	ピット
P	179	2次	ピット	SK	239	3次	土坑	P	299	3次	ピット
P	180	2次	ピット	SK	240	3次	土坑	P	300	3次	ピット
P	181	2次	ピット	SK	241	3次	土坑	P	301	3次	ピット
P	182	2次	ピット	SK	242	3次	土坑	P	302	3次	ピット
P	183	2次	ピット	SE	243	3次	井戸跡	P	303	3次	ピット
P	184	2次	ピット	SK	244	3次	土坑	P	304	3次	ピット
P	185	2次	ピット	SK	245	3次	土坑	P	305	3次	ピット
P	186	2次	ピット	SK	246	3次	土坑	P	306	3次	ピット
P	187	2次	ピット	SK	247	3次	土坑	P	307	3次	ピット
P	188	2次	ピット	SK	248	3次	土坑	P	308	3次	ピット
P	189	2次	ピット	SK	249	3次	土坑	P	309	3次	ピット
P	190	2次	ピット	SK	250	3次	土坑	P	310	3次	ピット
P	191	2次	ピット	SK	251	3次	土坑	P	311	3次	ピット
P	192	2次	ピット	SK	252	3次	土坑	P	312	3次	ピット
P	193	2次	ピット	SK	253	3次	土坑	P	313	3次	ピット
P	194	2次	ピット	SK	254	3次	土坑	SK	314	3次	土坑
P	195	2次	ピット	SK	255	3次	土坑	SK	315	3次	土坑
P	196	2次	ピット	SK	256	3次	土坑		316	欠番	
P	197	2次	ピット	SK	257	3次	土坑	SK	317	3次	土坑
P	198	2次	ピット	SK	258	3次	土坑	P	318	3次	ピット
P	199	2次	ピット	SK	259	3次	土坑	P	319	3次	ピット
P	200	2次	ピット	SK	260	3次	土坑	P	320	3次	ピット
SD	201	3次	溝状遺構	SK	261	3次	土坑	SE	321	3次	井戸跡
SD	202	3次	溝状遺構	SK	262	3次	土坑	SK	322	3次	土坑
SE	203	3次	井戸跡	SE	263	3次	井戸跡	P	323	3次	ピット
SK	204	3次	土坑	SK	264	3次	土坑	SK	324	3次	土坑
SK	205	3次	土坑	SE	265	3次	井戸跡	SK	325	3次	土坑
SE	206	3次	井戸跡	SK	266	3次	土坑	SK	326	3次	土坑
SE	207	3次	井戸跡		267	欠番		SK	327	3次	土坑
SK	208	3次	土坑	SK	268	3次	土坑	SK	328	3次	土坑
SE	209	3次	井戸跡	SE	269	3次	井戸跡	P	329	3次	ピット
	210	欠番		SK	270	3次	土坑	P	330	3次	ピット

第2節 2次調査

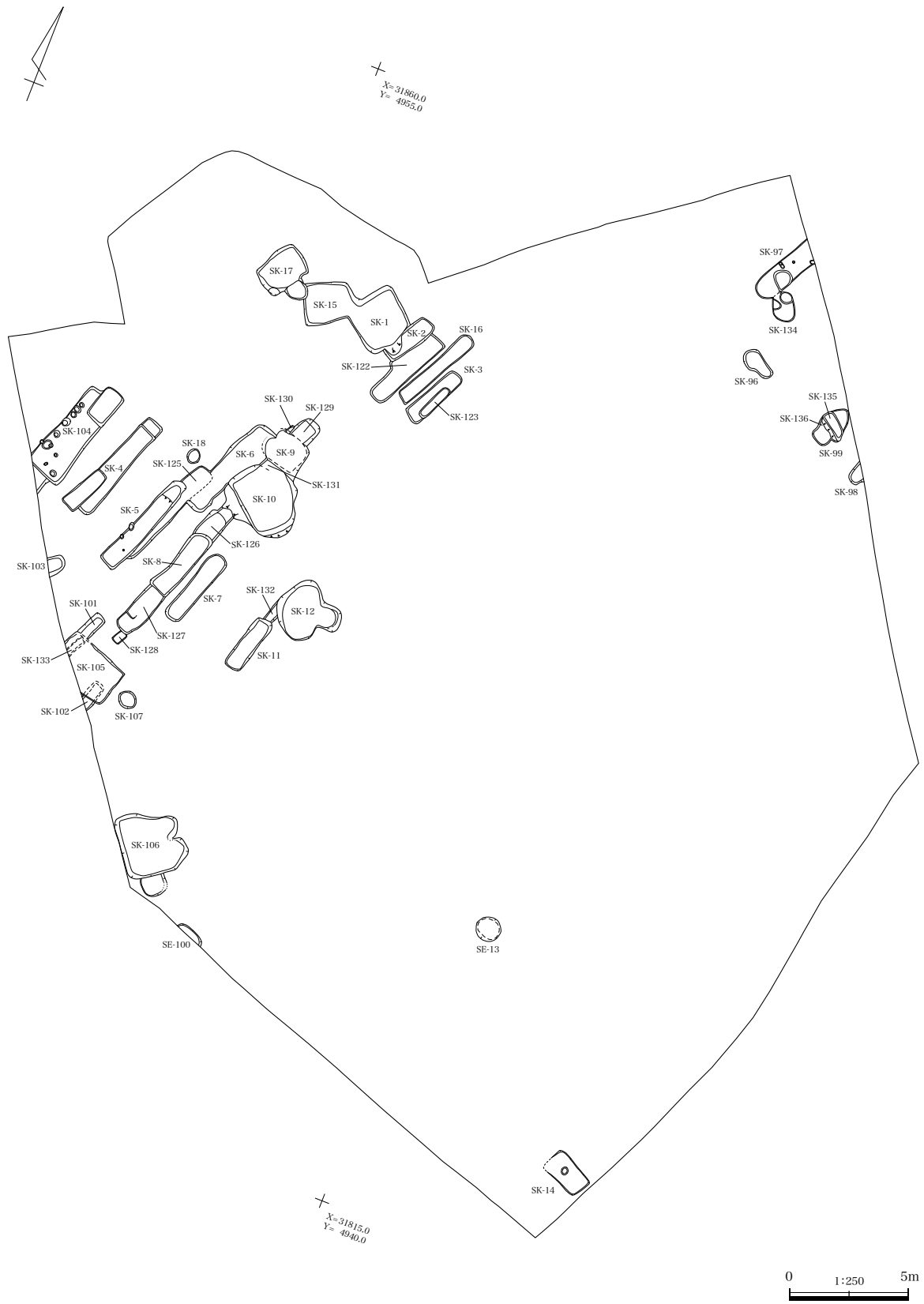
遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
P	331	3次	ピット	SK	391	3次	土坑	SK	451	3次	土坑
SK	332	3次	土坑	SK	392	3次	土坑	SK	452	3次	土坑
SE	333	3次	井戸跡	SD	393	3次	溝状遺構	SK	453	3次	土坑
SX	334	3次	性格不明遺構	SK	394	3次	土坑	SK	454	3次	土坑
P	335	3次	ピット	SK	395	3次	土坑		455	欠番	
SK	336	3次	土坑	SK	396	3次	土坑	SK	456	3次	土坑
SE	337	3次	井戸跡		397	欠番		SK	457	3次	土坑
SK	338	3次	地下式坑	SK	398	3次	土坑	SK	458	3次	土坑
SE	339	3次	井戸跡	SE	399	3次	井戸跡	SK	459	3次	土坑
SE	340	3次	井戸跡	SK	400	3次	土坑		460	欠番	
SK	341	3次	土坑	SK	401	3次	土坑	SK	461	3次	土坑
SK	342	3次	土坑	SK	402	3次	土坑	SK	462	3次	土坑
SK	343	3次	土坑	SK	403	3次	土坑	SK	463	3次	土坑
SK	344	3次	土坑	SK	404	3次	土坑	SK	464	3次	土坑
SK	345	3次	土坑	SE	405	3次	井戸跡	SK	465	3次	土坑
SK	346	3次	土坑	SK	406	3次	土坑	P	466	3次	ピット
SK	347	3次	土坑	SK	407	3次	土坑	SK	467	3次	土坑
SK	348	3次	土坑	SK	408	3次	土坑	SK	468	3次	土坑
SK	349	3次	土坑	SK	409	3次	土坑	SK	469	3次	土坑
SK	350	3次	土坑	SK	410	3次	土坑	SK	470	3次	土坑
SK	351	3次	土坑	SK	411	3次	土坑	P	471	3次	ピット
SK	352	3次	土坑	SK	412	3次	土坑	P	472	3次	ピット
SE	353	3次	井戸跡	SK	413	3次	土坑	P	473	3次	ピット
SK	354	3次	土坑	SK	414	3次	土坑	P	474	3次	ピット
P	355	3次	ピット	SK	415	3次	土坑	P	475	3次	ピット
	356	欠番		SK	416	3次	土坑		476	欠番	
P	357	3次	ピット	SK	417	3次	土坑	P	477	3次	ピット
P	358	3次	ピット	SK	418	3次	土坑		478	欠番	
P	359	3次	ピット	SK	419	3次	土坑	P	479	3次	ピット
P	360	3次	ピット	SK	420	3次	土坑	P	480	3次	ピット
P	361	3次	ピット	SK	421	3次	土坑	P	481	3次	ピット
P	362	3次	ピット	SK	422	3次	土坑	P	482	3次	ピット
P	363	3次	ピット	SK	423	3次	土坑	P	483	3次	ピット
SD	364	3次	溝状遺構	SK	424	3次	土坑	SK	484	3次	土坑
SK	365	3次	土坑	SK	425	3次	土坑	SK	485	3次	土坑
SK	366	3次	土坑	SK	426	3次	土坑	P	486	3次	ピット
SK	367	3次	土坑		427	欠番		SK	487	3次	土坑
SE	368	3次	井戸跡		428	欠番		SK	488	3次	土坑
SE	369	3次	井戸跡		429	欠番		SK	489	3次	土坑
SK	370	3次	地下式坑		430	欠番		SK	490	3次	土坑
SD	371	3次	溝状遺構		431	欠番		SX	491	3次	性格不明遺構
SK	372	3次	土坑	SK	432	3次	土坑	P	492	3次	ピット
SK	373	3次	土坑	SK	433	3次	土坑	P	493	3次	ピット
SK	374	3次	地下式坑	SK	434	3次	土坑	P	494	3次	ピット
SK	375	3次	土坑	SK	435	3次	土坑	P	495	3次	ピット
SD	376	3次	溝状遺構	SK	436	3次	土坑	P	496	3次	ピット
SK	377	3次	土坑	SK	437	3次	土坑	P	497	3次	ピット
SE	378	3次	井戸跡	SK	438	3次	土坑	P	498	3次	ピット
SD	379	3次	溝状遺構	SK	439	3次	土坑	P	499	3次	ピット
SE	380	3次	井戸跡	SK	440	3次	土坑	P	500	3次	ピット
SK	381	3次	土坑	P	441	3次	ピット	P	501	3次	ピット
SK	382	3次	土坑	P	442	3次	ピット	P	502	3次	ピット
SK	383	3次	土坑	P	443	3次	ピット	P	503	3次	ピット
SE	384	3次	井戸跡	SK	444	3次	土坑	P	504	3次	ピット
SK	385	3次	土坑	SE	445	3次	井戸跡	P	505	3次	ピット
SK	386	3次	土坑	SK	446	3次	土坑	P	506	3次	ピット
SK	387	3次	土坑	SK	447	3次	土坑	P	507	3次	ピット
	388	欠番		SK	448	3次	土坑	P	508	3次	ピット
SE	389	3次	井戸跡	SK	449	3次	土坑	P	509	3次	ピット
SE	390	3次	井戸跡	SK	450	3次	土坑	P	510	3次	ピット

第3章 確認された遺構と遺物

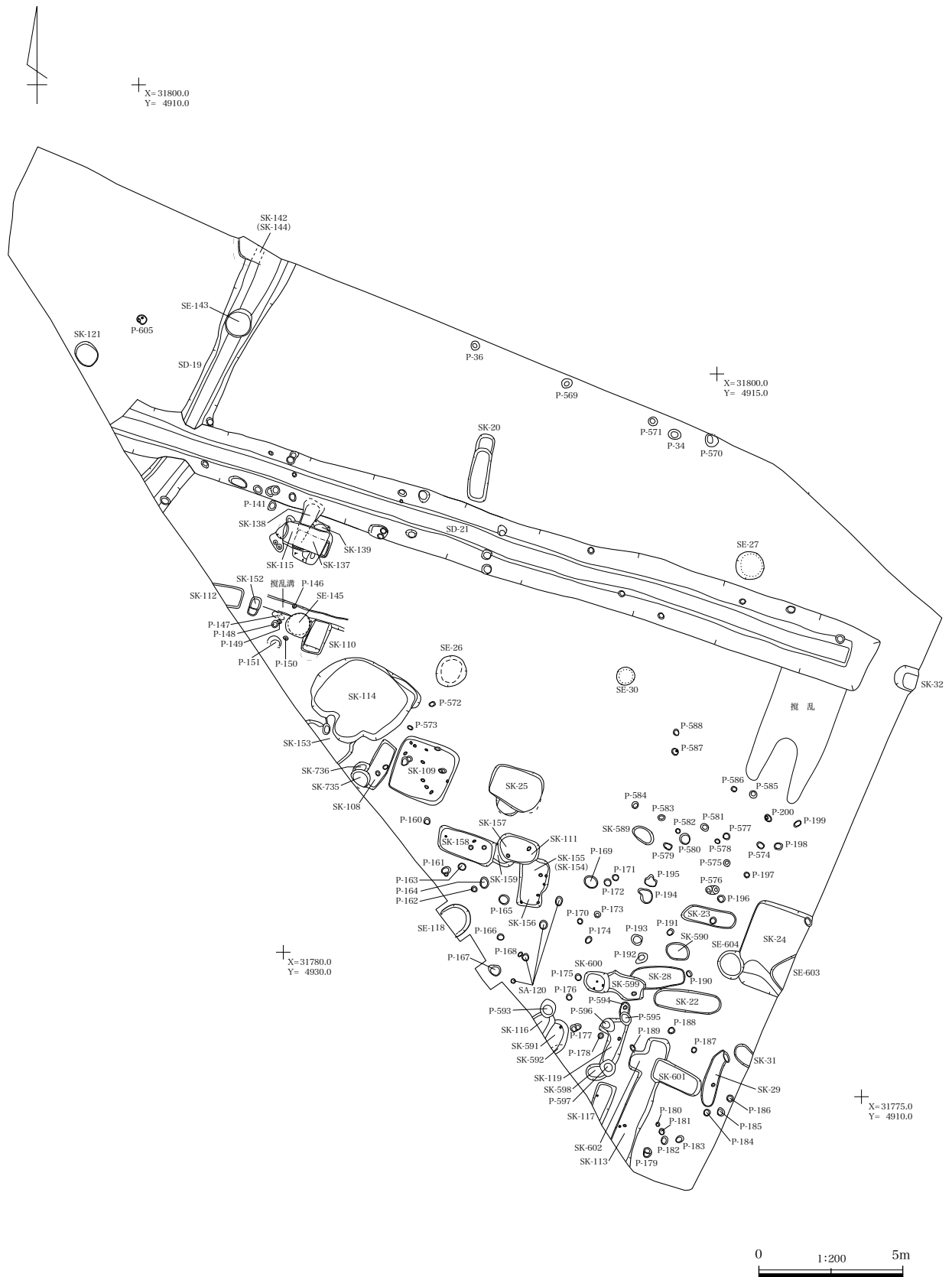
遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
P	511	3次	ピット	P	571	2次	ピット	P	631	2次	ピット
P	512	3次	ピット	P	572	2次	ピット	P	632	2次	ピット
P	513	3次	ピット	P	573	2次	ピット	SD	633	2次	溝状遺構
P	514	3次	ピット	P	574	2次	ピット	P	634	2次	ピット
P	515	3次	ピット	P	575	2次	ピット	SK	635	2次	土坑
P	516	3次	ピット	P	576	2次	ピット	SK	636	2次	土坑
P	517	3次	ピット	P	577	2次	ピット	SK	637	2次	土坑
P	518	3次	ピット	P	578	2次	ピット	SK	638	2次	土坑
SK	519	3次	土坑	P	579	2次	ピット	SK	639	2次	土坑
P	520	3次	ピット	P	580	2次	ピット	SK	640	2次	土坑
P	521	3次	ピット	P	581	2次	ピット	SK	641	2次	土坑
SK	522	3次	土坑	P	582	2次	ピット	SD	642	2次	溝状遺構
P	523	3次	ピット	P	583	2次	ピット	SK	643	2次	土坑
P	524	3次	ピット	P	584	2次	ピット	SK	644	2次	土坑
P	525	3次	ピット	P	585	2次	ピット	SK	645	2次	土坑
P	526	3次	ピット	P	586	2次	ピット	SK	646	2次	土坑
P	527	3次	ピット	P	587	2次	ピット	SK	647	2次	土坑
P	528	3次	ピット	P	588	2次	ピット	SK	648	2次	土坑
P	529	3次	ピット	SK	589	2次	土坑	SK	649	2次	土坑
P	530	3次	ピット	SK	590	2次	土坑	SK	650	2次	土坑
P	531	3次	ピット	SK	591	2次	土坑	SK	651	2次	土坑
P	532	3次	ピット	SK	592	2次	土坑	P	652	2次	ピット
	533	欠番		P	593	2次	ピット	P	653	2次	ピット
P	534	3次	ピット	P	594	2次	ピット	P	654	2次	ピット
P	535	3次	ピット	P	595	2次	ピット	P	655	2次	ピット
P	536	3次	ピット	P	596	2次	ピット	P	656	2次	ピット
P	537	3次	ピット	P	597	2次	ピット	P	657	2次	ピット
P	538	3次	ピット	SK	598	2次	土坑	P	658	2次	ピット
P	539	3次	ピット	SK	599	2次	土坑	P	659	2次	ピット
P	540	3次	ピット	SK	600	2次	土坑	P	660	2次	ピット
P	541	3次	ピット	SK	601	2次	土坑	P	661	2次	ピット
P	542	3次	ピット	SK	602	2次	土坑	P	662	2次	ピット
P	543	3次	ピット	SE	603	2次	井戸跡	P	663	2次	ピット
P	544	3次	ピット	SE	604	2次	井戸跡	P	664	2次	ピット
P	545	3次	ピット	P	605	2次	ピット	P	665	2次	ピット
P	546	3次	ピット	P	606	2次	ピット	P	666	2次	ピット
P	547	3次	ピット	P	607	2次	ピット	P	667	2次	ピット
P	548	3次	ピット	P	608	2次	ピット	P	668	2次	ピット
P	549	3次	ピット	P	609	2次	ピット	P	669	2次	ピット
P	550	3次	ピット	P	610	2次	ピット	P	670	2次	ピット
P	551	3次	ピット	P	611	2次	ピット	P	671	2次	ピット
P	552	3次	ピット	SK	612	2次	土坑	P	672	2次	ピット
	553	欠番		SK	613	2次	土坑	P	673	2次	ピット
P	554	3次	ピット	SK	614	2次	土坑	P	674	2次	ピット
P	555	3次	ピット	SK	615	2次	土坑	P	685	2次	ピット
P	556	3次	ピット	SK	616	2次	土坑	P	676	2次	ピット
	557	欠番		SK	617	2次	土坑	P	677	2次	ピット
P	558	3次	ピット	SK	618	2次	土坑	P	678	2次	ピット
P	559	3次	ピット	SK	619	2次	土坑	P	679	2次	ピット
P	560	3次	ピット	SK	620	2次	土坑	P	680	2次	ピット
SK	561	3次	土坑	SK	621	2次	土坑	P	681	2次	ピット
P	562	3次	ピット	SK	622	2次	土坑	P	682	2次	ピット
P	563	3次	ピット	SK	623	2次	土坑	P	683	2次	ピット
	564	欠番		P	624	2次	ピット	P	684	2次	ピット
SK	565	2次	地下式坑	SK	625	2次	土坑	P	685	2次	ピット
SE	566	2次	井戸跡	SK	626	2次	土坑	P	686	2次	ピット
SK	567	2次	方形竪穴	SK	627	2次	土坑	P	687	2次	ピット
SK	568	2次	土坑	SK	628	2次	土坑	P	688	2次	ピット
P	569	2次	ピット	P	629	2次	ピット	P	689	2次	ピット
P	570	2次	ピット	P	630	2次	ピット	P	690	2次	ピット

第2節 2次調査

遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別	遺構	番号	調査区	種別
P	691	2次	ピット	P	751	3次	ピット	SK	811	3次	土坑
P	692	2次	ピット	P	752	3次	ピット	P	812	3次	ピット
P	693	2次	ピット	P	753	3次	ピット	P	813	3次	ピット
P	694	2次	ピット	P	754	3次	ピット	SK	814	3次	土坑
P	695	2次	ピット	P	755	3次	ピット	P	815	3次	ピット
P	696	2次	ピット	P	756	3次	ピット	P	816	3次	ピット
P	697	2次	ピット	P	757	3次	ピット	P	817	3次	ピット
P	698	2次	ピット	P	758	3次	ピット	SK	818	3次	土坑
P	699	2次	ピット	P	759	3次	ピット	P	819	3次	ピット
P	700	2次	ピット	P	760	3次	ピット	P	820	3次	ピット
P	701	2次	ピット	SK	761	3次	ピット	P	821	3次	ピット
P	702	2次	ピット	SK	762	3次	土坑	P	822	3次	ピット
P	703	2次	ピット	SK	763	3次	土坑	P	823	3次	ピット
SK	704	2次	土坑	SK	764	3次	土坑	P	824	3次	ピット
SK	705	2次	地下式坑	SK	765	3次	土坑	P	825	3次	ピット
SK	706	2次	土坑	SK	766	3次	土坑	P	826	3次	ピット
SK	707	2次	地下式坑	P	767	3次	ピット	P	827	3次	ピット
P	708	2次	ピット	P	768	3次	ピット	P	828	3次	ピット
P	709	2次	ピット	P	769	3次	ピット	P	829	3次	ピット
SK	710	2次	土坑	P	770	3次	ピット	P	830	3次	ピット
SK	711	2次	土坑	P	771	3次	ピット	SK	831	3次	土坑
SK	712	2次	土坑	P	772	3次	ピット	P	832	3次	ピット
SK	713	2次	土坑	P	773	3次	ピット	P	833	3次	ピット
SK	714	2次	土坑	P	774	3次	ピット	P	834	3次	ピット
P	715	2次	ピット	P	775	3次	ピット	P	835	3次	ピット
SK	716	2次	土坑	P	776	3次	ピット	SK	836	3次	土坑
SK	717	2次	土坑	P	777	3次	ピット	SK	837	3次	土坑
SK	718	2次	土坑	P	778	3次	ピット		838		欠番
SK	719	2次	土坑	P	779	3次	ピット	SK	839	3次	土坑
SK	720	2次	土坑	P	780	3次	ピット	P	840	3次	ピット
SK	721	2次	土坑	P	781	3次	ピット	SK	841	3次	土坑
SK	722	2次	土坑	P	782	3次	ピット	P	842	3次	ピット
SK	723	2次	土坑	P	783	3次	ピット	SK	843	3次	土坑
SK	724	2次	土坑	P	784	3次	ピット	SK	844	3次	土坑
SK	725	2次	土坑	P	785	3次	ピット	SK	845	3次	土坑
SK	726	2次	土坑	P	786	3次	ピット	SK	846	3次	土坑
SK	727	2次	土坑	P	787	3次	ピット	P	847	3次	ピット
SK	728	2次	土坑	SE	788	3次	井戸跡	P	848	3次	ピット
SK	729	2次	土坑	P	789	3次	ピット	P	849	3次	ピット
SK	730	2次	土坑	P	790	3次	ピット	P	850	3次	ピット
SK	731	2次	土坑	P	791	3次	ピット	P	851	3次	ピット
SK	732	2次	土坑	P	792	3次	ピット	SK	852	3次	土坑
SK	733	2次	土坑	P	793	3次	ピット	P	853	3次	ピット
P	734	2次	ピット	P	794	3次	ピット	P	854	3次	ピット
SK	735	2次	土坑	P	795	3次	ピット	P	855	3次	ピット
SK	736	2次	土坑	P	796	3次	ピット	P	856	3次	ピット
SK	737	2次	土坑	P	797	3次	ピット	P	857	3次	ピット
SK	738	2次	土坑	P	798	3次	ピット	P	858	3次	ピット
SK	739	2次	土坑	P	799	3次	ピット	P	859	3次	ピット
P	740	2次	ピット	P	800	3次	ピット	P	860	3次	ピット
P	741	2次	ピット	P	801	3次	ピット	P	861	3次	ピット
P	742	2次	ピット	P	802	3次	ピット	SE	862	3次	井戸跡
P	743	2次	ピット	P	803	3次	ピット	SK	863	3次	土坑
P	744	2次	ピット	P	804	3次	ピット	P	864	3次	ピット
	745		欠番		805		欠番	SK	865	3次	土坑
P	746	3次	ピット	SK	806	3次	土坑	P	866	3次	ピット
P	747	3次	ピット	P	807	3次	ピット	P	867	3次	ピット
P	748	3次	ピット	SK	808	3次	土坑	P	868	3次	ピット
P	749	3次	ピット	SK	809	3次	土坑	P	869	3次	ピット
P	750	3次	ピット	SK	810	3次	土坑	P	870	3次	ピット

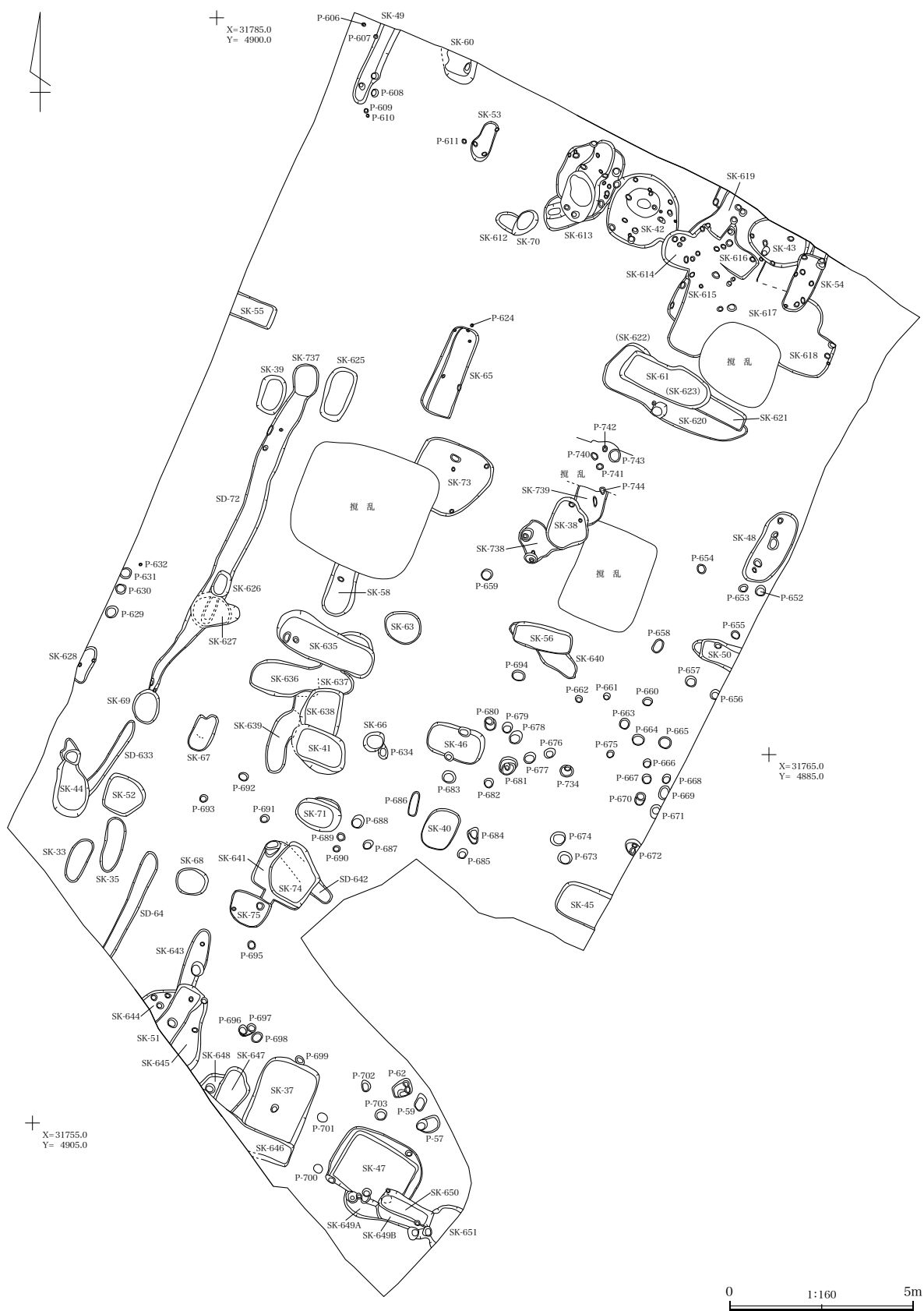


第8図 2次調査 Ⅰ区 遺構配置図

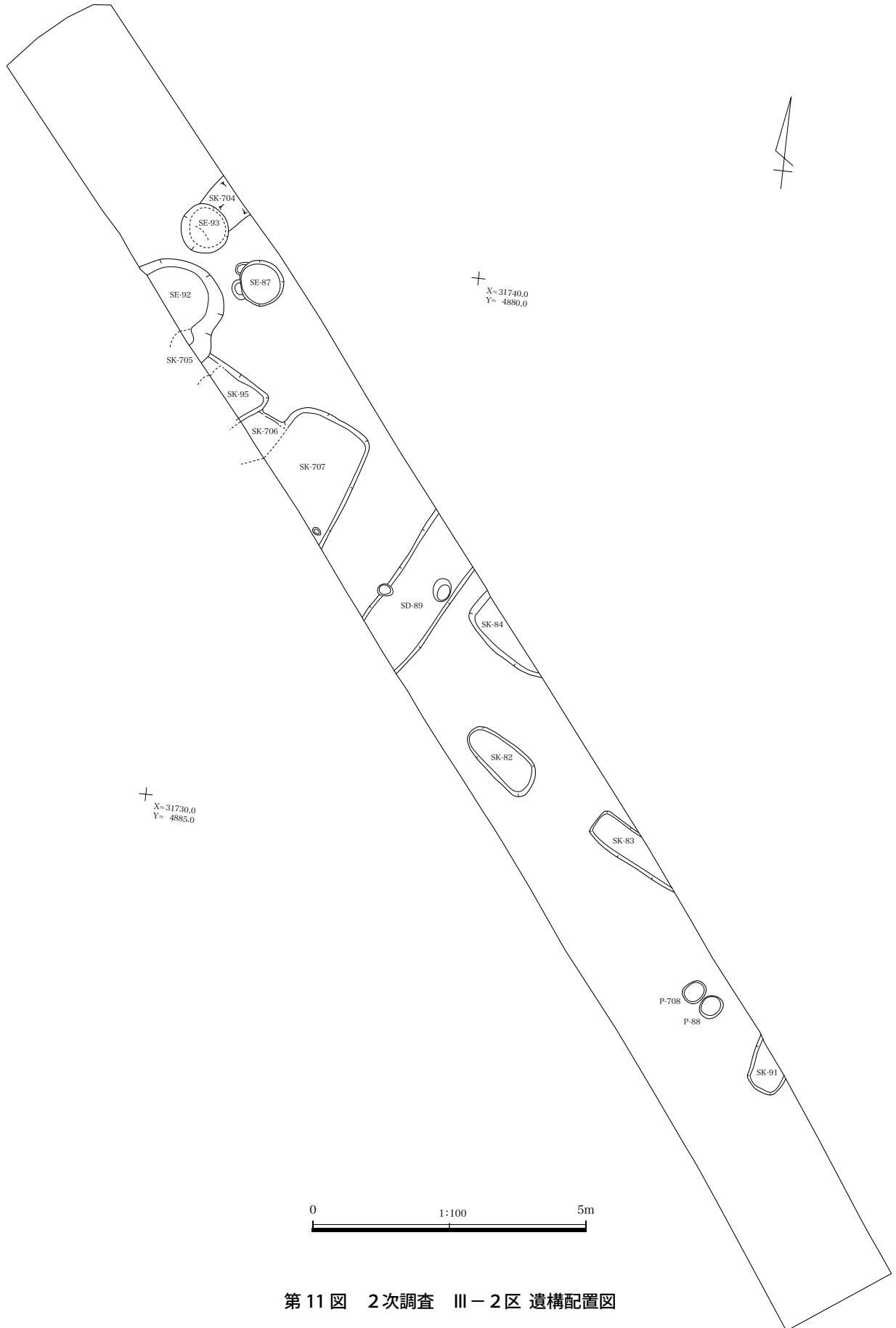


第9図 2次調査 II区 遺構配置図

第3章 確認された遺構と遺物

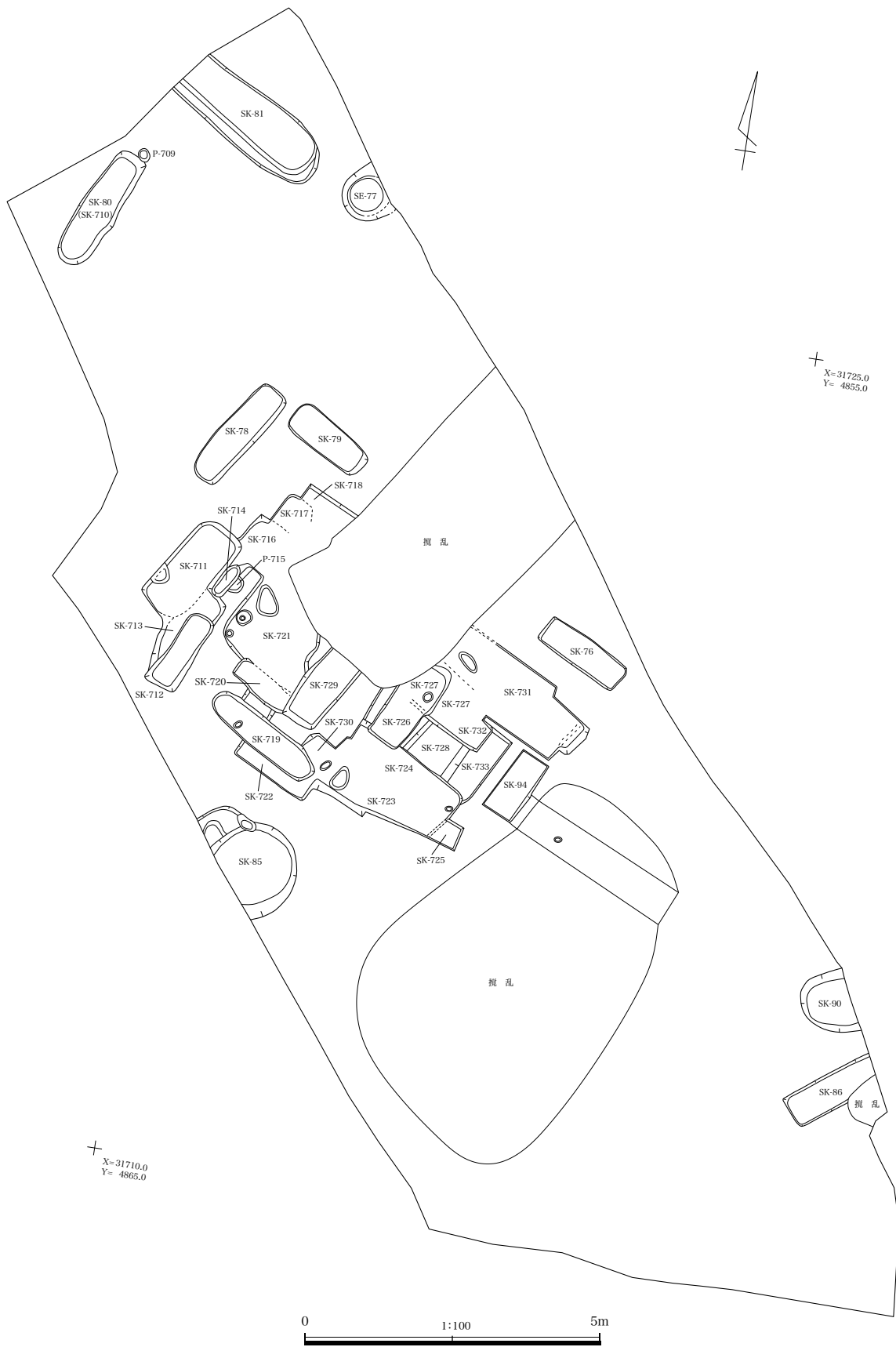


第10図 2次調査 III-1区 遺構配置図



第11図 2次調査 III-2区 遺構配置図

第3章 確認された遺構と遺物



第12図 2次調査 III-3区 遺構配置図

2. 地下式坑

(1) 調査の概要

現地調査において地下式坑の可能性が考慮された遺構は10基である。

I区からはSK-1・9・10・17・106・565の6基が確認される。

SK-1は明確な竪坑の確認はないが、東壁の膨らみから竪坑を想定し、本節で記載する。

SK-1と重複するSK-15については、木根の可能性や平面形の不明瞭さから4.土坑に記載するが、東壁の膨らむ形状が推定され、SK-1同様の形状の地下式坑である可能性を指摘しておきたい。

SK-9は湧水が確認され、底面を確認し得ず、詳細は不明である。オーバーハングする壁面やローム主体の堆積層などから天井部の想定が可能であり、本節で記載するが、方形竪穴遺構の可能性も否めない。

I区から確認される5基のうち、SK-106を除く5基は、主軸を同様にする長方形形状の土坑と重複する。特に、SK-1・17は地下式坑の可能性の残るSK-15を挟み、同様の主軸で掘り込まれる。SK-106は、現状では単独で掘り込まれるが、調査区南西際であり、他遺構との関連は不詳である。

II区からはSK-25・114・142の3基、III-2区からはSK-705の1基が確認される。

III-2区-SK-705は遺構の大部分が調査区外にあり詳細不詳であるが、現地調査の所見に従い、本節で報告する。

この他、III-3区-SK-85に地下式坑の可能性が考えられるが、明確にし得ず、4.土坑に記載する。

確認された10基のうち、SK-142やSK-705は、重複や調査区外に遺構があり、全容を確認し得なかった。これ以外の8基のうち、SK-1・10・17・106・114の5基は、竪坑とみられる突出部が平明形状では観察されるものの底面の境が不明瞭であったり、平面形状の竪坑の観察が不明瞭あり、定型的な地下式坑の形状が観察されない点留意される。また、SK-114-15層は天井部、或いは、構築時の埋め戻し土の可能性が考え得る。天井部とした場合、突出部のある南側の天井がまず崩落、崩落した天井の開口部から13層が堆積、天井材を含む14層・11・12層堆積後、残りの天井(10層)が崩落したと推測される。構築の際の埋め戻し土とした場合、主室と突出部(竪坑)は高低差0.2m前後の緩やかな傾斜をもつ。

SK-25・565は竪坑の壁面にオーバーハングが観察される。4.土坑に記載したSK-110・115は、長方形形状の短辺にポケット状の小土坑を穿つが、SK-25・565の壁面の挟り込みは、或いは、この類の掘り込みの可能性も考えられようか。

出土遺物は、土師質土器、瓦質土器、陶磁器等が出土する。金属器はSK-705から小片1片が出土する。各遺構とも総じて少なく、小片が多い。SK-1のように縄文時代の打製石斧のみの出土も観察される。埋没等に伴う混入である可能性が高く、遺構への帰属は判然としない。

陶磁器の一部は第4節 金属器・鉄滓・陶磁器に記載する。

(2) 地下式坑

第1号地下式坑(SK-1) (第13・19図 図版三)

位置 I区U-24グリッドに位置する。**重複関係** 東側に重複するSK-2より新しい。西側に重複するSK-15との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 方形形状の部分が主室、南東壁中央部の半円形状の膨らみは竪坑か。主室と竪坑の堺部は明瞭でなく、竪坑は主室にむかって緩やかに傾斜する。主室とみられる方形形状部の底面の規模は、北東壁約0.62m・南東壁約1.74m、南西壁・北西壁は重複するSK-15により不明瞭であるが、南西壁約1.8m・北西壁約2.08mである。底面は北西壁から竪坑にむけて緩やかに傾斜する。

第3章 確認された遺構と遺物

確認面から底面の深さは、最も深い北西端部付近で約 0.66 m、竪坑付近で約 0.54 m、底面レベルは 28.95 m 前後である。竪坑は外側にむけて弓なりに膨らむ南東壁の中央部、幅約 0.9 m・奥行き約 0.43 m の部分と推定される。主軸は N-54° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。底面中央部より壁際が 8 cm ほど高い皿状となる。竪坑はなだらに主室に取り付き、レベル差は確認されない。**覆土** 5 層を確認した。褐色土とロームブロック層が交互に堆積する。竪坑部に堆積する最下層 5 層以外に底面に間層を挟まずロームブロック主体の 4 層が堆積し、3 層を挟んでロームブロック主体の 2 層が堆積する。2・4 層を天井部に相当する堆積土と推測するならば、土坑上面を覆うように堆積することから、廃絶時における開口部は少なかったものと判断される。天井部は、竪坑の空間から 5 層が堆積した後、短時間で天井部が 2 度にわたり崩落したのか。**遺物出土状況** 竪坑とみられる膨らみ部の西側床面から打製石斧 1 点が出土する。埋没時に混入したものと判断される。

出土遺物 1 は片側弧状、片側尖状の打製石斧である。周縁部に欠損が観察される。図上左面は自然面が残る。弧状の端部の左右を剥離により成形か。図上右面は中央部に左右からの剥離が磨滅する。整形に関わる剥離であるか判然としない。挟り部は磨滅する。長さ 14.8cm・刃部幅 8.2cm・挟り部幅 5.5cm・最大厚 3.3 cm・重さ 435.1 g である。

第 9 号地下式坑 (SK- 9) (第 14・15 図 図版三)

位置 I 区 U-23 グリッドに位置する。**重複関係** 南西側に SK-10、或いは土層断面で確認される SK-129 底面と同レベルの掘り込みが重複する。本遺構が新しい。**形状・規模・主軸** 竪坑は SK-129 の可能性が考慮されるが判然としない。或いは SK-10 の重複により失われたか。方形竪穴遺構の可能性も残る。主室は南西方向に長い形状の部分とみられる。西壁はオーバーハングする。天井部等が崩落した可能性が考えられよう。底面の長軸約 1.8 m・短軸約 1.38 m である。主軸は N-20° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。湧水のため、レベル 28.6 m 付近で掘り下げを中止した。確認面からの深さ約 0.92 m 付近である。

覆土 8 層を確認した。6・8 層はローム主体層である。天井部の崩落層か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 10 号地下式坑 (SK-10) (第 14・15・19 図 表 3 図版三)

位置 I 区 U-23 グリッドに位置する。**重複関係** 北側に重複する SK-131 より新しい。西側に重複する SK- 6、南側に重複する SK-126 との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 方形の部分の主室とみられる。東西に長い形状であるが、SK- 9 と重複する北壁付近の詳細は不明瞭である。底面の規模は、長軸約 2.55 m・短軸 2.0 m 前後、主軸は N-50° -W である。竪坑は判然としないが、緩やかに傾斜する東壁・南壁のいずれかの可能性があろうか。底面との高低差・レベルは、東壁 0.27 m・29.958 m、南壁 0.48 m・29.184 m である。**底面** ローム層を掘り込む。南西隅部が中央部より約 10.0cm 高い。確認面から中央部の深さ約 0.65 m、レベル 28.691 m である。**覆土** 8 層を確認した。8 層はロームブロック主体層である。天井部崩落層とすれば、間層を挟まず、早い段階で埋没したか。3 層の帰属は不詳である。**遺物出土状況**

覆土中から 9 点が出土する。うち 6 点の注記は SE-10 であり、遺構を誤認する可能性も残る。6 点いずれも確認面付近から出土する。

出土遺物 1 は土師器環。SK-10 から出土する。2 は瓦質土器播鉢小片である。

図示し得なかった SK-10 出土の遺物は、土師質の土器体部小片 1 片、内耳土器とみられる小片 1 片である。内耳土器とみられる小片は胎土にガラス質粒子を含む。SE-10 出土の遺物は、土師器環とみられる微細片 1 片、土師器甕類とみられる小片 2 片、土師質土器小皿微細片 1 片、胎土 D 群の内耳土器小片 1 片である。

第17号地下式坑 (SK-17) (第13図 図版三)

位置 I区U-24グリッドに位置する。**重複関係** 東側に重複するSK-15より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い形状の部分が主室、南東壁中央部の円形状に張り出す部分が竪坑と考えられる。主室と竪坑の底面は3.0cmほど竪坑が低い明瞭な境部は確認されない。主室の底面の規模は北東壁：約1.15m・南東壁約1.42m・南西壁約0.8m・北西壁約1.8mである。竪坑は直径0.7m前後である。主軸はN-53°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。主室は南西壁から南東壁に向けて傾斜がみられる。遺構確認面からの深さ・レベルは、南西壁付近：約0.58m・28.864m、南東壁付近：約0.75m・28.729mである。竪坑は皿状で中央部の確認面からの深さ・レベルは約0.78m・28.697mである。主室と竪坑との境部は明瞭ではないが、竪坑中央部とは3.0cmほどの段差となる。**覆土** 竪坑部分の5層を確認した。ロームブロックを主体とする層が水平気味に堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、陶器大甕口縁部小片1点が出土する。詳細は不明である。

第25号地下式坑 (SK-25) (第18図 図版三)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形の部分が主室、南壁中央部の円形状に張り出す部分が竪坑と考えられる。主室と竪坑の底面は約0.25mの高低差が確認される。主室の底面の規模は東西1.8m前後・南北1.0～1.25mであり、西側から東側に広がる形状であり、南東隅部がオーバーハングする。竪坑は東西約0.7m・南北(0.22)mであり、南側はオーバーハングする。主軸はN-67°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み概ね平坦である。遺構確認面からの深さ・レベルは、主室：約1.2m・約29.9m、竪坑：約0.85m・30.15mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 図示し得なかった出土遺物が、古瀬戸広口壺片とみられる小片、内耳土器1片、土師質土器小片1片である。土師質土器ロクロ成形の皿形或いは小皿形口縁部小片である。

第106号地下式坑 (SK-106) (第18・19図 表5 図版三・一四)

位置 I区U-21グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 不整形な形状の部分が主室、南東壁南東隅部寄りの半円形状の膨らみが竪坑か。主室と竪坑の境部は明瞭でなく、竪坑は主室にむかって傾斜する。主室とみられる方形形状部は不整形であり、特に北東壁は二コブ状である。主室の底面の規模は、北東壁約2.1m・南東壁約1.6m・南西壁約2.2m・北西壁約2.2mである。竪坑の規模は、張り出した部分約0.8m・幅約0.9mである。主軸はN-33°Wである。**底面** 主室の底面はローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.63m、レベル約28.81mである。竪坑は、掘り出した南東壁際の約29.26mのレベルから傾斜し、約6.0cmの不明瞭な段をもって主室に至る。**覆土** 14層を確認した。6層はローム主体であり、天井部の崩落層か。6層に続く2層はロームブロックの集中箇所がみられ、6層に関連する層か。14層は11・12層分層線付近より北側にロームブロックの堆積が目立つ。

遺物出土状況 覆土中から15点が出土する。

出土遺物 1～3は縄文土器。胎土に白色粒子・白色小礫・ガラス質微粒子・繊維を含む。黒浜式か。3は縄文を羽状に配する。結節部がみえるか。4は内耳土器である。5は瓦質の硯か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土師質土器小皿5片、内耳土器とみられる微細片3片、陶磁器2片である。

土師質土器小皿はロクロ成形、内耳土器の胎土は瓦質土器D群である。陶磁器は、常滑産大甕1片、青磁とみられる微細片1片である。常滑産とみられる大甕片は体部片である。内外面とも木口状工具で整形さ

れる。青磁片はオリーブ色釉を内外面に施す。素地は灰色である。青磁か。国内産と判断されるが、時期・産地等は不明である。

第114号地下式坑 (SK-114) (第18・19図 表6 図版三)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** SK-153より新しい。重複関係にはないが、北東方向に位置するP-572・573との関連は不詳である。**形状・規模・主軸** 南東-北東に長い長方形である。北東隅部には深さ約0.08m、レベル約29.98mの浅いテラス状の掘り込みが確認される。帰属等については不明である。南東壁南寄りの円形の突出部は竪坑か。主室の底面規模は、南東壁約0.7m・北東壁約0.35m・南西壁約1.4m・北西壁約0.98mである。突出部は、南東壁を幅約1.0m・奥行き約0.7m掘り込む。主軸は、竪坑を主軸とする場合N-35°-E、主室の長軸を主軸とする場合N-46°-である。**底面** ローム層を掘り込む。主室と突出部に段差はなく、総じて平坦である。遺構確認面からの深さ約1.2m、レベル約28.86mである。**覆土** 15層を確認した。5・6層はロームブロックが多量に観察され、天井或いは壁面の崩落土と推定される。10・14・15層はロームを主体とし、現地調査時においては、天井の崩落土と推定した。その際、南側の天井崩落後(15層)、南側の開口部から13層が堆積、暗褐色土と天井部材のロームブロックとが徐々に崩落(14層)、12・13層堆積後、天井部(11層)が崩落した可能性が考えられる。或いは、14層の分層線が直立気味であることから、竪坑との関連を考慮すべきか。その際、15層が構築時の埋め戻し土であり底面であった可能性も考慮されるが、硬化面等の観察はない。11層の堆積が遺構下半であり、早い段階での崩落が考えられる。**遺物出土状況** 覆土中から8点が出土する。

出土遺物 1はロクロ成形の土師質土器、器面は磨滅し、詳細は不明である。2は陶器甕体部。3は円形状の小礫。基石の可能性はあるのか。SK-4-2と似る。

この他、図示し得なかった出土遺物は、1と同一個体とみられる小片1片、羽口とみられる粘土塊2片、小礫2点である。

粘土塊は羽口の孔とみられる部分が僅かに残る。外面の整形は丁寧で平滑に仕上げられるか。同一個体か。

小礫はススの付着や被熱による赤色変化がみられる。何れもやや平坦な形状である。

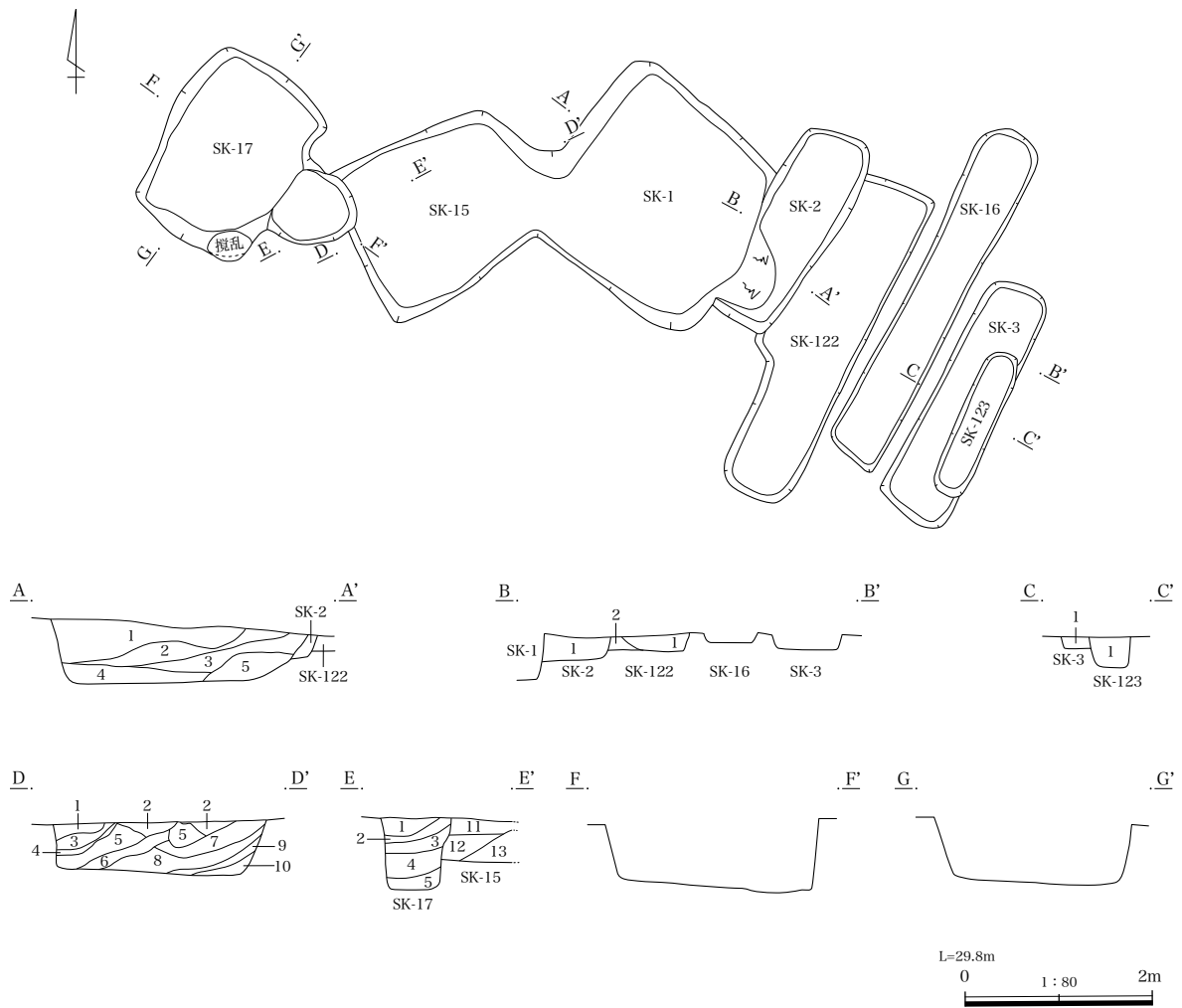
第142号地下式坑 (SK-142) (第50・51図 図版四)

位置 II区S-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-144・SD-19より古い。**形状・規模・主軸** SD-19との重複により東側を失っており、詳細は不明である。主室は方形か。東西(1.08)m・南北(0.9)mである。**底面** 主室の底面はローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.7m、レベル約29.05mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第565号地下式坑 (SK-565) (第16・19図 図版四)

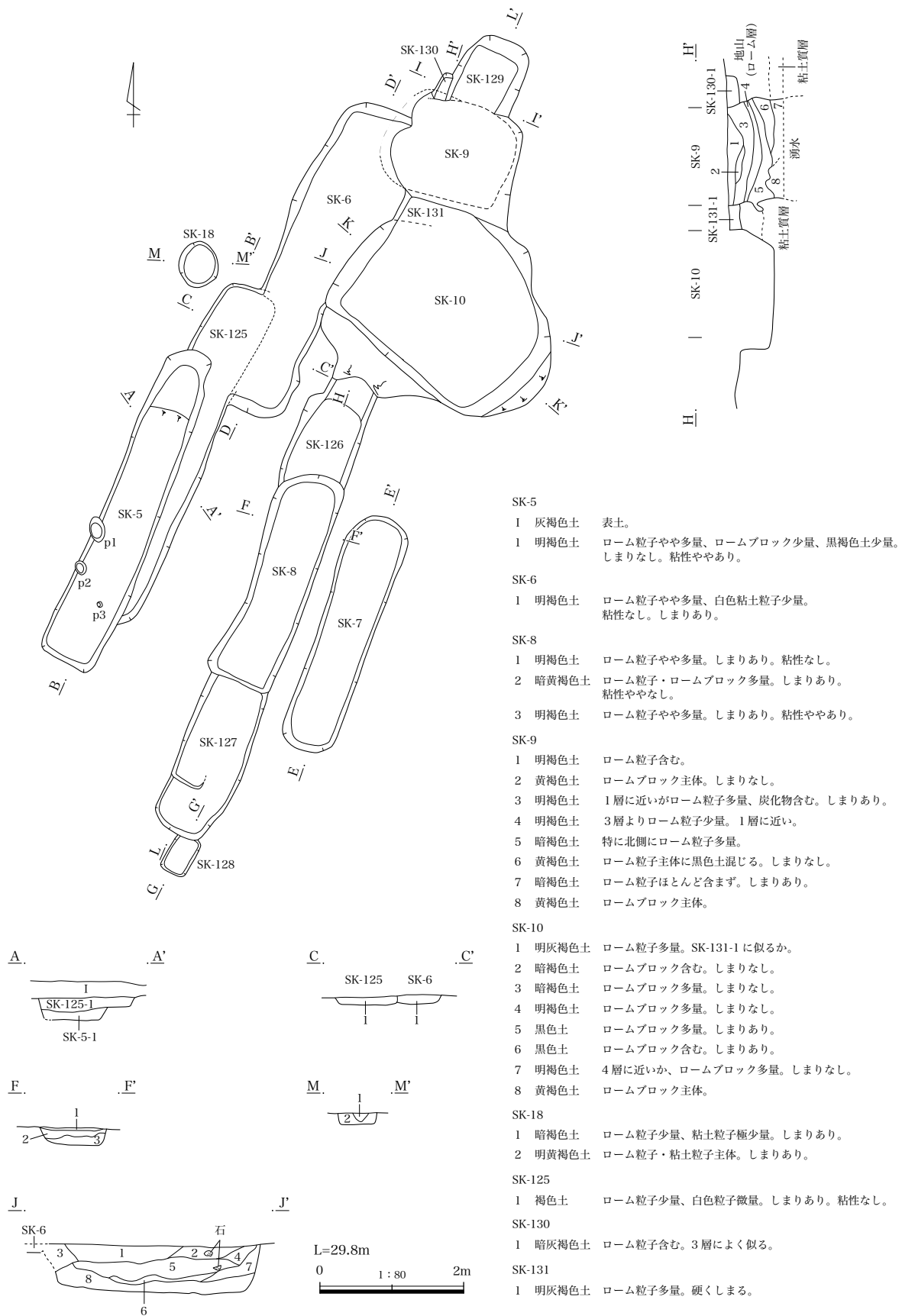
位置 I区T-22グリッドに位置する。**重複関係** 西側に重複するSK-132との新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 長円形状の部分が主室とみられる。竪坑は東壁中央の隅丸方形の突出部とみられるが判然としない。底面に段差ない。東壁の屈曲部が竪坑の痕跡を想定させるが、覆土はオーバーハングして堆積しており、突出部にも天井部が存在した可能性が考慮される。主室とみられる南北に長い長円形状の底面の規模は、長軸約2.3m・短軸1.3m前後、主軸はN-3°-Wである。竪坑の可能性のある突出部は東西約[0.7]m・南北約0.8mである。**底面** ローム層を掘り込む。主室の遺構確認面から深さ1.0m前後、レベル28.368mである。突出した東壁の屈曲部は、遺構確認面から約0.55m下位のレベル28.8m付近である。**覆土** 9層を確認した。6層は堆積土中、唯一の黒色土であり、焼土を含む。7層は焼土・炭化物を多量に含む。9層はロームブロック主体層である。天井部であるか判然としない。**遺物出土状況** 覆土



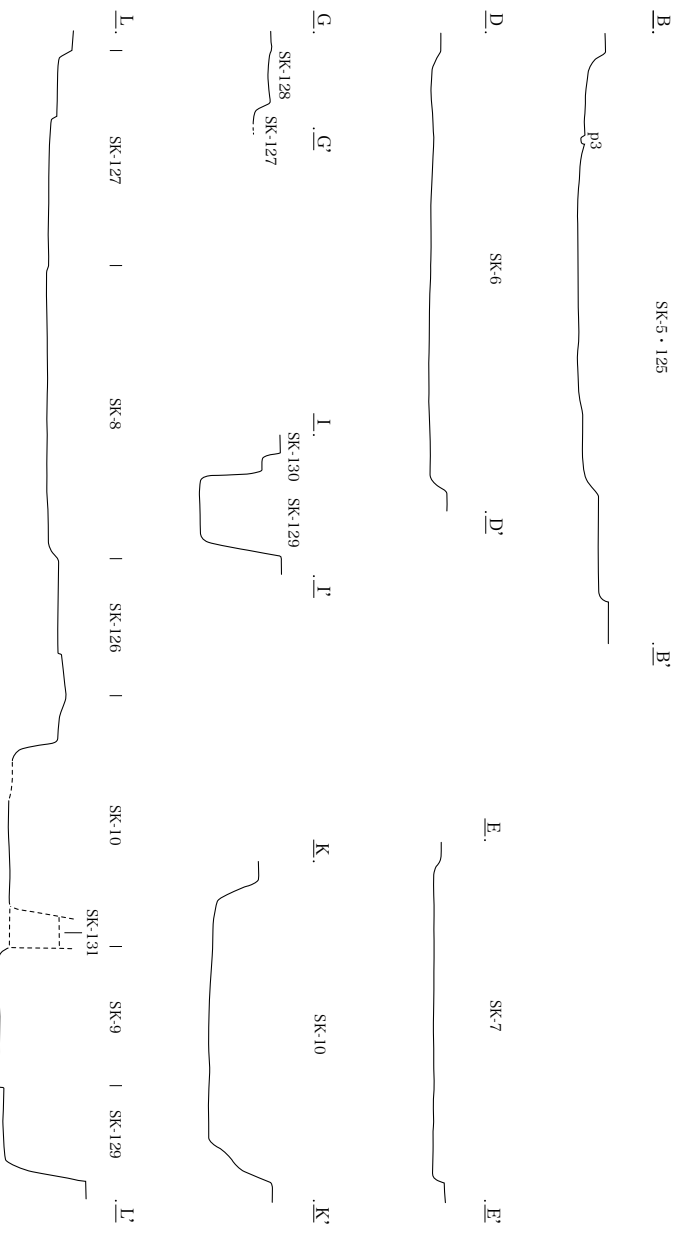
- | | |
|--|--|
| <p>SK-1</p> <p>1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック・褐色土ブロック少量。しまりなし。粘性なし。</p> <p>2 黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック主体、褐色土ブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>3 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややなし。粘性ややなし。</p> <p>4 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>5 灰褐色土 ローム粒子少量、灰色粘土粒子やや多量。しまりなし。粘性ややあり。</p> <p>SK-15</p> <p>1 黒色土 ローム粒子少量。しまりあり。</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。</p> <p>3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。</p> <p>4 黒色土 しまりあり。</p> <p>5 黄色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。</p> <p>6 暗褐色土 ローム粒子少量、黒色土主体。しまりなし。</p> <p>7 暗黄褐色土 3・4層と同じ。しまりなし。</p> <p>8 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒色土主体。しまりなし。</p> <p>9 黒色土 ローム粒子少量。しまりなし。</p> <p>10 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。</p> <p>11 黒色土 2層に相当か。</p> <p>12 暗褐色土 6層に相当か。</p> <p>13 暗黄褐色土 7層に相当か。</p> | <p>SK-2</p> <p>1 明褐色土 ローム粒子・灰色粘土やや多量。しまりなし。粘性あり。</p> <p>SK-3</p> <p>1 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量、褐色土粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>SK-17</p> <p>1 明褐色土 ローム微粒子主体。しまりなし。</p> <p>2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。</p> <p>3 明褐色土 ローム微粒子主体。1層より黒色土多量。しまりなし。</p> <p>4 明褐色土 ローム微粒子主体。3層より黒色土少量。1層と似る。しまりなし。</p> <p>5 暗褐色土 ローム微粒子主体。4層より黒色。しまりなし。</p> <p>SK-122</p> <p>1 黄褐色土 ロームブロック主体、褐色土粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。</p> <p>2 明褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック微量。しまりあり。粘性ややあり。</p> <p>SK-123</p> <p>1 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロックやや多量、褐色土粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。</p> |
|--|--|

第13図 第1号地下式坑・第2・3・15～17・122・123号土坑実測図

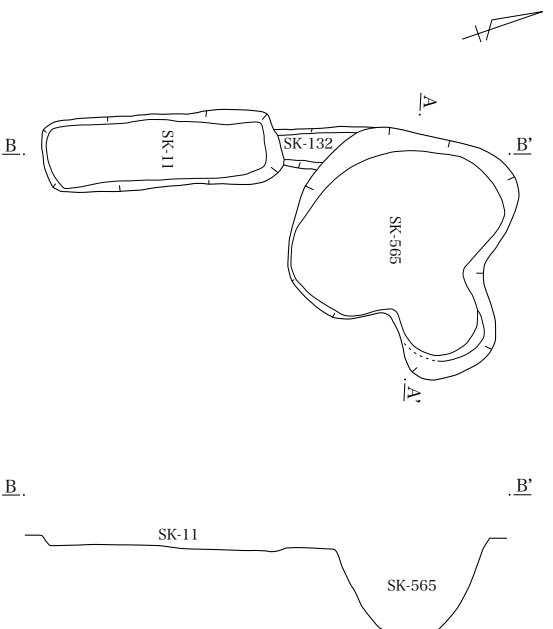


- SK-5
- 1 灰褐色土 表土。
 - 1 明褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量、黒褐色土少量。しまりなし。粘性ややあり。
- SK-6
- 1 明褐色土 ローム粒子やや多量、白色粘土粒子少量。粘性なし。しまりあり。
- SK-8
- 1 明褐色土 ローム粒子やや多量。しまりあり。粘性なし。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。粘性ややなし。
 - 3 明褐色土 ローム粒子やや多量。しまりあり。粘性ややあり。
- SK-9
- 1 明褐色土 ローム粒子含む。
 - 2 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
 - 3 明褐色土 1層に近いがローム粒子多量、炭化物含む。しまりあり。
 - 4 明褐色土 3層よりローム粒子少量。1層に近い。
 - 5 暗褐色土 特に北側にローム粒子多量。
 - 6 黄褐色土 ローム粒子主体に黒色土混じる。しまりなし。
 - 7 暗褐色土 ローム粒子ほとんど含まず。しまりあり。
 - 8 黄褐色土 ロームブロック主体。
- SK-10
- 1 明灰褐色土 ローム粒子多量。SK-131-1に似るか。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりなし。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。
 - 4 明褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。
 - 5 黒色土 ロームブロック多量。しまりあり。
 - 6 黒色土 ロームブロック含む。しまりあり。
 - 7 明褐色土 4層に近いが、ロームブロック多量。しまりなし。
 - 8 黄褐色土 ロームブロック主体。
- SK-18
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、粘土粒子極少量。しまりあり。
 - 2 明黄褐色土 ローム粒子・粘土粒子主体。しまりあり。
- SK-125
- 1 褐色土 ローム粒子少量、白色粒子微量。しまりあり。粘性なし。
- SK-130
- 1 暗灰褐色土 ローム粒子含む。3層によく似る。
- SK-131
- 1 明灰褐色土 ローム粒子多量。硬くしまる。

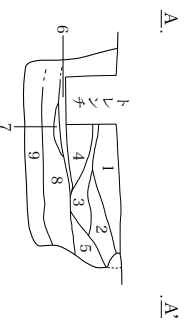
第14図 第9・10号地下式坑・第5～8・18・125～131号土坑実測図



第15図 第9・10号地下式坑・第5～8・125～131号土坑実測図

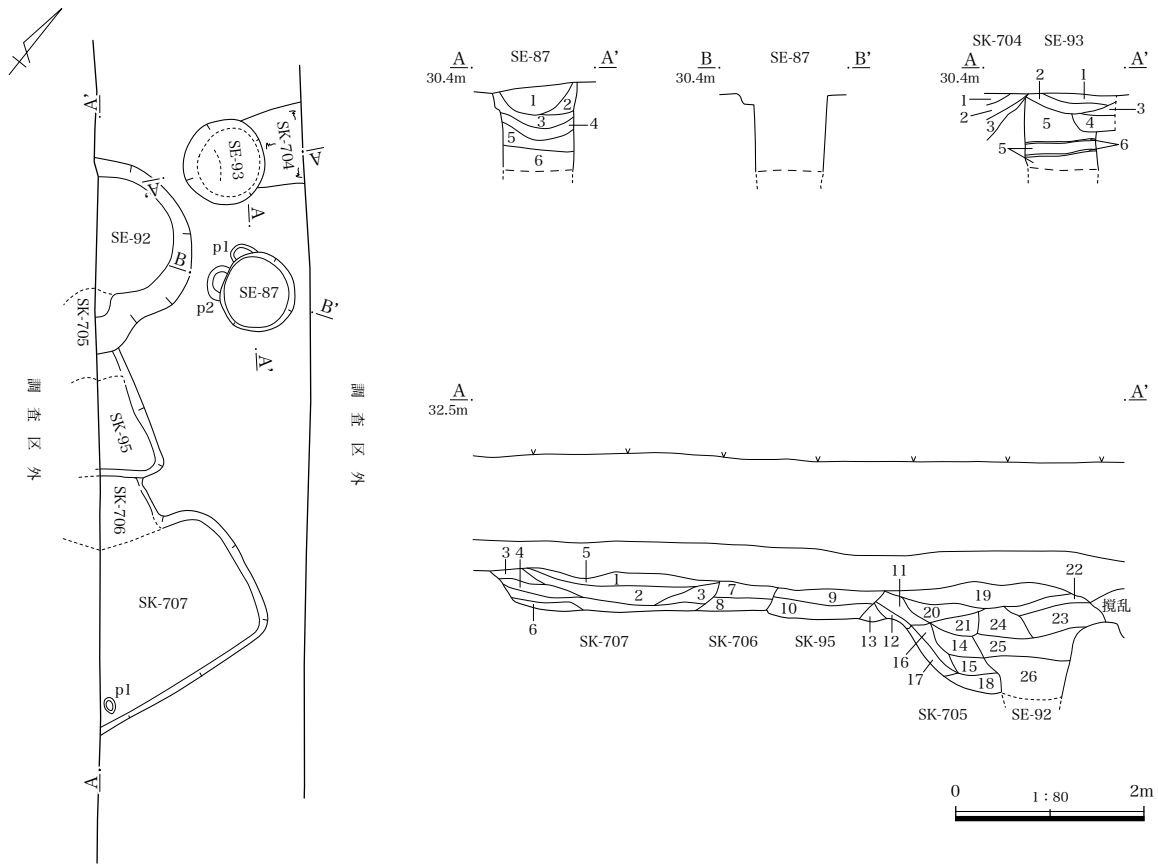


- SK-565
- 1 明灰褐色土 ローム粒子・粘土粒子・炭化物粒子含む。炭化竹少量。固い。
 - 2 明褐色土 1層に傾るか、1層より暗色。炭化物粒子含む。
 - 3 明褐色土 2層よりやや暗色。炭化物・粘土粒子・ローム粒子・炭化物粒子含む。
 - 4 明灰褐色土 ローム粒子多量、炭化物粒子含む。
 - 5 暗灰褐色土 ローム粒子多量、炭化物粒子含む。4層と似る。
 - 6 黒色土 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物多量、炭化物粒子含む。
 - 7 赤褐色土 凝土主体、炭化物粒子多量。
 - 8 明灰褐色土 ローム粒子・粘土粒子・炭化物粒子含む。4・5層と似る。
 - 9 黄褐色土 ロームブロック・粘土ブロック主体。



第16図 第11号地下式坑・第565号方形形竪穴遺構・第132号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SE-87

- 1 暗褐色土 ローム微粒子含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 1層と似る。しまりあり。
- 3 灰白色土 粘土含む。しまりあり。
- 4 明褐色土 1・2層より大きめのローム粒子含む。しまりあり。粘性あり。
- 5 明褐色土 4層よりローム粒子少量。しまりあり。粘性あり。
- 6 明褐色土 5層よりローム粒子多量。しまりあり。粘性あり。

SE-92

- 19 黄褐色土 ロームブロックに粘土少量、黒色土混じる。しまりなし。
- 20 黄褐色土 19層と似る。
- 21 褐色土 19・20層よりローム少量、黒色土多量。しまりなし。粘性あり。
- 22 黄褐色土 ロームブロック含む。しまりあり。
- 23 暗灰褐色土 24層より暗色、混入物は同じ。しまりあり。
- 24 灰褐色土 ローム粒子・粘土粒子・炭化物少量。しまりあり。
- 25 明灰褐色土 23・24層より明色。混入物は同じ。
- 26 暗灰褐色土 23層より暗色。

SE-93

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりなし。
- 2 明黄褐色土 ローム粒子・粘土含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック・白色粘土粒子少量。
- 4 黒褐色土 3層より黒色強い。3層と似る。
- 5 灰白色土 黄白色の粘土ブロック主体。しまりなし。
- 6 黒色土

SK-95

- 9 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量。しまりあり。
- 10 暗褐色土 9層よりローム粒子多量。しまりあり。

SK-704

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 2 明褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 3 明褐色土 2層よりローム粒子多量。しまりあり。

SK-705

- 11 暗褐色土 粘土粒子含む。
- 12 暗褐色土 11層より粘土粒子少量。
- 13 明褐色土 ローム粒子少量。
- 14 黄褐色土 ロームブロック主体。粘土少量。しまりなし。
- 15 黄褐色土 14層よりしまりなし。
- 16 黄褐色土 ローム主体。上はしまるが、下はしまりなし。
- 17 黄褐色土 ローム主体。上はしまるが、下はしまりなし。
- 18 黄褐色土 ローム主体。硬い。

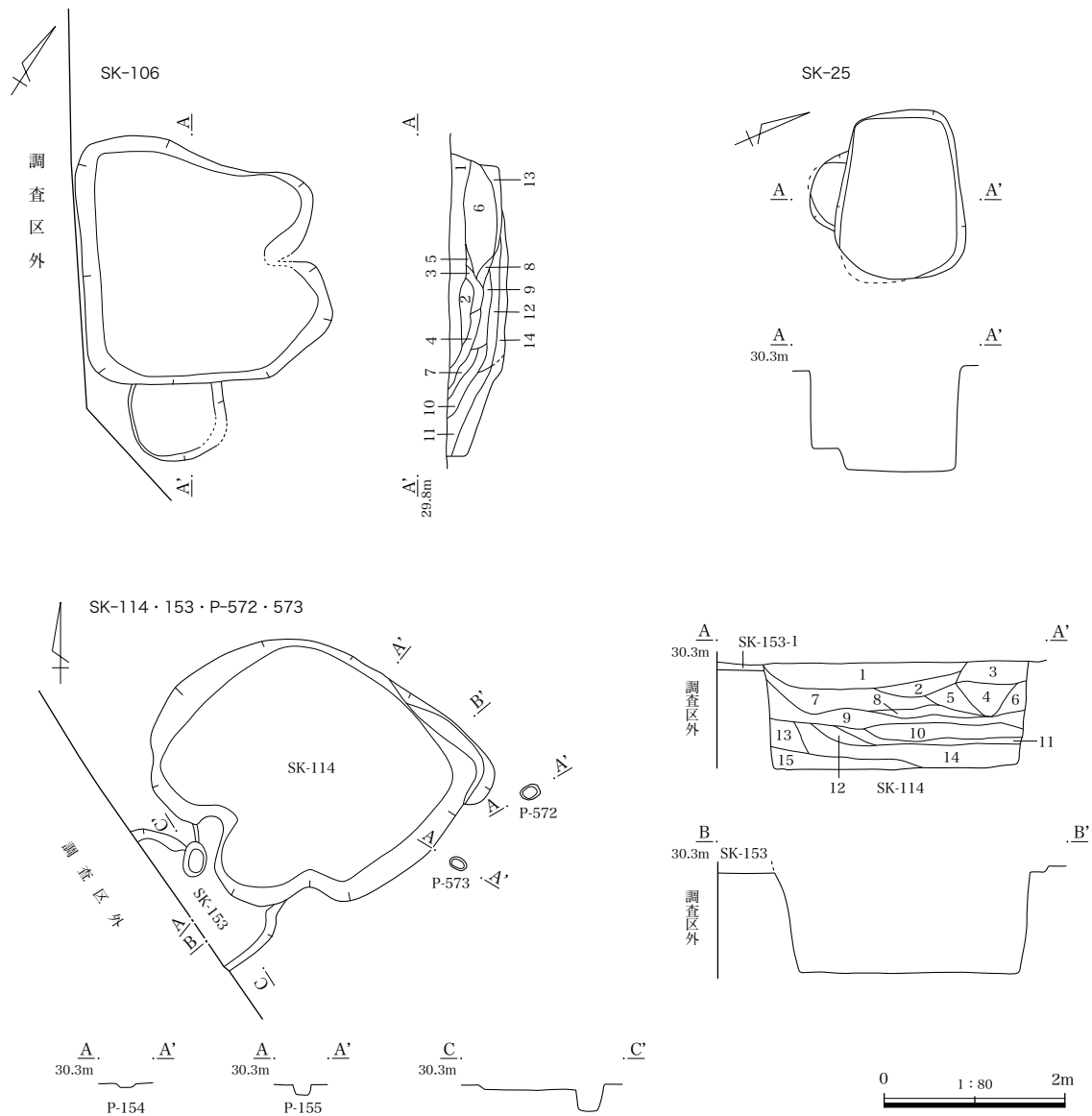
SK-706

- 7 明褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 8 明褐色土 7層よりローム粒子多量。しまりあり。

SK-707

- 1 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりあり。
- 2 明褐色土 1層よりローム多量。しまりあり。
- 3 明褐色土 ロームは1層と似る。しまりなし。
- 4 明褐色土 3層よりローム多量。しまりなし。
- 5 暗褐色土 ローム少量。しまりあり。
- 6 明褐色土 ロームは3層と似る。

第17図 第705号地下式坑・第707号方形竪穴遺構・第87・92・93号井戸跡・第95・704・706号土坑実測図

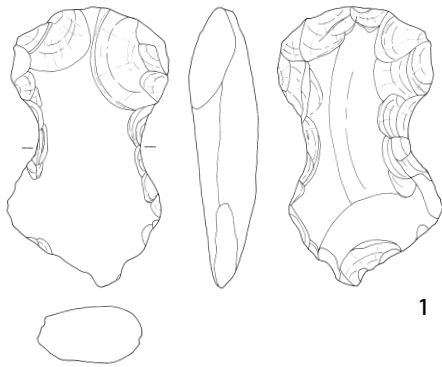


- SK-106**
- 1 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量、暗褐色土少量。しまりあり。
 - 4 暗黄褐色土 ローム粒子やや少量、暗褐色土含む。しまりややあり。
 - 5 暗黄褐色土 暗黄色土少量。しまりややあり。
 - 6 黄色土 ロームブロック主体。暗褐色土少量。しまりややあり。
 - 7 暗黄褐色土 ローム粒子・暗黄色土少量。しまりややあり。
 - 8 暗黄色土 暗褐色土含む。しまりややあり。
 - 9 暗黄褐色土 ローム粒子少量。暗褐色土やや少量。しまりややあり。
 - 10 暗黄褐色土 ローム粒子微量。暗褐色土少量。しまりややあり。
 - 11 暗黄褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。
 - 12 暗褐色土 暗黄褐色土少量。ローム粒子少量。しまりややあり。
 - 13 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。
 - 14 暗黄褐色土 ロームブロック少量。暗褐色土少量。しまりややあり。
- SK-114**
- 1 暗褐色土 ローム微粒子・ロームブロック(1.0cm大)・炭化物少量。しまりなし。
 - 2 暗褐色土 1層に似るがローム微粒子多量。しまりなし。
 - 3 暗褐色土 1・2層よりローム粒子多量、炭化物含む。しまりなし。

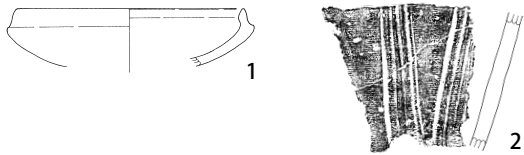
- SK-114**
- 4 暗褐色土 ローム粒子は最も少量。しまりなし。
 - 5 暗黄褐色土 ロームブロック(2.0~3.0cm大)多量。この近辺ではローム粒子の混入が最も多量。しまりなし。
 - 6 明黄褐色土 ロームブロック主体。
 - 7 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック含むがローム粒子が主体でロームブロックは少量。しまりなし。
 - 8 暗黄褐色土 ロームブロック(2.0~3.0cm大)含む。ローム粒子の混入は5層に似る。しまりなし。
 - 9 明褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。
 - 10 黄褐色土 ローム主体。天井部等の崩落か。しまりなし。
 - 11 暗褐色土 黒色土主体。しまりなし。
 - 12 明褐色土 ローム粒子含む。粘性なし。
 - 13 明褐色土 ローム粒子少量。粘性あり。
 - 14 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。粘性なし。
 - 15 黄褐色土 ロームブロック主体。粘土も混じる。粘性なし。
- SK-153**
- 1 明褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。

第18図 第106・114号地下式坑・第25・153号土坑・第572・573号ピット実測図

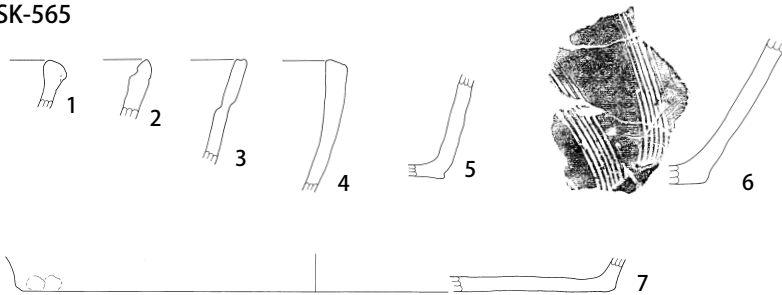
SK-1



SK-10



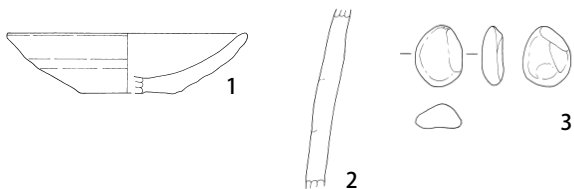
SK-565



SK-106



SK-114



第19図 第1・10・106・114・565号地下式坑出土遺物実測図

表3 第10号地下式坑出土遺物観察表

[単位: cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師器 坏	口径: [12.0] 底径: — 器高: (3.0)	内 口縁一体部: ヨコナデ 外 ヘラケズリ→ 体部: ヘラナデ→ 口縁部: ヨコナデ 底部にヘラケズリ残る	内外 明赤褐色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW2 SE-10 3ヶ面
2 瓦質土器 播鉢	口径: — 底径: — 器高: 7.2	外 ナデ 内 疎らに摺目を施す 摺目は5本単位か	内外 灰色	瓦質土器A群 良	小片	SK-10

表4 第106号地下式坑出土遺物観察表

[単位: cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
4 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (5.6)	内 ヨコナデ 内耳接合部: 上端 ヨコナデ弱く、 粘土紐が明瞭に残る 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ オコグ状付着物	内 黒褐色 外 黒色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SK-106
5 瓦質土器 視か	口径: — 底径: — 器高: (1.2)	上 ヘラナデ 下 凸状 周縁部はヘラナデ 凸部はヘラケズリ 周縁端部 部分的にスス状付着物	内 黄灰色 外 灰色	瓦質土器A類 良	小片	SK-106

表5 第114号地下式坑出土遺物観察表

[単位: cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径: [12.6] 底径: [4.9] 器高: 3.1	磨滅 ロクロ成形か 底部切り離し磨滅	内外 浅黄褐色	土師質土器A群 良	小片	OYAW2 SK-114
2 陶磁器 甕	口径: — 底径: — 器高: (9.5)	内外 ヘラナデ	内 浅黄色 外 にぶい黄色	陶器D群 良	小片	OYAW2 SK-114
3 小礫	長: 3.2 厚: 1.2 幅: 2.5 重: 10.60	断面 扁平な三角形 表面 やや滑らか 裏面 小さな凸凹あり	表裏 にぶい黄緑色	石英斑岩	完存	OYAW2 SK-113a

表6 第565号地下式坑出土遺物観察表

[単位: cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 陶器 甕・口縁	口径: — 底径: — 器高: (2.5)	口縁部は角形に整形 内外面自然袖かかる	内外 にぶい褐色	陶器D群 良	小片	SK-12
2 瓦質土器か 内耳か	口径: — 底径: — 器高: (3.1)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 口端部に段を持つ 外 口端部: 磨滅 体部: ヘラナデか	内 黄褐色 外 暗灰黄色	瓦質土器A群 良	小片	SK-12
3 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (5.4)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 頸部に稜を持つ 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 口縁部下屈曲する 口縁部一体部: スス付着	内 暗灰黄色 外 黒褐色	瓦質土器A群 良	小片	SK-12
4 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (6.9)	内 ヘラナデ 外 オコグ付着	内外 にぶい褐色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW2 SK-12
5 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (5.7)	内外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデか 外 オコグ付着	内外 にぶい褐色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW2 SK-12
6 瓦質土器 播鉢・底部	口径: — 底径: — 器高: (7.6)	内 ナデ 6条一単位とする摺目を疎らに施す 外 ナデ	内 黄褐色 外 黄灰色	瓦質土器C群 良	小片	SK-12
7 内耳土器	口径: — 底径: [31.0] 器高: (1.8)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデか 底部指頭痕 特徴の似た体部5片・底部2片が出土する	内 灰赤色 外 黒褐色	瓦質土器D群 ガラス質粒子多量 良	底部 1/12	SK-12

中から18点が出土する。

出土遺物 1は陶器甕類口縁部とみられる。常滑産か。2は内耳土器口縁部か。瓦質土器としては胎土が粗いか。3は内耳土器口縁部か。口縁部から屈曲して体部に至る。4・5・7は内耳土器小片。4・5は同一個体か。図示し得なかった体部小片1片も同一個体か。7は平底の内耳土器である。似た特徴の体部片2片が出土する。6は播鉢である。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

瓦質土器体部小片が1片出土する。内面に指頭痕が残る。胎土は瓦質土器A群である。内耳土器体部片5片・底部片2片が出土する。胎土は瓦質土器D群で似た特徴を持つ。同一個体か。

第705号地下式坑 (SK-705) (第17図 表89 図版四)

位置 Ⅲ-2区 N-12 グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-705 (地下式坑) → SE-92 → SK-706 → SK-707 の順に重複するか。**形状・規模・主軸** 遺構の大部分は調査区外にあるとみられる。また、SE-92 との重複により北側を失っており、詳細は不明である。地下式坑ではない可能性が残るが、現地調査の所見に従い、地下式坑とする。SP-A によれば、表土下であるレベル 30.5 m 付近以下に確認される。長さ [1.4] m、表土下約 0.3 m・レベル 30.2 m 付近で段付近の長さ [1.0] m である。底面の長さ [0.5] m である。**底面** ローム層を掘り込む。表土からの深さ約 1.1 m、レベル 29.4 m である。このうち、中段部までの深さ約 0.3 m、中段部から底面までの深さ約 0.8 m である。**覆土** 11～18 層を確認した。中段部以下の 14～18 層はロームを主体とする黄褐色土である。**遺物出土状況** 覆土中から鉄製品 1 片が出土する。詳細は不明である。表 89 に記載する。

3 方形竪穴遺構

(1) 調査の概要

現地調査において方形竪穴遺構の可能性が考慮された遺構は 5 基である。

I 区からは SK-105・567、II 区からは SK-24・109、Ⅲ-2 区からは SK-707 が確認される。

平面形が長方形状や正方形状であり、底面にピットを穿つ。ただし、SK-105 にピットが確認されない。SK-567 は長方形の掘り込みの中央にピットを穿つが方形竪穴遺構とした 4 基に比し小型である。SK-24 は遺構東側が調査区外にあり、全容は確認し得なかったが、平面形等の特徴から方形竪穴遺構の可能性が考慮される。

出土遺物は、各遺構とも総じて少なく、小片が多い。土師質土器、瓦質土器、陶磁器の出土が主体であるが、SK-24 からは銭貨「至道元宝」、SK-105 からは鉄滓の出土が確認される。また、SK-105 からは縄文土器・土師器・須恵器・瓦質土器・土師質土器など、時代幅の大きな遺物の出土も確認される。何れの遺構についても、埋没等に伴う混入である可能性が考えられ、遺構への帰属は判然としない。

(2) 方形竪穴遺構

第24号方形竪穴遺構 (SK-24) (第20・22・115図 表7 図版四)

位置 II 区 Q-16・17 グリッドに位置する。**重複関係** SE-603 より古い。SE-604 とは判然としないが、本遺構が新しいか。**形状・規模・主軸** 東側が調査区外にあり、詳細は不明である。東壁は段をもって内側に膨らむが、SE-603 に起因する可能性も捨て切れない。底面の規模は、東西 (1.85) m・南北 (1.2) m、主軸は N-80°-E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.94 m、レベル 29.16 m である。

付属施設 北東隅部にピット 1 基を確認した。帰属等は不明である。底面における規模は、東西約 0.22 m・南北約 0.34 m、深さ約 0.2 m、レベル 29.05 m である。覆土は確認し得なかった。**覆土** 9 層を確認した。5 層は粘性の強いロームブロック層であり、天井部の崩落層とみられる。全体的にしまりない。6～9 層は SE-603 覆土である可能性も残り、帰属は判然としない。現地調査では、9 層は天井部の崩落層との所見がある。**遺物出土状況** 本遺構、及び、SE-603、SE-604 を含む覆土中から 21 片が出土する。

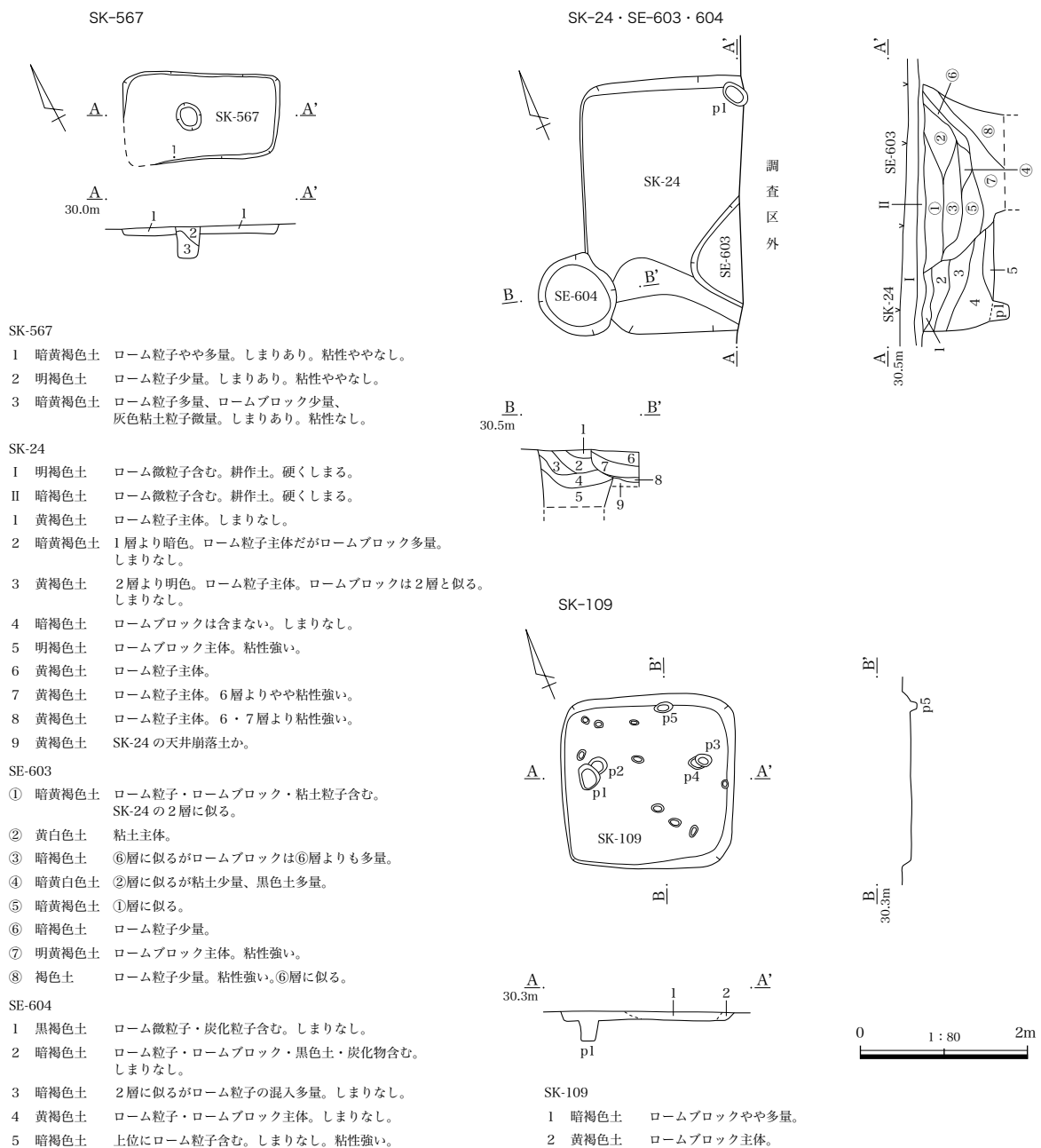
出土遺物 1～3 は内耳土器、4・5 は土師質土器、5 は砥石とみられる。4 の器種は判然としない。第 115 図-6 は銭貨「至道元宝」である。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土師質の土器は2片が出土す。うち1片は器壁が厚く、1片は微細片である。内耳土器は10片が出土する。ガラス質粒子を含む小片4片、含まない小片6片である。含まない小片のうち3片は同一個体とみられ、平底片1片を含む。1片は内耳、2片は体部小片である。瓦質土器は1片が出土する。器壁が厚く、外面は剝離する。火鉢等の可能性はあろうか。陶器は1片が出土する甕類か。施釉は観察されない。緑色片岩微細片1片は板碑片か。

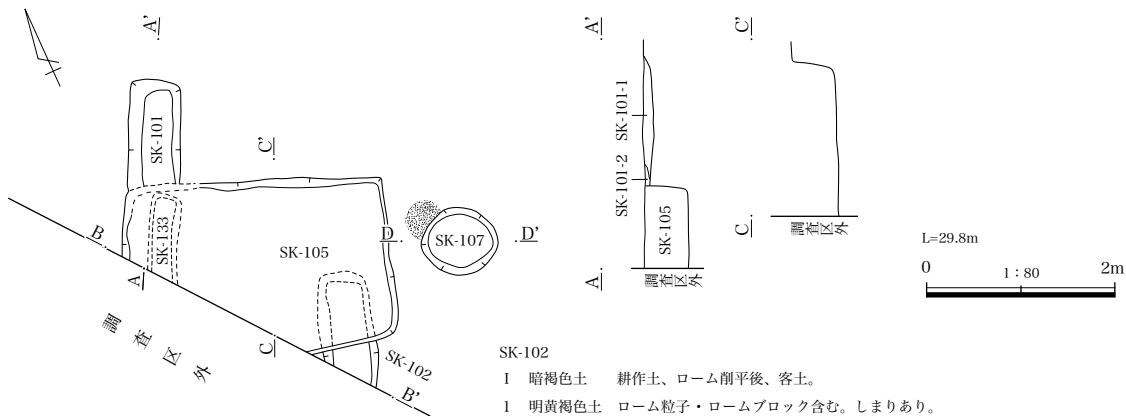
第105号方形竪穴遺構 (SK-105) (第21・22図 表8 図版四)

位置 I区U-22グリッドに位置する。**重複** 南東隅部に重複するSK-102より古い。西壁に重複するSK-101・133より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。西方から東方にやや窄む形状か。底面の規模は、東壁約1.55m・西壁約0.70m・南壁約0.85m・北壁約2.5m、主軸N-68°-Wである。



第20図 第24・109号方形竪穴遺構・第567号土坑・第603・604号井戸跡実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-102

- 1 暗褐色土 耕作土、ローム削平後、客土。
- 1 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりあり。
- 2 明黄褐色土 ロームブロックは1層より多量。しまりあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロックは1・2層より少量だが大粒。しまりあり。

SK-105

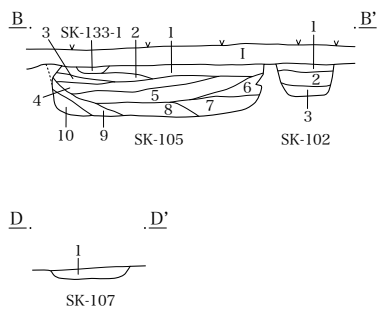
- 1 暗褐色土 耕作土、ローム削平後、客土。
- 1 黒褐色土 ローム微粒子含む。しまりあり。
- 2 黒色土 ロームブロックはほとんど含まない。しまりあり。
- 3 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 4 黒色土 ロームブロックは1層より少量。焼土粒子少量。しまりあり。
- 5 黒色土 4層より黒色。ローム粒子少量。しまりあり。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。ロームブロックは7層より少量。しまりあり。
- 7 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0cm 大) 多量。しまりあり。この覆土では最もロームブロックを含む。SK-102の1・2層と似る。
- 8 黒色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 9 黒褐色土 壁際にロームブロック偏る。しまりなし。
- 10 黒褐色土 ロームブロック少量。しまりあり。

SK-107

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子・炭化物ブロック多量。

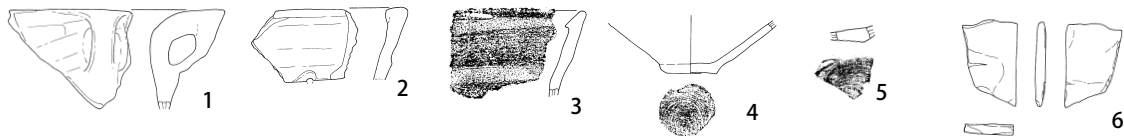
SK-133

- 1 暗褐色土 ローム微粒子含む。しまりあり。

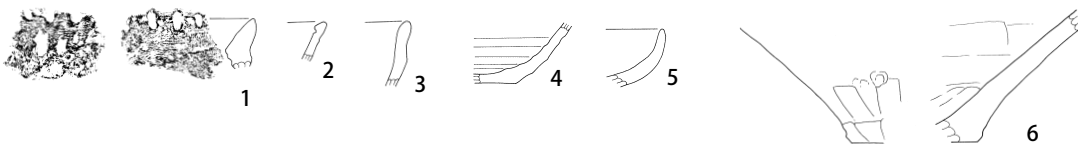


第21図 第105号方形竪穴遺構・第101・102・107・133号土坑実測図

SK-24



SK-105



第22図 第24・105号方形竪穴遺構出土遺物実測図

表7 第24号方形竪穴遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.3)	内 ヘラナデ 外 口縁部:ヨコナデ 内耳接合部下凹み、指頭痕あり	内 にぶい黄橙色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-24
2 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(3.8)	内 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ 外 口縁部:ヨコナデ 指頭痕あり 口縁部角形に整形	内 にぶい黄褐色 外 暗褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-24
3 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(4.5)	内 口縁下に突出部 口縁:ヨコナデ 突出部下:ヘラナデ 外 ヨコナデ 口縁部の器壁は薄いが角形に整形される	内外 暗赤褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-24
4 土師質土器 小皿か	口径:— 底径:2.7 器高:(2.8)	ロクロ成形 器壁薄い 底部:回転糸切り未調整 底部小さく、体部に向けて大きく開く 皿形ではない可能性あり	内外 にぶい黄橙色	土師質土器A類 良	底部	SK-24
5 土師質土器 皿形	口径:— 底径:— 器高:(1.0)	底部 回転糸切り未調整 皿形か小皿型か不詳	内 浅黄褐色 外 にぶい黄褐色	土師質土器A群 良	小片	SK-24
6 砥石	長:4.5 厚:0.6 幅:2.7 重:8.35	図 上:右面の一部、側面片側のみ残存 左面 剥離 右面 剥離面の一部研磨か	内 にぶい黄橙色 外 浅黄色	流紋岩か 良	小片	SK-24

表8 第105号方形竪穴遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
2 須恵器 鉢類か	口径:— 底径:— 器高:(2.0)	内面口端から外面 自然袖か	内 暗灰黄色 外 灰色	須恵器・土師器 B群・1-2-6 良	小片	OYAW2 SK-105
3 土師器 坏	口径:— 底径:— 器高:(3.4)	内 ヨコナデ 外 ヘラケズリ 口縁部:ヨコナデ スス付着	内 灰褐色 外 黒褐色	須恵器・土師器 C群・1-2-6 良	小片	OYAW2 SK-105
4 土師器 坏	口径:— 底径:— 器高:(3.2)	ロクロ成形 内外面 スス吸着 底部 回転糸切り後、ヘラナデか	内外 オリーブ黒	須恵器・土師器 C群・1-2-6・7 良	小片	OYAW2 SK-105
5 土師質土器 小皿	口径:— 底径:— 器高:(3.0)	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ	内外 にぶい黄褐色	土師質土器D群 良	小片	OYAW2 SK-105
6 常滑 大甕	口径:— 底径:— 器高:(6.8)	内 ヘラナデ(ヨコ) 外 ヘラナデか(底周タテカ)	内 にぶい赤褐色 外 暗赤褐色	陶器E群 良	小片	OYAW2 SK-105

底面 ローム層を掘り込む。北壁から南壁にかけては約7.0cmの傾斜がみられる。**付属施設** 確認されなかった。**覆土** 8層を確認した。東壁は壁面が丸みのあるオーバーハングとなる。平面図中では確認面崩落後を図示した。西壁中央部の「く」図状の段差もオーバーハングに起因するものか。**遺物出土状況** 覆土中から35点が出土する。

出土遺物 1は縄文土器片。先端の尖った工具で刺突を施す。阿玉台式前半か。2は須恵器小片。口縁部に自然釉がかかる。3は土師器坏か。4はロクロ成形の土師器か。5は非ロクロ成形の土師質土器小皿である。6は常滑窯産の大甕か。

この他、図示し得なかった出土遺物は須恵器1片、土師器23片、播鉢1片、粘土塊1片、鉄滓2片、小礫1片である。

須恵器は底部小片である。土師器は、坏口縁部片1片、口縁部2片を含む坏微細片9片、甕類2片、器種不明11片である。坏口縁部片は9～10世紀代か。播鉢は3条以上の摺り目を疎らに施す。鉄滓は表91に記載する。小礫はSK-94-8に似る小片である。

第109号方形竪穴遺構 (SK-109) (第20図 図版四)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 方形状である。底面の規模は、約0.9m四方、主軸N-22°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル29.91mである。**付属施設穴** p1～5の他、9基の小ピットを確認した。p1・2、p3・4は重複するが詳細は不明である。各々の遺構底面を基準とした規模は、p1は東西約0.25m・南北約0.3m・深さ約0.24m・底面レベル約29.67m、p2は径0.2m前後・深さ・レベル

第3章 確認された遺構と遺物

不詳、p 3は東西約0.2m・南北約0.16m・深さ約0.18m・レベル約29.83m、p 4は径0.14m前後・深さ・レベル不詳、p 5は東西約0.22m・南北約0.12m・深さ・レベル不詳である。これ以外の9基は、長軸0.15m前後・短軸0.1m前後、深さ・レベルは不詳である。**覆土** 2層を確認した。1層は暗褐色土、2層は黄褐色土であり、色調が明確に異なる。ピットの覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第567号方形竪穴遺構 (SK-567) (第20図 図版四)

位置 1区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南東-北西に長い長方形である。南東隅部を削平により失っている。底面の規模は、長軸約1.6m・短軸約0.94m、主軸はN-62°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さは約0.3m、レベルは29.6m前後である。底面中央部にピットが穿たれる。覆土の堆積状況を確認し得ず、詳細は不明である。径約0.23m、底面からの深さ約0.3m、底面のレベル約29.28mである。**覆土** 3層を確認した。1層は遺構覆土、2・3層はピット覆土である。1層を切るように2・3層が堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から銅銭を確認した。南西壁際の底面から1.0cm上位から出土する。

出土遺物 銅銭の詳細は不明である。

第707号方形竪穴遺構 (SK-707) (第17図 図版四)

位置 III-2区N-12グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-705→SK-95→SK-706→SK-707(方形竪穴遺構)の順に重複する。**形状・規模・主軸** 遺構の大部分は調査区外にあるとみられ、詳細は不明であるが、北東-南西に長い方形か。底面の規模は、東西(2.0)m・南北1.5m前後、主軸N-20°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.45m・レベル約30.25mである。**覆土** 1～6層を確認した。**付属施設** p 1を確認した。帰属等は不明である。径又は東西約0.18m・南北約0.13m、表土下からの深さ約0.62m・底面からの深さ約0.17m、レベル30.08mである。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

4 土坑

(1) 調査の概要

現地調査において確認された土坑は185基である。

I区からは37基が確認される。調査区西半部に集中する傾向にあり、西側に位置する1次調査区東端部に位置するSD-200・222との関連が留意される。

SK-14は底面中央付近にピットを穿つ。方形竪穴遺構の可能性も考えられる。

SK-15は覆土の堆積状況から木根の可能性も残るが形状等から本節で報告する。

II区からは40基が確認される。遺構の密集する南半部に集中する。南東に位置するIII-1区との関連が留意される。

III-1区からは69基が確認される。総じて調査区南東部に群在する。

SK-42以東SK-614～619の遺構の配置については不詳な点が多い。平面プラン、覆土の堆積状況から遺構番号を付したが、遺構数、重複関係等判然としない点が多い。

III-2区からは7基が確認される。北東に位置する3次調査B区との関連が留意される。

SK-85は地下式坑の可能性、SK-331は井戸跡の可能性が残る。

SK-78・79は中央土坑群の北西側に直交して位置する。また、SK-76は中央土坑群の北東部付近にあ

り、SK-79の延長線上にあたる。SK-76・78・79を結ぶラインは中央土坑群の北辺を囲う配置となるが、SK-79-76間には攪乱穴があり詳細は不詳である。

SK-76は、深さはSK-79同様0.2mほどであるが、遺構確認面の高さは約0.2m高いレベルにある。旧地表の高さに起因するか。

Ⅲ-3区からは32基が確認される。北東に位置する3次調査C区との関連が留意される。

調査区中央部付近にSK-711～733が重複する。重複する土坑群の北西隅部付近にSK-78・79、北東隅部付近にSK-76・94が位置する。これらの土坑群は、主軸によって2つに大別される。北西-南東に主軸を持つ、概ね東西に長い土坑、及び、北東-南西に主軸を持つ、概ね南北に長い土坑である。東西軸の土坑の磁北との傾きは、N-59～72°-Wがみられ、N-59～63°-Wに集中する傾向にある。南北軸の土坑の磁北との傾きは、N-24～35°-Eがみられ、N-24～29°-Eに集中する傾向にある。東西軸と南北軸の主軸は概ね直交する。SK-76・78・79・94は重複する土坑群の外周を方形に囲う位置にある。

形状は長形、長円形状、長方形、方形などがみられる、長形であるものが多い。大きさが明瞭である土坑は、東西軸の土坑では、長軸0.3～2.12m・短軸0.3～1.7mが確認される。長軸には大きさの傾向は見いだせない。短軸は0.5m前後に纏まる傾向にある。南北軸の土坑では、長軸0.3～1.7m、短軸0.18～0.6m前後が確認される。東西軸同様、長軸には大きさの傾向は見いだせないが、短軸は0.5～0.6mを中心に纏まる傾向にある。東西軸・南北軸を総じてみると、目立った傾向のみられないが、長軸に0.3m・0.5m前後・1.5m前後の3大別を考え得る。

底面レベルをみると、東西軸では31.4～30.4m、南北軸では30.7～30.22mが確認される。大きな傾向はみられないが、30.5m前後のレベルのものが多い。

また、p1～10が重複する。SK-711 p1のように遺構下位の覆土が堆積するピットもあるが、帰属等、詳細は不明である。

調査区を総じて、平面形が長方形で、主軸が同方向、或いは、直交する位置関係にあるものの近接、重複が目立つ。

平面形については、定形的な長方形のものが多い。Ⅱ区-SK-31・589・590などほぼ同様の形状・規模をもつものが少なくないが、長軸が広がる形状であるもの（北東から南西に広がる形状：Ⅰ区-SK-4・5・15、南西から北東に広がる形状：Ⅰ区-SK-6・7等）、短辺が方形・円形状で2辺の形状が異なるもの（Ⅰ区-SK-5・7等）などが散見される。

主軸については、北東-南西方向、及び、これに直交する方向に主軸を持つ土坑が主体となる。反対に、先述のⅡ区-SK-31・589・590など、平面形・規模をほぼ同じくするものの、主軸を異にする土坑もみられる。

位置関係については、①同様の形状・規模・主軸を持つ土坑の近接、②土坑の重複、③小土坑の重複、④掘り直し状に分割される覆土の堆積状況、など、遺構間の距離の有無に差異はあるものの、群在する傾向が看取される。重複、掘り直しについては、主軸や形状を異にする各遺構番号を付し、同様の形状・底面レベル・主軸を持つ土坑は遺構番号にアルファベット等の枝番を付した。

①については、Ⅰ区-SK-5周辺、Ⅰ区SK-3周辺、Ⅱ区SK-22・23・28(158)・601・602などにみられる。

Ⅱ区SK-22・23・601・602は、約3.0mの距離をもって南北に位置する。ただし、SK-158はやや深いこと、SK-23・158は底面のピットが穿たれることなど、異なる点については留意される。

②については、Ⅰ区SK-8・126～128、SK-5・6・125、SK-41・635～639、Ⅲ-3区-SK-94・711～714・716～733などにみられる。主軸や形状の似るものが群在する。

第3章 確認された遺構と遺物

Ⅱ区 SK-111・154～159 は底面レベル 29.8 m前後の土坑が重複する。同一遺構を含む可能性は残るが、主軸の異なる土坑については、各々に遺構番号を付した。

③についてはⅠ区 -SK- 3・123、SK- 4・124、SK-104 などにみられる。何れも、小土坑が深く、新しい。

④については、Ⅰ区 -SK-104 等に見られる。SK-104 は西壁沿いに位置する小ピットを含め、掘り直された可能性を考え得る。

Ⅰ区 -SK- 9-10 間の浅い掘り込みに同一遺構の可能性が残る。その際、SK- 8・126～128 に主軸が添うことから、掘り直し等の関連を考慮すべきか。

他遺構との位置関係をみると、溝状遺構や直線的な配置が考慮される位置関係のピットも、土坑同様の主軸のものが多い。

調査区内での位置をみると、Ⅰ区では調査区西端部、Ⅱ区では調査区南半部に集中する傾向が見て取れる。

この他、Ⅰ区 -SK-104 の底面に観察される焼土や、Ⅱ区 -SK-110・115 平面形の短辺に確認されるポケットの状の小土坑などが留意される。また、Ⅲ-Ⅰ区 -SK-73- 2層下に p 1 の覆土の堆積がみられるが、掘方埋土か。

出土遺物は、土師質土器、瓦質土器、陶磁器が主体となるが、縄文時代～近現代まで時間幅の大きい遺物が確認される。自然釉のかかる須恵器、ガラス製品小片・工業化製品の釘などである。また、鉄製品、鉄滓の出土が確認される。鉄製品は小片が多く、詳細は明らかではないものが多いが、SK-37 から銭貨「洪武通宝」が出土する。また、SK-41・42・46・47 からは鉄滓が出土する。挿図中、遺構確認面は任意の高さである。また、Ⅰ区北西部を中心に削平が著しく、遺構確認面は旧地形を反映するものではない。

(2) 土坑

第2号土坑 (SK- 2) (第13図 図版三)

位置 Ⅰ区 T-23 グリッドに位置する。 **重複関係** 西側に重複する SK-1 より古い。東側に重複する SK-122 より新しい。が、同一遺構である可能性が残る。 **形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西 0.7 m前後・南北 1.14 m前後である。主軸は N-25° -E である。 **底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約 0.25 m、底面レベル 29.16 m前後である。 **覆土** 1層を確認した。ローム粒子や灰色粘土ブロックを含む。人為堆積か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第3号土坑 (SK- 3) (第13図 図版三)

位置 Ⅰ区 T-23 グリッドに位置する。 **重複関係** 東壁付近に位置する SK-123 より古い。が、同一遺構である可能性が残る。 **形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西 0.6 m前後・南北 2.57 m前後である。主軸は N-28° -E である。 **底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約 0.12 m、レベル 29.29 m前後である。 **覆土** 1層を確認した。人為堆積か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第4号土坑 (SK- 4) (第23・44図 表9 図版四)

位置 Ⅰ区 U-23 グリッドに位置する。 **重複関係** 西隅部付近の小土坑、北東側の段差は別遺構である可能性が残るが明確にし得なかった。 **形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い長方形である。南西壁付近は攪乱により判然としない。西隅部に小土坑、北東部に段差を持つ。底面の規模は、北東側の段差を含めた長軸 4.6 m前後・段差を除く長軸 4.15 m前後、短軸 0.8 m前後で北東から南西にかけ狭まる形状にある。

西隅部の小土坑は、底面の長軸約 1.9 m、短軸は、SK- 4 同様に北東から南西にかけ狭まる形状にあり、0.5 ～ 0.65 m である。主軸は N-24° -E である。 **底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ 0.38 m 前後、レベル 28.95 m 前後である。北東部の段差部分の確認面からの深さは約 0.25 m、レベル 29.07 m 前後であり、10.0cm ほどの段差である。西隅部の小土坑の確認面からの深さは約 0.4 m、レベルは 28.83 m である。 **覆土** 北東部の段差部分の堆積土を除く 9 層を確認した。人為堆積か。西隅部の小土坑とは時期差が想定される。 **遺物出土状況** 覆土中から 7 点を確認した。

出土遺物 1 は黒浜式の縄文土器片である。内削ぎの口縁部から附加条縄文を施す。胎土はやや緻密で、白色粒子、ガラス質粒子、繊維を含む。焼成は良好で、色調（内・外）にぶい赤褐色・にぶい褐色である。

2 は小礫である。扁平な長円形でやや黄色がかった白色である。基石等の可能性はあろうか。SK-114- 3 と似る。

この他、図示し得なかった出土遺物は、1 と似る縄文土器小片、土師質土器皿あるいは小皿とみられる微細片、薄手の土師質土器小片、土師質土器微細片 2 片である。

第 5 号土坑 (SK- 5) (第 14・15 図)

位置 I 区 U-22 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-125 と重複し、同一遺構の可能性も残るが明確にし得なかった。 **形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い形状である。北東壁付近は丸みを持ち、南西から北東に向けて狭まる。北東部は底面より 8.0cm ほど高いテラス状であり、底面にむけて緩やかに傾斜する。南西部の底面は北東部底面とほぼ同レベルであるが段差の確認はない。遺構の長軸は約 4.9 m・北東の段差部を除いた長さは約 3.78 m、短軸は北東部 0.7 前後・南西部 0.8 m 前後である。N-23° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。北東部のテラス状の段差と南西部のレベルは同様の高さであり、皿状に近い。確認面からの底面までの深さ・レベルは、北東部の段差部分 0.26m 前後・29.07 m、遺構中央部 0.32 m・29.16 m、南西部 0.22 m 前後・29.09 m である。 **覆土** 1 層を確認した。北東部のテラス部分や南西部の堆積状況は確認し得なかったが、SK-104 同様に分割して覆土が堆積する可能性も考えられようか。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 6 号土坑 (SK- 6) (第 14・15 図)

位置 I 区 U-23 グリッドに位置する。 **重複関係** SK- 9・10・129 と重複する。新旧関係は明らかにし得なかった。 **形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い形状である。南西から北東方向へ広がるが、本来の形状を示すものか判然としない。底面の長軸約 4.34 m・短軸 0.8 m 前後である。主軸は N-25° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。南西部は SK-125 との重複により不明瞭な点が多いが、概ね平坦とみられる。確認面からの深さ約 0.18 m、レベル 29.20 m 前後である。 **覆土** 1 層を確認した。人為埋土か。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 7 号土坑 (SK- 7) (第 14・15 図)

位置 I 区 U-22 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い形状である。南西壁は方形に近く、北東部は丸みを持つ。南西から北東方向へ広がる。底面の長軸約 3.26 m・短軸南西部約 0.63 m：北東部約 0.74 m である。主軸は N-19° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦とみられる。確認面からの深さ 0.1 m 前後、レベル 29.26 m 前後である。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 8 号土坑 (SK- 8) (第 14・15・44 図 表 10)

位置 I 区 U-22 グリッドに位置する。 **重複関係** 北東側に SK-126、南西側に SK-127・128 が重複す

第3章 確認された遺構と遺物

る。同一遺構である可能性も残る。SK-126より8.0cmほど、SK-127より3.0cmほど低い。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い形状である。遺構中央部に緩い屈曲がみられる。底面の長軸約2.92m・短軸(遺構中央部)約0.67m・両端部0.77m前後である。主軸はN-19°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦とみられる。確認面からの深さ約0.24m、レベル29.09m前後である。**覆土** 3層を確認した。2層はロームブロックの堆積が目立つ。特に、南側のSK-127重複部から60.0cmほど北側にかけては地山と見紛うロームブロック主体層である。人為埋土か。**遺物出土状況** 覆土中から2点を確認した。1を図示する。また、重複するSK-126～128を含む覆土中から3片が出土する。2を図示する。

出土遺物 1は土師器甕類体部小片である。この他、内耳土器とみられる体部小片2片が出土する。胎土にガラス質粒子を含む。

2は土師器甕類口縁部小片である。口径25cm前後か。図示し得なかった1片は、土師器甕類口縁部微細片である。

第11号土坑(SK-11) (第16図)

位置 I区U-22グリッドに位置する。**重複関係** 北側にSK-132が重複する。新旧関係は不明である。SK-132底面とは、重複部付近で約40cmの段差を持つが、本遺構の底面は南から北へ傾斜しており、総じて同様のレベルとなるため、同一遺構である可能性も残る。**形状・規模・主軸** 概ね南北向に長い形状である。底面の長軸約2.3m・短軸約0.6mある。主軸はN-17°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。南から北へ5.0cmほどの傾斜が確認される。確認面からの深さ・レベルは、南側約0.1m・レベル29.26m、北側約0.14m・29.21mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第15号土坑(SK-15) (第13図 図版三)

位置 I区U-24グリッドに位置する。**重複関係** 東側に重複するSK-1との新旧関係は不明である。西側に重複するSK-17より古い。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。SK-1と重複する東壁の外側に膨らむ形状や、西から東に狭まる形状は本来の形状を示すものか判然しない。底面の規模は、東西約1.8m、南北の西壁付近約1.52m・東壁付近約1.3mである。主軸はN-21°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦であるが、西から東に向けた傾斜が確認される。確認面からの深さ・底面レベルは西壁付近で約0.16m・29.051m前後、西壁付近で約0.48m・29.0m前後である。**覆土** 9層を確認した。黒色土層とロームブロック層が北から南に向けて斜方向に堆積する。木根跡である可能性も考慮したが、方形状の平面形や平坦な底面などから土坑と判断した。東壁の膨らみは、SK-1と同様に豎坑の可能性を考慮し得るか。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第16号土坑(SK-16) (第13図 図版三)

位置 I区T-23グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西0.47m前後・南北3.76m前後である。主軸はN-28°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.1m、レベル29.36m前後である。**覆土** 図化し得なかったが、1層を確認した。人為堆積か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第18号土坑(SK-18) (第14図)

位置 I区U-23グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、東西約0.41m後・南北約0.34mである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.16m、レベル29.18m前後である。**覆土** 2層を確認した。2層はロームブロックや粘土ブロックを多量に含み、1層とは明確に分層される。確認面での1層は抜き穴状に確認され

る。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第20号土坑 (SK-20) (第23図 図版五)

位置 II区 R-18 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。SD-21 中央部付近の北壁に近接する。 **形状・規模・主軸** 概ね南北に長い。北側に、8.0cmほどの傾斜のあるテラス状の段差を持つが、遺構確認面の状況等から同一遺構と判断される。底面の規模は、長軸の総長約 2.02 m・テラス状の部分を除く長さ約 1.62 m、短軸 0.45 m 前後である。主軸は N-10° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。底面には凹凸が認められる。確認面からの深さは 0.25 m 前後、レベル 29.79 m 前後である。テラス状の部分の深さは、壁際約 0.06 ~ 0.14 m、レベル 30.0 ~ 29.92 m である。 **覆土** 5層を確認した。総じてロームブロックの混入が目立つ。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第22号土坑 (SK-22) (第23図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約 2.13 m・南北 0.6 m 前後m、主軸は N-82° -E であり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.1 m、レベル 29.97 m である。 **覆土** 1層を確認した。SK-23- 1層と似る。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第23号土坑 (SK-23) (第23・44図 表11 図版五)

位置 II区 Q-17 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約 1.75 m・南北 0.5 m 前後m、主軸は N-80° -E であり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.1 m、レベル 29.98 m である。底面中央部南壁寄りに小ピットが確認される。帰属等は不明であるが、本遺構覆土堆積以前の開口と判断される。 **覆土** 2層を確認した。SK-22- 1層と似る。 **遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 1は播鉢である。

第28号土坑 (SK-28) (第24・44図 表12)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-599 より新しい。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。SK-599 との重複により西側は不明瞭である。底面の規模は、土層断面の東西約 1.72 m、南北 0.45 ~ 0.7 m、主軸は N-84° -E であり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.13 m、レベル 29.97 m である。 **覆土** 2層を確認した。2層は黒色土であり、西側の底面に直上に薄く堆積する。 **遺物出土状況** SK-28・599・600 を含む覆土中から13点が出土する。

出土遺物 1~4は同一個体の片口か。推定される高さは約 20.0cm。5は土釜、6・7は内耳土器である。図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

6と同一とみられる小片1片、7と同一とみられる小片1片、器面赤褐色の内耳土器4片、土師質の土器微細片3片である。器面赤褐色の内耳土器のうち、1片は内耳、3片は体部小片であり外面にスズ状の付着物が観察される。

第29号土坑 (SK-29) (第23図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 概ね南北に長い不整形である。底面の規模は、東西 0.4 m 前後・南北約 1.97 m、主軸は N-23° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む、凹凸が認められる。確認面からの深さ約 0.08 m、レベル 29.9 m である。 **覆土** 確認し得なかった。 **付属施設** p 1・2が確認される。帰属等、詳細は不明である。p 1は北壁に穿たれる。東西約 0.16 m・南北約 0.28 m、遺構確認面からの深さ約 0.2 m、底面レベル 29.9 m である。p 2は底面

中央南寄りに穿たれる。径0.11 m前後である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第31号土坑 (SK-31) (第23図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。東壁は調査区外に延びる。 **重複関係** 重複する遺構はない。
形状・規模・主軸 東西に長い長円形状である。底面の規模は、土層断面の東西(0.66) m・南北約0.47 m、主軸はN-51°-Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.13 m、レベル29.94 mである。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 覆土中からスレート1片が出土する。

第32号土坑 (SK-32) (第23図)

位置 II区 P-17 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。 **重複関係** 重複する遺構はない。
形状・規模・主軸 詳細は不詳であるが、概ね東西に長い方形形状と推察される。遺構確認面下0.15 m付近で狭くなるが、特に、南壁は抉れるように屈曲する。底面の規模は、長軸(0.45) m・短軸約0.52 mである。主軸はN-67°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さは0.42 m前後、レベル29.69 m前後である。 **覆土** 5層を確認した。総じてロームブロックの混入が目立つ。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第33号土坑 (SK-33) (第52図 図版五)

位置 III-1区 P-15 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形である。底面の規模は、東西約0.47 m・南北約1.17 mである。主軸はN-23°-Eである。
底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.15 m、レベル29.76 mである。 **覆土** 1層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第35号土坑 (SK-35) (第44・52図 表13 図版五)

位置 III-1区 P-15 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形である。底面の規模は、東西約0.45 m・南北約1.42 mである。主軸はN-10°-Eである。
底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.18 m、レベル29.71 mである。 **覆土** 2層を確認した。 **遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。

出土遺物 1は播鉢底部片である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器口縁部1片・体部1片である。いずれも胎土は瓦質土器D群(多)である。

第37号土坑 (SK-37) (第25・44図 表14・89)

位置 III-1区 O-14 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-647 → SK-648 → SK-646 → SK-37 の順に重複する。P-44 と近接するが、帰属や新旧関係等不詳である。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約2.0 m・南北約1.4 mである。主軸はN-22°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.52 m、レベル29.44 mである。 **覆土** 18～20層を確認した。 **付属施設** 中央部付近にp1が確認される。帰属等は不詳である。径約0.2 m・深さ約0.7 m・レベル29.31 mである。 **遺物出土状況** 覆土中から18点が出土する。

出土遺物 1は砥石片である。第115図-3は銭貨「洪武通宝」である。

図示し得なかった出土遺物は、土師器とみられる小片3片、土師質土器2片、内耳土器体部6片、瓦質土器微細片1片、播鉢1片、小礫3点である。

土師質土器はロクロ成形の小皿口縁部1片・体部1片である。内耳土器の胎土は5片は瓦質土器C群、1片はD群である。播鉢は4条以上一単位の摺り目のみが見える小片である。小礫のうち1片⑤は凝灰質シル

ト岩片で、部分的にススが付着する。1片④は石器石材、1片は破砕小片である。

第38号土坑 (SK-38) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-738・739→SK-38の順に重複する。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。底面の規模は、東西約1.03m・南北約1.26mである。主軸はN-27°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.34m、レベル29.8mである。

覆土 1～6層を確認した。4・5層は遺構東・西側で層序が逆転する。4層は特徴の似た2層分の堆積である可能性が残る。**付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は東西約0.16m・南北約0.14m、SK-38底面からの深さ約0.09m、底面レベル29.71mである。p2は径0.08m前後である。**遺物出土状況** 覆土中から10片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部片1片、内耳土器体部7片(胎土C5片・D2片)・底部1片、土師質土器微細片1片である。

第39号土坑 (SK-39) (第52図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-626→SK-627→SD-72→SK-39の順に重複する。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.47m・南北約0.86mである。主軸はN-19°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.33m、レベル29.56mである。**覆土** 1～3層を確認した。上層に炭化物の堆積が観察される。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部片1片、内耳土器口縁部片1片である。内耳土器の胎土は瓦質土器C群である。

第40号土坑 (SK-40) (第24図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い隅丸形状である。底面の規模は、東西約0.83m・南北約0.19mである。主軸はN-26°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.18m、レベル29.82mである。**覆土** 2層を確認した。ロームブロックが目立つ。**遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部1片・体部1片、内耳土器体部1片である。内耳土器は、外面にオコゲ状の付着物が残る。胎土は瓦質土器C群である。

第41号土坑 (SK-41) (第26・44・116図 表15・91・94 図版五)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。**形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸形状である。底面の規模は、東西約0.27m・南北約0.75mである。主軸はN-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.41m、レベル29.52mである。**覆土** 12～14層を確認した。

遺物出土状況 SK-41・638・639を含む覆土中から77点が出土する。また、スレート片の出土も確認される。

出土遺物 1は須恵器甕体部小片である。埋没時に混入か。2～7は土師質土器小皿である。2は灯明皿か。2・7は器壁が薄手、3～6は器壁が厚手である。底径は小さい。8～13は内耳土器である。9は口縁部に段を持つ。8は深鍋。10・11の底部は丸みを帯びるか。12・13は平底である。14は播鉢である。15は石鏝未製品か。白斑が混入する黒曜石製である。高原山産とみられる。長さ2.7cm・幅1.8cm・厚さ0.7cm・重さ2.8g。16は大きさや形状から石鏝未製品か。斑や石目から作成を断念か。長さ2.5cm・幅1.8cm・厚

第3章 確認された遺構と遺物

さ 1.3cm・重さ 4.6 g。17 は平坦な小礫。基石の可能性はあるか。第 116 図 -1 は磁器半筒碗である。

この他、図示し得なかった出土遺物は須恵器甕体部 2 片、須恵器塀類体部 1 片、土師器甕とみられる口縁部微細片 1 片、土師質土器小皿 10 片、土師質の土器 7 片、内耳土器 24 片、播鉢 1 片、陶磁器 5 片、石材 1 片、陶磁器 6 片、鉄滓 2 点である。

土師質土器小皿のうち 1 片は口縁部片、6 片は器壁が厚手、1 片は薄手、2 片は微細片である。厚手の小片は口縁部 1 片・底部 4 片・体部 1 片である。体部片には金属器による切削痕状の痕跡が観察される。砥石等への転用か。

内耳土器のうち、胎土にガラス質粒子を含まない小片は 11 片が出土する。うち 1 片は 8 同様に口縁部下に段差を持つか。1 片は 9 の同一個体か。ガラス質粒子を含む破片は 13 片が出土する。7 片は多量に、4 片は少量含む。これ以外の 2 片は同一個体か。

播鉢は、5 本以上一単位の磨り目を疎らに施す体部小片である。

陶磁器は、灰釉に似たオリーブ色の釉を薄く施す陶器 2 片、鉄釉を施す陶器 2 片、染付を施す磁器 2 片が出土する。オリーブ釉の 2 片はロクロ成形の瓶類頸部片・体部片。体部片はヨコ方向の沈線が一条残る。鉄釉の 2 片は微細片。1 片は小型で浅い皿状か。体部微細片は緑色を帯びる黒褐色である。染付は内面幾何学文・外面無文の口縁部小片、体部は外面幾何学文・内面無釉の体部微細片である。

鉄滓は表 91 に記載する。

第 42 号土坑 (SK-42) (第 28・29・30・31・45 図 表 16・90 図版五・一四)

位置 III - 1 区 O・N-16・17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-613 と接するが新旧関係は不明である。遺物の出土状況を見ると、内耳土器 4 は本遺構下層出土の破片と SK-613 上層出土の破片が接合する。本遺構が新しい可能性を考え得る。**形状・規模・主軸** 円形状であり、テラス状の中段部を持つ。径約 1.8 m である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは約 0.35 m・29.79、中段部までの深さは 0.2 m 前後・29.9 ~ 29.99 m である。**覆土** 15 ~ 21 層を確認した。18 ~ 20 層はローム主体の黄褐色土層である。21 層は遺物の出土が密であり、詳細な観察をし得なかったが、18 ~ 20 層、特に、19 層に似る。18 ~ 21 層の堆積を掘り直して 13・14 層が堆積したか。**付属施設** 底面に p 19 ~ 33 が確認される。帰属等詳細は不明である。SK-614 p 34・39 同様、堆積土を掘り込む可能性も考えられる。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりであるが、深さを確認し得たピットは p 25 のみである。p 19: 約 0.1 m、p 20: 0.16 m 前後、p 21: 0.18 m 前後、p 22: 0.1 m 前後、p 23: 0.14 m 前後、p 24: 約 0.08 m、p 25: 約 0.2 m・約 0.47 m・29.63 m、p 26: 0.18 m 前後、p 27: 約 0.07 m、p 28: 0.15 m 前後、p 29: 約 0.07 m、p 30: 0.11 m 前後、p 31: 0.12 m 前後、p 32: 約 0.1 m、p 33: 約 0.09 m である。**遺物出土状況** 覆土中から 13 点が出土する。1・10・11 は確認面付近、6・9・2 は覆土上層、6・7・1 はテラス部分の覆土下層、3 は遺構中位、4・5 は遺構下位から出土する。19 層付近からは内耳土器がまとまって出土する。

出土遺物 1 は須恵器甕体部破片。確認面付近出土の 1 片とテラス部分出土の 1 片が接合する。2 ~ 5 は内耳土器である。3 は内耳が確認される。5 は深鍋の内耳土器である。本遺構下層出土の口縁部・内耳を含む土器上半 4 片・18 層出土破片と SK-613 上面から出土する体中位の SK-613-19・体下半の 12 の 2 片が接合する。本遺構出土破片が下位からの出土であるため、本遺構で報告する。本遺構出土の 4 片内耳は約 8.0 cm 間隔の 2 個体がセット関係となるか。4 は内耳土器の平底片である。6 は古瀬戸か。この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

7～11は内耳土器小片である。7・8は同一個体とみられる体部小片、胎土は瓦質土器D群。9からは体部小片2片、胎土は瓦質土器D群少量。10は口縁部小片、胎土は瓦質土器D群。11は器壁の厚い体部小片、胎土は瓦質土器C群。鉄滓1片は表91に記載する。

第43号土坑 (SK-43) (第28・29・30・31・45図 表17・89 図版五)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-619より新しい。SK-54とは不明であるが、本遺構が新しいか。**形状・規模・主軸** 東西に長い円形状である。底面の規模は、東西[1.8]m・南北(1.0)mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.28m前後、レベル29.88mである。

覆土 38～44層を確認した。**付属施設** 底面にp64～67を確認した。帰属等不詳である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりである。p64:0.1m前後、p65:0.16m前後、p66:0.2m前後・約0.52m・29.63m、p67:0.12m前後である。**遺物出土状況** 覆土中か18片が出土する。

出土遺物 1は土師質土器小皿口縁部片。2は播鉢。

この他、図示し得なかった出土遺物は内耳土器6片、土師質の体部微細片2片、小礫2片、陶磁器5片、鉄製品1片である。

内耳土器は3片は口縁部、2片は体部、1片は底部であり、胎土は瓦質土器D群である。礫微細片は砥石微細片か。チャート塊⑨は石器石材か。

陶器は4片が出土する。天目碗とみられる体部片1片、灰釉の口縁部微細片・体部微細片、淡褐色釉のロクロ成形の体部微細片である。磁器は1片が出土する。西洋呉須の染付で、内面口縁部6本の条線・外面植物文を施す。近代以降か。

鉄製品は刀子状の小片が出土する。表89に記載する。

第44号土坑 (SK-44) (第45・52図 表18 図版五)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** SD-633と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い不整形である。覆土の堆積状況から3時期が想定される。重複であるか、掘り直しであるか等判断としない。便宜的にA・B・Cを付す。底面の規模は、東西の総長約0.72m、南北の総長約1.25m・A[0.5]mである。主軸N-3°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。3時期ともほぼ同レベルである。遺構確認面からの深さは約0.3m、レベル29.56mである。**覆土** A覆土:17・18層、B覆土:19～21層、C覆土:22・23層を確認した。**付属施設** 北側にピット状の掘り込みが確認される。帰属等、詳細は不明である。径約0.44m・遺構確認面からの深さ約0.32m・レベル29.53mである。**遺物出土状況** 覆土中から8片が出土する。

出土遺物 1は常滑産甕口縁部。14世紀代(常滑8型式)か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土師質土器小皿1片。ロクロ成形とみられる。磨滅が著しい。内耳土器6片。口縁部2片・体部1片は胎土C群、胎土1片・底部片は胎土D群である。

第45号土坑 (SK-45) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 調査区外に延びるため詳細は不明であるが、東西に長い方形か。底面の規模は、東西(0.22)m・南北約0.89m、主軸N-67°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下の深さは約0.26m、レベル29.82mである。**覆土** 1層を確認した。埋め戻し土か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第46号土坑 (SK-46) (第26・45・116図 表19・91・94 図版五)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸形状である。底面の規模は、東西約0.46m・南北約0.74mである。主軸はN-72°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.2m、レベル29.81mである。**覆土** 2層を確認した。炭化物を含む。**付属施設** 南北壁際中央部にp1・2が確認される。帰属等、詳細は不明であるが、対にみえる位置に穿たれることなどから、本遺構に伴う可能性が高いか。p1は東西約0.25m・南北約0.34m、遺構確認面からの深さ約0.53m・底面からの深さ約0.31m、レベル29.5mである。p2は東西約0.22m・南北約0.25m、遺構確認面からの深さ約0.4m・底面からの深さ約0.18m、レベル29.63mである。**遺物出土状況** 覆土中から11点が出土する。

出土遺物 1は土師質土器小皿か。2は石鏃未製品か。第116図-2・3は古瀬戸か。器種は判然としない。口縁端部～内面口縁部にのみ灰釉を施す。小片のため、体部の立ち上がりは不明確である。2・3は同一個体とみられる。4はピット内から出土するが、p1・2の何れであるか不明である。

この他、図示し得なかった土出土遺物は土師質土器3片、内耳祖器2片、土師質の土器微細片1片、鉄滓1片である。

土師質土器はいずれもロクロ成形の口縁部片内耳土器は体部片で胎土C群である。鉄滓は表91に記載する。

第47号土坑 (SK-47) (第24・45図 表20・91 図版五)

位置 Ⅲ-1区O-14グリッドに位置する。**重複関係** SK-47→SK-649・SK-651→SK-650の順に重複する。SK-47:SK-650・SK-649:SK-650の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い形状である。方形の掘り込みの周囲三方(北・東・西壁)はテラス状に掘り込まれる。張り出し部を含む規模は、東西約2.4m・南北約1.8mである。方形の掘り込み部の規模は、底面の東西約1.9m・南北約1.46mである。主軸はN-60°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面から張り出し部の深さは、約0.1m、レベル29.9mである。方形の掘り込み部の深さは約0.4m・レベル約29.6mである。**覆土** 2～4層を確認した。3層は遺構確認面付近から遺構中位に堆積する。張り出し部・方形の掘り込み部は同時に廃絶か。p3上部に4層の堆積が観察される。**付属施設** p1～5が確認される。帰属等、詳細は不明である。p3は上部に4層が堆積する。本遺構に伴う可能性が高いか。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりである。p1:東西約0.3m南北約0.14m・約0.85m・29.15m、p2:約0.15m・約0.18m・29.82m、p3:約0.2m・約0.67m・29.33m、p4:約0.14m、p5:約0.1mである。**遺物出土状況** 覆土中から14点が出土する。

出土遺物 1は土師質土器小皿口縁部小片。小片からの推定であるが、体部が大きく開く器形か。2は内耳土器口縁部小片。小片からの推定ではあるが、体部は直立気味に立ち上がるか。

この他、図示し得なかった土器片は土師質土器小皿1片、内耳土器6片、陶器1片、鉄製品3片、鉄滓1片である。

土師質土器微細片1片はロクロ成形の小皿か。内耳土器体部6片の胎土は、6片は瓦質土器C群、3片はD群多量である。胎土C群の1片は内面にスガが付着する。

陶器は灰の内外面に灰釉が薄く施される。器面には光沢が強い。近世後半以降か。

鉄製品は釘状の小片が出土する。表89に記載する。鉄滓は1片が出土する。表91に記載する。

第48号土坑 (SK-48) (第24・45図 表21)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南

北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.8 m・南北約2.0 mである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が認められる。遺構確認面からの深さは0.2 m前後、レベル29.98 m前後である。**覆土** 2層を確認した。**付属施設** 底面にp 1～4を確認した。判然としないが、2層が堆積するとみられ、本遺構に伴うか、本遺構以前とみられる。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりである。p 1 : 0.4 m 前後、p 2 : 約0.15 m・約0.4 m・29.74 m、p 3 : 0.3 m 前後・約0.16 m・29.88 m、p 4 : 0.2 m 前後・約0.29 m・29.84 m、p 5 : 0.1 m 前後である。**遺物出土状況** 覆土中から4点が出土する。

出土遺物 1は縄文土器体部小片。色調は明黄褐色・明赤褐色、胎土の白色粒子を含む。前期か。2は土師質土器小皿口縁部片。ロクロ成形を施す。

この他、図示し得なかった土器片は以下のとおりである。

ロクロ成形の土師質土器小皿小片1片、内耳土器体部とみられる微細片1片である。内耳土器小片の胎土は瓦質土器C群である。

第49号土坑 (SK-49) (第26図)

位置 III - 1区 O-17 グリッドに位置する。北側は調査区配に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 南北に長い長円形状である。覆土の堆積状況から、3時期の掘り直しが観察される。3遺構の重複の可能性も否めないが、形状を一つにすることから、掘り直しとして報告する。便宜上、古い堆積土からA→B→Cを付す。底面の規模は、全長東西約0.22 m・南北約2.17 mである。Cは南北約1.3 mである。主軸はN-22° -Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約A・B約0.2 m・C約0.16 m、レベルはA・B29.7 m、C29.72 mである。**覆土** 3層を確認した。1層はC、2層はB、3層はCの堆積層である。何れもロームを主体とする黄褐色土である。**付属施設** C底面にp 1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。周辺に位置するP-233～237に類するピットの可能性も考えられる。p 1は径0.2 m前後・深さ約0.31 m・レベル29.56 m、p 2は径0.18 m前後・深さ約0.3 m・レベル29.57 mである。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、2点は内耳土器体部小片である。胎土は、1片は瓦質土器C群、1片はD群である。1点は流紋岩小片。残存面・破砕面はタール状の付着物が観察される。砥石片か。

第50号土坑 (SK-50) (第24図)

位置 III - 1区 N-15 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 東西に長い形状であり、西側はテラス状の段差となる。規模は、東西の総長約0.28 m、東側の部分の底面約0.97 m・南北0.5 m前後、テラス部分の底面約0.18 m・南北約0.28 mである。主軸はN-68° -Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.38 m・レベル29.82 m、テラス部分の深さ約0.24 m・レベル29.95 mである。**覆土** 2層を確認した。粒形の大きいロームブロックを含む。埋め戻し土か。**付属施設** 底面にp 1を確認した。帰属等は不詳である。径約0.19 m・深さ約0.52 m・レベル29.68 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第51号土坑 (SK-51) (第25・45図 表89)

位置 III - 1区 P-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-643・644・645→SK-51の順に重複する。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西0.56 m前後、南北(1.42) mである。主軸はN-35° -Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.37～0.52 m・レベル29.64～29.42 mであり、p 1以南は浅い。**覆土** 1～7層を確認した。1・2層はp 1以北、3～7層はp 1以南に確認される。**付属施設** 底面にp 1・2を確認した。帰属等

第3章 確認された遺構と遺物

は不詳である。p 1 は径 0.24 m 前後・遺構確認面からの深さ約 0.57 m・レベル 29.35 m、p 2 は径約 0.12 m・遺構確認面からの深さ約 0.47 m・レベル 29.45 m である。 **遺物出土状況** 覆土中から 11 点が出土する。

出土遺物 1 は須恵器小片。甕類か。2 は土師器甕底部片か。

この他、図示し得なかった土器片は以下のとおりである。

内耳土器口縁部小片 1 片、内耳片 1 片、体部片 4 片、底部片 1 片、砥石片 1 片、鉄製品 1 片である。内耳土器 7 片のうち、体部 1 片・底部 1 片は胎土 D 群、残る 5 片は胎土 C 群である。砥石片は粘板岩製で、現状で長さ約 26cm・幅 2.5cm・厚さ 0.5cm・重さ 4.03 g、側面とみられる砥面の一部のみが残る。鉄製品は釘状の小片が出土する。表 89 に記載する。

第 52 号土坑 (SK-52) (第 52 図 図版五)

位置 III - 1 区 P-15 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 不整形である。底面の規模は、東西 0.1 m 前後・南北約 0.92 m である。主軸は N-30° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.34 m、レベル 29.58 m である。 **覆土** 3 層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 53 号土坑 (SK-53) (第 24 図)

位置 III - 1 区 O-17 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南北に長い瓢箪形である。底面の規模は、南側の東西約 0.5 m・北側の東西約 0.24 m、南北約 1.0 m である。主軸は N-26° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.24 m、レベル 29.76 m である。 **覆土** 2 層を確認した。 **付属施設** p 1～3 が確認される。帰属等詳細は不明である。西側に位置する P-611 に類するピットの可能性も考えられる。p 1 は径 0.1 m 前後、p 2 は径 0.15 m 前後・底面からの深さ約 0.16 m・遺構確認面からの深さ約 0.3 m・レベル 29.57 m、p 3 は径 0.15 m 前後である。 **遺物出土状況** 覆土中から 1 片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器体部片とみられる。外面にオコゲ状の付着物が残る。胎土は瓦質土器 C 群である。

第 54 号土坑 (SK-54) (第 28・29・30・31・45 図 表 23 図版一四)

位置 III - 1 区 O・N-16・17 グリッドに位置する。北側は調査区に延びる。 **重複関係** SK-43 より古いか。SK-617・618 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。北側は 0.18 m 前後高くなる。規模は、東西 0.7 m 前後、南北の総長 (1.9) m である。北側の部分の東西約 0.5 m である。主軸は N-25° -E である。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは 0.28 m 前後、レベル 29.86 m である。北側部分の遺構確認面からの深さ約 0.11 m・レベル 30.03 m である。 **覆土** 45～47 層を確認した。47 層は埋め戻し土か。 **付属施設** 底面に p 68～76 を確認した。何れも南側の部分に確認される。帰属等不詳であるが、p 75 は本遺構覆土を掘り込む。p 69・70 は重複するが詳細は不明である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりである。p 68:0.15m 前後、p 69:0.16 m 前後・0.4 m・29.75 m、p 70:0.24 m 前後、p 71:0.13 m 前後、p 72:0.08 m 前後、p 73:約 0.14 m・約 0.27 m・29.88 m、p 74:0.15 m 前後、p 75:約 0.03 m、p 76:約 0.08 m である。 **遺物出土状況** 覆土中から 3 点が出土する。

出土遺物 1 は陶器卸し皿、古瀬戸か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器体部小片とみられる。胎土は、1 片は瓦質土器 C 群、1 片は D 群である。

第55号土坑 (SK-55) (第24図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。西側は調査区に延びる。 **重複関係** 重複する遺構はない。
形状・規模・主軸 東西に長い方形状か。底面の規模は、東西(1.06)m・南北約0.54mである。主軸はN-68°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.42m、レベル29.843mである。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。また、スレート片の出土も確認される。

出土遺物 図示し得なかったが、土師質の体部小片である。胎土に雲母粒子は含まない。

第56号土坑 (SK-56) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。 **重複関係** SK-640より新しい。 **形状・規模・主軸** 東西に長い方形状である。西側の掘り込みは掘りすぎの部分があるか。底面の規模は、東西約1.52m・南北約0.57mである。主軸はN-78°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.62m、レベル29.46mである。 **覆土** 5層を確認した。埋め戻し土か。 **遺物出土状況** 覆土中から7片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、土師質土器小皿小片1片、内耳土器片5片、播鉢片1片である。土師質土器小皿はロクロ成形である。内耳土器は、胎土瓦質土器C群が体部片1片・底部片1片、D群は体部片3片である。播鉢は摺り目を疎らに施すが詳細は不明である。

第58号土坑 (SK-58) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 北側を攪乱により失う。南北に長い形状か。底面の規模は、東西0.6m前後・南北(1.32)mである。主軸はN-20°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.46m、レベル29.54mである。 **覆土** 3層を確認した。埋め戻し土か。 **付属施設** 底面にp1が確認される。径0.1m前後・深さ約0.59m・レベル29.41mである。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第60号土坑 (SK-60) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-17グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。 **重複関係** 重複する遺構はない。
形状・規模・主軸 不整形である。西側はテラス状に張り出すが、帰属等は判然としない。底面の規模は、東西約0.7m、テラス部分約0.25m、南北(0.62)m・テラス部分0.25m、主軸はN-20°-Eである。
底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.38m、レベル29.66m、テラス部分は約0.3m、29.73mである。 **覆土** 3層を確認した。何れも黄褐色土である。 **付属施設** p1が確認される。帰属等詳細は不明である。径0.2m前後、深さ約0.16m・底面からの深さ約0.16m・遺構確認面からの深さ約0.5m・レベル29.5mである。 **遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器口縁部片である。外面にオコゲ状の付着物が残る。胎土は瓦質土器C群である。

第61号土坑 (SK-61) (第32図 図版六)

位置 Ⅲ-1区N-16グリッドに位置する。 **重複関係** 覆土の堆積状況からはSK-620→SK-61→SK-621・SK-622→SK-623とみられる。 **形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は、東西約2.26m、南北0.72～0.86mである。覆土の堆積状況からは遺構確認面の規模はこれよりも大きいか。主軸はN-65°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.28m前後、レベル29.85mである。

覆土 4～7層を確認した。7層はロームブロック主体に黄褐色土であり、別遺構の可能性も残る。 **遺**

物出土状況 覆土中から2点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器体部1片・底部1片である。体部は外面にオコゲ状の付着物、底部は外面底周部が被熱により赤色変化する。胎土はともに瓦質土器C群である。

第63号土坑 (SK-63) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 不整な円形状である。底面の規模は、東西約0.9m、南北約0.8mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.07m、レベル29.96mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第65号土坑 (SK-65) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。西側はテラス状の段差となる。規模は、東西の総長約0.85m、東西約0.85m・テラス部分の東西0.14m前後、南北の底面約2.42mである。主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.3m前後、レベル29.74m、テラス部分の深さ約0.12m・レベル29.9mである。

覆土 3層を確認した。埋め戻し土か。**付属施設** 底面にp1～5が確認される。p5はテラス状の部分に位置する。帰属等は不詳である。北側に近接するP-624との関連、また、これらを総じた関連も考え得る。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりである。p1：約0.06m、p2：0.06m、p3：0.08m前後・0.14m・29.9m、p4：0.15m前後、p5：約0.08mである。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、播鉢小片である。5条以上一単位の摺り目の部分が残る。

第66号土坑 (SK-66) (第27図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** P-634より古い。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、東西約0.44m、南北約0.36mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.34m、レベル29.65mである。**覆土** 5層を確認した。総じて、ロームを含む黄褐色土である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第67号土坑 (SK-67) (第32図)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。覆土の堆積状況から2時期と想定されるが、重複であるか、掘り直しであるか判然としない。便宜的にA・Bを付す。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状である。底面の規模は、東西の総長約0.5m、南北の総長約1.0m・A約0.6m・B約0.4mである。主軸はN-38°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。A・Bともほぼ同レベルである。確認面からの深さは約0.1m、レベル29.87mである。**覆土** A：1層、B：2層を確認した。総じて、ロームを主体とする。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第68号土坑 (SK-68) (第32図)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** やや東西長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.74m・南北約0.64mである。主軸はN-78°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.13m、レベル29.84mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第69号土坑 (SK-69) (第45・52図 表24)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** SD-72と重複するが、新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.6 m・南北約0.79 mである。主軸はN-10°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.16 m、レベル29.56 mである。

覆土 15・16層を確認した。 **遺物出土状況** 覆土中から19点が出土する。

出土遺物 1は大形であるが土師質土器小皿か。2は内耳土器。

図示し得なかった出土遺物は、土師質土器小皿2片、内耳土器14片、陶器甕1片である。

土師質土器はロクロ成形の口縁部片である。内耳土器は、胎土C群が口縁部2片・体部7片・底周部2片、胎土D群が体部微細片3片である。体部の1片は外面にオコゲ状の付着物、底部の1片は外面底周部が被熱により赤色変化する。陶器甕は底部片である。常滑産か。

第70号土坑 (SK-70) (第32図)

位置 III-1区O-16グリッドに位置する。 **重複関係** SK-612より古い。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形である。底面の規模は、東西約0.59 m・南北約0.37 m、主軸はN-41°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.63 m、レベル29.47 mである。 **覆土** 3層を確認した。図中、破線部以下の堆積は確認し得なかった。 **遺物出土状況** 覆土中から4点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器体部片4片が出土する。外面にスズ状・オコゲ状の付着物が顕著に観察される。同一個体とみられる。

第71号土坑 (SK-71) (第32・45図 表25)

位置 III-1区O-15グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 東西に長い円形状である。北側の掘り込みは掘りすぎの部分もあるうか。底面の規模は、東西約0.98 m・南北約0.58 m、主軸はN-70°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.23 m、レベル29.7 mである。 **覆土** 1～5層を確認した。1・2層-3～5層の上下2層に大別できようか。 **遺物出土状況** 覆土中から12片が出土する。

出土遺物 1は古瀬戸碗類か。

この他、図示し得なかったが、土師質の土器片1片、内耳土器9片、陶器1片が出土する。

土師質の土器片は体部片1片が出土する。内耳土器は口縁部小片1片・体部小片8片である。口縁部片はSK-75-1に似る。口縁部1片・体部3片の胎土は瓦質土器C群、体部5片は胎土D群である。陶器は器厚の薄い甕類の体部小片で飴色の釉がかかる。

第73号土坑 (SK-73) (第27・45図 表26)

位置 III-1区O-16グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南西隅部を攪乱により失う。方形状か。底面の規模は、東西1.85 m前後・南北約0.87 mである。主軸はN-30°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは0.14～0.24 m前後、レベル29.86～29.76 mである。 **覆土** 4層を確認した。2層下にp1が堆積する。3・4層は掘り方埋土か。

付属施設 底面にp1～4が確認される。p1は2層下に堆積する。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりである。p1：東西約0.29 m・南北約0.17 m・約0.44 m・29.56 m、p2：0.08 m前後、p3：0.12 m・0.32 m・29.68 m、p4：0.1 mである。 **遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 1は土師質土器か。器種不明である。

第74号土坑 (SK-74) (第33図)

位置 III-1区O-15グリッドに位置する。 **重複関係** SK-641→SK-75→SD-642の順に重複する。

形状・規模・主軸 不整な台形状である。底面の規模は、東西約 1.2 m・南北 1.2 m 前後である。主軸は N-52° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.3 m、レベル 29.67 m である。

覆土 2層を確認した。炭化物を含む。 **遺物出土状況** 覆土中から 2 点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器 1 片、瓦質土器 1 片である。内耳土器は底周部小片で、外面にオコゲ状の付着物が観察される。胎土は C 群。瓦質土器は外面は灰色、内面はススが吸着する。胎土は C 群。

第 75 号土坑 (SK-75) (第 33・45 図 表 27)

位置 III - 1 区 O-15 グリッドに位置する。 **重複関係** SD-642 → SK-75 → SK-641 の順に重複する。

形状・規模・主軸 覆土の堆積状況から南・北側の 2 基の遺構が重複するとみられるが詳細は不明である。便宜的に、南側の新しい掘り込みを A、北側を B とする。底面の規模は、東西 1.0 m 前後・南北約 0.8 m である。主軸は N-66° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.2 m、レベル 29.75 m である。

覆土 5層を確認した。A：1・2層、B：3～5層である。 **付属施設** p 1 が確認される。B の範囲内とみられるが、帰属等は不詳である。径約 0.22 m・遺構確認面からの深さ約 0.32 m・レベル 29.62 m である。 **遺物出土状況** 覆土中から 2 片が出土する。

出土遺物 1 は内耳土器口縁部小片である。SK-71 出土の内耳土器口縁部小片と似る。

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器体部 1 片であり。胎土は D 群である。

第 76 号土坑 (SK-76) (第 40 図)

位置 III - 3 区 K-10 グリッドに位置する。SK-78 と直交する SK-79 の延長線上に位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 北西 - 南東に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約 1.5 m・南北約 0.45 m である。主軸は N-63° W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.2 m、レベル 30.8 m である。 **覆土** 3層を確認した。3層は極めて脆い。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 78 号土坑 (SK-78) (第 40・46・116 図 表 28・94)

位置 III - 3 区 L-11 グリッドに位置する。土坑群の北西側、SK-79 と直交する位置にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 北東 - 南西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約 0.55 m・南北約 1.9 m である。主軸は N-33° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.2 m、レベル 30.56 m である。 **覆土** 2層を確認した。上層ほどロームブロックの堆積が多い。 **遺物出土状況** 覆土中から 6 点が出土する。

出土遺物 1 は火鉢片か。第 116 図 -4 は碗類か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器体部小片 2 片、陶器 1 片、磁器 1 片が出土する。

内耳土器は胎土は瓦質土器 C 群である。陶器は灰釉を施す口縁部小片碗類か。磁器は内面に疎らに文様が施されるか。陶磁器は江戸時代中期以降か。

第 79 号土坑 (SK-79) (第 40・46 図 表 29)

位置 III - 3 区 L-11 グリッドに位置する。土坑群の北西側、SK-76 延長線上、SK-78 と直交する位置にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 北西 - 南東に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約 1.36 m・南北 0.53 m 前後である。主軸は N-59° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.52 m、レベル 30.32 m である。 **覆土** 2層を確認した。2層は底面の埋め戻し土か。その際、深さ約 0.38 m・レベル 30.46 m である。 **遺物出土状況** 覆土中から 6 点が出土する。

出土遺物 1 は内耳土器小片である。同一個体とみられる 1 片が出土する。1 と同一個体とみられ平底の

体部片の外面は被熱による器面の劣化が著しい。1は小孔が穿たれる。部位は不明である。残存する周縁部に欠損等は観察されない。補修孔か。

この他、図示し得なかったが陶器2片、磁器2片が出土する。陶器は鉄釉を施す微細片1片、灰釉を施す微細片1片である。いずれも江戸時代中期以降か。磁器は外面に草花文を施す小片1片、外面に茄子紺色の釉を施す1片が出土する。草花文は江戸時代中期以降、茄子紺釉は近・現代か。

第80号土坑 (SK-80) (第32図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-710より古い。P-709との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い形状である。底面の規模は、東西約1.82m・南北0.5m前後である。主軸はN-25°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.28m、レベル29.38mである。**覆土** 3層を確認した。3層はロームを含まず堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内耳土器体部微細片か。胎土は瓦質土器C群である。

第81号土坑 (SK-81) (第33図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長円形状か。東壁から北壁にかけて、底面に向けて傾斜する中段部を持つ。底面の規模は、東西(1.5)m・南0.65m前後、中段部幅0.13m前後、主軸はN-58°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.4m・レベル29.26m、中段部までの深さ0.13m前後・レベル29.55m前後である。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、内湾する体部小片である。火鉢片か。胎土は瓦質土器C群である。

第82号土坑 (SK-82) (第33・46図 表30 図版六)

位置 Ⅲ-2区M-12グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長円形状か。底面の規模は、東西約1.4m・南北0.5m前後、主軸はN-58°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.28m、レベル30.14mである。

覆土 2層を確認した。埋め戻しか。**遺物出土状況** 覆土中から4点が出土する。

出土遺物 1は焙烙片か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器とみられる底周部小片1片、磁器2片が出土する。内耳土器は胎土は瓦質土器C群の範疇であるが、緻密である。磁器は茶碗類か。近・現代産か。

第83号土坑 (SK-83) (第34・46図 表31)

位置 Ⅲ-2区M-12グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い長方形形状か。底面の規模は、東西(1.77)m・南北約0.5m、主軸はN-61°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.23m、レベル30.2mである。

覆土 2層を確認した。埋め戻しか。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 1は残存部は僅かであるが硯片か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器・小礫が出土する。内耳土器は体部であり、胎土は瓦質土器C群である。小礫は破碎片。石表面は滑らか。砥石等の道具の可能性はあるか。

第84号土坑 (SK-84) (第33図)

位置 Ⅲ-2区M-12グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 北西-南東に長い長方形形状か。底面の規模は、東西(1.5)m・南北(0.5)m、主軸

第3章 確認された遺構と遺物

はN-57°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1 m前後、レベル30.37 m前後である。底面は凹凸を伴う。**覆土** 3層を確認した。1層に後世の掘り込みの可能性が考えられる。底面の凹凸に起因するか。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第85号土坑 (SK-85) (第40図 図版六)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。土坑群の南東側にあり、西側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 円形状の掘り込みの北西部の中段部を持つ。底面の規模は、東西約1.04 m・中段部0.2 m前後・南北約1.23 m・中段部約0.45 m・全長約2.0 mである。中段部を含めた主軸はN-50°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。底面には凹凸がみられるが、SP-Aにみられるピット状の落ち込みのよるものか。確認面からの深さは約0.48 m・レベル30.63 mである。ピット状の落ち込みまでの深さは約0.62 m・出張る30.48 m、中段部までの深さや0.2 m前後・レベル30.83 m前後である。

覆土 6層を確認した。3・5層の堆積の整合性に疑問が残る。底面にみられるピット状の落ち込みには4層が堆積する。中段部に堆積する5・6層は、南東側への堆積が観察される。掘り込みの周囲に中段部が設けられた可能性も考慮されよう。**付属施設** 中段部にp1・2が確認される。帰属等は不詳である。p1は東西約0.4 m・南北約0.6 m、遺構確認面からの深さ約0.7 m、レベル30.32である。p2は径(0.3) m、深さ約0.22 m、レベル30.83 mである。SP-Aにみられるピット状の掘り込みに類する可能性も考えられる。

遺物出土状況 覆土中から1点を確認した。

出土遺物 図示し得なかったが陶器1片が出土する。底部に数カ所の高台を貼り付けるとみられる。高台は指で摘み整形か。内・外面に飴色釉を施す。江戸時代中期以降か。

第86号土坑 (SK-86) (第34図 表89)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 東壁、調査区境付近を攪乱により失う。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長形状か。底面の規模は、東西(1.58) m・南北約0.52 m、主軸はN-52° Eである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.4 m、遺構確認面からの深さ約0.28、レベル31.76 mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から7点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部1片、器壁の薄い土師質の土器片1片、器壁の厚い土師質の土器1片、器壁の薄い施釉のない陶器1片、鉄製品3片である。

鉄製品は釘状の小片3片が出土する。表89に記載する。

第90号土坑 (SK-90) (第34図)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い形状か。底面の規模は、東西(0.72) m・南北約0.8 m、主軸はN-70° Eである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.5 m、遺構確認面からの深さ約0.28、レベル31.85 mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第91号土坑 (SK-91) (第34図)

位置 Ⅲ-2区M-11グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。西から東方向へ斜方向に掘り込まれる。底面の規模は、東西(0.8) m・南北0.6 m前後、主軸はN-21° -Eである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.73 m・遺構確認面からの深さ約0.1 m、レベル30.2 mである。**覆土** 6層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第94号土坑 (SK-94) (第41・42・43・46・116・117図 表32・89・94)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない **形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長方形状である。底面の規模は、東西約0.5m・南北約1.13m、主軸N-26°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.44m、レベル30.6mである。**覆土** 1～3層を確認した。埋め戻しに伴う土層か。**遺物出土状況** 覆土中から182点が出土する。土器類44片、石製品等6片、陶磁器117片、仏具関連2点、鉄製品10片、ガラス片2片、工業化製品の釘1片である。

出土遺物 9は石鏃未製品か。上半部が欠損する。1は須恵器甕小片。2は焙烙等の口縁部小片か。器壁は厚い。3は焙烙か。4・5は火鉢類か。6は内耳土器補修孔か。7は土器転用の砥石か。器壁の厚さから火鉢類か。8は小礫である。10は素焼きの大黒神像か。欠損部はあるが、長めの球形であり、表面は滑らか。11は仏像とみられる。

第116・117図-5～10は陶器。5は貿易陶磁か。9は瓶型の小型品。7～9は磁器である。7・8は蓋か。この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

内面のススの付着する体部片1片は3に似る。器壁の厚い小片1片は1の器種か。内耳土器或いは焙烙とみられる小片1片。内耳土器体部片16片。器種不明2片。

内耳土器のうち、口縁部1片・体部13片の胎土は瓦質土器C群、口縁部1片・体部1片はD群(少)である。器種不明の1片は6に似る。残る1片は土師器片か。

砥石1片、小礫2点が出土する。砥石は欠損部はあるが形状を留める。使用の結果小さくなったか。小礫2点のうち1点⑩は砥石片か。1点は破碎片⑪。

陶磁器は114片が出土する。

無釉陶器は23片。時期・産地不明の陶器播鉢は体部の摺り目は密・見込みは疎らに施す。これ以外は近・現代産か。柿釉蓋1点。陶器甕11片のうち10片は同一個体か。徳利8片は同一個体。鉄釉の菊皿片は菊花形の小型の脚が付く。鉄釉の豆皿1片。

施釉陶器は46片。何れも近・現代産か。鉢類・皿類などか。光沢のあるオリーブ色釉、光沢のないオリーブ釉、灰釉に似た色調の釉、オリーブ色の釉などがみられる。

磁器は45片が出土する。江戸時代中期以降とみられる淡藍で文様を描く小片23片、近・現代産とみられる藍色の文様を描く小片など45片である。

鉄製品は小片10片が出土する。刀子状、釘状のものもみられるが不詳である。第114図、表89に記載する。

ガラス瓶片2片は工業化製品か。

第95号土坑 (SK-95) (第17図)

位置 Ⅲ-2区N-12グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-705(地下式坑)→SE-92→SK-706→SK-707(方形竪穴遺構)の順に重複するか。**形状・規模・主軸** 遺構の大部分は調査区外にあるとみられ、詳細は不明である。底面の規模は、東西(0.6)m・南北約0.9m、主軸は、N-40°-W、或いは、N-59°-Wか。**底面** ローム層を掘り込む。表土からの深さ約0.32m、レベル29.18mである。**覆土** 9・10層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第96号土坑 (SK-96) (第34図)

位置 I区S-24グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東に傾く瓢箪形である。底面の規模は、長軸約1.32m、北西半部の短軸約0.64m・南東半部の短軸約0.4mである。主軸はN-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸がみられる。確認面からの深さ約

0.3 m、レベル 29.37 m前後である。**覆土** 1層を確認した。ロームブロックを多量に含む暗褐色土である。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第97号土坑 (SK-97) (第34図)

位置 I区S-24グリッドに位置する。**重複関係** 南東隅部にSK-134が重複する。新旧関係は不明である。覆土や底面の状況がSK-134と良く似ており、同一遺構の可能性も残る。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長円形状である。北側は調査区外に延び、全容は不明である。底面の規模は、長軸(1.82)m・短軸0.9m前後である。主軸はN-28°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.05m前後、レベル29.60m前後である。凹凸が著しく、特に、南壁付近が落ち込む。また、小ピット状の落ち込みも認められる。何れも、底面からの深さ10.0cm前後。レベル29.48m前後である。SK-134重複部付近の小土坑状の落ち込みは、底面からの深さ15.0cm前後、レベル29.45m前後である。掘方底面の可能性もあろうか。

覆土 1層を確認した。SK-134-1層と似る。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿体部片1片、土師質の微細片1片、陶器1片である。陶器は器壁が薄く、外面に光沢のない暗褐色の釉を施す。近・現代産か。

第98号土坑 (SK-98) (第35図)

位置 I区S-24グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北側は調査区外に延びるが、南西-北東に長い形状か。底面の規模は、長軸約(0.6)m、短軸0.5m前後である。主軸はN-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.17m、レベル29.42m前後である。**覆土** 1層を確認した。圧縮されたように硬くしめる。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する出土する。

出土遺物 図示し得なかったが器壁の厚い底部付近の小片である。焙烙か。

第99号土坑 (SK-99) (第35図)

位置 I区S-24グリッドに位置する。**重複関係** SK-99→SK-135→SK-136の順に重複する。同一遺構の埋没状況を示すものとも考えられるが現地調査の所見に従い、別遺構とする。**形状・規模・主軸** 北東-南西に長い長円形状である。底面の規模は、長軸約1.75m、短軸SK-135北側約0.75m・SK-135南側約0.7m、主軸N-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。本遺構より深いSK-135の重複により底面の状況は判然としない。確認面からの深さは、SK-135北側が深く約0.15m、レベル約29.4m、SK-135南側は約0.05m、レベル約29.52mである。**覆土** 2層を確認した。SK-135南側に2層の堆積は確認されなかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第101号土坑 (SK-101) (第21図)

位置 I区U-22グリッドに位置する。**重複関係** SK-105・133より古い。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形形状であるが、南側は調査区外にあり、全容は不詳である。底面の規模は、長軸(1.10)m・短軸約0.32m前後である。主軸はN-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.1m前後、レベル29.26m前後である。**覆土** 2層を確認した。2層は土坑状の平面プランが確認されており、別遺構である可能性も考えられる。平面図に破線で位置を示した。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、土師器坏口縁部下か。口縁部ヨコナデ・体部ミガキか。整形・胎土は緻密であり、工具痕は観察されない。

第102号土坑 (SK-102) (第21図)

位置 I区U-22グリッドに位置する。**重複関係** SK-105より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形であるが、南側は調査区外にあり、全容は不詳である。底面の規模は、長軸(1.1)m・短軸約0.4mである。主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.35m、レベル29.0m前後である。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から3点が出土する。

出土遺物 図示し得なかった土が土師器片か。1片は口縁部付近の小片とみられる。口縁部下に沈線が巡る。2片は赤褐色の土器片で胎土は緻密である。坏、丸底壺も想定し得る。

第103号土坑 (SK-103) (第35図)

位置 I区V-22グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南西側は調査区外にあり、全容は不詳である。北東-南西に長い形状か。底面の規模は、長軸(0.6)m・短軸約0.52mである。主軸はN-50°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。やや凹凸がみられる。確認面からの深さ約0.16m、レベル約29.3mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが土師器長胴甕体部片か。

第104号土坑 (SK-104) (第35・114・117図 表33・89・94)

位置 I区V-23グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い方形である。床面の深さから3つの部分に大別でき、便宜上、A・B・Cと呼称する。C部は調査区外に延びることなどから詳細を明らかにし得なかった。平坦な掘り込みではなく、別遺構或いは攪乱の可能性も残る。B部は覆土の遺構確認面の平面プランや覆土の堆積状況から4つの部分に区別が可能である。B部-1・2はA部の堆積により判然としないが、同様の覆土が堆積する可能性が残るが明確にし得なかった。B部の南西から北東にむけて狭まる平面形状はこの4部分に起因するものか。遺構の規模は、A-C部の全長5.0m以上、A部の長軸約1.44m・短軸約0.8m、B部の長軸4.0m前後・短軸B部-2:約1.32m・B部-3:約1.42m・B部-4:約1.55mである。主軸はN-22°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、A部約0.64m・28.67m、B部はB部-1が北東へむけて僅かな傾斜が認められるが概ね平坦であり、B部-1南西部約0.3m・29.03m、B部-1北東部より北側は0.38m前後・28.9m前後である。B部-4 p10・11北側にかけて焼土が散見される。**覆土** 13層を確認した。1～3層はB部-4に堆積する。ロームブロックの堆積が目立つ。C部の覆土は確認し得なかったが、2層はC部からB部-4へ堆積するか。底面に散見される焼土上の3層に焼土の堆積は認められない。4～6層はB部-3に堆積する。7・8層はB部-2に堆積する。B部-1も同様の堆積である可能性が考えられる。9～13層はA部に堆積する。最下層の13層はロームブロックを多量に含む。13層上面はB部底面と同レベルであり、あるいは、13層には底面を埋め戻して平坦とする意図があったか。**特徴** 底面にp1～11が穿たれる。小ピットはいずれも円形状である。各々の大きさ・遺構底面からの深さ・底面レベル(約、m)は、p1東西0.22:南北0.20・0.11・28.82m、p2東西0.35:南北0.24・0.07・28.86m、p3径0.25m前後・0.07・28.86m、p4東西0.32:南北0.39・0.12・28.81m、p5東西0.24:南北0.28・0.12・28.81m、p6径0.42、p7径0.16、p8径0.18・0.18・28.85m、p9径0.16・0.13・28.80、p10東西0.12:南北0.17・0.03・28.90m、p11東西0.31:南北0.26・0.13・28.80mである。p6・7の詳細は明確にし得なかった。深さはp10が3.0cmほど浅いが、底面レベルは28.80～28.86mであり、ほぼ一定の深さに穿たれる。配置をみると、p1～7は北西壁に、p10・11はB部南東辺に、p4・5・8・9はB部-3の遺構確認面のプランに沿うように位置する。また、p9・10はB部の中軸線上に沿うように位置し、鉤の手状にp

第3章 確認された遺構と遺物

7～9が続く配置にみえる。南東辺には明確なピットは確認されなかったが、壁際の底面の凹凸は図版四においても確認できる。内部施設に関わる柱穴である可能性はあろうか。 **遺物出土状況** 覆土中から33片が出土する。

出土遺物 1は埴輪片か。2は基石か。第117図-10は天目茶碗か。

この他、図示し得なかったが、土師器の可能性のある微細片2片、ロクロ成形の土師質土器小皿2片、瓦質土器5片、内耳土器5片、焙烙の可能性のある微細片1片、詳細不明の土器微細片7片、陶磁器6片が出土する。

土師器の可能性のある小片は、1片は頸部付近とみられ、ススが付着する。ロクロ成形の土師質土器のうち1片は口縁部小片である。瓦質土器の器種は不明である。内耳土器は3片が胎土C群、2片がD群である。焙烙片は体部片であり、外面にススが吸着する。

陶器は4片が出土する。内面無釉・外面灰釉の口縁部微細片、片面無釉・片面灰釉の体部微細片、内外面光沢のない褐色釉の口縁部微細片、内面褐色釉・外面灰釉の体部微細片である。時期・産地等、詳細は不明であるが、江戸時代中期以降か。磁器は1片が出土する。内外面に明綠色釉を施す。近・現代産か。

鉄製品は3片が出土する。釘状の小片である。表88に記載する。

第107号土坑 (SK-107) (第21・46図 表34 図版六)

位置 I区U-22グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** やや南東-北西に長い円形である。底面の規模は、長軸約0.7m・短軸約0.66mである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.1m前後、レベル約29.29mである。 **覆土** 1層を確認した。焼土ブロック・炭化物ブロックを含むが、中央部は焼土が目立つ。 **特記事項** 底面や壁面に焼土や炭化物が残る。また、周囲の遺構確認面に焼土・炭化物が認められる。遺構北側は特に顕著であり、不整な円形状に広がる。焼土や炭化物と同レベルのロームに火熱の痕跡は薄く、主體的に遺構内外での燃焼の可能性は低いと判断される。 **遺物出土状況** 覆土中から2点が出土する。

出土遺物 1は土師器小形壺頸部か。

図示し得なかった土1点は、同一個体とみられる頸部小片である。

第108号土坑 (SK-108) (第36図)

位置 II区R-17グリッドに位置する。 **重複関係** SK-108→SK-735の順に覆土が堆積する。SK-736との詳細は不明である。 **形状・規模・主軸** 概ね、南北に長い長方形形状である。底面の規模は、東西0.6m前後・南北約1.5mである。主軸はN-31°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.05m、レベル約29.97mである。 **覆土** 暗黄褐色土の1層を確認した。 **付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等、詳細は不明である。p1のSK-108底面における規模は、東西約0.17m・南北約0.2m、SK-108底面からの深さ約0.1m、底面レベル約29.87mである。p2は径約0.15mである。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第110号土坑 (SK-110) (第36図)

位置 II区R-18グリッドに位置する。 **重複関係** SE-145より新しい。北側は攪乱溝により上部が失われる。 **形状・規模・主軸** 概ね南方に長い長方形形状である。北側は攪乱溝により上部が失われる。南側は底面より約0.18m掘り込み、南壁を約0.33mに挟り込み、ポケット状の小土坑を穿つ。土層断面では西側の底面付近に段が確認されるが、平面形では明確し得なかった。SE-145との重複に起因するものか。底面の規模は、オーバーハング部分を含む長軸約1.42m（底面約0.92m・挟り込み部約0.5m）、短軸0.65m

である。主軸はN-19°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.5 m、レベル約29.6 mである。底面からオーバーハング部分の深さ約0.18 m、レベル約29.42 mである。**覆土** 2層を確認した。ロームブロックの堆積が目立つ。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第111号土坑 (SK-111) (第37図 図版六)

位置 II区R-17グリッドに位置する。**重複関係** SK-154・157より古い。SK-159より新しい。SK-156との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 平面形は遺構の重複により判然としない。底面の規模は、東西(0.45) m・南北(0.75) mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.21 m、レベル約29.81 mである。底面に小ピット1基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第112号土坑 (SK-112) (第36図)

位置 II区S-18グリッドに位置する。西側は調査区南西端部に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 西側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね東西に長い長方形か。底面の規模は、長軸(1.0) m・短軸約0.62 mで、主軸N-87°-Wであり、概ね磁北に直交する。**底面** ローム層を掘り込む。遺構中央を攪乱により失っており、詳細は不明である。確認面からの深さ約0.22 m、レベル約29.85 mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第113号土坑 (SK-113) (第38・46図 表35 図版六)

位置 II区Q-16グリッドに位置する。南側は調査区南西端部に延びる。**重複関係** SK-601より古い。SK-602より新しい。**形状・規模・主軸** 南側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、長軸(4.0) m・短軸0.65 m前後、主軸N-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、大きな凹凸が認められる。確認面からの深さ0.26～0.36 m、レベル約29.81～29.68 mである。SK-602底面とほぼ同レベルである。**覆土** 1層を確認した。SK602-1層と似る。**遺物出土状況** SK-113・602・602を含む範囲の覆土中から13点が出土する。取り上げはSK-113a・b・cで行ったが、帰属は不詳であるが、本遺構に記載する。

出土遺物 1は土師質土器小皿。SK-113aから出土する。2は基石の可能性があろうか。3次調査SD-19出土-第107図-7・8と似る。

この他、図示し得なかった出土遺物は、SK-113a出土2点、b出土6点、c出土3点である。a出土はロクロ成形の土師質土器小皿微細片1片・胎土D群の内耳土器小片1片である。b出土はロクロ成形の土師質土器微細片3片・内耳土器とみられる胎土C類の微細片2片、焙烙の可能性が考えられる器壁の厚い体部小片1片である。c出土は、ロクロ成形の土師質土器小皿微細片1片・胎土C類の内耳土器とみられる小片2片である。

第115号土坑 (SK-115) (第36・46図 表36 図版六)

位置 II区R-18グリッドに位置する。**重複関係** SK-137→SK-115→SK-138・139の順に重複する。P-140より新しい。北側に重複するSD-121との新旧は不明である。また、南西隅部に小ピット2穴を伴う掘り込みについては帰属、新旧関係等不明である。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い。SK-137・138・139の重複により、平面形状は不整であるが、本来は長方形か。北壁東寄り・西壁中央部付近に壁面を挟む小土坑を穿つ。小土坑上の壁面は傾斜しつつ確認面に至るが、本来は小土坑下の壁面ラインに連続するもので、現形は崩落状況を示すか。底面の規模は、東壁約0.8 m・西壁約0.7 m・南壁約1.4 m・北壁約1.5 mである。主軸はN-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.8

第3章 確認された遺構と遺物

m、レベル約 28.33 mである。**付属施設** 北壁東寄りの壁面を抉る小土坑は、現状で遺構確認面下約 0.2 m、レベル 29.78 m付近から掘り込まれる。底面での開口部幅約 0.56 m、奥行き約 0.3 m、底面からの深さ約 0.1 m、レベル約 29.26 mである。西壁中央部付近の壁面を抉る小土坑は、現状で遺構確認面下約 0.28 m、レベル 29.7 m付近から掘り込まれる。底面での開口部幅約 0.6 m、奥行き約 0.4 m、底面からの深さ約 0.15 m、レベル約 29.22 mである。なお、南西隅部の掘り込みの小ピット 2 基は、確認面からの深さ約 0.34 m、レベル約 29.66 mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から 2 点が出土する。

出土遺物 1 は須恵器甕体部片である。

この他、図示し得なかったが、陶器口縁部微細片が出土する。碗類か。内外面にオリブ色の釉を施す。時期・産地等不明である。

第 116 号土坑 (SK-116) (第 37 図)

位置 II区 R-16 グリッドに位置する。西側は調査区南西端部に延びる。**重複関係** SK-591 より新しい。P-593 と重複するが同一遺構である可能性も残る。新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 西側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西 (0.57) m・南北約 (0.52) mである。主軸 N-38° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.2 m、レベル約 29.9 mである。**覆土** 1層を確認した。重複する SK-218・219 と堆積するロームに多少はあるが似た特徴が観察される。**遺物出土状況** 覆土中から 5 点が出土する。

出土遺物 第 117 図 -11 は陶器碗類か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器 2 片、器壁の厚い小片 1 片、陶器甕体部 1 片である。内耳土器のうち、体部小片 1 片は外面にオコゲが付着する。胎土は C 群。1 片は胎土 C 群の底部付近の小片である。器壁の厚い小片は焙烙か。陶器甕体部片は無釉。

第 117 号土坑 (SK-117) (第 38 図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。南側は調査区南西端部に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約 0.45 m・南北約 (1.2) mである。主軸 N-23° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.19 m、レベル約 29.84 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 119 号土坑 (SK-119) (第 38 図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。**重複関係** P-595・597 古い。P-596 より新しい。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。北西隅部の形状は P-596 との重複に起因するか。底面の規模は、東西約 0.4 m・南北約 (1.4) mである。主軸 N-16° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ 0.03～0.1 m、レベル約 30.0～29.92 mである。**付属施設** 東壁中央寄りに小ピットが認められる。帰属等は不明である。径約 0.1 m、SP-A 中央部付近の底面の落ち込みが相当するならば、深さ約 0.02～0.05 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 121 号土坑 (SK-121) (第 39 図 図版六)

位置 II区 S-19 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約 0.76 m・南北約 0.66 mである。主軸 N-37° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.5 m、レベル約 29.5 mである。**覆土** 3層を確認した。1・2層は攪乱層か。3層は地山と見紛うロームブロック層である。壁等の崩落層、或いは人為的な堆積層か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第122号土坑 (SK-122) (第13図 図版三)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 東側に重複するSK-2より新しい。が、同一遺構である可能性が残る。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い。西壁が中央部付近で突出するが、SK-2との重複により詳細は不明である。また、覆土の堆積状況から遺構の重複である可能性が考慮されるが明らかにし得なかった。底面の規模は東西約0.65m・突出部では約0.96m、南北：約3.56mである。主軸はN-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.20m、レベル29.26m前後である。**覆土** 2層を確認した。1層はロームブロック主体の層であり、天井に相当する層との調査時の所見があるが詳細は明らかにし得なかった。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第123号土坑 (SK-123) (第13図 図版三)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 東壁に重複するSK-3より新しい。が、同一遺構である可能性が残る。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形で、底面の規模は、東西0.3m前後・南北1.5m前後である。主軸はN-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。ほぼ平坦であるが、南から北へ5.0cmほどの傾斜がみられる。確認面からの深さ南側で約0.27m・レベル29.13m、北側で約0.32m・29.09mである。**覆土** 1層を確認した。人為堆積か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第125号土坑 (SK-125) (第14図)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-5と重複し、同一遺構の可能性も残るが明確にし得なかった。SK-6と重複する。いずれの遺構より本遺構が新しい。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い方形形状である。南西隅部から南西壁をSK-5に、北東隅部をSK-6により失っている。平面図中の破線はセクション図からの推定線である。長軸[4.1]m・短軸[0.85]mである。主軸N-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。残存する底面は概ね平坦である。確認面からの深さ約0.1m、レベル29.244mである。**覆土** 1層を確認した。SK-5覆土を掘り直すか。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第126号土坑 (SK-126) (第14図)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 北東側にSK-11、南西側にSK-8が重複する。新旧関係は明らかにし得なかった。SK-8は同一遺構の可能性が残る。SK-1より50.0cm、SK-8より8.0cmほど高い。**形状・規模・主軸** 平面形は、重複により多くの部分を失うが北東-南西方向に長い。北東部は緩やかに傾斜し、僅かな段差をもって底面に至る。底面の長軸(1.44)m・短軸約0.75m：段差部分0.55m前後である。主軸はN-25°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、北東壁付近約0.08m・29.266m、遺構底面約0.17m・29.19m、北東部との段差は4.0cmである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第127号土坑 (SK-127) (第14図)

位置 I区D-10グリッドに位置する。**重複関係** 北東側にSK-8、南西隅部にSK-128が重複するが新旧関係は明らかにし得なかった。SK-8より3.0cmほど高く、SK-128より8.0cmほど低い。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向に長い長方形形状である。南西部はやや窄まる。西壁付近の底面に若干の段差がみられるが詳細は不明である。底面の長軸約2.2m・短軸0.8m前後：段差部分0.6m前後である。主軸はN-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、北東壁付近約0.23m・29.19m、

第3章 確認された遺構と遺物

段差部分 0.15 m前後・29.09 mである。**覆土** 図示し得なかったが、2層を確認した。上下2層にほぼ水平に堆積する。上層は 15.0cmほど、下層は 8.0cmほどの厚さの堆積である。上層は明褐色土、下層は暗褐色土で、ローム粒子、1.0cm大のロームブロックを含む、しまりのある土層である。**遺物出土状況** SK-8 西半で取り上げた遺物が本遺構に伴うか。土師器甕類体部小片 2片、内耳土器とみられる体部小片 2片が出土する。内耳土器とみられる小片は胎土に金雲母を含む。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

第 128 号土坑 (SK-128) (第 14 図)

位置 I区D-10 グリッドに位置する。**重複関係** 北東壁に SK-127 が重複する。新旧関係は明らかにし得なかった。SK-128 より 8.0cmほど高い。**形状・規模・主軸** 北東-南西方向の長方形状である。底面の長軸 [0.5] m・短軸 0.23 m前後である。主軸は N-29°-E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、0.15 m前後・29.33 mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 129 号土坑 (SK-129) (第 14 図)

位置 I区D-10 グリッドに位置する。**重複関係** 南側に SK-9 が重複する。本遺構が古い。西側に重複する SK-130 との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い方形状とみられる。底面の長軸 (0.8) m・短軸約 0.68 mである。主軸は N-29°-E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、0.15 m前後・29.60 mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 130 号土坑 (SK-130) (第 14 図)

位置 I区D-10 グリッドに位置する。**重複関係** 南側に SK-9 が重複するより本遺構が古い。東側に重複する SK-129 との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 方形状とみられる。SK-9-10 間の SK-131 は、本遺構の底面レベルと同様である。また、SK-9・10 間の西壁の直線的なラインが本遺構の延長線上にあることから、同一遺構である可能性が考えられる。その際、本遺構は SK-9・10 に先行する。更に、中軸線を等しくする SK-8・126～128 との関連が考慮されよう。底面の東西 (0.16) m・南北 (0.33) mである。主軸は N-28°-E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、0.15 m前後・29.60 mである。**覆土** 1層を確認した。SK-9-10 間の 1層に似るが、より暗色である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 131 号土坑 (SK-131) (第 14 図)

位置 I区D-10 グリッドに位置する。**重複関係** 南側に SK-10、北側に SK-9 が重複する。本遺構が古い。SK-130 の底面レベルと同様であり、本遺構西壁の可能性が考えられる SK-9・10 間西壁の直線的なラインが SK-130 の延長線上にあることから、同一遺構である可能性も考えられる。その際、本遺構は SK-9・10 に先行する。更に、中軸線を等しくする SK-8・126～128 との関連が考慮されよう。**形状・規模・主軸** SK-10 土層断面での確認であり詳細は不明である。SK-9・10 間の西壁の直線的なラインは本遺構西壁か。**底面** SK-10 土層断面の観察によれば、ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、0.15 m前後・29.20 mである。**覆土** 1層を確認した。SK-130-1層に似るが、より明色である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 132 号土坑 (SK-132) (第 16 図)

位置 I区D-10 グリッドに位置する。**重複関係** 南側に SK-11、北側に SK-565 が重複する。新旧関

係は不明である。SK-11 南側底面とは、重複部付近で約 40cmの段差を持つが、SK-11 の底面は南から北へ傾斜しており、総じて同様のレベルとなるため、同一遺構である可能性も残る。 **形状・規模・主軸** 平面形は重複により不詳であるが、南北に長い形状とみられる。底面の長軸 (1.4) m・短軸約 0.35 mある。主軸は N-17° -E である。 **底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦とみられる。確認面からの深さ・レベルは、約 0.1 m・29.25 mである。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 133 号土坑 (SK-133) (第 21 図)

位置 I 区 U-22 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-105・133 より新しい。 **形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形状であるが、南側は調査区外にあり、全容は不詳である。底面の規模は、長軸 (0.85) m・短軸約 0.20 m前後である。主軸は N-29° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.08 m、レベル約 29.32 mである。 **覆土** 1 層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 134 号土坑 (SK-134) (第 34 図)

位置 I 区 S-24 グリッドに位置する。 **重複関係** 北西隅部に SK-97 が重複する。新旧関係は不明である。覆土や底面の状況が SK-97 と良く似ており、同一遺構の可能性も残る。 **形状・規模・主軸** 北西 - 南東に長い円形状である。底面の規模は、長軸約 1.2 m・短軸 0.85 m前後である。主軸は N-39° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。凹凸が著しく、壁際が低く、中央部が高い。掘方底面の可能性もあろうか。中央部の確認面からの深さ 0.05 m前後、レベル 29.60 m前後である。壁際のレベルは 29.55 m前後であるが、南・北壁際は小ピット状の掘り込みとなる。何れもレベルは 29.49m 前後である。 **覆土** 1 層を確認した。SK-97- 1 層と似る。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 135 号土坑 (SK-135) (第 35 図)

位置 I 区 S-24 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-99 → SK-135 → SK-136 の順に重複する。同一遺構の埋没状況を示すものとも考えられるが現地調査の所見に従い、別遺構とする。 **形状・規模・主軸** 北西 - 南南に長い長円形状である。南壁に続く緩い傾斜部は、土層の堆積状況から本遺構の一部と考えられる。底面の規模は、長軸 1.06 m前後、短軸約 0.36 m、傾斜部を含む短軸は約 0.6 m、主軸 N-50° -W である。 **底面** ローム層を掘り込み、やや凹凸がみられる。確認面からの深さは約 0.28 m、レベル約 29.3 mである。 **覆土** 1 層を確認した。図中の①層である。粒形の大きいロームブロックを含む。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 136 号土坑 (SK-136) (第 35 図)

位置 I 区 S-24 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-99 → SK-135 → SK-136 の順に重複する。同一遺構の埋没状況を示すものとも考えられるが現地調査の所見に従い、別遺構とする。 **形状・規模・主軸** 土層観察の際、平面プランを確認したため、形状等は不明であるが、北西 - 南南に長い長円形状か。確認面の規模は、長軸 0.9 m前後、短軸 0.6 m前後か。主軸 N-31° -W である。 **底面** SK-135 覆土を掘り込むため、詳細は不明である。確認面からの深さは約 (0.1) m、レベル約 29.68 mである。 **覆土** 1 層を確認した。図中の 1' 層である。ロームブロックを含む。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 137 号土坑 (SK-137) (第 36 図 図版六)

位置 II 区 R-18 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-137 → SK-115 → SK-138・139 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** SK-115 東壁中段の段差 (レベル約 28.472 m)、SK-115 南壁中段の僅かな段差 (レベル約 28.534 m) が本遺構の痕跡と考えられる。推定される形状は、概ね東西に長い形状で、長軸約 1.2 m・短軸約 0.6 m、主軸 N-66° -W か。 **底面** 底面の状況は不詳である。確認面からの深さ 0.47 m程度か。

覆土 1層を確認した。SK-115 底面への堆積がみられるが、SK-115 掘削或いは埋没に関わるものか。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第138号土坑 (SK-138) (第36図 図版六)

位置 II区 R-18 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-137 → SK-115 → SK-138・139の順に重複する。SD-121との新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 重複により判然としないが、概ね南北に長い形状か。長軸はSK-115北壁以北に残る部分の長軸は約0.9mであるが、SP-Aに覆土の堆積が確認されるため1.4m以上の長形であったとみられる。短軸0.45m前後、主軸N-20°Eである。 **底面** 底面の状況は不詳であるが、残存する底面は概ね平坦である。確認面からの深さ0.18m程度、レベル29.67mか。 **覆土** 2層を確認した。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第139号土坑 (SK-139) (第36図 図版六)

位置 II区 R-18 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-137 → SK-115 → SK-138・139の順に重複する。SD-121との新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 重複により判然としないが、SK-115北壁に張り出す部分の中段(レベル29.76m)からSK-115南側に張り出す部分(レベル29.81m)までが本遺構か。SK-115南側に張り出す部分の東側は若干落ち込むが(レベル29.72)、SP-Aに見える最下部のレベルが29.8mであることを鑑み、SK-115南側の張り出し部西側を想定しておきたい。また、SK-115北壁以北-SPA概ね南北に長い形状とみられる。想定される長軸は約1.5mである。残存する短軸は北側0.64m・南側0.9mであり、北側-SP-A-南側を結ぶラインは南側に大きく開く形状となる。主軸N-26°Eである。

底面 底面の状況は、重複、下部にSK-115挟り込み部があるための底面の崩落等により不詳であるが、確認し得た底面は概ね平坦である。確認面からの深さ0.12～0.20m程度、レベル29.80m前後か。 **覆土** 2層を確認した。1層に炭化物を含む。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第144号土坑 (SK-144) (第51図 図版四)

位置 II区 S-19 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-142・SD-19より新しい。 **形状・規模・主軸** SK-142・SD-19覆土中に掘り込まれ、SD-19SP-Aに確認される。平面形等不詳である。表土下の大きさ約1.04mである。 **底面** SK-142・SD-19覆土中に掘り込まれ、底面の状況は不詳であるが、掘り鉢状か。表土下の深さ約0.36m程度、レベル29.62mである。 **覆土** 1層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第152号土坑 (SK-152) (第39図)

位置 II区 S-18 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長方形で、南北で段差を持つ。遺構の重複である可能性も残るが判然としない。遺構確認面の総長は約0.66m、北側底面の長軸約0.34m・短軸約0.27m、南側底面の長軸約0.2m・短軸約0.27mである。主軸はN-21°-Eである。 **底面** ロームを掘り込む。北側の深さ約0.28m、レベル29.75mである。南側は確認し得なかった。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第153号土坑 (SK-153) (第18図)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。調査区南西端部に位置し、調査区外に延びる。 **重複関係** SK-114より古い。 **形状・規模・主軸** 平面形は不明であるが不整形か。底面の規模は、東西(0.8)m・南北約1.68mである。 **底面** ロームを掘り込む。深さ約0.8m、レベル29.95mである。北西壁寄りにピットが穿たれる。帰属等は不明である。ピットの規模は、東西約0.16m・南北約0.26m、遺構底面からの深さ約0.3m、レベル約29.73mである。 **覆土** 1層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認され

ない。

第154号土坑 (SK-154) (第37図)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-111 より新しい。SK-155 との新旧関係は明瞭ではないが、本遺構が新しいか。**形状・規模・主軸** 平面形は遺構の重複により判然としない。規模は、東西 (0.45) m、南北は不明である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.18 m、レベル約 29.84 m である。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第155号土坑 (SK-155) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-154 との新旧関係は明瞭ではないが、本遺構が新しいか。SK-111 との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により判然としないが、隅丸形状か。底面の規模は、東西 (1.2) m、南北 (0.83) m である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.18 m、レベル約 29.82 m である。底面に小ピット 4 基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第156号土坑 (SK-156) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-155 より古い。**形状・規模・主軸** 平面形は重複により判然としない。底面の規模は、東西 (0.66) m、南北 (0.27) m である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.15 m、レベル約 29.88 m である。底面に小ピット 2 基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第157号土坑 (SK-157) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-111・159 より新しい。**形状・規模・主軸** 重複により判然としないが円形状か。底面の規模は、東西 (0.86) m、南北 (0.9) m である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.20 m、レベル約 29.75 m である。底面に小ピット 1 基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。立ち上がりが SP-C に僅かに観察される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第158号土坑 (SK-158) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-159 より新しい。**形状・規模・主軸** 東西に長い長形状か。底面の規模は、東西約 1.87 m、南北約 0.82 m である。主軸は N-73° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.3 m、レベル約 29.78 m である。底面に小ピット 4 基が掘り込まれるが、帰属等詳細は不明である。**覆土** 2層を確認した。立ち上がりが SP-C に僅かに観察される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第159号土坑 (SK-159) (第37図 図版六)

位置 II区 R-17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-111・159 より新しい。**形状・規模・主軸** 平面形は重複により判然としない。底面の規模は、東西 (0.52) m、南北 (0.5) m である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.11 m、レベル約 29.9 m である。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第589号土坑 (SK-589) (第39図)

位置 II区 Q-17 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 北西-南東方向に長い長円形状である。底面の規模は、主軸約 0.67 m・短軸約 0.38 m、主軸 N-52° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.08 m、レベル約 29.92 m である。**覆土** 確認し得

なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第590号土坑 (SK-590) (第39図)

位置 II区 Q-16・17 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、主軸約0.69 m・短軸約0.5 mである。主軸はN-52° -Wであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.07 m、レベル約29.98 mである。

覆土 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第591号土坑 (SK-591) (第37図)

位置 II区 R-16 グリッドに位置する。西側は調査区南西端部に延びる。 **重複関係** SK-116・592 より古い。 **形状・規模・主軸** 西側が調査区外に延びるため不詳であるが、概ね東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.5) m・南北約(0.82) mである。主軸N-27° -Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。東壁際に小ピット状の凹凸が認められる。確認面からの深さ約0.1 m、レベル約29.94 mである。 **覆土**

1層を確認した。重複するSK-116・592と堆積するロームに多少はあるが似た特徴が観察される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第592号土坑 (SK-592) (第37図)

位置 II区 R-16 グリッドに位置する。西側は調査区南西端部に延びると推定される。 **重複関係** SK-591 より新しい。 **形状・規模・主軸** 掘り込みが浅く、土層断面に確認した。このため、詳細は不詳である。土層断面に確認される規模は、東西(1.0) mである。 **底面** ローム層を掘り込み、底面は大きな凹凸があるか。確認面からの深さ約0.05 m、レベル30.0～30.04 mである。 **覆土** 1層を確認した。重複するSK-116・591と堆積するロームに多少はあるが似た特徴が観察される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第598号土坑 (SK-598) (第38図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** P-597 より古い。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.5) m・南北約0.38 mである。主軸N-85° -Eであり、磁北にほぼ直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.1 m、レベル約29.9 mである。 **覆土** 1層を確認した。P-597-1層とやや似る。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第599号土坑 (SK-599) (第24図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-28 より古い。SK-600 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 東西に長い不整形である。重複により不詳であるが、底面の規模は、東西(1.14) m、南北0.5～0.67 m、主軸はN-87° -Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.25 m前後、レベル29.85 mである。SK-600 底面とは0.02 m前後の段差が観察されるが、判然としない。東壁よりに小ピットが確認される。帰属、新旧関係等は不明である。底面における径0.13 m前後、深さ約0.21 m、レベル29.66 mである。 **覆土** 2層を確認した。 **遺物出土状況** SK-28・599・600 を含む覆土中から16点が出土する。SK-28 に記載する。

第600号土坑 (SK-600) (第24図)

位置 II区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-599 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸方形形状である。底面の規模は、東西約0.64 m、南北0.54 m、主軸はN-86° -Eであり、概ね磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.25 m前後、レベル29.86 mである。SK-599 底面とは0.02 m前後の段差が観察されるが、判然としない。底面南東部に3基の小ピットが確認さ

れる。帰属、新旧関係等は不明である。何れも径 0.05 m 前後である。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** SK-28・599・600 を含む覆土中から 16 点が出土する。SK-28 に記載する。

第 601 号土坑 (SK-601) (第 38 図)

位置 II 区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-113・602 より新しい。 **形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形か。底面の規模は、長軸約 1.6 m・短軸約 0.64 m、主軸 N-65° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.42 m、レベル約 29.62 m である。 **覆土** 5 層を確認した。5 層は水平な堆積が観察される。底面を埋め戻した可能性が考えられよう。 **遺物出土状況** SK-113・601・602 を含む範囲の覆土中から 12 点が出土する。取り上げは SK-113a・b・c で行ったが、帰属は不詳である。SK-113 に記載する。

第 602 号土坑 (SK-602) (第 38 図)

位置 II 区 Q-16 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-113・601 より古い。 **形状・規模・主軸** 概ね SK-113 との重複により平面形は不詳である。底面の規模は、東西 (0.45) m・南北 0.5 m 前後である。主軸は N-65° -W か。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.2 m、レベル約 29.8 m である。底面は緩やかな播鉢状か。 **覆土** 2 層を確認した。1 層は SK-113-1 層と似る。 **遺物出土状況** SK-113・601・602 を含む範囲の覆土中から 12 点が出土する。取り上げは SK-113a・b・c で行ったが、帰属は不詳である。SK-113 に記載する。

第 612 号土坑 (SK-612) (第 32 図)

位置 III - 1 区 O-16 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-70 より新しい。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約 0.45 m・南北約 0.36 m、主軸は N-65° -W である。 **底面** ローム層を掘り込み、大きな凹凸が認められる。確認面からの深さは約 0.09 ~ 0.17 m、レベル 29.98 ~ 29.9 m である。 **覆土** 2 層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 613 号土坑 (SK-613) (第 28・29・30・31・47 図 表 37)

位置 III - 1 区 O・N-16・17 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-42 と接するが新旧関係は不明である。覆土の堆積状況から複数時期が考えられるが、重複であるか掘り直しであるか判然としない。遺物の出土状況をみると、SK-42-5 内耳土器は本遺構上層出土の破片と SK-42 下層出土の破片が接合する。本遺構が古い可能性を考え得る。 **形状・規模** 3 時期とみられるが、底面の状況等からこれ以上の時期である可能性が残る。便宜的に、堆積の早い順から A から C を付す。遺構の全長は A ~ C の南北方向であり約 2.84 m である。底面には 18 基の小ピットが認められる。SK-614 の小ピットが覆土を穿って堆積することから、本遺構の帰属ではない可能性が考えられる。

(A)

形状・規模・主軸 南側の西方向に張り出した部分とみられる。東側は B との重複により不詳である。底面の規模は東西 (0.5) m・南北 (0.75) m である。主軸は N-77° -E であり、ほぼ磁北に直交する。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.08 m、レベル 30.02 m である。 **付属施設** 底面中央部に p 1 を穿つ。東西 (0.46) m・南北約 0.39 m、底面からの深さ約 0.09 m・遺構確認面からの深さ約 0.18 m、レベル 29.93 m であり、ピットではなく底面形状であるとも考えられる。 **覆土** 12 層が堆積する。A・B・C とも黄褐色土を主体とする。

(B)

形状・規模・主軸 南北に長い長円形とみられ、中央部南側に土坑状、北側に溝状の掘り込みを有する。

第3章 確認された遺構と遺物

東西約 2.4 m・南北約 1.6 m、南側の掘り込みは約 1.4 m・約 0.86 m、北側の掘り込みは C との重複により判然としないが、東西約 0.7 m・南北(0.5) mである。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ 0.1～0.2 m、レベル 30.0～29.9 mである。南側の土坑状の掘り込みは、底面からの深さ約 0.4 m・確認面からの深さ約 0.5 m、レベル 29.6 m前後である。北側の溝状の掘り込みは、底面からの深さ約 0.2 m、確認面からの深さ約 0.35 m、レベル 29.95 m前後である。C 底面との段差はないが緩やかな傾斜があり、B・C の底面には最大 0.12 mほどのレベル差がある。 **付属施設** 底面に p 2～17 が確認される。p 2・3 は南側の掘り込みに伴うか。p 8 の帰属は B、C どちらか判然としない。また、p 12 は B、SK-42 どちらの帰属であるか判然としない。各々のピットの径・深確認面からの深さ・レベルは、p 2 : 0.19 m 前後、p 3 : 0.15 m 前後、p 4 : 0.16 m 前後、p 5 : 0.1 m 前後、p 6 : 0.15 m 前後・約 0.25 m・29.85 m、p 7 : 約 0.1 m、p 8 : 約 0.1 m・0.25 m・29.85 m、p 9 : 0.1 m 前後、p 10 : 0.15 m 前後、p 11 : 約 0.22 m・約 0.4 m・29.7 m、p 12 : 約 0.2 m・約 0.46 m・29.64 m、p 13 : 0.08 m 前後、p 14 : 0.08 m 前後、p 15 : 0.12 m 前後、p 16 : 0.08 m 前後、p 17 : 0.15 m 前後・約 0.41 m・29.69 m である。p 5・6、p 15・16 は重複するが新旧関係は不明である。 **覆土** 1～11 層が堆積する。A・B・C とも黄褐色土を主体とする。

(C)

形状・規模・主軸 SP-B に観察される。平面形等は判然としない。南北約 0.76 m である。 **底面** SK-613B 覆土を掘り込む。確認面からの深さ 0.2～0.3 m、レベル 30.1～30.0 m である。 **付属施設** 底面に p 18 が確認される。遺構確認面からの深さ 0.1 m 前後である。 **覆土** 13・14 層が堆積する。A・B・C とも黄褐色土を主体とする。

遺物出土状況 覆土中から 26 点が出土する。本遺構及び SK-42 を含む範囲の北半部で取り上げた遺物が 16 と接合する。本遺構の帰属の可能性を考慮し、本遺構で記載する。

12・16 は B 或いは C に伴うか判然としない。15～19・22・23・24・13・25・14・21 は南側の掘り込みに伴うか。18 は A 或いは B に伴うか判然としない。18・27・15・28・29 は確認面付近、12・16・24・19・21 は覆土上層、22・13・25・14 は 5 層中、18・17 は 7 層中、20・23 は 8 層中からの出土か。

出土遺物 1～10 は内耳土器。1・2・8・9 は内耳の付かない口縁部破片であり、外面にオコゲ状の付着物が顕著である。8 は口縁部下の僅かに作出される稜に沈線が巡る。1 は口縁部下が緩やかに屈曲する。2・9 は同一個体か。9 は口縁部下に稜を持つ。2 の口縁部下は図示した直線的な立ち上がり部分と 9 のような稜と成る部分が接合する。3 は同位置から同一個体とみられる体部破片 2 片、北半部出土の 1 片が接合する。4 は内耳から約 9.0cm の間隔に内耳基部が観察される。5・10 は同一個体か。内耳土器深鍋。6 は内耳土器体部。深鍋か。6・7 は内耳土器の平底。11 は石製紡錘車である。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

28 は内耳土器口縁部小片、胎土は瓦質土器 D 群である。24・26・29 は内耳土器体部小片、胎土は 24・29 は D 群少量、26 は C 群である。25・27 は内耳土器平底。25 の胎土は瓦質土器 C 群。27 は 22 と同一個体か。北半部から出土する 2 片は 21 と同一個体か。北半部からロクロ成形の土師質土器小皿小片が出土する。

第 614 号土坑 (SK-614) (第 28・29・30・31 図)

位置 III - 1 区 O・N-16・17 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-42 より新しい。SK-615、p 36・39 より古い。 **形状・規模・主軸** 円形状か。規模は、東西 [0.82] m・南北約 0.88 m である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.3 m、レベル 29.88 m である。 **覆土** 22～25 層を確認した。

19・22層はローム主体の黄褐色土である。**付属施設** 底面にp 34～39が確認される。p 39はSK-615との重複部に確認される。p 34・39は26層・27層の堆積状況から本遺構埋没後に穿たれる。p 34など本遺構底面に観察されるピットやSK-42・613底面の小ピットも同様な。p 34～39の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりであるが、深さを確認し得たピットはp 34・39のみである。p 34:約0.14 m・約0.67 m・29.53 m、p 35:約0.14 m、p 36:約0.14 m、p 37:0.16 m前後、p 38:約0.14 m、p 39:約0.12 m・約0.6 m・29.6 mである。

遺物出土状況 覆土中から1点が出土する。

出土遺物 30は図示し得なかったが、内耳土器平底2片である。胎土は瓦質土器D群である。

第615号土坑 (SK-615) (第28・29・30・31図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16・17グリッドに位置する。**重複関係** SK-619より新しい。SK-614より古い。

形状・規模・主軸 p 47東側の段差を北壁と想定されるが、SK-616等との重複により不詳である。南北に長い長方形形状か。規模は、東西[1.1] m・南北[3.3] m、主軸はN-22°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.3 m、レベル29.9 mである。**覆土** 28～30層を確認した。**付属施設** 底面の範囲内にp 40～45を確認した。SK-616重複部に位置するp 46～50を併せて記載するが、何れも、本遺構への帰属等不詳である。或いは、SK-614 p 34・39同様、本遺構覆土を掘り込むか。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりであるが、p 43・50以外の深さは確認し得なかった。p 40:0.13 m前後、p 42:約0.08 m、p 42:約0.15 m、p 43:0.18 m前後・0.19 m・29.66 m、p 44:約0.14 m、p 45:約0.12 m、p 46:0.1 m前後、p 47:0.16 m前後、p 48:0.13 m前後、p 49:0.11 m前後、p 50:約0.18 m・約0.53 m・29.62 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第616号土坑 (SK-616) (第28・29・30・31図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16・17グリッドに位置する。**重複関係** SK-614・615・617・619との関連は不詳である。**形状・規模・主軸** 底面の段差から推定されるが、不詳な点が多い。東西に長い長方形形状か。p 47東側の段差を北壁西半、p 46付近を西壁と想定できるか。規模は、東西最大1.85 m・南北[0.75] m、主軸はN-60°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは確認し得なかったが、深さ0.3 m、レベル29.9 mのSK-615とほぼ平坦である。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** 底面の範囲内にp 51を確認した。帰属等不詳である。径0.1 m前後、底面レベルは不詳である。推定範囲内のp 45～50についても判然としない。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第617号土坑 (SK-617) (第28・29・30・31図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16・17グリッドに位置する。**重複関係** SK-54・615・618との関連は不詳である。**形状・規模・主軸** 平面プラン、セクション等から推定されるSK-615-SK-618に挟まれた部分、及び、SK-615西側の部分と判断されるが、不詳な点が多い。東西に長い長方形形状か。規模は、[4.0] m・南北[2.0] m、主軸はN-71°-Wか。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が認められる。遺構確認面からの深さは0.08～0.15 m、SK-615寄りのレベルは30.01 m、SK-618寄りの部分は30.02～30.08 m、SK-615西側は30.02 mである。**覆土** 31～34層を確認した。**付属施設** 底面にp 52、及びp 53・54を確認した。帰属等不詳である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりであるが、p 52以外の深さは確認し得なかった。P52:0.12 m前後・約0.35 m・26.69 m、p 53:0.15 m前後、p 54:0.15 m前後である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 618 号土坑 (SK-618) (第 28・29・30・31 図)

位置 Ⅲ - 1 区 O・N-16・17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-617 との関連は不詳である。**形状・規模・主軸** 平面プラン等から推定されるが、不詳な点が多い。東西に長い長方形か。規模は、[1.4] m・南北 [1.2] m、主軸は N-28° -E か。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約 0.09 m、レベル 30.06 m である。**覆土** 確認し得なかったが、炭化物やロームブロックを含む。**付属施設** 底面に p 61～63 を確認した。帰属等不詳である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりであるが、p 61 以外の深さは確認し得なかった。P61：0.18m 前後・約 0.32 m・26.83 m、p 53：0.15 m 前後、p 54：0.07 m 前後である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第 619 号土坑 (SK-619) (第 28・29・30・31 図)

位置 Ⅲ - 1 区 O・N-16・17 グリッドに位置する。**重複関係** SK-43 より古い。SK-616 との関連は不詳である。**形状・規模・主軸** 平面プラン、セクション等から推定されるが、不詳な点が多い。方形か。規模は、2.0 m 前後・南北 (1.8) m である。西壁がテラス状の張り出す。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは 0.1 m 前後、レベル 30.2 m である。テラス状の部分は遺構確認面からの深さ約 0.1 m、レベル 30.1 m である。**覆土** 35～37 層を確認した。**付属施設** 底面に p 56～60 を確認した。帰属等不詳である。各々の径・深さ・レベルは以下のとおりである。P56 はテラス状の部分にある。p 56：0.16 m 前後、p 57：約 0.19 m 前後・約 0.41 m・29.74 m、p 58：約 0.14 m、p 59：約 0.2 m・0.46 m・26.69 m、p 60：0.08 m 前後である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 620 号土坑 (SK-620) (第 32 図)

位置 Ⅲ - 1 区 N-16 グリッドに位置する。**重複関係** 覆土の堆積状況からは SK-620 → SK-61 → SK-621・SK-622 → SK-623 とみられる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。SK-61 との重複のより西側が判然としない。遺構として残る西壁を本遺構とするならば、底面の規模は、東西約 4.15 m、南北最大 1.32 m である。主軸は N-65° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは 0.13～0.2 m、レベル 29.98～29.93 m である。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** 底面に p 1 を確認した。帰属等不詳である。p 1 は径約 0.4 m・遺構確認面からの深さ約 0.54 m・レベル 29.61 m である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 621 号土坑 (SK-621) (第 32 図)

位置 Ⅲ - 1 区 N-16 グリッドに位置する。**重複関係** 覆土の堆積状況からは SK-620 → SK-61 → SK-621・SK-622 → SK-623 とみられる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は、東西約 1.2 m、南北約 0.43 m である。主軸は N-65° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは 0.3 m、レベル 29.84 m である。**覆土** 3 層を確認した。覆土の状況から攪乱である可能性が残る。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 622 号土坑 (SK-622) (第 32 図)

位置 Ⅲ - 1 区 N-16 グリッドに位置する。**重複関係** 覆土の堆積状況からは SK-620 → SK-61 → SK-621・SK-622 → SK-623 とみられる。**形状・規模・主軸** SP-A・B に確認した。規模は、東西 [1.3] m、南北 [1.3] m である。**底面** SK-61 覆土を掘り込む。遺構確認面からの深さは 0.11 m、レベル 30.0 m である。**覆土** 2 層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 623 号土坑 (SK-623) (第 32 図)

位置 Ⅲ - 1 区 N-16 グリッドに位置する。 **重複関係** 覆土の堆積状況からは SK-620 → SK-61 → SK-621・SK-622 → SK-623 とみられる。 **形状・規模・主軸** SP-A に確認した。規模は、東西 1.3 m である。

底面 SK-61 覆土を掘り込む。遺構確認面からの深さは 0.05 m、レベル 301 m である。 **覆土** 1 層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 625 号土坑 (SK-625) (第 39 図)

位置 Ⅲ - 1 区 O-16 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約 1.26 m・南北 0.54 m 前後である。主軸は N-22° -E である。

底面 ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.44 m、レベル 29.48 m である。 **覆土** 3 層を確認した。総じてロームブロックの混入が目立つ。 **遺物出土状況** 覆土中から 5 片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、土師器甕底部とみられる小片 1 片、内耳土器体部 4 片である。内耳土器は、2 片が胎土 C 群、2 片が胎土 D 群である。

第 626 号土坑 (SK-626) (第 47・52 図 表 38)

位置 Ⅲ - 1 区 P-15 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-626 → SK-627 → SD-72 → SK-39 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約 0.54 m・南北 0.32 m 前後である。主軸は N-24° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.25 m、レベル 29.6 m である。 **覆土** 11～14 層を確認した。 **遺物出土状況** 覆土中から 7 片が出土する。

出土遺物 1 は内耳土器口縁部片。仕上げは精緻で痕跡は薄い。

この他、図示し得なかった出土遺物は内耳土器口縁部 1 片、体部 5 片である。体部の 1 片は胎土 D 群、この他は C 群である。

第 627 号土坑 (SK-627) (第 52 図)

位置 Ⅲ - 1 区 P-15 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-626 → SK-627 → SD-72 → SK-39 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** 中段部を持ち、底面は南北に長い溝状である。中段部の規模は、東西約 1.0 m・南北約 0.8 m・深さ 0.3 m 前後・レベル 29.7 m である。底面の規模は、東西約 0.26 m・南北 0.63 m 前後である。主軸は N-22° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.48 m、レベル 29.52 m である。 **覆土** 7～10 層を確認した。 **遺物出土状況** 覆土中から陶器 2 片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

陶器 2 片は何れも微細片である。1 片は天目碗体部微細片か。1 片は内外面に白濁釉を施す。碗類か。

第 628 号土坑 (SK-628) (第 39 図)

位置 Ⅲ - 1 区 P-15 グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。 **重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西 (0.33) m・南北約 0.94 m、主軸は N-27° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.1 m、レベル 29.73 m である。

覆土 確認し得なかった。 **付属施設** p 1・2 が確認される。帰属等は不明である。何れも、径 0.1 m 前後である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 635 号土坑 (SK-635) (第 26 図)

位置 Ⅲ - 1 区 O-15 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-41 → 638・639、SK-638 → 636・637、SK-636 → 635 の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。北壁東寄りの掘り込みの詳細は不詳である。底面の規模は、東西約 2.62 m・南北 0.8 m 前後である。主軸

第3章 確認された遺構と遺物

はN-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.28 m、レベル29.76 mである。

覆土 1～5層を確認した。**付属施設** 南壁西寄りにp1・2を確認したが、帰属等、詳細は不明である。p1は東西約0.2 m・南北約0.3 m・深さ約0.13 m・レベル29.52 m、p2は径約0.15 m・深さ約0.45 m・レベル29.5 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第636号土坑 (SK-636) (第26図)

位置 III-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。SK-637との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、南北約0.8 mである。東西はSK-264との重複により不明であるが、南北の幅が狭まる付近、[1.5] mほどか。主軸はN-80°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。SK-637の底面とほぼ同レベルである。確認面からの深さは約0.18 m、レベル29.8 mである。**覆土** 6・7層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第637号土坑 (SK-637) (第26図)

位置 III-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。SK-636との新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 円形状か。北側は掘りすぎた部分があるか。底面の規模は、南北(0.5) mである。東西はSK-636との重複により不明であるが、南北の幅が狭まる付近、[2.2] mほどか。主軸はN-76°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。SK-636の底面とほぼ同レベルである。確認面からの深さは約0.15 m、レベル29.84 mである。**覆土** 8層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第638号土坑 (SK-638) (第26図)

位置 III-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。**形状・規模・主軸** 南北に長い方形形状である。10層の堆積状況から掘り直しや別遺構の可能性を考え得るが、明瞭にし得なかった。底面の規模は、東西約0.87 m・南北約1.08 mである。主軸はN-11°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.32 m、レベル29.68 mである。**覆土** 9・10層を確認した。ロームを多量に含む黄褐色土である。**遺物出土状況** SK-41・638・639を含む覆土中から59点が出土する。SK-41に記載する。

第639号土坑 (SK-639) (第26図)

位置 III-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-41→638・639、SK-638→636・637、SK-636→635の順に重複する。概ね、南から北へ掘り込む。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。北側は掘りすぎた部分があるか。底面の規模は、東西[1.64] m・南北約0.46 mである。主軸はN-14°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.1 m、レベル29.88 mである。**覆土** 11層を確認した。**遺物出土状況** SK-41・638・639を含む覆土中から59点が出土する。SK-41に記載する。

第640号土坑 (SK-640) (第27図)

位置 III-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-56より古い。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い不整形である。底面の規模は、東西0.44 m前後m・南北(1.1) mである。主軸はN-37°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.14 m、レベル29.96 mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第641号土坑 (SK-641) (第33図)

位置 III-1区O-15グリッドに位置する。**重複関係** SD-642→SK-75→SK-641の順に重複する。

形状・規模・主軸 南壁に方形の突出部を持つ不整形である。SK-74 との重複により不詳であるが、底面の規模は、東西 [1.4] m、南北 [1.38] m・突出部 (0.26) mである。主軸は N-56° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.11 m、レベル 29.84 m である。 **覆土** 突出部の 1 層を確認した。

付属施設 p 1 が確認される。南側にテラス状の張り出し部がみられる。帰属等詳細は不明である。東西約 0.44 m、南北約 0.24 m・張り出し部まで約 0.46 m、遺構確認面からの深さ約 0.45 m、レベル 29.5 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 643 土坑 (SK-643) (第 25 図)

位置 III - 1 区 P-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-643・644・645 → SK-51 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** SK-51 との重複により判然としないが、南北に長い長形状である。底面の規模は、東西 0.36 ~ 0.46 m、南北 (0.54) m である。主軸は N-16° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ 0.1 m 前後・レベル 29.89 m である。 **覆土** 8 ~ 10 層を確認した。ローム主体の黄褐色土である。9・10 層は p 1・2 覆土である。p 1・2 堆積後本遺構の覆土が堆積する。

付属施設 底面に p 1・2 を確認した。帰属等は不詳である。p 1 は径約 0.11 m・遺構確認面からの深さ約 0.48 m・レベル 29.73 m、p 2 は径 0.37 m 前後・遺構確認面からの深さ約 0.37 m・レベル 29.5 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 644 土坑 (SK-644) (第 25 図)

位置 III - 1 区 P-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-643・644・645 → SK-51 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** SK-51 との重複、区外に延びることから不詳な点が多い。SK-51 西側、及び、SK-51 東側南半部にあたとみられる。底面の規模は、東西 (0.6) m、南北 (0.88) m である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.2 m・レベル 29.74 ~ 29.8 m である。

覆土 11 ~ 15 層を確認した。ローム主体の黄褐色土である。13 ~ 15 層は p 3 覆土であり、本遺構堆積後に穿たれたか。 **付属施設** 底面に p 1 ~ 3 を確認した。覆土の堆積状況から p 1 は本遺構に伴うか。p 3 は堆積後の掘り込みか。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは、p 1 : 約 0.15 m・約 0.29 m・29.67 m、p 2 : 約 0.15 m・約 0.4 m・29.54 m、p 3 : 0.18 m 前後・約 0.36 m・29.6 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 645 土坑 (SK-645) (第 25 図)

位置 III - 1 区 P-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-643・644・645 → SK-51 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** SK-51 との重複、区外に延びることから不詳な点が多い。SK-51 東側北半部にあたとみられる。底面の規模は、東西 (1.47) m、南北 (0.75) m である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.18 m・レベル 29.75 m 前後である。 **覆土** 16・17 層を確認した。ローム主体の黄褐色土である。 **付属施設** 底面に p 1 を確認した。覆土の堆積状況から本遺構に伴うか。径 0.15 m 前後・遺構確認面からの深さ約 0.14 m・レベル 29.68 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 646 号土坑 (SK-646) (第 25 図)

位置 III - 1 区 O-14 グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-647 → SK-648 → SK-646 → SK-37 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** 概ね東西に長い。底面の規模は、東西 (2.6) m・南北 0.5 m 前後である。主軸は N-67° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.54 m、レベル 29.42 m である。 **覆土** 21 ~ 23 層を確認した。24 層も本遺構の覆土か。ロームを主体とす

る黄褐色土である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 647 号土坑 (SK-647) (第 25 図)

位置 Ⅲ - 1 区 O-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-647 → SK-648 → SK-646 → SK-37 の順に重複する。 **形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。底面の規模は、東西 0.55 ～ 0.68 m ・南北 (1.0) m である。主軸は N-31° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.34 m、レベル 29.6 m である。 **覆土** 25・26 層を確認した。27 層も本遺構の覆土か。ロームが多く堆積する黄褐色土である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 648 号土坑 (SK-648) (第 25 図)

位置 Ⅲ - 1 区 P-14 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-647 → SK-648 → SK-646 → SK-37 の順に重複する。SK-271 より新しい。 **形状・規模・主軸** 重複により不詳な点が多い。底面の規模は、東西約 0.46 m ・南北(0.6) m である。 **底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.13 m、レベル 29.8 m である。 **覆土** 27・28 層を確認した。 **付属施設** p 1 を確認した。帰属等詳細は不明である。径約 0.26 m ・深さ約 0.54 m ・レベル 29.34 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 649 号土坑 (SK-649) (第 24 図)

位置 Ⅲ - 1 区 O-14 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-47 → SK-649 ・SK-651 → SK-650 の順に重複する。SK-47 : SK-650 ・SK-649 : SK-650 の新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 北西 - 南東に長い形状である。東・西側は底面の高さに差異が認められる。便宜的に、西側の高い部分を A、東側の低い部分を B とする。底面の全長は約 2.3 m である。A の東西約 0.87 m ・南北約 0.3 m、B の東西 (1.4) m ・南北 (0.2 m) である。主軸は N-68° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。A の深さは約 0.18 m ・レベル約 29.82 m である。 **覆土** 1 層を確認した。 **付属施設** p 6 ～ 8 が確認される。帰属等、詳細は不明である。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは以下のとおりである。p 6 : 約 0.28 m ・約 0.54 m ・29.46 m、p 7 : 約 0.13 m、p 8 : 東西約 0.3 m 南北約 0.34 m ・約 0.55 m ・29.45 m である。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 650 号土坑 (SK-650) (第 24 図)

位置 Ⅲ - 1 区 O-14 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-47 → SK-649 ・SK-651 → SK-650 の順に重複する。SK-47 : SK-650 ・SK-649 : SK-650 の新旧関係は不明である。5 層は後出するピットである可能性も考えられるが、。詳細は不明である。 **形状・規模・主軸** 北西 - 南東に長い長方形である。底面の規模は、東西約 1.25 m ・南北約 0.35 m である。主軸は N-62° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.43 m ・レベル約 29.59 m である。 **覆土** 5 ～ 10 層を確認した。5 層は後出するピット覆土か。8 層の堆積状況から掘り直し、重複等が考えられるが判然としない。6 ～ 8 層は似た特徴が観察される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 651 号土坑 (SK-651) (第 24 図)

位置 Ⅲ - 1 区 O-14 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-47 → SK-649 ・SK-651 → SK-650 の順に重複する。SK-47 : SK-650 ・SK-649 : SK-650 の新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 重複等により判然としないが、円形状か。底面の規模は、径 (1.04) m である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.14 m ・レベル約 29.88 m である。 **覆土** 11 層を確認した。5 層は後出するピット覆土か。8 層の堆積状況から掘り直し、重複等が考えられるが判然としない。6 ～ 8 層は似

た特徴が観察される。**付属施設** p 9が確認される。帰属等、詳細は不明である。径約 0.24 m・遺構確認面からの深さ約 0.5 m・レベル 29.5 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 704 号土坑 (SK-704) (第 17 図)

位置 Ⅲ - 2 区 N-13 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** SE-93 より新しい。
形状・規模・主軸 判然としないが、北東 - 南西に長い形状か。或いは井戸跡の可能性も残る。現状の遺構確認面の規模は、幅 (0.8) mである。**底面** ローム層を掘り込む。現状で遺構確認面からの深さ約 0.5 m・レベル約 29.62 mまでを確認したが、底面は調査区外にあるとみられる。**覆土** 1～3層を確認した。詳細は不詳である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 706 号土坑 (SK-706) (第 17 図)

位置 Ⅲ - 2 区 N-12 グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-705 (地下式坑) → SK-95 → SK-706 → SK-707 (方形竪穴遺構) の順に重複する。**形状・規模・主軸** 遺構の大部分は調査区外にあるとみられ、詳細は不明である。底面の規模は、東西 (0.74) m・南北 (0.65) m、主軸 N-66° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約 0.32 m・レベル約 30.28 mである。**覆土** 7・8層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 710 号土坑 (SK-710) (第 32 図)

位置 Ⅲ - 3 区 L-11 グリッドに位置する。**重複関係** SK-80 より新しい。**形状・規模・主軸** SK-80-SP-A に確認した。詳細は不明である。底面の規模は、南北 (0.4) mである。**底面** SK-80 覆土を掘り込む。確認面からの深さは約 0.18 m、レベル 30.5 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 711 号土坑 (SK-711) (第 41・42・43 図)

位置 Ⅲ - 3 区 L-10・11 グリッドに位置する。**重複関係** SK-711 → SK-713、SK-713 → SK-712、SK-713 → SK-714、SK-716 → SK-714 の順に重複する。SK-711-712、SK-713-SK-714 の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 北東 - 南西方向に長い長方形状である。底面の規模は、東西約 0.75m・南北約 1.67 mである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約 0.35 m、レベル 30.53 mである。**覆土** 1～5層を確認した。5層は p 1 から壁面付近に堆積する。**付属施設** 南西隅部付近に p 1 が確認される。帰属等は不詳であるが、壁面付近に堆積する 5層が観察される。径約 0.35 m、遺構確認面からの深さ約 0.32 m・底面からの深さ約 0.06 m、レベル 30.47 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 712 号土坑 (SK-712) (第 41・42・43 図)

位置 Ⅲ - 3 区 L-10 グリッドに位置する。**重複関係** SK-711 → SK-713、SK-713 → SK-712、SK-713 → SK-714、SK-716 → SK-714 の順に重複する。SK-711-712、SK-713-SK-714 の新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 平面図は SK-713- 9層が地山ローム層を掘り込んだ可能性を反映する。ロームを主体とする黄褐色土が堆積する本遺構 15～17層を誤認したものと判断され、本遺構平面形は、図示した北東 - 南西方向に長い形状と推定される。底面の規模は、東西 [0.4]m・南北 [1.3] m、主軸は N-25° -E である。

底面 SK-340- 9層を掘り込む。前述のとおり、9層には地山ローム層を掘り込んだ可能性が残る。確認面からの深さは約 0.22～0.43 m、レベル 30.63～30.46 mである。底面には凹凸が観察されるが、ピット状の 15層に起因するか。**覆土** 11～15層を確認した。11～14層は暗褐色土、15～17層はローム主体の黄褐色土であり、上・下層で大きく二分される。16・17層はピット状の 15層の埋土状に堆積する。

本来の底面は15～17層上面である可能性も考えられる。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第713号土坑 (SK-713) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。 **重複関係** SK-711→SK-713、SK-713→SK-712、SK-713→SK-714、SK-716→SK-714の順に重複する。SK-711-712、SK-713-SK-714の新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 重複により判然としないが、北東-南西に長い形状か。底面の規模は、東西[0.6]m・南北[1.4]m、主軸N-24°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。9層は地山ローム層を掘り込む可能性が残る。確認面からの深さは約0.5m・レベル30.4m、9層を地山とした場合の深さは約0.4m・レベル30.5mである。 **覆土** 6～10層を確認した。9層は地山ローム層を掘り込む可能性が残る。セクション図中に破線で示した。10層は壁面等の崩落土か。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第714号土坑 (SK-714) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。 **重複関係** SK-711→SK-713、SK-713→SK-712、SK-713→SK-714、SK-716→SK-714の順に重複する。SK-711-712、SK-713-SK-714の新旧関係は不明である。

形状・規模・主軸 北東-南西に長い形状である。底面の規模は、東西約1.6m・南北約0.52m、主軸N-27°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.42m・レベル30.42mである。

覆土 18～21層を確認した。18・19層は後世の掘り込みである可能性も考え得る。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第716号土坑 (SK-716) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。 **重複関係** SK-716→SK-714・717、SK-716→SK-717の順に重複する。SK-711-712、SK-713-714の新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。西側は平面形状から推定されるが、東側は底面もほぼ同レベルであり、判然としない。北東-南西に長い形状とみられる。底面の規模は、東西(0.3)m・南北(0.88)m、主軸N-(27)°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.42m・レベル30.44mである。 **覆土** 22～24層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第717号土坑 (SK-717) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。 **重複関係** SK-716→SK-714・717、SK-716→SK-717の順に重複する。SK-711-712、SK-713-714の新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。西側は平面形状から推定されるが、東側は底面もほぼ同レベルであり、判然としない。北東-南西に長い形状とみられる。底面の規模は、東西(0.5)m・南北(0.52)m、主軸N-(29)°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.42m・レベル30.44mである。 **覆土** 25～27層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第718号土坑 (SK-718) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-11グリッドに位置する。 **重複関係** SK-716→SK-714・717、SK-716→SK-717の順に重複する。SK-711-712、SK-713-714の新旧関係は不明である。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。西側は平面形状から推定されるが、東側は底面もほぼ同レベルであり、判然としない。北東-南西に長い形状とみられる。底面の規模は、東西(0.22)m・南北(0.36)m、主軸N-(28)°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.4m・レベル30.45mである。 **覆土** 28～30層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第719号土坑 (SK-719) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722 → SK-716 → SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。SK-730とはSP-DにSK-730が観察されないことから、本遺構が新しい可能性が考えられるか。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い形状とみられる。底面の規模は、東西[2.06]m・南北(0.46)m、主軸N-60°Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.5m・レベル30.48mである。**覆土** 31～34層を確認した。**付属施設** p2が確認される。東西約0.1m・南北約0.14m、遺構確認面からの深さ約0.42m・底面からの深さ0.1m前後、レベル30.52mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第720号土坑 (SK-720) (第41図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722 → SK-719 → SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により判然としない。北西隅部の屈曲部を西壁とする北東-南西に長い形状か。南側のテラス状の中段部は37～39層が堆積する。本遺構に伴うか。底面の規模は、東西[1.06]m・南北(1.55)m、主軸N-(29)°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.52m・レベル30.44mである。中段部は、SP-Fから、遺構確認面からの深さ約0.48m・レベル30.58mとみられる。**覆土** 35～43層を確認した。SP-E(35～40層)・SP-F(41～43層)は暗褐色土を基本とする。層序からは、35層-41層、36・37層-42層、38・39層-43層が対応関係にあるが、ローム粒子・ロームブロックの堆積状況に差異がみられる。別遺構である可能性も僅かながら残る。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第721号土坑 (SK-721) (第41図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722 → SK-719 → SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 詳細は不明である。遺構完掘状況からp1のある屈曲部を南西隅部とする方形状が推定可能か。底面の規模は、南北(1.2)m、主軸N-(30)°Eである。**底面** ローム層を掘り込む。詳細は不明である。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** p3～5が確認される。帰属等詳細は不明である。p5は三角形に掘り込まれる。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは、p3：約0.2m、p4：約0.25m(底面の径約0.07m)・遺構確認面からピット底面まで約0.6m・30.36m、p5：東西約0.36m南北約0.54m・約0.57m・30.39mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第722号土坑 (SK-722) (第41図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722 → SK-719 → SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明であるが、北西-南東に長い長方形か。底面の規模は、東西約1.35m・南北[0.25]m、主軸N-62°Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.22m・レベル30.74mである。**覆土** 44層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第723号土坑 (SK-723) (第41図)

位置 Ⅲ-3区L-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-722 → SK-719 → SK-723の順に重複する。SK-719-720、SK-720-726の新旧関係は不明である。SK-730とはSP-DにSK-730が観察されないことから、本遺構が新しい可能性が考えられるか。**形状・規模・主軸** 北西-南東に長い形状である。南壁中央部、SP-H西側の屈曲部の詳細は不明である。SK-730南東隅部の可能性も考え得る。底面の規模は、東西約2.25m、

第3章 確認された遺構と遺物

南北 SP-I 付近 [0.4] m、主軸 N-63° W である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約 0.56 m・レベル 30.45 m である。**覆土** 45～48 層を確認した。48 層は 45～47 層に対応か。**付属施設** p 6・7 が確認される。帰属等詳細は不明である。p 6 は東西約 0.14 m・南北約 0.22 m、p 7 は東西約 0.3 m・南北約 0.42 m、遺構確認面からの深さ約 0.7 m・底面からの深さ約 0.12 m、レベル 30.34 m である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 724 号土坑 (SK-724) (第 41・42・43 図)

位置 III - 3 区 L-10 グリッドに位置する。**重複関係** SK-722 → SK-719 → SK-723 → SK-724、SK-724 → SK-728 → SK-727、SK-724 → SK-723 → SK-727 → SK-732 の順に重複する。**形状・規模・主軸** 北西 - 南東に長い形状である。西壁の屈曲部の詳細は不明である。底面の規模は、東西 (2.12) m、南北 0.63～0.7 m、主軸 N-61° W である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは 0.6～0.68 m・レベル 30.4 m である。**覆土** 49～56 層を確認した。49 層 -53 層、50 層 -54・55 層、51・52 層 -56 層に対応か。概ね、堆積土の特徴は似る。**付属施設** p 8 が確認される。帰属等詳細は不明である。東西約 0.14 m・南北約 0.07 m である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 725 号土坑 (SK-725) (第 41 図)

位置 III - 3 区 K-10 グリッドに位置する。**重複関係** SK-725 → SK-723 → SK-724 の順に重複する。**形状・規模・主軸** 重複により判然としないが、北西 - 南東に長い長方形か。底面の規模は、東西 (0.45) m、南北約 0.37 m、主軸 N-72° W である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約 0.4 m・レベル 30.46 m である。**覆土** 57～59 層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 726 号土坑 (SK-726) (第 41・42・43 図)

位置 III - 3 区 L-10 グリッドに位置する。**重複関係** SK-723 → SK-724 → SK-728 → SK-727 → SK-726、或いは、SK-732 → SK-731 とすれば、SK-723 → SK-724 → SK-728 → SK-732 → SK-731 → SK-727 → SK-726 の順に重複するか。**形状・規模・主軸** 西側の掘り込みは帰属等不詳である。平面図は北西 - 南東に長い長方形の掘り込みを图示するが、SP-G からは北半部の掘り込みは観察されない。地山ロームを掘り込む可能性があるか。本遺構の形状は、現状の東・西・南壁及び SP-G に観察される SK-727 との分層部を北壁とする、やや北東 - 南西に長い長方形か。底面の規模は、東西 0.65 m 前後・南北 (0.8) m、主軸 N-26° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。SK-727 - p 9 の深さは、SK-727 底面から約 0.2 m、本遺構底面から約 0.03 m である。平面図北側は p 9 の深さを誤認し地山ロームを掘り込んだか。遺構確認面からの深さは約 0.8 m・レベル 30.22 m である。**覆土** 60～62 層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 727 号土坑 (SK-727) (第 41・42・43 図)

位置 III - 3 区 L-10 グリッドに位置する。**重複関係** SK-723 → SK-724 → SK-728 → SK-727 → SK-726、或いは、SK-732 → SK-731 とすれば、SK-723 → SK-724 → SK-728 → SK-732 → SK-731 → SK-727 → SK-726 の順に重複するか。**形状・規模・主軸** 重複のため詳細は不詳である。本遺構西側底面となる SK-726 北側の掘り込みは SP-G には観察されない。地山ロームを掘り込む可能性があるか。本遺構の形状は、SP-G・H、SK-728 との底面の差異から、やや北西 - 南東に長い長方形か。底面の規模は、東西 1.0 m 程度・南北 [0.8] m、主軸 N-58° -W か。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約 0.62 m・レベル 30.6 m 前後である。**覆土** 63～65 層を確認した。**付属施設** p 9 が確認される。帰属等は不詳である。径約 0.17 m、遺構確認面からの深さ約 0.83 m・本遺構底面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.19

mである。SK-728 底面からの深さは約 0.03 mである。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 728 号土坑 (SK-728) (第 41・42・43 図)

位置 Ⅲ - 3 区 L-10 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-723 → SK-724 → SK-728 → SK-727 → SK-726、或いは、SK-732 → SK-731 とすれば、SK-723 → SK-724 → SK-728 → SK-732 → SK-731 → SK-727 → SK-726 の順に重複するか。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。北東 - 南西に長い形状か。底面の規模は、東西約 0.7 m・南北 (0.65) m、主軸 N-28° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは 0.29 ~ 0.33 m、レベル 30.74 ~ 30.68 mである。 **覆土** 66・67 層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 729 号土坑 (SK-729) (第 41・42・43 図)

位置 Ⅲ - 3 区 L-10 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-720 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 遺構北側は攪乱穴によって失う。北東 - 南西に長い形状か。底面の規模は、東西約 0.6 m・南北 (1.28) m、主軸 N-28° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約 0.76 m、レベル 30.26 mである。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 730 号土坑 (SK-730) (第 41・42・43 図)

位置 Ⅲ - 3 区 L-10 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-719・722・723 とは新旧不明である。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。北西隅部が確認される。SK-723 南壁の屈曲部が南東隅部である可能性を考え得る。北西 - 南東に長い形状か。底面の規模は、東西 (0.35) m・南北 (0.6) mである。SK-723 南壁屈曲部を南東隅部とした場合、東西 [1.5] m・南北 [0.6] m、主軸 N-60° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。深さレベルは不詳であるが、SK-723 同様、遺構確認面からの深さ [0.67] m、レベル 30.34 mか。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 731 号土坑 (SK-731) (第 41・42・43 図)

位置 Ⅲ - 3 区 K-10 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-723 → SK-724 → SK-728 → SK-727 → SK-726、或いは、SK-732 → SK-731 とすれば、SK-723 → SK-724 → SK-728 → SK-732 → SK-731 → SK-727 → SK-726 の順に重複するか。 **形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。東壁、北壁東側の屈曲は不詳である。遺構が重複する可能性も考え得る。SP-J によれば、東壁端部は図中の破線部と想定され、東壁南側のラインとはほぼ一致する。北西 - 南東に長い形状か。底面の規模は、東西 [1.65] m・南北 (東端部付近約 0.88 m・SP-H 付近約 1.07 m)、主軸 N-61° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.6 m、レベル 30.4 m前後である。 **覆土** 68 ~ 78 層を確認した。SP-G・H は 70・71・73・75 層、SP-I は 68・70・71・73・75 層、SP-J は 69 ~ 75 層、SP-K は 70・71・73・75 ~ 78 が堆積する。各セクションの交点の土層は多少の差異がみられるが、概ね、70・71・73・75 層に纏められる。 **付属施設** p 10 が確認される。帰属等は不詳である。東西約 0.4 m・南北約 0.16 m、遺構確認面からの深さ約 0.71 m・底面からの深さ約 0.11 m、レベル 30.27 mである。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 732 号土坑 (SK-732) (第 41・42・43 図)

位置 Ⅲ - 3 区 K-10 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-727・728・733 との新旧は不詳である。 **形状・規模・主軸** 重複により判然としないが、北西 - 南東に長い形状か。底面の規模は、東西 [0.3] m・南北 (0.45) m、主軸 N-62° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.62 m、レベル 30.45 mである。 **覆土** 79 ~ 82 層を確認した。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第733号土坑 (SK-733) (第41・42・43図)

位置 Ⅲ-3区K-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-724・728・732との新旧関係は不詳である。

形状・規模・主軸 北東-南西に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.47)m・南北(1.2)m、主軸N-26°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さは約0.3m、レベル30.7mである。

覆土 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第735号土坑 (SK-735) (第36図)

位置 Ⅱ区R-17グリッドに位置する。**重複関係** SK-108→SK-735の順に覆土が堆積する。SK-736との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 概ね、東西に長い円形状である。底面の規模は、東西約0.56m・南北約0.5mである。南壁はオーバーハングする。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が確認される。確認面からの深さ約0.35m、レベル約29.7mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第736号土坑 (SK-736) (第36図)

位置 Ⅱ区R-17グリッドに位置する。**重複関係** SK-108→SK-735の順に覆土が堆積するが本遺構との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 概ね、南北に長い円形状である。底面の規模は、東西(0.24)m・南北(0.48)mである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。SK-108ほどの深さ・底面レベルか。

覆土 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第737号土坑 (SK-737) (第52図)

位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** SD-72→SK-737の順に覆土が堆積する。**形状・規模・主軸** 概ね、南北に長い円形状とみられる。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.82mである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.04m、底面レベル29.84である。SD-72底面より0.02mほど高い。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第738号土坑 (SK-738) (第26図)

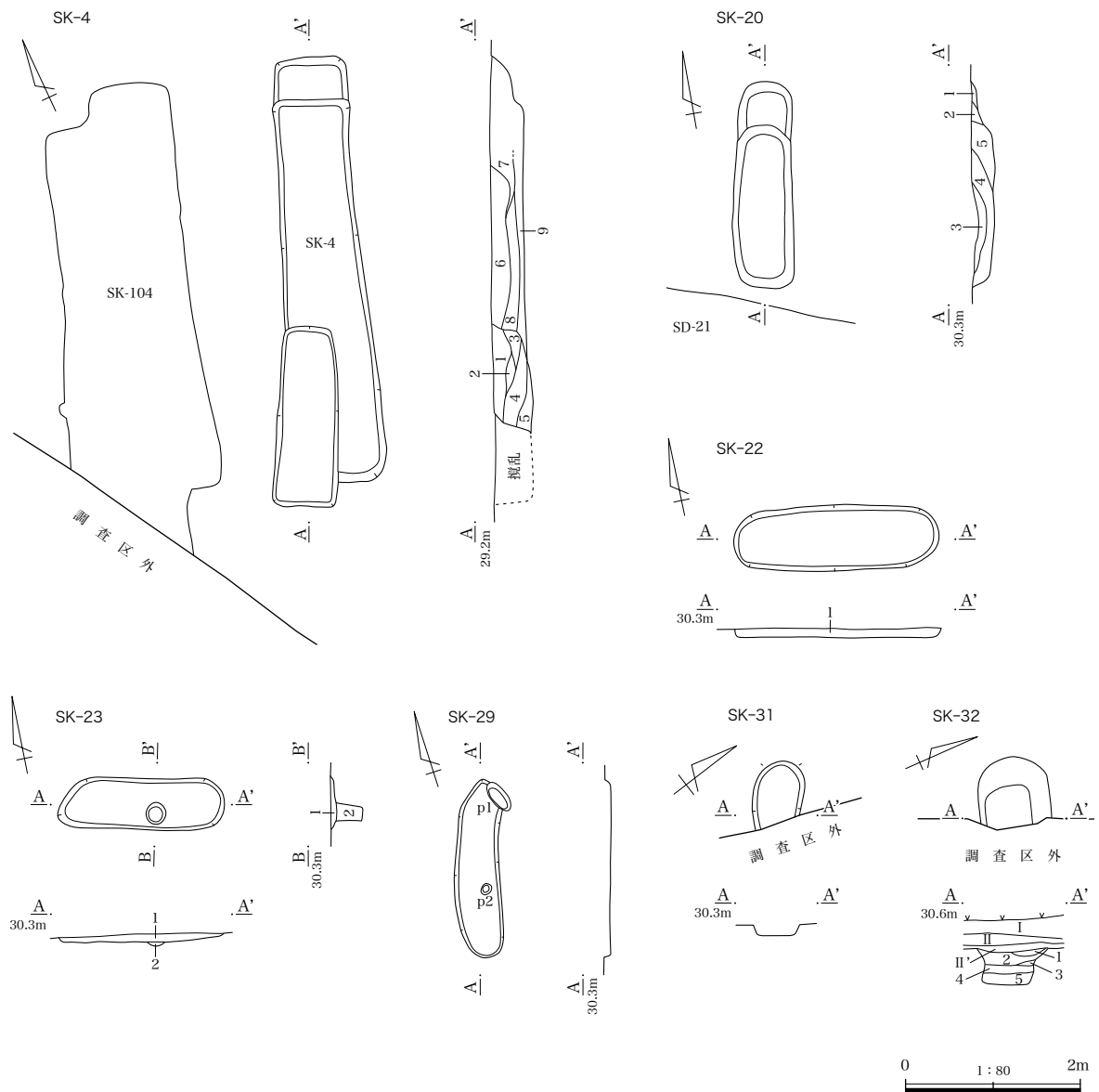
位置 Ⅲ-1区O-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-738・739→SK-38の順に重複する。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い不整形である。底面の規模は、東西(0.9)m・南北約1.0mである。主軸はN-36°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.06m、レベル29.93mである。

覆土 SP-A-7層を確認した。**付属施設** 底面にp1～3が確認される。帰属等詳細は不明である。p2・p3は重複するが詳細は不明である。p1は、SK-738底面の東西約0.24m・南北約0.36mであり、中段をもって底面に至る。底面の規模は東西約0.12m・南北約0.08mである。SK-378底面からの深さ約0.15m、底面レベル29.78mである。SK-365底面の東西約0.036m・南北約0.28mであり、段をもって底面に至る。底面の径0.08m前後である。p3のSK-738底面の東西約0.1m・南北(0.1)mである。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部片1片、内耳土器口縁部片1片である。内耳土器の胎土は瓦質土器C群である。

第739号土坑 (SK-739) (第26図)

位置 Ⅲ-1区O・N-16グリッドに位置する。**重複関係** SK-738・739→SK-38の順に重複する。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い不整形である。南側はSK-38との重複により、北側は攪乱により失う。底面の規模は、東西約0.74m・南北(1.0)mである。主軸はN-19°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さは約0.1m、レベル30.02mである。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** 底面にp1



SK-4

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。
- 2 暗黄褐色土 1層よりロームブロック少量。
- 3 暗黄褐色土 2層よりロームブロック少量。
- 4 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- 5 黒暗褐色土 ローム粒子少量。
- 6 暗黄褐色土 1層よりロームブロック少量。しまりあり。
- 7 灰褐色土 粘土含む。しまりなし。
- 8 暗黄褐色土 6層よりロームブロック少量。
- 9 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりあり。

SK-20

- 1 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
- 2 黄褐色土 1層同様ローム主体であるが、1層より黒色土含む。
- 3 明褐色土 ロームブロック (0.5~1.0cm 大) 主体。しまりなし。
- 4 暗褐色土 3層よりローム少量。やや暗色。しまりなし。
- 5 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量。しまりなし。

SK-22

- 1 黄褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。

SK-23

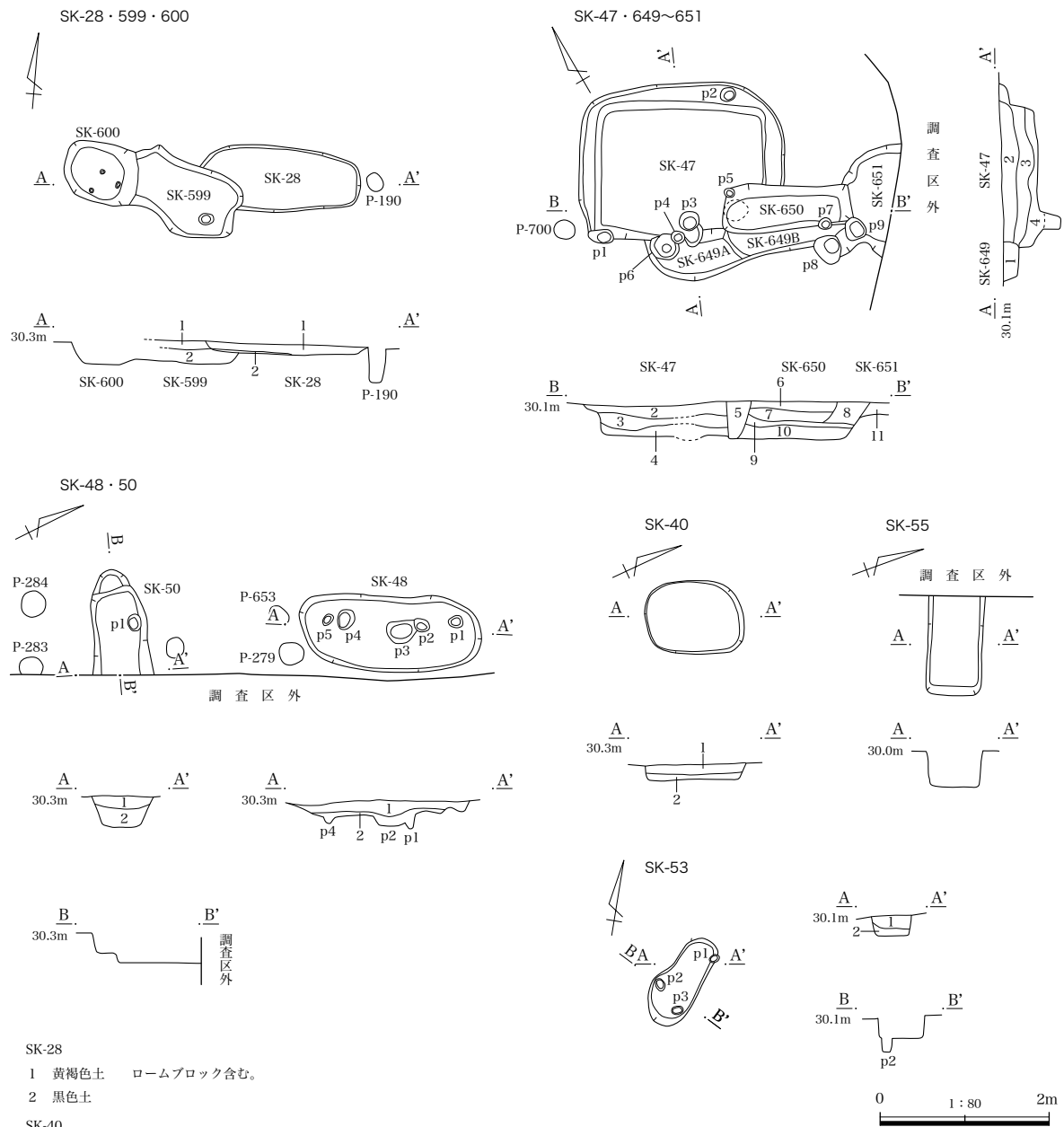
- 1 黄褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。

SK-32

- I 表土 明褐色土。
- II 表土 暗褐色土。
- II' 表土 黒色土。ローム粒子・炭少量。
- 1 黄褐色土 鹿沼土ブロック含む。しまりなし。
- 2 黄褐色土 ロームブロック (2.0~3.0cm 大) 含む。しまりなし。
- 3 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりなし。
- 4 暗黄褐色土 ローム多量。しまりなし。
- 5 暗黄褐色土 大粒のロームブロック含む。しまりなし。

第23図 第4・20・22・23・29・31・32号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-28

- 1 黄褐色土 ロームブロック含む。
- 2 黒色土

SK-40

- 1 明褐色土 ロームブロック (2.0~4.0cm 大) をまだらに含む。しまりあり。粘性あり。
- 2 暗褐色土 1層よりロームブロック少量。しまりあり。粘性あり。

SK-47

- 2 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 3 明黄褐色土 ロームブロック多量。
- 4 明褐色土 2層に似るが、ローム粒子少量、ロームブロック多量。

SK-48

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (2.0~4.0cm 大) 含む。
- 2 明褐色土 1層よりローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

SK-50

- 1 暗褐色土 ロームブロック (2.0cm 大) 少量。
- 2 明褐色土 1層よりロームブロック多量。しまりなし。

SK-53

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりなし。
- 2 黄褐色土 ローム主体。しまりなし。

SK-599

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 1層よりローム粒子多量。

SK-649

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりなし。

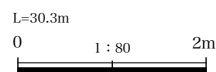
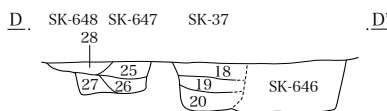
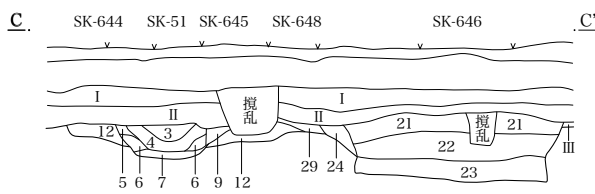
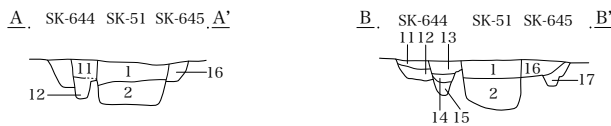
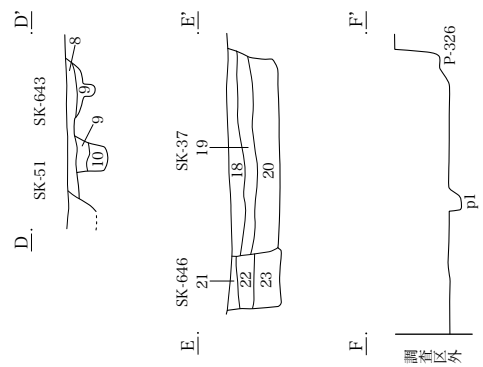
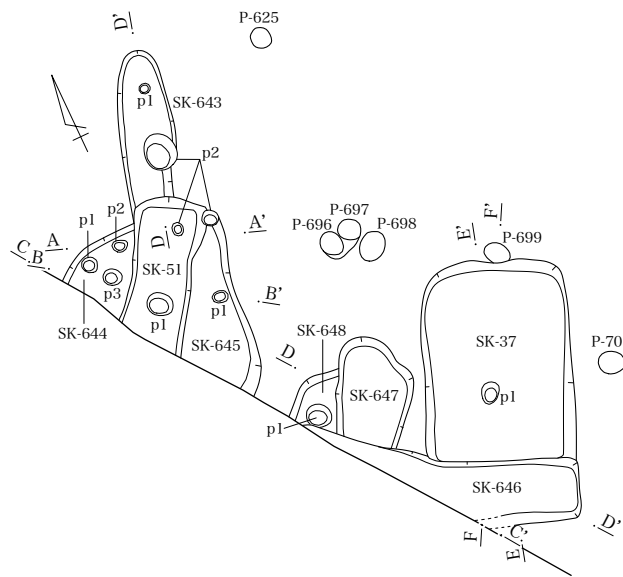
SK-650

- 5 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりなし。
- 6 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりなし。
- 7 暗褐色土 ロームブロックは6層より多量。しまりなし。
- 8 暗褐色土 7層に似る。
- 9 暗褐色土 7層よりやや暗色。同層よりロームブロック少量。しまりなし。
- 10 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

SK-651

- 11 暗褐色土 ローム少量。

第24図 第28・40・47・48・50・53・55・599・600・649～651号土坑実測図



- I 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
- II 暗褐色土 I層よりローム粒子多量。しまりあり。
- III 黄褐色土 ローム地山。

SK-37

- 18 暗褐色土 SK-646の21~23層よりロームブロック少量。
- 19 暗褐色土 ロームブロックは18層と似る。下層に黒色土。
- 20 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりあり。粘性あり。

SK-51

- 1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。粘性なし。
- 2 明黒褐色土 I層に似る。同層より明色。
- 3 明褐色土 ローム粒子・炭化物粒子少量。しまりあり。
- 4 明黄褐色土 ロームブロック(2.0~3.0cm大)・炭化材含む。
- 5 暗黄褐色土 ローム多量。
- 6 暗黄褐色土 5層よりローム粒子多量。
- 7 黒褐色土 ローム含む。炭化材多量。

SK-643

- 8 黄褐色土 ローム主体。しまりなし。粘性あり。
- 9 黄褐色土 ロームブロック主体。8層より明色。
- 10 黄褐色土 9層と似る。

SK-644

- 11 暗黄褐色土 ローム多量。
- 12 黄褐色土 ローム主体。しまりあり。
- 13 黄褐色土 ローム主体。
- 14 明黄褐色土 ローム主体。13層より明色。
- 15 黄褐色土 ローム主体。

SK-645

- 16 暗黄褐色土 ロームがまだらに混じる。しまりなし。
- 17 黄褐色土 ローム主体。しまりなし。

SK-646

- 21 暗褐色土 ロームブロック少量。
- 22 明褐色土 21層よりロームブロック多量。
- 23 暗褐色土 ロームブロックは21層と似るが、22層より少量。
- 24 明黄褐色土 ローム主体。

SK-647

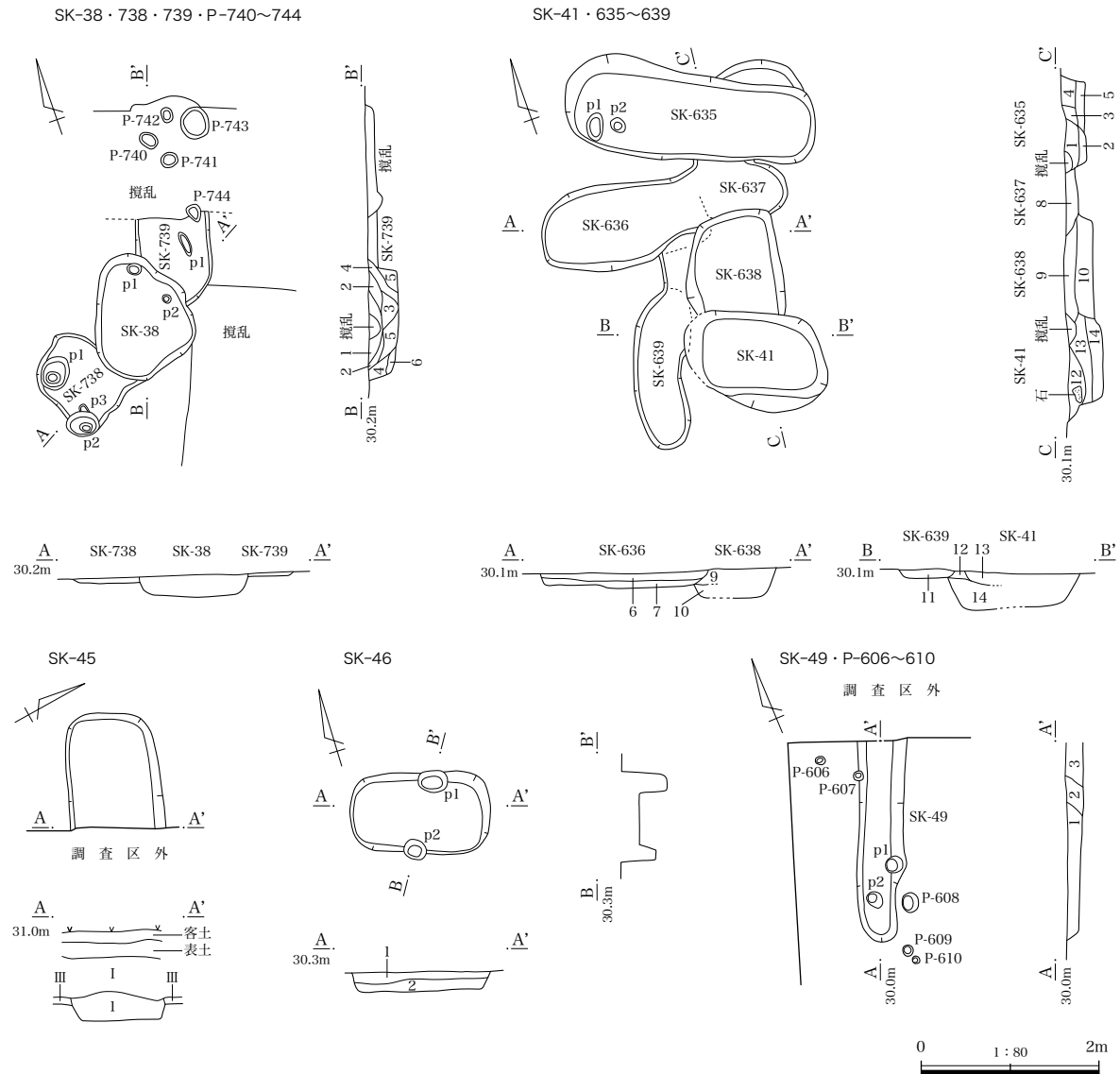
- 25 明褐色土 ローム主体。しまりあり。粘性あり。
- 26 暗褐色土 ローム主体。25層より黒色。

SK-648

- 27 明黄褐色土 28層よりローム多量。
- 28 明黄褐色土 ローム主体。ロームブロック少量。しまりなし。粘性なし。
- 29 明黄褐色土 ローム主体。SK-646の24層より少し黒色。

第25図 第37・51・643～648号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-38

- 1 明褐色土 ローム粒子・炭化物少量。
- 2 明褐色土 1層に似るが1層より暗色。
- 3 暗褐色土 ローム主体。炭化物少量。
- 4 明褐色土 2層より明色。ローム多量。
- 5 明褐色土 ローム主体。
- 6 暗褐色土 ローム主体。しまりあり。粘性あり。

SK-41

- 12 黒褐色土 ローム粒子少量。
- 13 明黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- 14 暗黄褐色土 ボソボソのロームブロック主体。

SK-635

- 1 黄褐色土 ローム主体。
- 2 暗黄褐色土 ローム主体。
- 3 明黄褐色土 ローム主体。
- 4 明黄褐色土 ローム主体。3層より明色。
- 5 明黄褐色土 ローム主体。4層と似た色。

SK-636

- 6 明黄褐色土 ローム主体。しまりあり。
- 7 明黄褐色土 ロームブロック多量。6層に似る。

SK-637

- 8 暗褐色土 ロームはあまり含まない。黒味強い。

SK-638

- 9 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
- 10 暗黄褐色土 ローム主体。しまりなし。9層より黒色。

SK-639

- 11 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりなし。

SK-45

- I 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子含む。
- III 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

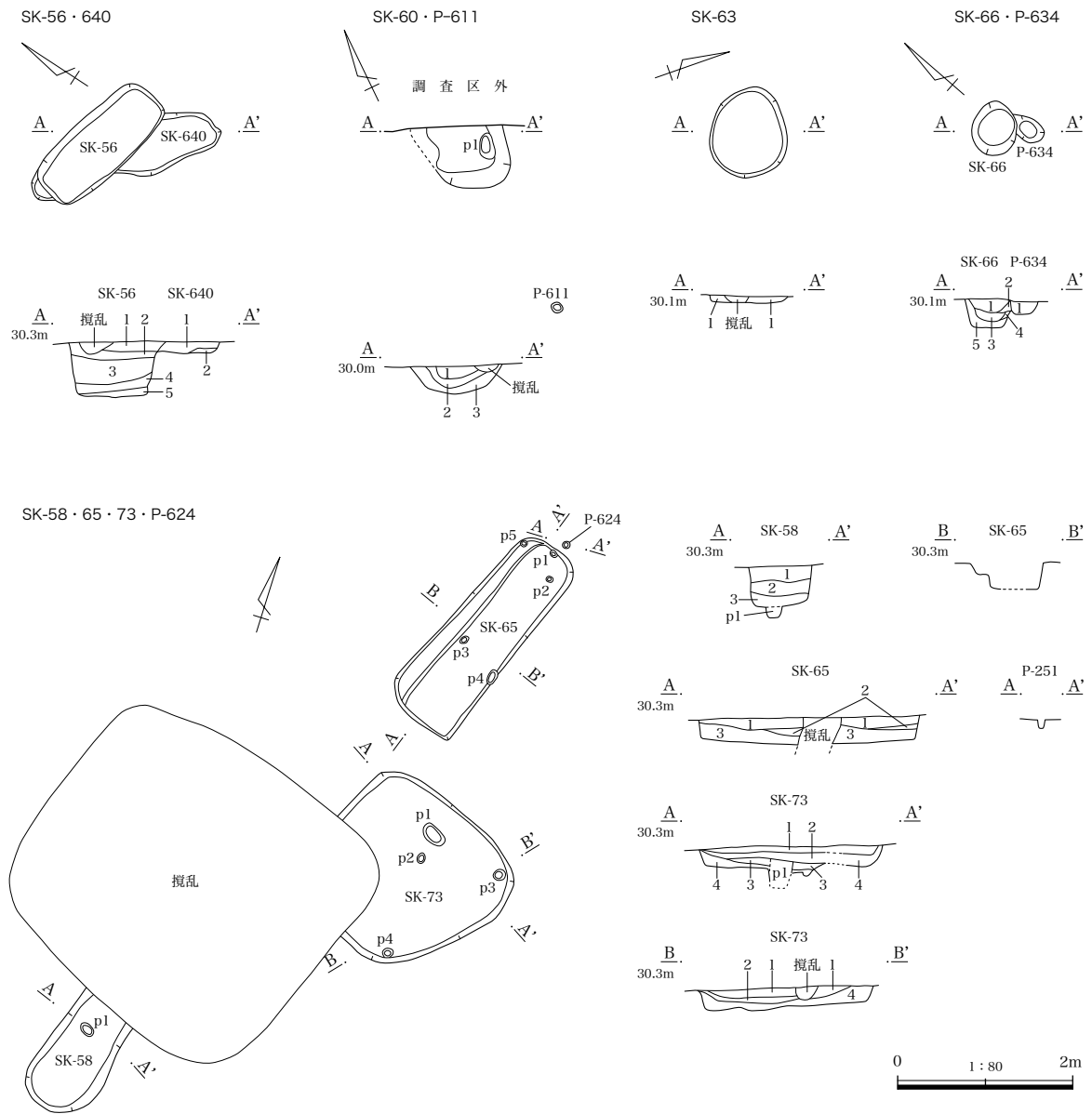
SK-46

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化粒子少量。しまりあり。粘性あり。
- 2 暗褐色土 1層よりローム粒子・炭化粒子多量。しまりなし。粘性なし。

SK-49

- 1 明黄褐色土 ローム主体。しまりあり。粘性あり。
- 2 暗黄褐色土 ローム主体。しまりなし。
- 3 明黄褐色土 ローム主体。しまりあり。粘性あり。

第26図 第38・41・45・46・49・635・639・738・739号土坑・
第606～610・740～744号ピット実測図



SK-56

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土 1層よりローム粒子・ロームブロック多量。
- 3 明褐色土 2層よりローム粒子・ロームブロック多量。
- 4 明褐色土 2層に似る。
- 5 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

SK-58

- 1 明褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。
- 2 明褐色土 1層よりロームブロック少量。しまりなし。
- 3 明褐色土 ロームブロックは1層と似る。しまりなし。

SK-60

- 1 明黄褐色土 ローム主体。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 1層より暗色。ローム主体。しまりなし。
- 3 暗黄褐色土 2層に似るか、より暗色。

SK-63

- 1 黄褐色土 ローム多量。しまりなし。

SK-65

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0cm 大) 多量。しまりなし。
- 2 暗褐色土 ロームはあまり含まない。
- 3 暗黄褐色土 1層よりローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量。

SK-66

- 1 暗黄褐色土 ローム多量。
- 2 暗黄褐色土 ローム含む。1層より明色。
- 3 明黄褐色土 ローム主体。しまりなし。
- 4 明黄褐色土 ローム含む。3層より明色。
- 5 明黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。

SK-73

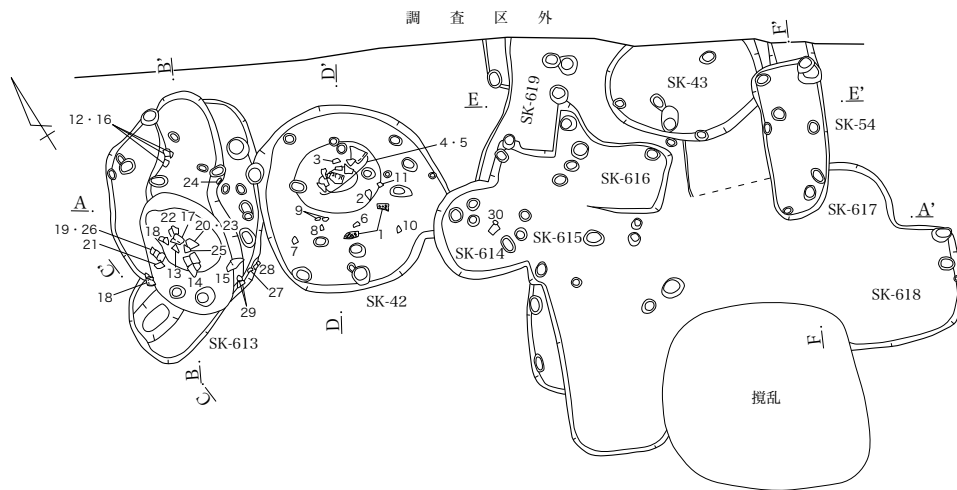
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりなし。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
- 4 明黄褐色土 ロームブロック主体。しまりあり。

SK-640

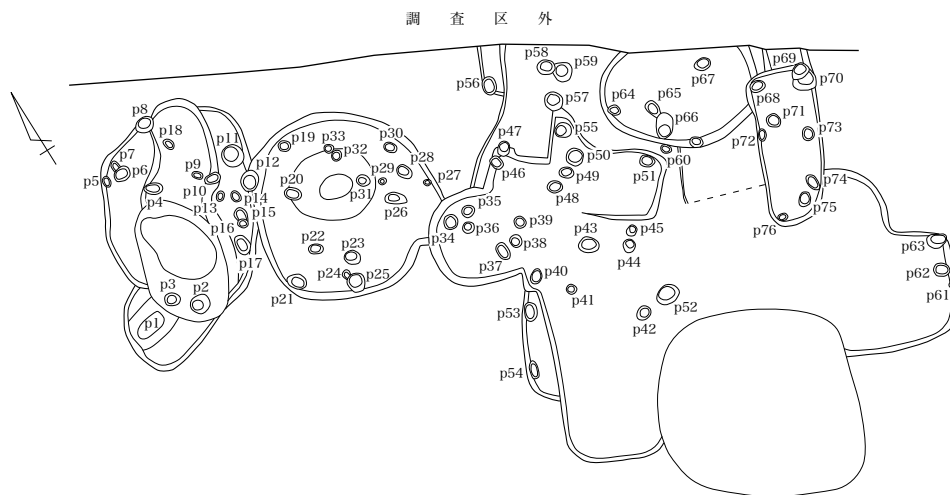
- 1 暗褐色土 SK-56の1層よりローム粒子少量。
- 2 黄褐色土 ロームブロック含む。

第27図 第56・58・60・63・65・66・73号土坑・第611・624・634・640号ピット実測図

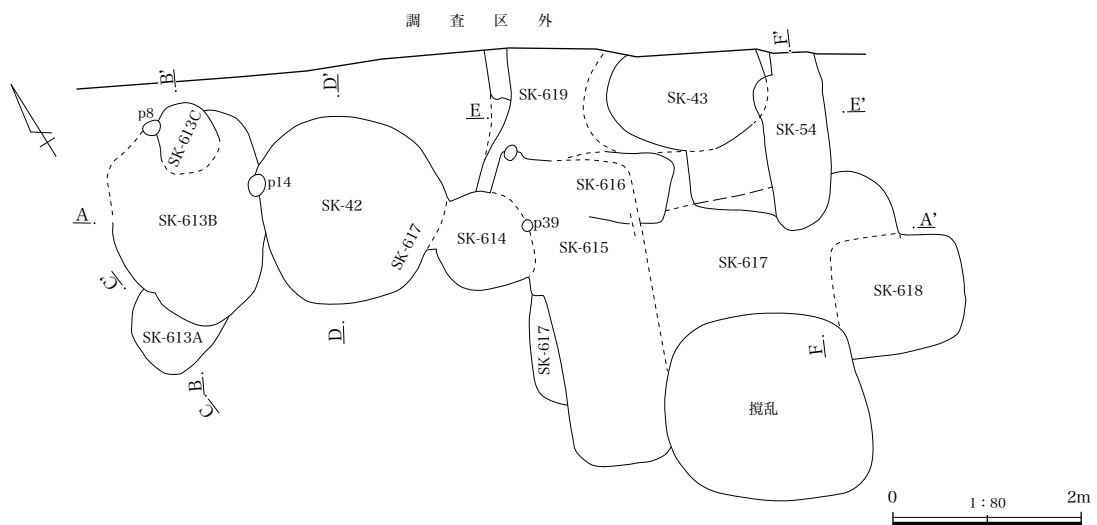
第3章 確認された遺構と遺物



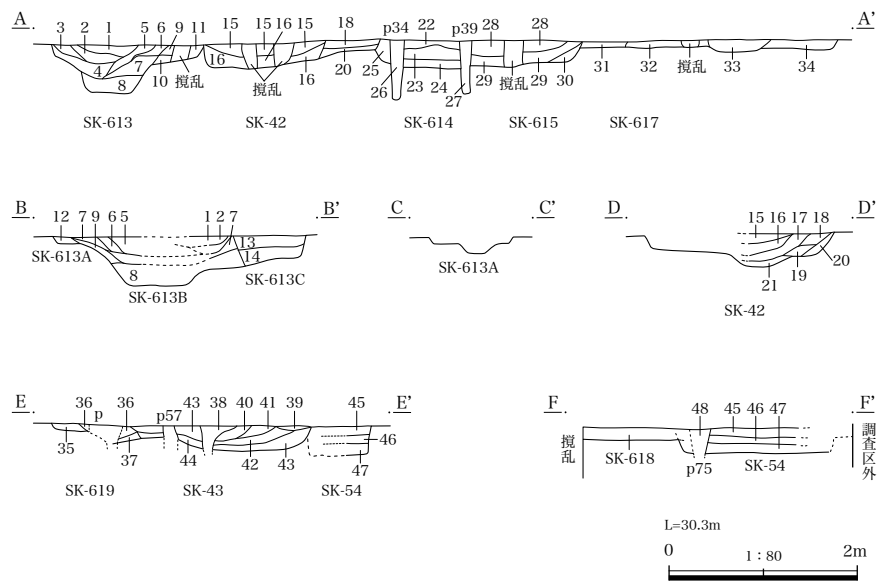
第28図 第42・43・54・613～619号土坑実測図(1)



第29図 第42・43・54・613～619号土坑内ピット配置図



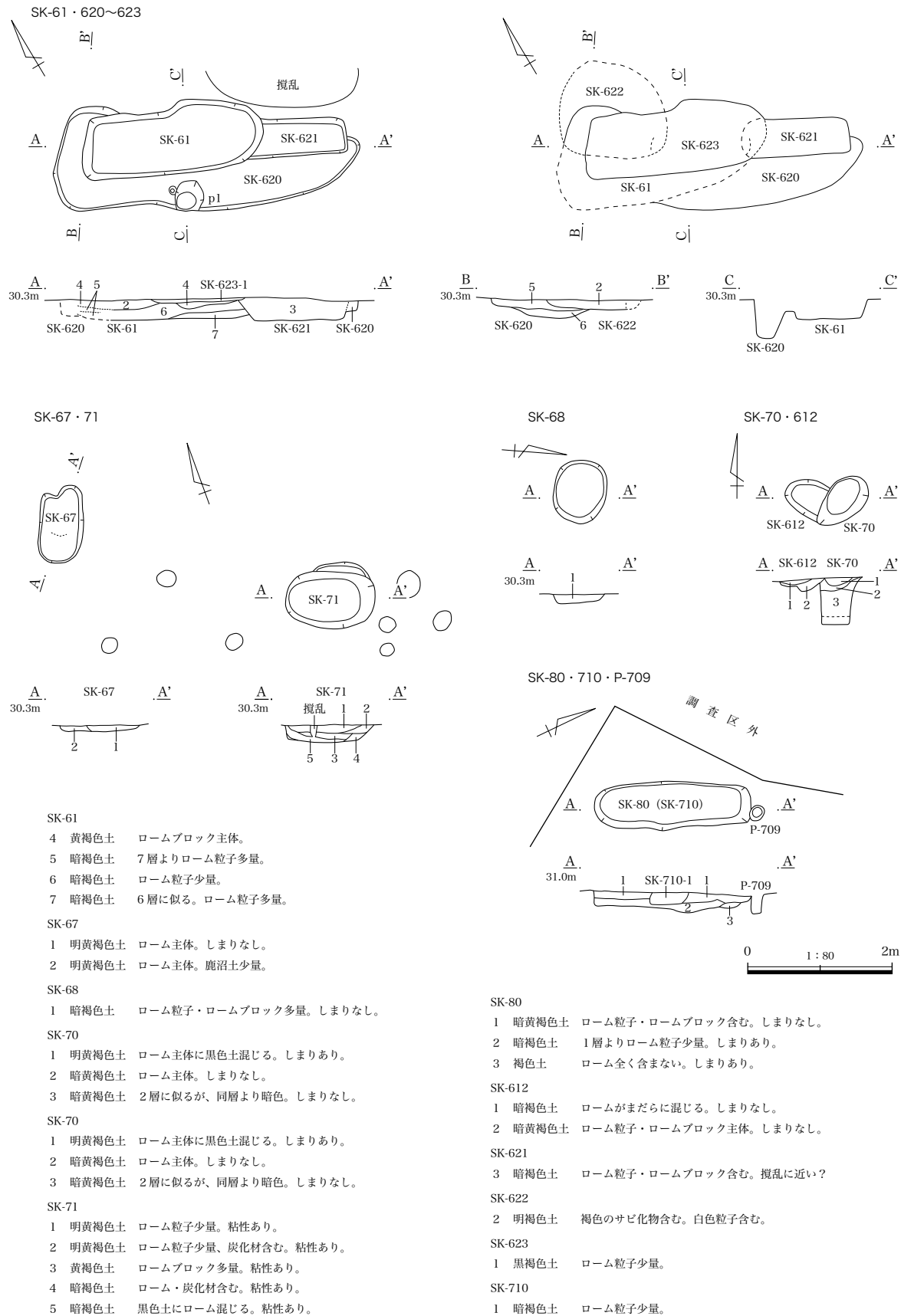
第30図 第42・43・54・613～619号重複模式図



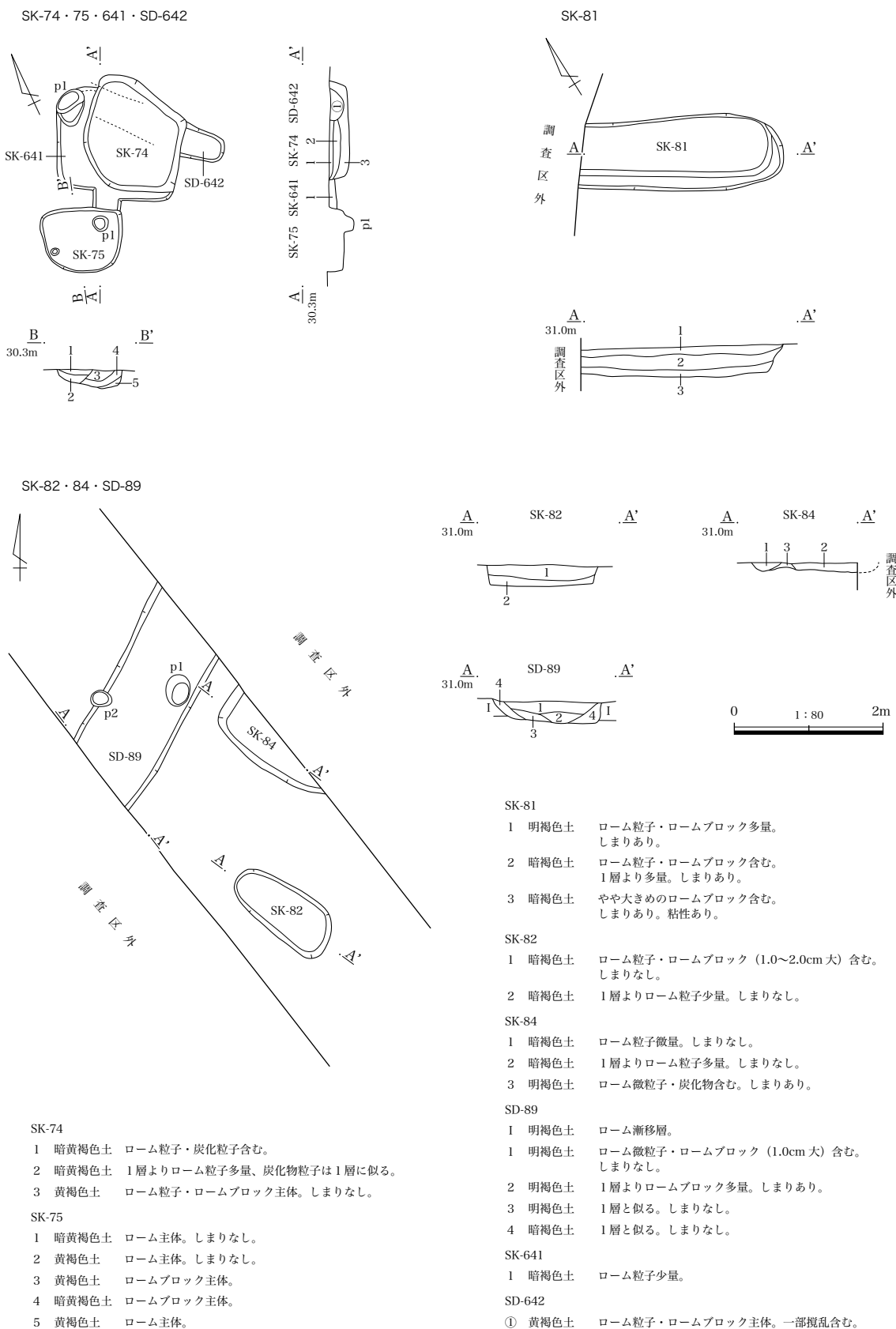
- | | |
|--|--|
| <p>SK-42</p> <p>15 暗褐色土 ローム粒子少量。</p> <p>16 暗褐色土 15層より明色。</p> <p>17 暗褐色土 16層に黒色土混じる。</p> <p>18 明黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。</p> <p>19 明黄褐色土 黒色土混じる。</p> <p>20 明黄褐色土 ローム粒子主体。18層より明色。しまりなし。</p> <p>21 遺物の出土により不明。</p> <p>SK-43</p> <p>38 黒褐色土 ロームブロック少量。</p> <p>39 暗褐色土 ローム粒子少量。</p> <p>40 黒褐色土 38層よりローム粒子多量。</p> <p>41 黒褐色土 40層よりローム粒子多量。</p> <p>42 暗黄褐色土 41層よりローム粒子多量。</p> <p>43 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。</p> <p>44 黄褐色土 ロームブロック主体。</p> <p>SK-54</p> <p>45 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。</p> <p>46 暗褐色土 45層よりローム粒子少量。</p> <p>47 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。</p> <p>p75</p> <p>48 黄褐色土 ローム粒子少量。</p> <p>SK-613A</p> <p>12 明黄褐色土 ローム粒子主体。</p> <p>SK-613B</p> <p>1 暗褐色土 炭化物少量。</p> <p>2 暗褐色土 1層より黒色。</p> <p>3 明黄褐色土 ローム粒子多量。</p> <p>4 暗褐色土 ローム粒子少量。</p> <p>5 明黄褐色土 ローム粒子多量。</p> <p>6 明黄褐色土 ローム粒子多量。</p> <p>7 明黄褐色土 ローム粒子多量。</p> <p>8 明褐色土 1~4層より明色。しまりなし。</p> <p>9 明黄褐色土 ローム粒子少量。</p> <p>10 明黄褐色土 ローム粒子多量。</p> <p>11 明黄褐色土 ローム粒子主体。</p> | <p>SK-613C</p> <p>13 明黄褐色土 ローム粒子含む。</p> <p>14 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。</p> <p>SK-614</p> <p>22 暗黄褐色土 ローム粒子少量。</p> <p>23 暗黄褐色土 22層よりローム粒子多量。</p> <p>24 黄褐色土 ローム粒子主体。</p> <p>25 黄褐色土 ローム粒子主体。</p> <p>SK-614・p34</p> <p>26 暗褐色土 ローム粒子含む。</p> <p>SK-614・p39</p> <p>27 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。</p> <p>SK-615</p> <p>28 暗褐色土 ローム粒子少量。</p> <p>29 暗褐色土 28層より明色。</p> <p>30 黄褐色土 ローム粒子主体。</p> <p>SK-617</p> <p>31 明褐色土 ローム粒子少量。</p> <p>32 暗褐色土 31層よりローム粒子少量。</p> <p>33 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。</p> <p>34 暗褐色土 33層よりローム粒子多量。</p> <p>SK-619</p> <p>35 黄褐色土 ローム粒子主体。</p> <p>36 暗褐色土</p> <p>37 黄褐色土 ローム粒子主体。</p> |
|--|--|

第31図 第42・43・54・613～619号土坑実測図(2)

第3章 確認された遺構と遺物

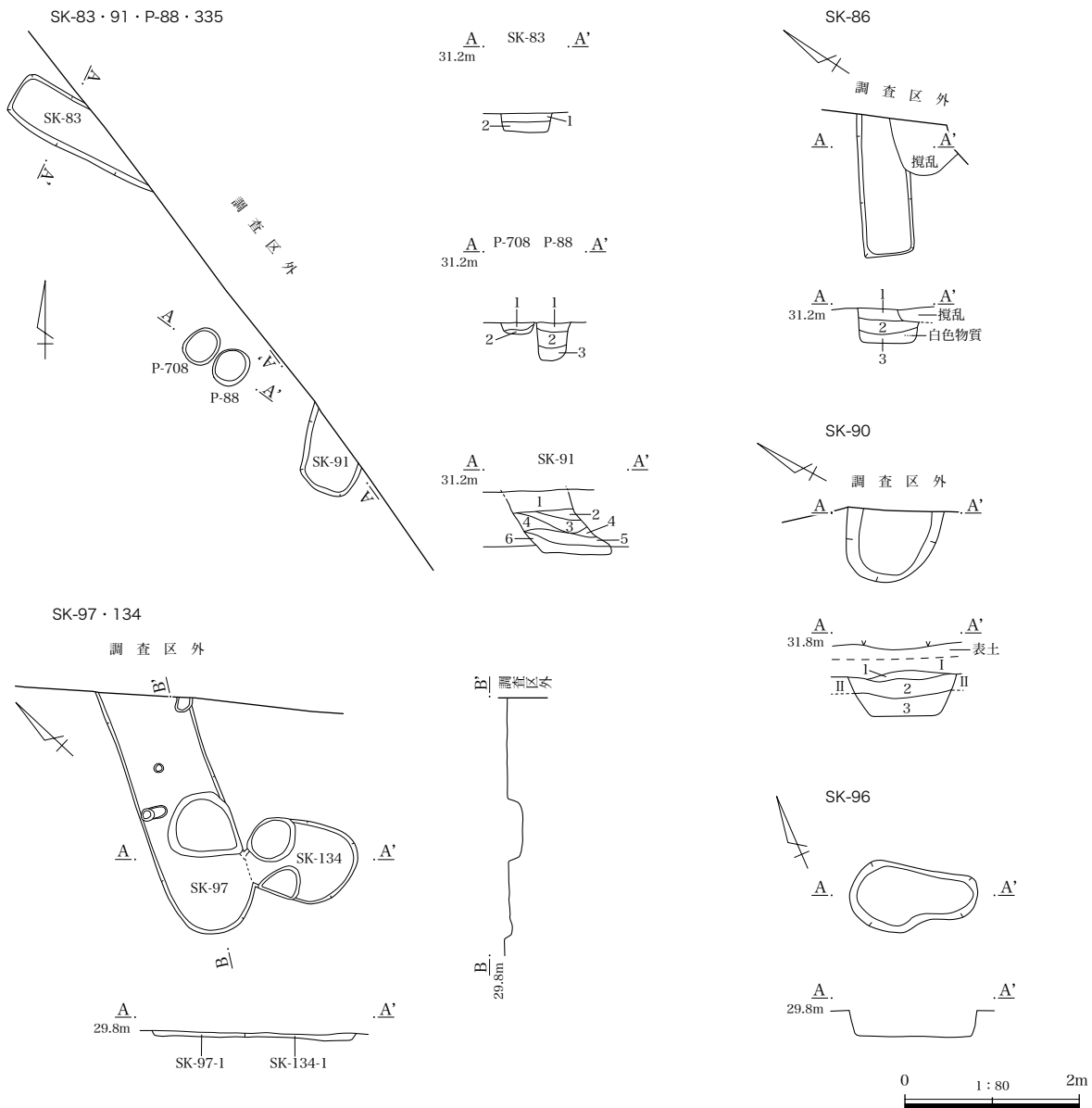


第32図 第61・67・68・70・71・80・612・620～623・710号土坑・第709号ピット実測図



第 33 図 第 74・75・81・82・84・641 号土坑・第 89・642 号溝状遺構実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-83

- 1 暗褐色土 ロームブロック (2.0cm 大) 含む。しまりなし。
- 2 明褐色土 1層よりロームブロック多量。しまりなし。

SK-86

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、炭化物含む。
- 2 暗黄褐色土 1層よりローム粒子やや少量。しまりなし。
- 3 暗褐色土 2層よりローム粒子少量。しまりなし。

P-88

- 1 明黄褐色土 ロームブロック (3.0cm 大) を含む。しまりなし。
- 2 明黄褐色土 1層よりロームブロック多量。しまりなし。
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりなし。

SK-90

- I 褐色土 ローム粒子少量。
- II 黄褐色土 ローム漸移層
- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量。しまりあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量。

SK-91

- 1 暗褐色土 ローム微粒子少量。しまりなし。
- 2 暗褐色土 1層より明色。1層よりローム粒子多量。しまりなし。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりなし。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
- 5 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。

SK-97

- 1 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。

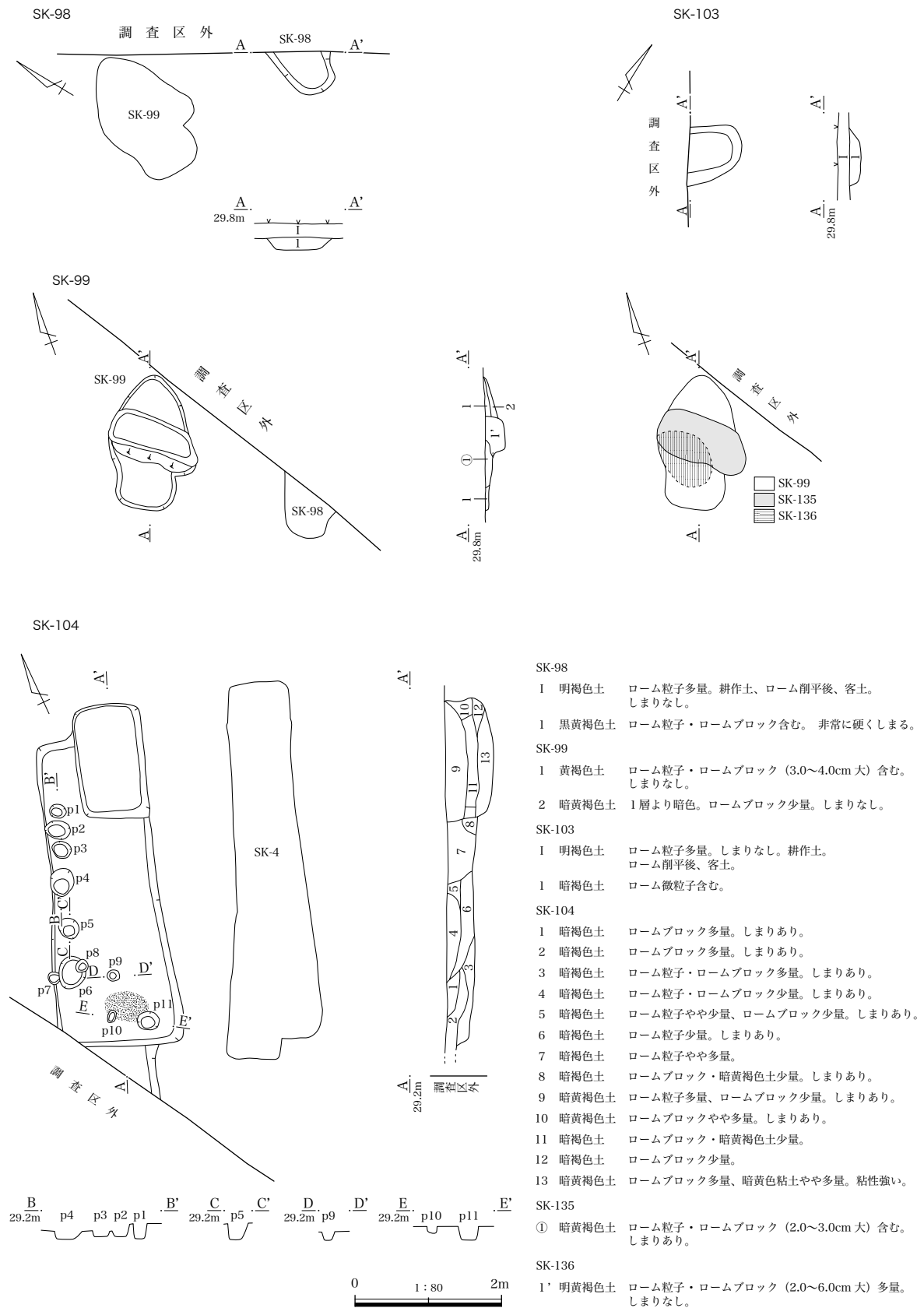
SK-134

- 1 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。SK-97の1層とよく似る。

P-708

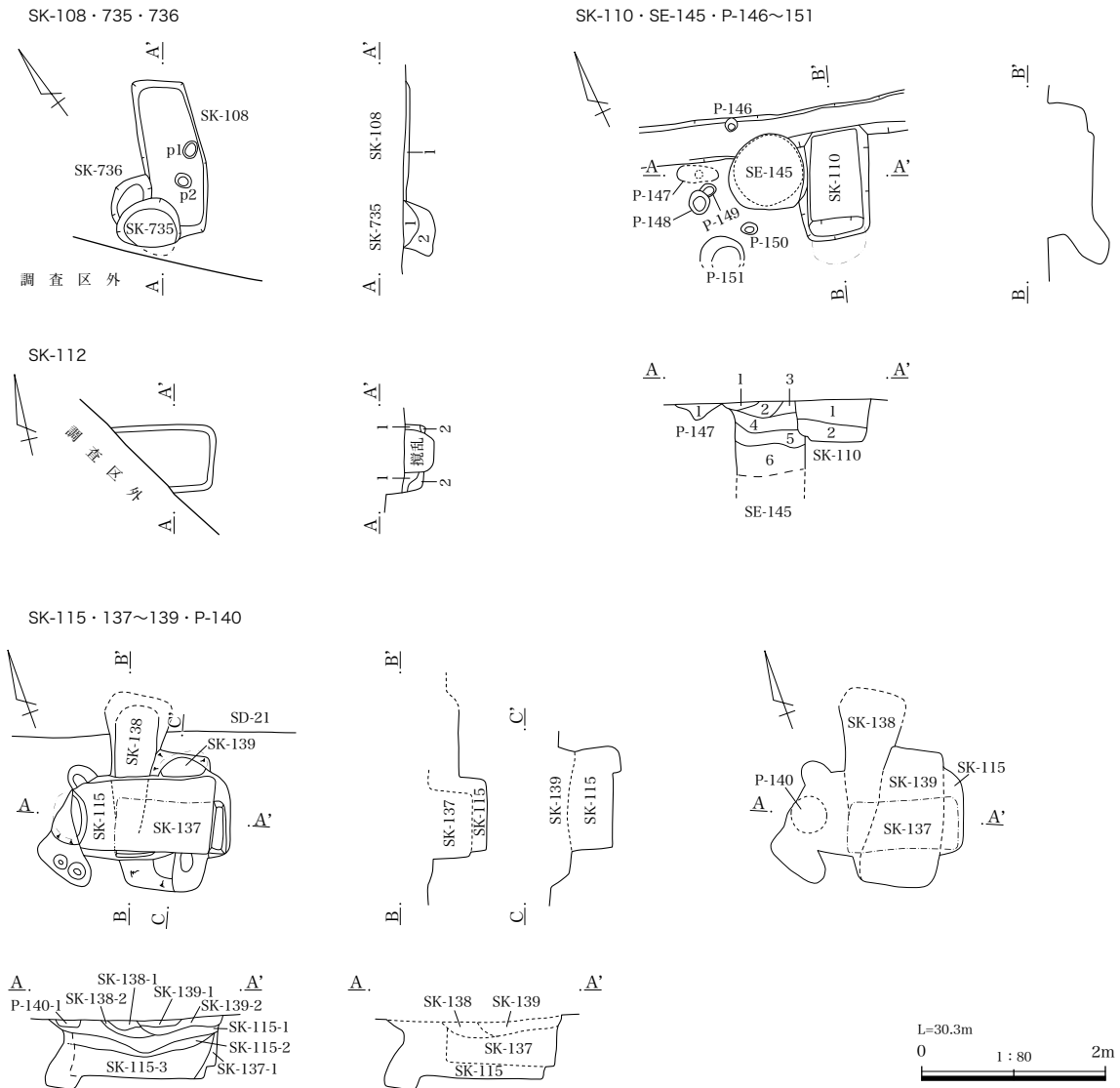
- 1 明褐色土 ロームはほとんど含まない。しまりなし。
- 2 明黄褐色土 ロームブロック含む。しまりなし。

第34図 第83・86・90・91・96・97・134号土坑・第88・708号ピット実測図



第35図 第98・99・103・104・135・136号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-108

- 1 黄褐色土 しまりなし。

SK-110

- 1 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0cm 大) 含む。しまりなし。
- 2 明黄褐色土 1層よりローム粒子の混入多量。しまりなし。

SK-112

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 2 暗褐色土 1層よりローム粒子少量。しまりあり。

SK-115

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりなし。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロックは1・2層より少量。しまりなし。

SK-137

- 1 明黄褐色土 ロームブロックはSK-115の2・3層より少量。しまりなし。

SK-138

- 1 暗黄褐色土 ロームブロックはSK-139の2層より少量、SK-138の2層より多量。しまりなし。
- 2 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

SK-139

- 1 黒褐色土 ローム粒子・炭化物少量。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0cm 大) 含む。しまりなし。

P-140

- 1 暗褐色土 ロームブロック (2.0~3.0cm 大) 含む。しまりなし。

SE-145

- 1 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロックは1層より少量。しまりなし。
- 3 明褐色土 ローム粒子の混入少量。しまりなし。
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。
- 5 暗褐色土 4層よりローム粒子少量。しまりなし。
- 6 暗褐色土 4層よりローム粒子少量。しまりあり。粘性あり。

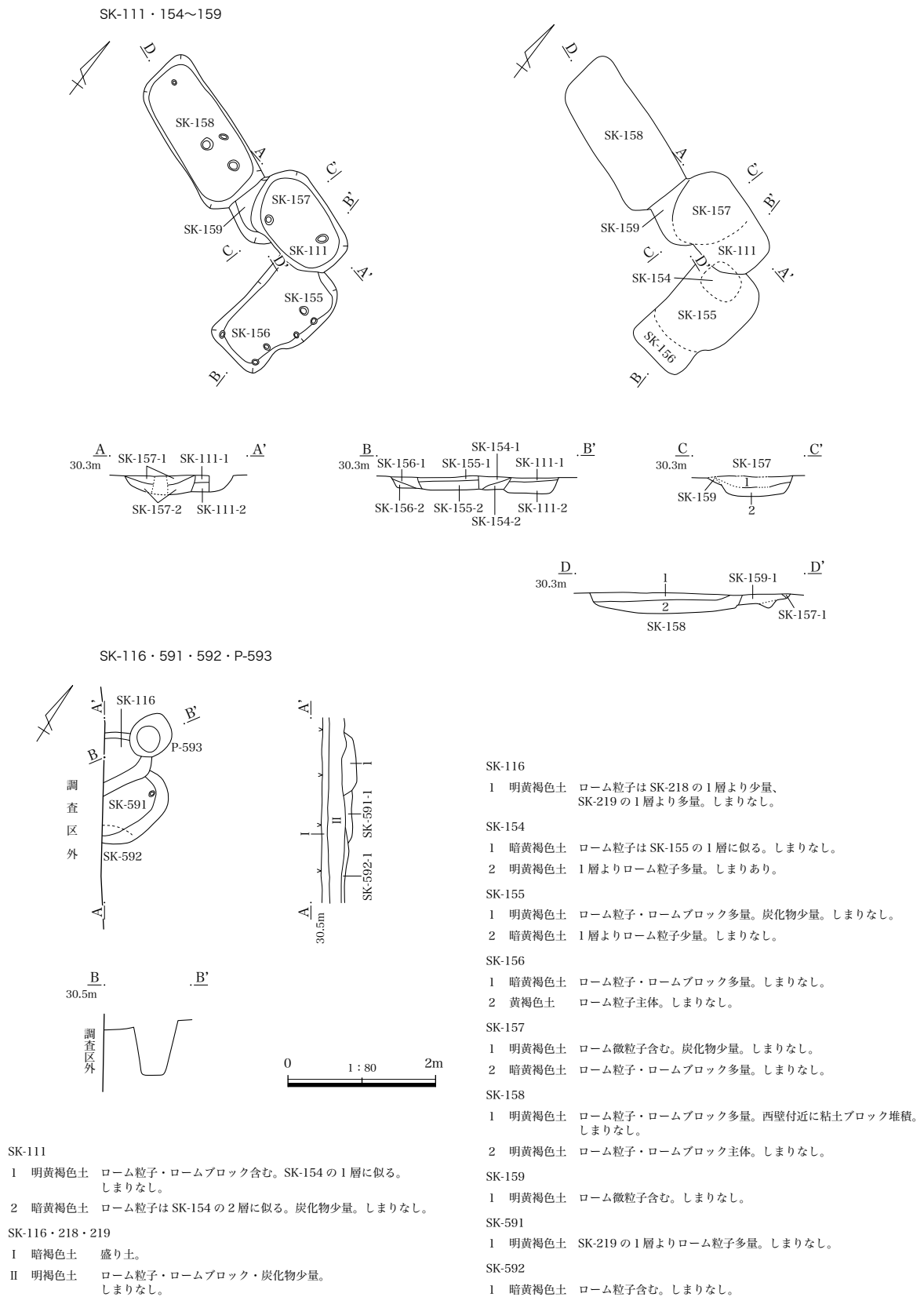
P-147

- 1 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

SK-735

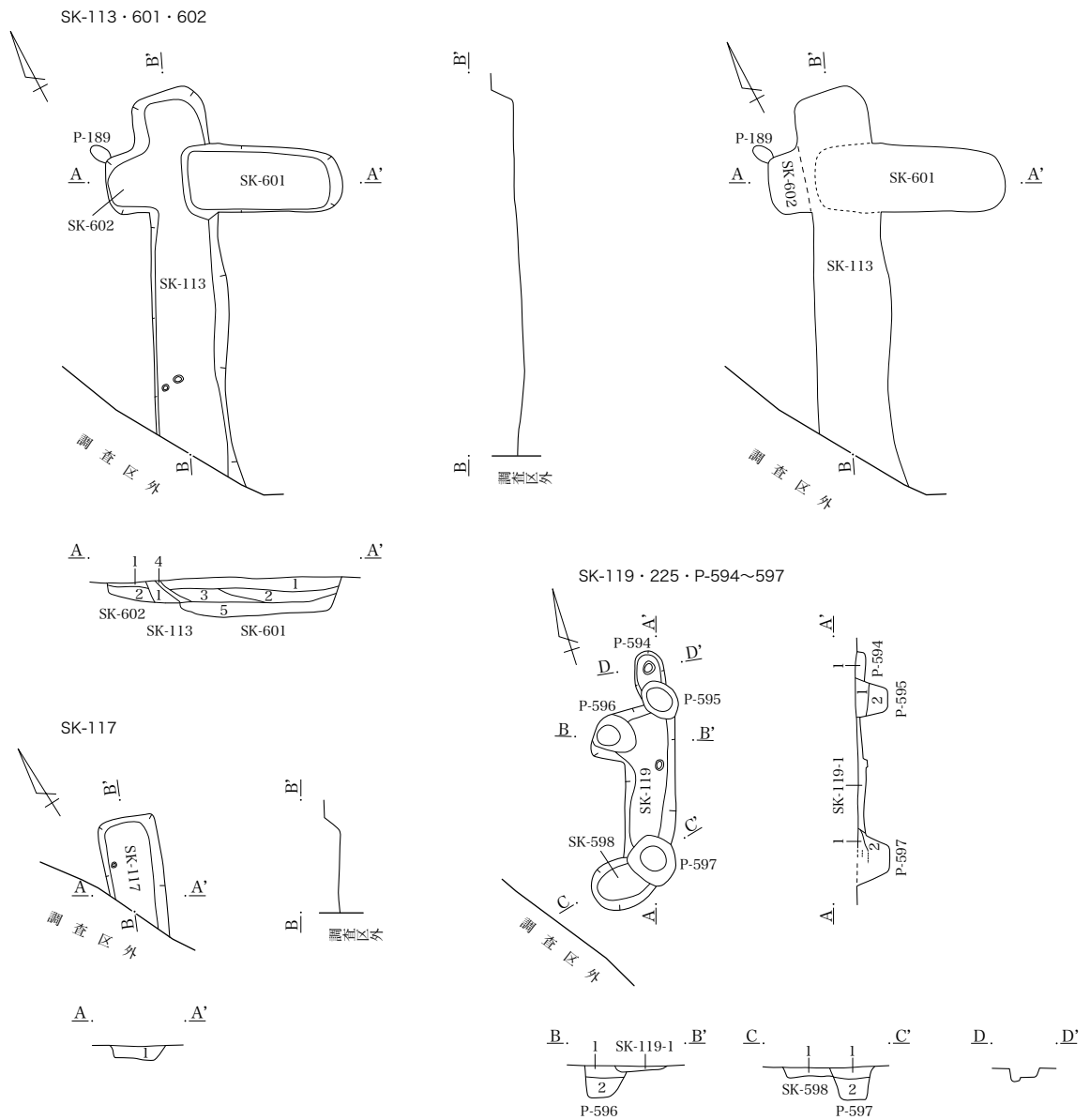
- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (3.0~5.0cm 大) 多量。しまりなし。

第36図 第108・110・112・115・137～139・735・736号土坑・第145号井戸跡・第140・146～151号ピット実測図



第37図 第111・116・154～159・591・592号土坑・第593号ピット実測図

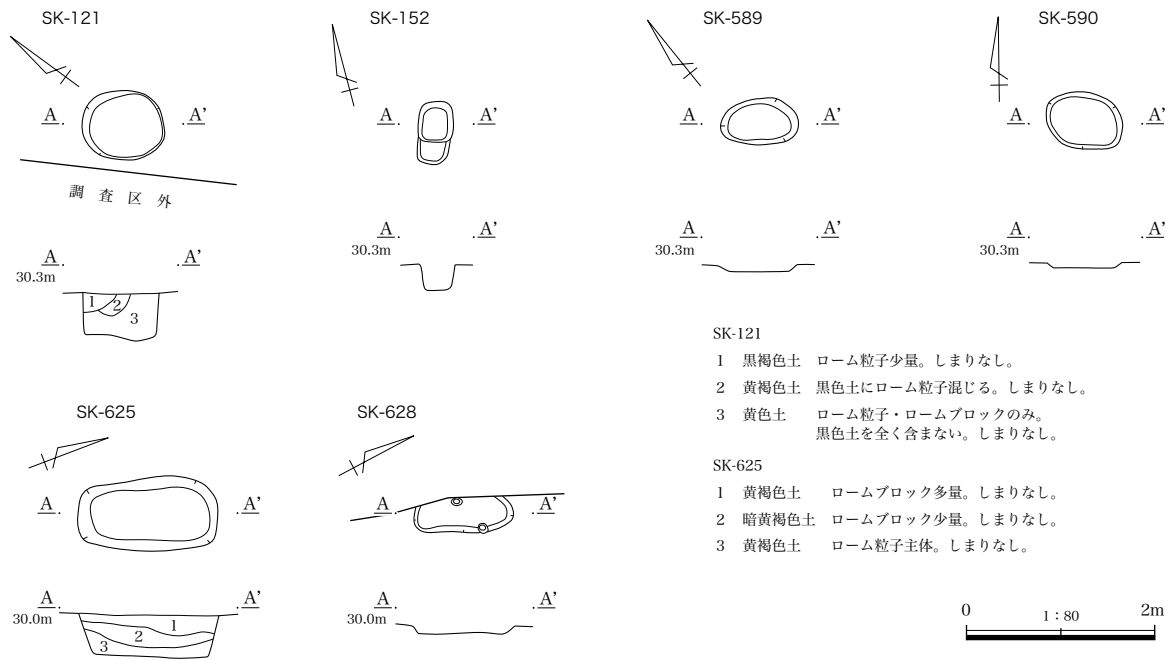
第3章 確認された遺構と遺物



- SK-113
 1 明黄褐色土 ローム粒子はSK-229の1層と似る。しまりなし。
- SK-117
 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロックやや多量。
- SK-119
 1 明黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- P-594
 1 暗黄褐色土 ローム粒子・炭化物含む。
- P-595
 1 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック混じる。1層より少量。
- P-596
 1 明黄褐色土 ロームブロック（1.0～2.0cm大）含む。しまりなし。
 2 暗黄褐色土 ロームブロックは1層と似る。しまりなし。
- P-597
 1 明黄褐色土 ローム微粒子多量。しまりなし。
 2 黒黄褐色土 下にローム粒子多量。しまりなし。

- SK-598
 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物含む。P-224の1層よりローム粒子多量。しまりなし。
- SK-601
 1 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。東壁側が多い。炭化物含む。しまりなし。
 2 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。1層よりローム粒子多量。炭化物含む。しまりなし。
 3 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりなし。
 4 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
 5 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。
- SK-602
 1 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
 2 明黄褐色土 ローム粒子は1層より少量。攪乱あり。しまりなし。

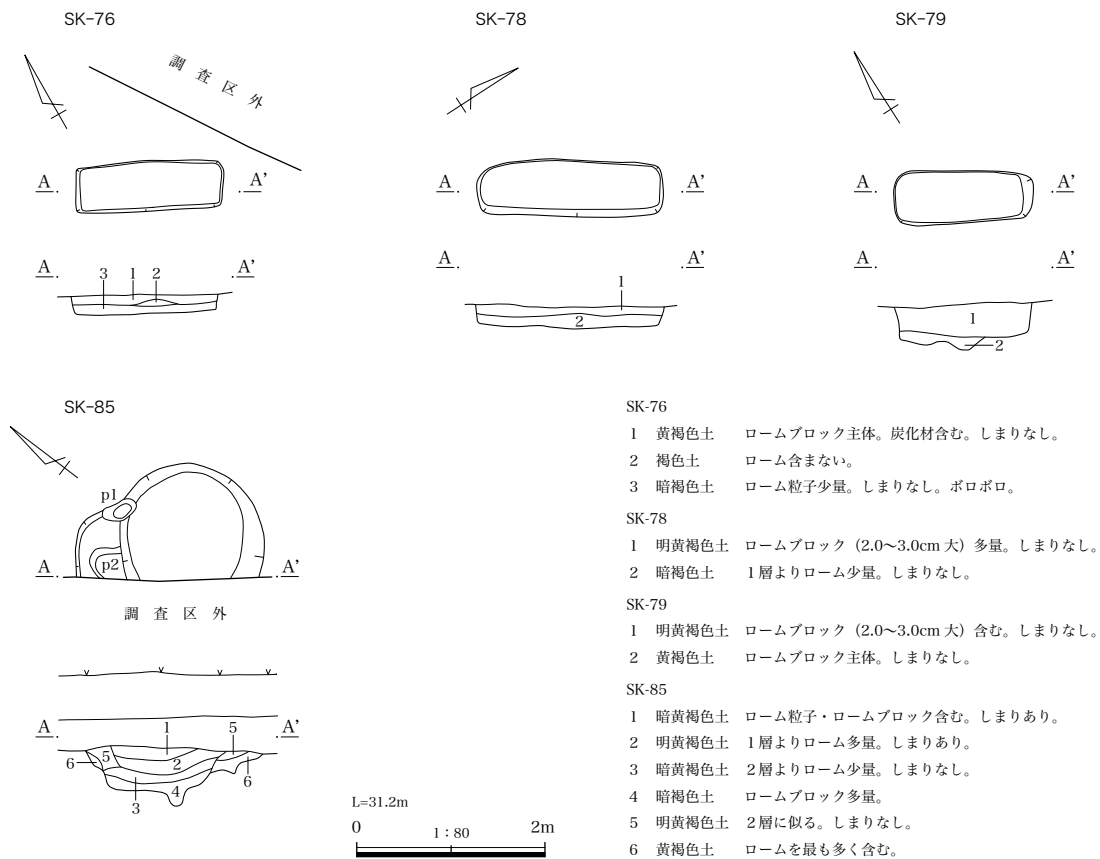
第38図 第113・117・119・598・601・602号土坑・第594～597号ピット実測図



- SK-121
- 1 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。
 - 2 黄褐色土 黒色土にローム粒子混じる。しまりなし。
 - 3 黄色土 ローム粒子・ロームブロックのみ。黒色土を全く含まない。しまりなし。

- SK-625
- 1 黄褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。
 - 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりなし。
 - 3 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。

第39図 第121・152・589・590・625・628号土坑実測図



- SK-76
- 1 黄褐色土 ロームブロック主体。炭化材含む。しまりなし。
 - 2 褐色土 ローム含まない。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。ポロポロ。

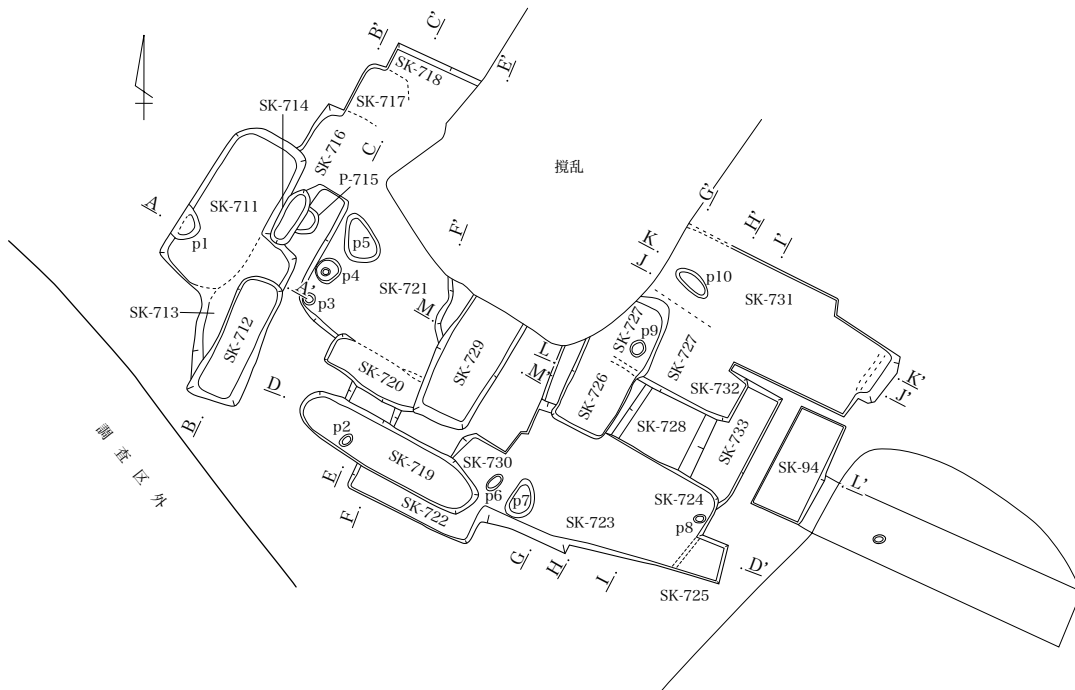
- SK-78
- 1 明黄褐色土 ロームブロック (2.0~3.0cm 大) 多量。しまりなし。
 - 2 暗褐色土 1層よりローム少量。しまりなし。

- SK-79
- 1 明黄褐色土 ロームブロック (2.0~3.0cm 大) 含む。しまりなし。
 - 2 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。

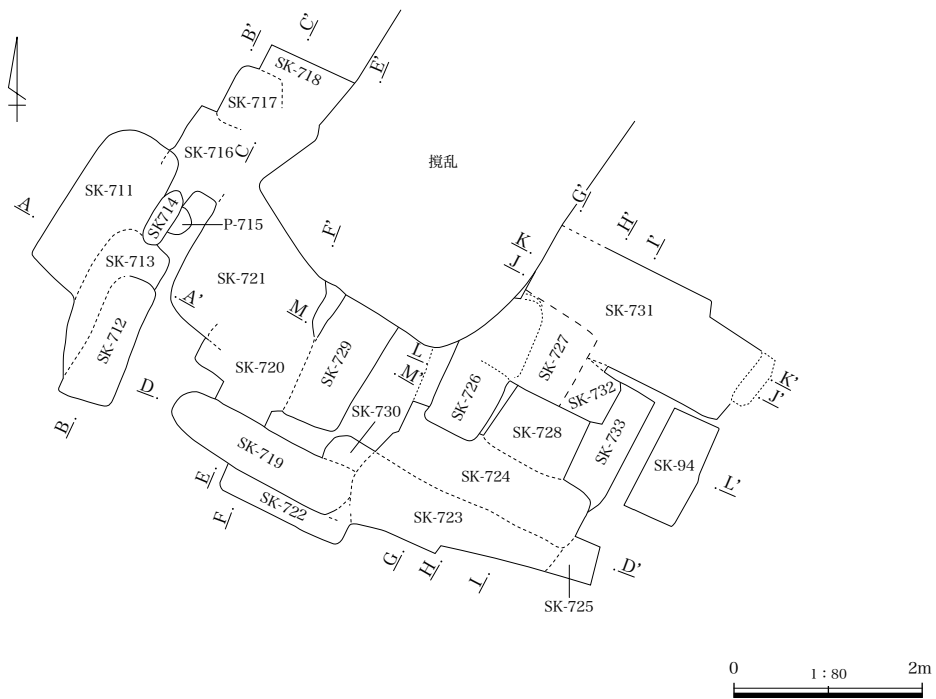
- SK-85
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりあり。
 - 2 明黄褐色土 1層よりローム多量。しまりあり。
 - 3 暗黄褐色土 2層よりローム少量。しまりなし。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック多量。
 - 5 明黄褐色土 2層に似る。しまりなし。
 - 6 黄褐色土 ロームを最も多く含む。

第40図 第76・78・79・85号土坑実測図

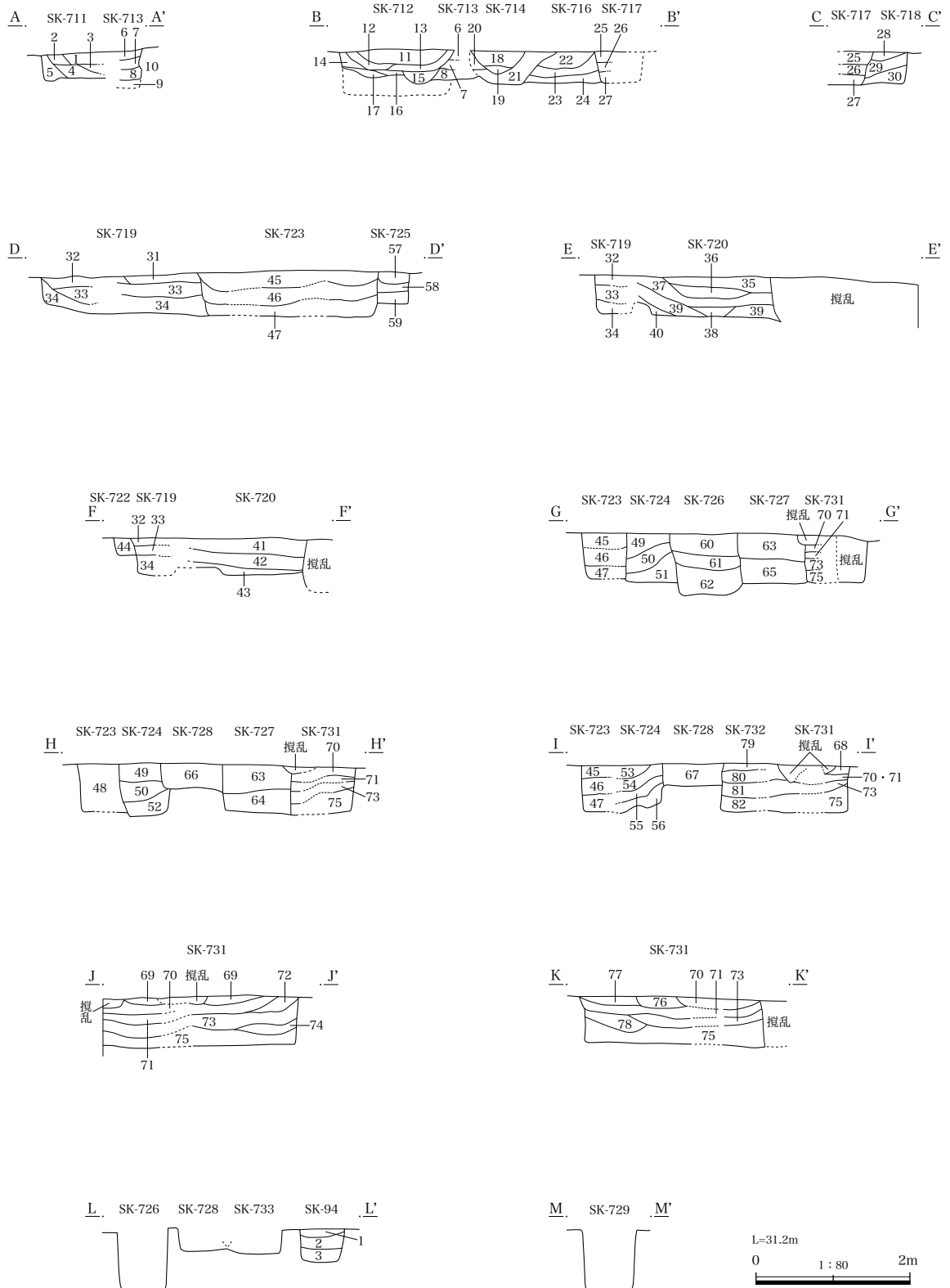
第3章 確認された遺構と遺物



第41図 第94・711～714・716～733号土坑・第715号ピット実測図



第42図 第94・711～714・716～733号土坑・第715号ピット重複模式図



第43図 第94・711～714・716～733号土坑実測図

第3章 確認された遺構と遺物

SK-94

- 1 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
- 2 黄褐色土 1層よりロームブロック多量。しまりなし。
- 3 黄褐色土 1・2層よりロームブロック少量。しまりあり。

SK-711

- 1 暗褐色土 ローム少量。
- 2 暗褐色土 1層よりローム多量。
- 3 暗褐色土 ローム少量。
- 4 褐色土 ローム少量。
- 5 明褐色土 ローム微量。

SK-712

- 11 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロック少量。11層より暗色。
- 13 暗褐色土 ロームブロック少量。12層よりローム多量。
- 14 暗褐色土 ローム含まない。しまりなし。
- 15 暗褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
- 16 明黄褐色土 17層に似るが、同層より明色。
- 17 明黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。

SK-713

- 6 暗褐色土 ローム含む。
- 7 暗褐色土 ローム含む。
- 8 暗褐色土 ローム含む。
- 9 暗褐色土 ローム主体。硬い。地山の可能性あり。
- 10 黄褐色土 ローム主体。

SK-714

- 18 明黄褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 19 暗黄褐色土 18層よりローム含む。しまりあり。
- 20 暗褐色土 ローム少量。しまりあり。
- 21 明黄褐色土 ロームブロック主体。しまりあり。

SK-716

- 22 明黄褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 23 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 24 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。23層よりしまりなし。

SK-717

- 25 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量。
- 26 暗黄褐色土 25層よりローム少量。
- 27 暗黄褐色土 ロームは25層と似る。

SK-718

- 28 明褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 29 明褐色土 28層よりローム粒子多量。しまりあり。
- 30 明褐色土 29層よりローム粒子多量。しまりあり。

SK-719

- 31 明黄褐色土 32層よりやや黒色。
- 32 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりあり。
- 33 暗黄褐色土 32層よりローム多量。
- 34 暗黄褐色土 33層よりローム多量。しまりなし。

SK-720

- 35 明褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。
- 36 暗褐色土 ローム粒子少量。35層より多量。しまりあり。
- 37 暗褐色土 ローム粒子少量。36層より多量。
- 38 暗褐色土 ローム粒子少量。37層より大粒のローム含む。
- 39 暗褐色土 ロームは38層より多量。
- 40 暗褐色土 ロームは最も少量。しまりあり。
- 41 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (2.0~3.0cm 大) 含む。
- 42 明黄褐色土 41層より大粒のロームブロック含む。
- 43 暗褐色土 ロームブロック主体。42層より多量。

SK-722

- 44 明黄褐色土 ローム粒子含む。

SK-723

- 45 明黄褐色土 ローム微粒子含む。しまりなし。
- 46 暗黄褐色土 45層よりローム多量。
- 47 暗褐色土 ローム少量。しまりなし。
- 48 明黄褐色土 ローム少量。

SK-724

- 49 明黄褐色土 ローム粒子含む。
- 50 暗黄褐色土 49層よりローム少量。暗色。
- 51 暗褐色土 ロームブロック (2.0~5.0cm 大) 含む。
- 52 暗褐色土 ローム少量。
- 53 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 54 明黄褐色土 ロームブロック多量。
- 55 暗黄褐色土 ローム少量。
- 56 暗黄褐色土 55層よりローム多量。

SK-725

- 57 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 含む。
- 58 明黄褐色土 57層よりローム多量。
- 59 暗黄褐色土 58層よりローム多量。しまりなし。

SK-726

- 60 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量。しまりあり。
- 61 暗黄褐色土 60層よりローム少量。
- 62 暗褐色土 ローム極少量。しまりあり。

SK-727

- 63 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1.0~2.0cm 大) 多量。
- 64 暗黄褐色土 63層より暗色。ロームは同層に似る。しまりなし。
- 65 暗褐色土 大粒のロームブロック含む。63層より少量。

SK-728

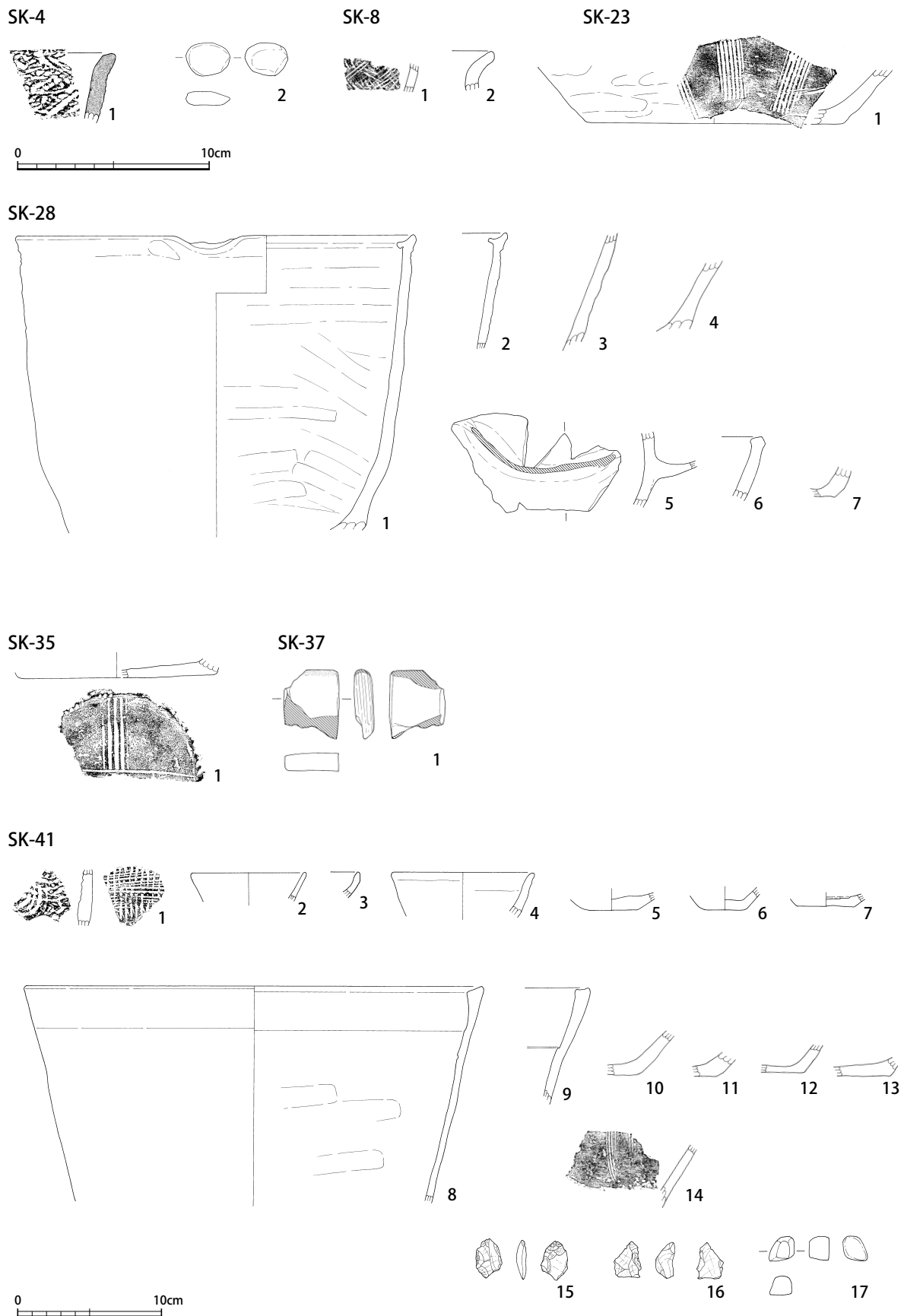
- 66 黄褐色土 ローム多量。この周囲では最も多量。
- 67 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック (2.0~5.0cm 大) 含む。

SK-731

- 68 明黄褐色土 ローム多量。
- 69 明褐色土 ローム少量。
- 70 明黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
- 71 暗黄褐色土 70層より大粒のローム含む。
- 72 暗褐色土 ローム少量。
- 73 暗黄褐色土 71層よりローム多量。
- 74 暗黄褐色土 ローム少量。
- 75 暗褐色土 73層よりローム多量。
- 76 暗黄褐色土 70層よりローム多量。
- 77 明黄褐色土 ロームは76層と似る。
- 78 褐色土 ロームは73層と似る。

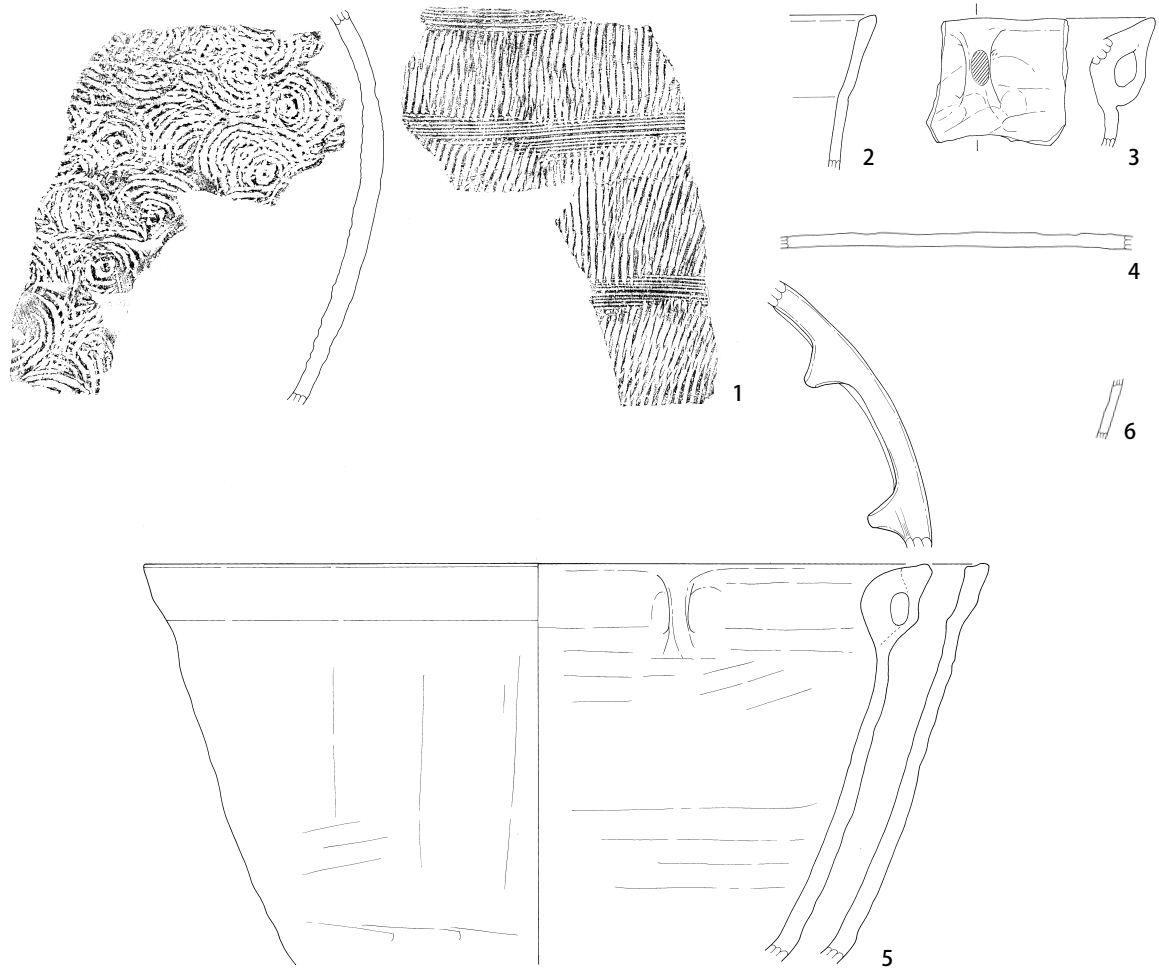
SK-732

- 79 暗黄褐色土 ローム粒子多量。
- 80 暗黄褐色土 ロームブロック多量。
- 81 暗褐色土 80層よりローム少量。しまりあり。
- 82 暗褐色土 81層よりローム少量。しまりあり。



第44図 第4・8・23・28・35・37・41号土坑出土遺物実測図

SK-42



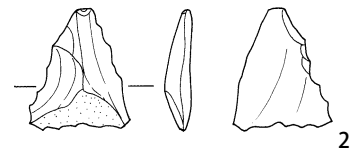
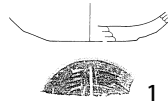
SK-43



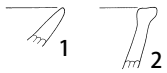
SK-44



SK-46



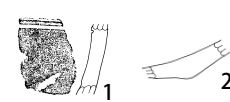
SK-47



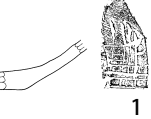
SK-48



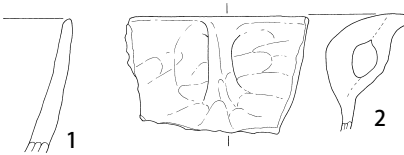
SK-51



SK-54



SK-69



SK-71



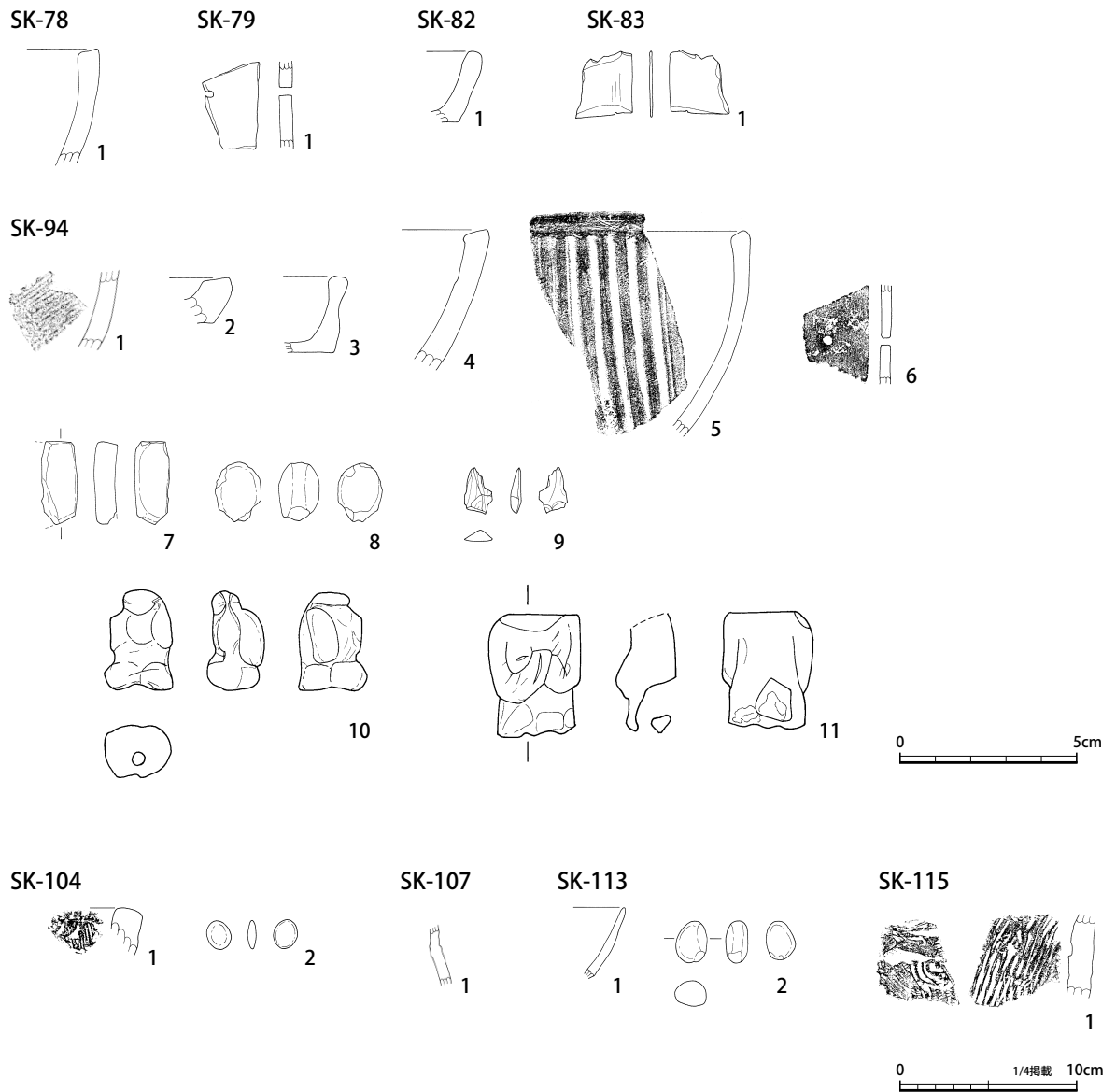
SK-73



SK-75

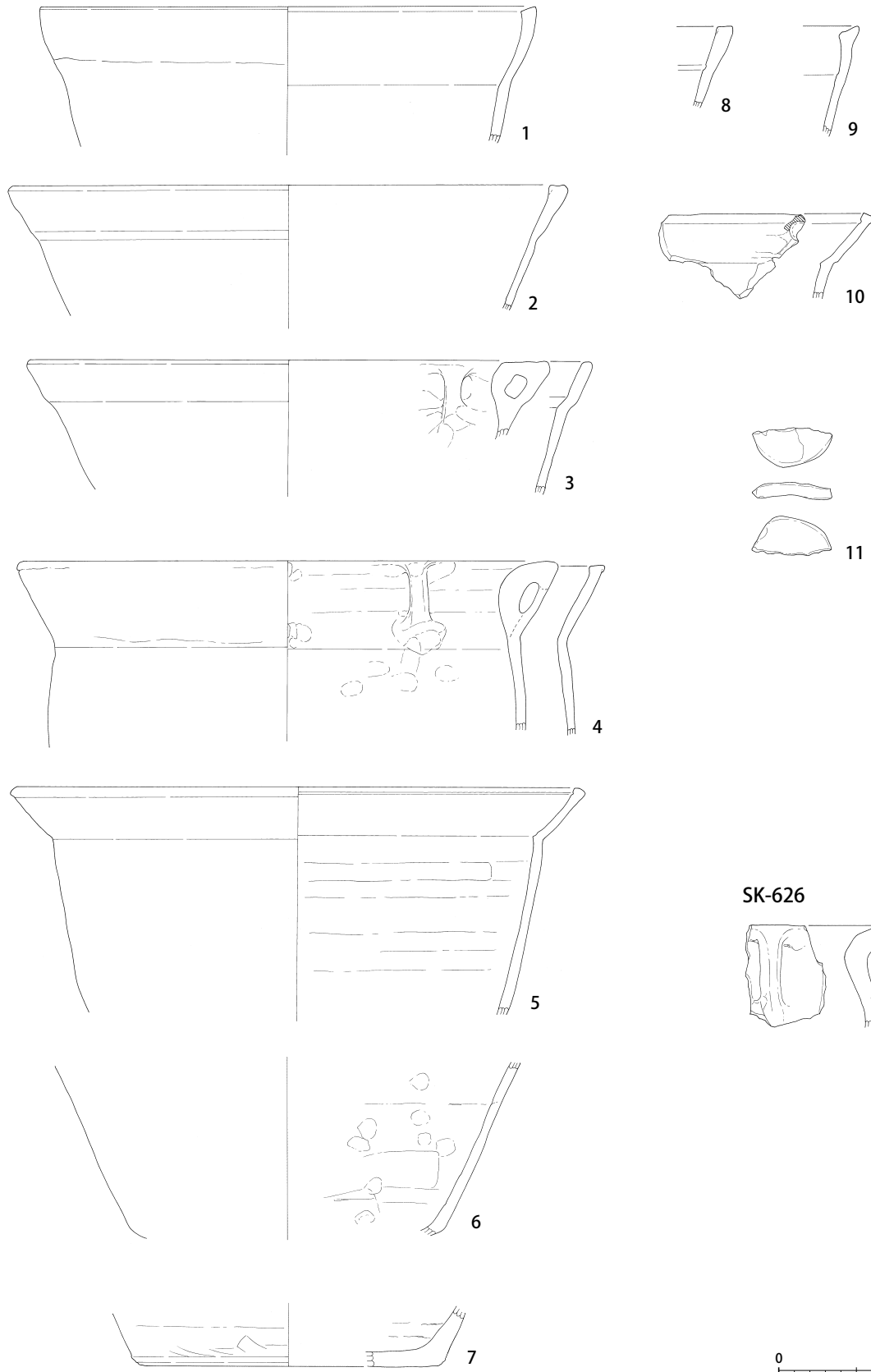


第45図 第42～44・46～48・51・54・69・71・73・75号土坑出土遺物実測図



第46図 第78・79・82・83・94・104・107・113・115号土坑出土遺物実測図

SK-613



第47図 第613・626号土坑出土遺物実測図

表9 第4号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
2 小碟	長: 2.3 厚: 1.0 幅: 3.0 重: 8.59	長円形状、扁平でやや弧状 図 右面斜線部は研磨か	内外 明黄褐色	輝石デイスイト	ほぼ完形	SK-4

表10 第8号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
2 土師器 甕類・口縁	口径: 一 底径: 一 器高: (2.7)	内 口縁部: ヨコナデ 外 口縁部: ヨコナデ 下半斜方向にナデる	にぶい黄褐色	須恵器・土師器 B群・1・2・5 良	小片	SK-8・B No. 1

表11 第23号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師器 搦鉢	口径: 一 底径: 一 器高: (3.7)	内 ナデ 7条単位の摺目を疎らに施す 摺目は整然と明瞭 外 ナデ 指頭痕残る	内 にぶい黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器A群 良	小片	SK-23 No. 1

表12 第28号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 瓦質土器 鉢類 (片口)	口径: 一 底径: 一 器高: (6.8)	内 ヘラナデ→ 口縁部: ヨコナデ 外 ヘラナデ 工具の木口痕残る 口端部は角形に整形	内 オリーブ黒色 外 灰色	瓦質土器C群 良	小片	SK-28
2 瓦質土器 鉢類 (片口)	口径: 一 底径: 一 器高: (8.0)	1-4は同一個体か	内 にぶい黄褐色 外 灰褐色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW2 SK-28
3 瓦質土器 鉢類 (片口)	口径: 一 底径: 一 器高: (4.5)	内 ヘラナデ 外 剥落するか 指頭か	内外 褐色	瓦質土器D群 良	小片	SK-28
4 瓦質土器 鉢類 (片口)	口径: 一 底径: 一 器高: (8.5)	内 ヘラナデ 外 指頭残る	内 にぶい黄褐色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器D群 良	小片	SK-28
5 瓦質土器 土釜	口径: 一 底径: 一 器高: (5.2)	内 ヘラナデ 外 スス状の付着物顕著 ヘラナデか 把手接合部は指ナデか 指頭痕残る 羽先端は欠損する	内 にぶい黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-28
6 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (4.4)	内 口端部: 稜を形成 ヘラナデ 口端部下2.0cm以下 発泡状剥離 外 口端部: スス付着 ヘラナデか 同一個体とみられる小片1片あり	内 黄灰色 外 オリーブ褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-28
7 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (2.0)	内 ヘラナデ 工具の木口痕残る 外 ヘラナデ 体部: スス付着 平底気味の底部から湾曲気味に体部が立ち上がる 同一個体とみられる1片が出土する	内外 灰色	瓦質土器C群 良	小片	SK-28

表13 第35号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 瓦質土器 搦鉢	口径: 一 底径: [13.0] 器高: (1.2)	内 摺目を十文字に施すか 摺目は5条一単位か	内 暗褐色 外 黒褐色	瓦質土器B群 良	小片	SK-35

表14 第37号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 石製品 砥石	長: 4.8 厚: 1.5 幅: 3.8 重: 35.36	図 上: 上端面の一部・表・裏・左・右の5面残存 主砥面は表面 左面は金属器によるとみられる数条の 線状痕あり 右面は整形時とみられる切削痕が残る	内 オリーブ黄色 外 黄褐色	粘板岩 良	小片	OYAW2 SK-37

表15 第41号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕・体部	口径: 一 底径: 一 器高: (4.0)	内 同心円状で具痕 外 平行引き	内 灰黄褐色 外 黄灰色	須恵器土器A群 良	小片	SK-41
2 土師質土器 小皿(灯明皿)	口径: [7.8] 底径: 一 器高: (1.9)	ロクロ成形 体部は外傾しつつ直線的に立ち上がる 口縁部内外面にスス付着	内外 にぶい黄褐色	土師質土器A群 良	小片	SK-41
3 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 一 器高: (1.9)	ロクロ成形 口縁部下: やや「く」字状に屈曲、内湾気味に立ち上がる 破片端部は底部との境付近か	内外 にぶい黄褐色	土師質土器B群 良	小片	SK-41

第3章 確認された遺構と遺物

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
4 土師質土器 小皿	口径: [10.0] 底径: 一 器高: (3.0)	ロクロ成形 下端部は底部に近いが、 体部は内湾気味に立ち上がる	内外 にぶい黄褐色	土師質土器A群 良	小片	SK-41
5 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 3.6 器高: (1.3)	ロクロ成形 体部: 外傾して立ち上がる 器面: 磨滅	内外 灰白色	土師質土器A群 良	小片	SK-41
6 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 3.0 器高: (1.6)	ロクロ成形 内外面磨滅 底部からやや丸味を持って立ち上がる 底部 回転糸切り未調整	内 浅黄褐色 外 にぶい黄褐色	土師質土器A群 良	小片	SK-41
7 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: [4.0] 器高: (0.8)	ロクロ成形 底部 磨滅	内 浅黄褐色 外 にぶい褐色	土師質土器A群 良	小片	SK-41
8 内耳土器	口径: [29.8] 底径: 一 器高: (8.0)	内 口縁部: ヨコナデ 指頭痕残る 体部: ヨコナデ 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデか 全面にスス付着	内 暗灰黄色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-41 深納とみられる
9 内耳土器	口径: [32.0] 底径: 一 器高: (15.0)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 口縁部下に稜を持つ 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデか 磨滅 口縁部以下にオコグ状の付着物	内 明赤褐色 外 にぶい赤褐色	瓦質土器C群 良	1/8	SK-41
10 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (3.3)	内外面 磨滅 外 ヘラナデか 底部 やや丸味を帯びる	内 灰黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-41
11 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (1.7)	内 磨滅 ヘラナデか 外 ヘラナデ 底周部のヘラナデ明瞭 外面スス付着 底部: やや丸味を帯びるか	内 灰黄褐色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-41
12 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (2.0)	内外 ヘラナデ 外 オコグ状付着物 底部 平底	内 にぶい黄褐色 外 灰黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-41
13 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (1.4)	外 ヘラナデ 底部 平底	内外 暗褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-41
14 瓦質土器 摺鉢	口径: 一 底径: 一 器高: (4.5)	摺目を疎らに施す 摺目は10条以上一単位か	内外 褐色	瓦質土器A群 良	小片	SK-41
17 小礫	長: 2.0 厚: 1.2 幅: 1.6 重: 5.21	切削による整形後、研磨か	表裏 にぶい黄色	流紋岩	完存	SK-41

表 16 第 42 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕	口径: 一 底径: 一 器高: (20.9)	内 同心円状あて具痕 外 平行叩き 3段以上のカキ目 (10本単位か)	内 にぶい黄褐色 外 黄褐色	須恵器・土師器 B群・1・2・6・7 良	破片	SK-42 No. 23
2 内耳土器	口径: [32.0] 底径: 一 器高: (8.2)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 磨滅 口縁部下: やや「く」字状の稜 外 体部: ヘラナデ (タテ) → 口縁部: ヨコナデ	内外 青黒色	瓦質土器C群 良	小片	SK-42 No. 24
3 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (6.8)	内 内耳接合部: 指ナデ 外 内耳接合部下端: 指頭痕により凹む	内 にぶい褐色 外 褐色	瓦質土器D群 多量 良		SK-42 No. 26
4 内耳土器	口径: [42.0] 底径: 一 器高: (21.0)	内 体部: ヘラナデ → 口縁部: ヨコナデ 口縁部下に段差を持つ ヨコナデは段差下まで施される 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ (タテ) 体下位 ヨコ 底周部 幅狭の工具でヨコ 口縁部下: やや「く」字状に屈曲 体上半を中心にオコグ状付着物 同一個体とみられる1片あり	内 褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 良	1/4	SK-42 No. 27 SK-42-1 SK-42-10
5 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (0.9) 厚さ: 0.9	内 オコグ状付着物 底部 平底 ところどころ円形状の剥落	内 明褐色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SK-42 No. 27
6 陶器 古瀬戸	口径: 一 底径: 一 器高: (3.1)	内外面 無釉	内 黄灰色 外 にぶい黄褐色	陶器B群 良	小片	OYAW2 SK42 北半

表 17 第 43 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 一 器高: (3.7)	ロクロ成形 口縁部 内外面: 被熱により赤色変化	内外 にぶい黄褐色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 SK-43
2 瓦質土器 摺鉢	口径: 一 底径: 一 器高: (2.3)	摺目を疎らに施す 摺目は9条以上一単位か 摺目 深浅があるがほぼ等間隔	内 黄灰色 外 黒色	瓦質土器A群 良	小片	OYAW2 SK-43 べつ

表 18 第 44 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 陶器 常滑 甕	口径:— 底径:— 器高: (4.8)	口縁部: 内外面ヨコナデ	内外 にぶい黄橙色	陶器胎土C類 良	小片	OYAW2 SK-44

表 19 第 46 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿か	口径:— 底径:— 器高: [4.0]	ロクロ成形 底面 ヘラ記号か 線刻あり	内外 浅黄色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 SK-46

表 20 第 47 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿 (灯明皿か)	口径:— 底径:— 器高: (2.0)	ロクロ成形 内 スス付着か	内 黒褐色 外 灰黄色	土師質土器A群 良	小片	OYAW2 SK-47
2 内耳土器	口径:— 底径:— 器高: (3.2)	口縁部: ヨコナデ	内外 黒褐色	瓦質土器D群 少量 良	小片	OYAW2 SK-47

表 21 第 48 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
2 土師質土器 小皿	口径:— 底径:— 器高: (2.8)	ロクロ成形	内外 にぶい黄橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 SK-48

表 22 第 51 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕類か	口径:— 底径:— 器高: (3.8)	内面に沈線が巡る	内 灰色 外 灰白色	須恵器・土師器 B群・1・5 良	小片	OYAW2 SK-51
2 土師質土器 甕	口径:— 底径:— 器高: (2.1)	内 発泡状剥離 外 底周部: ヘラケズリ (ヨコ)	内外 明黄褐色	須恵器・土師器 B群・1・5 良	小片	OYAW2 SK-51

表 23 第 54 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 古瀬戸 卸し皿	口径:— 底径:— 器高: (2.6)	内 先端の細い工具で卸し目を引く 見込みは格子状 外 素材に軸葉のたれがみられる 底 回転糸切りか	内 浅黄色 外 にぶい黄色	陶器B群	小片	OYAW2 SK-54

表 24 第 69 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径:— 底径:— 器高: (7.0)	ロクロ成形 内外面とも磨滅 外面 スス付着	内 灰黄色 外 浅黄色	土師質土器A群 良	小片	OYAW2 SK-69
2 内耳土器	口径:— 底径:— 器高: (6.2)	内 口縁部: ヨコナデ 内耳接合部: 指ナデ 外 内耳接合部凹む 磨滅	内 明褐色 外 褐色	瓦質土器D群 多量 良	1/2以下	OYAW2 SK-69

表 25 第 71 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 陶器 古瀬戸 碗類か	口径:— 底径:— 器高: (5.1)	ロクロ成形 内 灰軸を施す 外 体部灰軸、体下位施軸なし ツケガケか 内-外 中位: 灰軸	内外 浅黄色	陶器胎土B類 やや硬質	小片	SK-71-1 古瀬戸中期以降か

表 26 第 73 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器か 不明	口径:— 底径:— 器高: (3.6)	内外面 磨滅 口唇部 肥厚	内外 橙色	土師質土器C群 良	小片	OYAW2 SK-73

第3章 確認された遺構と遺物

表 27 第 75 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.3)	内外面 磨減 口縁部:ヘラナデか	内 にごい黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SK-75

表 28 第 78 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 磁器 染付 碗	口径:— 底径:— 器高:(3.1)	半筒碗か 内 見込みに五弁花文 外 草花文か	内外 灰白色 素地	陶器胎土D類 良	小片	SK-78 江戸中期以降か

表 29 第 79 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(0.8)	外面劣化顕著 内面スス付着 小孔は補修孔か 残存する孔周囲に欠損等なし	内 にごい橙色 外 明赤褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SK-79

表 30 第 82 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 瓦質土器 焙烙か	口径:— 底径:— 器高:(4.0)	内外面 ヨコナデか	内 灰オリーブ色 外 灰色	瓦質土器A群 良	小片	OYAW2 SK-82

表 31 第 83 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 石製品 硯か	長:3.7 厚:0.1 幅:3.3 重:3.98	図 左面のみ残存	内外 灰色	粘板岩 良	小片	OYAW2 SK-83

表 32 第 94 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕	口径:— 底径:— 器高:(3.7)	内 自然袖か 外 平行叩き 部分的に自然袖か	内 灰オリーブ色 外 暗灰黄色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW2 SK-94 トレンチ
2 瓦質土器 焙烙	口径:— 底径:— 器高:(2.5)	内外面 磨減 赤色変化及び器表面 剥離 被熱か	内 明褐色 外 明黄褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW2 SK-94
3 土師質土器 焙烙か	口径:— 底径:— 器高:(4.3)	内外面 ヨコナデ	内外 にごい褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SK-94 トレンチ
4 瓦質土器 火鉢か	口径:— 底径:— 器高:(7.9)	内外面 口端部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ(タテ)	内外 明赤褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW2 SK-94
5 瓦質土器 火鉢か	口径:— 底径:— 器高:(11.6)	内 半截竹管状工具でタテ方向に凹凸 外 口端部:ヨコナデ 体部:ヘラナデか(タテ)	内 暗褐色 外 黒色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW2 SK-94
6 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(0.6)	部位不詳 補修孔か 穿孔時の剥離はみられるが目立った欠損なし	内 にごい橙色 外 にごい黄色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SK-94
7 瓦質土器か	長:4.7 厚:1.3 幅:2.0 重:13.37	砥石転用か 上下端 片側側面研磨 器壁の厚さから鉢類か	内外 明赤褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW2 SK-94 トレンチ
8 小礫 不明	長:3.3 厚:2.3 幅:2.5 重:23.32	部分的に欠損するが表面は滑らか	内 橙色 外 にごい黄褐色	凝灰岩 良	完存	OYAW2 SK-94 トレンチ
10 素焼き 塑像	長:2.8 厚:1.6 幅:1.9 重:5.54	大黒神像か 磨減 径0.3cm程の棒を芯に作製か	表裏 明緑灰色	緻密 良	ほぼ完存	OYAW2 SK-94
11 磁器 仏像	長:3.5 厚:1.7 幅:2.6 重:16.18	座像か 像中心部から背面中位に貫通孔 背面貫通孔下 砂粒状のこびりつき	内外 明緑灰色	磁器B類 良	ほぼ完存	SK-94 トレンチ 近・現代産か

表 33 第 104 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 埴輪か	口径: — 底径: — 器高: (2.6)	外 ハケ目か	内 明褐色 外 橙色	白色粒子 良	小片	OYAW2 SK-104
2 石製品 基石か	長: 1.6 厚: 0.4 幅: 1.4 重: 1.19	扁平で光沢を持つ	内外 暗褐色	頁岩 良	完存	OYAW2 SK-104

表 34 第 107 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師器 小型壺か	口径: — 底径: — 器高: (3.4)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ (ヨコ) 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラケズリ (ヨコ)	内外 明赤褐色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 白色粒子 良	小片	OYAW2 SK-107

表 35 第 113 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径: — 底径: — 器高: (4.0)	ロクロ成形	内外 浅黄褐色	土師質土器A群 良	小片	OYAW2 SK-113a
2 小皿	長: 2.4 厚: 1.3 幅: 1.7 重: 4.95	長円形の浅鉢 表面 風化するが本来濃灰色 Ⅲ区出土 第62図-14と似る	表裏 明黄褐色	スコリア質安山岩	完存	OYAW2 SK-113a

表 36 第 115 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕	口径: — 底径: — 器高: (4.6)	内 同心円状で具痕 外 平行叩き	内 にぶい黄褐色 外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW2 SK-115

表 37 第 613 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (5.2)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: 磨滅 口縁部下: わずかに稜となり沈線が巡る 外 口縁部: ヨコナデか 口縁-体部: オコグ状付着物顕著	内 にぶい赤褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 良	小片	SK-42-1
2 内耳土器	口径: [32.0] 底径: — 器高: (8.6)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデか 発泡状の剥離 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデか 磨滅 口縁-体部: オコグ状付着物顕著	内外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-42-6
3 内耳土器	口径: [37.8] 底径: — 器高: (7.0)	内 ヘラナデか 口縁部下: 受口状の稜 磨滅 外 ヘラナデか 口縁-体部: オコグ状付着物顕著	内 明赤褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 少量	1/8以下	SK-42-9
4 内耳土器	口径: [35.5] 底径: — 器高: (8.0)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: 磨滅 外 口縁部: ヨコナデ 口縁-体部: オコグ状付着物顕著	内 にぶい褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 少量	1/8以下	SK-42 No. 13
5 内耳土器	口径: [33.4] 底径: — 器高: (8.6)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデか 磨滅 内耳接合部: 指頭痕 外 体部: ヘラナデか→ 口縁部: ヨコナデ ススの付着なし 口縁部下: 「く」字状にやや屈曲する	内 オリーブ黒色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器D群 少量 良	1/8以下	SK-42-1 北1
6 内耳土器	口径: [34.8] 底径: — 器高: (11.3)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: 内耳接合部: 指頭痕顕著 体部: 披熟による赤色変化 スス付着 外 口縁部: ヨコナデ 「く」字状に屈曲する 内耳: 丸味を帯びる 体部: 指ナデ 指頭痕 9 cm程の間隔で内耳が接合か	内 橙色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-42-5
7 内耳土器	口径: [36.0] 底径: — 器高: (19.6)	内 口縁部: ヘラナデか 体部: ヘラナデ 口縁部下: 屈曲し沈線が巡る 口縁部下: 「く」字状に屈曲し稜を作出 外 口縁部: 磨滅 スス付着 体部: ヘラナデ	内 にぶい赤褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-42-4 No. 12 SK-240-8と同一か
8 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (5.7)	内 内耳欠損 上部・基部のみ残存 円形の凹みは積み上げ痕か 口縁部: 磨滅 体部: ヘラナデ 内耳接合部: 指ナデ 口縁部下: 屈曲し沈線状 口縁部下: 「く」字状に屈曲 内耳剥落 外 口縁部: ヘラナデか 体部: ヘラナデ オコグ状付着物	内 褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-42-10

第3章 確認された遺構と遺物

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
9 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(11.2)	内 ヘラナデ 指頭痕残る 底周部:ススに指紋残る 外 ヘラナデか オコゲ状付着物	内 黄灰色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-42-7
10 内耳土器	口径:— 底径:[16.6] 器高:(3.3)	内 磨滅 外 ヘラナデ 底周部は幅狭の工具使用 ヘラナデ明瞭 底部:平底	内 黄褐色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SK-42 No. 11
11 石製品 紡錘車か	長:5.1 厚:1.1 幅:2.5 重:17.75	孔の有無は不詳 図 上面は半部表面剥落 残存部は平滑 下面はやや磨滅 断面凹状	内 暗灰黄色 外 黄灰色	砂岩 良	1/2	OYAW2 SK-42-7

表 38 第 626 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(6.5)	内 内耳接合部:指ナデ 整形は精巧で仕上げの痕跡薄い 外 内耳接合部凹む オコゲ状付着物	内外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	SK-34b

が確認される。帰属等詳細は不明である。p 1 は、SK-739 底面の東西約 0.1 m・南北約 0.08 mで、SK-739 底面からの深さ約 0.02 m、底面レベル 31.04 mである。SK-366 底面からの深さが浅いことから、周辺に位置する P-740～744 同様、別遺構の可能性が考えられる。 **遺物出土状況** 覆土中から 2 片が出土する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ成形の土師質土器小皿口縁部片 1 片、内耳土器口縁部片 1 片である。内耳土器の胎土は瓦質土器 C 群である。

5. 井戸跡

(1) 調査の概要

現地調査において地下式坑の可能性が考慮された遺構は 13 基である。

I 区からは SE-26・27・30・100・143 の 5 基が確認される。

SE-100 については、現地調査時の所見に従い本節に記載したが、底面が確認されていることや、湧水等がみられないことから、井戸跡以外の遺構である可能性も残る。井戸跡であれば、北西約 1.5 m に位置する地下式坑 SK-106 との関連が考慮される。

II 区からは SE-118・145・603・604 の 4 基、III -2 区からは SE-87・92・93 の 3 基、III -3 区からは SE-77 の 1 基が確認される。

SE-100 以外は、湧水、及び、作業の安全のため、掘削を中止した。

湧水のため掘削を中止した井戸跡及び湧水レベルは、I 区 SE-26:29.25 m・SE-27:29.25 m・SE-30:29.25 m、II 区 SE-118:29.84 m・SE-231:29.4 m、III -2 区 SE-93:29.3 m である。概ね 28.3 m 前後が湧水レベルとみられる。

作業の安全のため掘削を中止した井戸跡および掘削中止レベルは、I 区 SE-143:29.15 m、II 区 SE-145:29.2 m、III -2 区:SE-92:29.35 m、III -3 区 SE-77:29.35 m である。

遺物の出土は SE-92・93 などに確認される。縄文土器、内耳土器、砥石、陶磁器などであり、出土量は僅少である。陶磁器の中には近・現代と判断される破片もあり、時間幅は大きい。

SE-603・604 は SK-24 重複部から遺物が出土しており、出土遺物は SK-24 に記載する。

(2) 井戸跡

第26号井戸跡 (SE-26) (第48図 図版七)

位置 II区 R-17・18 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径 1.05 m前後である。**底面** 湧水のため掘削を中止した。遺構確認面からの深さ約 0.88 m、図中破線で示したレベル 29.25 m付近が湧水レベルである。**覆土** 5層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第27号井戸跡 (SE-27) (第48図)

位置 II区 Q-18 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径 1.0 m前後である。**底面** 湧水のため掘削を中止した。遺構確認面からの深さ約 0.78 m、図中破線で示したレベル 29.25 m付近が湧水レベルである。**覆土** 7層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第30号井戸跡 (SE-30) (第48図)

位置 II区 Q-17 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径 0.64 m前後である。**底面** 湧水のため掘削を中止した。遺構確認面からの深さ約 0.78 m、図中破線で示したレベル 29.25 m付近が湧水レベルである。**覆土** 5層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第77号井戸跡 (SE-77) (第48・49図 表39 図版一四)

位置 III - 3区 L-11 グリッドに位置する。東側は調査区外に位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。遺構確認面の規模は径 [0.9] m、井筒 [0.65] m である。**底面** 表土下約 1.7 m、遺構確認面下約 1.45 m、レベル 29.35 m付近で掘削を中止した。**覆土** 6層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から2点が出土する。

出土遺物 1は天目茶碗である。2は石臼である。上白か。

第87号井戸跡 (SE-87) (第17図 図版七)

位置 III - 2区 N-12 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。p 1・2は別遺構である可能性が残る。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径 0.83 m前後である。**底面** 遺構確認面からの深さ約 0.9 m、図中破線で示したレベル 29.3 m付近で掘削を中止した。**覆土** 6層を確認した。3層は黄白色粘土が堆積がする。**付属施設** p 1・2が確認される。帰属等不詳である。p 1は3層が堆積する。本遺構に伴うか。p 2は浅く不整形であり、掘り過ぎ等の可能性も残る。各々の径・遺構確認面からの深さ・レベルは、p 1は約 0.23 m・約 0.2 m・29.95 m、p 2は約 0.38 m・約 0.12 m・30.02 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第92号井戸跡 (SE-92) (第17・49図 表40)

位置 III - 2区 N-12 グリッドに位置する。**重複関係** SK-705 (地下式坑) より新しい。SK-95 とは不明である。北側は溝状の掘り込みに切られる。SE-93- 1～4層が本遺構覆土とすれば、SE-92 より新しい。

形状・規模・主軸 井筒は円形状とみられる。土層断面にみえる最上部はレベル 30.5 m付近であり、幅約 (2.0) m、井筒上端部の径はレベル約 30.0 m付近で約 1.08 mである。SE-93- 1～4層が本遺構覆土とすれば、現状の最大径は、SE-93- 1・2層まで (2.0) m、SE-93-3・4層まで (1.5) mである。**底面** 表土下約 1.2 m、遺構確認面からの深さ約 0.8 m、図中破線で示したレベル 29.35 m付近で掘削を中止した。

覆土 19～26層を確認した。19・20層はロームを主体とする黄褐色土である。**遺物出土状況** 覆土

第3章 確認された遺構と遺物

中から4点が出土する。

出土遺物 1は砥石である。使い減り後破損或いは破砕後、金属器等の研磨用に転用か。

この他、図示し得なかった出土遺物は土師器壺類とみられる微細片1片、播鉢微細片1片、磁器1片である。磁器は灰釉を内外面に施す体部微細片である。貫入が顕著。時期・産地等詳細は不明である。

第93号井戸跡 (SE-93) (第17・49図 表41 図版七・一四)

位置 Ⅲ-2区N-13グリッドに位置する。**重複関係** SK-704より古い。覆土1～4層がSE-92に伴うとすれば、SE-92より古い。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、径0.9m前後である。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.8m、図中破線で示したレベル29.3m付近で掘削を中止した。底面には水分が滲む。**覆土** 1～6層を確認した。1～4層はSE-92覆土の可能性が考えられる。4層下面のレベル30.0m付近はSE-92井筒上端部のレベルと同レベルである。5・6層は本遺構覆土と判断できる。5層は粘性のある黄白色のロームを主体とし、1.0～2.0cmほどの厚さの黒褐色土の6層を挟んで堆積する。

遺物出土状況 覆土中から7点が出土する。

出土遺物 1・2は内耳土器。器高は浅いか。3は土錘か。

この他、図示し得なかったが、縄文土器1片、内耳土器1片、陶磁器2片が出土する。縄文土器は口縁部に列点が沿い、列点下部に帯状区画とみられる沈線が巡る小片である。称名寺式か。内耳土器は口縁部小片であり、胎土は瓦質土器D群である。陶磁器は、鉄釉を施す瓶類微細片1片、灰白色釉で連続文を施す高台付きの碗類とみられる1片である。近・現代か。

第100号井戸跡 (SE-100) (第48図)

位置 I区T-21グリッドに位置する。北西約1.6mに地下式坑SK-106が位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南半部は調査区外に延びるが、井筒は円形状であろうか。底面の規模は、径約(1.18)mである。**底面** ロームを掘り込む。深さ約0.6m・レベル約29.00mである。**覆土** 3層を確認した。上層に粘土ブロックの堆積が目立つ。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第118号井戸跡 (SE-118) (第48図 図版七)

位置 Ⅱ区R-17グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 西側は調査区外に延びるが井筒は円形状とみられる。遺構確認面の規模は、径1.05m前後である。**底面** 湧水のため、遺構確認面からの深さ約1.15mで掘削を中止した。図中破線で示したレベル28.94m付近が湧水レベルである。**覆土** 10層を確認した。1・2・4層は掘り直し等の堆積か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第143号井戸跡 (SE-143) (第50図)

位置 I区S-19グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが新旧関係は不明である。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、遺構確認面の規模は、東西約0.92m・南北約1.02mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.6m、図中破線で示したレベル29.15m付近で掘削を中止した。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第145号井戸跡 (SE-145) (第36図 図版七)

位置 Ⅱ区R-18グリッドに位置する。**重複関係** SK-110より新しい。P-147と西側が接するが新旧関係は不明である。遺構上部は、北側を攪乱溝、東側に一部をSK-110によって失う。重複関係にはないが、周囲にはP-146～151が位置する。明確なピットではなく、本遺構との関連も判然としないが、西半部に沿う位置にあり、付記する。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。遺構確認面の規模は径[0.9]mで

ある。**底面** 遺構確認面からの深さ約 0.8 m、図中破線で示したレベル 29.2 m 付近で掘削を中止した。

覆土 6層分を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 566 号井戸跡 (SE-566) (第 48 図)

位置 I 区 S-21 グリッドに位置する。周辺に遺構は少なく、I 区・II 区の遺構密集部の中間部にあたる。I 区 D-10 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。底面の規模は、東西約 0.9 m・南北約 0.78 m である。**底面** 29.0 m 付近で湧水のため掘り下げを中止した。

覆土 3層を確認した。1・2層はロームブロック、粘土ブロックを主体とする。周辺の攪乱の盛り土層か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 603 号井戸 (SE-603) (第 20 図)

位置 II 区 Q-16 グリッドに位置する。**重複関係** SK-24 より新しい。SE-604 とは重複関係を含め不詳である。**形状・規模・主軸** 東側が調査区外にあり、詳細は不明である。段をもって内側に膨らむ SK-24 東壁は、本遺構に起因する可能性も捨て切れない。平面形は方形であり、規模は、東西 (1.0) m・南北 (0.8) m である。**底面** 遺構確認面からの深さ約 1.0 m、図中破線で示したレベル 29.1 m 付近で掘削を中止した。

覆土 8層を確認した。2層は黄白色粘土を主体とする。SK-24- 6～9層は本遺構覆土である可能性も残り、帰属は判然としない。現地調査では、9層は SK-24 天井部の崩落層との所見がある。**遺物出土状況** SK-24、及び、SE-603、SE-604 を含む覆土中から 21 片が出土する。SK-24 に記載する。

第 604 号井戸 (SE-604) (第 20 図)

位置 II 区 Q-16・17 グリッドに位置する。**重複関係** 判然としないが、SK-24・SE-603 より古いか。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、規模は、東西約 0.9 m・南北約 1.0 m である。**底面** 湧水のため、遺構確認面からの深さ約 0.7 m、図中破線で示したレベル 29.4 m 付近で掘削を中止した。**覆土** 5層を確認した。2層は黄白色粘土を主体とする。全体的にしまりなし。SK-24- 6～9層は本遺構覆土である可能性も残り、帰属は判然としない。現地調査では、9層は SK-24 天井部の崩落層との所見がある。**遺物出土状況** SK-24、及び、SE-603、SE-604 を含む覆土中から 21 片が出土する。SK-24 に記載する。

6. 溝状遺構

(1) 調査の概要

現地調査において地下式坑の可能性が考慮された遺構は 7 条である。

II 区からは SD-19・21、III -1 区からは SD-64・72・633・642、III -2 区からは SD-89 が確認される。何れも調査区外に延び、確認し得たには遺構の一部である。

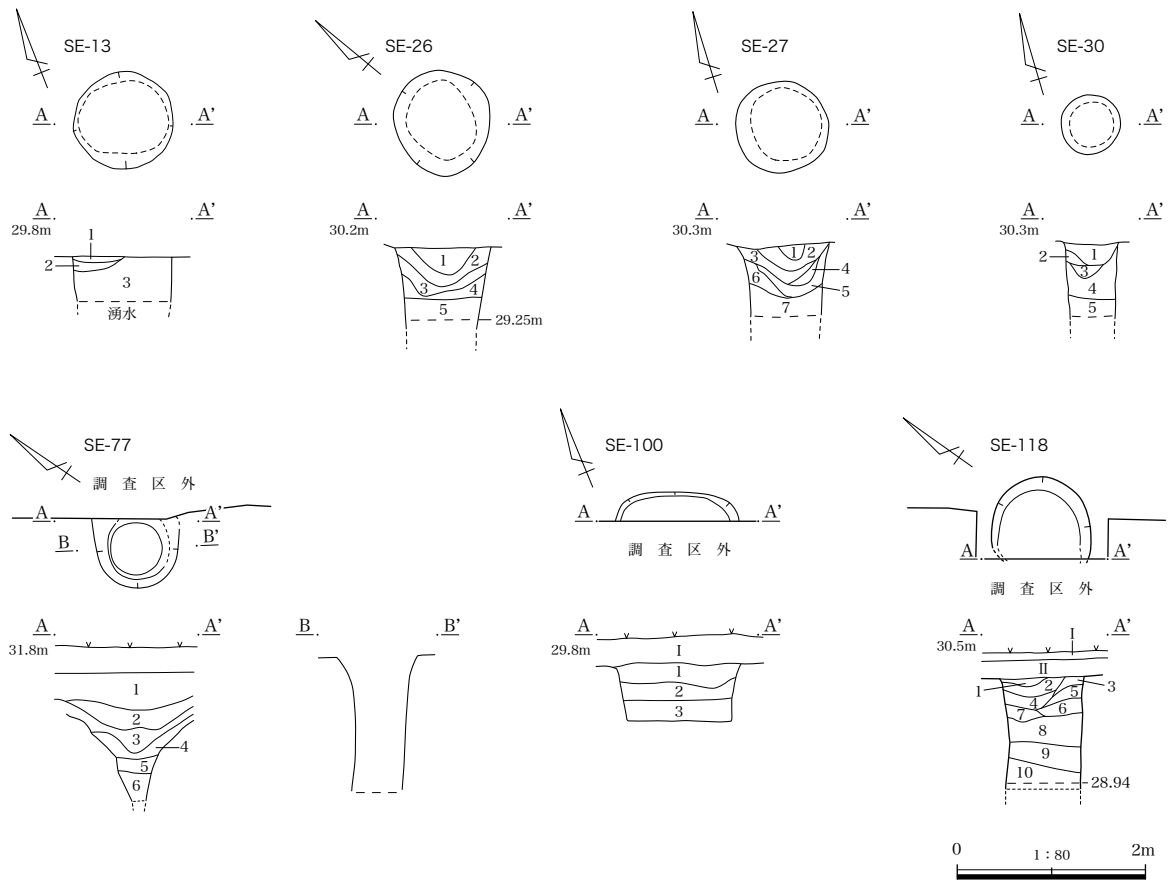
SD-19 は 3 次調査 A 区 SD-19 に繋がるものと判断される。

SD-21 については、東側が立ち上がる。調査区東端部に近く、土橋状となり更に東側へ連続するか、遺構端部であるか、明確ではない。

遺構の主軸は、SD-19・64・72・89・633 の北東 - 南西方向に延びる溝状遺構と、SD-21・642 の概ね東西に延びる溝状遺構とに大別される。SD-19・21 の重複関係から明らかなように、2 方向の主軸は概ね直交する。また、SD-19・21 は群在する長方形土坑群と同様の主軸である点、留意される。

底面の傾斜をみると、明確な傾斜が観察されるのは SD-19 (南→北) のみである。SD-64・89・642 のように、傾斜は確認されるものの僅かな高低差であるもの、溝長が短いもの、SD-21・633 のように傾斜が観察されないものが主体をなす。SD-19 についても、調査区外の状況は計り知れない。

第3章 確認された遺構と遺物



- SE-13
- 1 黄褐色土 ローム土。硬くしまる。粘性なし。周辺の擾乱土。
 - 2 明灰褐色砂質土 粘土と砂の混合層。しまりあり。粘性なし。
 - 3 明褐色土 ローム粒子多量、灰色粘土粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。

- SE-26
- 1 明褐色土 ローム微粒子含む。しまりなし。
 - 2 暗褐色土 1層よりローム多量。しまりなし。
 - 3 暗黒褐色 2層よりローム粒子多量。しまりなし。
 - 4 黄褐色土 ローム主体。粘土粒子少々。
 - 5 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。

- SE-27
- 1 黒褐色土 ローム粒子 (0.5~1.0cm 大) 含む。しまりなし。
 - 2 黒褐色土 1層と同様のローム粒子・炭化材含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒子 (0.5~1.0cm 大) 含む。1・2層より明色。しまりなし。
 - 4 暗黄褐色土 大きいローム粒子含む。しまりなし。
 - 5 黄褐色土 ローム粒子主体。
 - 6 黄褐色土 ローム粒子主体。5層より明色。
 - 7 明褐色土 ロームあまり含まない。しまりなし。

- SE-30
- 1 暗褐色土 ローム少量。しまりなし。
 - 2 明黄褐色土 ローム多量。しまりなし。
 - 3 暗褐色土 ローム少量。しまりなし。
 - 4 明褐色土 ロームほとんど含まず。しまりなし。
 - 5 暗褐色土 ロームほとんど含まず。しまりなし。

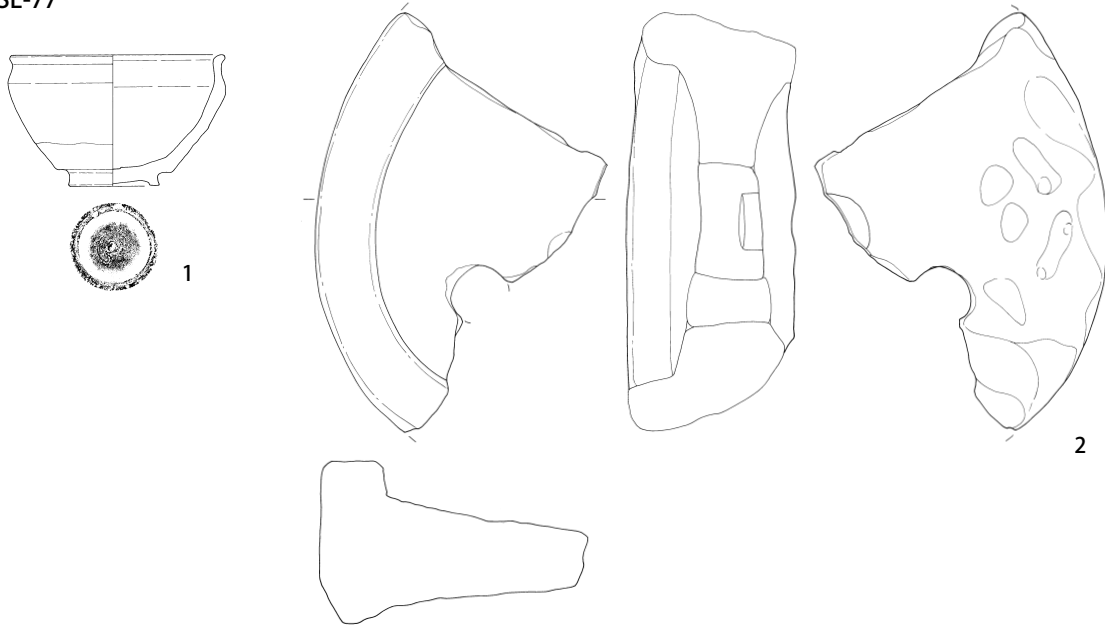
- SE-77
- 1 暗褐色土 焼土・粘土粒子等含む。
 - 2 暗褐色土 焼土・粘土粒子等含む。1層より少量。
 - 3 暗褐色土 焼土・粘土粒子等含む。2層より多量。
 - 4 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。
 - 5 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
 - 6 黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。

- SE-100
- 1 明褐色土 ローム粒子多量。耕作土、ローム削平後、客土。しまりなし。
 - 2 灰褐色土 上位にロームブロック、下位に粘土ブロック含む。硬くしまる。
 - 3 黄褐色土 ロームブロック多量、粘土ブロック少量。しまりあり。
 - 4 黄褐色土 ロームブロック主体。粘土は含まない。しまりあり。

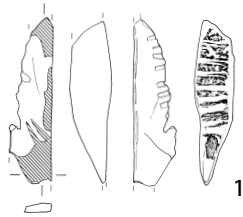
- SE-118
- 1 暗褐色土 表土・盛り土。
 - II 明褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物少量。しまりなし。
 - 1 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
 - 2 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりなし。
 - 3 暗褐色土 まだら状にローム粒子含む。しまりなし。
 - 4 黒褐色土 2層より黒色。粘土粒子少量。しまりなし。
 - 5 暗褐色土 3層に似るがローム粒子多量。しまりなし。
 - 6 黒褐色土 粘土ブロック含む。しまりなし。
 - 7 黒褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量。しまりなし。
 - 8 暗褐色土 粘土ブロック含む。ここが最も多い。
 - 9 黒褐色土 ローム粒子・粘土粒子少量。
 - 10 暗褐色土 9層よりローム粒子多量。この層で湧水。

第48図 第26・27・30・77・100・118・566号井戸跡実測図

SE-77



SE-92



SE-93



第 49 図 第 77・92・93 号井戸跡出土遺物実測図

表 39 第 77 号井戸跡出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 陶器 天目茶碗	口径: 11.2 底径: 4.8 器高: 6.9	ロクロ成形 内 鉄軸を施す 外 ロ一体系下位鉄軸、体下位無軸 高台削り出し	内外 黒褐色 素地	陶器胎土B類 やや硬質	1/2残存	SE-77 美濃系か
2 石臼	長: 22.4 厚: 9.0 幅: 15.5 重: 2287.30	上白か 上面に原料供給孔 (径(3.0)cm)、 下面中央部に軸受 (径(3.0)cm) が残る	内 暗灰黄色 外 黄灰色	輝石安山岩 良	1/3	OYAW2 SE-77

第3章 確認された遺構と遺物

表 40 第 92 号井戸跡出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 砥石	長: 8.8 厚: 2.1 幅: 2.3 重: 39.65	両端部欠損 図 上: 表裏・左右の4面が砥面 残存する2.3cmの幅は使用の結果の大きさか 図 上: 左側面の筋状の痕跡は本遺物砥損後につけられたものか 表面右側、裏面左側にも筋状の痕跡あり	内 暗灰黄色 外 黄灰色	流紋岩 良	廃絶時使用 状態か	OYAW2 SE-92

表 41 第 93 号井戸跡出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: 3.2	内 ヘラナデ 内耳接合部: わずかに指ナデ 外 オコグ附着	内 明褐色 外 黒色	瓦質土器C群	小片	OYAW2
2 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (3.6)	内 指ナデ 外 オコグ状附着物	内 にぶい褐色 外 黒色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW2 SK-93
3 土鏝	長: 5.8 幅: 2.0 重: 14.45	磨滅 ヘラナデ(タテ)か 孔径は図・上 下端より上端が広い 口径はやや三角形	外 黄灰色	白色粒子含む 良	ほぼ完存	OYAW2 SK-93

SD-21 については、遺構内に、深さ 60cm を超える小ピットが穿たれる。特に、p 9・10、p 14・15、p 16・17 は、深さ 60cm を超えるピットが溝状遺構中段部を挟む位置にある。付属施設の設置等に関わるピットも想定が可能であろう。

出土遺物は、各遺構とも総じて少なく、小片が多い。SD-21 は 2 次調査・3 次調査の遺構の中で最も多い 137 点が出土するが、SD-21 を切る攪乱内の遺物を含む。SD-21 と重複する SD-19 と併せ、縄文時代～近・現代とみられる遺物の出土が観察される。SD-19 から出土する 2 点の銭貨も「元豊通宝」とニッケル硬貨「一銭」である。各遺構とも埋没等に伴う混入である可能性が高く、遺構への帰属は判然としない。

(2) 溝状遺構

第 19 号溝状遺構 (SD-19) (第 50・51・53・114 図 表 89・91・94 図版八・一三・一六)

位置 II 区 S-18・19 グリッドを概ね南北に延びる。 **重複関係** SD-21・SK-142・144 より新しい。SE-143 との新旧関係は不明である。 **形状** 南・北側は調査区外に延びる。断面形状は「V」字状であるが壁面に段を有する。 **規模・主軸** 長さ(9.3)m を確認した。遺構確認面の溝幅は、SK-142 重複部南側約 1.4 m・SP-B 付近約 0.96 m・調査区北端部付近約 1.65 m、中段部の溝幅は、調査区南端部付近約 0.9 m・SP-B 付近約 0.62 m・SK-142 重複部南側付近約 1.2 m であり、幅には狭い広いがみられる。中段部の遺構確認面からの深さ、底面までの深さは各所で区々である。遺構確認面からの深さ・レベルは、SD-21 重複部北側付近約 0.2 m・29.8 m、SP-B 付近約 0.12 m・29.88 m、SK-142 重複部南側約 0.34 m・29.66 m である。主軸は SD-21 南側 N-40°-E、SD-21 北側 N-26°-E である。 **底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さ・レベルは、調査区南端部付近約 0.29 m・29.706 m、SD-21 重複部南側付近約 0.42 m・29.578 m、SD-21 重複部北側付近約 0.46 m・29.543 m、SP-B 付近約 0.6 m・29.4 m、SK-142 重複部南側付近約 0.8 m・29.2 m であり、南側から北側に向けた傾斜が認められる。 **覆土** 19 層を確認した。1～5 層は SP-A、6～12 層は SP-B、13～19 層は SP-C で観察される。第一次堆積土は 19 層とみられる。1 層-6 層-13 層、2 層-9 層、3 層-10 層、4 層-11 層、5 層-12 層-18 層は相互に対応するか。3・4 層と 7 層は不自然ともみえる層序であり、掘り直し等を考慮すべきか。 **付属施設** 遺構内には 2 穴の小ピットが確認されたが、帰属・埋没の新旧関係等は不明であり、便宜的に本遺構内での番号を付す。SD-19 に沿って、ピット状の凹凸が確認されるが、p 1・2 以外は判然とせず、図示しなかった。p 1 は東

西約 0.7 m・南北約 0.24 m・遺構確認面からの深さ約 0.358 m・底面レベル 29.642 m、p 2 は東西約 0.36 m・南北約 0.26 m・遺構確認面からの深さ約 0.332 m・底面レベル 29.668 mである。遺物出土状況 覆土中から 50 点が出土する。土器類 22 点、粘土塊 1 片、石製品 19 点、陶磁器類 3 点、銅製品 1 片、銭貨 2 点、鉄滓 2 片、である。

出土遺物 1 は須恵器底部。壺類か。回転糸切りの外縁が磨滅しており、高台が欠落した可能性も残る。2 は土師質土器小皿。3 は内耳土器口縁部片。補修孔とみられる小孔を穿つ。4～6 は播鉢。異個体とみられる。7 は平滑な粘土塊。8 は磨石か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土師質土器小皿 2 片、内耳土器 5 片、瓦質土器 3 片、器種不明 2 片、土器微細片 4 片である。

内耳土器の胎土は瓦質土器 C 類 2 片・D 類 3 片である。瓦質土器は口縁部 2 片・体部 1 片である。胎土は C 類である。内耳土器か。器種不明の 1 片は甕類体部 1 片、焙烙等体部 1 片である。

石は緑色凝灰岩片 18 片が出土する。板碑片か。

陶器は、甕類口縁部 1 片、播鉢体部 1 片、器種不明 1 片である。

甕類口縁部は鉛色釉がかかる。常滑産か。播鉢は全面に摺り目か。器種不明の 1 片は内外面に鉛釉を施すか。

銅製品は垂飾品か。銭貨のうち 1 点は 5 片に破断するが「元豊通宝」か。一点はニッケル硬貨「一銭」である。表 89 に記載する。鉄滓は表 91 に記載する。

第 21 号溝状遺構 (SD-21) (第 50・51・53・54・55 図 表 42・44 図版八・一四)

位置 II 区 P～S-18 グリッドを概ね東西に延びる。**重複関係** SD-19 より古い。SK-138 との新旧関係は不明である。**形状** 西側は調査区外に延びる。東側は立ち上がり確認されるが、調査区東端部に近く、遺構が連続するかは不明である。また、延長線上に位置する SK-32 との関連も不詳である。断面形状は「V」字状であるが壁面に段を有する。p 23 以東は攪乱により、中段部以上の覆土・形状は失われる。東端部の遺構立ち上がり部分についても同様の状況であるが、土層断面からは、辛うじて、本来の立ち上がりラインが残るか。**規模・主軸** 長さ (27.5) mを確認した。遺構確認面の溝幅は、西側端部約 1.8 m・SD-19 東側付近約 1.72 m・SP-A 付近約 1.8 m・p 14 付近約 2.22 m・p 16 付近約 2.05 m・SP-B 付近約 2.05 m・p 21 付近約 2.2 m・p 23 付近約 2.2 m・東端部約 2.0 mである。p 23 以東については、攪乱穴によって原形状は失われているものとみられるが、西側から東側 (立ち上がり部分) にむけて、幅が広がる形状である可能性も考え得る。中段部の溝幅は、西側端部約 0.96 m・SD-19 東側付近約 0.72 m・SP-A 付近約 0.74 m・p 14 付近約 0.74 m・p 16 付近約 0.82 m・SP-B 付近約 0.75 m・p 21 付近約 0.8 m・p 23 付近約 0.95 m・東端部約 0.95 mである。また、中段部のレベルは 29.38 m前後であり、遺構確認面から深さ 0.65 m前後、底面までの深さ 0.25 m前後である。p 23 以東については、攪乱の影響は少ないと判断され、西側から東側へ幅の広がる形状か。主軸は N-71° -W である。**底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦であるが、1.0～5.8cmの凹凸が認められる。浅深の最大差は約 8.0cmである。遺構確認面からの深さは 0.9 m前後である。底面のレベルは、西側端部約 29.084 m・SD-19 東側付近約 29.048 m・SP-A 付近約 29.058 m・p 14 付近約 29.03 m・p 16 付近約 29.06 m・SP-B 付近約 29.12 m・p 21 付近約 29.06 m・p 23 付近約 29.1 m・東端部約 29.11 mである。底面の明らかな傾斜は認められない。**覆土** 6 層を確認した。掘り直し等の痕跡は観察されない。**付属施設** 遺構内には 24 穴の小ピットが確認されたが、帰属・埋没の新旧関係等は不明であり、便宜的に本遺構内での番号を付す。各々の規模・深さ・底面レベルは表 42 に記載する。概ね、深さは 30cm以上であり、深さ 50cm以上のピットが主体となる。最も深いピットは深さ約

第3章 確認された遺構と遺物

107cmのp 7、p 15は96cm、p 2・5・9・17・22・24は80cm以上の深さを持つ。p 3-8、p 4・5-p 9・10、p 11・13、p 14・15、p 16・17・18は溝に直交する軸線上にピットが位置する。特に、p 9・10、p 14・15、p 16・17は、深さ60cmを超えるピットが溝状遺構中段部を挟む位置にある。**遺物出土状況** 覆土中・攪乱内から137点を確認した。p 23以東については、攪乱により失われた可能性が考えられる。3は確認面付近、34は1-2層境目付近、12・15・18・19・22は2層中、16・32は3層中、33は3層中位、4・36は3層下位、35・38は3-4層境目付近、10・37は4-5層境目付近、9は5層中から出土する。

2(須恵器)、9・14(内耳土器)、19・20(播鉢)、1(不明土器)・23(女瓦)・25(石皿) 29(古瀬戸)・31(陶器播鉢)や内耳土器片、板碑片などは攪乱内から出土する。

出土遺物 1～22は土器類である。

1は微細片である判然としないが、弥生時代～古墳時代前期の土師器片か。先端の細い工具で網目状の文様を施す。2は須恵器甕体部片。3は土師器坏か。4は土師器高坏。5～8は土師質土器小皿。5は器壁が厚く内湾しつつ立ち上がるか。6は器壁が薄く体部が開く器形か。7はやや丸底気味。8の底部は小さい目か。9～12は灰色の色調、胎土C類の内耳土器。13は体部片か。9同様に深めの器形か。9～11は立ち上がりの短い口縁部下が屈曲し稜が巡る。10の頸部は「く」字状か。9～12は何れも異個体であり、少なくとも5個体が出土する。36は9の同一個体か。14～17は赤褐色の色調の内耳土器。14は胎土C類、15～17は胎土D類。19～22は瓦質土器播鉢。19は片口か。20・21は播鉢。35は20の同一個体か。23・24は土製品類。23は女瓦片、24は羽口片である。

25～27は石製品である。25は石皿、26・27は砥石である。

28～33は陶磁器類である。28は小壺体下半、内外面とも漆の付着が顕著にみられる。29・30は古瀬戸。31・32は陶器播鉢。32は常滑製品か。33は陶器甕類。常滑製品か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類では、土師器とみられる微細片2片、土師質土器小皿3片、色調が灰色の内耳土器13片、色調が赤褐色の内耳土器21片、瓦質土器播鉢1片(35)、土器微細片2片、が出土する。

土製品類では、24と同一とみられる粘土小塊1片が出土する。

石製品関連では、板碑とみられる緑色凝灰岩1片、破碎礫2片(うち1片は38)が出土する。

陶磁器では、須恵系陶器甕類体部1片、常滑窯産とみられる甕類体部4片・底部1片、甕類体部5片、古瀬戸1片、瀬戸系の碗・皿類1片、近現代磁器1片が出土する。

土師器は頸部片・体部か。土師質土器はロクロ成形の小片。色調が灰色の内耳土器は、8と同一個体とみられる口縁部2片・頸部1片、9と同一個体とみられる口縁部1片(36)、10と同一個体とみられる口縁部1片、13同様の体部片4片・体部小片2片・体～低部1片・平底1片である。色調が赤褐色の内耳土器は、胎土C類の口縁部5片(37を含む)・体部1片・平底片1片、胎土D類の口縁部5片(うち2片は同一個体か)・内耳基部2片・体部7片である。胎土C類は器壁が平底片を除き厚手である。瓦質土器播鉢は19と同一個体か。

石製品関連の破碎礫は、流紋岩で、光沢をもって滑らかな表面であるが、ススの付着や赤色変化がみられる。

古瀬戸片は内面ヘラナデ・外面に灰釉を施す体部小片である。瀬戸系の碗・皿類は灰釉に横縞状の鉄釉を施す微細片である。江戸時代中期以降。

第64号溝状遺構 (SD-64) (第52図 図版八)

位置 Ⅲ-1区P-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状** 北東-南西方向に延び、南側は調査区外に延びる。**規模・主軸** 長さ(2.72)m・幅0.35m前後、主軸はN-26°-Eである。

底面 ロームを掘り込む。遺構確認面からの深さ・レベルは、SP-A付近:約0.03m・29.84m、SP-AB付近:約0.07m・29.8mである。北から南に0.04mほどの傾斜が確認されるが、浅いことや、調査区外に延びることから不詳な点が多い。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第72号溝状遺構 (SD-72) (第52図)

位置 Ⅲ-1区P-15～O-16グリッドを北東-南西方向に延びる。**重複関係** SK-626→SK-627→SD-72→SK-39・SK-637の順に掘り込まれる。SK-69との新旧関係は不明である。**形状** 北東-南西方向に延びる。南端部の溝幅は狭い。**規模・主軸** 長さ(9.78)m・0.5m前後である。南端部の幅は約0.12mである。主軸はN-27°-Eである。**底面** ロームを掘り込み、凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ・レベルは、北端部:約0.08m・29.82m、SP-A付近:約0.08m・29.82m、SP-B付近:約0.2m凹状・29.74m、SO-C:約0.1m・29.82m、SP-D:約0.12m・29.84mである。目立った傾斜は観察されない。

覆土 4～7層を確認した。総じて、ロームを主体とする黄褐色土である。掘り直し等の痕跡は観察されない。**付属施設** 遺構内にはp1～5が確認されたが、帰属・埋没の新旧関係等は不明であり、便宜的に本遺構内での番号を付す。深さを確認し得たものはp2のみである。各々の規模・深さ・底面レベルは以下のとおりである。p1:約0.08m、p2:東西約0.12m南北約0.3m・約0.23m・29.64m、p3約0.14m、p4東西約0.08m・南北約0.2m、p5:約0.1mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第89号溝状遺構 (SD-89) (第33図)

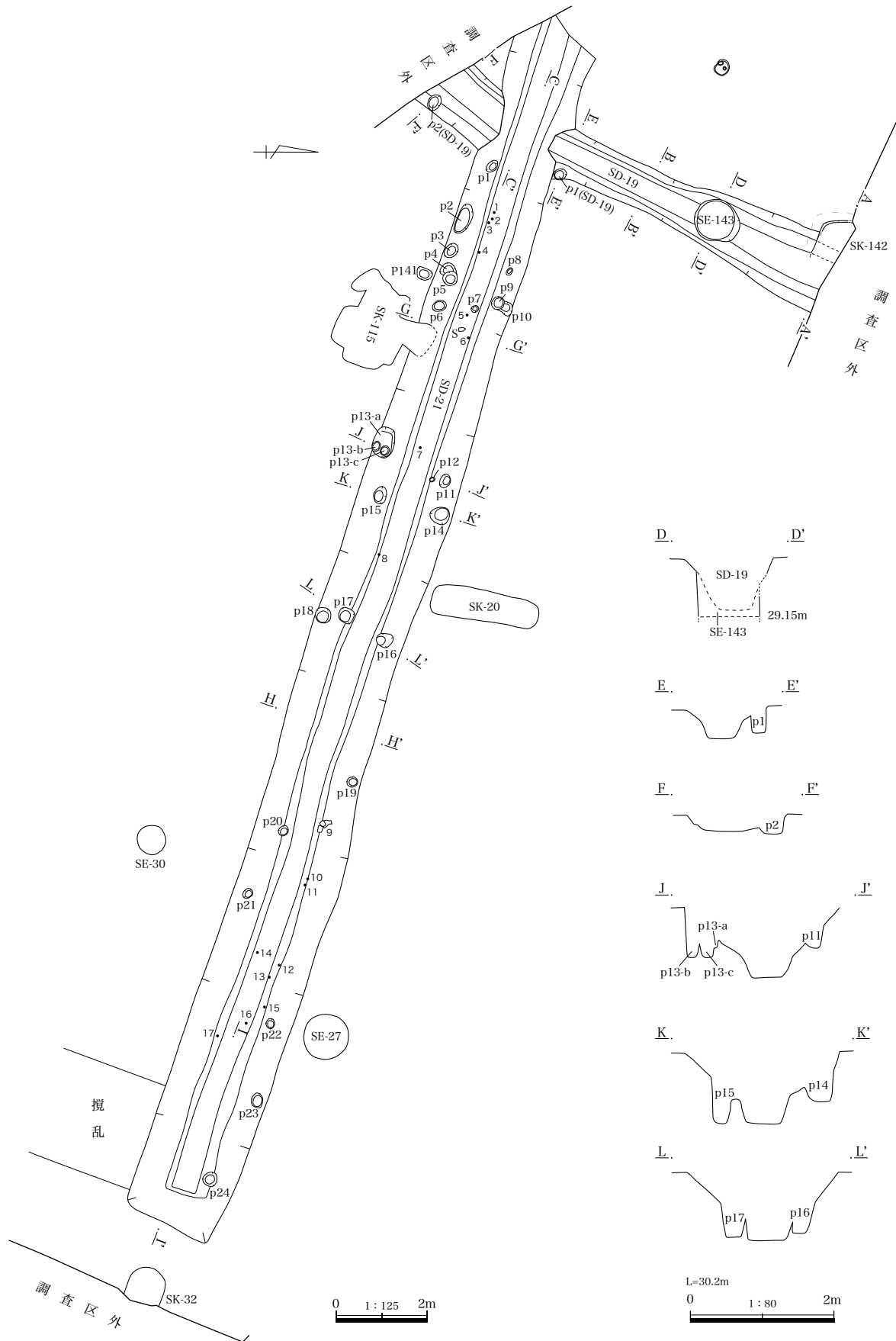
位置 Ⅲ-2区N・M-12グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状** 北東-南西方向に延び、南・北側は調査区外に延びる。**規模・主軸** 長さ(1.4)m・幅1.05m前後、主軸はN-30°-Eである。**底面** ロームを掘り込む。遺構確認面からの深さ・レベルは、調査区北壁付近:約0.25m・30.23m、p2付近:約0.16m・30.32m、調査区南壁付近:約0.09m(表土下約0.3m)・30.39mである。北から南に0.16mほどの傾斜が確認されるが、浅いことや、調査区外に延びることから不詳な点が多い。**覆土** 4層を確認した。**付属施設** p1・2を確認したが、帰属等は不詳である。p1は、東西約0.32m・南北約0.42m、遺構確認面からの深さ約0.39m、レベル30.09mである。p2は、径約0.24m、遺構確認面からの深さ約0.5m、レベル29.95mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第633号溝状遺構 (SD-633) (第52図)

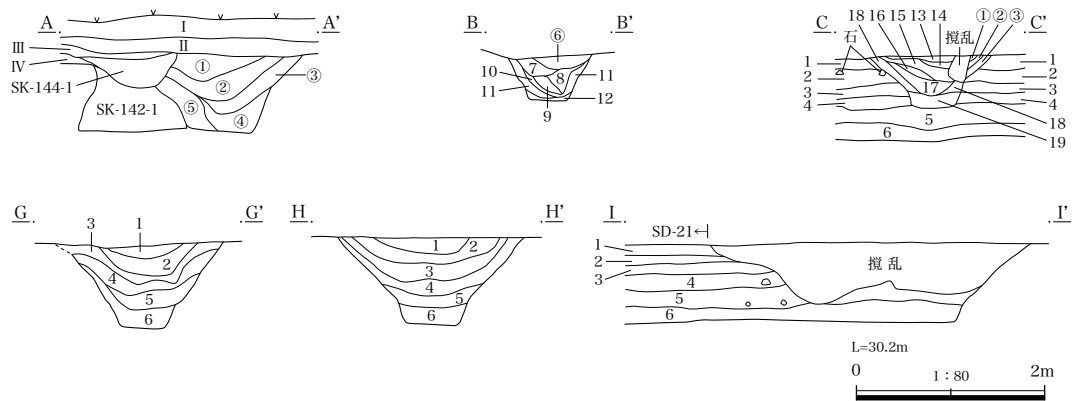
位置 Ⅲ-1区P-15グリッドを北東-南西方向に延びる。**重複関係** SK-44との新旧関係は不明である。**形状** 北東-南西方向に延びる。SD-72の延長線上にあり、同一遺構である可能性が考えられるが判然としない。**規模・主軸** 長さ(2.15)m・幅0.25m前後である。主軸はN-34°-Eである。**底面** ロームを掘り込みむ。遺構確認面からの深さは約0.03m・レベルは29.82mである。浅く、目立った傾斜は観察されない。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第642号溝状遺構 (SD-642) (第33図)

位置 Ⅲ-1区O-15グリッドを北西-南東方向に延びる。**重複関係** SD-642→SK-75→SK-641の順に重複する。**形状** 南東部は立ち上がる。北西部は全容を確認し得なかった。攪乱の可能性も残る。**規模・主軸** SK-74との重複により不詳である。南東端部からSP-Aまでの長さ(1.8)m・幅0.3m前後である。主軸N-47°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ・レベルは、南端部:約0.06m・



第50図 第19・21号溝状遺構・第142号土坑・第143号井戸跡・第141号ピット実測図



SD-19

- I 明褐色土 ローム微粒子含む。耕作土。硬くしまる。
- II 暗褐色土 ローム微粒子含む。耕作土。硬くしまる。
- III 明褐色土 ローム粒子 (1.2mm・1.0cm 大) 含む。しまりなし。
- IV 明褐色土 ロームブロック (1.5cm 大) 含む。
- ① 暗黄褐色土 SK-144 の1層に比べ、ロームブロックの混入少ない。しまりなし。
- ② 明黄褐色土 ローム粒子主体。しまりなし。
- ③ 明黄褐色土 ロームブロック主体であるが、②層よりロームブロック少量。しまりなし。
- ④ 明黄褐色土 ロームブロック主体であるが、②層よりロームブロック少量。③層よりしまりなし。
- ⑤ 暗黄褐色土 ②~④層に比べ、黒色が強い。ロームブロック主体。しまりなし。
- ⑥ 暗褐色土 ①層に相当。

SK-142

- 1 黄色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりなし。

SK-144

- 1 暗黄褐色土 黒色土にローム粒子・ロームブロック多量含む。

SD-21

- 1 明黄褐色土 ローム粒子含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量。
- 3 明褐色土 2層より明色。ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 2層に似る。
- 5 暗褐色土 粘土粒子・ローム粒子含む。
- 6 明黄褐色土 ローム粒子含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック多量。
- 8 暗褐色土 7層よりロームブロック多量。しまりなし。
- 9 明黄褐色土 ②層に相当。
- 10 明黄褐色土 ③層に相当。
- 11 明黄褐色土 ④層に相当。
- 12 暗黄褐色土 ⑤層に相当。
- 13 暗褐色土 ①層・⑥層に相当。
- 14 明黄褐色土 ②層・⑨層に相当。
- 15 明褐色土 ロームブロック・炭化物・粘土粒子含む。8層に相当か。
- 16 明褐色土 15層に近いが、ロームブロック多量。8層に相当か。
- 17 明褐色土 15・16層に近いが、粘土粒子を最も多量含む。8層に相当か。
- 18 暗黄褐色土 ⑤層・12層に相当。
- 19 黄色土 ロームブロック・ローム粒子主体に少量。第一次堆積土。

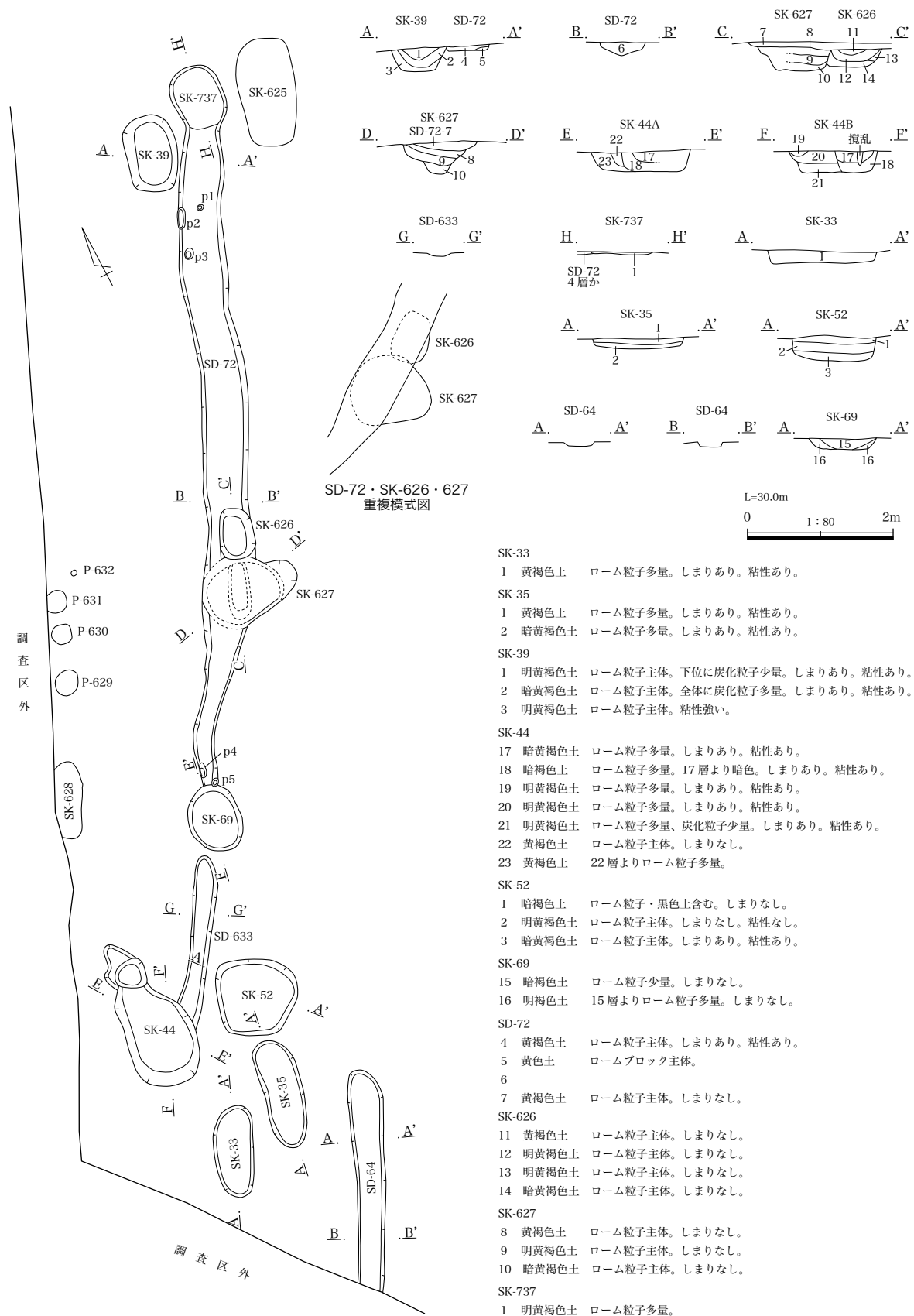
第51図 第19・21号溝状遺構・第142・144号土坑実測図

表42 第21号溝状遺構ピット一覧表

[単位:約 m]

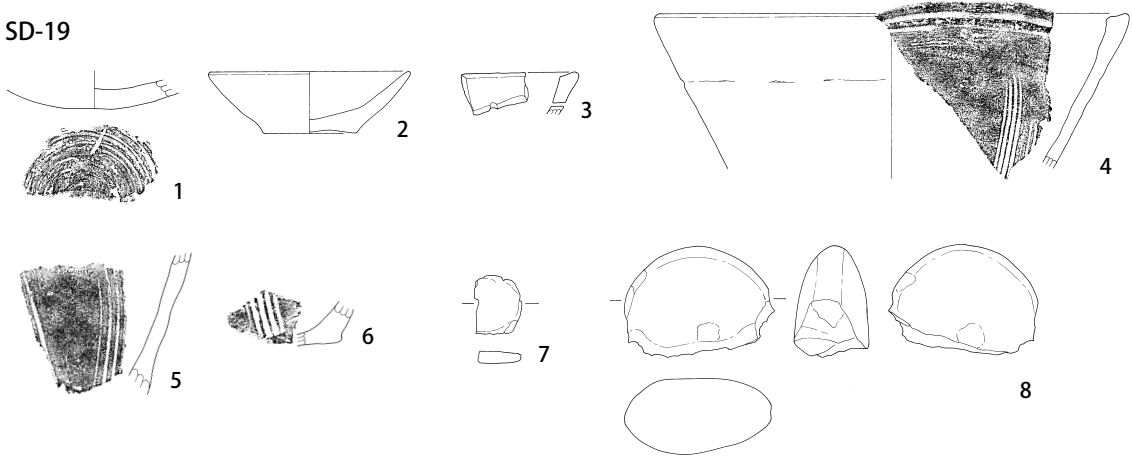
No.	形状	規模	深さ	底面レベル	特記
1	やや東西	東西 0.3 南北 0.2	0.37	29.628	
3	東西	東西 0.67 南北 0.3	0.81	29.189	
3	やや東西	東西 0.34 南北 0.25	0.55	29.448	
4	円	0.3	—	—	p5と帰属・新旧不明
5	円	0.32	0.8	29.196	p4と帰属・新旧不明
6	やや南北	東西 0.24 南北 0.3	0.52	29.478	
7	円	0.15	0.107	28.93	
8	やや東西	東西 0.19 南北 0.11	0.64	29.36	
9	円	0.23前後	0.85	29.143	p10と帰属・新旧不明
10	円	0.3前後	—	—	p9と帰属・新旧不明
11	やや東西	東西 0.3 南北 0.22	0.52	29.478	
12	やや南北	東西 0.12 南北 0.1	—	—	
13a	東西	東西 0.66 南北 0.45	0.52	29.478	p13b・cと帰属・新旧不明
13b	やや東西	東西 0.23 南北 0.18	0.69	29.31	p13a底面に穿たれる
13c	円	東西 0.22 南北 0.18	0.6	29.36	p13a底面に穿たれる
14	円	0.4前後	0.62	29.384	
15	やや東西	東西 0.38 南北 0.28	0.96	29.04	
16	やや南北	東西 0.3 南北 0.38	0.68	29.32	
17	円	0.32	0.89	29.108	
18	円	0.34	0.47	29.528	
19	円	0.24	0.42	29.58	
20	円	0.23	0.74	29.26	
21	円	0.22	0.57	29.428	
22	円	0.2	0.86	29.14	
23	やや東西	東西 0.3 南北 0.24	0.6	29.4	
24	円	0.3	0.84	29.162	

第3章 確認された遺構と遺物

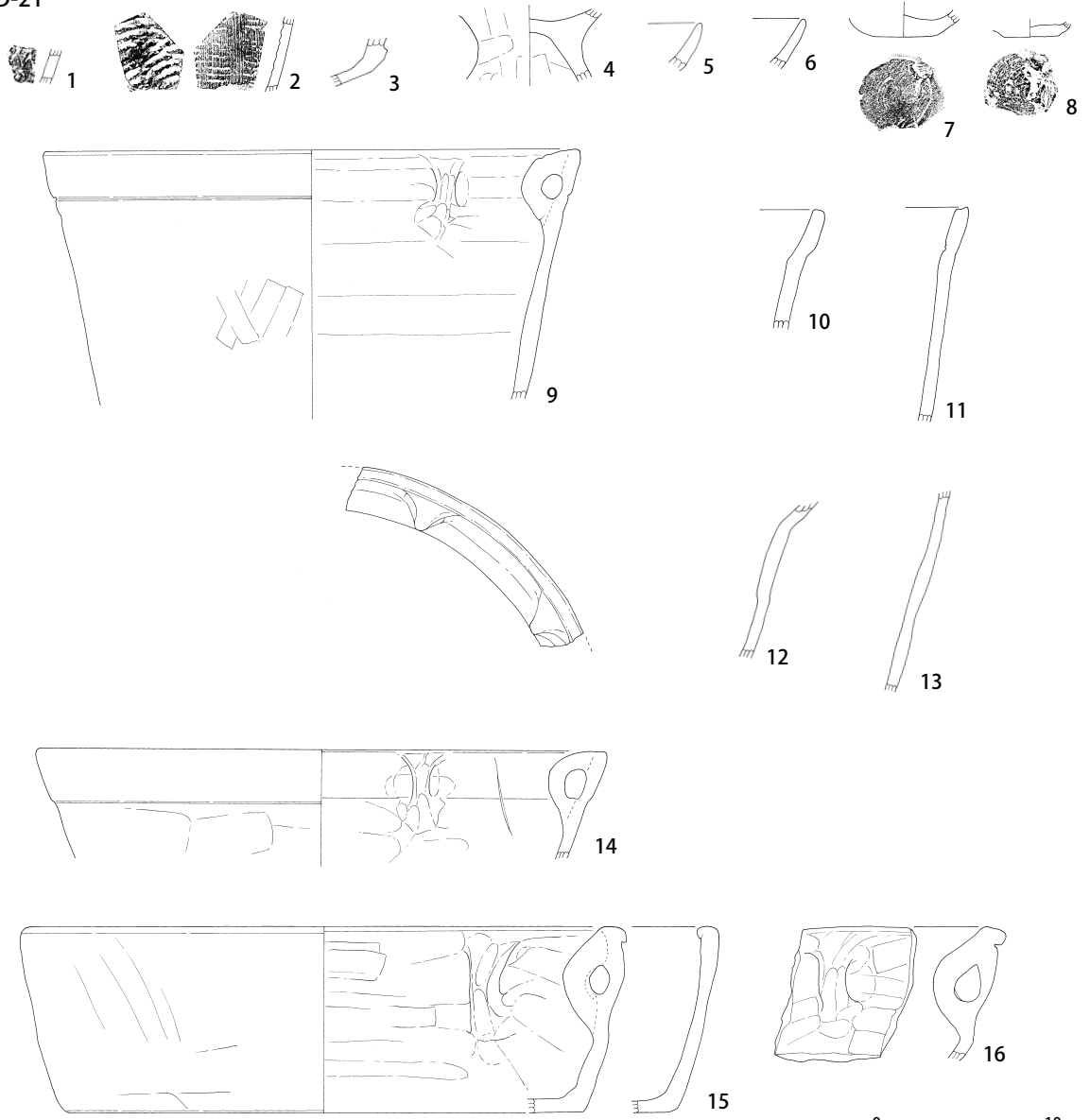


第52図 第64・72・633号溝状遺構・第33・35・39・44・52・69・626・627・737号土坑実測図

SD-19

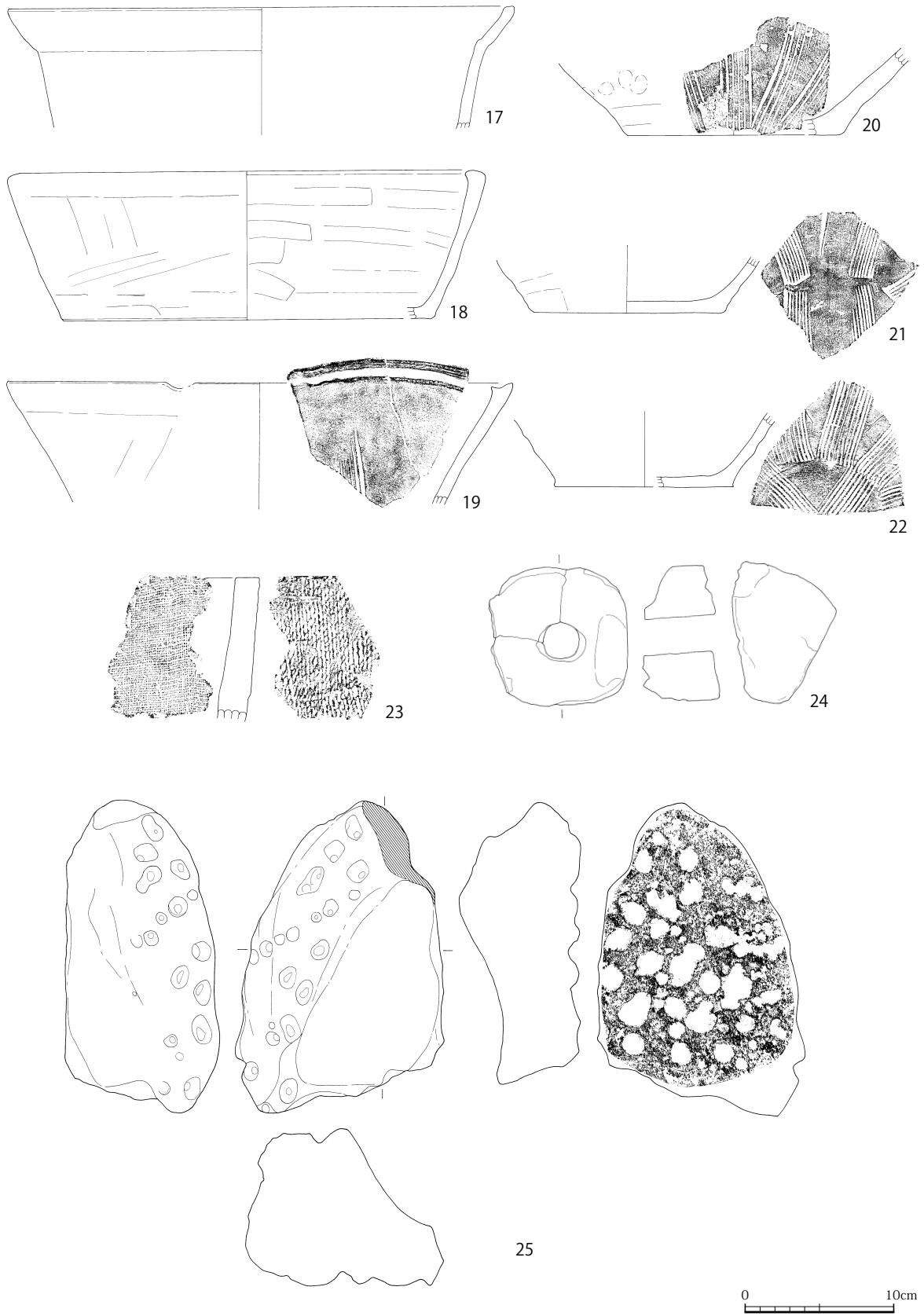


SD-21

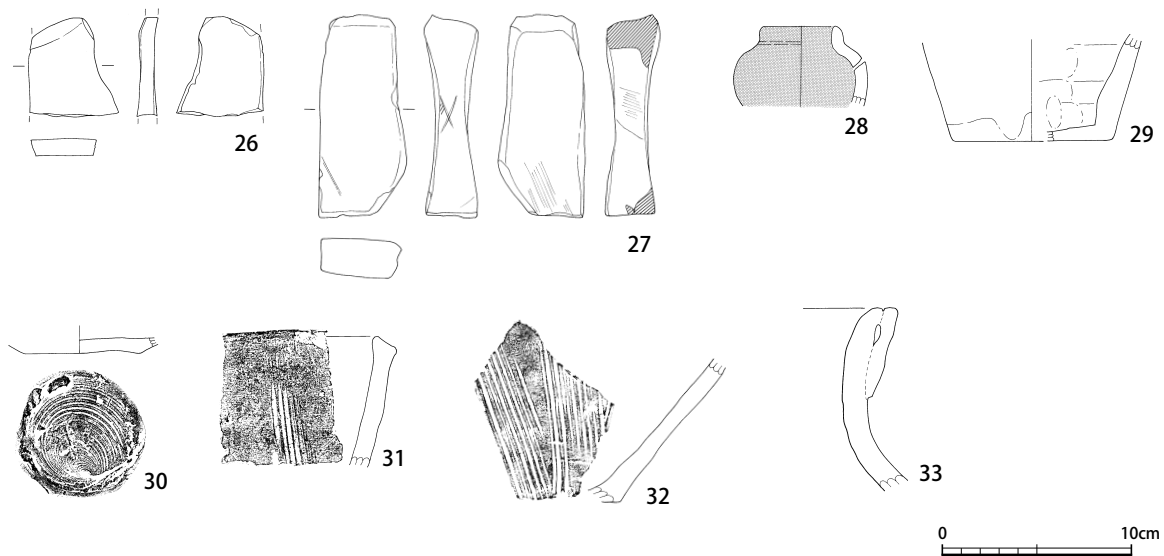


0 10cm

第53図 第19・21号溝状遺構出土遺物実測図



第54図 第21号溝状遺構出土遺物実測図(1)



第55図 第21号溝状遺構出土遺物実測図(2)

表43 第19号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 高台付坏か	口径:— 底径:— 器高:(1.5)	底部 回転糸切り未調整 痕跡が薄く判然としないが、高台がはかれた痕跡が残るか	内外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6・7 良	底部1/2	OYAW2 SD-19
2 土師質土器 小皿	口径:[10.4] 底径:3.2 器高:(5.0)	ロクロ成形 底部 回転糸切り未調整 内外面とも底部スス付着	内外 にぶい黄橙色	土師質土器A群 良	小片	OYAW2 SD-19
3 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(2.2)	内外面 口縁部:ヨコナデ 補修孔を穿つ 外面 孔右側にわずかな欠損がみられる	内外 暗灰黄色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-19
4 瓦質土器 搦鉢	口径:[24.8] 底径:— 器高:(8.2)	内 8条以上一単位の摺目を施す 外 口縁部:ヨコナデ 指頭痕残る	内外 明黄褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW2 SD-19
5 瓦質土器 搦鉢	口径:— 底径:— 器高:(7.2)	内 スス吸着 4条以上一単位の摺目を疎らに施す 外 積み上げ痕残る ヘラナデ(ヨコ)	内 黒褐色 外 黄褐色	瓦質土器A群 良	小片	OYAW2 SD-19
6 瓦質土器 搦鉢	口径:— 底径:— 器高:(2.2)	内 スス吸着 幅広の6条一単位の摺目を疎らに施す 外 ヘラナデ(ヨコ)	内 黄灰色 外 暗灰黄色	土師質土器A群 良	小片	OYAW2 SD-19
7 粘土塊 不明	長:3.1 幅:2.5 厚:0.6 重:5.93	平滑な粘土塊 周縁は乾燥によるヒビの状態に焼成か	内外 灰黄褐色	緻密 白色粒子含む 良	端部欠損	OYAW2 SD-19
8 磨石	長:7.9 厚:4.0 幅:5.7 重:234.18	両面磨減顕著 両面とも中央部やや凹状 凹孔か	内外 にぶい黄色	輝石デイスサイト 良	1/2	OYAW2 SD-19

表44 第21号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
2 須恵器 甕	口径:— 底径:— 器高:(4.2)	内 同心円状で具痕 外 カキ目か	内 灰黄褐色 外 暗灰黄色	須恵器・土師器 B群・1・2・6・7 白色粒子 白色小礫 良	小片	OYAW2 SD-21 カケラ
3 土師器 坏	口径:— 底径:— 器高:(1.8)	内 ヨコナデ 黒色処理 外 体部:ヘラケズリ(ヨコ) 口縁部:ヨコナデ	内 黄灰色 外 にぶい黄橙色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 11
4 土師器 高坏	口径:— 底径:— 器高:(4.0)	坏部 接合部のみ残存 内:磨減 ヘラナデか 接合部-体部 内 脚部:ヘラナデ(ヨコ) 接合部:ナデ 外 坏部:ヘラケズリ(タテ)→ 脚部:ヘラナデ(タテ)→ 接合部:ヘラナデ(ヨコ) 破断面に内→外方向の筋状の痕跡 破砕後、砥石転用あるいは、破砕時の痕跡か	内外 にぶい黄橙色	土師質土器B群 白色小礫	小片	OYAW2 SD-21 No. 14

第3章 確認された遺構と遺物

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
5 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 一 器高: (2.7)	ロクロ成形	内 灰黄色 外 にぶい黄色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 SD-21
6 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 一 器高: 一	ロクロ成形	内外 にぶい黄褐色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 SD-21
7 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: (3.0) 器高: (1.5)	ロクロ成形 底部 回転糸切り未調整	内外 にぶい橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 SD-21
8 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: 3.0 器高: (0.8)	底部 回転糸切り未調整	内 黒褐色 外 暗褐色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 SD-21
9 内耳土器	口径: [30.0] 底径: 一 器高: (14.0)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 内耳接合部: 指ナデ 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ (上半ヨコ) オコグ状付着物	内 黄灰色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	1/8以下	OYAW2 SD-21 No. 16
10 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (6.6)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: 磨滅 ヘラナデか 指頭痕残る 外 オコグ状付着物顕著	内 灰色 外 オリーブ黒色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 4
11 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (12.0)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: 磨滅 指頭痕 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 部分的にオコグ状付着物	内 黄灰色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-21 カ77
12 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (8.6)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ (タテ) 積み上げ痕顕著 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ (ヨコ) 磨滅	内外 灰オリーブ色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 12
13 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (11.5)	内 ヘラナデ (ヨコ) 外 ヘラナデ (体下部: ヨコ 体上部: タテか)	内 灰オリーブ色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-21 カ77
14 内耳土器	口径: [31.6] 底径: 一 器高: (6.0)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 内耳接合部: 指ナデ 内耳は約8.5cm間隔の2個体1セットか 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 口縁一体部: オコグ状付着物	内 にぶい黄色 外 暗灰黄色	瓦質土器C群 良	1/8	OYAW2 SD-21
15 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (7.5)	内 体部: ヘラナデ 口縁部: ヨコナデ 内耳接合部: 指ナデ 外 口縁部: ヨコナデ 体部: 磨滅 スス付着	内 にぶい赤褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 多量 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 10
16 内耳土器	口径: [33.0] 底径: [28.8] 器高: 10.4	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 内耳接合部: 指ナデか 外 体部: ヘラナデ (斜) 底周部: ヘラナデ (ヨコ) → 口縁部: ヨコナデ オコグ状付着物 底周に明瞭な稜 底部作 出時の痕跡か	内 赤褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 多量 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 9
17 内耳土器	口径: [34.0] 底径: 一 器高: (8.3)	内 磨滅 口縁部: ヨコナデ 外 口縁部: ヨコナデ 体部: 磨滅 スス付着 頸部: 「く」字状に立ち上がる	内 褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW2 SD-21
18 内耳土器	口径: [30.2] 底径: [24.6] 器高: 10.0	内 体部: ヘラナデ → 口縁部: ヨコナデ 外 底周部: ヘラナデ 体部: ヘラナデ (斜) → 口縁部: ヨコナデ 底周に明瞭な稜 底部作 出時の痕跡か	内 明赤褐色 外 暗赤褐色	瓦質土器D群 多量 良	1/8以下	OYAW2 SD-21
19 瓦質土器 揃鉢(片口か)	口径: [33.8] 底径: 一 器高: (8.1)	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデか 5条一単位の摺目を疎らに施す 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ (タテ) 磨滅	内外 暗オリーブ灰色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 6
20 瓦質土器 揃鉢	口径: 一 底径: [14.4] 器高: (5.8)	内 ヘラナデ (ヨコ) か 6条一単位の摺目を放射状に施す (同一個体とみられる 不掲載の一片は7条もみられる) 外 底周部: ヘラナデ (ヨコ)	内 黄灰色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-21 カ77
21 瓦質土器 揃鉢	口径: 一 底径: [12.0] 器高: (5.0)	内 ヘラナデ (ヨコ) 7-8条一単位の摺目を疎らに施す 外 底周部: ヘラナデ (ヨコ)	内 浅黄色 外 にぶい黄色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-21 カ77
22 瓦質土器 揃鉢	口径: 一 底径: [12.0] 器高: (4.0)	内 体部: ヘラナデ (ヨコ) 10条一単位の摺目を施す 外 底周部: ヘラナデ (ヨコ) か	内外 灰色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 5
23 瓦	口径: 一 底径: 一 器高: (9.6)	上 縄引き 下 布目痕	内 にぶい黄褐色 外 明黄褐色	やや緻密 良	1・2・6・7 小片	OYAW2 SD-21 カ77
24 羽口	長: (6.4) 幅: 7.4・8.8 口径: 2.6	羽口先端 (鍛冶羽口か) 先端部はやや波状に浄が固着する 外面は平滑で整形は丁寧 孔は傾斜を持って穿たれる	内外 にぶい橙色	スサか 緻密 良	端部残存	OYAW2 SD-21
25 石皿	長: 20.0 厚: 10.4 幅: 14.1 重: 2672.04	表面 深凹面で平滑 周縁小孔 側面 整形時の打ち叩き痕 裏面 平坦で小孔	表 オリーブ黒色 裏 灰オリーブ色	輝石安山岩 良	1/4以下	OYAW2 SD-21 カ77

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
26 砥石	長: 5.2 厚: 1.1 幅: 4.6 重: 32.70	図 上: 上・下・左側面残存 主砥面: 上下面 上 平滑 上部部: 山形の稜 砥面: 凹面状 汚れ付着 下 平滑 砥面: やや凹面状 側 やや平滑	内 灰黄色 外 浅黄色	流紋岩 良	1/2か	OYAW2 SD-21
27 砥石	長: 10.8 厚: 2.8 幅: 4.6 重: 183.46	両端部欠落 砥面は上・下・左・右 4面 上下面とも凹状に反る 主砥面は上面か	表 にぶい黄褐色 裏 褐灰色	流紋岩 良	端部欠損	OYAW2 SD-21 No. 16
28 陶器か 小壺	口径: [3.8] 底径: 一 器高: (4.1)	内 ヘラナデ部分的に灰釉 外 体部灰釉 底周~底部無釉の作りであるが、釉がかかる 内外面とも厚さ9.0mm前後 うるし膜が付着する 肩部に小孔を穿つ うるし製品製作の用具か	内 にぶい赤褐色 外 灰褐色	陶器B類 硬質 良	1/4以下	OYAW2 SD-21 古瀬戸中期 全体的にうるし
29 陶器 古瀬戸 瓶・底部	口径: 一 底径: [7.2] 器高: (5.6)	内 ヘラナデ 灰釉2箇所 外 底周部: 無釉 底部: 灰釉かかる	内 淡黄色 外 浅黄色	陶器B類 良	底部1/4以下	SD-21 ｶｸﾗﾝ
30 陶器 (古瀬戸) 不明	口径: 一 底径: 5.8 器高: (0.9)	底部 回転糸切り未調整 トチン残る 内面底部、体部立ち上がり部に灰釉残る	内 にぶい黄色 外 灰黄色	陶器A群 良	底部残存	OYAW2 SD-21
31 陶器 播鉢	口径: 一 底径: 一 器高: 一	内 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデか 5条一単位の摺目を疎らに施す 外 ヘラナデ (ヨコ) か	内外 にぶい赤褐色	陶器D類 良	小片	OYAW2 SD-21 ｶｸﾗﾝ
32 陶器 播鉢	口径: 一 底径: 一 器高: (6.7)	内 ヘラナデ (ヨコ) 7条一単位の摺目を疎らに施す 外 体部: ヘラナデ (ヨコ) 底周部: ヘラケズリ (ヨコ)	内 灰褐色 外 にぶい褐色	陶器D類 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 17
33 陶器 甕	口径: 一 底径: 一 器高: (9.6)	内外面とも口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ (ヨコ) か 常滑か	内 にぶい橙色 外 褐色	陶器D類 良	小片	OYAW2 SD-21 No. 15

29.89 m、SP-A 付近: 約 0.18 m・29.74 mである。南から北方へ向けての傾斜が確認されるが、詳細は不明である。覆土 1層を確認した。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

7. 柵列

(1) 調査の概要

本調査区においてはⅡ区-SA-120を確認した。土層断面に柱痕状の堆積が観察されることなどから、現地調査において杭列と確認したものである。SA-120以外にも、直線的なピットの配列は、P-161-162(主軸N-39°-W)、P-163-164-165(主軸N-49°-W)、P-165--166-167(主軸N-8°-E)、P-172-173-174-175-176(主軸N-99°-E)などがみられる。また、直交する軸線上の配列がP-161-162-(SA-120 p2)にみられる。主軸はSA-120と同様である。

ピット間の距離は、柱間は柱痕の観察される遺構は柱痕間、その他は掘り込みの中心部で計測する。

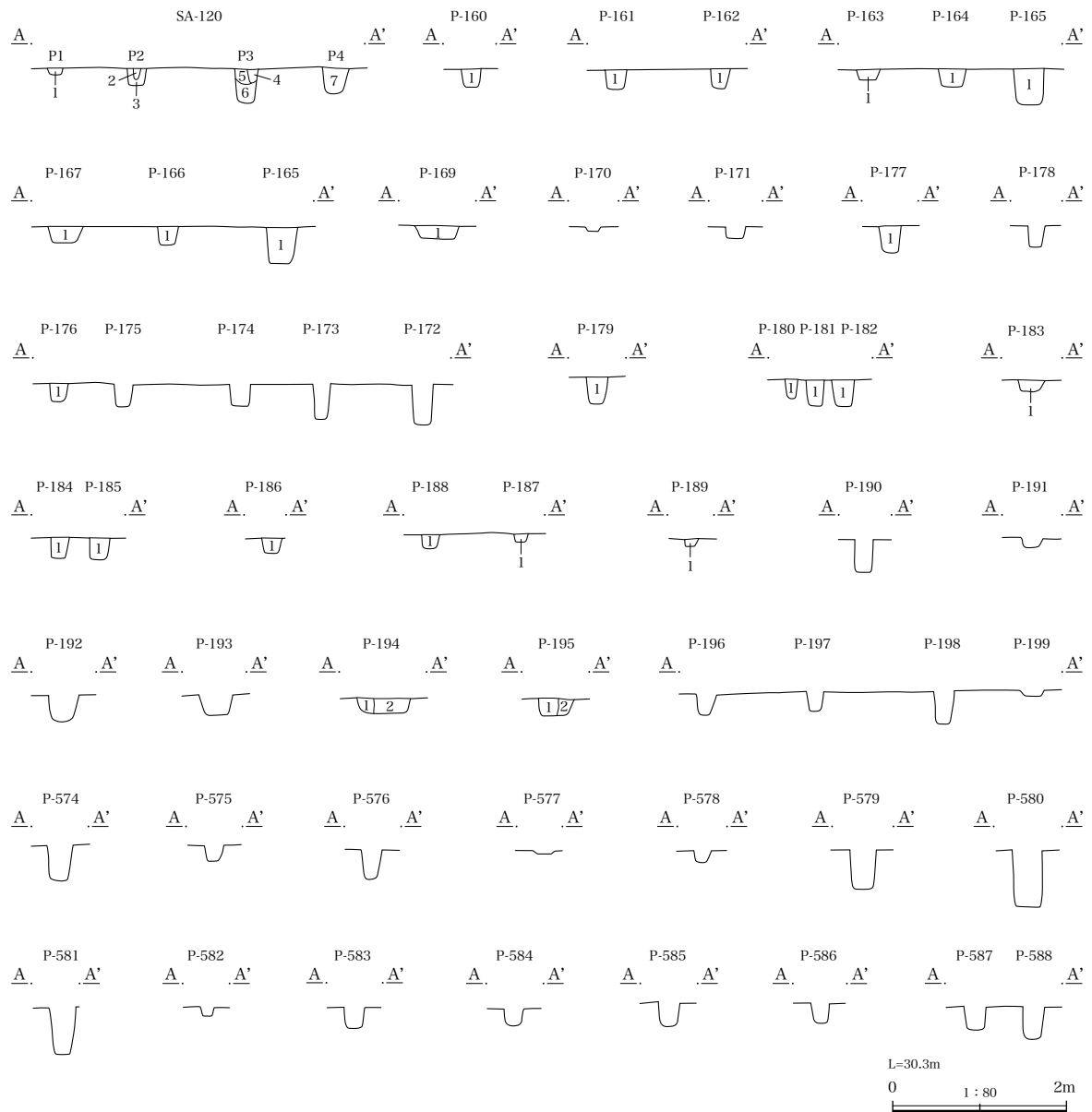
(2) 柵列

第120号柵列 (SA-120) (第56・57・58図 表45 図版七)

位置 Ⅱ区R-16・17グリッドに位置する。**重複** 重複する遺構はない。**形状・規模** 北東-南西方向の一直線上にp1~4が位置する。p1は径約0.15m・深さ約0.08m・レベル29.95m、p2は径約0.25m・深さ約0.2m・レベル29.84m、p3は径約0.3m・深さ約0.4m・レベル29.62m、p4は東西約0.24・南北約0.32m・深さ約0.3m・レベル29.72mである。各々の深さは区々であり、不均等である。いずれもロームを掘り込む。主軸はN-30°-Eである。**柱間** p1-2間約0.95m、p2-3間約1.33m、p3-4間約0.94m、p1-4間約3.16mである。**覆土** p1は1層、p2は2・3層、p3は4~6層、p4は7層を確認した。総じてロームブロックを多量に含み、土層にしまりが無い。p2-2層・p3-4層は柱痕状、p2-3層・p3-5層は掘方埋土状に堆積し、似た特徴が観察される。柱痕であるならば、p2-2層・p3-4



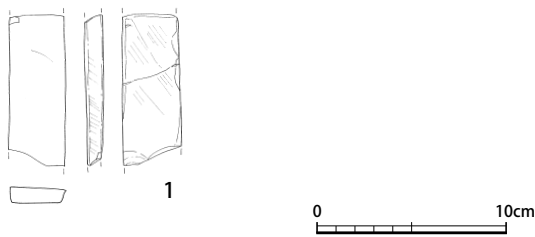
第56図 第120号柵列・第160～200・574～588号ピット実測図(1)



- | | | | | | | | |
|-------|---|-------|-------------------|-------|---|-------|-------------------|
| P-160 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量。 | P-181 | 1 | 暗黄褐色土 | ロームブロック少量、黒褐色土微量。 |
| P-161 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロック少量。 | P-182 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子微量、黒褐色土少量。 |
| P-162 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量。 | P-183 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。 |
| P-163 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量。 | P-184 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量。 |
| P-164 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量。 | P-185 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。 |
| P-165 | 1 | 暗黄色土 | 暗褐色土やや多量、白色粒子少量。 | P-186 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子・黒褐色土少量。 |
| P-166 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。 | P-187 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量。 |
| P-167 | 1 | 暗黄色土 | ロームブロック少量。 | P-188 | 1 | 暗黄色土 | ローム粒子やや多量。 |
| P-168 | 1 | 暗黄褐色土 | ロームブロック少量。 | P-189 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量。 |
| P-169 | 1 | 黒褐色土 | ローム粒子・暗黄色土少量。 | P-194 | 1 | 暗褐色土 | ローム粒子多量。しまりなし。 |
| P-176 | 1 | 暗黄褐色土 | ロームブロック・暗褐色土少量。 | | 2 | 黄褐色土 | ロームブロック主体。しまりあり。 |
| P-177 | 1 | 暗黄褐色土 | ロームブロック・黒褐色土少量。 | P-195 | 1 | 黄褐色土 | ロームブロック主体。 |
| P-179 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子・暗褐色土少量。 | | 2 | 黄褐色土 | 1層より黒色土多量。 |
| P-180 | 1 | 暗黄褐色土 | ローム粒子少量、黒褐色土やや多量。 | | | | |

第57図 第120号柵列・第160～200・574～588号ピット実測図(2)

SA-120



第 58 図 第 120 号柵列出土遺物実測図

表 45 第 120 号柵列出土遺物観察表

(単位：cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 砥石	長：8.0 厚：1.0 幅：3.1 重：34.77	両端部欠落 砥面は残存する4面 主砥面は図上表面か 平滑に光沢を持って研磨 裏面 両別面に細かい筋状の痕跡	内 黄橙色 外 にぶい黄橙色	流紋岩か	端部欠損	OYAW2 S-120 P-2

層がロームブロックを主体とする黄褐色土であることから、柱を抜き取り廃絶した可能性が考えられる。また、土層にしまりのないことから、堅固な柱の想定は難しいと思われる。**特記** p 2 に近接する P-168 との関連等の詳細は明らかにし得なかった。p 2 は P-161・162 の延長線上から直交する軸線上に位置するが、詳細は不明である。 **遺物出土状況** p 2 から 1 点が出土する。

出土遺物 1 は砥石である。

8. ピット

(1) 調査の概要

本調査区からは 151 基のピットを確認した。遺構内に穿たれたピットについては当該遺構で記載したが、遺構に帰属せず、本節記載のピット同様の性格のピットがあるものと想定される。

また、Ⅱ区 -P-154・155 と西側に近接する SK-114、南側に近接する 109 のように、周辺に位置する遺構との関連を明らかにし得たものはない。

Ⅱ区からは 75 基が確認される。遺構の密集する南半部に集中する。南東に位置するⅢ -1 区のピットは、現状では、調査区東半部に集中する傾向にあり、Ⅲ -1 区確認遺構を挟んだ位置関係となる。

P-146～151 は、何れも、平面形・断面形は明瞭でなく、深さも 0.2 m 前後と浅く、遺構ではない可能性も残るが、SE-145 西半部に沿うように位置することから、遺構番号を付した。

Ⅱ区で確認されたピットは、南半部に多く、SD-19・21 に囲まれた南側に部分に 56 基が確認される。概ね円形状であり、長円のものも北東 - 南西を主軸とするものが多い。大きさは、径 0.2～0.3 m、深さ 0.2～0.3 m のピットを主体に、径 0.1 m～0.4 m、深さ 0.02 m～0.65 m までが確認される。深さ SA-120 が杭列であるとすれば、その深さは 0.08 m～0.4 m であり、何れも柱穴の可能性が考えられる。

直線的な配列を考え得るものは 11 列ある。

北西 - 南東方向に主軸を持つ

① P-161・162 (・187・188) (主軸 N-39° -W)

② P-163・164・165 (主軸 N-49° -W)

③ P-585・586 (主軸 N-73° -W)

⑩ P-192・595・597 (主軸 N-17° -E)

北東 - 南西方向に主軸を持つ

SA-120(主軸 N-30° -E)

④ P-165・166・167 (主軸 N- 8° -E)

⑤ P-172・173・174・175・176 (主軸 N-19° -E) などがみられる。

⑥ P-196・197・198・199 (主軸 N-45° -E)

⑦ P-579・580・581 (主軸 N-33° -E)

⑧ P-587・588 (主軸 N- 4° -E)

直交する軸線上の配列がみられる

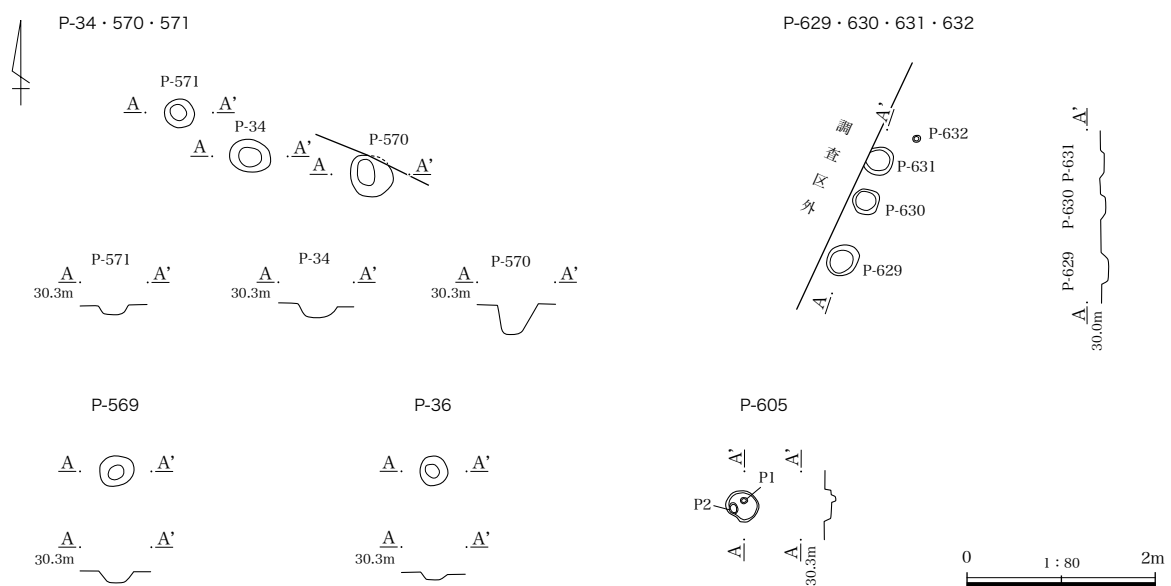
⑨ P-161-162- (187・188) × P-166

⑪ P-174・176・222・188・190・192

である。深さ 0.3 m 以上のピットが多く、特に、⑤は深さ 0.54 m・0.48 m・0.33 m・0.35 m・0.2 m、⑦は深さ 0.45 m・0.65 m・0.53 m であり、深さのあるピットが直線上に並ぶ。主軸の共通性は薄い、⑨の南北軸は N-30° -E であり、SA-120 にほぼ一致する。

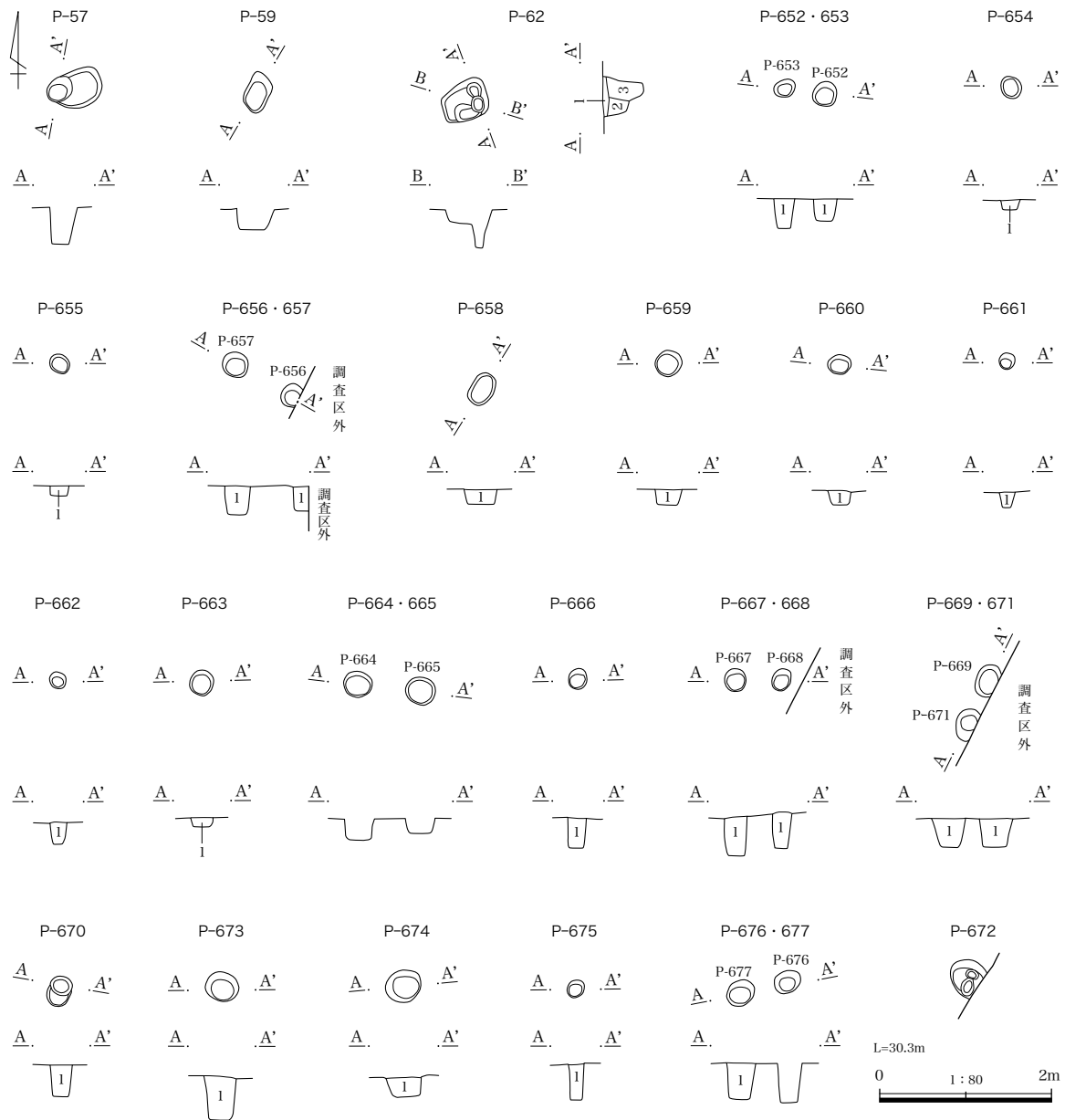
ピット間の距離は、① 1.2 m (延長線上の P-178・188 は 1.1 m)、② 1.0 m、③ 0.7 m、④ 1.0 m、⑤ 1.2 m・1.0 m・1.3 m・0.8 m、⑥ 1.2 m・1.5 m・1.1 m、⑦ 1.7 m・0.8 m、⑧ 0.7 m、⑩は 2.0 m、1.9 m、⑨南北軸 1.0 m、⑪ P-222・188、P-190・192 が 1.7 m である以外は 2.0 m である。0.7 m・1.0 m・1.2 m・1.6 m 前後・2.0 m 前後を中心とした距離のまとまりが看取されようか。覆土を確認し得たピットでは、P-160・162・163・164・184・187・189、P-166・182・183・185・186、P-177・181 に似た特徴が観察される。直線上に位置する P-163・164・187、調査区南端部の P-183・185・186 の特徴が似る点、留意される。

出土遺物は、P-185 覆土中から内耳土器が出土するのみである。



第 59 図 第 34～37・569～571・605・629～632 号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



P-62
1 黄褐色土 ローム主体。
2 暗黄褐色土 ローム主体。
3 暗黄褐色土 ローム主体。

P-652
1 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量。

P-653
1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。

P-654
1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。

P-655
1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-656
1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-657
1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。

P-658
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、
ロームブロックやや多量。

P-659
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土微量。

P-660
1 暗黄褐色土 ローム粒子やや混じる、黒褐色土少量。

P-661
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-662
1 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。

P-663
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-666
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-667
1 暗黄褐色土 ローム粒子やや混じる。

P-668
1 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量、ロームブロック少量。

P-669
1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-670
1 暗黄褐色土 ローム粒子混じる。

P-671
1 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土少量。

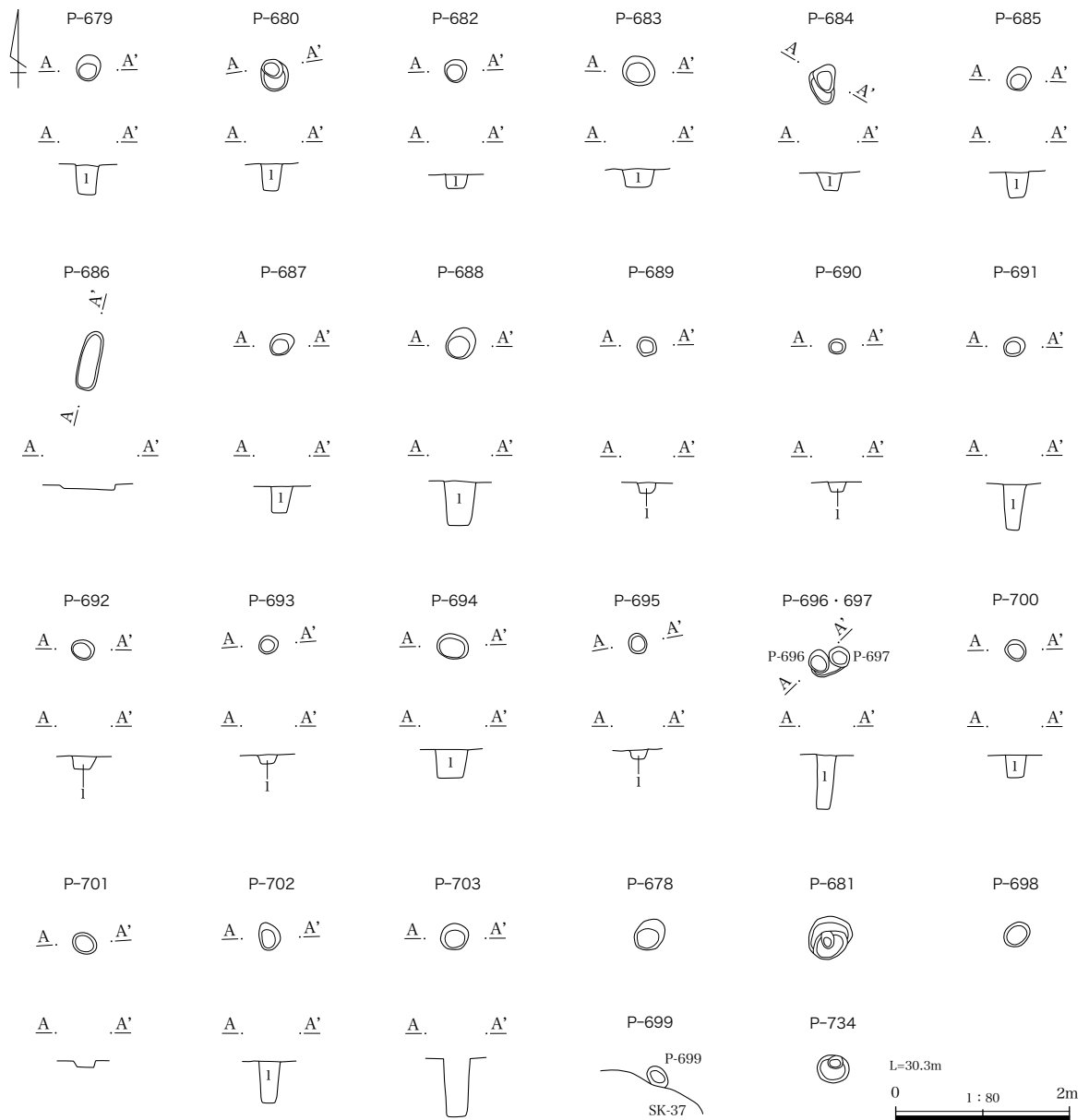
P-673
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、
暗褐色土やや少量。

P-674
1 暗黄褐色土 ローム粒子やや少量。

P-675
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-677
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

第60図 第57・59・62・652～677号ピット実測図



P-679
1 暗黄褐色土 ローム粒子微量。

P-680
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-682
1 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。

P-683
1 暗黄褐色土 ローム粒子やや多量、暗褐色土少量。

P-684
1 暗黄褐色土 ローム粒子やや少量。

P-686
1 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。

P-687
1 暗黄褐色土 ローム粒子微量、黒褐色土少量。

P-688
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。

P-689
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-690
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。

P-691
1 暗黄褐色土 ローム粒子・黒褐色土少量。

P-692
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。

P-693
1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。

P-694
1 暗黄褐色土 ローム粒子やや少量。

P-695
1 暗黄褐色土 ローム粒子微量、暗褐色土少量。

P-696
1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。

P-700
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、黒褐色土やや少量。

P-702
1 暗黄褐色土 ローム粒子含み、黒褐色土やや多量。

第 61 図 第 678 ～ 703 ・ 734 号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物

図示し得なかったが、体部内面にオコゲ状着物が観察される。胎土D類である。

Ⅲ-1区からは72基が確認される。多くはN・O-15グリッドに位置する。調査区東辺にあたり、3次調査B区に隣接する。3次調査B区西辺N-15グリッドにはピットが散見される。

P-606～610はSK-49 p 1・2に、P-611はSK-53 p 1～3に関連するとみられる。

各ピットの深さをみると、0.5 m以上のピットはP-672・678・688・696・702・703の6基、0.4 m以上のピットはP-667・668・675・676・677の5基、0.3 m以上のピットはP-62・653・657・666・669・670・671・679・680・685・687・6941の12基、0.2 m以上のピットはP-652・656・662・664・684・699の6基である。0.5 m以上、0.2 m以上の深さのピットはばらつきが見られるが、0.3 m以上・0.4 m以上の深さのピットはN-15ラインの東西に位置する傾向にある。

覆土の観察からは、堆積するロームなどの多少によって、①ローム粒子多量、②ローム粒子含む、③ローム粒子少量、④ローム粒子・ロームブロック少量、⑤ロームブロック少量、⑥ローム粒子少量・黒褐色土少量、⑦ローム粒子少量・暗褐色土少量の7つの特徴に大別が可能である。N-15ライン東西に特徴の似た土層の堆積がみられるが、位置的条件による可能性も高い。

土層と深さと関連性はみられず、柵列や掘立柱建物跡の推定は難しい。

出土遺物は、P-669・671・677・679・681・704 覆土中から小片が出土する。

1はP-669からは出土する土師質土器小皿底部片である。灯明皿か。

P-674・677・679・681・704 出土遺物は図示し得なかった。

P-674からは須恵器甕体部片が出土する。外面にカキ目を施す。

P-677出土からは土師質土器小皿口縁部片が出土する。ロクロ成形で、器壁は薄い。高さ3.0cmほどか。

P-679出土からは瓦質の播鉢片が出土する。内面はススが吸着する。6条一単位の摺り目を放射状に施す。

P-681出土からは土師質土器小皿口縁部片が出土する。ロクロ成形で、器壁はやや厚く、内湾しつつ立ち上がるか。高さは4.0cm弱か。内面にススが付着する。灯明皿とすれば使用頻度を低いか。

P-704からは内耳土器体部小片・瓦質土器播鉢が出土する。内耳土器は胎土C類。播鉢は3条以上の摺り目を施す。

Ⅲ-2区からは2基、Ⅲ-3区からは2基が確認された。遺構の詳細や周辺遺構との関連は不詳である。

表 46 2次調査区確認ピット表

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
34	Ⅱ	Q-18	0.42・0.36	0.1	29.94	—	—		59
36	Ⅱ	R-18	0.3	0.09	29.95	—	—	白色釉磁器微細片出土	59
62	Ⅲ-1	O-14	0.55・0.4前後	底:0.13	底:29.87	3層	—	底面に3穴 南:径0.26・0.19 中:径0.46・深さ0.13・レベル29.57 北:約0.16・深さ0.3	60
59	Ⅲ-1	O-14	0.28・0.42	0.14	29.78	—	—		60
57	Ⅲ-1	O-14	0.6・0.44 穴:0.28	穴:0.42	穴:29.61	1層	—	底面に1穴	60
88	Ⅲ-2	M-11	0.44	0.44	29.97	3層	—	P-708と近接	34
140	Ⅱ	R-18	[0.4]	0.08	29.90	1層	SK-115 新旧不明	SK-115西側確認面付近堆積層中に確認	36
141	Ⅱ	S-18							50
146	Ⅱ	R-18	[0.14]	0.4	29.60	—	—	攪乱内に確認	36
147	Ⅱ	R-18	0.46・0.17	0.18	29.84	—	SE-145 新旧不明		36

第2節 2次調査

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
148	II	R-18	0.18・0.14	—	—	—	P-149 新旧不明	P-149と重複する 同一遺構の可能性あり	36
149	II	R-18		—	—	—			36
150	II	R-18	0.18・0.12	0.09	29.91	—	—		36
151	II	R-18	0.5	0.12	29.88	—	—	南半部の形状不詳	56
160	II	R-17	0.2	0.2	29.80	1層	—		56
161	II	R-17	0.2	0.2	29.80	1層	—	東側の掘り込み不詳	56
162	II	R-17	0.2	0.2	29.80	1層	—		56
163	II	R-17	0.2	0.11	29.89	1層	—		56
164	II	R-17	0.3・0.4	0.19	29.81	1層	—		56
165	II	R-17	0.34	0.39	29.61	1層	—		56
166	II	R-17	0.24	0.19	29.81	1層	—		56
167	II	R-18	0.44・0.37	0.16	29.84	1層	—		56
168	II	R-18	0.1・0.2	—	—	1層	SA-120p2近接 詳細不明	暗黄褐色土:ロームブロック少量	56
169	II	Q-17	0.5・0.42	0.12	29.88	1層	—		56
170	II	Q-17	0.18	0.03	29.97	—	—		56
171	II	Q-17	0.22	0.22	29.88	—	—		56
172	II	Q-17	0.25	0.54	29.97	—	—		56
173	II	Q-17	0.23	0.48	29.62	—	—		56
174	II	Q-17	0.1・0.26	0.33	29.77	—	—		56
175	II	R-16	0.24・0.22	0.35	29.75	—	—		56
176	II	R-16	0.2	0.2	29.81	—	—		56
177	II	R-16	0.22	0.3	29.71	1層	—		56
178	II	Q-16	0.2	0.23	29.78	—	—		56
179	II	Q-16	0.3・0.2	0.3	29.79	1層	—		56
180	II	Q-16	0.13	0.21	29.84	1層	—		56
181	II	Q-16	0.18・0.23	0.29	29.76	1層	—		56
182	II	Q-16	0.12・0.3	0.29	29.76	1層	—		56
183	II	Q-16	0.29・0.14	0.12	29.93	1層	—		56
184	II	Q-16	0.23	0.23	29.81	1層	—		56
185	II	Q-16	0.26・0.23	0.24	29.80	1層	—	内耳土器片出土	56
186	II	Q-16	0.23	0.17	29.87	1層	—		56
187	II	Q-16	0.17・0.2	0.08	29.99	1層	—	P-188とともにP-161・162・SA-120p2延長線上	56
188	II	Q-16	0.23	0.16	29.91	1層	—	P-187とともにP-161・162・SA-120p2延長線上	56
189	II	Q-16	0.15・0.23	0.1	29.94	1層	SK-113 新旧不明		56
190	II	Q-16	0.2・0.23	0.38	29.65	—	—		56
191	II	Q-17	0.2・0.24	0.1	29.93	—	—		56
192	II	Q-16	0.33・0.46	0.28	29.76	—	—		56
193	II	Q-17	0.39・0.36	0.23	29.81	—	—		56
194	II	Q-17	0.44・0.6	0.16	29.99	—	—		56
195	II	Q-17	0.42	0.19	29.80	—	—		56

第3章 確認された遺構と遺物

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ビット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
196	II	Q-17	0.25	0.22	29.81	-	-		56
197	II	Q-17	0.19	0.22	29.86	-	-		56
198	II	Q-17	0.38・0.24	0.37	29.71	-	-		56
199	II	Q-17	0.19・0.28	0.05	30.03	-	-		56
200	II	Q-17	0.28・0.22	0.09	29.99	-	-	テラス状の中段部あり	56
569	II	R-18	0.38・0.32	0.12	29.94	-	-		59
570	II	Q-18	0.44	0.3	29.76	-	-	白色釉磁器微細片出土	59
571	II	Q-18	0.31	0.1	29.96	-	-		59
572	II	R-18	0.22・0.16	0.02	29.99	-	SK-114・109 詳細不明		18
573	II	R-18	0.22・0.12	0.11	29.90	-	SK-114・109 詳細不明		18
574	II	Q-17	0.25・0.2	0.39	29.69	-	-		56
575	II	Q-17	0.24	0.18	29.90	-	-		56
576	II	Q-17	東:0.24・0.3 西: 0.22・0.26	西:0.33	西:29.7	-	-	東・西側の2穴 東側詳細不明	56
577	II	Q-17	0.24	0.02	30.01	-	-		56
578	II	Q-17	0.17	0.12	29.91	-	-		56
579	II	Q-17	0.32・0.22	0.45	29.58	-	-		56
580	II	Q-17	0.38	0.65	29.38	-	-		56
581	II	Q-17	0.32・0.22	0.53	29.50	-	-		56
582	II	Q-17	0.16	0.09	29.94	-	-		56
583	II	Q-17	0.26・0.2	0.25	29.78	-	-		56
584	II	Q-17	0.24・0.2	0.17	29.82	-	-		56
585	II	Q-17	0.26	0.26	29.82	-	-		56
586	II	Q-17	0.2	0.22	29.82	-	-		56
587	II	Q-17	0.24	0.25	29.78	-	-		56
588	II	Q-17	0.2	0.36	29.67	-	-		56
593	II	R-16	0.52・0.65	0.73	29.30	-	SK-116 新旧関係不明	SK-116と同一遺構の可能性はあるが、深くビット状であることから、ビット番号を付した	37
594	II	Q-16	0.3・(0.4)	0.1	29.92	2層	SK-119より古い	北壁よりに小ビット 径約0.12m・底面からの深さ約0.04m・レベル29.88	38
595	II	Q-16	0.36・0.49	0.37	29.71	2層	SK-119より新しい		38
596	II	Q-16	0.48・0.4	0.44	29.70	2層	SK-119より古い	1層はP-597と似る	38
597	II	Q-16	0.6	0.37	29.67	2層	SK-119・SK-598より古い	SK-598-1層と似る	38
605	II	S-19	0.3前後	0.07	29.98	-	-	底面に小ビット2基 p1:径約0.06m・深さ約0.05m・レベル29.23 p2:詳細不明	38
606	III-1	O-17	0.1前後	-	-	-	-		59
607	III-1	O-17	0.12前後	-	-	-	-		26
608	III-1	O-17	0.2前後	-	-	-	-		26
609	III-1	O-17	0.12前後	-	-	-	-		26
610	III-1	O-17	0.08前後	-	-	-	-		26
611	III-1	O-17	0.12前後	-	-	-	-		27
624	III-1	O-16	0.08	0.1	29.91	-	-		29
629	III-1	P-15	0.33	0.06	29.79	-	-	P-630→632近接 関連不詳	59
630	III-1	P-15	0.26	0.05	29.80	-	-	P-630→632近接 関連不詳	59

第2節 2次調査

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
631	Ⅲ-1	P-15	0.29	0.04	29.81	-	-	P-630-632近接 関連不詳	59
632	Ⅲ-1	P-16	0.07	-	-	-	-	P-630-632近接 関連不詳	57
634	Ⅲ-1	O-15	0.26・0.4	0.16	29.82	1層	SK-66より新しい		27
652	Ⅲ-1	N-15	0.28	0.27	29.88	1層	-		60
653	Ⅲ-1	N-15	0.2前後	0.34	29.80	1層	-		60
654	Ⅲ-1	N-16	0.24	0.1	29.81	1層	-		60
655	Ⅲ-1	N-15	0.24	0.1	29.81	1層	-		60
656	Ⅲ-1	N-15	0.28	0.29	29.84	1層	-		60
657	Ⅲ-1	N-15	0.3	0.32	29.80	1層	-		60
658	Ⅲ-1	N-15	0.26・0.4	0.17	29.93	1層	-		60
659	Ⅲ-1	O-15	0.3	0.18	29.93	1層	-		60
660	Ⅲ-1	N-15	0.26	0.16	29.92	1層	-		60
661	Ⅲ-1	N-15	0.18	0.18	29.88	1層	-		60
662	Ⅲ-1	O-15	0.17	0.25	29.82	1層	-		60
663	Ⅲ-1	N-15	0.28	0.1	30.00	1層	-		60
664	Ⅲ-1	N-15	0.3	0.23	29.87	-	-		60
665	Ⅲ-1	N-15	0.34	0.18	29.92	-	-		60
666	Ⅲ-1	N-15	0.24	0.33	29.76	1層	-		60
667	Ⅲ-1	N-15	0.24	0.44	29.68	1層	-		60
668	Ⅲ-1	N-15	0.24	0.4	29.76	1層	-		60
669	Ⅲ-1	N-15	[0.3]・0.4	0.32	29.76	1層	-	土師質土器小皿底部片出土 灯明皿か	60
670	Ⅲ-1	N-15	0.26・0.36 南:0.2 北:0.26	北:0.37	北:29.72	1層	-	南・北側の2穴 北側詳細不明	60
671	Ⅲ-1	N-15	[0.3]・0.38	0.32	29.37	1層	-		60
672	Ⅲ-1	N-15	[0.4] 南:0.16・ 0.2 北:0.16・0.1	南:0.23 北:29.25	南:29.7 北:29.72	1層	-	暗黄褐色土:ロームブロック少量、暗褐色土やや多量 南・北側の2穴	60
673	Ⅲ-1	O-15	0.35	0.52	29.45	1層	-		60
674	Ⅲ-1	O-15	0.38	0.13	29.72	1層	-	須恵器甕片出土か	60
675	Ⅲ-1	N-15	0.37・0.32 底:0.14	0.4	29.67	1層	-	底面に1穴	60
676	Ⅲ-1	O-15	0.3	0.42	29.68	1層	-		60
677	Ⅲ-1	O-15	0.32	0.46	29.65	1層	-	土師質土器小皿片・瓦質土器播鉢片出土	60
678	Ⅲ-1	O-15	0.36	0.52	29.63	1層	-	暗黄褐色土:ローム粒子・暗褐色土少量	61
679	Ⅲ-1	O-15	0.26	0.34	29.70	1層	-	瓦質土器摺鉢底部片出土	61
680	Ⅲ-1	O-15	0.32・0.38 底:0.2	0.3	29.75	1層	-		61
681	Ⅲ-1	O-15	0.5 底0.3・0.25 穴:0.14	穴:0.16	穴:29.84	1層	-	黄褐色土:ローム粒子含む 土師質土器小皿片出土	61
682	Ⅲ-1	O-15	0.26	0.15	29.79	1層	-		61
683	Ⅲ-1	O-15	0.34	0.22	29.78	1層	-		61
684	Ⅲ-1	O-15	0.3・0.42 南:0.3 北:0.2・0.4	北:0.2	北:29.74	1層	-	南・北側2穴	61
685	Ⅲ-1	O-15	0.28	0.29	29.66	1層	-		61
686	Ⅲ-1	O-15	0.24・0.68	0.04	29.93	-	-		61
687	Ⅲ-1	O-15	0.24	0.3	29.65	1層	-		61
688	Ⅲ-1	O-15	0.34	0.52	29.50	1層	-		61

第3章 確認された遺構と遺物

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
689	Ⅲ-1	O-15	0.22	0.12	29.88	1層	-		61
690	Ⅲ-1	O-15	0.17	0.11	29.89	1層	-		61
691	Ⅲ-1	O-15	0.21	0.52	29.43	1層	-		61
692	Ⅲ-1	O-15	0.22	0.16	29.91	1層	-		61
693	Ⅲ-1	P-15	0.2	0.1	29.87	1層	-		61
694	Ⅲ-1	O-15	0.38・0.3	0.34	29.70	1層	-	内耳土器片・瓦質土器播鉢片出土	61
695	Ⅲ-1	O-14	0.22	0.1	29.92	1層	-		61
696	Ⅲ-1	O-14	0.24	0.6	29.35	1層	-	P-697と同一遺構か	61
697	Ⅲ-1	O-14	0.22	-	-	1層	-	P-696と同一遺構か	61
698	Ⅲ-1	O-14	0.27	-	-	1層	-	暗黄褐色土:ローム粒子少量、黒褐色土微量	61
699	Ⅲ-1	O-14	0.22	0.25	29.73	1層	-	SK-37近接 暗黄褐色土:ロームブロック少量	61
700	Ⅲ-1	O-14	0.22	0.17	29.73	-	-		61
701	Ⅲ-1	O-14	0.24	0.08	29.91	-	-		61
702	Ⅲ-1	O-14	0.24・0.32	0.49	29.52	1層	-		61
703	Ⅲ-1	O-14	0.3	0.68	29.36	-	-		61
708	Ⅲ-2	M-11	0.4	0.14	30.26	2層	-	P-88と近接	34
709	Ⅲ-3	L-11	0.18	0.27	29.37	-	SK-80とは不明	SK-80と近接	32
715	Ⅲ-3	L-10	-0.2	-	-	-	SK-340とは不明		41
734	Ⅲ-1	O-15	0.35	-	-	-	-	北側の小ピットのレベルは29.81m・深さ0.09m	60
740	Ⅲ-1	N-16	0.23・0.17	-	-	-	-	SK-739北側攪乱内	26
741	Ⅲ-1	N-16	0.18	0.04	30.06	-	-	SK-739北側攪乱内	26
742	Ⅲ-1	N-16	0.12・0.16	-	-	-	-	SK-739北側攪乱内	26
743	Ⅲ-1	N-16	0.33前後	0.19	29.91	-	-	SK-739北側攪乱内	26
744	Ⅲ-1	N-16	0.14・0.2	0.36	29.74	-	-	SK-739北側攪乱内	26

9. 2次調査遺構外出土遺物（第115・117図 表90・91・94）

2次調査区内から出土する遺構に伴わない遺物は207点である。種別毎の内訳は、土器類81点・石製品類8点・陶磁器103点、金属製品12片、銭貨3点、鉄滓2片などである。調査区ごとの内訳は、I区からは52点、II区からは13点、III-1区からは20点、III-2区からは21片、III-3区からは24片、第2次調査区内から36点が出土する。

I区からは1～6、第114図-9・第115図-6など52点が出土する。

1は須恵器甕体部片。SK-42出土-1より硬い焼成である。2～4は内耳土器。4は浅鍋である。5は砥石。6は陶器甕である。体部片であるが、器厚や残存径から大形と推定される。第114図-9は煙管片、第115図-6は「至元通宝」、この他詳細不明の銭貨が出土する。

この他、図示し得なかったが、土師器とみられる破片3片、土師質土器小皿4片、内耳土器13片、播鉢1片、詳細不明土器片7片、緑色凝灰岩1片、陶器甕4片、陶磁器7片、鉄製品5片、銭貨1片、鉄滓1片である。

土師器片は1片は口縁部～体部片。器壁は厚手で、内面ヘラナデ・外面ヘラミガキ(ヨコ)を施す。1片は口縁部小片、1片は体部小片である。土師質土器小皿はロクロ成形か。内耳土器は胎土C類8片・D類5片。緑色凝灰岩は板碑微細片か。陶器は8片が出土する。甕片4片のうち片は6と同一個体か。鉄釉を施す口縁

部微細1片・体部微細1片の磁器・産地は不明。黄色の釉を施す1片・白濁色の釉を施す1片は近代以降か。磁器は3片が出土する。蜻唐草を描く体部片は肥前系か。江戸中期以降か。無文の銚子口縁部微細片・西洋呉須で文様を描く体部微細片は近代以降か。

鉄製品は表89、鉄滓は表91に記載する。

Ⅱ区からは7～9など13点が出土する。

7の器面は赤褐色であるがは須恵器か。8は土師質土器小皿。9は砥石。

この他、図示し得なかったが、土師器体部とみられる小片1片、胎土C類内耳土器体部2片、胎土D類口縁部1片・体部1片、陶磁器4片が出土する。陶器は鉄釉・錆釉・灰白色釉の体部微細片、磁器は無文の体部微細片が出土する。何れも近代以降か。

Ⅲ-1区からは10～12など20点が出土する。

10は灰色の色調の内耳土器。11は須恵系陶器か。12は石製品未製品か。第114図-10は刀子か。

この他、図示し得なかったが、内耳土器10片、瓦質土器播鉢1片、粘土小塊1片、陶磁器4片が出土する。

内耳土器は、灰色の内耳土器は内耳部1片・口縁部1片・体部2片が出土する。胎土はC類。赤褐色の内耳土器は、胎土C類の口縁部片1片・体部2片、胎土D類の口縁部1片・体部2片が出土する。陶器は3片が出土する。褐色の釉がかかる大甕口縁部小片・暗褐色の釉がかかる大甕口縁部小片は近代以降か。柿釉に似た褐色釉を掛け分ける体部小片1片は詳細不明。磁器はコバルト色の濃みが施される1片が出土する。近代以降か。

播鉢は8条以上一単位の摺り目を施す。

Ⅲ-2区からは第117図-12・13など21片が出土する。

12は陶器。内面口縁部～外面に黒色の釉が均一にかかる。13は磁器染付の皿類。

この他、図示し得なかったが土師器とみられる小片2片、内耳土器1片、陶磁器16片が出土する。

土師器とみられる小片は、壺類体部1片・長胴甕体部1片か。内耳土器は体部片で、胎土D(少)。陶器は11片が出土する。播鉢2片は内面全面に摺り目を施すか。1片は内面に灰釉、1片は内外面に錆釉状の釉がかかる。時期・産地不明。大甕体部片1片・甕体部1片は内外面柿釉か。江戸時代中期以降とみられるが詳細不明。無釉の甕口縁部2片・体部2片、器種不明の灰釉がかかる口縁部2片・底部1片は近代以降か。磁器は5片が出土する。赤絵染付の急須とみらえる注口部片1片、コバルト色の呉須で文様を描く4片である。近代以降か。

Ⅲ-3区からは第114図-11など24片が出土する。

第114図-11は煙管である。

図示し得なかった出土遺物は、土師器とみられる小片2片、土師質土器小皿1片、内耳土器3片、砥石の可能性のある礫片1片、陶磁器14片、鉄製品2片である。

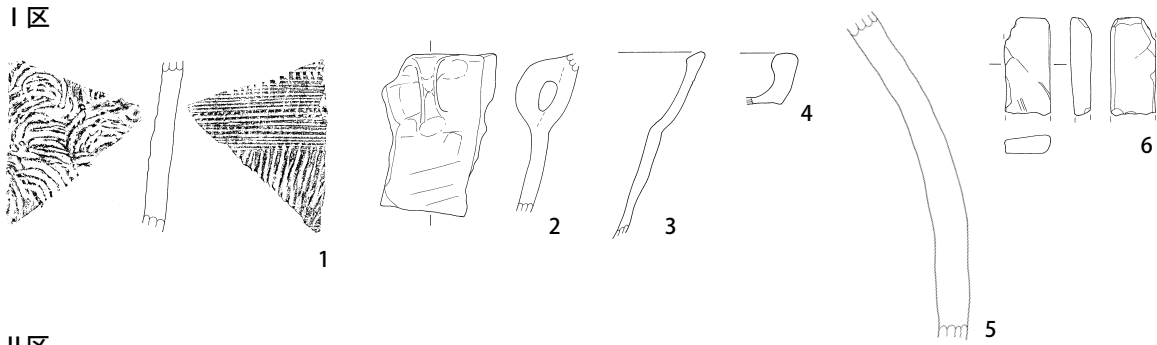
土師器は長胴甕体部片1片と詳細不詳の1片である。土師質土器小皿はロクロ成形の体部小片。内耳土器は、胎土C類体部片2片、D類口縁部1片である。

陶器は11片が出土する。内面灰釉・外面鉄釉の碗類底部1片は江戸時代中期以降か。錆釉の播鉢1片、無釉の甕体部片1片は時期不明。内外面に灰釉を施す口縁部4片、周縁に灰釉を施す耳皿片1片、内面無釉・外面灰釉の口縁部微細片1片、体部片1片、錆釉を施す鉢類1片は近代以降か。

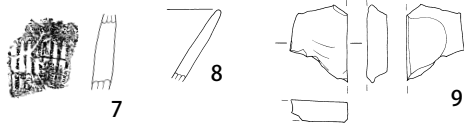
磁器は3片が出土する。肥前系とみられる染付口縁部1片・底部1片は江戸時代中期以降か。プリントの染付は現代とみられる。

第3章 確認された遺構と遺物

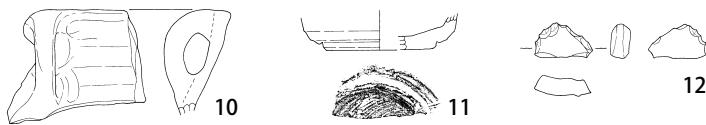
I区



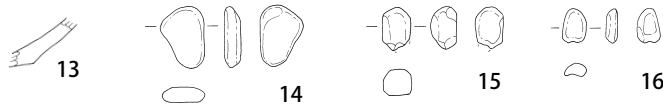
II区



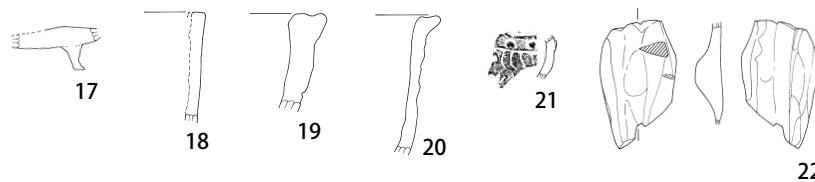
III-1区



III区内



第2次調査区内



0 1/4掲載 10cm

第62図 遺構外出土遺物実測図

表47 遺構外（I区）出土遺物観察表

[単位：cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕	長：7.4 幅：— 厚：1.5	内 同心円状あて具痕 外 平行叩き→ カキ目	内 灰色 外 暗灰色	須恵器・土師器 B群-1・6・7 良	小片	OYAW2 OY-2
2 内耳土器	口径：— 底径：— 器高：(8.3)	内 ヘラナデ 内耳接合部：指ナデ 指頭痕残る 外 磨滅 体部：ヘラナデか	内外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 I-2
3 内耳土器	口径：— 底径：— 器高：(9.8)	内外面 口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ(ヨコ) 外面スス付着	内外 黒褐色	瓦質土器B群 白色粒子 黒色粒子 良	1/8以下	OYAW2 一区一括
4 内耳土器	口径：— 底径：— 器高：(2.6)	ヨコナデか 外 オコグ状付着物	内 にぶい黄褐色 外 黒色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 I-2
5 陶器 甕	口径：— 底径：— 器高：(17.7)	内外面劣化 内 水平にリング状のしみ 薄い粘土の付着帯を挟んで 色調変化 使用痕か	内 明赤褐色 外 にぶい赤褐色	陶器D類 良	破片	OYAW2 I-西

[単位：cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
6 砥石	長：5.2 幅：1.1 厚：1.0	上・表・裏・左・右 5面残存 主砥面は上面	内外 にぶい黄色	流紋岩 良	1/4以下	OYAW2 I

表 48 遺構外（II区）出土遺物観察表

[単位：cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
7 須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：(4.0)	内 ヘラナデ 外 叩き目	内 にぶい黄橙色 外 にぶい橙色	須恵器・土師器 B群・1・2・5 良	小片	OYAW2 II
8 土師質土器 小皿	口径：— 底径：— 器高：(3.8)	ロクロ成形	内 にぶい黄橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 II 排土内
9 砥石	長：4.0 厚：1.1 幅：3.0 重：16.71	上・下・右側面残存 主砥面は上右側面か	内外 灰オリーブ色	頁岩 良	小片	OYAW2 2区一括

表 49 遺構外（III-1区）出土遺物観察表

[単位：cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
10 内耳土器	口径：— 底径：— 器高：(5.5)	内 内耳接合部は指ナデとみられるが痕跡薄い 外 口端部：ヨコナデ 口縁部：ヘラナデか 部分的にスス付着	内 褐灰色 外 暗灰黄色	瓦質土器C群 良	1/8以下	OYAW2 III-1
11 須恵系陶器か 碗類か	口径：— 底径：[5.5] 器高：(2.9)	ロクロ成形か 低い高台を作出 底部 回転糸切り後、周縁部をヘラナデか	内外 灰黄色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW2 III-1

表 50 遺構外（第2次調査区内）出土遺物観察表

[単位：cm・g]

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
13 土師質土器 小皿	口径：— 底径：— 器高：(2.3)	ロクロ成形 底部 回転糸切り未調整	内 灰黄色 外 にぶい黄色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 III 排土内
14 基石か	長：3.2 厚：0.9 幅：2.3 重：7.14	やや三角形 黄白色 SK-4と似る	表裏 明黄褐色	スコリア質安山岩	ほぼ完存	III区
15 基石か	長：2.3 厚：1.4 幅：1.4 重：6.14	裏面平坦の球形の小礫 SK-113と似る	表裏 褐色	砂岩	ほぼ完存	III区
16 基石か	長：1.8 厚：0.7 幅：1.3 重：1.81	円形状の小礫 基石の可能性あるか	表裏 にぶい黄褐色	流紋岩	ほぼ完存	III区
17 陶器 高台	口径：— 底径：— 器高：(2.2)	ロクロ成形 内外面 汚れ付着 器種不明	内外 灰黄褐色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW2 付A1
18 土師質土器 瓶類か	口径：— 底径：— 器高：(5.8)	内 剥落 外 ヨコナデか	内 褐色 外 にぶい黄褐色	土師質土器B群 良	小片	OYAW2 777
19 陶器 鉢類か	口径：— 底径：— 器高：(4.4)	ロクロ成形 口縁部：ヨコナデ 香炉か	内 にぶい黄褐色 外 にぶい黄褐色	陶器B類 良	小片	OYAW2 5, 6
20 陶器 甕	口径：— 底径：— 器高：(5.2)	内 口縁部：ヨコナデ 下部：指頭痕 外 口縁部：ヨコナデ 器面剥落	内 にぶい褐色 外 褐色	陶器B類 良	小片	OYAW2 777
21 素焼き 塑像か	長さ：2.4 幅：1.0	横方向の粘土帯状に円形の付文を貼付 弧状の文様を施す 方向不明 塑像部位か	内外 明褐色	やや緻密 良	小片	OYAW2 6
22 素焼き 塑像	長さ：6.8 幅：4.0	仏像か 径2.0cm程の籐竹状の棒の周囲に粘土を貼り付けて作製か	内外 褐色	やや緻密 1・6 良	表面一部	OYAW2 8

鉄製品は釘状の小片である。表 90 に記載する。

III区内からは 13～16 の 4 点が出土する。

13 は土師質土器小皿片である。体部が開く器形か。14～15 は基石の可能性があろうか。14 は SK-113 と似る。16 は SK-4・SK-114 と似る。

第2次調査区内からは 17～22、第 115 図-2、陶磁器など 76 点が出土する。17～22 は器種は判然としない。

17 は須恵系の可能性もあるが判然としない。18 は土師質の可能性が残る。19 は瓶類か。21・22 は塑像の一部とみられる。不掲載ではあるが、折縁皿とみられる破片、緑釉が施される破片、内面灰釉、外面鉄釉の破片、碗類の高台などが出土する。第 115 図-2 は「開元通宝」である。

第3章 確認された遺構と遺物

この他、図示し得なかったが、土師器2片・内耳土器6片・不明土器7片・粘土塊1片・砥石片2片・板碑とみられる凝灰岩片1片、陶磁器47片、鉄製品4片、鉄滓1片が出土する。

土師器は坏体部・底部か。内耳土器は、胎土C類体部3片・底部1片、胎土D類口縁部1片・体部1片が出土する。粘土塊は焼成は良好ではなく脆い。砥石は㊸・㊹。

陶器は22片が出土する。甕類は5片が出土する。何れも口縁部小片である。香炉口縁部の可能性のある口縁部微細片は内外面に灰釉を施す。連房式登窯期か。在地系の練鉢とみられる口縁部微細片は内外面に灰白釉を施す。時期不明。内外面に灰釉を施し陰刻の一部が観察される体部微細片は近世か。志野様式とみられる口縁部小片・体部小片は詳細不明。灰釉を施す微細片7片、灰釉及び鉄釉を施す微細片2片、内面灰釉・外面錆釉を施す微細片2片、錆釉を施す微細片1片、柿釉を施す微細片1片は詳細不明。近代以降の可能性も残る。

磁器は20片が出土する。8片は淡藍色の染付。江戸時代中期以降の肥前系とみられる。西洋呉須の染付3片、ベロ藍の印判手1片、無文6片、色絵2片は近代以降か。

鉄製品・鉄滓は表89・91に記載する。

第3節 3次調査

1. 調査の概要

3次調査は粟宮宮内遺跡調査区の北東辺部にあたるA・B・C・D・D-2区の5地区の調査を実施した。A・B・C区は、主に、溝状遺構・井戸跡・直交方向に重複する方形の土坑群、散在する地下式坑が確認される。D区は溝状遺構、ピット群を主体とする遺構分布である。

A区は、2次調査2-II区北東側にあたる。SD-19は2次調査SD-19に連繋する遺構とみられ、位置・形状・主軸が似る。但し、底面の傾斜は、2次調査区SD-19では南側から北側への傾斜がみられるが、3次調査区SD-19の底面レベルからは傾斜は読み取れない。

B区は2次調査2-III-1区南東側・2-III-2区北東側、C区は2次調査2-III-3区北東側にあたる。

D区は1次調査1-I区北半部の北東側にあたる。SD-12・13・14は1次調査SD-12・13・14に連繋する遺構とみられ、位置・形状・主軸・底面の傾斜などの特徴が似る。

D-2区は、粟宮宮内遺跡調査区南東端部にあり、1次調査1-I区南半部の北東側にあたる。道標設置の際、工事立会調査を行った。精査の結果、遺構・遺物の確認はなく、本記載をもって報告とする。

第63図覆土1～3層は自然堆積層である。

A～D区出土の遺物は小片、かつ、時期幅の大きく、帰属等は不詳である。このため、遺構の重複関係については、土層の堆積状況を記す。

2. 地下式坑

(1) 調査の概要

現地調査において地下式坑の可能性が考慮された遺構は4基である。A区1基、B区3基である。

A区SK-214については、テラス状の部分が竪坑とは判断しづらいが、現地調査の所見から本節に記載する。

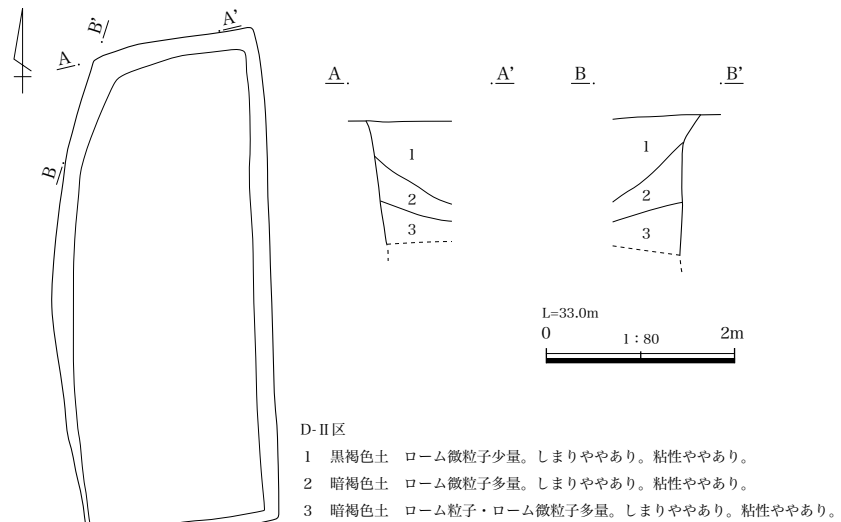
B区SK-SK-374は間層を挟まず、天井崩落層とみられる5層が堆積する。廃絶後早い段階で崩落、或いは、埋め戻された可能性が考えられようか。

B区SK-338は竪坑状の突出部が2箇所確認されるが、何れも壁面はオーバーハングする。また、主室と

みられる方形状の掘り込みも壁面のオーバーハングの痕跡が認められる。

3. 土坑に記載するC区 SK-485 は袋状の地下空間が穿たれる。地下式に類する遺構の可能性もあろう。

出土遺物は総じて少ないが、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、鉄製品等が出土する。また、他遺構の遺物の出土状況は、後世の混入等による可能性が指摘でき、地下式坑についても、同様



第63図 D-II区全体図

の判断が可能と考えられる。このため、出土層位等は確認し得ず、遺構に帰属する資料であるが判然としない。

遺物の出土状況は不詳な点が多いが、A区 SK-214からは古瀬戸中期とみられる瓶類底部が出土する。SK-374からは凝灰岩片32片が出土する。切石状のものを含み、被熱による赤色変化・ススの付着が認められる。何らかの石材が廃棄されたものか。

B区 SK-374については、SD-364との重複が確認される。出土遺物については、SD-374接合遺物にSD-364出土破片が接合する遺物があるなど、多くは後出するSD-364に帰属する可能性が高い。また、出土する磁器の中に、廉価品或いは組揃とみられる同文様の染付が複数組確認される。SD-364出土の陶器坏も組揃とみられ、遺物の出土状況からもSD-364への帰属の可能性が指摘される。

(2) 地下式坑

第214号地下式坑 (SK-214) (第64・69図 図版八)

位置 A区 R-20 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-214 → SK-217 か。 **形状・規模・主軸** 円形状の掘り込みの南側がテラス状に掘り込まれる。南北の全長 (3.0) m、円形の掘り込み部の径 1.36 m 前後・深さ 1.15 m 前後・レベル 28.4 m 前後m、南側のテラス状部の東西約 0.76 m・南北 (0.8 m)・深さ 0.4 m 前後・レベル 29.2 m 前後である。主軸はほぼ磁北に沿う。 **覆土** 12層を確認した。図中 SP-B トーン部の覆土は確認し得なかった。7・11層は黒色土層。テラス状部底面レベルに相当する10層以下はローム主体の堆積層である。崩落層か。 **遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。石製品・礫2片、陶器1片である。

出土遺物 1は陶器瓶類。古瀬戸中期か。底部は厚く台状に開く。

この他、図示し得なかった出土遺物は石製品・礫は2片である。このうち1片は緑色片岩小片である。板碑片か。

第338号地下式坑 (SK-338) (第65・69図 表52 図版九)

位置 B区 M-14 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-385 → SK-338 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 東辺は円形状、西片は方形状の東西に長い形状である。北壁中央部、南壁東寄りが突出する。長形の部分は主室、突出部は竪坑か。主室の壁面は 30.7 m 付近で緩やかに屈曲する。竪坑の壁面はオーバーハン

第3章 確認された遺構と遺物

グして立ち上がる。底面は概ね同レベルであり、主室と竪坑の境に段差や傾斜はなく、平坦に繋がる。主室の規模は東西約 2.0 m、南北は東片約 1.1 m・西辺約 0.7 m、主軸 N-72° -W である。竪坑の規模は、北壁突出部の幅（東西）約 0.5 m・奥行き（南北）約 0.4 m、南壁突出部の幅（東西）約 0.5 m・奥行き（南北）約 0.37 m であり、概ね、同大・同形状である。 **底面** ローム層を掘り込む。主室と突出部の底面に高低差は観察されない。遺構確認面からの深さは、主室・竪坑とも約 1.2 m、レベル 29.44 m である。 **覆土** 主室部分の 11 層が確認される。底面・竪坑部分の層序は確認し得なかった。11 層の暗黄褐色土は天井等の崩落土か。 **遺物出土状況** 覆土中から 7 片が出土する。土器類 5 片、陶磁器 2 片である。

出土遺物 1 は須恵器甕体部片、2・3 は土師質土器小皿である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類 3 片、陶磁器 1 片である。

土器類は、内耳土器 2 片が出土する。口縁部（胎土 D） 1 片・体部（胎土 C） である。体部片はオコゲが付着する。

陶磁器は 2 片が出土する。陶器甕 1 片、磁器 1 片である。陶器甕は無釉。近世後半以降か。磁器は朱色釉で文字や文様を施し、体上半は螺鈿状の光沢を持つ。近代以降か。

第 370 号地下式坑（SK-370）（第 66 図 図版八）

位置 B 区 K-13 グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。 **重複関係** SD-371 → SK-370 の順に掘り込まれる。SK-372 とは不詳である。 **形状・規模・主軸** 北壁中央部が突出する「T」字状の部分は主室、南壁中央部の方形状の突出部は竪坑か。主室と竪坑の堺部は約 0.25 m の高低差を持つが、竪坑下段の傾斜によって区画は緩やかである。主室とみられる「T」字状の部分東西に長い方形状である。底面の規模は、東西（2.9）m 以上、南北 1.1 ～ 1.3 m、突出部を含めた南北約 1.7 m、突出部の東西約 1.5 m・南北約 0.6 m、主軸 N-66° -W である。竪坑とみられる方形状の部分は東西に長く、2 段に掘り込まれる。下段は緩やかに傾斜する。上・下段を含めた規模は、東西約 1.0 m・南北約 0.8 m である。上段部の東西は約 0.5 m、下段部の東西は 0.2 m 前後である。 **底面** ローム層を掘り込む。主室と突出部の底面に高低差は観察されない。遺構確認面からの深さ約 0.95 m、レベル 30.05 m である。竪坑上段までの深さは 0.7 m 前後、レベル 30.3 m 前後、下段までの深さは 0.8 m 前後、レベル 30.2 m 前後である。 **覆土** 主室部分の 9 層が確認される。9 層はローム塊の堆積が目立つ。主室突出部、竪坑部の覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 374 号地下式坑（SK-374）（第 67・69～71・114・118 図 表 53・90・92・94 図版九・一四）

位置 B 区 M-13 グリッドに位置する。西側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-374 → SD-364 の順に掘り込まれる。SD-376 とは不詳である。 **形状・規模・主軸** 現状、「L」字状の掘り込まれる。主室・竪坑は重複により判然としない。底面レベルは、北側の方形状の部分の北壁際で 29.638 m、南側の長方形の部分で 29.592 ～ 29.51 m であり、0.05 ～ 0.13 m の高低差が認められる。底面に明確な区画は確認されないが、南側の長方形の部分は主室、北側の方形状の部分は竪坑と考えられる。西壁北寄りの破線で示した突出部は主室に関連するか。主室は東西に長い形状か。底面の規模は東西（1.8）m・南北（1.0）m、遺構確認面からの深さ 1.35 ～ 1.44 m、底面レベル 29.592 ～ 29.51 m、主軸 N-67° -W である。竪坑とみられる方形状部の底面の規模は東西（1.0）m・南北（1.0）m、遺構確認面からの深さ約 1.3 m、底面レベル 29.638 m である。 **底面** ローム層を掘り込む。主室と竪坑は 0.05 ～ 0.13 m の傾斜によってなだらに取り付く。 **覆土** SP-D： 1 ～ 5 層が確認される。5 層はロームブロックを多量に含み、天井崩落層と判断される。間層を挟まず天井は崩落か。 **遺物出土状況** 覆土中から 718 片が出土する。SK-374 は後出する

SD-364により覆土の多くを失っており、これらはSD-364に帰属する可能性が極めて高いが、残存する本遺構覆土から出土する遺物を伴う可能性が残されており、本遺構に記載する。SD-364-15はSD-364・374重複部からの出土が確認されておりSD-364に記載する。

出土遺物は、土器類271点、石製品・礫79片、製鉄関連遺物7片、陶器164片、磁器81片、金属製品21片、鉄滓7片、その他88片である。

第69図-19はSD-364出土の破片が接合する。接合破片の1片を除きSK-374出土であり、SK-374に記載する。**出土遺物** 1～3は縄文土器。1は山形の口縁部か。阿玉台式か。胎土に近金雲母を含む。2は無文に沈線で文様を描出か。後期初頭か。3は地縄文に集合沈線と波状沈線が垂下する。堀之内式か。4は須恵器甕体部片。外面に自然釉がかかる。5は須恵器高台付き坏か。器面は黄褐色。6は土師器高坏。7は土製品、或いは、手捏ね土器か。口縁部は不整であり、端部は細くなる。手捏ね土器口縁部とみられるが、土師器鉢類の積み上げ痕の可能性も残る。器高は低く、土製品口縁部とすれば皿形か。10は土師器か。3個前後で脚の役割を果たすか。上面・裾端部は磨滅する。上面は一方へ傾斜する。複数個で使用の場合、傾斜の下方が内側を向くか。8・9は土師質土器小皿。11～20は内耳土器。11以外は器高5.0cm前後。12～14は内耳が残存する。内耳の位置は、12・14は口縁部下、13は口縁端部下である。15は補修孔が穿たれる。17～19は出土遺物中接合状況が良好な破片である。19はSD-364の破片が接合する。20は底部。中央部付近に花卉文を刻印する。17～19は何れも器高5.0cm前後である。器高5.0cm前後のものは口径30.0～35.0cm前後が主体とみられる。口縁部の残る12～19のうち、15・17以外は口縁端部が角形状。16は胎土D、16以外は胎土Cである。21・22・24・25は瓦質土器鉢類か。22は器高浅い。24・25は手焙りか。26は粘土塊。扁平な小片である。27～31は砥石片。33は環状の不明石製品、34は小礫。形状が基石に似る。34はこね鉢か。22は陶器甕口縁部。35は陶器插鉢。同一個体とみられる2片が出土する。図上で復元図示する。36・37は陶器盃。何れも内外面に灰釉を施す。36はグレーがかった色調であり、同様の形状・釉調の破片13片が出土する。36他、3個体分か。37はオリーブ色あり、同様の形状・釉調の破片4片が出土する。4個体分とみられる。38は陶器皿。39は片口鉢。第118図-1～6は磁器である。1は小丸碗。肥前系と判断されるが判然としない。2・3は中丸碗。2はSK-489不掲載遺1片、SD-374出土の14片と同柄とみられる。近世末葉～近代初頭か。3は西洋呉須の印判手。近代か。4は半筒碗。5・6は皿類である。第114図-5は鉄製品刀子か。第114図-6は煙管である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類251片、石製品・礫71片、製鉄関連遺物7片、陶器158片、磁器78片、鉄製品17片、煙管片1片、20世紀の工業化製品とみられる87片が出土する。

土器類は、縄文土器1片、須恵器3片、土師器1片、土師質土器小皿18片、土師質土器9片、内耳土器195片、瓦質土器79片、粘土塊22片が出土する。

縄文土器は、地縄文に複数の沈線を施す小片。後期初頭～後期前葉か。須恵器は甕肩部1片・体部2片であり、何れも外面に平行叩きを施す。土師器は長胴甕体部片か。土師質土器小皿は微細片が多く、小皿形以外を含む可能性は否めない。体部17片・底部1片であり、磨滅する。体部はロクロ成形、底部は回転糸切り未調整か。土師質土器は体部9片。詳細は不明である。内耳土器は口縁部35片（胎土C29片・D6片）・口縁部～体部14片（胎土C9片・D5片）・口縁部～体部の内耳附着部6片（うち2片は内耳剥落 胎土C5片・胎土D1片）・内耳1片（胎土C）・体部14片（胎土C10片・D4片）・体部～底部17片（胎土C10片・D7片）・底部108片（胎土C102片・D6片）である。接合関係にない同一個体片が含まれよう。器高の判別が可能であるのは54片である。54片とも器高5.0cm前後である。また、54片中、胎土C42片・胎土

第3章 確認された遺構と遺物

D12片である。内耳の残存する6片は13同様、内耳は口縁部に付く。瓦質土器は、第70図-22と同一とみられる2片、播鉢2片、甕口縁部2片、小片・微細片69片が出土する。播鉢は播り目が重複する1片、5本以上一組の播り目1片である。粘土塊のうち1片は第70図-26状の扁平で端部を持つ小片である。26とは接合しない。

石製品・礫は、剥片3片、砥石8片、硯1片、凝灰岩片36片、小礫4点、破碎礫14片、スレート・コンクリ5片が出土する。

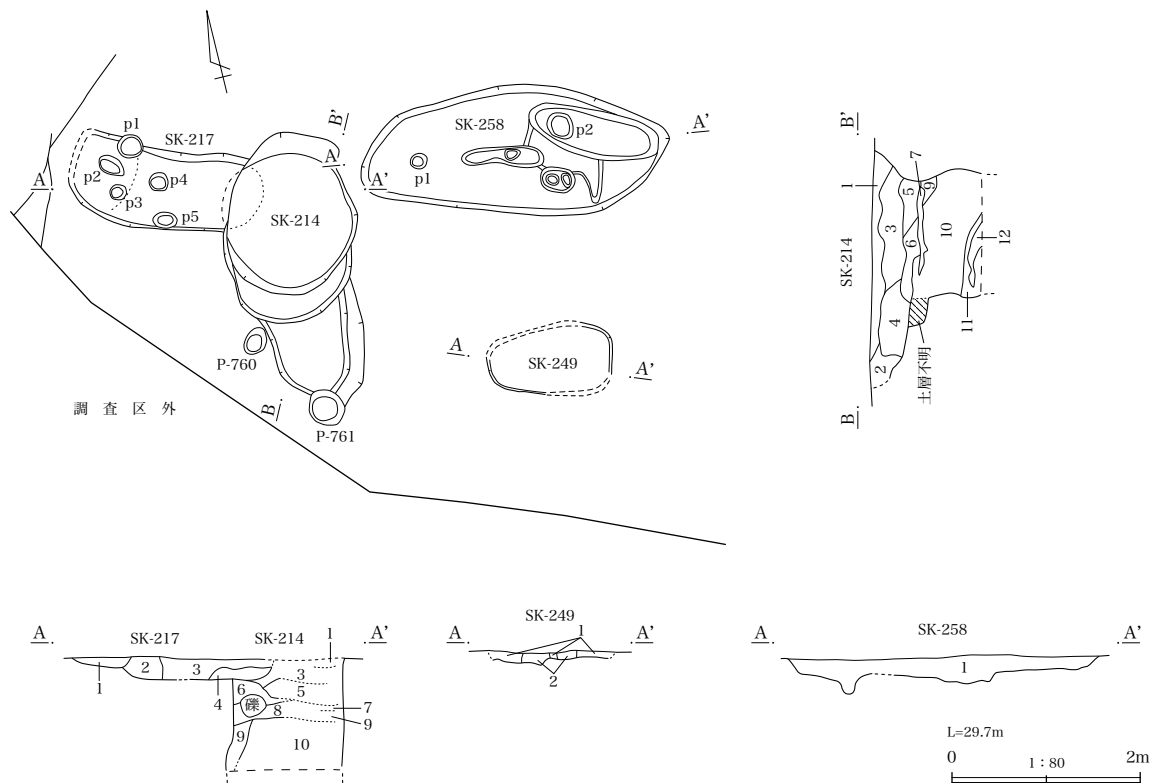
剥片のうち1片は玉隋である。凝灰岩片のうち4片は切石状であり、径3.0cm前後の未貫通孔を持つ被熱により赤色変化する1片、上面波状に成形しススの付着顕著な2片、ススの付着する1片である。この他、被熱し赤色変化するもの17片、ススが付着するものは1片である。

鉄関連遺物は羽口とみられる筒状の土製品が7片出土する。1片は端部片であり、溶解したガラス質の付着がみられる。3片は微細片である。器厚は1.0cm前後・1.5cm前後・2.0cm前後である。

陶器は、陶器158片が出土する。無釉の破片は9片であり、これ以外は施釉陶器である。何れも近世後半以降とみられる。

無釉の陶器は、播り鉢体部片9片、大甕体部1片である。播り鉢片は外面ヘラナデ、大甕片は粘土紐積み上げ後ヘラナデを施す。

施釉の陶器は、播鉢9片、盃類21片、盃・碗・皿類41片、皿類17片、鉢類29片、壺・甕類19片、瓶類3片、徳利5片、詳細不明の微細片5片である。播り鉢は、9本以上一組の播り目（播り目間0.3cm前後）を施す6片、7本以上一組の播り目（播り目間0.3cm前後2片、8本以上一組の播り目（播り目間0.2cm前後）2片は同一個体か。この他、第70図-35同様の見込みの1片が出土する。盃は、第71図-36に似た口縁部8片、体部2片、底部3片が出土する。3個体分以上の破片とみられる。第71図-37に似た口縁部3片・底部1片は4個体分。数個一揃えか。この他、内外面白濁釉1片、内面白濁釉・外面灰釉1片、内面灰釉・外面～口端部白濁釉3片、内外面白濁釉2片が出土する。盃・碗・皿類は小片11片・微細片31片が出土する。小片は、灰釉に鉄絵を施す1片、内面白濁釉・外面灰釉に鉄絵を施す1片、貫入の顕著な灰釉1片、内面灰釉・外面鉄釉を縞状に施す4片、内面灰釉・外面鉄釉1片、内面白濁釉・外面灰釉1片、灰釉に鉄釉を流す1片である。微細片は、内外面白濁釉（口縁部7片・体部14片・底部5片）、灰釉に鉄絵を施す2片、灰釉に灰褐色釉で文様を施す1片、灰釉に外面鉄絵の1片、内面白濁釉・外面淡褐色釉1片である。皿類は、灰釉を施す口縁部2片・体部3片・底部1片、灰釉に貫入が著しい口縁部4片、灰釉と鉄釉をかき分ける2片、内面緑色オリーブ釉・外面灰釉を施す口縁部2片、外面口縁部に稜を持つ灰釉片2片、見込みに稜を持つ灰釉片1片である。鉢類は、3片は香炉、2片はこね鉢、9片は片口鉢、3片は鉢類か。香炉とみられる3片は、灰釉を施す口縁部片、灰釉に口縁端部に鉄釉を施す口縁部片、鉛色釉の底部片である。こね鉢は、灰釉が垂下し、外面口縁部下に稜を持つ小片、灰釉1片である。片口鉢は、黄褐色釉の口縁部片・体部片9片、暗黄褐色釉の口縁部・体部片3片である。第71図-39に口縁部の形状が似るが香炉の可能性も否めない。鉢類は黒褐色釉を施す底部2片、鉛色釉を施す体部1片、玉縁状の口縁部片7片が出土する。口縁部は、灰釉を施し体下位無釉の3片（うち2片は同一個体か）、灰釉を施す2片（同一個体か）である。壺・甕類のうち18片は小型品か。外面灰釉（緑色オリーブ）を施し肩部に3条の沈線が巡る3片、柿釉を施し肩部に鋭角な稜を持ち器壁の薄い13片、内面白濁釉・外面鉄釉の2片である。この他、底部回転ヘラナデ後高台を付す黄褐色釉片1片である。瓶類は内面白濁釉・外面灰釉の3片が出土する。徳利は外面柿釉び鉄釉が垂下する5片が出土する。詳細不明の微細片は底部2片、灰釉の見える1片を含む。



<p>SK-214</p> <p>1 褐色土 ローム微粒子・ローム粒子含む。炭化物粒子少量。しまりなし。粘性なし。</p> <p>2 暗褐色土 ローム微粒子多量、ローム粒子少量。しまりなし。粘性なし。</p> <p>3 暗褐色土 ローム微粒子やや多量、ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。粘性なし。</p> <p>4 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。粘性なし。</p> <p>5 暗黄褐色土 ローム微粒子・ロームブロック含む。ローム粒子少量。しまり強い。粘性強い。</p> <p>6 黄褐色土 ローム微粒子やや多量、ロームブロック多量。しまり強い。粘性強い。</p> <p>7 黒色土 ローム粒子少量。しまり強い。粘性強い。</p> <p>8 暗褐色土 ローム微粒子少量。しまり強い。粘性強い。</p> <p>9 暗黄褐色土 ローム微粒子多量、ロームブロック含む。しまり強い。粘性強い。</p> <p>10 黄褐色土 ロームの地山崩落層か。しまりなし。粘性強い。</p> <p>11 黒色土 ローム微粒子少量。しまりなし。粘性強い。</p> <p>12 黄褐色土 ロームの地山崩落層か。しまりなし。粘性強い。</p>	<p>SK-217</p> <p>1 褐色土 ローム微粒子多量、ローム粒子少量。しまり強い。粘性強い。</p> <p>2 暗黄褐色土 ローム微粒子多量、ローム粒子含む。しまりなし。粘性強い。</p> <p>3 暗褐色土 ローム微粒子含む。ローム粒子少量。しまりなし。粘性なし。</p> <p>4 暗黄褐色土 ローム微粒子含む。ロームブロック少量。しまりなし。粘性なし。</p> <p>SK-249</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりあり。粘性ややあり。</p> <p>2 黒色土 攪乱。</p> <p>SK-258</p> <p>1 暗褐色土 ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロック多量。しまり強い。粘性なし。</p>
--	--

第64図 第214号地下式坑・第217・249・258号土坑・第760・761号ピット実測図

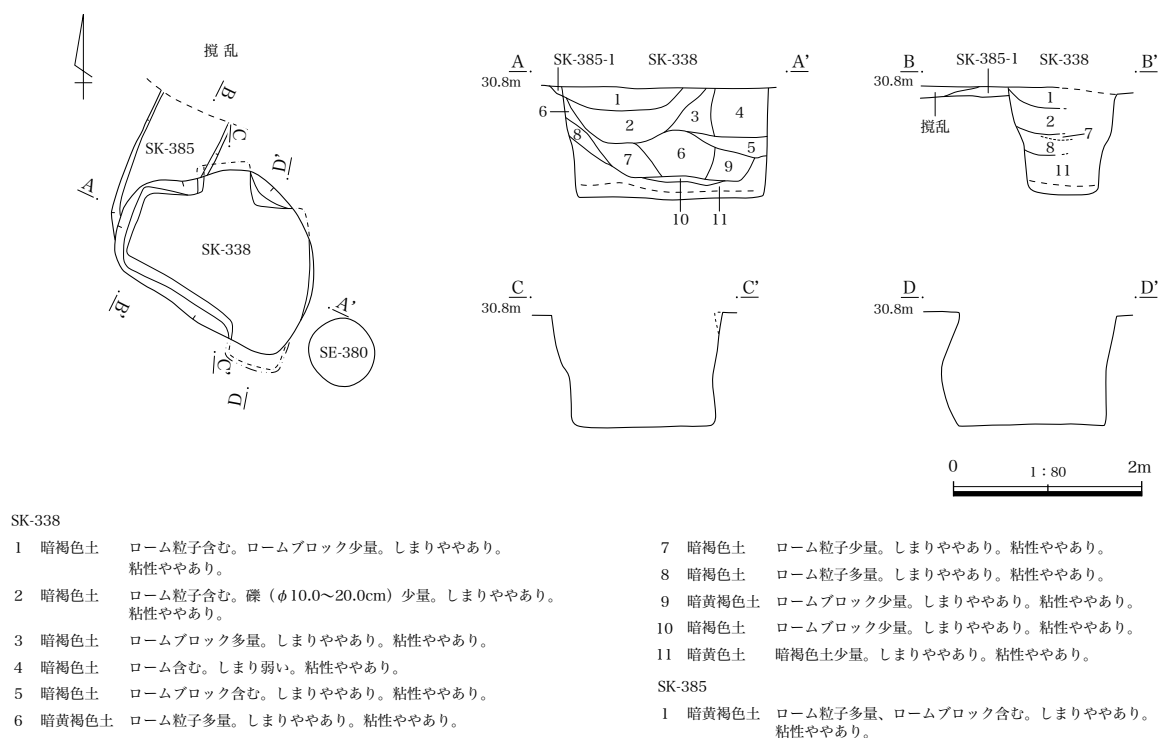
磁器は染付78片が出土する。

肥前系は64片が出土する。小丸碗2片、中丸碗20片、丸碗類とみられる細片15片、半筒碗18片、碗・皿類4片、皿類5片である。

小丸碗は、無文1片、外面に簡素な文様を施す1片である。何れも近世後半以降か。

中丸碗は20片が出土する。近世後葉とみられる破片は3片である。格子目に笹文様を描き見込みに崩れた五弁花文を配する1片、竹・笹・筍・人物を描き見込みに五弁花文を配する2片である。近代末葉とみられる破片は1片である。見込みに辛うじて五弁花文とみえる文様を配する底部片である。近世後葉～近代初頭とみられる破片15片である。このうち14片は第118図-2とで同柄である。口縁部～底部2片・口縁部3片・体部5片・体～底部4片である。このうち、1片は底面に文様を付さない。1片は網目文様を描き、

第3章 確認された遺構と遺物



第 65 図 第 338 号地下式坑・第 385 号土坑実測図

見込みは無文である。近世後半以降とみられる 1 片は、網目文様を配し、見込みを欠損する。

丸碗類とみられる細片は口縁部 5 片・体部 2 片・底部 3 片が出土する。何れも近世後半以降とみられる。口縁部片は第 118 図-2 と同柄とみられる 2 片・笹文様 1 片・網目文様 1 片・文様不詳 1 片である。体部片のうち 1 片は網目文様か。底部片のうち 1 片は見込みに文様を配す。近世後半か。

半筒碗は第 118 図-4 の他 18 片が出土する。近世後半とみられる破片は 5 片が出土する。見込みの五弁花文を配する。何れも草花文であるが、4 片は同柄か。近世後葉～近代初頭とみられる破片は 5 片が出土する。見込みに文様を付さない。3 片は網目文様を施す。2 片はダミで草花文を描く。近世後半以降とみられる破片は 8 片が出土する。口縁部 2 片、体部片・底部 2 片である。口縁部片のうち 1 片は外面無釉、内面上位の帯状に巡る斜格子文の中に間隔をおいて花菱文を配する。四方襷を意図か。3 次調査区内出土第 121 図-25 と同種か。体部片の内 1 片は草花文か。

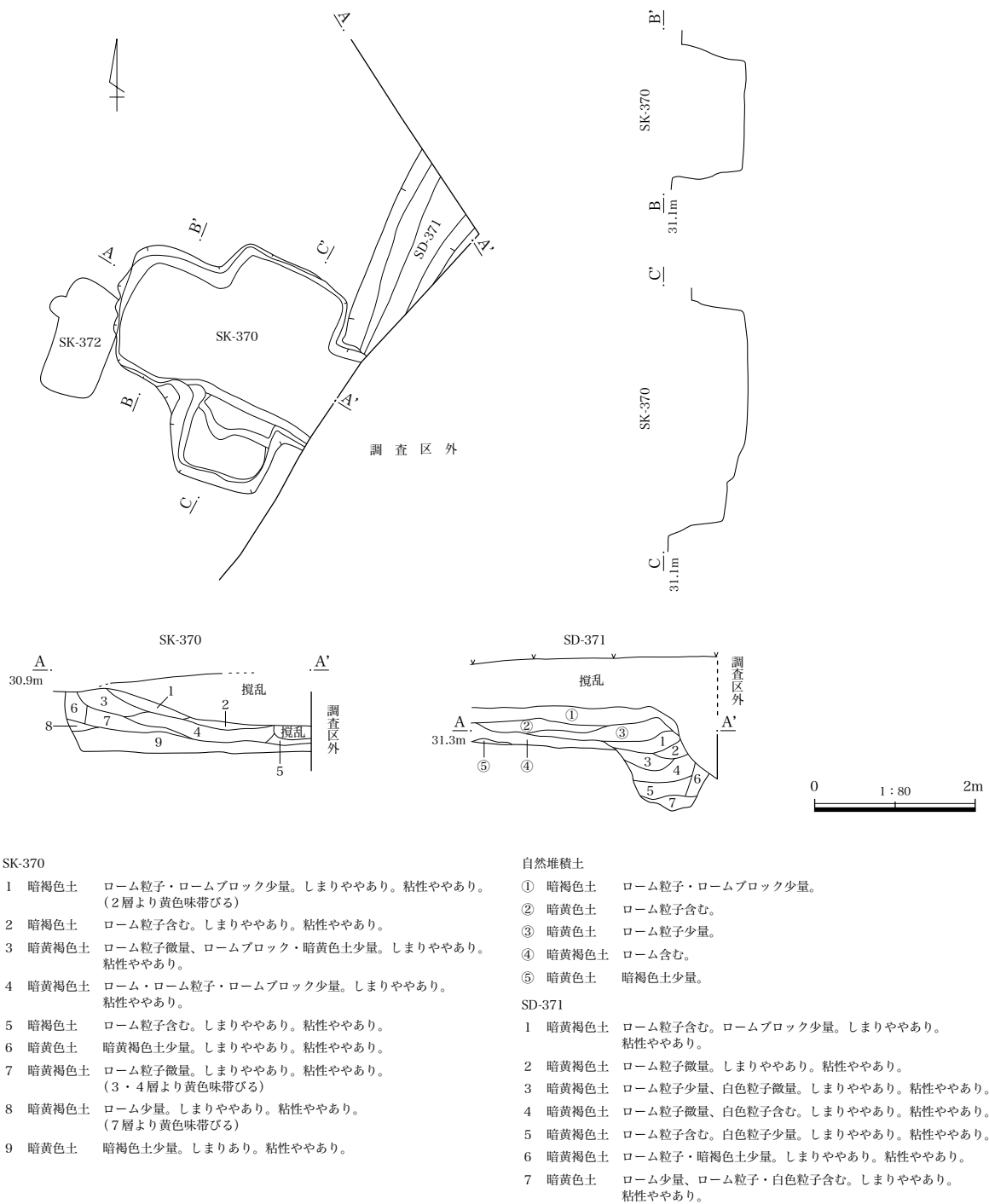
碗・皿類細片は、口縁部 1 片、底部 3 片が出土する。口縁部は無文部とみられる。底部は見込みにダミで五弁花文状の文様を配する。近世末葉～近代初頭か。

皿類は 5 が出土する。近世後半以降とみられるのは 2 片であり、第 118 図-5、2 次調査区遺構外第 117 図-13 と同柄の口縁部片 1 片である。近世末葉～近代初頭とみられる破片は 2 片である。第 118 図-6 の他、文様不詳の 1 片である。近代以降とみられる 1 片は無釉である。

瀬戸・美濃系とみられる破片は 1 片である。小型の碗類で、外面に山水図風の文様を描き、見込みは無文である。近代初頭か。

産地不明の破片は 14 片である。半筒碗 1 片、碗・皿類 7 片、皿類 3 片、瓶類 3 片である。

半筒碗は蛸唐草を施す。近代か。碗・皿類のうち 4 片は近世後半以降か。内面に半円形の菊花文様を描く 1 片を含む。3 片は近代か。2 片はコバルト呉須の印判手である。皿類は近代か。西洋呉須の草花文 1 片、



第66図 第370号地下式坑・第371号溝状遺構実測図

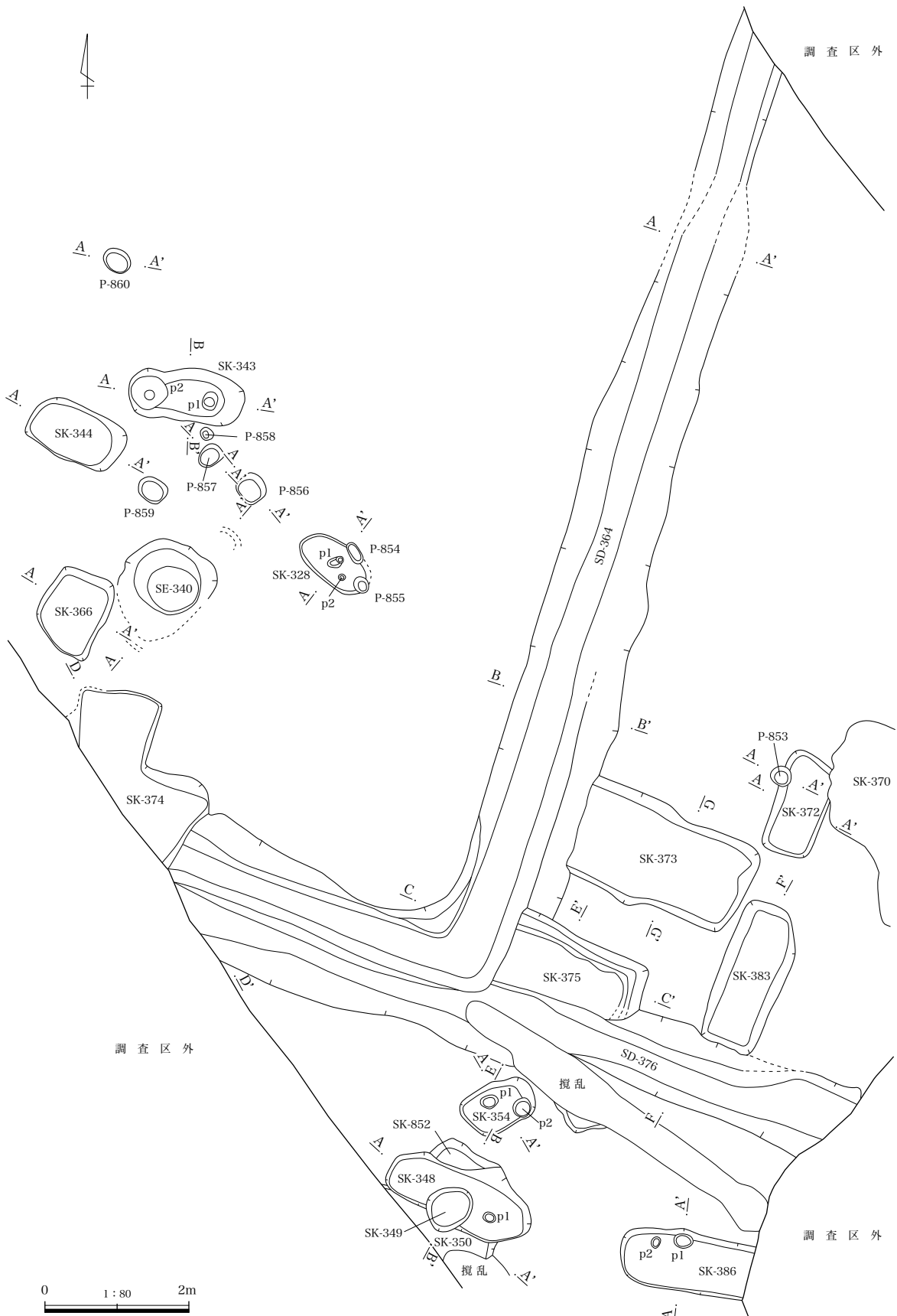
コバルト呉須の印判手2片である。瓶類は近世後半以降、或いは、近代以降か。3片のうち2片は簡素な文様を施す。同一個体か。

鉄製品は詳細不明な小片17片が出土する。煙管片は微細片である。表90に記載する。

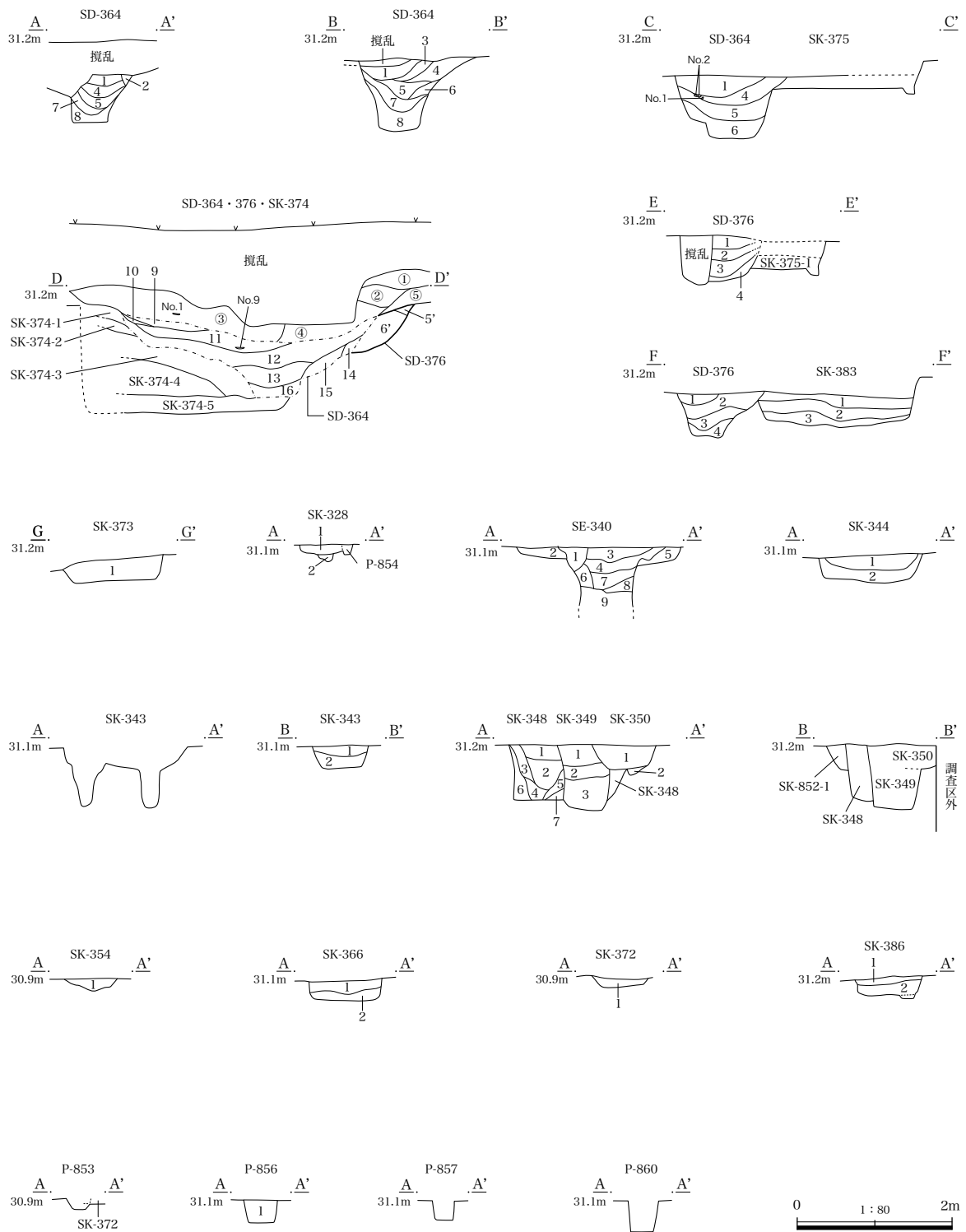
鉄滓7片は表92に記載する。

この他、20世紀の工業化製品とみられる88片が出土する。巴文の小型の瓦1片、陶器鉢類15片(同一

第3章 確認された遺構と遺物



第 67 図 第 374 号地下式坑・第 364・376 号溝状遺構・第 340 号井戸跡・第 328・343・344・348～350・354・366・372・373・375・383・386・852 号土坑・第 853～860 号ピット実測図実測図



第68図 第374号地下式坑・第364・376号溝状遺構・第340号井戸跡・第328・343・344・348～350・354・366・372・373・375・383・386・852号土坑・第853・854・856・857・860号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物

自然堆積土

- ① 黒褐色土
- ② 黒褐色土 ローム粒子少量。
- ③ 暗灰褐色土 暗褐色土含む。
- ④ 暗褐色土 ローム粒子少量。
- ⑤ 暗褐色土 ローム粒子少量。

SD-364

- 1 暗褐色土 白色粒子・炭化材少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 7 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 9 黒褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 10 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 11 暗褐色土 ローム粒子微量、黒褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 12 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 13 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 14 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 15 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 16 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-374

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック多量、暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SD-376

- 1 暗黄褐色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 白色粘土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5' 暗黄色土 ロームブロック多量。しまりあり。粘性弱い。
- 6' 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-328

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-340

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム少量、ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 7 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 8 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 9 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-343

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック（暗色帯）少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。

SK-344

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-348

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 7 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-349

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-350

- 1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-354

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-366

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-372

- 1 暗褐色土 ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-373

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック（暗色帯）含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-375

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-386

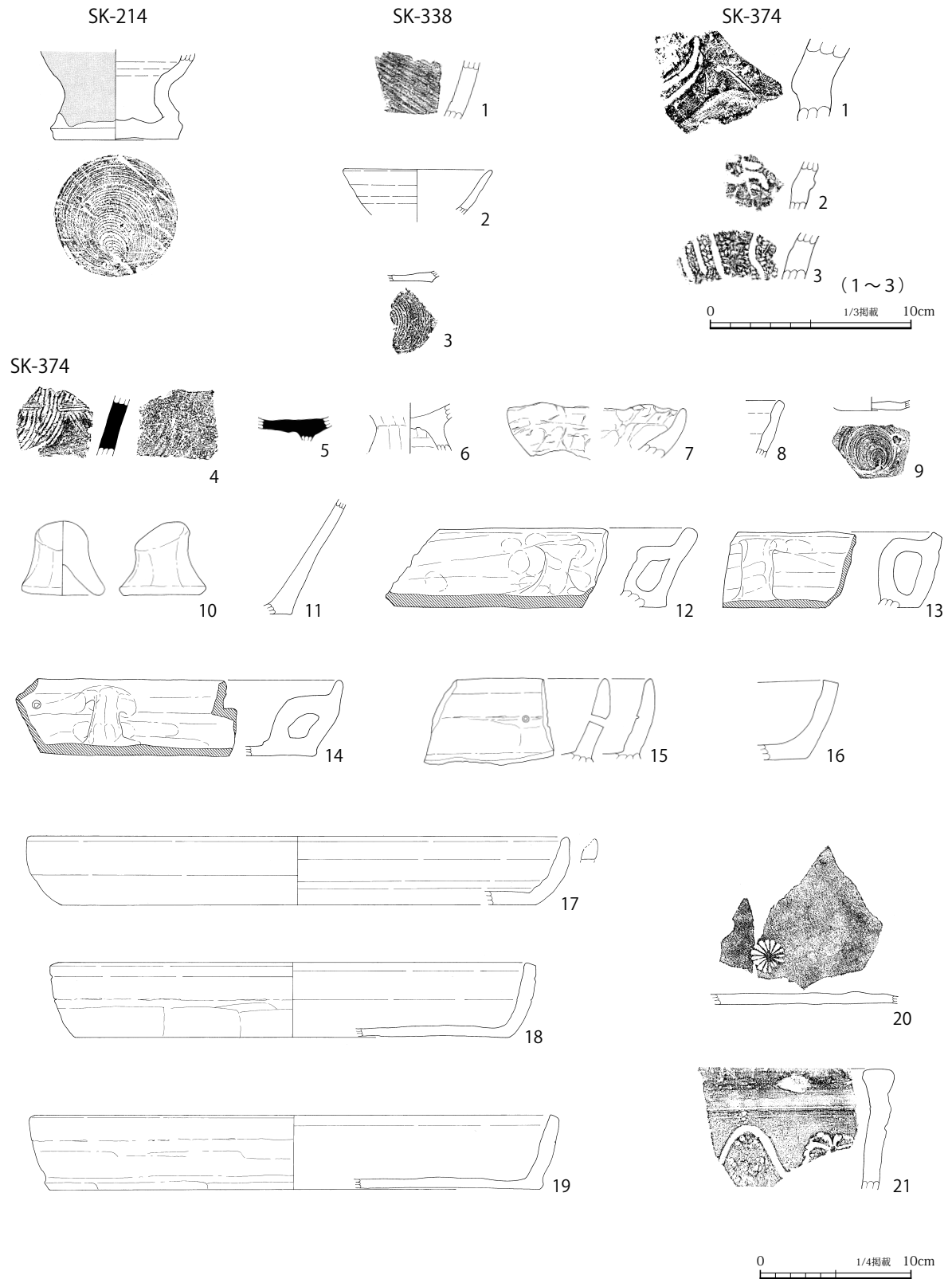
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-852

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。

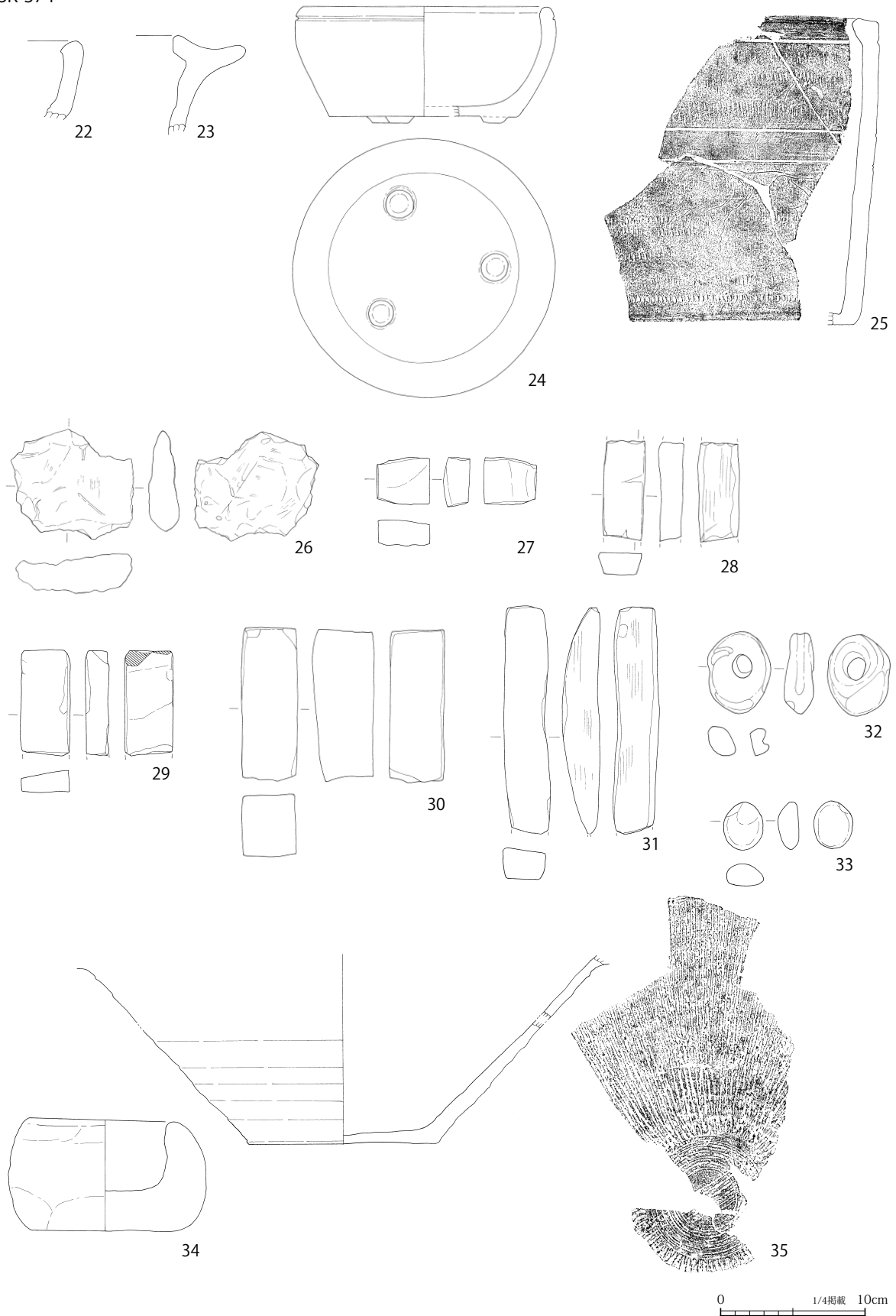
P-856

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。



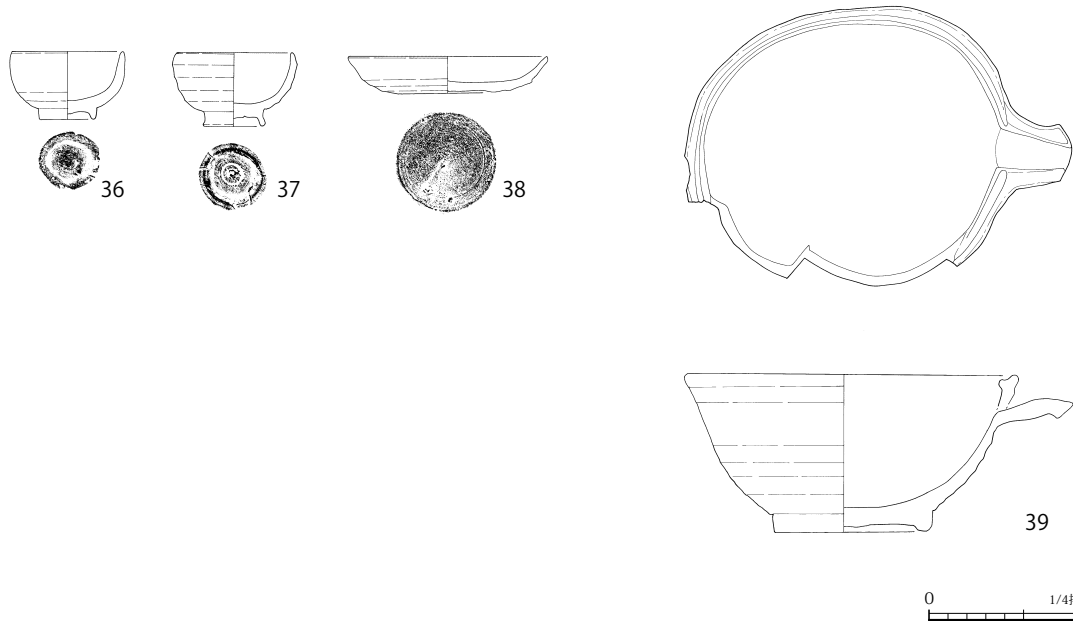
第 69 図 第 214・338・374 号土坑出土遺物実測図

SK-374



第70図 第374号土坑出土遺物実測図(1)

SK-374



第71図 第374号土坑出土遺物実測図(2)

表51 第214号地下式坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 陶器 瓶類	口径: — 底径: 8.2 器高: (6.7)	外面 オリーブ色の灰軸が台状部上半まで垂下する 軸垂れの端部は厚い 接する素地は赤色変化する 内面 底部は灰軸の溜まりが残る 底部: 回転系切り 引き終わり付近に灰軸の付着がみられる	内外 灰白色	陶器B群 良	底部残存	OYAW3 SK214

表52 第338号地下式坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕	口径: — 底径: — 器高: (4.0)	内 ヘラナデ 外 平行叩き	内 黄灰色 外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 B区SK338
2 土師質土器 小皿	口径: [10.0] 底径: — 器高: 3.0	ロクロ仕上げ 内面 磨滅顕著	内 にぶい黄橙色 外 浅黄橙色	土師質土器A群 良	小片	OYAW3 B区SK338
3 土師質土器 小皿	口径: — 底径: — 器高: (0.7)	ロクロ仕上げ 底部 回転系切り	内外 にぶい黄橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW3 B区SK338

表53 第374号地下式坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
4 須恵器 甕	口径: — 底径: — 器高: (4.0)	内 木口状工具によるヘラナデー同心円状あて具痕 外 平行叩き 自然軸かかる	内 黄灰色 外 にぶい黄橙色	須恵器・土師器 C・E群・1・2・6・7 良	小片	OYAW3 SD374
5 須恵器か 高台付坏	口径: — 底径: — 器高: (1.8)	ロクロ整形 底部 回転ヘラナデ 脚端部欠損	内外 にぶい黄橙色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SK374
6 土師器 高坏	口径: — 底径: — 器高: (3.2)	坏・脚接合部 内 ヘラケズリ(ヨコ) 外 ヘラケズリ(タテ 接合部一脚部)	内外 にぶい黄橙色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	坏・脚 接合部片	OYAW3 SK374
7 土製品あるいは 手捏ね土器か	口径: — 底径: — 器高: (3.2)	板状の粘土を折り曲げて作成か 外面にヒビ状の痕跡が残る 口縁端部は不整で内面指頭痕顕著 外面平滑 内外とも指ナデか	内 明黄褐色 外 橙色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	1/4以下	OYAW3 SK374
8 土師質土器 小皿	口径: — 底径: — 器高: (3.8)	ロクロ成形	内外 橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW3 SD374
9 土師質土器 小皿	口径: — 底径: 4.0 器高: (0.7)	ロクロ成形 底部 回転系切り未調整 磨滅	内外 橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW3 SD374
10 土師器か 脚か	高さ: 4.9 幅: 5.5 厚さ: 6.0	上面: 傾斜し平滑 裾端部: 磨滅 内 ヘラケズリ(ヨコ)か 外 ヘラケズリ(タテ)か 内外面とも磨滅顕著	内 明赤褐色 外 橙色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	ほぼ完存	OYAW3 SK-374
11 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (7.7)	磨滅 ヘラナデか スス付着(薄い)	内 明褐色 外 橙色	瓦質土器D群 良	1/8	OYAW3 SD374
12 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (5.2)	内 口縁部: ヨコナデ 内耳接合部: 指頭痕 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 内外面 スス付着	内外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	1/8	OYAW3 SD374
13 内耳土器	口径: — 底径: — 器高: (6.0)	内 ヨコナデ 所々指頭残る 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ 内外面 スス付着	内外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	1/8	OYAW3 SD374

第3章 確認された遺構と遺物

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
14 内耳	口径:— 底径:— 器高:(5.0)	内 口縁部:ヨコナデか 内耳接合部:指頭痕 外 口縁一体中部部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ 補修孔1個残存 孔左側に対になると思われる孔を結ぶ 紐状の痕跡にスス付着 内外面 スス付着	内 にぶい黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	1/8	OYAW3 SD374
15 内耳	口径:— 底径:— 器高:(5.6)	内 ヨコナデ 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデか 外面体部:劣化 補修孔右側に対になる孔を結ぶ紐状の痕跡にスス付着	内 灰褐色 外 黒色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SK374
16 内耳	口径:— 底径:— 器高:(5.2)	内 ヨコナデ 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ スス付着	内 にぶい褐色 外 灰褐色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW3 SK374
17 内耳	口径:[35.6] 底径:[31.4] 器高:4.5	内 ヨコナデか 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデか 劣化 欠損部に位置するか 補修孔わずかに残る	内 にぶい黄褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	1/3	OYAW3 SK374
18 内耳	口径:[30.8] 底径:[28.8] 器高:(4.9)	内 ヨコナデ 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ	内 にぶい黄色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	1/2	OYAW3 SD374
19 内耳	口径:[34.2] 底径:[32.4] 器高:4.9	内 ヨコナデ 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ 磨滅	内 灰黄褐色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	1/3	OYAW3 SD364 SD374
20 内耳	口径:— 底径:— 器高:(0.8)	底部中央付近とみられる 16弁の花弁文を刻印	内外 灰黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SD374
21 瓦質土器 鉢類	口径:— 底径:— 器高:(8.0)	外面 波状の文様間に草花文を配するか	内 橙色 外 オリーブ色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 SK374
22 瓦質土器 鉢類	口径:— 底径:— 器高:(5.2)	ヨコナデか 小片2片 同一個体か	内外 明赤褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 SD374
23 陶器 甕	口径:— 底径:— 器高:(6.7)	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデか	内 灰褐色 外 にぶい赤褐色	陶器B群 良	小片	OYAW3 SD374
24 瓦質土器 鉢類	口径:17.0 底径:13.0 器高:8.1	口縁部:ヨコナデ 体部:ナデか 口縁部内面:スス付着 外面口縁端部下に条線横巡する	内外 灰黄褐色	瓦質土器B群 良	1/2	OYAW3 SK374 SD374
25 瓦質土器 鉢類	口径:— 底径:— 器高:(20.2)	口縁部:体中にヨコ方向の無紋帯 内部は研磨 黒色で光沢を持つ 無紋帯間には数段に渡り タテ方向の短い条線をヨコ方向に施す 底周部はドロップ状の条線となる 工具の止め痕か 内面・破断面 汚れ	内 黄褐色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器B群 良	1/8以下	OYAW3 SK-374
26 粘土塊	長:7.6 厚:2.8 幅:8.5 重:111.31	端部の残存する破片 残存する端部は直線的 所々赤色変化 スサ状の痕	内外 にぶい褐色	やや緻密 良	ほぼ完存か	OYAW3
27 砥石	長:3.3 厚:1.8 幅:3.7 重:31.59	中央部のみ残存か 砥面は裏面を除く3面か 裏面は剥落か 表面やや山形 左側面 平行する条線状の痕跡	内外 にぶい黄褐色	流紋岩	小片	OYAW3 SD374
28 砥石	長:6.9 厚:1.8 幅:2.8 重:53.26	両端部欠損 砥面は表面か 裏面・両側面:平行する条線状の痕跡 表面やや凹状	内外 にぶい黄褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD374
29 砥石	長:7.3 厚:1.7 幅:3.5 重:53.05	下端欠損 上端面はわずかな残存面 砥面は表面側面 主砥面は表・右側面 表面:やや凹状 裏面:大きくて波状	内外 灰黄褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SK374
30 砥石	長:10.6 厚:4.5 幅:3.9 重:337.23	両端部欠損 下端にむけて傾斜する 砥面は表・裏・右側面か 裏面 鋭利な線状の痕跡 金属製の痕跡か	内外 にぶい黄褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD374
31 砥石	長:15.7 厚:2.6 幅:3.0 重:148.10	下端欠損 砥面は表・左側面か 裏面・右側面 平行する条線状の痕跡 半月状で端部細い 使い減りか	内外 灰黄色	流紋岩	ほぼ完存か	OYAW3 SD374
32 不明石製品	長:6.0 厚:2.0 幅:4.4 重:37.71	環状 全面磨滅 図 上→右上部:溝状 下部:やや溝状 表・裏面 黒色、汚れあるいはススカ	内外 オリーブ黒色	安山岩	ほぼ完存か	OYAW3 SK374
33 小礫	長:3.3 厚:1.5 幅:2.7 重:16.80	下面平坦 全面磨滅	内外 暗灰黄色	砂岩	ほぼ完存か	OYAW3 SK374
34 こね鉢か	口径:(10.4) 底径:10.0 器高:7.8 重さ:517.94	外面内湾 上・中・下3段で成形か 上・下段 わずかに切創痕	内外 暗灰黄色	スコリア質安山岩	1/2	OYAW3 SD274
35 陶器 播鉢	口径:— 底径:13.0 器高:(8.5)	同一個体とみられる4片を図上復元 無軸とみられるが、内外面の一部に自然軸付着 粘土組織み上げ後、ロクロ成形か 内 摺目を密に施す 8本以上一組で部分的に重複する 体中に自然軸 底部:同心円状の摺目の内部に平行する摺目 外 体中一下位に自然軸 粘土組織み上げ痕明瞭	内 赤褐色 外 明赤褐色	陶器D群 良	1/8	OYAW3 SD374
36 陶器 盃	口径:6.0 底径:3.0 器高:3.5	灰軸 似た色調の灰軸分5個体以上	内外 灰白色	陶器B群 良	ほぼ完存	OYAW3 SK374
37 陶器 盃	口径:6.2 底径:3.2 器高:3.9	灰軸 軸調の似た体部・口縁部:3、底部:1の4個体分	内外 オリーブ黄色	陶器B群 良	ほぼ完存	OYAW3 SD374
38 瓦質土器 環	口径:10.6 底径:5.0 器高:2.0	ロクロ成形 底部:回転系切り 内外 施軸薄い	内 褐色 外 にぶい赤褐色	陶器C群 良	3/4	OYAW3 SD374
39 陶器 片口	口径:17.6 底径:8.0 器高:8.4	ロクロ成形 厚く灰軸を施す 口縁部 内側に突出し、上端部に沈線巡る 底部 外面:無軸 回転ヘラナデ 内面:見込み 目跡か	内外 黄褐色	陶器D群 良	ほぼ完存	OYAW3 SD374

個体か)、陶器皿類(釉薬ガラス質化) 1片、陶器碗類(明緑色釉で文様) 1片、陶器注口(灰釉) 1片、陶器仏しょう具(蠟燭立てか) 1片、壺身部1片、磁器 35片、土管 17片、レンガ1片、タイル7片、スレート1片、コンクリート 5片が出土する。磁器は、染付プリント碗類9片・皿類3片、陰刻の鉢類1片、香炉5片、仏しょう具 10片(うち3片は線香立てか、1片ミニチュア碗か)、器種不明白色片7片、釘1片である。

3. 土坑

(1) 調査の概要

3次調査区からは 186 基の土坑が確認される。A 区 53 基、B 区 41 基、C 区 84 基、D 区 8 基である。

各区において留意される点は以下のとおりである。

A 区では SD-19-202 間に、主軸の直交する方形状土坑の重複・近接が確認される。

SK-214 は南側のテラス状の部分が竪坑とは判断しづらいが、地下式坑に記載する。

SK-239 は不定形の掘り込みであり、詳細は不明である。部分的に表土の堆積が確認され、遺構と攪乱が入り組んだ状態にある可能性があるか。

SK-250・251・252 は同様の主軸をもって掘り込まれる。掘り直しとも判断されるが、同じ場所への掘り込みが重なったものと判断し、遺構番号を付した。

B 区は、調査区全般にわたり、上面を攪乱土が覆う。このため、遺構上層を失う遺構が多く、掘り込み自体が曖昧で全容を把握出来ない遺構もある。また、遺構確認面の高さは区々である。

遺構分布は SD-378・393、SD-364 に重複・近接する配置にある。

SK-343 はピット 2 基の重複の可能性も残る。

SK-365 は、底面東側、北壁に沿って 6 基以上小ピットが穿たれる。2 次調査区 SK-104 同様か。

SK-375 は、SD-364・376 との重複、攪乱により形状等詳細は不明である。残存する東・北壁に沿って周溝が確認される。SD-364・376・攪乱を挟んだ遺構の確認はなく、規模は東西 3.0 m・南北 0.2 m の範囲内と推察される。小型の住居跡、方形竪穴遺構等の可能性が考えられるが、現地調査の所見に従い本節に記す。

SK-382・SK-865 は遺構間約 1.6 m に位置する。重複関係にはないが、主軸を同じくし、形状・深さ・大きさを等しくする。方形状土坑の共通性が目立つが、長円形状の土坑にも同様の特徴がみられる。

C 区は B 区と分断部なく隣接する。東西に長い形状の SK-436-SK-410・411(主軸 N-46・47°-W)、南北に長い形状の SK-488・490(N-17・18°-E)、同様の主軸で重複する SK-446・484・SK-841 SK-447・448・SK-843 などが確認される。

調査区西半部の K-11 グリッドは遺構密集区であり、直交方向に重複する方形状の土坑とピットの分布が重なる。P-441・442・830・SK-432- p 1・SK-433- p 1・SK-434- p 1・SK-439 p 1・SK-440- p 1・SK-444- p 1 など、遺構内に位置するピットは、遺構に帰属するものでは無く、ピット群に付随する可能性も考えられる。また、K-11 グリッド東側の SK-432 付近は、主軸の直交する方形状の土坑 SK-438・444 と、浅い掘り込みである P-443・SK-437・439・440、ピット状の P-441・442 は前後して掘り込まれる。近い時期の遺構とみられるか。

また、J-11 グリッド SK-400・403・404・416・417 は形状・大きさの似た土坑が集中する。深さは 0.1 m 前後と浅めの土坑が多いが、SK-400 は深さ約 0.5 m、SK-417 の底面はピット状に掘り込まれ、深さ約 0.26 m である。SK-418 は深さ約 0.05 m と浅いが円形状、同様の性格の土坑・ピットが繰り返し掘り込まれたか。

SK-406 は方形竪穴の可能性も残るが、重複や区外のため不詳である。SK-412・SK-844 東側にテラス

第3章 確認された遺構と遺物

状の掘り込みやSK-409 東・西側にテラス状の掘り込みについては、別遺構、或いは、遺構形態のひとつであるか、明瞭にし得なかった。

SK-467・468・470 468の底面ピット状に深くなる。風倒木等の可能性が高いか。

SK-485については、掘削底面東西4.1 m前後・南北3.1 m前後の袋状の土坑 深さ約1.9 m・レベル29.8 m付近で掘削を中止したが、遺構東側の袋状の起点は西側よりレベルが高く、空間が広い。遺構東側に覆土の堆積はみられず、袋状の部分は地下空間だったものと推察される。廃絶後、閉塞状態で覆土の堆積が遅れたか。遺構確認面と旧地表との差異は判然としないが、開口部のテラス状の部分は閉塞部か。纏まった遺物の出土はなく、他遺構同様、埋没の際の混入と判断されるが、貯蔵穴として利用が考慮できようか。また、地下式坑の可能性も考慮したが、本節に記載する。出土遺物は、磨石から工業製品の陶磁器までが出土する。また、羽口とみられる筒状の土製品の出土も確認される。これらの中で、第93図-1・2・不掲載4片の内耳土器、不掲載陶器播鉢3片に同一個体の可能性が考えられる。一遺構内における同一個体とみられる破片の出土は、2次・3次調査区内の遺構としては珍しい。

SK-839は焼土の堆積が確認される。重複するSK-845の硬化面との関連は考えられようか。SK-845の硬化面については、現地調査の過程から、調査区内から出土する製鉄関連遺物（羽口・鉄滓等）を鑑み、鍛冶施設の可能性が指摘される。

D区の土坑は散見される程度の分布であるが、主軸概ねN-40°-W前後の方向に掘り込まれる。

SK-315・317・322は何れも長形状であり、主軸を同じに概ね南北に位置する。遺構幅が0.5 m前後と他の土坑に比べ狭い。

出土遺物は総じて少ないが、縄文土器～現代の工業製品（陶磁器・スレート・瓦・タイル・土管・釘等）までが出土する。多くは近世後半～近代以降の土器類・陶磁器類であるが、遺構への帰属は判然としない。

(2) 土坑

第204号土坑 (SK-204) (第72図 図版九)

位置 A区P-20グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-762より新しい。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長形状である。底面の規模は、東西(0.9) m・南北約0.65 mである。主軸はN-75°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込み、凹凸が観察される。確認面からの深さ0.18 m前後、底面レベル29.36 m前後である。 **覆土** SP-A: 2層を確認した。現地調査の所見では埋め戻し土の可能性が指摘される。 **付属施設** p 4・5が確認される。帰属等詳細は不明である。p 4は径約0.17 m、p 5は径約0.28 mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** SK-204・205・SK-763 重複部から1片が出土する。SK-204に記載する。礫1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。礫は破碎礫小片1片が出土する。残存面は磨滅し、赤色変化する。

第205号土坑 (SK-205) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-762→SK-205→SK-246の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 方形状である。底面の規模は、東西約1.32 m・南北約1.28 mである。主軸はN-1°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.2 m前後、底面レベル29.33 m前後である。 **覆土** SP-A: 1層を確認した。現地調査の所見では埋め戻し土の可能性が指摘される。 **付属施設** p 6が確認される。帰属等詳細は不明である。径約0.36 m、SK-205底面より0.18 m掘り込まれるか。覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** SK-204・205・SK-763 重複部から1片が出土する。SK-204に

記載する。礫1片である。

第208号土坑 (SK-208) (第74図 図版九)

位置 A区Q-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-212と重複するが新旧関係等不明である。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。底面の規模は、東西約1.74m・南北約0.75mである。主軸はN-84°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.6m、底面レベル約28.95mである。**覆土** 4層を確認した。3層はロームブロックを含む黒色土層である。4層はロームブロック主体層。地山崩落土或いは埋め戻し土か。**付属施設** p1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は径約0.23m、p2は東西約0.3m・南北約0.38mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第211号土坑 (SK-211) (第72図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246・268と重複するが新旧関係等不明である。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。底部北辺は不整。底面の規模は、東西約1.7m・南北0.8～0.97mである。主軸はN-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.42m、底面レベル約29.28mである。**覆土** 4層を確認した。1層は攪乱、3層は地山か。現地調査の所見では埋土の可能性が指摘される。**付属施設** p1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は径約0.14m、p2は径約0.18mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から磁器1片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。瀬戸・美濃系の碗類か。西洋呉須の染付を施す。近代以降か。

第212号土坑 (SK-212) (第74図)

位置 A区Q-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-208と重複するが新旧関係等不明である。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形である。底面の規模は、東西約1.8m・南北約0.69mである。主軸はN-62°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ0.52m前後、底面レベル29.06m前後である。**覆土** 3層を確認した。3層はロームブロック主体層。地山崩落土或いは埋め戻し土か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第215号土坑 (SK-215) (第73図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-202より新しい。**形状・規模・主軸** SK-202との重複のより詳細は不明である。概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.53)m・南北(0.9)mである。主軸はN-16°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.63m、底面レベル28.95mである。SD-202底面とほぼ同レベルである。**覆土** 6層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第216号土坑 (SK-216) (第74図 図版九)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約0.68～0.84m・南北約1.84mである。主軸はN-4°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.2m、底面レベル約29.63m、東壁中段部までの深さ約0.12m・底面レベル約29.74mである。**覆土** 3層を確認した。不整な層序であり、1・2層は攪乱層、3層が本遺構覆土か。**付属施設** 東・西壁際の対になる位置にp1・2が確認される。p1は径約0.17m、深さ約0.12m、底面レベル約29.43mである。p2は径約0.16m、深さ約0.1m、底面レベル約29.65mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** P-218と混在するが、土師

質土器小皿口縁部微細片1片が出土する。ロクロ仕上げである。

第217号土坑 (SK-217) (第64図)

位置 A区R-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-214→SK-217か。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は東西[2.0]m・南北0.75m前後、深さ約0.25m、レベル29.3m、主軸N-67°-Wである。**覆土** 4層を確認した。1層は攪乱層か。現地調査の所見では人為埋め戻しの可能性が指摘される。**付属施設** 底面にp1～5が確認されるが、詳細は不明である。各々の径は、p1：約0.26m・p2：東西約0.3m・南北約0.18m、p3：約0.16m・p4：約0.2m・p5：東西約0.24m・南北約0.16m、底面レベルは何れも確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第219号土坑 (SK-219) (第73図 図版九)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形形状である。底面の規模は東西約1.43m・南北約0.54m、主軸N-84°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ約0.38m、レベル29.23mである。**覆土** 4層を確認した。1・2層はロームブロック、2・3上層は黒褐色土ブロックの堆積が目立つ。**付属施設** 北東隅部の底面にp1が確認される。SK-219底面の規模は、東西約0.22m・南北約0.16mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第220号土坑 (SK-220) (第74・90図 表54)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** 北半部に本遺構より古い掘り込みが確認されるが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約0.7m・南北約2.65mである。主軸はN-15°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.61m、底面レベル約29.29mである。**覆土** 図示し得なかったが、3層を確認した。1層は攪乱層か。2層は暗黄褐色土でローム粒子・ロームブロック、炭化物粒子を含む。3層はロームブロックを主体とする黄褐色土である。

遺物出土状況 覆土中から1片が出土する。石製品とみられる1片である。

出土遺物 1は石製品か。隅部一箇所が残る。図上上面は平滑で磨滅する。側面も磨滅がみられる。下面は破砕面であるが、成形痕か。台石等に利用か。

第221号土坑 (SK-221) (第75・90図 表55 図版九)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北東側は調査区外にある。**重複関係** SK-221→SK-222、SK-224→SK-225→SK-222→SK-223、SK-226→SK-225、SK-226→P-784、SK-227→P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.62)m・南北(1.8)mである。主軸はN-31°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。確認面からの深さ0.15～0.28m、底面レベル約29.37～29.27mである。**覆土** 2層を確認した。**付属施設** 底面にp1が確認される。帰属等は不明である。径約0.18mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。球形の小礫1点である。

出土遺物 1は球形の小礫である。時期等詳細は不明である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土師質土器小皿20片、内耳土器6片、瓦質土器播鉢3片である。土師質土器小皿はロクロ仕上げの微細片であり、口縁部5片、体部8片、底部7片である。底部は回転糸切り未調整である。内耳土器は胎土Cの体部4片、胎土Dの口縁部2片である。播鉢は9本以上一組の摺り目を施す体部1片・底部1片である。異個体とみられる。

第222号土坑 (SK-222) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北側は調査区外にある。**重複関係** SK-221 → SK-222、SK-224 → SK-225 → SK-222 → SK-223、SK-226 → SK-225、SK-226 → P-784、SK-227 → P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約0.73m・南北(2.54)mである。主軸はほぼ磁北に直交する。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.78m、底面レベル約28.83mである。**覆土** 7層を確認した。2層はロームブロック流れ込むように堆積する。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第223号土坑 (SK-223) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221 → SK-222、SK-224 → SK-225 → SK-222 → SK-223、SK-226 → SK-225、SK-226 → P-784、SK-227 → P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約0.88m・南北約1.85mである。主軸はN-82°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.6m、底面レベル約28.97mである。**覆土** 8層を確認した。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第224号土坑 (SK-224) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221 → SK-222、SK-224 → SK-225 → SK-222 → SK-223、SK-226 → SK-225、SK-226 → P-784、SK-227 → P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.71)m・南北(1.04)mである。主軸はN-18°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。確認面からの深さ約0.2m、底面レベル約29.4mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第225号土坑 (SK-225) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221 → SK-222、SK-224 → SK-225 → SK-222 → SK-223、SK-226 → SK-225、SK-226 → P-784、SK-227 → P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長方形か。底面の規模は、東西(1.37)m・南北(0.8～0.9)mである。主軸はN-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、小さな凹凸がみられる。確認面からの深さ約0.45m、底面レベル29.15m前後である。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第226号土坑 (SK-226) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221 → SK-222、SK-224 → SK-225 → SK-222 → SK-223、SK-226 → SK-225、SK-226 → P-784、SK-227 → P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主軸** 形状は重複により不明である。底面の規模は、東西(1.1)m・南北(0.9)mである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ(0.18)m、底面レベル約29.38mである。**覆土** 1層を確認した。**付属施設** 底面にp1が確認される。帰属等は不詳である。径0.32m前後である。**遺物出土状況** SK-221～227周辺から30点を確認した。SK-221に記載する。

第227号土坑 (SK-227) (第75図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-221 → SK-222、SK-224 → SK-225 → SK-222 → SK-223、SK-226 → SK-225、SK-226 → P-784、SK-227 → P-784の順に掘りこまれる。**形状・規模・主**

軸 概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約 0.57 m・南北約 1.49 mである。主軸は N-4°-W である。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約 0.35 m、底面レベル約 29.27 mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** SK-221～227 周辺から 30 点を確認した。SK-221 に記載する。

第 228 号土坑 (SK-228) (第 73 図)

位置 A 区 P-19 グリッドに位置する。**重複関係** SD-202 と重複するが新旧関係等詳細は不明である。**形状・規模・主軸** やや南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約 1.0 m・南北約 1.1 mである。主軸は N-15°-E である。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約 0.42 m、底面レベル約 29.18 mである。**覆土** 確認し得なかった。**付属施設** 底面に p 1 が確認される。SK-228 底面の径約 0.3 m・深さ 0.15 m、底面レベル 25.03 mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-228 重複部から礫 1 片、鉄滓 1 片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。礫は破碎礫小片 1 片である。赤色変化が観察される。鉄滓は表 91 の記載する。

第 236 号土坑 (SK-236) (第 76 図)

位置 A 区 Q-20 グリッドに位置する。**重複関係** SK-239 内に位置する。SK-239 より新しい。**形状・規模・主軸** 概ね東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約 1.05 m・南北約 0.55 mである。主軸は N-74°-W である。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約 0.2 m前後、底面レベル 29.4 m前後である。**覆土** SP-A：1 層が確認される。**付属施設** 東西壁際の対になる位置に P-232・233 が確認される。P-232 は SP-A：1 層が堆積し、本遺構に帰属するか、同時開口であったと判断される。P-233 の詳細については判然としない。規模等は表 87 に記載する。**遺物出土状況** 覆土中から 6 片が出土する。また、SK-239 周辺から 12 片が出土する。SK-239 に記載する。

出土遺物 小片のため、図示し得なかった。須恵器甕体部 1 片は焼成不良。平行叩きを施す。土師質土器小皿体部 1 片はロクロ仕上げ。内耳土器体部 1 片は胎土 C。土師質土器体部 3 片は微細片である。

第 237 号土坑 (SK-237) (第 73 図)

位置 A 区 P-20 グリッドに位置する。**重複関係** SK-202 より新しい。**形状・規模・主軸** SK-202 との重複のより詳細は不明である。概ね南北に長い長方形か。底面の規模は、東西 (0.52) m・南北 (1.38) mである。主軸は N-16°-E である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.68 m、底面レベル 28.93 mである。SD-202 底面とほぼ同レベルである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 239 号土坑 (SK-239) (第 76・90 図 表 56・92 図版一五)

位置 A 区 Q-20 グリッドに位置する。**重複関係** SK-236 より古い。また、SK-239 → P-299 → SE-209 の順に掘り込まれる。周辺に位置する土坑・ピットとの詳細は不明である。P-232 は本遺構に帰属するか。

形状・規模・主軸 東西に長い不定形である。SP-A 付近の壁面は表土 a の堆積によって判然としない。底面の規模は、東西 (6.0) m・南北 1.5～3.5 mである。主軸は N-10°-E ほどか。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が著しい。確認面からの深さ 0.18～0.3 m、底面レベル 29.42～29.3 mである。**覆土** SP-A・B：11 層が確認される。**付属施設** P-232 は覆土 11 層が堆積する。本遺構に伴うか、或いは、同時期の開口を判断される。南北に位置する 2 穴からなる。南側は径 0.15 m前後、深さ・覆土等は不明である。北側は、東西約 0.3 m・南北 (0.15) m、確認面からの深さ約 0.33 m、レベル 29.26 mである。**遺物出土状況**

覆土中から22片が出土する。また、SK-239周辺から12片が出土する。土器類6片、石製品・礫4片、陶器1片、工業化製品釘1片である。

出土遺物 1・2は覆土中から出土する。1は土師質土器小皿。厚手で内湾する。2は土錘である。

この他、20片が出土する。土師質土器口縁部8片、体部5片、底部3片はロクロ仕上げ。内耳土器は器高8.0cm以上、胎土Cである。土師質土器3片は微細片である。

SK-239周辺からは以下が出土する。

土器類は土師質土器小皿3片、瓦質土器播鉢1片、内耳土器2片である。土師質土器小皿はロクロ仕上げの口縁部2片、体部1片。播鉢は8本以上1組の摺り目を粗く施す体部片。内耳土器は内耳接合部1片、体部1片、胎土Cである。

石製品・礫は、砥石片1片、凝灰岩片2片、小礫1点である。砥石片は砥面1面が残る小片である。凝灰岩片は扁平な切石状であり、石材片か。小礫は三角形の扁平礫であり全面磨滅する。

陶器は、碗・皿類口縁部微細片であり、内外面に灰釉を施す。近世後半以降か。

第240号土坑 (SK-240) (第73図)

位置 A区P-19グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西2.0m前後・南北0.8m前後である。主軸はN-77°-Wほどか。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が著しい。確認面からの深さ0.55～0.7m、底面レベル29.15～28.99mである。**覆土** 4層が確認される。2・3層はロームブロックの堆積が目立つ。**付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等、詳細は不明である。SK-240底面における各々の規模は、p1東西約0.3m・南北約0.6m、p2径約0.1mである。覆土・レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第241号土坑 (SK-241) (第74図 図版一〇)

位置 A区Q-19グリッドに位置する。**重複関係** SK-259より古い。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約0.95m・南北約0.6m、主軸はN-76°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.42m、底面レベル29.17mである。**覆土** 4層が確認される。層序はやや不整である。黒色土が堆積する2層に以外、ロームブロック主体層である。**遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。内耳土器2片、小礫1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。内耳土器は体部片2片(胎土D)である。小礫は、扁平な自然礫小片で、磨滅する。

第242号土坑 (SK-242) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い隅丸方形形状である。底面の規模は、東西約1.3m・南北約0.61m、主軸はN-18°-Eである。**底面** ローム層を掘り込み、やや播鉢状である。確認面からの深約0.24m、底面レベル29.3mである。**覆土** 2層が確認される。**付属施設** p1が確認される。帰属等詳細は不明である。径約0.16mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-242周辺から、土器類11片・石製品・礫7片が出土する。本遺構に記載する。

出土遺物 何れも小片であり、図示し得なかった。

土器類は、土師質土器小皿4片、内耳土器7片である。土師質土器小皿は何れもロクロ仕上げ。口縁部1片・体部2片・底部1片。底部片は磨滅する。内耳土器は何れも胎土C。口縁部1片・体部6片である。石製品・

礫は7片が出土する。1片はスコリア質安山岩で石皿状の凹孔が1ヶ残るが詳細は不明である。1片は残存する一面の磨滅・赤色片かが顕著に観察される。SK-332 出土第91図-9のような砥石、台石等の可能性があるだろうか。

第244号土坑 (SK-244) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約1.15m・南北0.48m前後、主軸はN-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦とみられる。確認面からの深さ0.5m前後、底面レベル29.05mである。**覆土** 3層が確認される。層序はやや不整である。黒色土が堆積する2層に以外、ロームブロック主体層である。**遺物出土状況** SK-242周辺から、土器類11片・石製品・礫7片が出土する。SK-242に記載する。

第245号土坑 (SK-245) (第72図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。東側はSE-243との重複により判然としない。底面の規模は、東西[2.45]m・南北約0.58m、主軸はN-67°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦とみられる。確認面からの深さ約0.33m、底面レベル29.2mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** SK-242周辺から、土器類11片・石製品・礫7片が出土する。SK-242に記載する。

第246号土坑 (SK-246) (第72図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-246→SK-245→SK-244→SE-243→SK-242の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。底面の規模は、東西0.6m前後、南北の長さはSK-211との重複により判然としないが、[1.2]m前後か。主軸はN-20°Eである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.4m、底面レベル29.16mである。**覆土** 2層が確認される。現地調査の所見では埋土の可能性が指摘される。**付属施設** SK-211重複部にp3が確認される。帰属等詳細は不明ある。東西約0.14m・南北約0.2mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-242周辺から、土器類11片・石製品・礫7片が出土する。SK-242に記載する。

第247号土坑 (SK-247) (第72・78図 表94 図版一〇)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-248→SK-247の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** やや南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約0.62m・南北約0.85m、主軸はN-33°Eである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.2m前後、底面レベル29.39m前後である。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 南西隅部にp1が確認される。帰属等詳細は不明ある。径約0.2mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-247覆土中から1片が出土する。また、SK-247・248覆土中から土器類7片・陶器1片が出土する。SK-247に記載する。

出土遺物 第118図-7はSK-247覆土中から出土する。古瀬戸瓶類か。

SK-247・248覆土中の破片は図示し得なかった。土器類は、ロクロ仕上げの土師質土器小皿5片(口縁部1片・体部4片)、内耳土器或いは瓦質土器播鉢体部1片(胎土C)、瓦質土器播鉢底部1片(5本以上1組が交差)である。陶器は瓶類体部とみられる微細片であり、外面に灰釉(緑色)を施す。近世後半以降か。

第248号土坑 (SK-248) (第72・90図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-248→SK-247の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 不整形である。底面の規模は、東西(1.2)m・南北約0.76m、主軸はN-22°Eである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.22m前後、底面レベル29.4m前後である。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** p1～3が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は径約0.26m、SK-248底面からの深さ約0.2m、レベル29.2mである。覆土1層が堆積するが判然としない点が多い。p2は径約0.11mである。p3は2段に掘り込まれる。SK-248底面の東西約0.4m・南北約0.24m、底面の東西約0.1m・南北約0.16m、SK-248底面からの深さ約0.52mである。p2・3の覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-247・248覆土中から土器類7片・陶器1片が出土する。SK-247に記載する。

第249号土坑 (SK-249) (第64・90図 表57)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西約1.25m・南北0.7m前後、主軸はN-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。確認面からの深さ0.1m前後、底面レベル29.5m前後である。**覆土** 1・2層が確認される。1層は攪乱層か。**遺物出土状況** 覆土中から18片が出土する。

出土遺物 1は土師質土器小皿。

この他、土師質土器4片、土師質土器鉢類口縁部1片、内耳土器3片、土師質土器微細片9片が出土する。土師質土器は何れもロクロ仕上げ。口縁部2片・体部1片・底部1片。底部は回転糸切り未調整。内耳土器は胎土Cの口縁部2片、Dの体部1片である。

第250号土坑 (SK-250) (第72・90図 表58)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-764→SK-250→SK-251の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。底面の規模は、東西約0.8m、南北はSK-251との重複により判然としないが(1.3)m、主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.5m前後、底面レベル29.02m前後である。**覆土** 3層が確認される。**付属施設** p1が確認される。径約0.15m、底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-250～252周辺から石製品24片が出土する。SK-250に記載する。

出土遺物 1は砥石片。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は土師質土器小皿16片、内耳土器3片が出土する。土師質土器小皿は何れもロクロ仕上げの微細片。口縁部3片、体部16片。内耳土器は何れも胎土C。体部1片、体～底部2片である。石製品・礫は4片が出土する。3片は破碎した礫小片、1片はやや扁平な円形の小礫である。

第251号土坑 (SK-251) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-764→SK-250→SK-251の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形である。図中、確認面のプランを1点破線、下ばを2点破線で示した。実線は掘り方を示す。確認面の規模は東西[2.0]m・南北1.0m前後、底面の規模は東西[1.3]m、南北0.8m前後、主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。中央部はピット状に凹む。確認面からの深さ0.6m前後、底面レベル29.0m、ピット状の凹みはSK-251底面から0.08mほど下位、レベル29.08mである。**覆土** 3層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から4片が出土する、また、SK-250～252周辺から5片が出土する。SK-250に記載する。

出土遺物 図示し得なかったが、ロクロ仕上げの土師質土器小皿体部1片、内耳土器口縁部1片・体部2片（胎土C）である。

第252号土坑（SK-252）（第72図）

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-764→SK-250→SK-251の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 南北に長い長方形である。底面の規模は東西約0.85m、南北（1.4）m、主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ0.6m前後、底面レベル29.02m、である。

覆土 3層が確認される。**遺物出土状況** SK-250～252周辺から5片が出土する。SK-250に記載する。

第253号土坑（SK-253）（第72図）

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-253→SK-254の順に掘り込まれる。SK-252と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。底面の規模は、東西（0.2）m・南北（0.5）mである。主軸はN-21°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。詳細は不詳である。確認面からの深さ0.33m前後、底面レベル29.3m前後である。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第254号土坑（SK-254）（第72・90図 表59・90）

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-253→SK-254の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長形状か。底面の規模は、東西約1.6m・南北約0.9mである。主軸はN-70°-Wである。

底面 ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.37m前後、底面レベル29.3m前後である。**覆土** 1～5層が確認される。5層はp1覆土である。**付属施設** p1・2が確認される。帰属等、詳細は不明である。p1は径約0.2m、確認面からの深さ約0.46m、レベル29.17mである。5層が堆積する。p2は径約0.21mである。レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から28片が出土する。土器類22片、陶器1片、鉄製品1片、破碎礫小片4片である。

出土遺物 1の土師質土器小皿。他、土器類は土師質土器小皿13片、内耳土器8片が出土する。土師質土器小皿は何れもロクロ仕上げ。口縁部7片・体部5片・底部1片である。底部は回転糸切り未調整。内耳土器は体部片8片（胎土C4片・D4片）。陶器は無釉の甕体部1片である。鉄製品は詳細不明な小片である。表90に記載する。礫は破碎した礫小片4片が出土する。このうち1片は砥石片か。

第255号土坑（SK-255）（第77図 図版一〇）

位置 A区P-21グリッドに位置する。**重複関係** SK-266→SK-255の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** やや東西に長い長形状か。底面の規模は、東西（1.44）m・南北約1.1mである。主軸はN-80°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ1.0m前後、底面レベル28.7m前後である。**覆土** 4層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から3片が出土する。

出土遺物 図示し得なかった。土師質土器小皿口縁部1片。ロクロ仕上げ。内耳土器体部1片（胎土C）、底部1片（胎土D）。

第256号土坑（SK-256）（第77図 図版一〇）

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** やや東西に長い形状か。東辺は円形状、西辺は方形状である。底面の規模は、東西約1.4m・南北約1.35mである。主軸はN-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ0.4m前後、底面レベル29.1m前後である。**覆土** 4層が確認される。1層は表土か。**付属施設** 北西隅部の底面にp1が確認される。径約0.12m、SK-256底面からの深さ約0.1mである。覆土4層が堆積する。**遺物**

出土状況 覆土中から土器類9片、陶磁器2片が出土する。

出土遺物 微細片のため、図示し得なかった。土器類は土師質土器小皿4片、内耳土器5片である。土師質土器小皿は口縁部片。うち1片は灯明皿。内耳土器は体部片(胎土C 3片・D 2片)。陶器1片は内面灰釉・外面灰釉に鉄釉を施す。磁器1片は染付片であり、肥前系か。いずれも近世後半以降か。

第257号土坑 (SK-257) (第76図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い方形か。東辺は円形状、西辺は方形である。底面の規模は、東西約1.62m・南北約0.96mである。主軸はN-79°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約0.47m、底面レベル約29.08mである。**覆土** 3層が確認される。**付属施設** p1～3が確認される。帰属等詳細は不明である。p1・2は重複するが新旧関係は不明である。p3は不整形。各々のSK-257底面における規模は、p1:東西約0.4m・南北約0.2m、p2:東西(0.16)m・南北約0.12m、p3:東西約0.29m・約0.24mである。いずれも底面レベルは不明である。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第258号土坑 (SK-258) (第64図 図版一〇)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西約3.04m・南北約1.2mである。主軸はN-81°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ピット状の凹凸が著しい。確認面からの深さ0.12～0.3m、底面レベル29.65～29.26mである。東端部が最も浅い。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** p1・2等が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は径約0.18m・遺構確認面からの深さ約0.38m、底面レベル29.17m、p2は径0.29m前後・SK-258底面からの深さ約0.35mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から15片が出土する。土器類10片、石製品3片、陶磁器2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

土器類は土師質土器小皿4片、内耳土器5片、瓦質土器播鉢1片である。土師質土器を何れもロクロ仕上げ。口縁部1片・体部2片・底部1片である。底部片は灯明皿。内耳土器は胎土Cの体部4片・底部1片。播鉢は11本以上一組の体部片1片である。石製品は砥石3片が出土する。接合はしないが、同一個体とみられる。陶磁器は陶器1片、磁器1片である。陶器は深緑釉を内外面に施す微細片である。磁器は1.5×2.4cmほどの方形の小皿状である。裏面は無釉で「花〇家」の刻印が施される。弁当等の付属品か。何れも近代以降か。

第259号土坑 (SK-259) (第74・90図 表60 図版一〇)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-241より新しい。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形である。底面の規模は、東西約1.7m・南北約1.0m、主軸はN-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約0.32m、底面レベル29.28mである。**覆土** 3層が確認される。下層ほどロームブロックが主体層となる。**付属施設** p1が確認される。径約0.35mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。石製品1片である。**出土遺物** 1は砥石である。断面形は不整な五角形状であるが、使用の結果の形状か。

第260号土坑 (SK-260) (第78図 図版一〇)

位置 A区Q-21グリッドに位置する。**重複関係** SK-261より新しい。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形である。底面の規模は、東西(1.7)m・南北約0.89m、主軸はN-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.18m前後、底面レベル29.42m前後である。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** p1が確認される。帰属等、詳細は不明である。径約0.22m、SK-

260 底面からの深さ約 0.17 m、底面レベル約 29.59 mである。覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** SK-260～262・SE-263 周辺から 3 片が出土する。SK-260 に記載する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土師質土器小皿 1 片は回転糸切り未調整の底部片。内耳土器体部 1 片は胎土 D。粘土塊 1 片は土器片か。

第 261 号土坑 (SK-261) (第 78 図 図版一〇)

位置 A 区 Q-20 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-260・262 より古い。 **形状・規模・主軸** 形状は重複により不詳である。底面の規模は、東西 (2.08) m・南北 (0.84) mである。 **底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ 0.3 m前後、底面レベル 29.24 m前後である。 **覆土** 1 層が確認される。 **付属施設** p 1・2 が確認される。帰属等、詳細は不明である。p 1 は東西約 0.22 m・南北約 0.25 m、SK-261 底面からの深さ約 0.32 m、底面レベル約 29.24 mである。p 2 は東西約 0.18 m・南北 (0.18) mである。覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** SK-260～262・SE-263 周辺から 3 片が出土する。SK-260 に記載する。

第 262 号土坑 (SK-262) (第 78 図 図版一〇)

位置 A 区 Q-21 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-261・SE-263 より新しい。 **形状・規模・主軸** 不整形である。複数の遺構が重複する可能性も残る。底面の規模は、東西 (1.86) m・南北 [1.1]～[1.4] mである。 **底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ 0.4 m前後、底面レベル 29.24 m前後で、主軸 N-21°-E がある。 **覆土** 1 層が確認される。現地の所見では人為埋没が指摘される。 **遺物出土状況** SK-260～262・SE-263 周辺から 3 片が出土する。SK-260 に記載する。

第 264 号土坑 (SK-264) (第 78 図 図版一〇)

位置 A 区 Q-21 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** やや東西に長い円形状である。底面の規模は、東西約 1.0 m・南北約 0.7 mである。主軸は N-63°-W である。 **底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ 0.3 m前後、底面レベル約 29.1 mである。 **覆土** 3 層を確認した 1 層は攪乱土か。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 266 号土坑 (SK-266) (第 77・90 図 表 61 図版一〇)

位置 A 区 R-21 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-266→SK-255 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** やや東西に長い方形か。底面の規模は、東西 (1.0) m・南北 (1.6) mである。主軸は N-15°-E である。 **底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ 0.4 m前後、底面レベル 29.03 m前後である。 **覆土** 2 層を確認した。自然埋没であるか人為埋没であるか判然としない。 **遺物出土状況** 覆土中から 8 点が出土する。土器類 8 片、石瀬品・礫 4 片である。

出土遺物 1・2 は土師器質土器小皿。2 は見込みは凹状となる。3 は石臼。側面は残存しないが上白か。孔が貫通するが用途不明である。図上下面に観察される顕著な磨滅面を磨り面とした。貫通しない浅い孔が残るが詳細は不明である。予備穴等であれば、石臼側面に近い破片となるか。

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器 6 片、石製品・礫 3 片である。内耳土器は胎土 C 体部 1 片、胎土 D 口縁部 2 片・体部 2 片・底部 1 片である。石瀬品・礫のうち 1 片は磨石状の円形礫片であるが、詳細は不明である。2 片は自然礫片か。

第 268 号土坑 (SK-268) (第 72 図)

位置 A 区 Q-20 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-211・246・252 と重複する遺物が詳細は不明である。 **形状・規模・主軸** やや東西に長い方形か。底面の規模は、東西 (1.2) m・南北約 0.55 mである。

主軸はN-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。SK-211 底面より0.12 m程上位か。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から4片が出土する。土器類2片、陶器1片、礫1片である。**出土遺物** 小片のため、図示し得なかった。土器類はロクロ仕上げの土師質土器小皿体部1片、内土器体部1片(胎土D)である。陶器は碗類口縁部とみられる微細片である。内外面に灰釉を施す。礫は破碎した礫小片1片である。

第270号土坑 (SK-270) (第74図)

位置 A区R-21グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形か。底面の規模は、東西(0.5)m・南北約1.08mである。主軸はN-31°-Eである。

底面 ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.2m、底面レベル約29.3mである。

覆土 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第271号土坑 (SK-271) (第77図)

位置 A区R-20グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 重複により判然としない。方位に添った方形か。開口部の規模は、西辺(1.0)m・北辺(1.1)mである。主軸はN-44°-Wである。

底面 ローム層を掘り込み、ほぼ平坦である。確認面からの深さ約0.4m、底面レベル約29.2mである。**覆土** 2層を確認した。現地調査の所見からは人為埋没とみられる。**付属施設** p1が確認される。東西約0.1m・南北約0.32mである。底面レベル・深さ・覆土は確認し得なかった。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第272号土坑 (SK-272) (第78図)

位置 D区F-7グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はないが、攪乱により遺構上半を失う。

形状・規模・主軸 東西に長い形状と判断されるが、重複により判然としない。底面の規模は、東西(1.2)m・南北0.65m前後である。主軸はN-49°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が確認される。ピット状の凹みも観察される。確認面からの深さ0.55m前後、底面レベル30.74m前後、ピット状の凹部の深さは遺構確認面から約0.66m、底面レベル30.52mである。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第273号土坑 (SK-273) (第78図)

位置 D区F-6・7グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。北側は攪乱により不詳な点が多い。底面の規模は、東西約0.66m・南北(1.76)mである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。確認面からの深さ0.37m前後、底面レベル30.9m前後である。**覆土** 5層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第274号土坑 (SK-274) (第79図)

位置 D区G-8グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.5mである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸・傾斜が認められる。確認面からの深さ0.08～0.22m、底面レベル31.03～30.86mである。**覆土** 2層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第275号土坑 (SK-275) (第79図)

位置 D区G-8グリッドに位置する。**重複関係** SK-275→P-791の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い不整形である。底面の規模は、東西[0.64]m・南北0.3mである。主軸はN-42°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。重複等により判然としないが凹凸が認められるか。確認面からの深さ約0.22

第3章 確認された遺構と遺物

m、底面レベル約 30.82 mである。**覆土** 1層を確認した。**付属施設** 底面中央部に p 1 が確認される。SK-275 底面の東西約 0.25 m・南北約 0.3 m・深さ約 0.14 m、底面レベル 30.65 mである。覆土 1層が堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から 1片が出土する。内耳土 1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。内耳土器は体部片で胎土 C である。

第 314 号土坑 (SK-314) (第 102 図 図版一〇)

位置 D区 I-10 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸方形か。底面の規模は、東西約 1.7 m・南北 0.5 m前後mである。主軸は N-46° -W である。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸が認められる。部分的にピット状の凹凸が観察される。確認面からの深さ 0.43 m前後、底面レベル 30.62 m前後である。**覆土** 4層を確認した。1・2層 - 3層の分層線、2層が 4層中唯一の暗黄褐色であることから、1・2層が掘り直しや埋没後の掘り込み等である可能性も考慮し得る。

遺物出土状況 覆土中から 1片が出土する。土器類 1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類は内耳土器体部片 1片が出土する。胎土 C である。

第 315 号土坑 (SK-315) (第 79 図)

位置 D区 G- 6 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形かである。底面の規模は、東西約 0.45 m・南北約 1.05 mである。主軸は N-38° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦であるが、SP-A 付近に凹凸が認められる。確認面からの深さ 0.3 m前後、底面レベル 30.7 m前後である。**覆土** 3層を確認した。1・2層はピット状に落ち込む堆積状況である。

遺物出土状況 覆土中から 5片が出土する。土器類 1片、土製品 1片、陶器 2片、工業化製品釘 1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類の 1片は被熱した土器小片であり、詳細は不明である。土製品 1片は SK-485 同様の筒状土製品小片である。羽口か。陶器は、内外面に灰釉を施す鉢類 1片・碗類微細片 1片である。近世後半以降か。

第 317 号土坑 (SK-317) (第 79 図)

位置 D区 G- 6 グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南側を攪乱により失っており、不詳な点が多いが、南北に長い長方形かとみられる。底面の規模は、東西約 0.5 m前後・南北約 3.0 mである。主軸は N-40° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦である。確認面からの深さ (0.3) m、底面レベル 30.77 mである。**覆土** 3層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から 8片が出土する。土器類 6片、礫 1片、陶磁器 1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

土器類は、土師質土器体部 1片、須恵質土器甕体部 1片、内耳土器体部 2片 (対し D)、瓦質土器播鉢 1片、現代の瓦 1片である。礫は軽石凝灰岩小片で、残存面に僅かにススが付着する。陶器は陶器甕体部 1片である。

第 322 号土坑 (SK-322) (第 79 図 図版一〇)

位置 D区 G- 6・7 グリッドに位置する。**重複関係** SK-322 → SE-321 の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形かである。底面の規模は、東西約 0.25 m・南北約 0.42 mである。主軸は N-40° -W である。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ約 0.25 m、底面レベル約 30.78 mである。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 324 号土坑 (SK-324) (第 79 図)

位置 B区 M・N-15 グリッドに位置する。**重複関係** SK-327 とは不明である。**形状・規模・主軸** 東・南側の攪乱により形状は不明であるが、方形か。底面の規模は、東西 (0.6) m以上・南北 (1.17) m以上、

主軸 N-19° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.13 m、レベル 30.32 m である。 **覆土** 1層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第 325 号土坑 (SK-325) (第 79 図 図版一一)

位置 B 区 M-15 グリッドに位置する。調査区北東端部にあり南西隅部のみ確認される。 **重複関係** SK-326 → SK-325 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 形状は不明であるが方形状か。底面の規模は、東西 (1.0) m・南北 (0.83) m、主軸 N-72° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.12 m、レベル 30.50 m である。 **覆土** 1層が確認される。ロームブロックの堆積が目立つ。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第 326 号土坑 (SK-325) (第 79 図 図版一一)

位置 B 区 M-15 グリッドに位置する。調査区北東端部にあり南西隅部のみ確認される。 **重複関係** SK-326 → SK-325 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 南北の長い長方形か。底面の規模は、東西 0.7 m 前後・南北 (1.0) m、主軸 N-51° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.05 m、レベル 30.64 m である。 **覆土** 1層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第 327 号土坑 (SK-327) (第 79 図)

位置 B 区 M・N-15 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-324 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 南側の攪乱により形状は不明であるが南北に長い形状か。底面の規模は、東西 (0.95) m 以上・南北 (1.2) m 以上、主軸 N-20° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.16 m、レベル 30.232 m である。 **覆土** 1層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第 328 号土坑 (SK-328) (第 67 図)

位置 B 区 L-13 グリッドに位置する。 **重複関係** P-854・855 と重複する。詳細は不明である。 **形状・規模・主軸** やや南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約 1.0 m・南北約 0.5 m、主軸 N-51° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.12 m、レベル 30.9 m である。 **覆土** 2層が確認される。2層は p 1 覆土である。 **付属施設** p 1・2 が掘り込まれる。p 1 は 2 穴からなる。全長の東西約 0.22 m・南北約 0.16 m、上段部径 0.1 m 前後・下段部径約 0.08 m、SK-328 底面からの深さ約 0.1 m、遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.82 m である。覆土 2層が堆積する。p 2 は径約 0.08 m、レベル・覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 332 号土坑 (SK-332) (第 83・90・91 図 表 62 図版一五)

位置 B 区 M-15 グリッドに位置する。 **重複関係** SE-862 → SK-332 → SE-863、SK-332 → SK-398 の順に掘り込まれる。SK-352 とは不詳である。 **形状・規模・主軸** 東側に突出した不整な形状であり、南壁の立ち上がりは不詳である。或いは、東側の突出部は別遺構か。底面の規模は、東西約 2.7 m・南北 (1.3) m 以上か。主軸は N-77° -W、東側突出部は N-71° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。大きな凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ 0.1～0.5 m、レベル 30.4～30.1 m である。 **覆土** 7層が確認される。1層は後世の掘り込みか。東側突出部が別遺構の場合、1～5層は東側突出部覆土、1層下の凸部が底面の境部か。 **遺物出土状況** 遺物出土状況 覆土中から 51 片が出土する。土器類 18 片、石製品 1 片、製鉄関連遺物 1 片、陶磁器 31 片である。

出土遺物 1 は須恵器短頸壺か。肩部に 1～2 条の沈線が巡る。口縁部付近に棒状器具によると判断される外面からの打突痕が観察される。破断面は磨滅するが詳細は不明である。2 は須恵器高台付き坏か。高台接合部は平行する 2 条の線を切り込む。3～7 は土師質土器小皿。7 は灯明皿。3・5 は見込みが凹状である。

第3章 確認された遺構と遺物

特に4は播り鉢状となる。4・6は器高が低く、見込みは凸状である。8は陶器甕片。常滑産か。図示し得なかった17片は同一個体とみられる。接合関係はないが、図上で復元し、図示する。口縁部から肩部にかけてオリーブ色の自然釉が厚くかかる。口縁部～頸部は小礫を含み器肌はざらつきがある。頸部から体部上位にかけて濃いオリーブ色の自然釉3条以上が8.0cm以上にわたり垂下する。9は表面平滑な礫片。表面半部、及び、側面上位のみが残存するが台石か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類11片、製鉄関連遺物1片、陶磁器29片である。

土器類は須恵器1片、土師質土器小皿4片、内耳土器5片、瓦質土器1片が出土する。須恵器は甕体部小片であり、外面平行叩き、内面は磨滅するが同心円状あて具痕が観察される。土師質土器小皿は口縁部2片・体部2片。何れも微細片であるがロクロ仕上げである。内耳土器は口縁部2片・体部3片。何れも胎土Dである。瓦質土器は鉢類底部片か。円形で高さ0.5cm前後の脚を施す。

製鉄関連遺物は、羽口とみられる筒状の土製品小片が出土する。器厚1.0cm前後であり、SD-364等出土の羽口と同形となるか。

陶磁器は、陶器甕19片、陶器鉢類1片、磁器7片が出土する。

陶器甕は、無釉の体部1片、施釉の体部1片、第91図-8と同一個体とみられる17片が出土する。近世後半以降か。施釉の体部片は内外面に無光の褐色釉を施す。同一個体とみられる17片が口縁部1片・口縁部～肩部8片・体部1片・体部7片である。体部6片を除き自然釉が観察される。陶器鉢類は内外面に白色釉を施す。内面下半はハケ目、外面底部～体下位は無釉である。美濃系か。

磁器は、近世後半以降とみられる肥前系とみられる染付碗類3片、近代以降とみられる瀬戸・美濃系染付（明藍色）碗類2片・内外面白色釉の微細片2片である。

第336号土坑 (SK-336) (第79図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。東半部は調査区外にある。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約0.19m・南北約0.47m、主軸N-67°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.44m、レベル30.09mである。**覆土** 3層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第341号土坑 (SK-341) (第80図)

位置 B区L・M-14・15グリッドに位置する。**重複関係** SK-341→SK-342の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.5m・南北約1.18m、主軸N-52°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.12m、レベル30.50mである。**覆土** 1層が確認される。ロームブロックの堆積が目立つ。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第342号土坑 (SK-342) (第80図)

位置 B区L・M-14・L-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-341→SK-342の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東側は攪乱により失われる。形状は重複・攪乱により不詳である。東西に長い形状か。底面の規模は、東西(1.1)m・南北約1.2m、主軸N-67°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.12m、レベル30.55mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第343号土坑 (SK-343) (第68図 図版一一)

位置 B区L・M-13グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.28m・南北0.5m前後、主軸N-82°-Wである。**底面**

ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ0.3 m前後、レベル30.7～30.75 mである。

覆土 2層が確認される。**付属施設** 東・西壁寄りにp 1・2が掘り込まれる。2基のピットの重複である可能性が残るが確認し得なかった。SK-343底面における径・深さ・遺構確認面からの深さ・底面レベルは、p 1:0.2 m前後・約0.52 m・約0.8 m・30.2 m、p 2:0.5 m前後・約0.55 m・約0.78 m・30.2 mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第344号土坑 (SK-344) (第68図)

位置 B区M-13グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約0.93 m・南北約0.67 m、主軸N-64°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.39 m、レベル30.54 mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第345号土坑 (SK-345) (第80図)

位置 B区M-16グリッドに位置する。北側は調査区外にある。**重複関係** SK-346→SK-345の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西(0.74) m以上・南北(0.86) m以上、主軸N-11°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1～0.14 m、レベル30.26～30.22 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第346号土坑 (SK-346) (第80図 表90・92)

位置 B区M-16グリッドに位置する。北側は調査区外にある。**重複関係** SK-346→SK-345、SK-346→P-868の順に掘り込まれる。SK-347とは不詳である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.65) m以上・南北(0.7) m以上、主軸N-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.05 m前後、レベル30.3 m前後である。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 鉄製品3片、煙管片1片、鉄滓3片が出土する。図示し得なかったが表90・92に記載する。

第347号土坑 (SK-347) (第80図)

位置 B区M-16グリッドに位置する。北側は調査区外にある。**重複関係** SK-347→P-869の順に掘り込まれる。SK-346とは不詳である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.6 m・南北約1.16、主軸N-13°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.05 m前後、レベル30.3 m前後である。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 底面にp 1が確認される。帰属等、詳細は不明である。径約0.16 mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第348号土坑 (SK-348) (第68図 図版一一)

位置 B区L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-852→SK-348→SK-349→SK-350の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。遺構確認面北側が膨らむが、SK-852の重複によるものか。底面の規模は、東西約2.0 m・南北0.7 m前後、主軸N-55°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.7 m、レベル30.4 mである。**覆土** 7層が確認される。層序は不整である。1・2層は後世の掘り込みの可能性が考えられようか。**付属施設** 底面にp 1が確認される。帰属等詳細は不明である。東西約0.18 m・南北約0.13 mである。レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第349号土坑 (SK-349) (第68図 図版一一)

位置 B区L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-852→SK-348→SK-349→SK-350の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 円形状である。ピットの可能性も考えられる。底面の規模は、東西約0.46

m・南北約0.57 m、主軸N-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.85 m、レベル30.26 mである。**覆土** 3層が確認される。水平に堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第350号土坑 (SK-350) (第68図 図版一一)

位置 B区L-12グリッドに位置する。南・西側は調査区外、東側は攪乱により不詳である。**重複関係** SK-852 → SK-348 → SK-349 → SK-350の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の規模は、東西(0.7) m以上・南北(0.5) m以上である。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ約0.3 m、レベル30.8 mである。**覆土** 2層が確認される。2層は底面のピット状の凹凸部分に堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第351号土坑 (SK-351) (第80図)

位置 B区M-16グリッドに位置する。西側は調査区外にある。**重複関係** P-867とは不詳である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西(0.44) m以上・南北(0.77) mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.2～0.36 m、レベル30.32～30.14 mである。**覆土** 2層が確認される。2層は1層に対し垂直に堆積する。重複するP-867付随層、或いは、別遺構の可能性も考え得るか。**付属施設** 底面にp1が確認されるが、帰属等、詳細は不明である。SK-351底面での東西約0.29 m・南北約0.16 mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。攪乱穴の可能性も残る。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第352号土坑 (SK-352) (第83図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-332とは不詳である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西(0.7) m以上・南北(0.5) m以上である。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ約0.3 m、レベル30.8 mである。**覆土** 3層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第354号土坑 (SK-354) (第67図)

位置 B区L-12グリッドに位置する。南・西側は調査区外、東側は攪乱により不詳である。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約0.8 m・南北約0.55 m、主軸N-58°-Eである。**底面** ローム層を挿鉢状に掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.17 m、レベル30.63 mである。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等は不詳である。SK-354底面での規模は、p1の東西約0.2 m・南北約0.24 m、p2の径約0.28 mである。レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第365号土坑 (SK-365) (第83図 図版一一)

位置 B区M-15グリッドに位置する。東端部は調査区外にある。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。レベル30.65 m付近に幅0.1～0.2 mのテラス状の中段部を有する。底面の規模は、東西約1.8 m・南北0.32～0.45 m、主軸N-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.16 m、レベル30.58 mである。北壁東側に沿って6基以上のピットが穿たれるが詳細は不明である。**覆土** 2層が確認される。現地調査においては、1層に別遺構の可能性を指摘する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第366号土坑 (SK-366) (第67図)

位置 B区M-13グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整な長方形形状か。底面の規模は、東西約0.38 m・南北1.0 m前後、主軸N-32°-Eである。**底面**

ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.28 m、レベル30.72 mである。 **覆土** 2層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第367号土坑 (SK-367) (第80図)

位置 B区M-13グリッドに位置する。南西側は調査区外にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.9 m・南北(0.4) m、主軸N-37°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。表土下からの深さ約0.37 m、レベル30.6 mである。 **覆土** 3層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第372号土坑 (SK-372) (第67図)

位置 B区L-13グリッドに位置する。 **重複関係** P-853とは不詳である。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西0.53 m前後・南北1.25 m前後、主軸N-23°-Eである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1 m前後、レベル30.7 m前後である。 **覆土** 1層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されなかった。

第373号土坑 (SK-373) (第67図)

位置 B区L-13グリッドに位置する。 **重複関係** SD-364とは不明である。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状である。底面の規模は、東西(2.4) m・南北1.05～1.2 m、主軸N-65°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.36 m、レベル30.63 mである。 **覆土** 1層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第375号土坑 (SK-375) (第67・91図 表63 図版一五)

位置 B区L-13グリッドに位置する。 **重複関係** SK-375→SD-364・376の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 方形形状か。SD-376・攪乱を挟んだ南側に確認されり三角形の突出部との関連はあるか。詳細は不明である。底面の規模は、東西(1.7) m以上・南北(0.7) m以上、主軸N-65°-Wか。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.37 m、レベル30.43 mである。 **覆土** 1層が確認される。 **付属施設** 東・北壁に沿って周溝が巡る。周溝底部の幅は約0.1 m、SK-375底面からの深さ約0.07 m、レベル30.36 mである。覆土は1層が堆積する。 **遺物出土状況** 覆土中から18片が出土する。土器類12点、陶磁器類5点、その他1片である。

出土遺物 1は内耳土器。器高は約5.2cmである。2は陶器鉢類か。火鉢等か。3は陶器灯明皿。漆が付着か。この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は内耳土器10片、粘土塊1片、陶器2片、磁器1片、近現代の陶器甕1片が出土する。内耳土器は口縁部5片(胎土C2片・D3片)・体部1片(胎土D)・底部4片(胎土D)である。陶器碗類のうち1片は内面灰釉・外面縞状の鉄釉、1片は内外面に黄白色の釉を施す。近世後半以降か。磁器1片は見込みに重ね焼きとみられる蛇の目風の無釉部がみられる。

第377号土坑 (SK-377) (第83図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。 **重複関係** SE-378→SD-379→SK-377の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 南北にやや長い長方形形状である。底面の規模は、東西約0.6 m・南北約1.17 mである。主軸はN-23°-Eである。 **底面** SE-378・SD-379・ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.14 m、レベル30.62 mである。 **覆土** 1層が確認される。 **遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。瓦質土器挿鉢1片、羽口とみられる筒状の土製品端部1片である。ガラス質溶解-還元色-赤色変化が観察される。

第381号土坑 (SK-381) (第80・92図 表64)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** SE-333 → SK-381の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北にやや長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.4m・南北約0.43mである。主軸はN-1°-Eであり、ほぼ磁北に平行する。**底面** ローム層を掘り込む。深さ約0.3m、レベル30.29mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。土器類1片である。

出土遺物 1は瓦質土器播鉢である。

第382号土坑 (SK-382) (第83・84図)

位置 B区M・N-14グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.47m・南北約0.89mである。主軸はN-20°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。深さ約0.1m、レベル30.24mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第383号土坑 (SK-383) (第67・68図)

位置 B区L-12・13グリッドに位置する。**重複関係** SK-383 → SD-376の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約0.6m・南北約1.85m、主軸N-26°-Eである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.63m、レベル30.4mである。**覆土** 3層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第385号土坑 (SK-385) (第65図)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** SK-385 → SK-338(地下式坑)の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 北側を攪乱により失うが、南北に長い形状か。底面の規模は、東西約0.77m・南北(1.35)m以上、主軸N-24°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.65mである。**覆土** 1層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第386号土坑 (SK-386) (第67・68図)

位置 B区L-12グリッドに位置する。東側は調査区外、東側は攪乱により不詳である。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西(1.75)m以上・南北約0.65mである。主軸N-81°-Wであり、概ね磁北の直交する。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.25m、レベル30.9mである。**覆土** 2層が確認される。**付属施設** 底面にp1・2が確認される。帰属等詳細は不明である。層序・覆土は確認し得なかった。p1はSK-386底面の東西約0.26m・南北約0.2m・深さ約0.05m、遺構確認面からの深さ約0.3m、レベル30.85mである。p2はSK-386底面の東西約0.12m・南北約0.16mである。後世の掘り込みの可能性が残る。**遺物出土状況** 覆土中から5片が出土する。土器類1片、礫2片、陶磁器2片である。

出土遺物 1は瓦質土器播鉢。播り目の間隔は0.3cm前後と粗め。

この他、図示し得なかった出土遺物は、礫2片、陶磁器2片である。礫は、破碎礫小片1片、スレート片である。陶磁器は碗類2片が出土する。1片は明藍色の染付を施す。1片は透明釉を施す。何れも胎土は薄いグレー色であり、産地不明。

第387号土坑 (SK-387) (第80・81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** P507と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約0.26m・南北(0.5)m以上、主軸N-26°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.19m、レベル30.56mで

ある。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から5片が出土する。土器類1片、礫2片、陶磁器2片である。

第391号土坑 (SK-391) (第83図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-392 → SK-391の順に掘り込まれる。SK-332とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約0.95 m・南北約1.86 m、主軸N-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.24 m、レベル29.94 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第392号土坑 (SK-392) (第84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-392 → SK-391の順に掘り込まれる。SK-332とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状か。底面の規模は、東西約0.75 m・南北約1.13 m、主軸N-18°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.18 m、レベル30.01 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第394号土坑 (SK-394) (第83図)

位置 B区M・N-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-395 → SK-394の順に掘り込まれる。SD-393とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い小型の長方形形状か。底面の規模は、東西約0.7 m・南北(0.34) m、主軸N-69°-Eである。**底面** ローム層・SK-394を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.05 m、レベル30.33 mである。**覆土** 1層が確認される。ロームブロックの堆積が目立つ。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第395号土坑 (SK-395) (第83図)

位置 B区M・N-14・15グリッドに位置する。南側は調査区外にある。**重複関係** SK-395 → SK-394、SK-395 → SD-393 → SD-379の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 形状は重複により不詳である。底面の規模は、東西(2.4) m・南北(1.4) m、主軸N-39°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2 m、レベル30.24 ~ 30.14 mである。4層下は概ね平坦であるが、3層下は凹凸がみられる。**覆土** 4層が確認される。1層は後世の掘り込みか。4層堆積後、1~3層が堆積するが、底面の状況から堆積時期が異なる可能性も考えられる。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第396号土坑 (SK-396) (第81図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.3 m・南北(0.8) m以上、主軸N-29°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。表土下の深さ約0.2 m、レベル30.63 mである。**覆土** 3層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第398号土坑 (SK-398) (第84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** SK-332 → SK-398の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西約1.3 m・南北約0.48 m、主軸N-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.34 m、レベル30.1 mである。**覆土** 2層が確認される。上層は攪乱で失われる。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第400号土坑 (SK-400) (第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.3 m・南北約0.52 m、主軸N-43°-Wである。**底面** ローム層

第3章 確認された遺構と遺物

を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.5 m、レベル30.26 mである。**覆土** 4層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第401号土坑 (SK-401) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南西隅部は調査区外に延びる。**重複関係** SK-402 → SK-401の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形か。底面の規模は、東西[1.0] m・南北約0.45 m、主軸N-66°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.3～0.42 m、レベル30.38～30.25 mである。**覆土** 3層が堆積する。1層は部分的に確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第402号土坑 (SK-402) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-402 → SK-401の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い方形か。底面の規模は、東西約0.36 m・南北約0.26 m、主軸N-74°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1 m、レベル30.6 mである。**覆土** 1層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第403号土坑 (SK-403) (第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-404とは重複しないか。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.4 m・南北約0.58 m、主軸N-37°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1 m、レベル30.66 mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。磁器2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。磁器は染付を施す碗類2片である。肥前系か。近世後半以降か。

第404号土坑 (SK-404) (第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-404とは重複しないか。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.6 m・南北0.35 m前後、主軸N-84°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1 m、レベル30.66 mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第406号土坑 (SK-406) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。東側は攪乱により失われる。**重複関係** SK-407 → SK-406・408の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** やや東西に長い方形か。底面の規模は、東西[1.87] m・南北(0.3) m以上、主軸N-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。底面は不整である。遺構確認面からの深さ0.24～0.5 m、レベル30.48～30.2 mである。**覆土** 4層が堆積する。3・4層掘り方埋土、或いは、1・2層後世の掘り込みの可能性はあろうか。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第407号土坑 (SK-407) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** SK-407 → SK-406・408の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は、東西(2.0) m以上・南北(1.6) m以上、主軸N-64°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.44 m、レベル30.24 mである。**覆土** 2層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第408号土坑 (SK-408) (第81図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** SK-407 → SK-406・408の順に掘り込まれる。SK-408・SK-837とは不詳である。**形状・規模・主軸** 南北に長い方形か。底面の規

模は、東西(1.85)m以上・南北1.0m前後、主軸N-32°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.23m、レベル30.45mである。**覆土** 1層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第409号土坑(SK-409) (第82図)

位置 C区J-12グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** P-850とは不詳である。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状である。底面の規模は、東西0.7m前後・南北(3.1)m以上、主軸N-28°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m前後、レベル30.5m前後である。

覆土 3層が堆積する。**付属施設** 東壁南半部、西壁北側はテラス状の突出部が掘り込まれる。帰属等不詳である。東壁南半部は東西0.3～0.4m・南北約1.93m、遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.6m、SK-409底面との高低差0.1m前後である。西壁北側は東西0.4m以上・南北0.5m以上、深さは東壁南半部と同様か。底面にはp1が穿たれる。帰属等不詳である。東西約0.13m・南北約0.2m、遺構確認面からの深さ約0.25m、SK-409底面からの深さ約0.05m、レベル30.45mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第410号土坑(SK-410) (第85・92図 表66・90)

位置 C区J-10グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-411→SK-410→SK-806の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西(2.83)m・南北0.5～0.7m、主軸N-47°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.38m前後、表土下約0.78m、レベル30.25m前後である。**覆土** SK-806と似るが、総じて、ロームブロックの堆積が少ない。**遺物出土状況** SK-410・411(SK-86も含むか)重複部覆土中から13片が出土する。土器類6片、陶磁器6片、鉄製品1片である。SK-410に記載する。

出土遺物 1は須恵器高台付き坏か。高台端部は欠損する。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類5片、陶磁器6片である。

土器類は、土師質土器4片、現代の瓦1片が出土する。土師質土器4片の詳細は不明である。

陶磁器は、陶器4片、磁器2片が出土する。陶器は素焼き片1片、播鉢1片、碗類2片である。素焼き片は本来は平滑な円形状が。播鉢は播り目を密に配し、柿釉とみられる釉薬を施す。碗類のうち1片は内外面に鉄釉を施す。1片は外面に透明釉がかかる。近世以降か。磁器は明藍色の染付を施す碗類1片(瀬戸・美濃系か)、透明釉を施す瓶類1片である。近代以降か。鉄製品は表90に記載する。

第411号土坑(SK-411) (第85図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。東側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-411→SK-410→SK-806の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。SK-806が遺構東側に重複するため詳細不詳。底面の規模は、東西2.6m以上か、南北0.5m前後、主軸N-47°-Wである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.35m前後、レベル30.26m前後か。**覆土** ローム塊を含む黒褐色土が主体的に堆積する。**遺物出土状況** SK-410・411(SK-806も含むか)重複部覆土中から12片が出土する。土器類6片、陶磁器6片である。SK-410に記載する。

第412号土坑(SK-412) (第85図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-412→SK-415、SK-412→SK-413→SK-414の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。東側はテラス状に掘り込まれる。東西の全長(1.06)m以上、底面の東西0.65m前後、南北(1.45)m以上、テラス部分の

底面の東西(0.4)m以上である。主軸N-33°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.65m、テラス部分までの深さ約0.08m、レベル30.56mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第413号土坑(SK-413)(第85・119図 表94)

位置 C区L-11グリッドに位置する。北側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-412→SK-415、SK-412→SK-413→SK-414の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い隅丸形状か。底面の規模は、東西(0.4)m以上、南北(0.6)m以上、主軸N-56°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.4mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から6片が出土する。土器類1片、陶磁器5片である。

出土遺物 第119図-8は陶器皿類。SD-13や遺構外出土第120図-22などに同種の破片が確認される。概して破片は大きい。

その他、図示し得なかった出土遺物は土器類・陶磁器類である。土器類は内耳土器底部1片が出土する。胎土Cである陶磁器は、陶器3片、磁器1片である。陶器は、柿釉を施す鉢・皿類1片、黄白色釉で円形の文様をかき分ける瓶類1片、内面灰釉とみられる皿類1片である。近世後半以降か。磁器は青磁の鉢類1片が出土する。近代以降とみられる。

第414号土坑(SK-414)(第85図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。西・北側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-412→SK-415、SK-412→SK-413→SK-414の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は、東西(1.1)m以上、南北(0.35)m以上、主軸N-56°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ0.25～0.37m、レベル30.3～30.22mである。**覆土** 3層が確認される。層序は不整である。白色粒子が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第415号土坑(SK-415)(第85図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-412→SK-415、SK-412→SK-413→SK-414の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** やや南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.0m、南北約1.16m、主軸N-46°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ0.05～0.1m、レベル30.52m前後である。**覆土** 1層が確認される。白色粒子が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第416号土坑(SK-416)(第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-417→SK-416の順に掘り込まれるか。SK-418とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長いやや三角形か。底面の規模は、東西約0.5m・南北0.4m前後、主軸N-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1m前後、レベル30.65mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第417号土坑(SK-417)(第81図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-417→SK-416の順に掘り込まれるか。SK-418とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長いやや形状か。底面の規模は、東西(0.7)m以上・南北0.4m前後、主軸N-77°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。底面はピット状に掘り込まれる。遺構確認面からの深さ約0.05m・レベル30.7m、ピット底面までの深さ約0.26m・レベル30.5mである。**覆土** 2層が確認される。ピット状の部分には2層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第418号土坑 (SK-418) (第81図)

位置 C区L-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-417→SK-416の順に掘り込まれるか。SK-418とは不明である。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、径[0.4]mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.05m・レベル30.68mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第419号土坑 (SK-419) (第85図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-419→SK-420の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状である。底面の規模は、東西(2.0)m以上・南北0.4m前後、主軸N-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.03～0.13m、レベル30.73～30.63mである。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 南壁際にp1が確認されるが帰属等是不詳である。SK-419底面の東西約0.12m・南北約0.22m・深さ約0.05m、レベル30.65mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第420号土坑 (SK-420) (第85図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-419→SK-420の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。北側は底面方形形状のテラス状に張り出す。帰属等是不詳であり、別遺構の可能性も考えられる。底面の全長は南北約1.8m、SK-420の東西約0.7m・南北約1.4m、突出部の東西約0.34m・南北約0.28m、主軸N-32°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.03～0.13m、レベル30.73～30.63mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。土器類1片、スレート1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。内耳土器底部1片(胎土C)である。

第421号土坑 (SK-421) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-424→SK-423→SK-422→SK-421の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状である。中段はテラス状、底面はピット状に穿たれる。テラス状の部分の東西約0.62m・南北0.4m、底面の径約0.16m、主軸N-85°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ・レベルはテラス状部分まで約0.4m・30.35m、底面まで約0.73m・30.0mである。**覆土** 3層が確認される。水平に堆積する。**遺物出土状況** SK-421～424覆土中から1片が出土する。SK-421に記載する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。磁器碗類1片である。西洋呉須の染付で文字を描くか。近代以降か。

第422号土坑 (SK-422) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-424→SK-423→SK-422→SK-421の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。底面の東西約0.26m・南北(0.3)m以上、主軸N-64°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.3m、レベル30.45mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** SK-421～424覆土中から1片が出土する。SK-421に記載する。

第423号土坑 (SK-423) (第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-424→SK-423→SK-422→SK-421の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の東西(0.1)m以上・南北(0.27)mである。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ(0.1)m、レベル30.6mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** SK-421～424覆土中から1片が出土する。SK-421に記載する。

第424号土坑(SK-424)(第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-424→SK-423→SK-422→SK-421の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の径約0.34mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.22m、レベル30.5mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** SK-421～424覆土中から1片が出土する。SK-421に記載する。

第425号土坑(SK-425)(第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-425→SK-426の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 不整形である。底面の規模は、東西約0.6・南北0.45m前後である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.62mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第426号土坑(SK-426)(第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-425→SK-426の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 三角形の不整形である。底面の規模は、東西約0.43・南北(0.26)m以上である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.05～0.1m、レベル30.64m前後である。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第432号土坑(SK-432)(第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-434→SK-433→SK-432の順に掘こまれる。**形状・規模・主軸** 東西に長円形状である。底面の規模は、東西約0.7m・南北約0.47m、主軸N-70°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1m前後、レベル30.65m前後である。**覆土** SP-C-C'-1層を確認した。**付属施設** 南壁付近にp1が確認されるが帰属等は不詳である。径約0.15m前後m、底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 出土遺物は確認されない。

第433号土坑(SK-433)(第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-434→SK-433→SK-432の順に掘こまれる。**形状・規模・主軸** 東西に長円形状である。底面の規模は、東西(0.72)m・南北(0.35)m以上、主軸N-67°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.15m、レベル30.57mである。**覆土** SP-C-C'-2層を確認した。**付属施設** p1が確認されるが帰属等は不詳である。SK-432底面の東西約0.2m・南北約0.12m・深さ約0.08m、遺構確認面からの深さ約0.23m、底面レベル30.57mである。SK-433覆土が堆積する。**遺物出土状況** 出土遺物は確認されない。

第434号土坑(SK-434)(第86図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-434→SK-433→SK-432の順に掘こまれる。**形状・規模・主軸** 東西に長円形状である。底面の規模は、東西約0.36m・南北約0.4mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.1m、レベル30.62mである。**覆土** SP-C-C'-3層を確認した。**付属施設** 南東隅部にp1が確認されるが帰属等は不詳である。SK-433底面の径約0.15mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 出土遺物は確認されない。

第435号土坑(SK-435)(第86図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** P-492→SK-435→SK-436の順に掘こまれる。**形**

状・規模・主軸 やや東西に方形状。底面の規模は、東西 1.1 m前後・南北 0.95 m前後である。主軸 N -50° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.27 m、レベル 30.34 m である。

覆土 2層を確認した。 **遺物出土状況** SK-436 重複部覆土中から 10 片が出土する。縄文土器 1 片、礫 2 片、陶磁器 6 片、現代の瓦 1 片である。SK-435 に記載する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

縄文土器は LR を施文する体部片。加曾利 E 式後半か。礫は、緑泥片岩片 1 片・小礫 1 点である。緑泥片岩は板碑片か。小礫は不整な基石状で赤褐色である。陶磁器は、陶器 1 片・磁器 5 片が出土する。陶器は瓶類であり、外面に灰釉を施す。近世後半以降か。磁器は碗類である。染付を施す肥前系の碗類 3 片は近世後半以降か。印判手の碗類は近代以降か。

第 436 号土坑 (SK-436) (第 86 図)

位置 C 区 J-10 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-435 → SK-436 の順に掘こまれる。SK-492 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 東西に長方形状である。底面の規模は、東西 1.66 m前後・南北 0.4 m前後である。主軸 N -47° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.5 m、レベル 30.13 m である。 **覆土** 2層を確認した。 **遺物出土状況** SK-435 重複部覆土中から 10 片が出土する。縄文土器 1 片、礫 2 片、陶磁器 6 片、現代の瓦 1 片である。SK-435 に記載する。

第 437 号土坑 (SK-437) (第 86 図)

位置 C 区 K-11 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-439 → (SK-440 → P-441 か)、(SK-439 → SK-438 か) → SK-437、SK-438 → SK-444、(SK-440 → P-442 か) の順に掘こまれる。SK-438 : SK-831、SK-439・P-830 : SK-444 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 重複により形状は判然としないが南北に長い長方形状か。底面の規模は、東西約 0.38 m・南北 (0.3) m 以上、主軸 N -29° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.5 m、レベル 30.13 m である。 **覆土** SP-A - A' - 1 層が確認される。

遺物出土状況 SK-437 ~ 444 重複部覆土中から 3 片が出土する。土器類 3 片、磁器 1 片である。SK-437 に記載する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

土器類は、土師質土器小皿 1 片、内耳土器 2 片である。土師質土器小皿はロクロ仕上げの口縁部小片である。内耳土器は体部 2 片(胎土 D)である。磁器は西洋呉須の染付を施す碗類である。瀬戸・美濃系か。近代以降か。

第 438 号土坑 (SK-438) (第 86 図)

位置 C 区 K-11 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-439 → (SK-440 → P-441 か)、(SK-439 → SK-438 か) → SK-437、SK-438 → SK-444、(SK-440 → P-442 か) の順に掘こまれる。SK-438 : SK-831、SK-439・P-830 : SK-444 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長方形状か。底面の規模は、東西 (1.18) m・南北約 0.52 m、主軸 N -71° -W である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.34 m、レベル 30.4 m である。 **覆土** SP-B - B' - 2 層が確認される。 **遺物出土状況** SK-437 ~ 444 重複部覆土中から 3 片が出土する。土器類 3 片、磁器 1 片である。SK-437 に記載する。

第 439 号土坑 (SK-439) (第 86 図)

位置 C 区 K-11 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-439 → (SK-440 → P-441 か)、(SK-439 → SK-438 か) → SK-437、SK-438 → SK-444、(SK-440 → P-442 か) の順に掘こまれる。SK-438 : SK-831、SK-439・P-830 : SK-444 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 不整形である。底面の規模は、東西 (0.9) m 以上・南北 (0.83) m 以上である。 **底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。遺構確認面からの深さ 0.05 ~ 0.1

第3章 確認された遺構と遺物

m、レベル 30.7 ~ 30.63 mである。**覆土** SP-A - A' 3層が確認される。**付属施設** 西壁中央部付近に p 1 が確認されるが、帰属等詳細は不明である。SK-439 底面での径約 0.12 m、深さ約 0.06 m、遺構確認面からの深さ約 0.16 m、レベル 30.57 mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-437 ~ 444 重複部覆土中から 3片が出土する。土器類 3片、磁器 1片である。SK-437 に記載する。

第 440 号土坑 (SK-440) (第 86 図)

位置 C区K-11 グリッドに位置する。**重複関係** SK-439→(SK-440→P-441か)、(SK-439→SK-438か)→SK-437、SK-438→SK-444、(SK-440→P-442か)の順に掘り込まれる。SK-438:SK-831、SK-439・P-830:SK-444 とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形か。底面の規模は、東西 0.6 m前後・南北約 1.2 m、主軸 N -32° -E である。**底面** ローム層を掘り込み、凹凸がみられる。遺構確認面からの深さ 0.1 ~ 0.13 m、レベル 30.6 ~ 30.56 mである。**覆土** SP-A - A' 4層が確認される。**付属施設** 南西隅部に p 1 が確認されるが、帰属等詳細は不明である。SK-440 底面での東西約 0.3 m・南北約 0.18 m、深さ約 0.08 m、遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.5 mである。覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-437 ~ 444 重複部覆土中から 3片が出土する。土器類 3片、磁器 1片である。SK-437 に記載する。

第 444 号土坑 (SK-444) (第 86 図)

位置 C区K-11 グリッドに位置する。**重複関係** SK-439→(SK-440→P-441か)、(SK-439→SK-438か)→SK-437、SK-438→SK-444、(SK-440→P-442か)の順に掘こまれる。SK-438:SK-831、SK-439・P-830:SK-444 とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形か。底面の規模は、東西約 0.43 m・南北約 1.05 m、主軸 N -29° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.6 mである。**覆土** SP-B - B' 8層が確認される。**付属施設** 南西隅部に p 1 が確認されるが、帰属等詳細は不明である。SK-444 底面での東西約 0.22 m・南北約 0.15 m、深さ 0.1 m前後、遺構確認面からの深さ約 0.3 m、レベル 30.44 m前後である。SK-444 覆土が堆積する。**遺物出土状況** SK-437 ~ 444 重複部覆土中から 3片が出土する。土器類 3片、磁器 1片である。SK-437 に記載する。

第 446 号土坑 (SK-446) (第 87 図)

位置 C区K・L-11 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843 は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状である。底面の規模は、東西約 0.46 m・南北 (0.98) m以上、主軸 N-27° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ 0.18 ~ 0.28 m、レベル 30.42 ~ 30.32 mである。

覆土 2層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 447 号土坑 (SK-447) (第 87・92 図 表 67)

位置 C区K-11 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446→SK-484、SK-447→SK-448→SK-484、SK-839→SK-449→SK-841→P-842→SK-484、SK-839→SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843 は不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状である。底面の規模は、東西 0.6 m前後・南北 0.45 m前後、主軸 N-81° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。EP-G は模式化したものである。遺構確認面からの深さ約 0.3 m、レベル 30.3 mである。**覆土** 3層が堆積する。**遺物出土状況** 覆土中から 1片が出土する。石製品 1片である。

出土遺物 1は砥石。両端部は欠損する。表・裏面はやや凹む。

第448号土坑 (SK-448) (第87図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446 → SK-484、SK-447 → SK-448 → SK-484、SK-839 → SK-449 → SK-841 → P-842 → SK-484、SK-839 → SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状である。底面の規模は、東西0.42～0.75 m・南北(1.85) m以上、主軸N-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。EP-Gは模式化したものである。遺構確認面からの深さ約0.38 m、レベル30.22 mである。**覆土** 3層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第449号土坑 (SK-449) (第87図)

位置 C区K-11・12グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446 → SK-484、SK-447 → SK-448 → SK-484、SK-839 → SK-449 → SK-841 → P-842 → SK-484、SK-839 → SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843は不明である。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、径約0.45 mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.58 m、レベル29.95 mである。**覆土** 3層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第450号土坑 (SK-450) (第87図)

位置 C区L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-844とは不明である。**形状・規模・主軸** 重複により形状は不詳である。東側はテラス状に掘り込まれるが、帰属等、詳細は不明である。全長は東西約1.2 m、底面の規模は東西約0.9 m・南北約1.0 m、テラス状部分の底面の東西(0.3) m・南北[0.6] mである。主軸はN-55°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.15～0.3 m、レベル30.2～30.08 m、テラス状部分の深さ約0.4 m・レベル30.24 mである。**覆土** 3層を確認した。

遺物出土状況 覆土中から10片が出土する。土器類3片、陶磁器5片、製鉄関連遺物1片、タイル1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

土器類は、土師器坏1片、内耳土器1片、瓦質土器1片が出土する。土師器坏は6世紀後半とみられる。内面ヨコナデ、外面口縁部ナデ・体部は磨滅するがヘラケズリか。内耳土器は口縁部～体部。器高[4.5]cm、胎土Dである。瓦質土器は手焙りか。外面に5本以上一組の櫛歯状工具で曲線的な文様を施す。

陶磁器は、陶器碗類2片、瓶類1片、磁器碗類2片が出土する。陶器碗類のうち1片は内面黄瀬戸色の釉を施す。近世後半以降か。1片は体部外面は無釉の1片、内外面底部～体部下位灰土を施す。近代以降か。陶器瓶類は外面に透明釉を施す。胎土は薄いグレー色。近世後半以降か。磁器は染付を施す。肥前系か。近世後半以降か。

鉄関連遺物は羽口とみられる筒状の土製品が1片出土する。ガラス質溶解等は観察されない。

第451号土坑 (SK-451) (第86図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-451 → 452の順に掘り込まれる。SK-808・809とは不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。現状は不整形。底面の規模は、東西(0.54) m・南北(0.4) mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.05 m、レベル30.57 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第452号土坑 (SK-452) (第86図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-451 → 452の順に掘り込まれる。SK-808・809とは不明である。**形状・規模・主軸** 重複により詳細は不明である。東西に長い形状か。底面の規模は、

第3章 確認された遺構と遺物

東西(0.8)m以上・南北0.7m前後である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.16m、レベル30.48mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土はない。

第453号土坑(SK-453) (第88図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い不整形である。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.26m、主軸N-76°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.12m、レベル30.5mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第454号土坑(SK-454) (第88図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南側は区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状である。底面の規模は、東西約0.23m・南北(0.37)m以上、主軸N-48°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.17m、レベル30.59mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第456号土坑(SK-456) (第88図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.1m・南北約0.38m、主軸N-57°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.62mである。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 北側隅部に小ピットが穿たれるが、帰属等詳細は不明である。東西約0.3m・南北約0.1mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第457号土坑(SK-457) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-458→SK-457・SK-459、P-813→SK-459の順に掘り込まれる。SK-457とP-814とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。規模は、遺構確認面の東西約0.47m・南北0.34m、底面の約約0.24m、主軸N-36°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.52mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第458号土坑(SK-458) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-458→SK-457・SK-459、P-813→SK-459の順に掘り込まれる。SK-457とP-814とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西(0.6)m・南北約0.13m、主軸N-88°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.15m、レベル30.58mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第459号土坑(SK-459) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-458→SK-457・SK-459、P-813→SK-459の順に掘り込まれる。SK-457とP-814とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.64m・南北(0.38)m以上、主軸N-62°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.15m、レベル30.6mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第461号土坑(SK-461) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→

SK-463→SK-464、SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.65m・南北(0.23)m、主軸N-80°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.09m、レベル30.61mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第462号土坑 (SK-462) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→SK-463→SK-464、SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.48m・南北0.32m以上、主軸N-40°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.13m、レベル30.56mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第463号土坑 (SK-463) (第88図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→SK-463→SK-464、SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 円形状か。底面の規模は、径(0.5)mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.6mである。**覆土** 1層が確認される。**付属施設** 底面中央にp1が確認される。覆土1層が堆積する。径約0.2m、SK-463底面からの深さ約0.18m、レベル30.43mである。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第464号土坑 (SK-464) (第88図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→SK-463→SK-464、SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.48m・南北約0.3m以上、主軸N-68°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.3m、レベル30.43mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第465号土坑 (SK-465) (第88図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→SK-463→SK-464、SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西(0.6)m以上・南北[0.43m前後]、主軸N-69°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.16m、レベル30.58mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第467号土坑 (SK-467) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-468→SK-467の順に掘り込まれる。SK-485とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.38m・南北約0.67m、主軸N-51°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.08m、レベル30.52m前後である。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第468号土坑 (SK-468) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-468→SK-467の順に掘り込まれる。SK-485とは不明である。**形状・規模・主軸** やや南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.33m・南約0.43m、主軸N-35°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。SK-467よりがピット状に深い。遺構確認面から

の深さ 0.2～0.4 m、レベル 30.4～30.19 mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 469 号土坑 (SK-469) (第 88・92 図 表 68)

位置 C区 J-10 グリッドに位置する。**重複関係** SK-485 とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形とみられる。底面の規模は、東西約 1.38 m・南北約 0.55 mである。主軸は N-62° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。概ね平坦である。確認面からの深さ約 0.23 m、底面レベル 30.43 m である。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から 7片が出土する。土器類 1片、石製品・礫 4片、陶磁器 2片である。

出土遺物 1は扁平な円形状の礫。石製品か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類 1片、礫 3片、陶磁器 2片である。

土器類は、土師質土器微細片 1片が出土する。礫は、破碎礫 1片、小礫 1片が出土する。陶磁器は、陶器 2片が出土する。1片は天目茶碗体部片か。1片は外面黒色釉、内面無釉の体部片である。

第 470 号土坑 (SK-470) (第 89 図)

位置 C区 J-10 グリッドに位置する。**重複関係** SK-485 とは不明である。**形状・規模・主軸** 円形状であるが、北東方向に突出する形状である。底面の規模は、東西約 0.9 m・南北約 1.07 mである。主軸は N-62° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。確認面からの深さ約 0.2 m、底面レベル 30.44 m である。**覆土** 2層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 484 号土坑 (SK-484) (第 87 図)

位置 C区 K-11・12 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446 → SK-484、SK-447 → SK-448 → SK-484、SK-839 → SK-449 → SK-841 → P-842 → SK-484、SK-839 → SK-840 の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843 は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い円形状である。底面の規模は東西約 1.36 m・南北 0.47 m、主軸 N-35° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.35 m である。**覆土** 3層が堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 485 号土坑 (SK-485) (第 89・93 図 表 70・92 図版一一・一五)

位置 C区 J-10 グリッドに位置する。**重複関係** SE-405、SK-467・468・469・470 と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 遺構断ち割りのため不詳であるが、遺構確認面は円形状か。開口部のテラス状の掘り込みから筒状の頸部を経て袋状に開く。開口部のテラス状の掘り込みは、径 (1.8) m、深さ 0.2 m 前後であり、床面には小さな凹凸がみられる。頸部は筒状で径 0.55 m 前後。遺構確認面からの深さ、東側約 0.35 m・西側約 1.2 m で袋状に開く。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 1.9 m・レベル 29.8 m 付近で掘削を中止した。**覆土** 5層が確認される。3～5層はローム塊が堆積する。遺構東側、図中トーン部は覆土の堆積はみとめられない。**特記事項** 袋状の部分は地下空間だったもの推察される。廃絶後、閉塞状態で覆土の堆積が遅れたか。遺構確認面と旧地表との差異は判然としませんが、開口部のテラス状の部分は閉塞部か。**遺物出土状況** 覆土中から 46片が出土する。土器類 9片、石製品・礫 9片、製鉄関連遺物 4片、鉄滓 2片、陶磁器 23片、鉄製品 1片である。

出土遺物 1・2は内耳土器。接合しないが、不掲載の 4片とあわせ同一個体か。3は陶器徳利。4・5は羽口か。6・7は磨石。7は磨滅極めて顕著。8は石皿か。9は砥石。第 114 図 - 7 は鉄製品。

この他、図示し得なかった出土遺物は土器類 7片、粘土塊 1片、礫 5片、製鉄関連遺物 2片、鉄滓 2片、

陶磁器 21 片である。

土器類は、土師質土器 3 片、内耳土器 4 片が出土する。土師質土器は微細片であり、詳細不明。内耳土器は 1・2 と同一個体か。

礫は、切石状の凝灰岩 2 片、変成岩系の礫 1 点、不整礫 1 点、破碎礫小片 1 片が出土する。凝灰岩は石材か。不整礫は磨滅する。

製鉄関連遺物は羽口 2 片が出土する。うち 1 片は両端部を欠くが、調査区内において最長約 19.0cm が残存する。何れもガラス質溶解等は観察されない。鉄滓 2 片が表 92 に記載する。

陶磁器は、陶器 14 片、磁器 8 片が出土する。

陶器は、近世以降とみられるものは、盃 1 片、瓶類 1 片、甕類 3 片、鉢類 2 片、播鉢 3 片である。盃は内外面に灰釉を施す。瓶類は底部片であり、外面褐色釉に灰釉を施すか。甕類は口縁部 1 片・体部 2 片である。播鉢は口縁部 1 片・体部 2 片であり、同一個体か。鉢類 1 片である。内面は三島手に似る。近代以降とみられるものは、碗類 1 片、鉢類 1 片、瓶類 2 片である。碗類は内外面に灰釉を施す。鉢類は外面に白濁釉を施し、器壁の薄い小型品。瓶類は外面に灰釉を施す。

磁器は、近世後半以降とみられるものは、碗類 4 片、瓶類 1 片である。碗類は染付を施す小片。肥前系か。瓶類は文様等は確認されないが、肥前系か。近代以降とみられるものは、西洋呉須の染付を施す 3 片である。1 片は肥前系の碗類、2 片は瀬戸・美濃系の蓋・瓶類か。

第 487 号土坑 (SK-487) (第 89 図 図版一一)

位置 C 区 K-10 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-487 → SK-488 → SK-490 → SK-489、SK-522 → SK-489 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の規模は、東西 0.4 m 以上・南北 0.4 m 以上である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.3 m、レベル 30.28 m である。 **覆土** 1 層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 488 号土坑 (SK-488) (第 89 図)

位置 C 区 K-10 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。 **重複関係** SK-487 → SK-488 → SK-490 → SK-489、SK-522 → SK-489 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西 0.8 m 前後・南北 2.0 m 以上、主軸 N-17° -E である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.2 m、レベル 30.5 m 前後である。 **覆土** 1 層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 489 号土坑 (SK-489) (第 89・92・119 図 表 69・94)

位置 C 区 K・10 グリッドに位置する。 **重複関係** SK-487 → SK-488 → SK-490 → SK-489、SK-522 → SK-489 の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** 方形状であるが南西隅部は南側に突出する。SK-522 との重複に起因するか。底面の規模は、東西約 0.67 m・南北約 0.65 m (突出部 0.8 m 以上) である。 **底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.15 m、レベル 30.52 m である。中央部に小孔を穿つ。SK-489 底面での規模は、東西約 0.47 m・南北 0.3 m 前後、深さ 0.22 m 前後、レベル 30.41 m 前後である。

覆土 1 層が確認される。小孔部分の層序、覆土は確認し得なかった。 **遺物出土状況** 覆土中から 2 片が出土する。鉄関連遺物 1 片、磁器 1 片である。

出土遺物 1 は羽口とみられる筒状の土製品である。端部片であり、ガラス質の垂下がみられる。使用時の下側か。第 119 図 - 9 は肥前・波佐見系の染付碗類。外面に草花文を配する。近世後葉～近代初頭か。SD-374 など調査区内に同様の文様の中丸碗が出土する。

第490号土坑 (SK-490) (第89図)

位置 C区K・10グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-487 → SK-488 → SK-490 → SK-489、SK-522 → SK-489の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状である。底面の規模は、東西0.5～0.6m・南北約1.4m、主軸N-18°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.15m前後、レベル30.5m前後である。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第519号土坑 (SK-519) (第89図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-519 → P-518の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.76m・南北約0.3m、主軸N-58°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.1m、レベル30.63mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第522号土坑 (SK-522) (第89図)

位置 C区K-10グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-487 → SK-488 → SK-490 → SK-489、SK-522 → SK-489の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約0.45m・南北約0.4m、主軸N-67°-Wである。**底面** ローム層を凹状に掘り込む。遺構確認面からの深さ0.13～0.18m、レベル30.47～30.42mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第561号土坑 (SK-561) (第89図)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約1.0m・南北0.4～0.46m、主軸N-69°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.25m、レベル30.4mである。**覆土** 1層が確認される。埋土か。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第762号土坑 (SK-762) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北東隅部は調査区外に延びる。**重複関係** SK-204・205より古い。SK-763との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 不整形であるが、概ね東西に長い。底面の規模は、東西(1.9)m・南北(1.2)mである。主軸はN-81°-Wである。**底面** ローム層を掘り込み、概ね平坦である。確認面からの深さ0.1m前後、底面レベル29.4m前後である。**覆土** SP-A: 3層を確認した。現地調査の所見では埋め戻し土の可能性が指摘される。**付属施設** p1～3が確認される。帰属等詳細は不明である。p1は東西約0.2m・南北約0.14m、p2は径約0.1m、p3は東西約0.16m・南北約0.9mである。底面レベル・覆土は確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第763号土坑 (SK-763) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北東隅部は調査区外に延びる。**重複関係** SK-222・SK-762との詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 東側は調査区外に延びる。底面の規模は、全長(1.4)m。詳細は不明である。**底面** ローム層を3段に掘り込むが詳細は不明である。SK-762と接する面は、SK-762より5.0cmほど低いか。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-204・205・SK-763重複部から1片が出土する。SK-204に記載する。礫1片である。

第764号土坑 (SK-764) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-250より古い。SE-243より古いとみられる。**形状・**

規模・主軸 形状は重複により不明である。底面の規模は、東西(0.65)m・南北(0.7)mである。**底面** ローム層を掘り込むが詳細は不明である。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-250～252周辺から7片が出土する。SK-250に記載する。

第765号土坑 (SK-765) (第72図)

位置 A区P-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-252と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い長方形形状である。底面の規模は、東西(0.86)m・南北約3.18mである。**底面** ローム層を掘り込む。SK-251底面より0.17m程下位か。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第766号土坑 (SK-766) (第72図)

位置 A区Q-20グリッドに位置する。**重複関係** SK-248・251と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い長方形形状である。底面の規模は、東西(1.0)m・南北(0.7)mである。主軸はN-75°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。SK-248底面より0.04m程下位か。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第806号土坑 (SK-806) (第85図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-411→SK-410→SK-806の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** SK-410内に掘り込まれ、東側は調査区外に延びるため形状は不詳である。底面の規模は、東西0.6m以上・南北0.5m以上か。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ0.35m前後、表土下約0.8m、レベル30.23mである。**覆土** 4層が確認される。1層は不整である。SK-410と似るが、総じて、ロームブロックの堆積が多い。**遺物出土状況** SK-410・411(SK-806も含むか)重複部覆土中から12片が出土する。土器類6片、陶磁器6片である。SK-410に記載する。

第808号土坑 (SK-808) (第86図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-451→452の順に掘り込まれる。SK-808・809とは不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長いである。底面の規模は、東西1.0m前後・南北約0.25m、主軸N-2°-Eである。概ね磁北に平行する。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.24m、レベル30.36mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第809号土坑 (SK-809) (第86図)

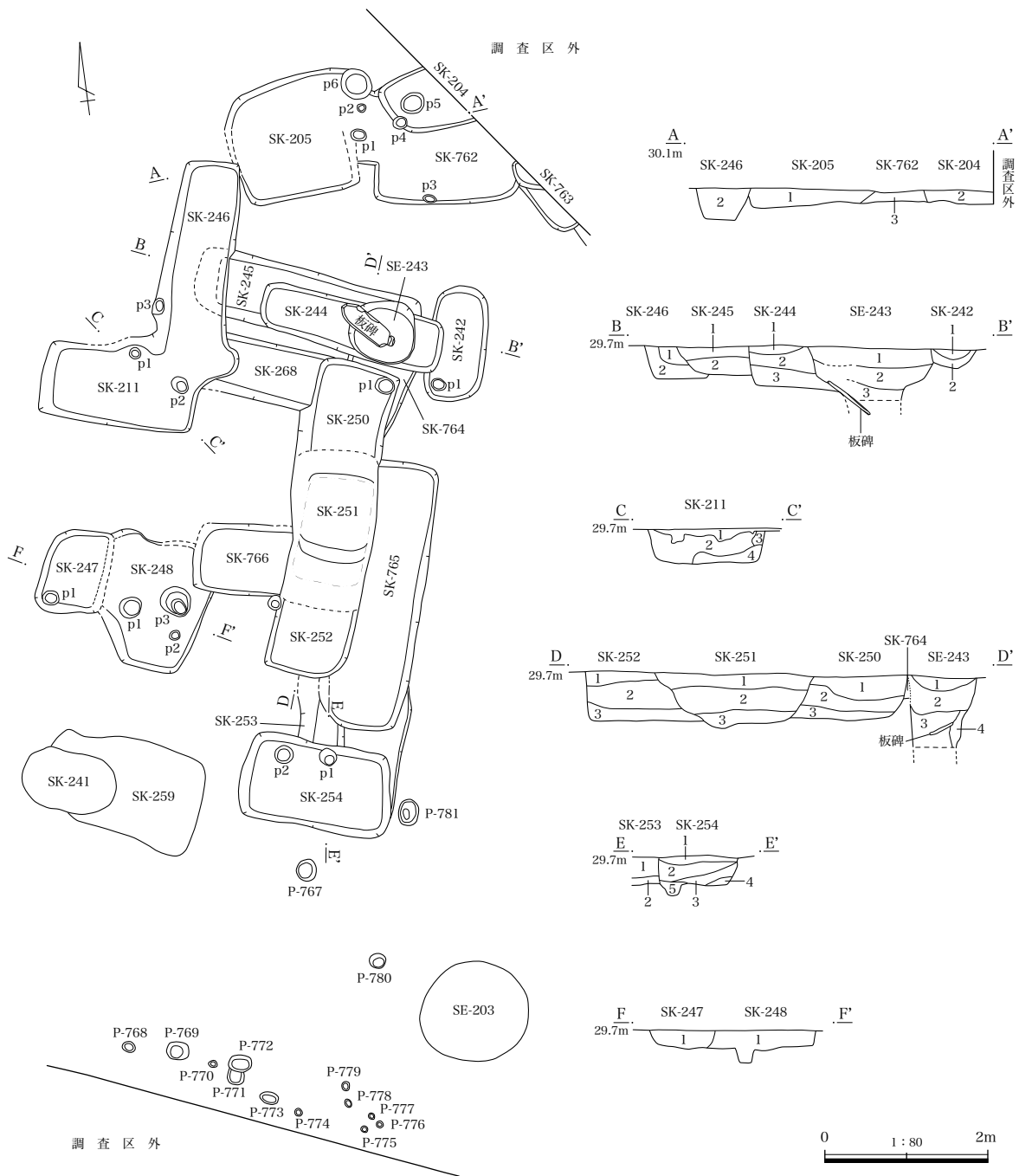
位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** SK-451→452の順に掘り込まれる。SK-808・809とは不明である。**形状・規模・主軸** 円形状である。底面の規模は、径約0.5mである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.06m、レベル30.54mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第810号土坑 (SK-810) (第88図)

位置 C区J-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-仮③65→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→SK-463→SK-464、SK-462・SK-811→SK-461の順に掘り込まれる。SK-461とP-812とは不明である。**形状・規模・主軸** SK-465との重複により形状であるが、東西に長い形状か。底面の規模は、東西(0.1)m以上・南北(0.3m)、主軸N-65°-Wである。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.52mである。**覆土** 2層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第811号土坑 (SK-811) (第88図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-810→SK-465→SK-464、SK-461→SK-462→SK-



第72図 第204・205・211・242～248・250～254・268・762～766号土坑
第767～781号ピット実測図

463 → SK-464, SK-462・SK-811 → SK-461 の順に掘り込まれる。SK-461 と P-812 とは不明である。 **形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状か。底面の規模は、東西約 0.32 m・南北約 0.45 m、主軸 N-17° -E である。
底面 ローム層を掘り込む。凹凸が観察される。遺構確認面からの深さ約 0.16 m、レベル 30.58 m である。
覆土 1層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

SK-204	2 暗黄褐色土	ローム微粒子多量、ロームブロック含む。しまりやや強い。粘性強い。	SK-248	1 暗黄褐色土	ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややあり。
SK-205	1 暗黄褐色土	ローム微粒子多量、ローム粒子含む。ロームブロック・炭化物粒子少量。しまりやや強い。粘性強い。	SK-250	1 暗褐色土	ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
SK-211	1 暗褐色土	ローム微粒子・ローム粒子・焼土粒子含む。しまり強い。粘性なし。	2 暗黄褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。	
2 暗黄褐色土	ローム微粒子含む。黒色土少量。しまりなし。粘性やや強い。	3 暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。		
3 褐色土	ローム微粒子多量、ローム粒子少量。しまり強い。粘性やや強い。	SK-251	1 暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。	
4 黄褐色土	ローム微粒子含む。ロームブロック主体。しまり強い。粘性やや強い。	2 暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック多量、黒色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。		
SK-242	1 暗褐色土	ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。	3 暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。	
2 暗黄褐色土	ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	SK-252	1 暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。	
SK-243	1 暗褐色土	ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	2 暗黄褐色土	ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。	
2 暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。	3 暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。		
3 暗黄褐色土	ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。	SK-253	1 暗黄褐色土	ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	
SK-244	1 暗褐色土	ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	2 暗黄褐色土	ローム含む。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。	
2 暗黄褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。	SK-254	1 暗褐色土	ローム粒子含む。しまりあり。粘性ややあり。	
3 暗黄褐色土	ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。	2 暗黄褐色土	ローム粒子含む。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。		
SK-245	1 暗黄褐色土	ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。	3 暗黄褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。	
2 暗黄褐色土	ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。	4 暗黄褐色土	ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。		
SK-246	1 暗黄褐色土	ローム含む。しまりあり。粘性ややあり。	5 暗黄褐色土	ローム・ローム粒子少量。	
2 暗黄色土	ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。	SK-762	3 暗黄褐色土	ローム微粒子・ロームブロック多量。しまりやや強い。粘性強い。	
SK-247	1 暗黄褐色土	ローム粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。			

第 814 号土坑 (SK-814) (第 88 図)

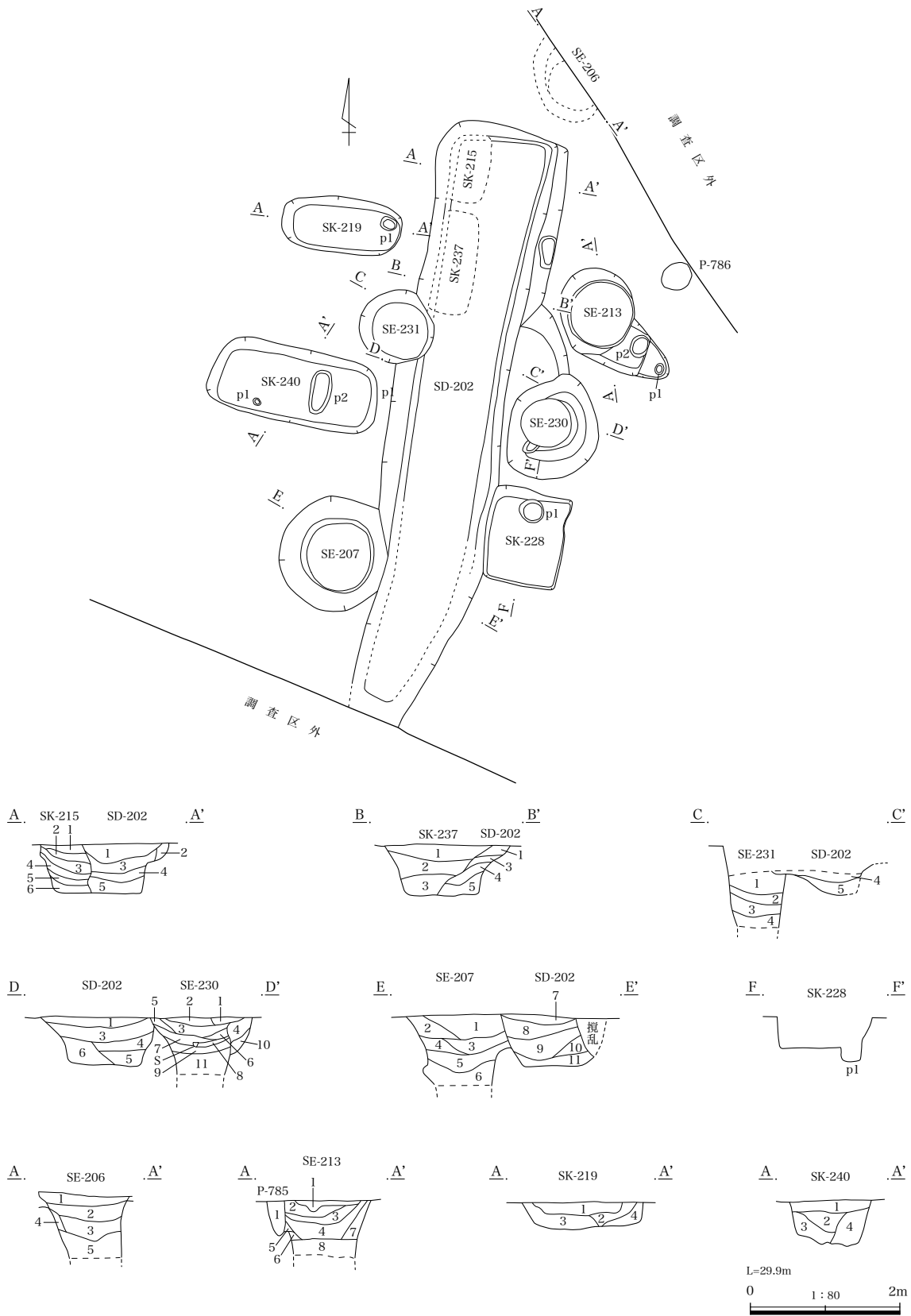
位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-458 → SK-457・SK-459、P-813 → SK-459 の順に掘り込まれる。SK-457 と P-814 とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い不整形である。底面の規模は、東西 0.75 m 以上・南北 0.25 m 以上、主軸 N-81° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.07 m、レベル 30.65 m である。**覆土** 1 層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 818 号土坑 (SK-818) (第 88 図)

位置 C区J-10グリッドに位置する。**重複関係** SK-458 と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 方形状である。底面の規模は、東西約 0.5 m・南北約 0.54 である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.147 m、レベル 30.58 m である。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 831 号土坑 (SK-831) (第 86 図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** SK-439 → (SK-440 → P-441 か)、(SK-439 → SK-438 か) → SK-437、SK-438 → SK-444、(SK-440 → P-442 か) の順に掘り込まれる。SK-438:SK-831、SK-439・P-830 m・南北 (0.32) m 以上、主軸 N -54° -E である。**底面** ローム層を掘り込む。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** SK-437 ~ 444 重複部覆土中から 3 片が出土する。土器類 3 片、磁器 1 片である。SK-437



第73図 第202号溝状遺構・第206・207・213・230・231号井戸跡・
第215・219・228・237・240号土坑・第785号ピット実測図

SD-202

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄色土 暗黄褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・暗黄色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 7 暗黄褐色土 ローム粒子微量、ロームブロック・暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロック少量、暗褐色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 9 暗黄褐色土 ロームブロック含む。暗褐色土やや含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 10 暗黄色土 暗黄褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 11 暗黄色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-206

- 1 暗褐色土 ローム微粒子含む。炭化物少量。しまりなし。粘性強い。
- 2 褐色土 ローム微粒子多量、白色粘土粒子少量。しまりなし。粘性なし。
- 3 褐色土 ローム微粒子多量、ロームブロック少量。しまりなし。粘性なし。
- 4 明褐色土 ローム微粒子多量。しまりなし。粘性なし。
- 5 暗褐色土 ローム微粒子含む。ローム粒子多量。しまりなし。粘性強い。

SE-207

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 黄色土・暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 黄色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒子・暗黄色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-785

- 1 暗黄色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性弱い。

SE-213

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土少量、白色粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 黄褐色土 ローム粒子・暗黄褐色土少量、白色粘土微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 黄褐色土 ロームブロック多量、白色粘土微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗黄色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 7 暗黄色土 ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 8 暗黄色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-215

- 1 暗黄褐色土 黒褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-219

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量、黒色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック含む。黒色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-230

- 1 黒色土 攪乱。
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム・ローム粒子・黒色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子含む。暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 黒色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 7 暗褐色土 ローム粒子含む。礫少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 9 暗黄褐色土 ローム粒子・黒色粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 10 暗褐色土 ローム粒子・黒褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 11 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-231

- 1 黒褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック・黒色土少量。しまり弱い。粘性ややあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒子多量、黒色土少量。しまり弱い。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・黒色土少量。しまり弱い。粘性ややあり。
- 4 黒褐色土 ロームブロック・黒色土含む。しまり弱い。粘性ややあり。

SK-237

- 1 暗褐色土 ローム粒子・黒色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-240

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子微量、黒色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 暗黄色土含む。白色粘土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

に記載する。

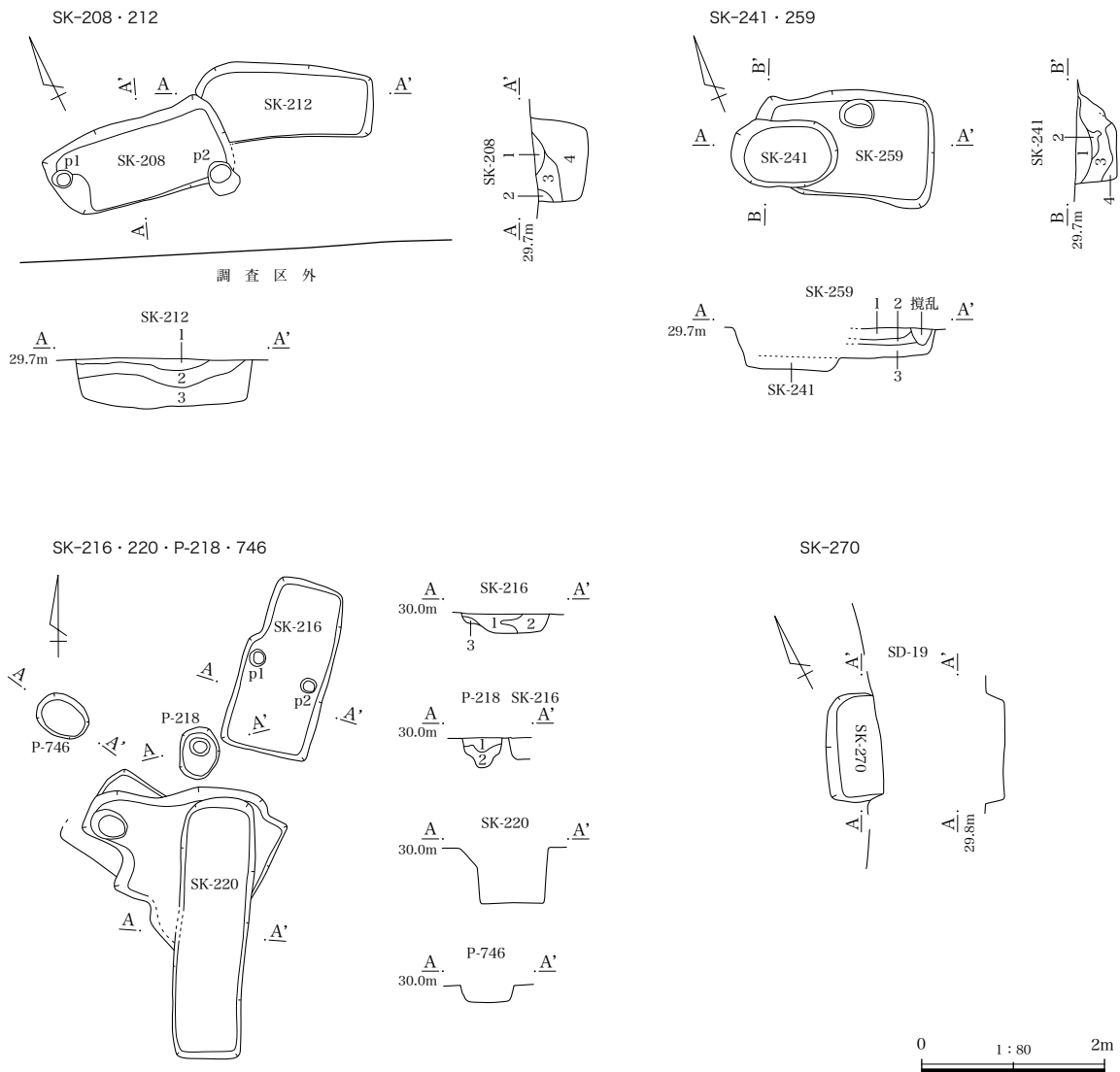
第 836 号土坑 (SK-836) (第 89 図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 東西に長い長円形状である。底面の規模は、東西約 0.63 m・南北約 0.39、主軸 N -55° -W である。**底面** ローム層を掘り込む。西側はピット状に彫り込まれる。遺構確認面からピット状部分底面までの深さ約 0.29 m、レベル 30.47 m である。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 837 号土坑 (SK-837) (第 81 図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** SK-407 → SK-406・408 の順

第3章 確認された遺構と遺物



SK-208

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性強い。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性強い。
- 3 黒色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性なし。
- 4 黄褐色土 ロームブロック多量、黒色土少量。しまりなし。粘性なし。

SK-212

- 1 暗褐色土 ローム微粒子含む。ロームブロック少量。しまりやや強い。粘性やや強い。
- 2 暗黄褐色土 ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロック含む。しまりなし。粘性やや強い。
- 3 黄褐色土 ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。粘性やや強い。

SK-216

- 1 褐色土 ローム粒子・ローム微粒子含む。ロームブロック少量。しまりやや強い。粘性やや強い。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子少量、ローム微粒子多量。しまりなし。粘性なし。
- 3 黄褐色土 ローム微粒子含む。しまりなし。粘性なし。

P-218

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、炭化物粒子微量。しまり強い。粘性やや強い。
- 2 褐色土 ローム粒子・ローム微粒子多量。しまりなし。粘性なし。

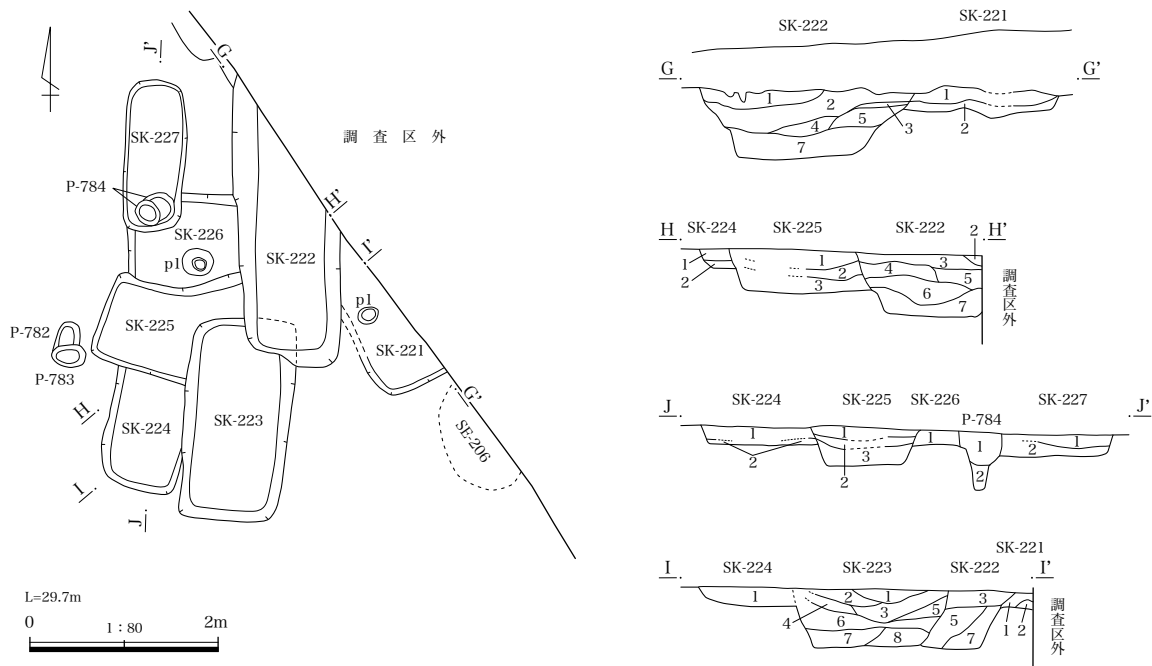
SK-241

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。暗褐色土少量。しまりあり。粘性やや強い。
- 2 黒色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性やや強い。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性やや強い。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性やや強い。

SK-259

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性やや強い。
- 2 暗黄褐色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性やや強い。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性やや強い。

第74図 第208・212・216・220・241・259・270号土坑・第218・746号ピット実測図



- | | |
|--|---|
| <p>SK-221</p> <p>1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>2 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>SK-222</p> <p>1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>2 暗黄褐色土 黒色土多量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>3 暗黄褐色土 ロームブロック・黒褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>4 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>5 暗黄褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック多量、黒色土微量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>6 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>7 明褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>SK-223</p> <p>1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。黒褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>2 暗黄褐色土 ローム粒子・黒褐色土・暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>3 暗黄褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>4 暗黄褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>5 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>6 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>7 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまり弱い。粘性ややあり。</p> <p>8 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまり弱い。粘性ややあり。</p> | <p>SK-224</p> <p>1 暗黄褐色土 ローム粒子・黒褐色土少量、鹿沼粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>SK-225</p> <p>1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>2 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>SK-226</p> <p>1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>SK-227</p> <p>1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>2 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>P-784</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。</p> <p>2 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。</p> |
|--|---|

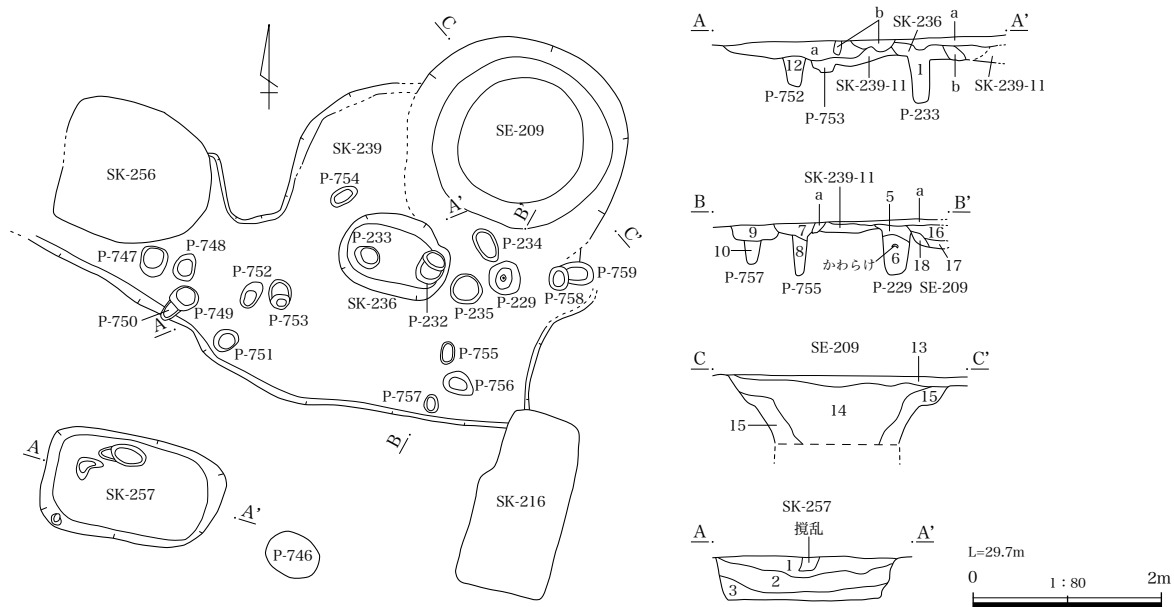
第75図 第221～227号土坑・第782～784号ピット実測図

に掘り込まれる。SK-408・SK-837 とは不詳である。 **形状・規模・主軸** 南北に長い長円形状か。底面の規模は、東西約0.6m・南北約0.36、主軸N-47°-Wである。 **底面** ローム層を掘り込む。底面はピット状に穿たれる。径約0.3m前後の不整な円形状である。遺構確認面からの深さ約0.24m、レベル30.52mである。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第839号土坑 (SK-839) (第87図)

位置 C区K-11・L-11・12グリッドに位置する。 **重複関係** SK-839→SK-449、SK-844・845とは不明である。北側は区外に延びる。 **形状・規模・主軸** 方形状か。西側は判然としない。底面の規模は東

第3章 確認された遺構と遺物



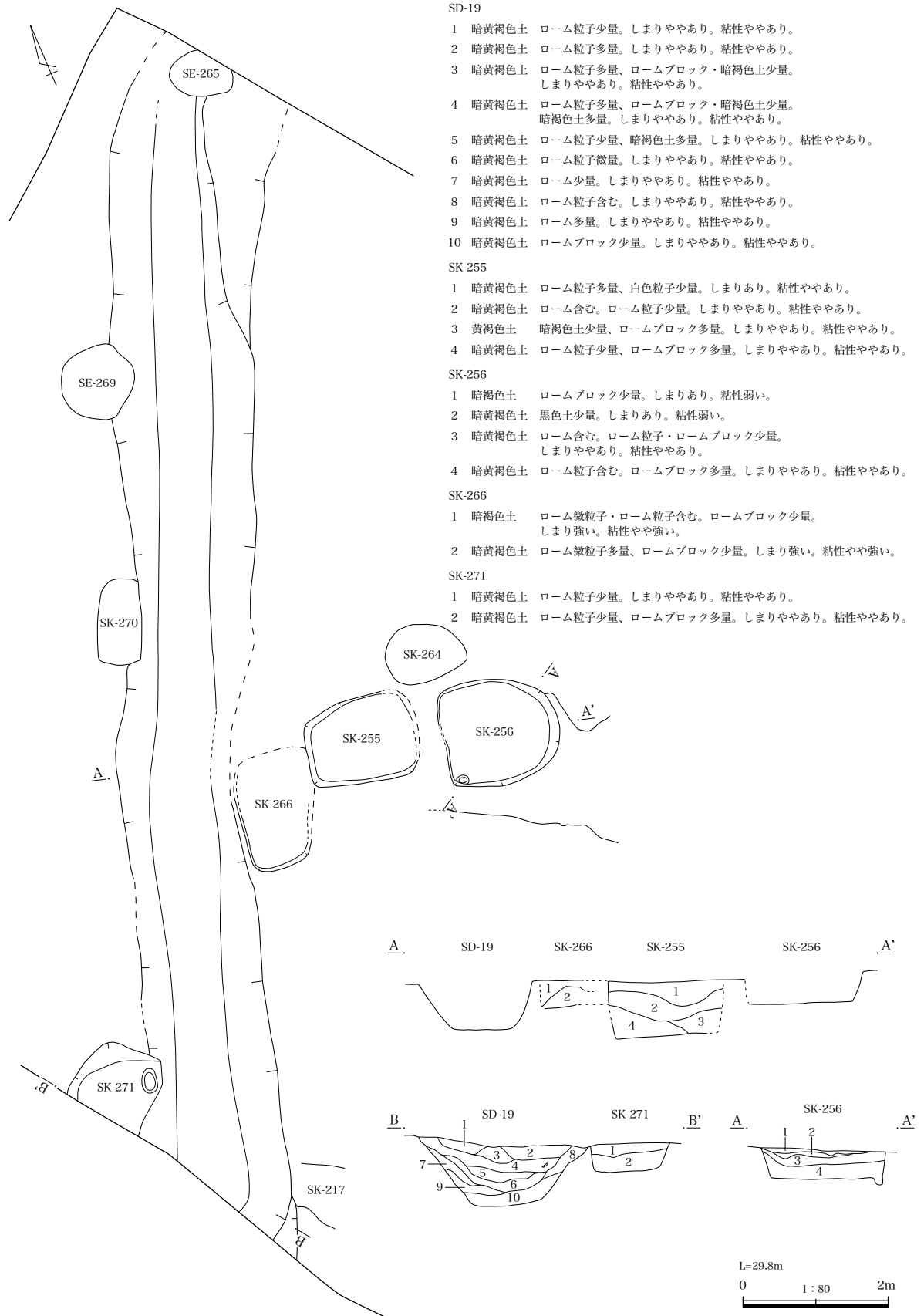
表土		SK-239
a	褐色土	11 黄褐色土
	ローム微粒子・ローム粒子含む。ロームブロック・炭化物粒子少量。しまり強い。粘性なし。	ローム微粒子多量、ロームブロック含む。しまりなし。粘性やや強い。
b	暗褐色土	ローム微粒子・ローム粒子少量。しまり強い。粘性なし。
SE-209		SK-257
13	暗褐色土	1 暗黄褐色土
	ローム微粒子含む。しまりやや強い。粘性なし。	ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややあり。
14	褐色土	2 黄褐色土
	ローム微粒子やや多量、ローム粒子・炭化物少量。しまりなし。粘性やや強い。	ローム・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
15	暗黄褐色土	3 暗黄褐色土
	ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロックやや多量。しまりやや強い。粘性やや強い。	ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
16	13層に対応。	P-752
17	15層に対応。	12 暗黄褐色土
18	15層に対応。	ローム微粒子多量。しまりなし。粘性やや強い。
P-229		P-755
5	暗黄褐色土	7 褐色土
	ローム微粒子多量、ローム粒子少量。しまり強い。粘性なし。	ローム微粒子多量、ローム粒子含む。炭化物粒子微量。しまり強い。粘性なし。
6	暗褐色土	8 暗褐色土
	ローム微粒子多量、灰白色粘土微粒子含む。しまりやや強い。粘性やや強い。	ローム微粒子多量。しまりなし。粘性やや強い。
P-233・SK-236		P-757
1	暗黄褐色土	9 暗黄褐色土
	ローム微粒子・ローム粒子含む。しまりなし。粘性やや強い。	ローム微粒子多量、ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまり強い。粘性なし。
		10 暗褐色土
		ローム微粒子・ロームブロック含む。しまりなし。粘性強い。

第76図 第209号井戸跡・第236・239・257号土坑・第229・232～235・747～759号ピット実測図

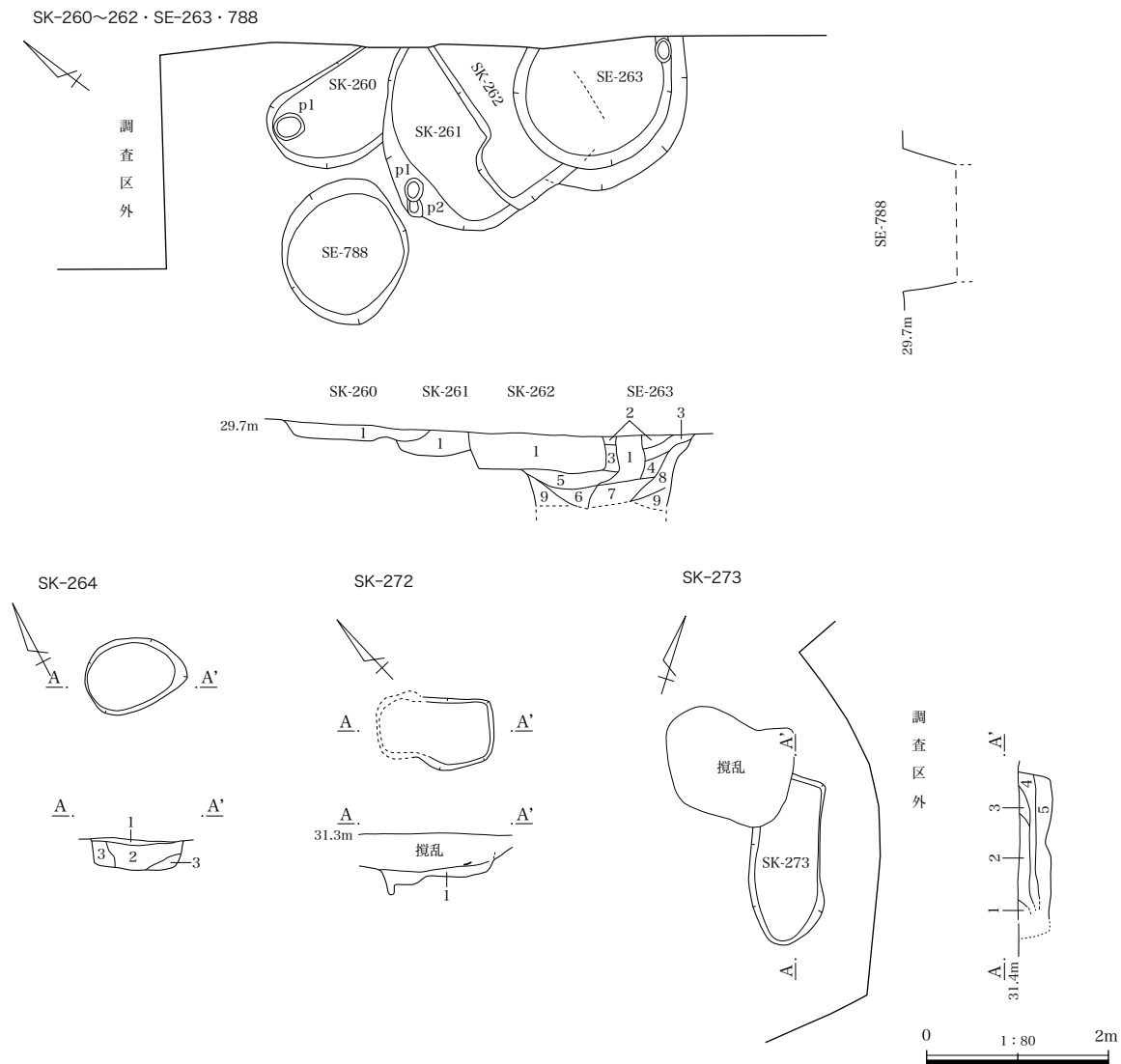
西 (3.1) m・南北 (1.8) m以上、主軸は N-39° -E か。底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.1 m、レベル 30.33 m である。覆土 1層が確認される。焼土粒子を含む。重複する SK-845 の硬化面に関連するか。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第841号土坑 (SK-841) (第87図)

位置 C区 K-11 グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。重複関係 SK-446 → SK-484、SK-447 → SK-448 → SK-484、SK-839 → SK-449 → SK-841 → P-842 → SK-484、SK-839 → SK-840 の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843 は不明である。形状・規模・主軸 南北に長い形状である。底面の規模は、東西約 0.32 m・南北 (0.7) m 以上、主軸 N-27° -E である。底面 ローム層を掘り込む。凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ 0.2 ~ 0.28 m、レベル 30.34 ~ 30.26 m である。覆土 1層が堆積する。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。



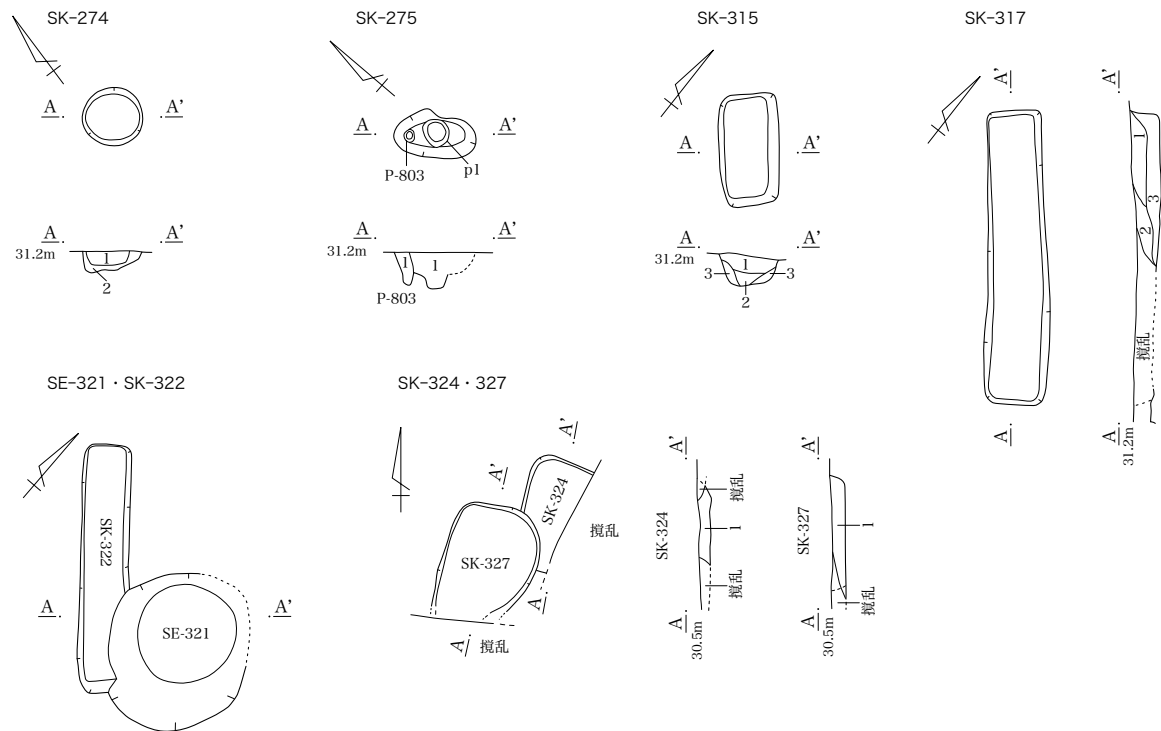
第3章 確認された遺構と遺物



- SK-260
- 1 暗黄色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-261
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-262
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SE-263
- 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。SK-262 掘削時に底面を平らにするため入れたか？
- 6 暗褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック・暗黄褐色土少量。4層より黄色味弱い。しまりややあり。粘性ややあり。
- 7 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック微量。しまり弱い。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ローム含む。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 9 暗黄色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

- SK-264
- 1 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややなし。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック含む。しまりあり。粘性ややなし。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりあり。粘性ややなし。
- SK-272
- 攪乱 黒褐色土 ロームブロック少量。しまり弱い。粘性ややあり。
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-273
- 1 暗褐色土 白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 暗褐色土含む。ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄褐色土 暗褐色土・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

第78図 第263・788号井戸跡・第260～262・264・272・273号土坑実測図

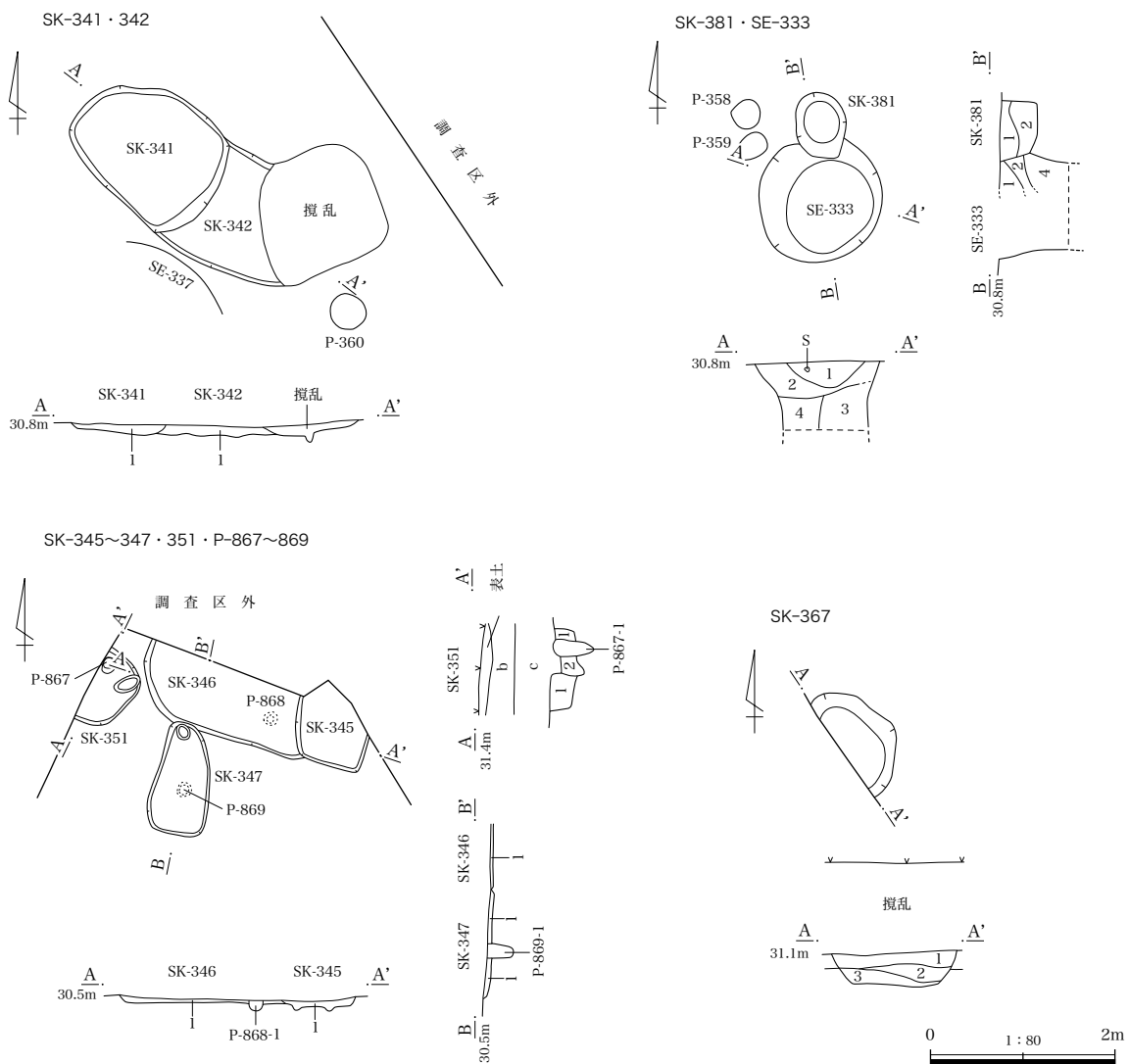


- SK-274
 1 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 2 暗黄褐色土 黄色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-275
 1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 P-803
 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-315
 1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 2 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 3 暗黄色土 暗褐色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-317
 1 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりあり。粘性ややあり。
 2 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。
 3 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややあり。
- SE-321
 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 2 暗灰褐色土 白色シルト含む。ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 3 暗灰色土 暗褐色土含む。しまり弱い。粘性ややあり。
 4 暗褐色土 白色シルト含む。ローム粒子微量。しまり弱い。粘性ややあり。
 5 暗灰色土 暗褐色土少量。しまり弱い。粘性ややあり。

- SK-322
 1 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-324
 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・暗黄色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-327
 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-325
 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-326
 1 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。(1層より黄色味帯びる)
- SK-336
 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 2 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりやや弱い。粘性ややあり。

第79図 第274・275・315・317・322・324～327・336号土坑・第321号井戸跡実測図

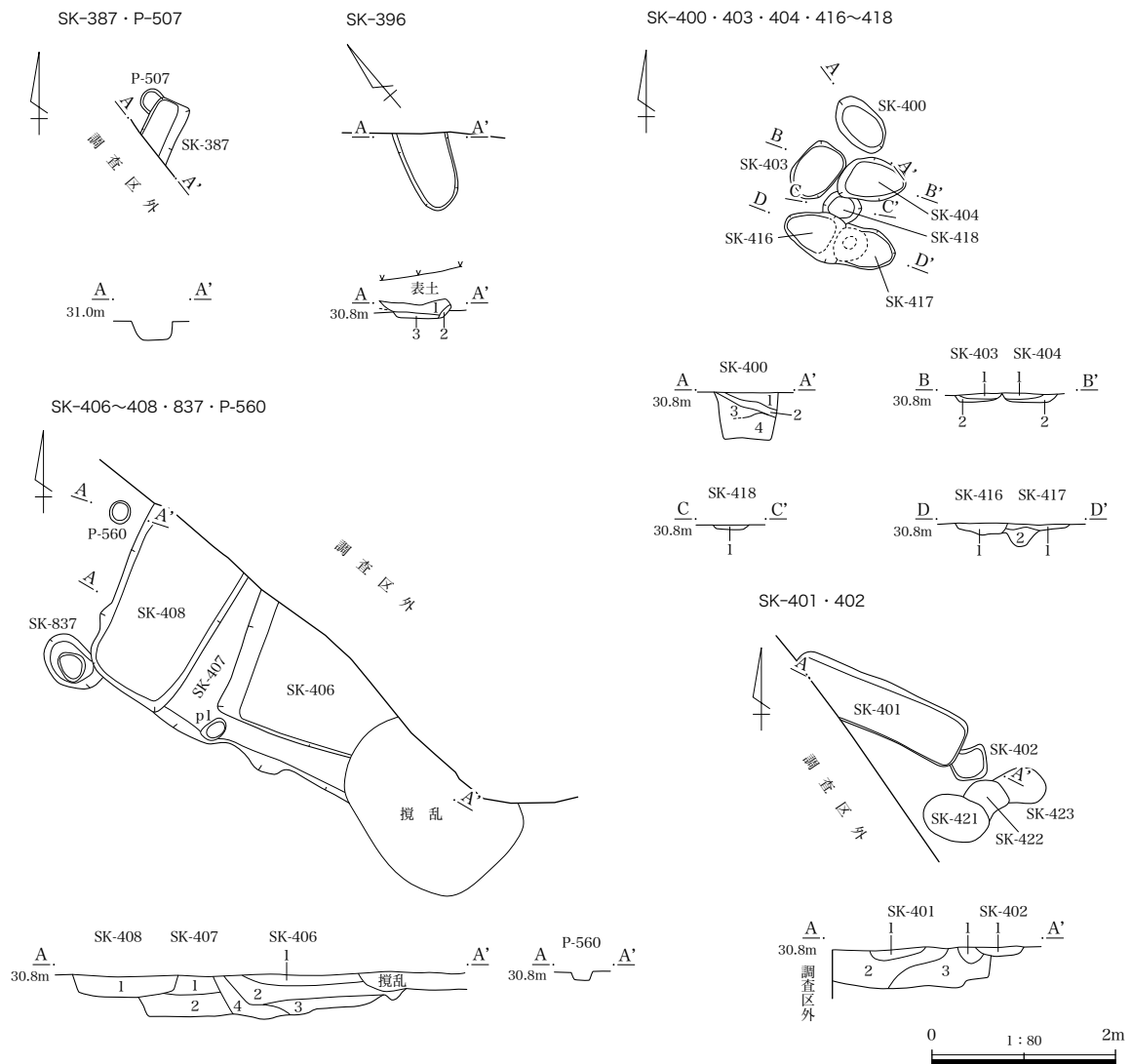
第3章 確認された遺構と遺物



- SE-333
- 1 暗褐色土 ローム粒子微量、白色粘土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 ローム少量、ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 4 暗褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-341
- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-342
- 1 暗黄褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-345
- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-346
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-347
- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-351
- a 砂層
 - b 暗褐色土
 - c 暗褐色土
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量、暗褐色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。

- SK-367
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。2層より黄色味帯びる。
 - 2 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-381
- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- P-867
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- P-868
- 1 暗褐色土 ローム少量、白色粘土微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- P-869
- 1 暗黄褐色土 暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

第80図 第333号井戸跡・第341・342・345～347・351・367・381号土坑・第867～869号ピット実測図



SK-396

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄色土 暗褐色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-400

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-401

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-402

- 1 暗黄褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-403

- 1 暗黄褐色土 白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄色土 暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-404

- 1 暗黄褐色土 白色粒子少量、炭化物微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄色土 暗褐色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-406

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-407

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-408

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-416

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-417

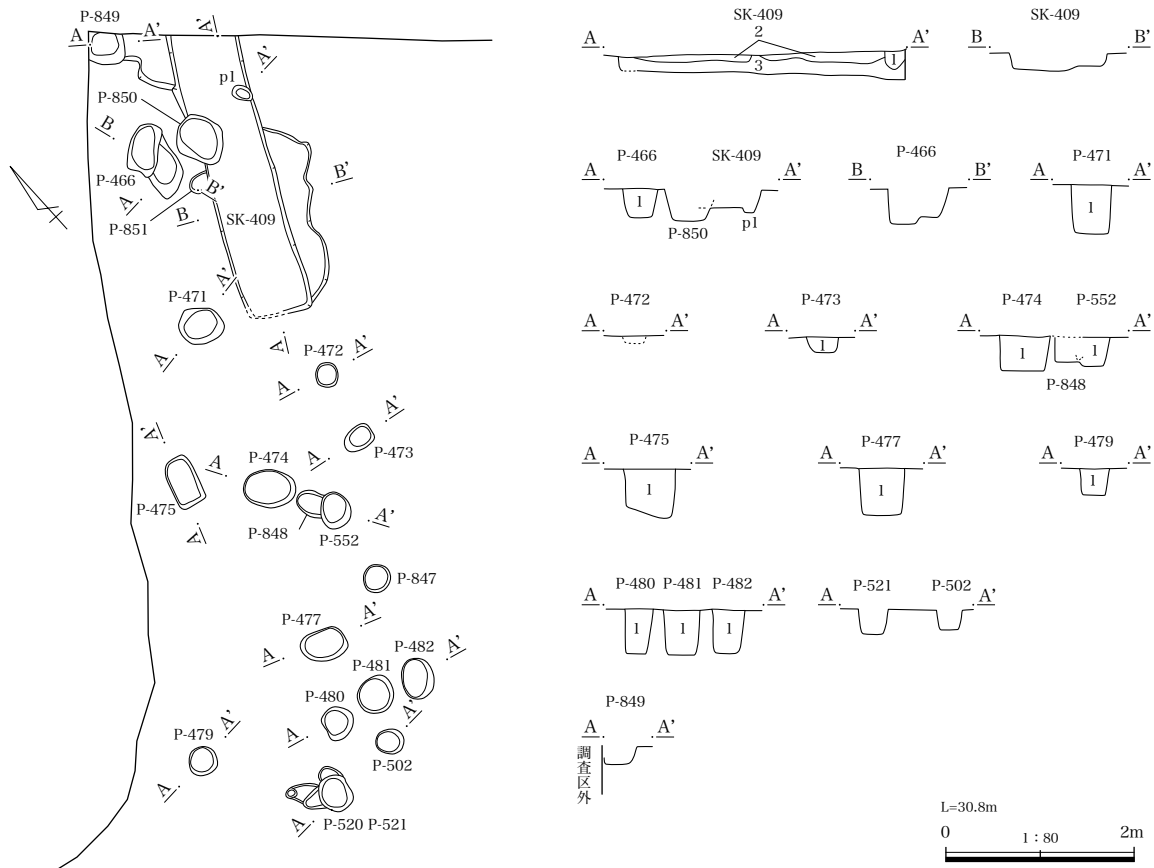
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-418

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

第81図 第387・396・400～404・406～408・416～418・837号土坑・
第507・560号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-409

- 1 暗灰褐色土 ローム微量。しまりややあり。粘性ややあり。
(1は別の土坑か?)
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。

P-471

- 1 暗褐色土 白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-472

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-473

- 1 暗灰褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-474

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-475

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-477

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-479

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-480

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-481

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

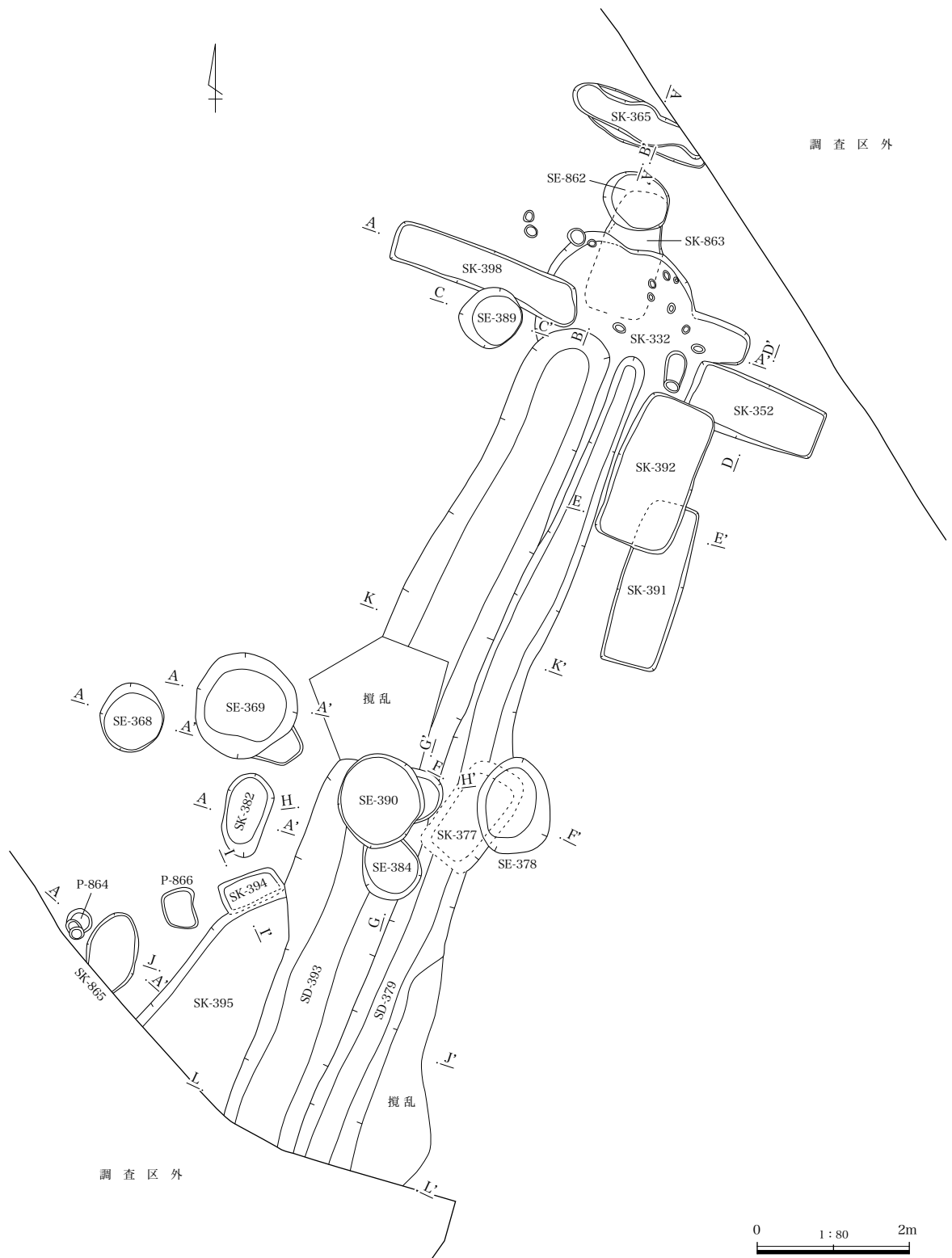
P-482

- 1 暗灰褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-552

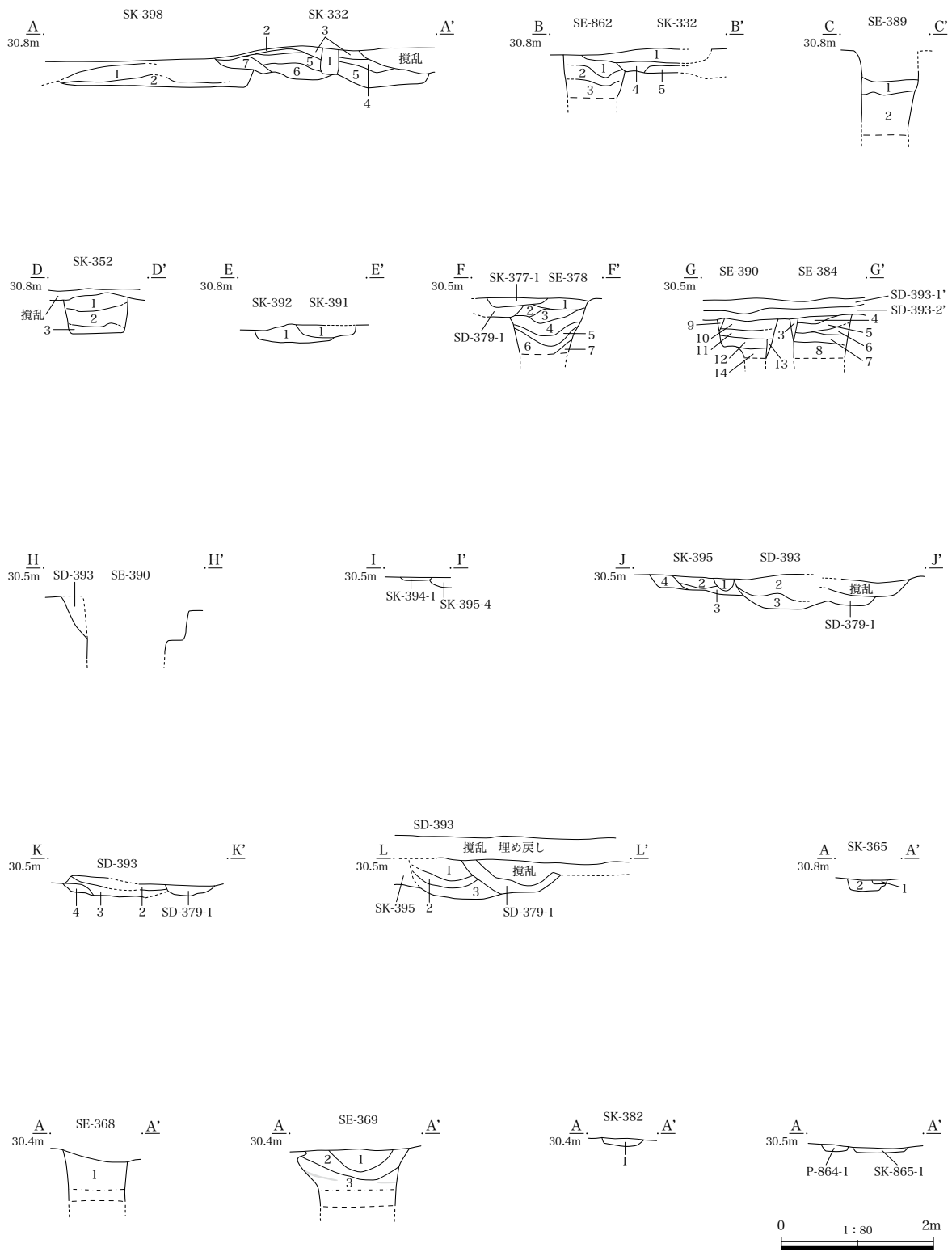
- 1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。

第82図 第409号土坑・第466・471～475・477・479～482・502・520・552・
847～851号ピット実測図



第83図 第379・393号溝状遺構・第368・369・378・384・389・390・862号井戸跡・
 第332・352・365・377・382・391・392・394・395・398・863・865号土坑・
 第864・866号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



第84図 第379・393号溝状遺構・第368・369・378・384・389・390・862号井戸跡・
 第332・352・365・377・382・391・392・394・395・398・865号土坑・
 第864号ピット実測図

SD-379

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
(SD-393の覆土より黄色味帯びる)

SD-393

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
1' 暗黄褐色土 2層に対応。
2' 暗黄褐色土 3層に対応。
3 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
4 暗黄色土 暗褐色土含む。しまりややあり。粘性弱い。

SK-332

- 1 暗黄褐色土 黒褐色土少量。しまりあり。粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ローム粒子微量。しまりあり。粘性ややあり。
3 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。
4 暗黄褐色土 ローム粒子含む。黒褐色土少量。しまりあり。粘性ややあり。
5 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
6 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
7 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。

SK-352

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック含む。しまりややあり。
粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
3 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-365

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりあり。粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりあり。粘性ややあり。

SE-368

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-369

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりややあり。
粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
3 暗黄褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック・炭化材少量。
しまりややあり。粘性ややあり。

SK-377

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-378

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
2 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
3 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまりややあり。
粘性ややあり。
4 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
5 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性あり。
6 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
7 暗黄色土 暗褐色土少量。しまりあり。粘性ややあり。

SK-382

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-384

- 3 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
4 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
5 暗黄褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
6 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
7 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
8 暗黄褐色土 ロームブロック・黒褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-389

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
2 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-390

- 9 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
10 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
11 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
12 暗黄褐色土 ローム粒子微量、ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。
13 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
14 暗褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-391

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-392

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-394

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-395

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
2 暗褐色土 ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
3 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
4 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-398

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。
粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。
粘性ややあり。

SE-862

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック少量。しまりあり。
粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりあり。粘性ややあり。
3 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりあり。粘性ややあり。

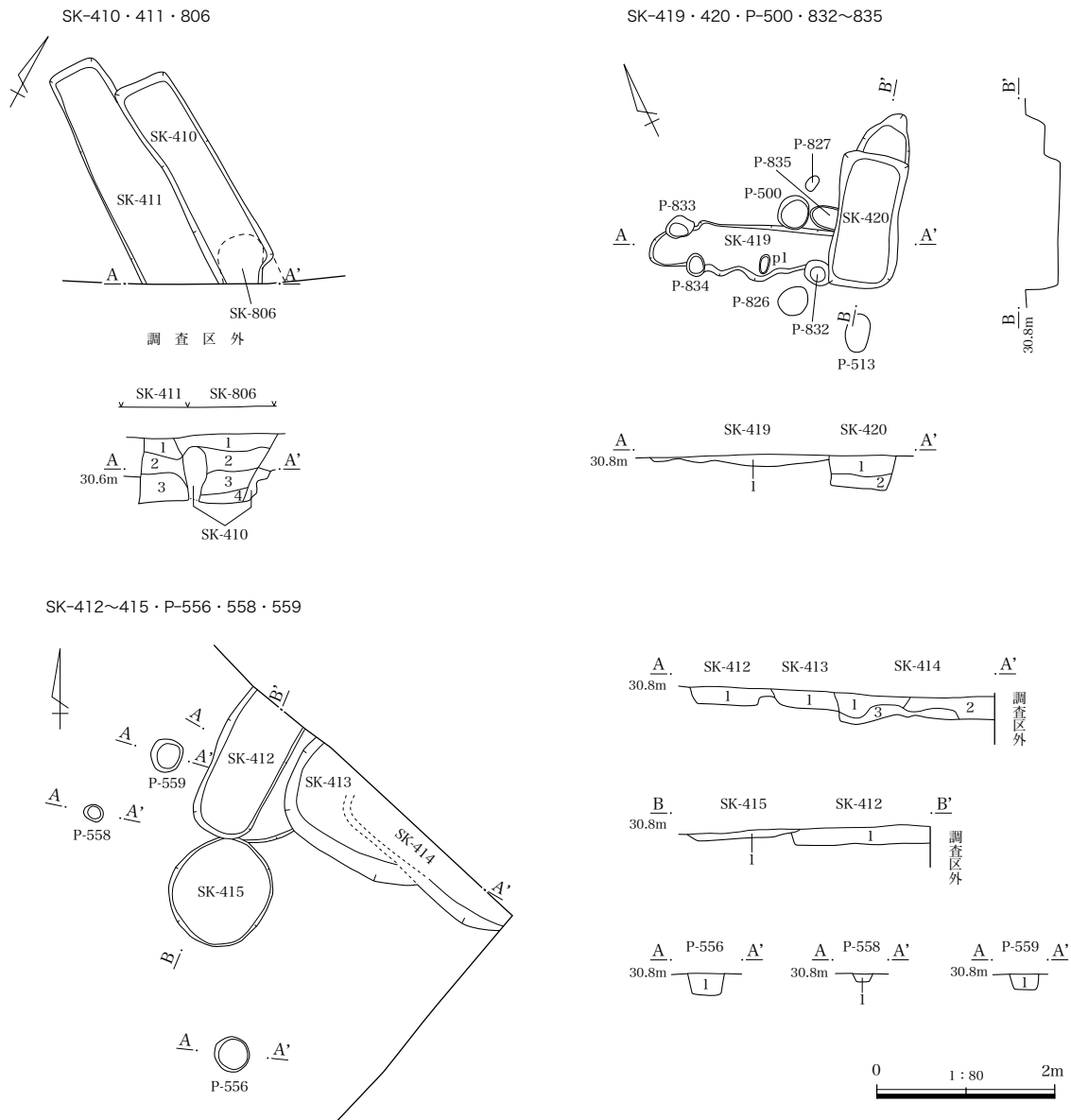
P-864

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-865

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

第3章 確認された遺構と遺物



SK-411

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

全ての層でSK-806よりも褐色味帯びる。

SK-412

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-413

- 1 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりあり。粘性なし。

SK-414

- 1 暗灰褐色土 白色粘土少量。しまりややあり。粘性弱い。
- 2 暗褐色土 白色粘土微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗灰褐色土 白色粘土多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-415

- 1 暗褐色土 白色粘土微量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-419

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-420

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-556

- 1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-558

- 1 暗褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。

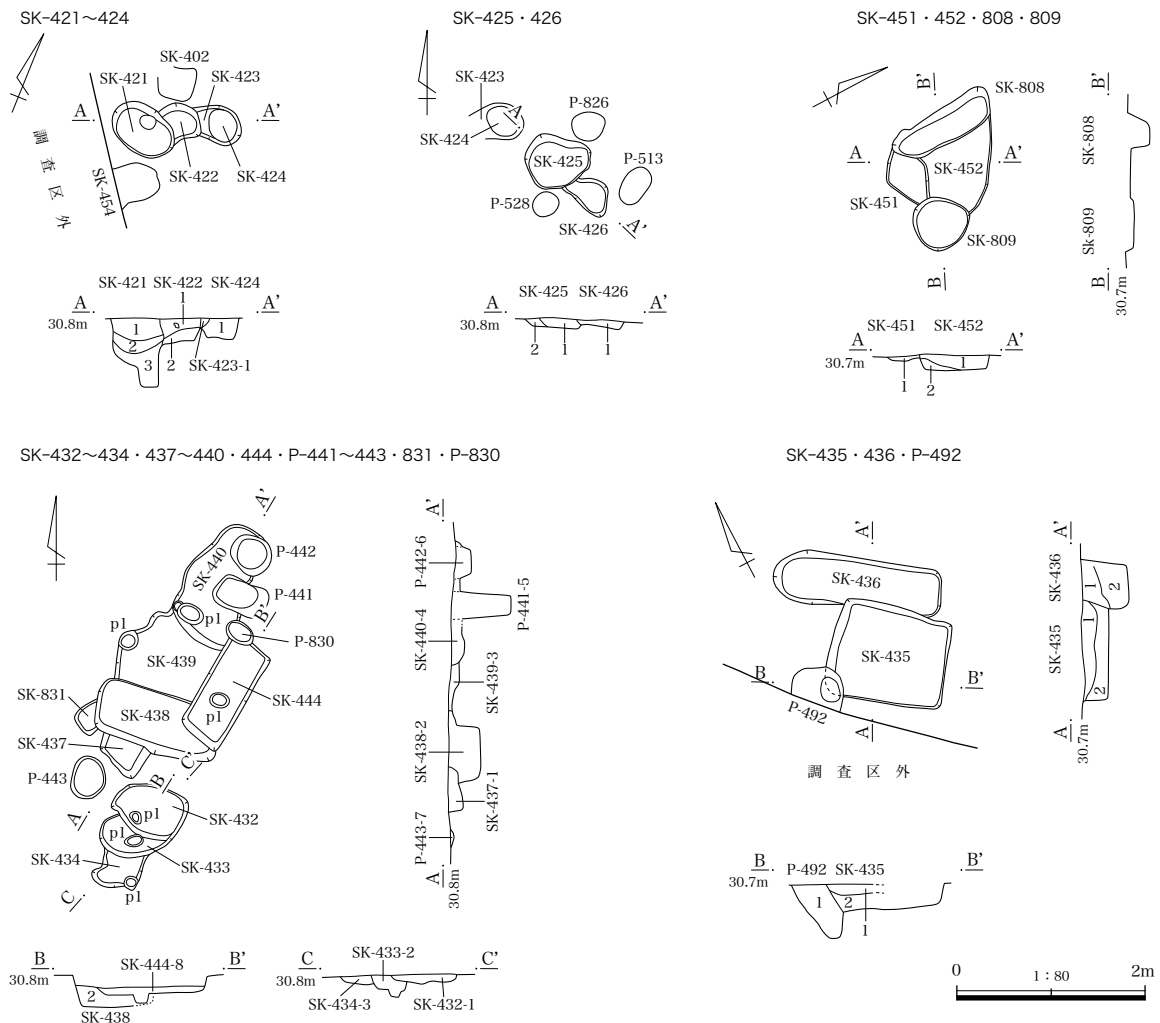
P-559

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-806

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

第85図 第410～415・419・420・806号土坑・第500・556・558・559・832～835号ピット実測図

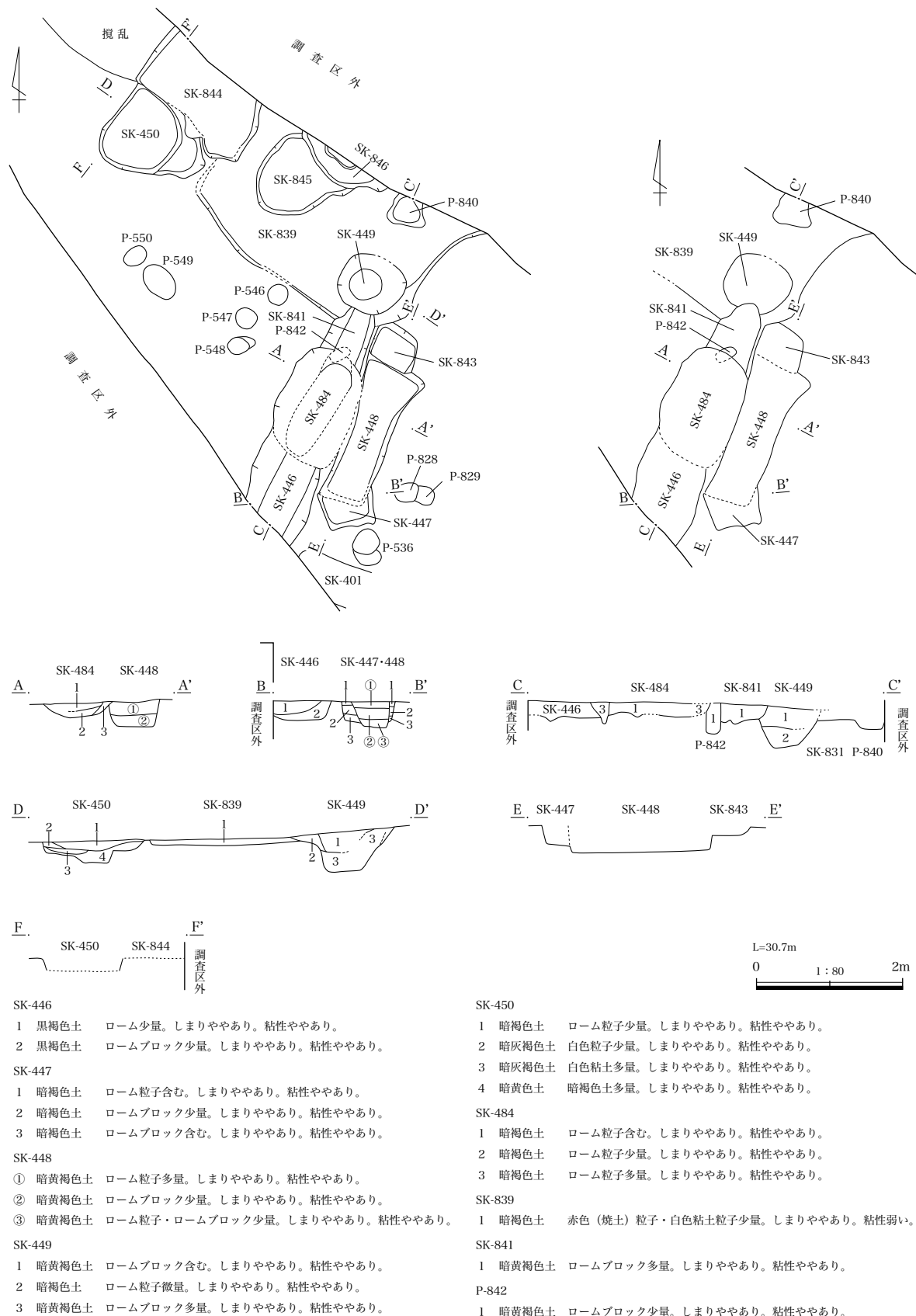


- SK-421
- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-422
- 1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-423
- 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-424
- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-425
- 1 暗黄褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-426
- 1 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-432~434
- 1 SK-432 覆土 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 SK-433 覆土 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 SK-434 覆土 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

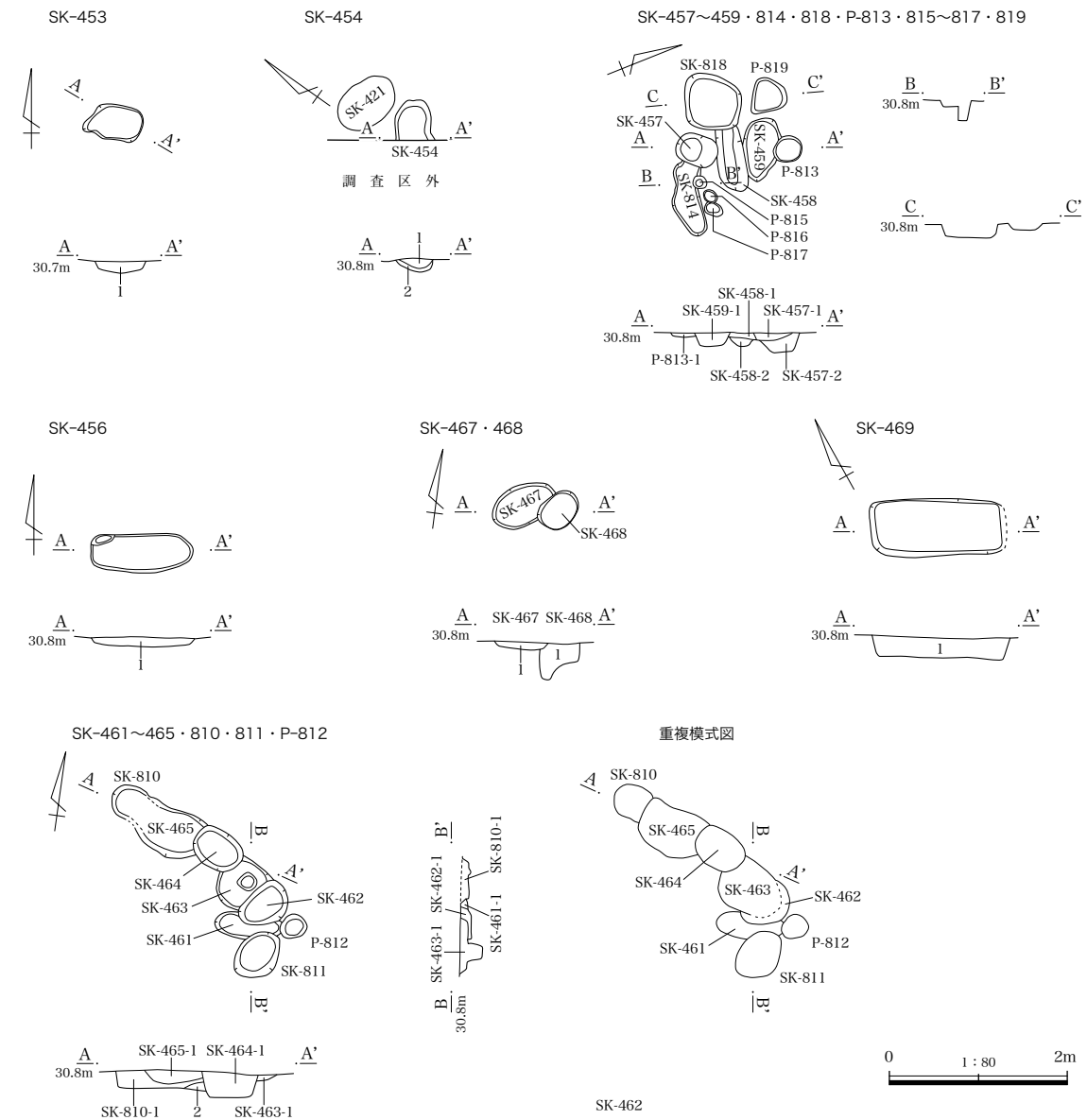
- SK-435
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-436
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-437~440・444・P-441~443
- 1 SK-437 覆土 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 SK-438 覆土 暗褐色土 ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 3 SK-439 覆土 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 4 SK-440 覆土 暗褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 5 P-441 覆土 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 6 P-442 覆土 暗黄褐色土 ロームブロック少量、白色粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 7 P-443 覆土 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 8 SK-444 覆土 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-451
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-452
- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
 - 2 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- P-492
- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまり弱い。粘性ややあり。

第86図 第421～426・432～440・444・451・452号土坑・第441～443・492・830号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



第 87 図 第 446 ~ 450・484・839・841・843 ~ 846 号土坑・第 840・842 号ピット実測図

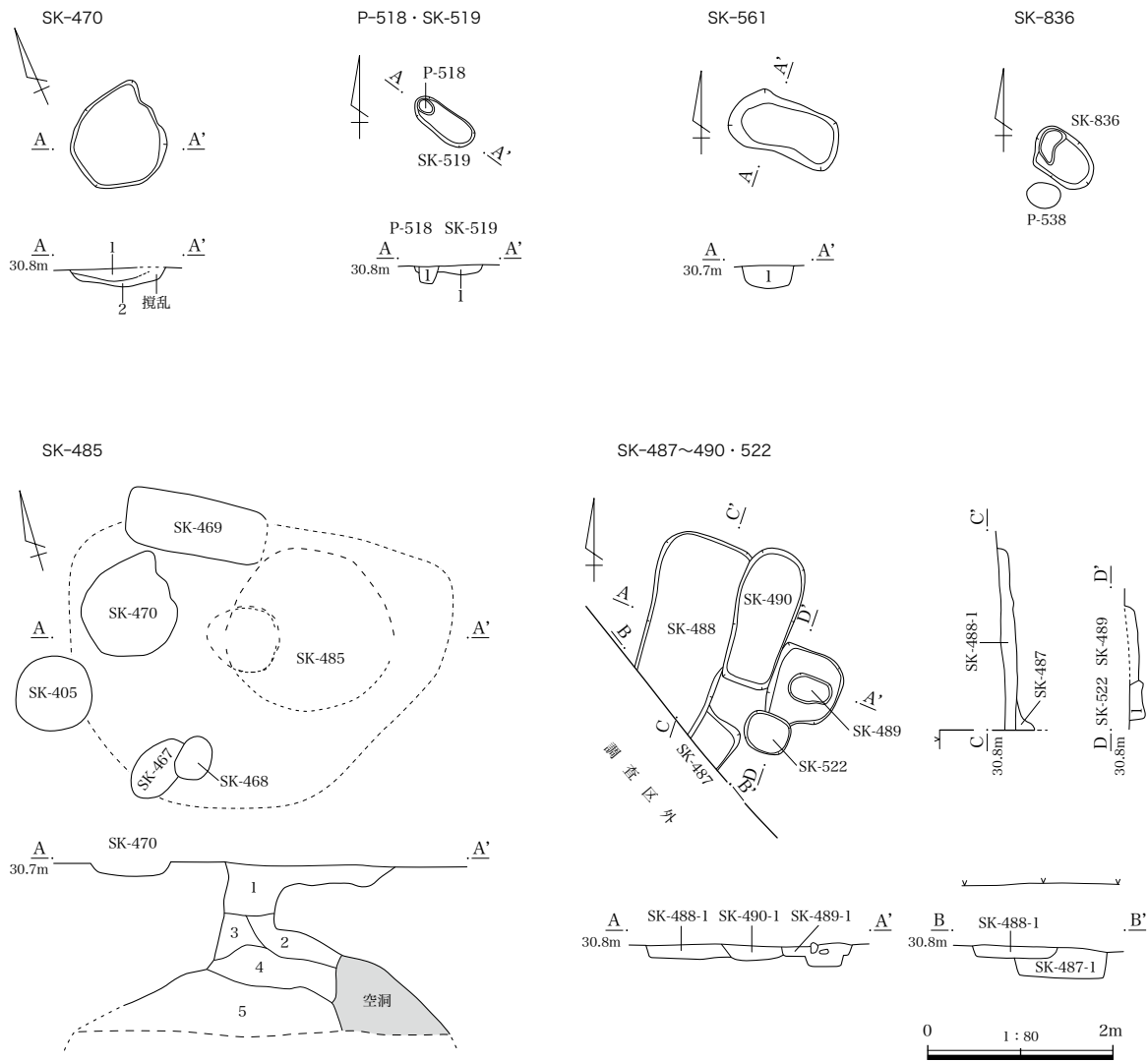


- SK-453
1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-454
1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2 暗黄色土 暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-456
1 暗黄褐色土 ローム粒子・炭化物少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-457
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-458
1 暗黄褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
2 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-459
1 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-461
1 暗黄褐色土 ローム含む。ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

- SK-462
1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-463
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-464
1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-465
1 暗黄褐色土 ローム粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-467
1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-468
1 暗黄褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-469
1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- SK-810
1 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
2 暗灰褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- P-813
1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

第88図 第453・454・456～459・461～465・467～469・810・811・814・818号土坑・
第812・813・815～817・819号ピット実測図

第3章 確認された遺構と遺物



SK-470

- 1 暗褐色土 白色粘土粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-485

- 1 暗灰褐色土 ローム粒子含む。ローム・炭化物少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗灰褐色土 ローム粒子少量、炭化物含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗灰褐色土 ロームブロック・白色粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗灰褐色土 ローム粒子少量、礫 (φ10.0~20.0cm 大) 含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗褐色土 ロームブロック含む。白色粒子・白色粘土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-487

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-488

- 1 暗黄褐色土 ローム含む。ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-489

- 1 暗褐色土 ロームブロック・礫 (φ20.0cm 大) 少量。しまりややあり。粘性ややあり。(近世の磁器出土)

SK-490

- 1 暗灰褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-518

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-519

- 1 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-522

- 1 黒褐色土 ローム・白色粘土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SK-561

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

第 89 図 第 470・485・487~490・519・522・561・836 号土坑・第 518 号ピット実測図

第843号土坑 (SK-843) (第87図)

位置 C区K-11グリッドに位置する。南側は調査区外に延びる。**重複関係** SK-446 → SK-484、SK-447 → SK-448 → SK-484、SK-839 → SK-449 → SK-841 → P-842 → SK-484、SK-839 → SK-SK-840の順に掘り込まれる。SK-447・SK-843、SK-839・SK-843は不明である。**形状・規模・主軸** 南北に長い形状か。底面の規模は、東西(0.14)m以上・南北約0.56m、主軸N-23°-Eである。**底面** ローム層を掘り込む。EP-Gは模式化したものである。遺構確認面からの深さ約0.13m、レベル30.46mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第844号土坑 (SK-844) (第87図)

位置 C区L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-450とは不明である。北側は区外に延びる。**形状・規模・主軸** 方形状か。南東隅部は不整である。底面の規模は東西1.6m前後・南北(0.9)m、主軸はN-53°-Wか。**底面** ローム層を掘り込む。東側に凹凸が確認される。EP-Gは模式化したものである。遺構確認面からの深さ0.28m前後、レベル30.38mか。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第845号土坑 (SK-845) (第87図 表90)

位置 C区K・L-12グリッドに位置する。**重複関係** SK-839・846とは不明である。**形状・規模・主軸** 東西に長い形状か。底面の規模は東西(0.9)m以上・南北0.84m前後、主軸はN-63°-Eか。**底面** ローム層を掘り込む。硬化面が認められる。遺構確認面からの深さ約0.39m、レベル30.27mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 鉄製品2片が出土する。表90に記載する。

第846号土坑 (SK-846) (第87図)

位置 C区K・L-12グリッドに位置する。北側は区外に延びる。**重複関係** SK-839・845とは不明である。**形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の規模は東西(1.1)m・南北(0.3)mである。**底面** ローム層を掘り込む。底面に掘り込みが観察される。北側は区外にあり形状は不詳である。遺構確認面からの深さ約0.27m、レベル30.39mである。**覆土** 確認し得なかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第852号土坑 (SK-852) (第67・68図)

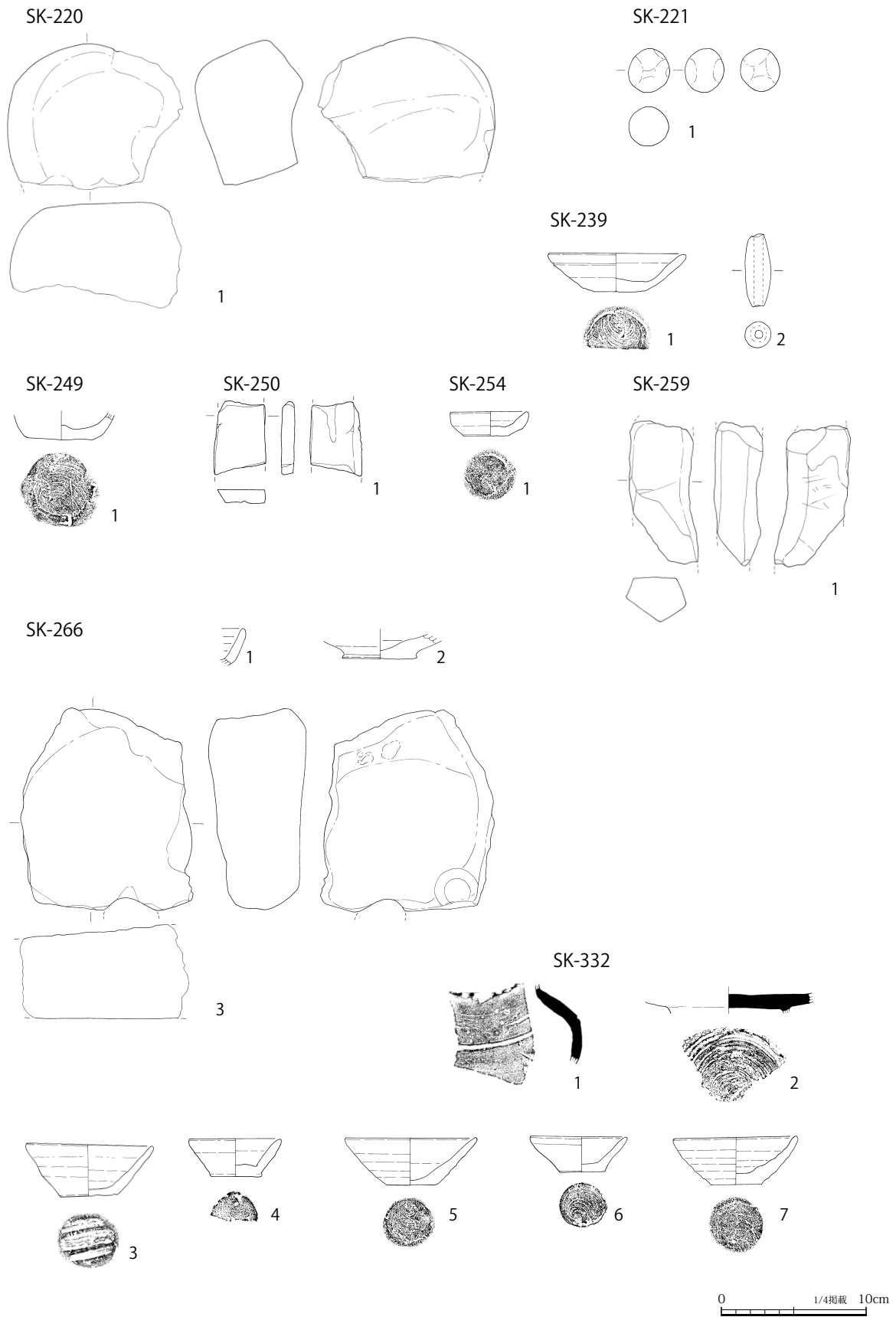
位置 B区L-12グリッドに位置する。南・西側は調査区外、東側は攪乱により不詳である。**重複関係** SK-852 → SK-348 → SK-349 → SK-350の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 形状は不詳である。底面の規模は、東西(0.56)m以上・南北(0.25)m以上である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.33m、レベル30.79mである。**覆土** 1層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第863号土坑 (SK-863) (第83図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。南・西側は調査区外、東側は攪乱により不詳である。**重複関係** SE-862 → SK-332 → SE-863の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 形状は不詳であるが、図中に破線で示したような南北に長い長方形状と推察される。規模は、東西[0.6～0.85]m・南北[1.87]mか。**底面** SK-332覆土を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.2m、レベル30.4mである。**覆土** 確認されなかった。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

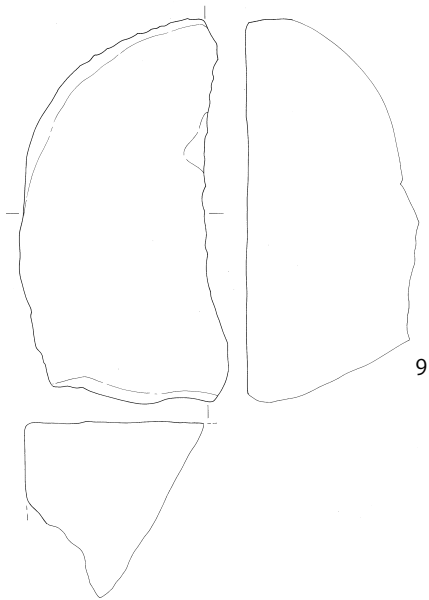
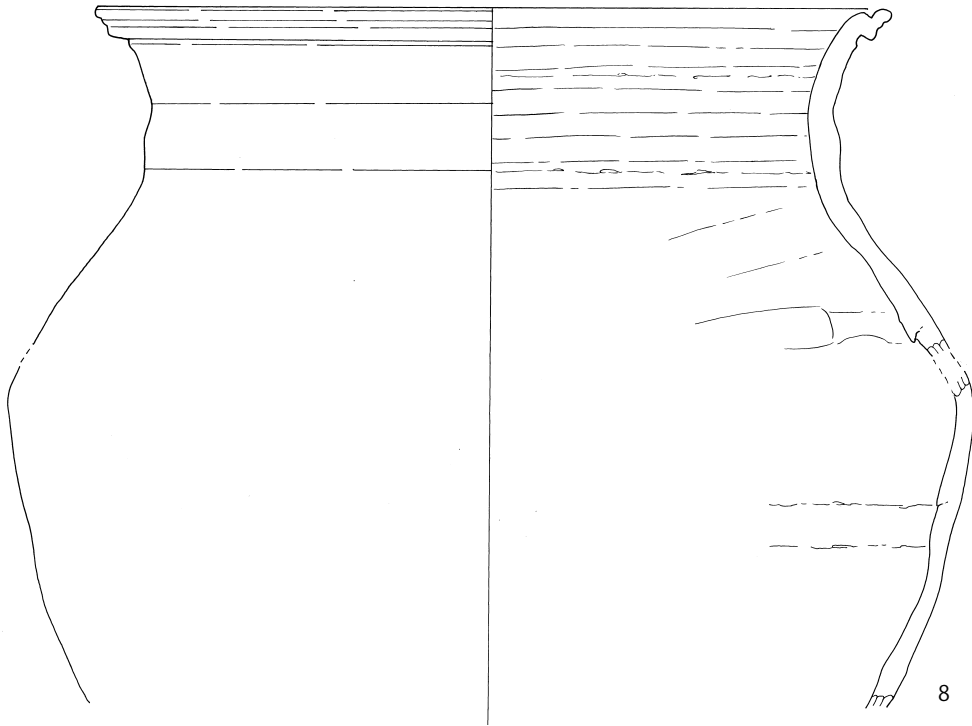
第865号土坑 (SK-865) (第83図)

位置 B区N-14・15グリッドに位置する。南は調査区外にある。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・**

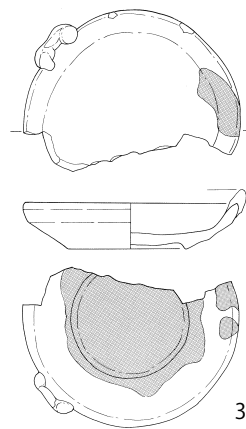
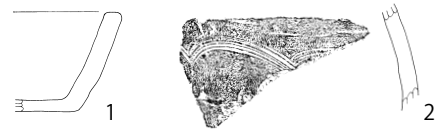


第90図 第220・221・239・249・250・254・259・266・332号土坑出土遺物実測図

SK-332



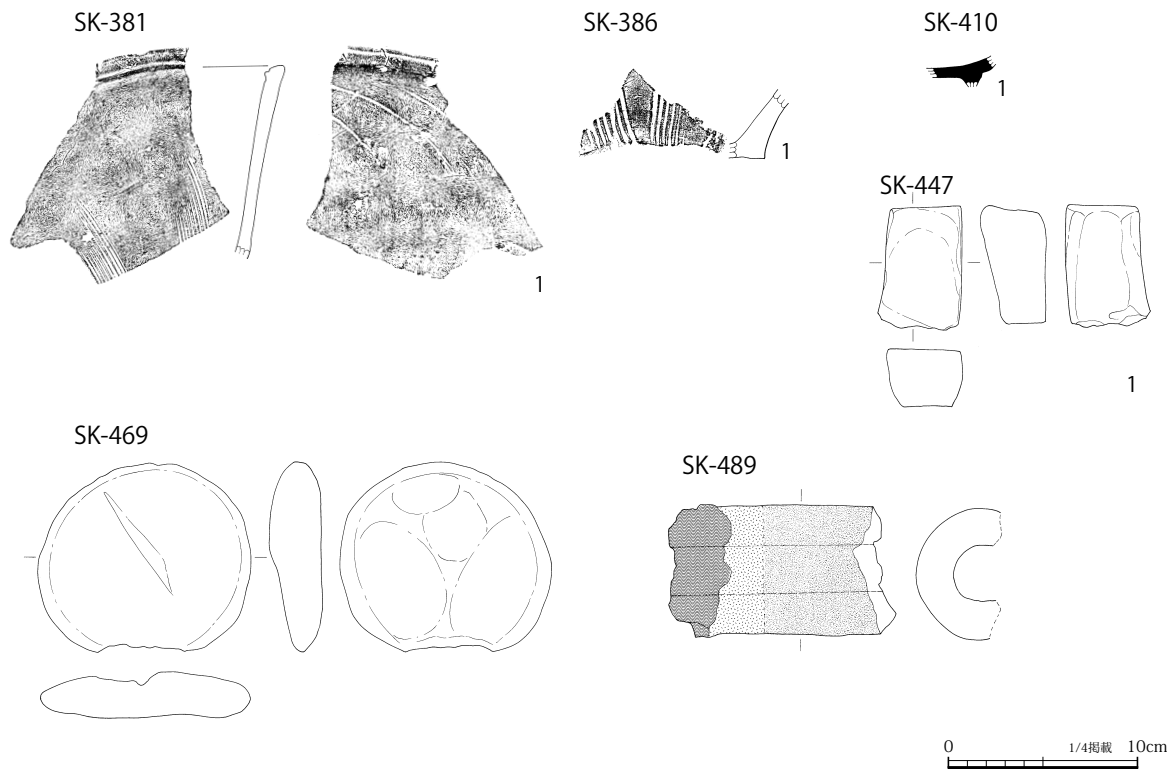
SK-375



0 1/4掲載 10cm

第91図 第332・375号土坑出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物



第 92 図 第 381・386・410・447・469・489 号土坑出土遺物実測図

表 54 第 220 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)						
番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 石製品か	長: 10.1 厚: 7.4 幅: 12.1 重: 1214.35	一隅部残存 上面平滑 側面磨滅 下面 破砕面であるが磨滅 台石等に利用の成形痕か	表 黒褐色 裏 灰黄色	火山礫凝灰岩	1/3か	OYAW3 S-220

表 55 第 221 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)						
番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 小礫	長: 3.0 厚: 2.7 幅: 2.9 重: 24.25	球形状の小礫 磨滅	表裏 暗灰黄色	安山岩か	ほぼ完存	OYAW3 S-221-225

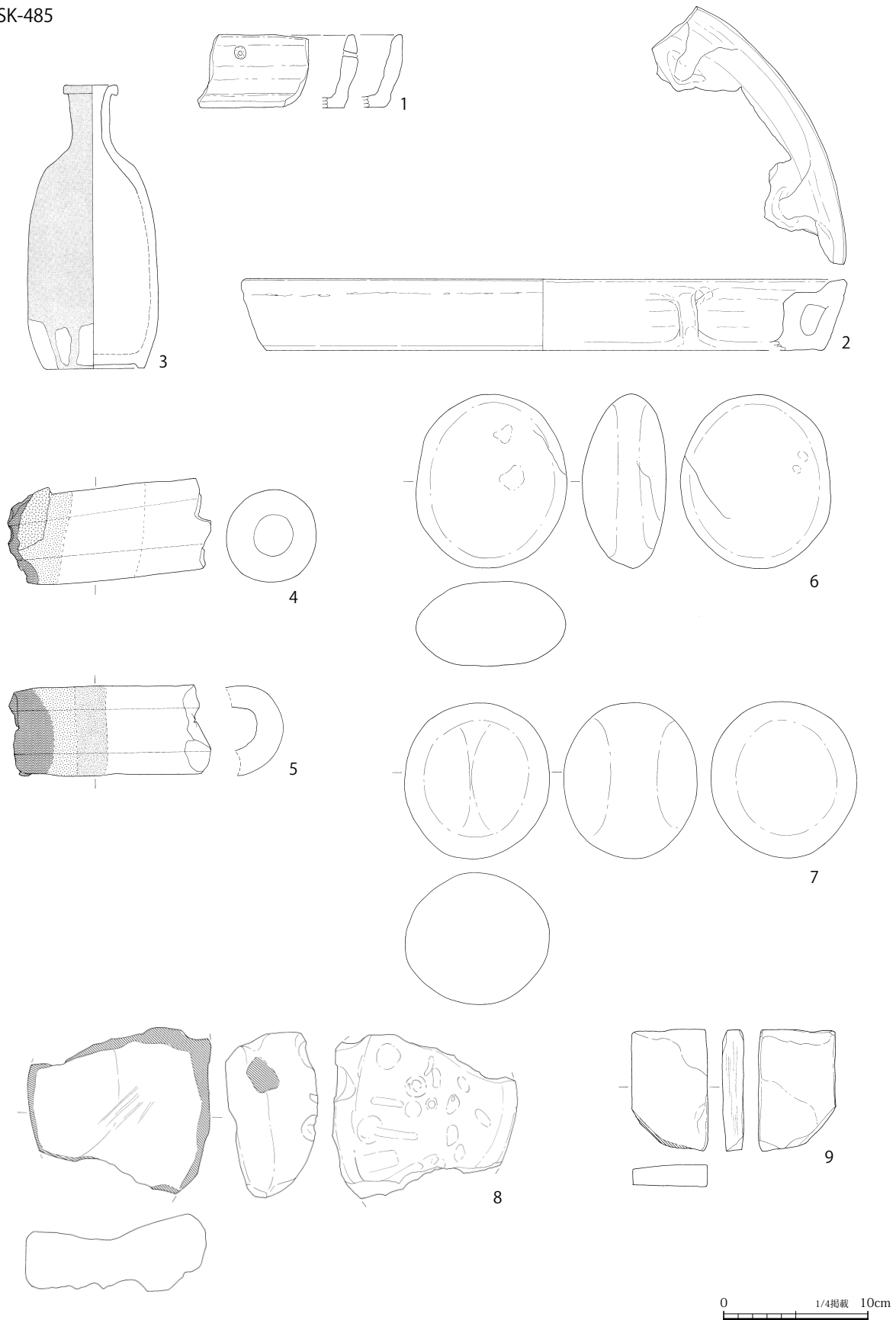
表 56 第 239 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)						
番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径: 9.2 底径: 3.4 器高: 2.6	ロクロ仕上げ 厚手で内湾する 底部 回転糸切り未調整	内外 浅黄橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW3 SK238・239
2 土鏝	長: 5.0 厚: 1.8 幅: 1.8 重: 15.58	全面磨滅 ミガキか 孔 ほぼ円形であるが、工具は四角形のものを使用か	内外 にぶい黄褐色	須恵器・土師器 D群・1・2 良	ほぼ完存	OYAW3 SK238・239

表 57 第 249 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)						
番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径: — 底径: 4.4 器高: 1.9	ロクロ仕上げ 厚手で内湾する 底部 回転糸切り未調整	内 灰白色 外 浅黄橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW3 SK249

SK-485



第93図 第485号土坑出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物

表 58 第 250 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
3 砥石	長：5.1 厚：0.9 幅：3.6 重：26.72	中央部のみ残存 主砥面は表・両側面か 裏面は磨滅薄い	表裏 にぶい黄橙色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 S-250-252

表 59 第 254 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径：— 底径：(3.0) 器高：—	ロクロ仕上げ 厚手で内湾する 底部 回転糸切り未調整	内外 にぶい黄橙色	土師質土器C群 良	ほぼ完存	OYAW3 S254

表 60 第 259 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 砥石	長：9.9 厚：3.3 幅：5.0 重：128.85	上端・下端部欠損 断面：不整な五角形状 砥面は残存する5面であるが、主砥面は裏面以外の4面 裏面 磨滅薄い線状の痕跡が残る	表裏 黒褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 S259

表 61 第 266 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土師質土器 小皿	口径：— 底径：— 器高：(2.5)	ロクロ仕上げ	内外 浅黄橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW3 S-266
2 土師質土器 小皿	口径：— 底径：5.0 器高：(1.6)	ロクロ仕上げか 磨滅 見込み凹む	内外 橙色	土師質土器B群 良	小片	OYAW3 S-266
3 石臼	長：14.0 厚：6.7 幅：11.8 重：1267.40	上臼片か 側面は残存しない 物入れとみられる孔が残る 用途不明 下面：貫通しない浅い孔あり 残存面スス付着か 上面やや赤色変化か	表裏 灰黄褐色	輝石安山岩	破片	OYAW3 S-266

表 62 第 332 号土坑出土遺物観察表

(単位：cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 短頸壺	口径：— 底径：— 器高：(6.0)	ロクロ成形 口縁端部欠損するが、口縁部の立ち上がりは短いか 外面 1条あるいは2条の沈線横巡 立ち上がり部 外面から打突痕あり 破断面磨滅	内 浅黄色 外 灰白色	土師質土器C群 良	2/3	OYAW3 SE-332
2 須恵器 高台付坏か	口径：— 底径：— 器高：(1.4)	ロクロ成形 回転ヘラナデ 高台接合部は坏底部に2条の沈線を施す	内外 灰色	須恵器・土師器 D群・1・7 良	小片	OYAW3 SK332
3 土師質土器 小皿	口径：8.8 底径：4.0 器高：3.8	ロクロ仕上げ 見込み凹状 底部 ヘラナデ (一方向) 半截竹筒状の工具か	内 にぶい橙色 外 にぶい黄橙色	土師質土器C群 良	2/3	OYAW3 SK332
4 土師質土器 小皿	口径：6.4 底径：3.3 器高：2.6	ロクロ仕上げ 底部 回転糸切り未調整	内外 にぶい黄橙色	土師質土器A群 良	1/6	OYAW3 SK332
5 土師質土器 小皿	口径：9.0 底径：3.4 器高：3.3	ロクロ仕上げ 見込み掃鉢状 底部 回転糸切り未調整 磨滅 内外面 若干の赤色変化	内 橙色 外 にぶい橙色	土師質土器C群 良	2/3	OYAW3 SK-332
6 土師質土器 小皿	口径：6.6 底径：2.5 器高：3.0	灯明皿 内-外 区端部：スス付着顕著 外面半部スス付着 底部：回転糸切り未調整	内 黒褐色 外 灰白色	土師質土器A群 良	1/2	OYAW3 SK332
7 土師質土器 小皿	口径：8.6 底径：3.5 器高：3.3	ロクロ仕上げ 見込み凹状 底部 回転糸切り未調整 磨滅	内外 にぶい黄橙色	土師質土器B群 良	2/3	OYAW3 SK332
8 陶器 甕	口径：[42.2] 底径：— 器高：(37.0)	常滑産か 口縁-頭部 幅1.25cm前後の工具で長く ヘラナデを施す 体部は2.0cm以上の工具か 外面底周部に指頭痕 口縁-肩部 オリブ色の自然釉が厚くかかる 口縁-頭部 自然釉に小礫を含み、器肌はざらつく 体上位は自然釉が厚く垂下する	内 にぶい褐色 外 にぶい赤褐色	陶器D群 良	1/8か	OYAW3 SE332 SK332
9 台石か	長：20.3 厚：9.2 幅：11.0 重：2130.79	図 上：表面半部、側面上部のみ残存 表面 極めて平滑、周縁やや低く凸状 側面 整形か 砥石の可能性も残る	表 にぶい黄褐色 裏 灰黄褐色	砂岩	1/2 あるいは1/4	OYAW3 SE332

表 63 第 375 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.3)	ヘラナデ 外面スス付着	内 にごい黄褐色 外 灰褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SD375
2 陶器 鉢類か	口径:— 底径:— 器高:(5.2)	5条一組の条線で曲線的な紋様を配する	内 にごい赤褐色 外 明赤褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 SD375
3 陶器 灯明皿	口径:11.4 底径:6.3 器高:3.1	耳1個残る 深オリーブ色釉を内外面に施す 口縁部内面-外面の一部・底部 うるし付着か	内外 暗オリーブ色	陶器C群 良	2/3	OYAW3 SD375

表 64 第 381 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 瓦質土器 播鉢	口径:— 底径:— 器高:(10.3)	内 口端部:つまみあげ 9本一組の摺目を疎らに施す 外 ヘラナデを荒く施す	内 にごい黄褐色 外 褐色	瓦質土器A群 良	小片	OYAW3 B区 SK381

表 65 第 386 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 瓦質土器 播鉢	口径:— 底径:— 器高:(3.6)	6本以上の摺目を疎らに施す 摺目の間隔は0.3cm前後で粗目	内外 灰色	瓦質土器A群 良	小片	OYAW3 SK386

表 66 第 410 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 高台付坏	口径:— 底径:— 器高:(1.6)	磨滅のため不詳 ロクロ成形か 底部 回転ヘラナデか	内 灰オリーブ色 外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・5 良	小片	OYAW3 SK410・411

表 67 第 447 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 砥石	長:6.5 厚:3.4 幅:4.4 重:128.12	両端部欠損 砥面は残存する4面か 図 上:右側面は剥落部多い 表・裏ともやや凹状	表裏 浅黄色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SK447

表 68 第 469 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 不明石製品	長:10.0 厚:2.7 幅:11.2 重:249.80	磨滅 凹凸はあるが扁平 表面 線状の欠失部あり 詳細不明	表裏 黄灰色	多孔質輝石安山岩	ほぼ完存	OYAW3 SK469

表 69 第 489 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土製品 羽口	長:12.0 厚:4.5 幅:7.0	端部分 ガラス質溶解 還元色 赤色変化がみられる ガラス質が垂下した状態であり、使用時の下側か 内面 赤色変化顕著	内 橙色 外 にごい黄褐色	やや緻密 1・2・6 良	端部残存	OYAW3 SK489

表 70 第 485 号土坑出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.0)	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデか 補修孔を穿つ 孔周辺に指頭痕 2孔一對とみられ、 外面の孔をつなぐ部分のみ線状にススの付着がみられない 外面スス付着	内 黄褐色 外 にごい黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SK485
2 内耳土器	口径:[41.8] 底径:[38.6] 器高:4.9	内耳2個一対か 内 ヨコナデ 内耳周辺に指頭痕 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデか	内 灰黄色 外 にごい黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SK485
3 陶器 徳利	口径:3.8 底径:7.1 器高:19.5	ロクロ成形 回転ヘラ切り 外面 灰釉 体下部~底部:素地が見える	内外 灰オリーブ色	陶器B群 良	完存	OYAW3 SK485

第3章 確認された遺構と遺物

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
4 羽口	長: 14.1 厚: 7.4 幅: 6.3 重: 460.23	端部 ガラス質溶解 還元化	内 橙色 外 にぶい橙色	やや緻密 1・2・6 良	片側端部	OYAW3 SK485
5 羽口	長: 14.0 厚: 4.0 幅: 6.2 重: 225.37	端部 ガラス質溶解 還元色 赤色変化がみられる	内 にぶい黄橙色 外 黄橙色	やや緻密 1・2・6 良	片側半部	OYAW3 SK485
6 磨石	長: 12.1 厚: 5.8 幅: 10.4 重: 627.03	全面磨滅 図上 下端: やや鋭利 図上表面の浅い孔は後世のものか	表裏 黄褐色	多孔質輝石安山岩	完存	OYAW3 SK485
7 磨石	長: 10.8 厚: 9.2 幅: 10.0 重: 1158.83	全面磨滅顕著 上面中央やや突出する	表裏 明黄褐色	砂岩	完存	OYAW3 SK485
8 石皿	長: 11.5 厚: 6.5 幅: 12.6 重: 500.62	両端部欠損 残存部磨滅 図上 表面: 右側から左側に凹む 側面: 磨滅して平滑 裏面: 凹孔多い 表裏面: 線状の欠損部あり	表裏 にぶい黄褐色	スコリア質 輝石安山岩	1/4	OYAW3 SK485
9 砥石	長: 8.4 厚: 1.5 幅: 5.3 重: 111.85	半部欠損 図上: 表面上部、裏面上・下部剥落 砥面は残存する5面 表面: やや凸状	表 明黄褐色 裏 にぶい黄色	粘板岩	1/2	OYAW3 SK485

規模・主軸 南北に長い長円形状か。底面の規模は東西約 0.58 m・南北 (1.0) m、主軸 N-20° -E である。

底面 ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約 0.1 m、レベル 30.04 m である。 **覆土** 1層が確認される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

4. 井戸跡

(1) 調査の概要

3次調査区からは 29 基が確認される。A 区 10 基、B 区 12 基、C 区 4 基、D 区 3 基である。何れもの区においても土坑や溝状遺構に重複する分布が確認される。

井筒は円形で、断面形はロート状或いは直線的なものが多い。何れも、湧水、或いは、安全のため、掘り込みの途中で掘削を中止する。

湧水レベルは、B 区 SE-333:29.81 m、SE-337:29.51 m、SE-353:29.7 m、SE-368:29.65 m、SE-369:29.45 m、SE-378:29.5 m SE-380:29.9 m、SE-389:29.48 m、D 区 SE-321:30.15 m である。

B 区においては、M-14～N-15 にかけての N-70° -W の軸線上に、東から SE-337・333・378・390・369・368 が並ぶ。SE-390 を除き、湧水のため掘削を中止する。湧水レベルは概ね 29.5 m 前後であり、水脈に関連するものとみられる。

B 区 SE-337 は付随する p 1・2 は釣瓶等の痕跡か。また、覆土 5・7 層は埋土か。7 層を差し込むような棒状堆積の 5 層は、埋没に関わる標柱等の可能性はあろうか。

SE-340- 2・5 層はテラス状の施設か。別遺構の可能性も残る。

遺物の出土は総じて多くはない。また、SE-209・269・332・405・495 からは縄文土器・須恵器・土師器から近世後半の陶磁器まで、SE-269・332・339・340・368・386 からは近代以降とみられる施釉陶器・磁器までを含み、その時期幅は大きい。

(2) 井戸跡

第 203 号井戸跡 (SE-203) (第 94 図 図版一二)

位置 A 区 P-19 グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、ロート状に立ち上がる。遺構確認面の規模は径約 1.3 m、井筒径約 0.8 m である。 **底面** 遺構確認面からの深さ約 0.9 m、図中破線で示したレベル 28.7 m 付近で掘削を中止した。 **覆土** 6 層を

確認した。総じてロームの堆積が多い。1・5層は白色粘土塊が堆積する。埋土と判断される。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第206号井戸跡 (SE-206) (第73図 表90)

位置 A区P-20グリッドに位置する。北東側は調査区外に位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。

形状・規模・主軸 井筒は円形状であり、緩やかなロート状に立ち上がる。遺構確認面の規模は径約1.2m、井筒状端部径約0.9m・井筒径約0.7mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.85m、図中破線で示したレベル28.85m付近で掘削を中止した。 **覆土** 5層を確認した。 **遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。瓦質土器挿鉢1片、鉄製品1片、礫1片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。

瓦質土器挿鉢は、10本一組の摺り目を疎らに施す体部片である。鉄製品は刀子状の小片である。表90に記載する。礫は1片が出土する。尖頭形状の破碎礫小片であり、磨滅が顕著に観察される。

第207号井戸跡 (SE-207) (第73・90図 表71)

位置 A区P-19グリッドに位置する。 **重複関係** SE-207 → SD-202 → SE-230の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 井筒は円形状である。断面形は緩やかなロート状であるが横穴状の掘り込み等が観察される。遺構確認面の規模は径約1.5m・井筒状端部径約0.95m・井筒径約0.9mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.9m、図中破線で示したレベル28.7m付近で掘削を中止した。 **覆土** 6層を確認した。 **遺物出土状況** SD-202重複部覆土中から5片が出土する。石製品・礫5片である。

出土遺物 1は硯片。時期等不詳であるが、近・現代の可能性も否めない。墨とみられる黒色の付着物が疎らにみられる。

この他、図示し得なかった出土遺物は礫4片である。何れも破碎した小片であり、残存面は磨滅する。

第209号井戸跡 (SE-209) (第76・96・119図 表72・90・94 図版一二)

位置 A区Q-21グリッドに位置する。 **重複関係** SK-239 → P-229 → SE-209か。 **形状・規模・主軸** 井筒は円形状、断面形はロート状である。遺構確認面の規模は径2.34m前後、段部分径1.77m前後・井筒径1.33m前後である。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.7m、図中破線で示したレベル28.9m付近で掘削を中止した。 **覆土** SP-B:16・17層、SP-C:13～15層を確認した。16層-13層・17・18層-15層に対応するか。壁面にロームの堆積が覆い。 **遺物出土状況** 覆土中から14片が出土する。土器類4片、石製品・礫6片、陶磁器4片、鉄製品1片である。

出土遺物 1は須恵器甕体部片。2は砥石片。3は硯片であるが、近・現代である可能性は否めない。第119図-10は天目碗か。16世紀後半か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は土師質土器小皿底部3片が出土する。2片はロクロ成形で盃形に開くか。1片は底部回転糸切り未調整。礫は4片が出土する。破碎礫小片3片、棒状の小礫1点である。破碎礫のうち1片と小礫は磨滅する。

陶磁器は陶器2片、磁器1片が出土する。何れも近世後半以降か。陶器は皿類1片、碗・皿類1片が出土する。皿類は内外面に灰釉を施す折縁皿か。碗・皿類は内外面に灰釉を施す。磁器は碗類1片が出土する。文様は確認されない。肥前系か。

鉄製品は詳細不明な小片である。表90に記載する。

第213号井戸跡 (SE-213) (第73・119図 表94)

位置 A区P-19グリッドに位置する。 **重複関係** SE-213 → P-785の順に掘り込まれる。また、南東側

第3章 確認された遺構と遺物

のテラス状の掘り込みとの関連は不明であり、付属施設として記載する。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、緩やかなロート状に立ち上がる。遺構確認面の規模は径 1.0～1.1 m・井筒上端部 0.9 m 前後・井筒径約 0.85 m である。**底面** 遺構確認面からの深さ約 0.7 m、図中破線で示したレベル 28.9 m 付近で掘削を中止した。**覆土** 1～8 層が確認される。5 層はテラス状の掘り込みの堆積土か。5・6 層が水平に分層される点、5 層を切るように 4 層が堆積する点など留意されるが、詳細は判然としない。**付属施設**

SE-213 南東側に底面不整な掘り込みが確認される。東西に長く、2 段に掘り込まれる。東西の全長約 0.75 m である。西側の掘り込みの深さは SP-A 5 層が堆積層とした際、遺構確認面下約 0.4 m・レベル 29.2 m である。覆土、東側の掘り込みの詳細等は確認し得なかった。p 1 は東側の掘り込み底面に確認される。径 0.13 m 前後・遺構確認面からの深さ約 0.18 m である。p 2 は西側の掘り込みに確認される。東西約 0.24 m・南北約 0.3 m、底面レベル等は確認し得なかった。p 1・2 とも SE-213、テラス状の掘り込みとの帰属等は不詳である。

遺物出土状況 覆土中から陶器 1 片が出土する。

出土遺物 第 119 図 -11 は陶器皿類か。志野様式。美濃系か。近世前半か。

第 230 号井戸跡 (SE-230) (第 73 図)

位置 A 区 P-18 グリッドに位置する。**重複関係** SE-207 → SD-202 → SE-230 の順に掘り込まれる。北側に東西 (0.65) m・南北 (1.0) m・深さ約 0.2 m ほどの平坦な掘り込みが確認されるが、帰属・本遺構南側の掘り込みの有無等、詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状、断面形は緩やかなロート状である。遺構確認面の規模は東西約 1.2 m・南北約 1.45 m、井筒状端部径約 0.76 m、井筒径約 0.68 m である。**底面** 遺構確認面からの深さ約 0.85 m、図中破線で示したレベル 28.82 m 付近で掘削を中止した。**覆土** 11 層を確認した。4・6 層は別遺構である可能性も残る。**遺物出土状況** 覆土中から土師質土器小皿 1 片、礫 1 片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土師質土器小皿はロクロ仕上げの口縁部片である。礫はスコリア質安山岩片である。残存面のない小塊である。

第 231 号井戸跡 (SE-231) (第 73 図)

位置 A 区 P-18・19 グリッドに位置する。**重複関係** SE-207 → SD-202 → SE-230 の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状、断面は緩やかな傾斜をもって直線的に掘り込まれる。遺構確認面の規模は径約 1.5 m・井筒径約 0.7 m である。**底面** 遺構確認面からの深さ約 1.05 m、図中破線で示したレベル 28.5 m 付近で掘削を中止した。**覆土** 4 層を確認した。総じて黒褐色土ブロックの堆積が目立つ。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第 243 号井戸跡 (SE-243) (第 97 図 表 73 図版一二)

位置 A 区 P-19 グリッドに位置する。**重複関係** SK-246 → SK-245 → SK-244 → SE-243 → SK-242 の順に、西から東へ掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、段をもって立ち上がる。遺構確認面の規模は径 [1.5] m、井筒径約 0.75 m である。**底面** 遺構確認面からの深さ約 0.65 m、図中破線で示したレベル 28.9 m 付近で掘削を中止した。**覆土** 3 層を確認した。**遺物出土状況** 覆土中から 1 点を確認した。この他、SK-242 周辺から、石製品・礫 7 片が出土する。SK-242 に記載する。

出土遺物 1 は板碑である。3～3 層下にかけて出土する。

第 263 号井戸跡 (SE-263) (第 78・96 図 表 73・92)

位置 A 区 Q-21 グリッドに位置する。**重複関係** SK-262 より古い。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状であり、段をもって立ち上がる。遺構確認面の規模は径 [2.16] m、井筒径 [1.46] m である。**底面** 遺構

確認面からの深さ約0.8 m、図中破線で示したレベル28.65 m付近で掘削を中止した。**覆土** 9層を確認した。1層は攪乱層か。7層下部に空洞が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から21片が出土する。土器類16片、鉄滓2片、礫2片、工業化製品針金1片である。また、SK-260～262・SE-263周辺から3片が出土する。SK-260に記載する。

出土遺物 1・2は内耳土器である。1は内面に「×」状のヘラ記号が施される。1は器高6.0cm以上か。この他、図示し得なかった遺物は以下のとおりである。

土器類は土師質土器小皿、内耳土器、瓦質土器挿鉢が出土する。土師質土器小皿は口縁部3片・体部3片。ロクロ仕上げ。内耳土器体部片は胎土C1片・D2片。挿鉢は同一個体5片か。7本以上の摺り目を疎らに施す。鉄滓2片は表92に記載する。礫2片は、破碎した小礫で、破断面を含む被熱しススが付着する。残存面は磨滅面が残るが詳細は不明である。

第265号井戸跡 (SE-265) (第94図)

位置 D区Q-21グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** SD-19底面に確認した井筒は円形状である。SD-19底面における規模は、東西約0.85・南北約0.64 mである。**底面** 確認面からの深さ約0.8 m、レベル28.8 m付近で安全のため掘り下げを中止した。**覆土** 確認し得なかった。表土下は黒色土、掘削中止最上面は暗黒褐色土である。**遺物出土状況** SD-19重複部から内耳土器内耳部片1片が出土する。胎土Dである。

第269号井戸跡 (SE-269) (第94・93図 表75)

位置 D区R-21グリッドに位置する。**重複関係** SD-19と重複するが詳細は不明である。**形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。遺構確認面の規模は、径1.0 m前後である。**底面** 深さ約0.4 m、レベル29.12 m付近で安全のため掘り下げを中止した。**覆土** 確認し得なかった。掘削中止最上面は黒色土である。**遺物出土状況** 覆土中から8片が出土する。土器類2片、石製品・礫3片、陶磁器3片ある。

出土遺物 1は本来土師器甕体部片とみられる。円形状の東辺を除き磨滅する。東辺は2度の打ち欠き痕か。土製円盤状であるが、詳細は不明である。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土器類1片、石器・礫3片、陶磁器3片である。

土器類は須恵器甕体部小片である。石製品・礫のうち1片は緑色片岩であり、板碑片と考えられる。3片は自然礫小片か。陶磁器は微細片3片が出土する。何れも器種は不明であるが、内外に施釉することから碗・鉢類か。陶器は灰釉片1片、磁器は淡緑色釉1片・染付1片である。近世後半以降か。

第321号井戸跡 (SE-321) (第79図)

位置 D区G-6・7グリッドに位置する。**重複関係** SK-322→SE-321の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 北側を攪乱により失う。図上の破線は復元線である。井筒は円形状である。遺構確認面の規模は、径(1.6) m、井筒径1.0 m前後である。**底面** 深さ約0.9 m、レベル30.15 m付近で湧水のため掘り下げを中止した。**覆土** 5層が確認される。4層の黒色土を挟み、3・5層に白色粘土ブロックが流れ込むように堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第333号井戸跡 (SE-333) (第80図)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** SE-333→SK-381の順に掘り込まれる。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状であり、断面形はロート状である。遺構確認面の規模は径1.35 m前後、井筒径0.95 m前後である。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.8 m、図中破線で示したレベル29.91 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 遺構確認面からの深さ約0.6 m、レベル30.0 m付近までに4層

が確認される。1層は白色土ブロックが堆積する。 **遺物出土状況** 覆土中から土器類2片が出土する。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。内耳土器2片である。内耳1片（胎土D）・体部1片（胎土C）。

第337号井戸跡（SE-337）（第69図 図版一二）

位置 B区M・L-14グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状であり、断面形はロート状である。遺構確認面の規模は径2.1m前後、井筒径約1.35mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約1.25m、図中破線で示したレベル29.51m付近で湧水のため掘削を中止した。 **覆土** 遺構確認面からの深さ約0.8m、レベル30.8m付近までに9層が確認される。1層、2～4層は後世の掘り込みか。詳細は不明である。5・7層はロームブロック堆積層である。崩落層とするれば、断面形はロート状よりも直線的である可能性が考えられる。埋土の可能性も残る。6層は、7層・5層中位までを切り込む棒状の堆積である。5層堆積途中まで、杭等が存在したか。 **付属施設** p1・2が確認される。p1は遺構南東部、p2は遺構南西部の壁際に穿たれる。帰属等は判然としないが、上屋や釣瓶等の施設の可能性を考え得る。p1は東西約0.24m・南北約0.4m、p2は東西約0.27m・南北約0.5mである。底面レベルは不詳であるが、遺構確認面からの深さはp1：0.6m前後、p2：0.3m前後か。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第339号井戸跡（SE-339）（第69図）

位置 B区M-14グリッドに位置する。西側は調査区外にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状であり、直線的に立ち上がる。遺構確認面の規模は径（1.0）m、井筒径（0.73）mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.6m、図中破線で示したレベル30.05m付近で掘削を中止した。 **覆土** 4層を確認した。2層はロームブロックの堆積が目立つ。 **遺物出土状況** 覆土中から4片が出土する。土器類2片、陶器2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類2片、陶器2片である。

土器類は瓦質土器2片が出土する。内耳土器体部1片（灰色・胎土C）、擂鉢1片である。擂鉢は9本以上1組の摺り目を疎らに施す。内面体下半はススが付着する。

陶器は、近世後半以降とみられる灰釉を施す碗類1片、近代以降とみられる青緑釉を施す鉢類1片である。

第340号井戸跡（SE-340）（第67・68図）

位置 B区M-13グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面はテラス状に掘り込まれるが詳細は不明である。別遺構の可能性も残る。井筒は円形状であり、ロート状である。遺構確認面は南北約2.1mのテラス状であり、概ね中央部に井筒が掘り込まれる。井筒上端部は径約1.4m、井筒は径0.6～0.7mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.8m、図中破線で示したレベル30.2m付近で掘削を中止した。 **覆土** 9層を確認した。1層はピットの可能性残る。2・5層はテラス状の施設、或いは、別遺構か。詳細は確認し得なかった。 **遺物出土状況** 覆土中から2片が出土する。陶器2片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。陶器2片である。1片は向付碗か。鉛釉を施す。近世後半以降か。1片は筒型か。外面に明藍色の染付を施す。近代以降か。

第353号井戸跡（SE-353）（第69図）

位置 B区M-16グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形は緩やかなロート状である。遺構確認面の東西約1.12・南北約0.93m、井筒の東西約0.83m・南北約0.8mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.7m、図中破線で示したレベル

29.7 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 湧水による蓄水のため、図中一点破線で示した遺構確認面からの深さ約0.6 m・レベル29.8 m付近までの4層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されなかった。

第368号井戸跡 (SE-368) (第83・84図)

位置 B区N-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形は緩いロート状である。遺構確認面の径約0.85 m、井筒の径0.7～0.76 mである。

底面 遺構確認面からの深さ約0.7 m、図中破線で示したレベル29.51 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 湧水による蓄水のため、図中一点破線で示した深さ約0.55 m・レベル29.51 m付近までの1層を確認した。ロームブロックの堆積が目立つ。**遺物出土状況** 覆土中から24片が出土する。土器類16片、礫3片、磁器8片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類16片、礫磁器8片である。

土器類は、土師質土器小皿1片、内耳土器13片、瓦質土器播鉢2片が出土する。

土師質土器小皿は口縁部片であり、ロクロ仕上げ。内耳土器は胎土C 8片（口縁部1片・内耳1片・体部3片・底部2片）、胎土D 6片（内耳1片・体部2片・底部3片）である。器高は8.0cm以上あるものを含む。瓦質土器は播鉢体部2片。8本以上一組・四本以上一組の播り目を疎らに施す。

礫は、緑泥片岩2片、スレート1片が出土する。緑泥片岩は板碑片か。

磁器は、近世後半以降とみられる染付碗類2片。近代以降とみられる印判手の碗類1片。近代以降の染付（プリント）碗類1片・青色釉をかき分ける碗類2片・透明釉の碗類1片・青磁色の鉢類1片が出土する。

第369号井戸跡 (SE-369) (第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形は緩いロート状であるが、西壁にオーバーハングする部分が認められる。遺構確認面の径約1.37 m、井筒の径0.9～1.0 mである。南東部にテラス状の突出部が掘り込まれる。帰属等は不詳である。幅（東西）約0.57 m・奥行き（南北）約0.3 m・遺構確認面からの深さ0.1 m程度か。

底面 遺構確認面からの深さ約0.75 m、図中破線で示したレベル29.45 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 湧水による蓄水のため、図中一点破線で示した深さ約0.5 m・レベル29.65 m付近までの3層を確認した。3層中、炭化物・焼土の帯状の層が、西壁オーバーハング部から概ね水平に堆積する。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第378号井戸跡 (SE-378) (第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。**重複関係** SE-378→SD-379→SK-377の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形はロート状か。遺構確認面の東西約1.0 m・南北約1.2 m、井筒の東西約0.65 m・南北約0.94 mである。**底面** 遺構確認面からの深さ約0.75 m、図中破線で示したレベル30.5 m付近で湧水のため掘削を中止した。**覆土** 7層を確認した。総じて白色粒子の堆積が目立つ。**遺物出土状況** 覆土中から1片が出土する。土器類1片、陶磁器1片である。

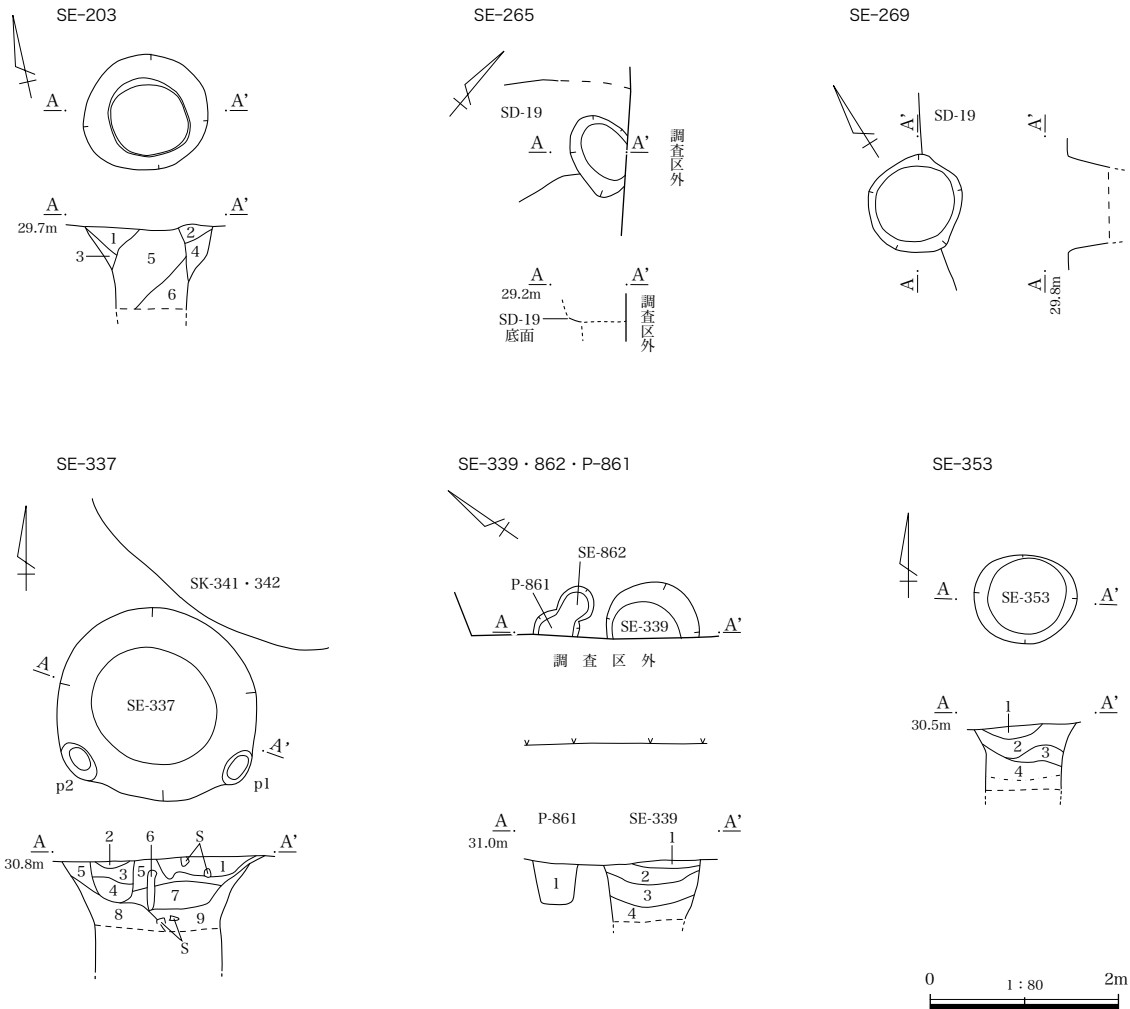
出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類1片である。

土器類は、内耳土器底部1片（胎土C）が出土する1片が出土する。

第380号井戸跡 (SE-380) (第95図 図版一二)

位置 B区M-14グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒は円形状である。断面形は下位に向かってオーバーハングする。遺構確認面の径約0.7 m、井筒

第3章 確認された遺構と遺物



SE-203

- 1 暗灰色土 暗褐色土少量。しまりあり。粘性強い。
- 2 暗灰色土 暗黄色土含む。しまりあり。粘性強い。
- 3 暗黄褐色土 暗灰色粘土含む。しまりあり。粘性強い。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりあり。粘性強い。
- 5 暗灰色土 暗褐色土少量、白色粘土多量。しまりあり。粘性強い。
- 6 暗黄褐色土 黄ローム多量。しまりあり。粘性強い。

SE-337

- 1 暗褐色土 ローム・ローム粒子少量。礫（ ϕ 5.0~10.0cm大）含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄色土 暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗黄褐色土 暗褐色土少量。しまり弱い。粘性ややあり。
- 7 暗黄色土 ロームブロック少量、暗褐色土微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 9 暗褐色土 ロームブロック少量、礫（ ϕ 3.0~5.0cm大）含む。しまりややあり。粘性ややあり。

SE-339

- 1 暗黄褐色土 ローム少量、ロームブロック微量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄色土 ローム含む。ロームブロック少量、暗黄褐色土多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗灰褐色土 ロームブロック少量。

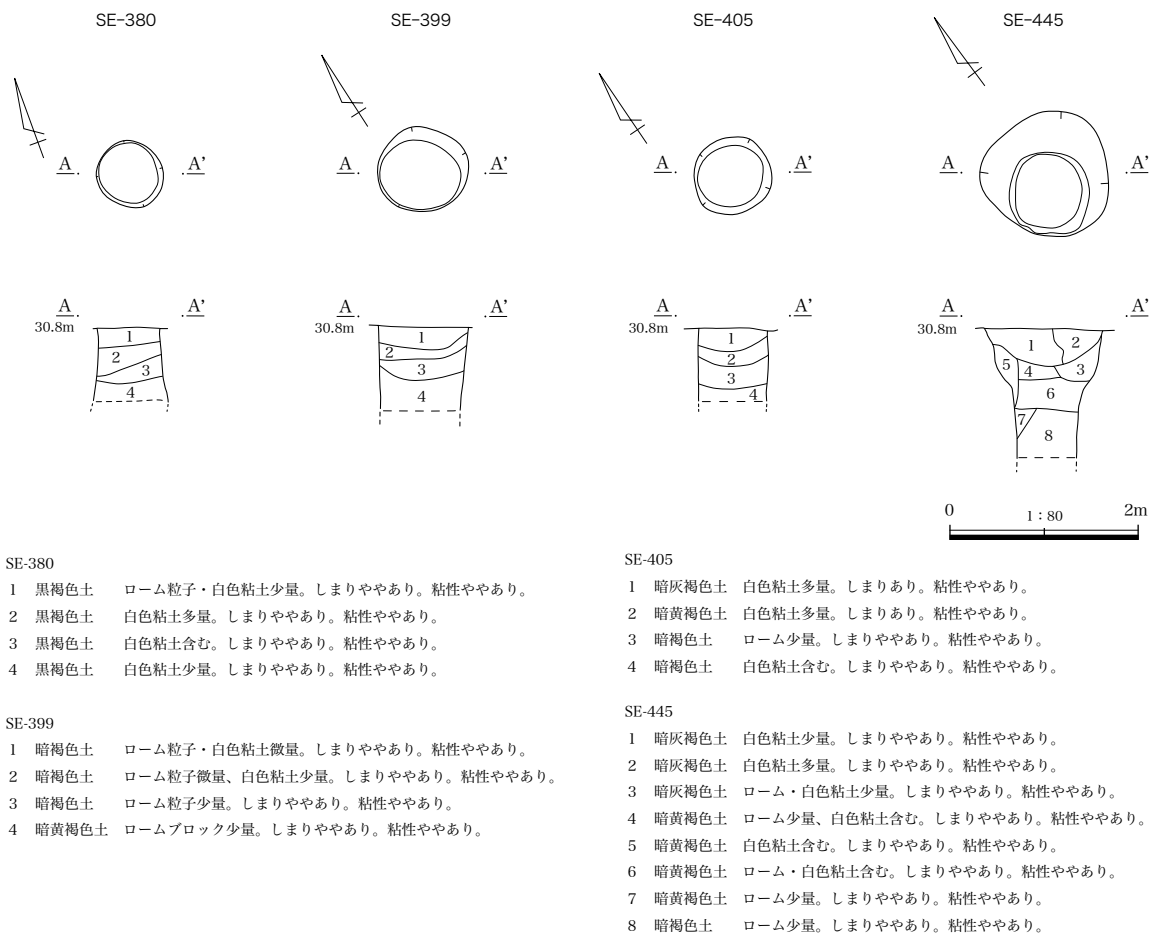
SE-353

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量。しまりやや弱い。粘性ややあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-861

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

第94図 第203・265・269・337・339・353・862号井戸跡・第861号ピット実測図



第95図 第380・399・405・445号井戸跡実測図

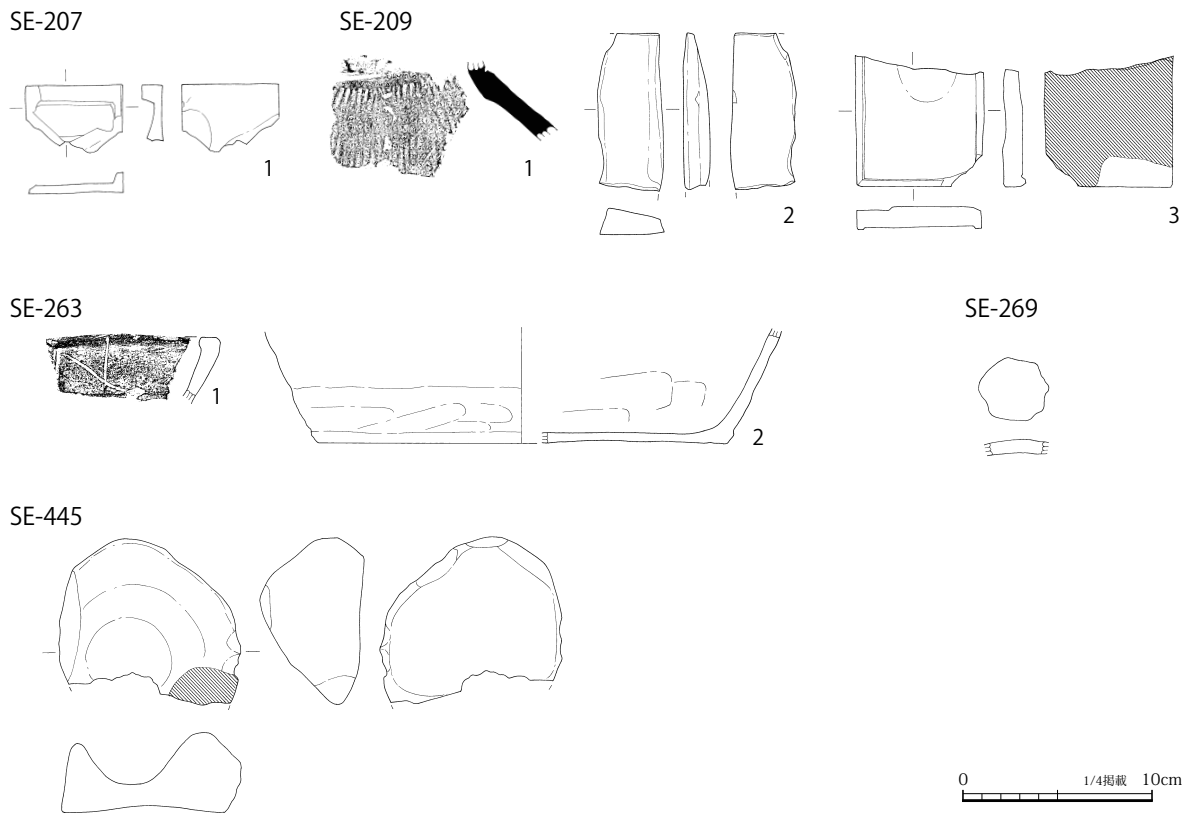
径(0.8)m、である。底面 遺構確認面からの深さ約0.6m、図中破線で示したレベル29.9m付近で湧水のため掘削を中止した。覆土 4層を確認した。総じて白色粒子の堆積が目立つ。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第384号井戸跡(SE-384)(第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。重複関係 SE-384→SE-390→SD-393→SD-379、SE-378→SD-379→SK-377の順に掘り込まれる。形状・規模・主軸 SD-393下・井筒は円形状である。断面形は直線的に垂下する。SD-393下の東西約0.75m・南北約0.7m、井筒の東西約0.62m・南北約0.64mである。底面 SD-393下からの深さ約0.78m、図中破線で示したレベル29.45m付近で湧水のため掘削を中止した。覆土 SP-G:3~8層を確認した。3層は壁面等の崩落層か。遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

第389号井戸跡(SE-389)(第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。重複関係 SK-398とは不詳である。形状・規模・主軸 遺構確認面・井筒は円形状である。遺構確認面の東西約0.8m・南北約0.7mである。底面 遺構確認面からの深さ約1.1m、図中破線で示したレベル29.48m付近で湧水のため掘削を中止した。覆土 上層は確認



第96図 第207・209・263・269・445号井戸跡出土遺物実測図

し得なかったが、2層が確認される。 **遺物出土状況** 覆土中から14片が出土する。土器類14片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類14片である。

土器類は、土師質土器小皿1片、内耳土器10片、瓦質土器播鉢3片が出土する。

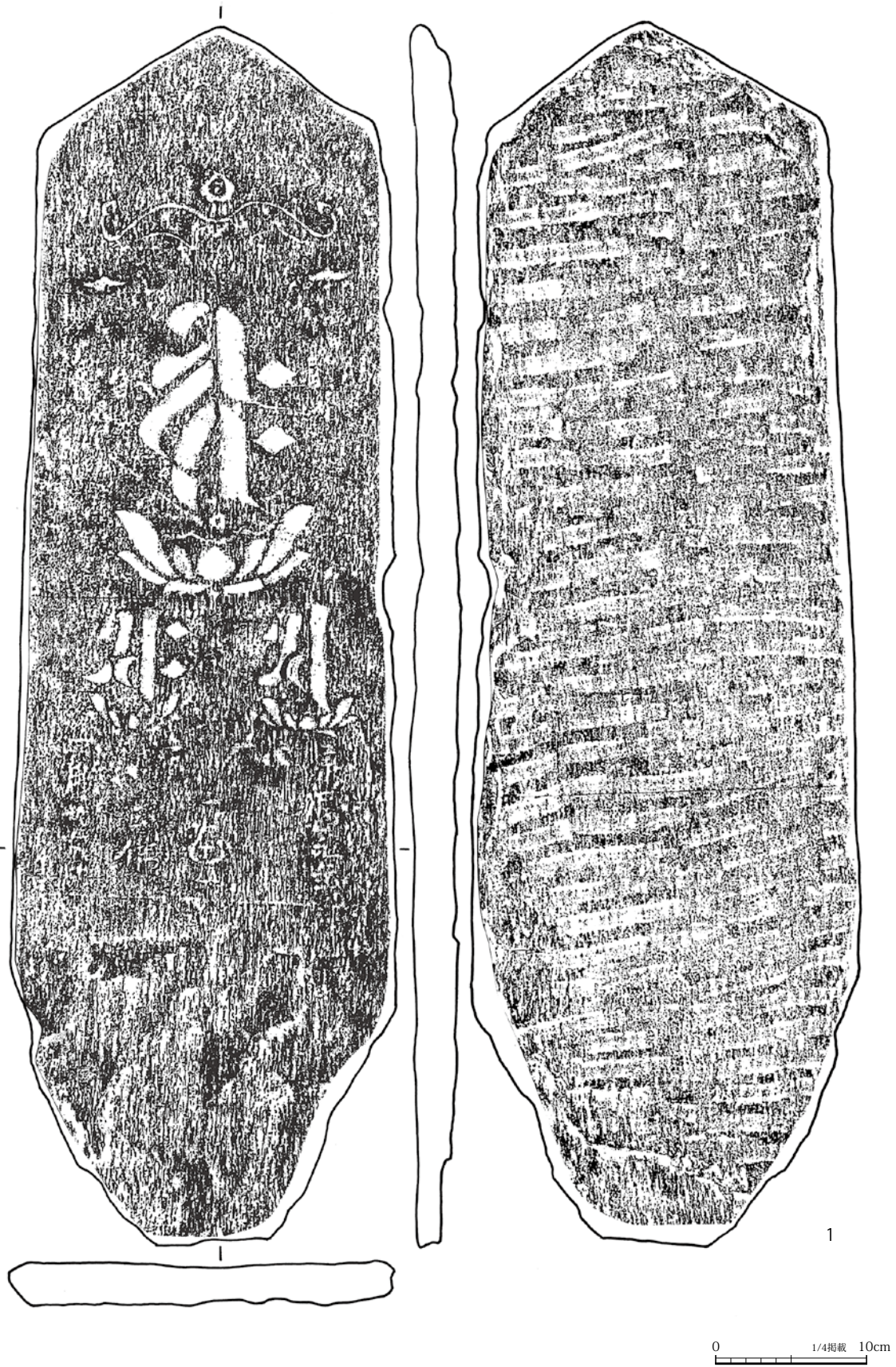
土師質土器小皿は体部微細片で磨滅が著しいがロクロ仕上げか。内耳土器は体部10片(胎土C8片・D2片)が出土する。瓦質土器播鉢は口縁部1片・体部2片が出土する。口縁部は播り目は残存しないが、内面口端部のつまみ上げがSK-381-1に似る。体部のうち1片は4本以上一組の播り目を施す。播り目の間隔は粗く、SK-386と似る。1片は7本以上一組の播り目を施す。

第390号井戸跡 (SE-390) (第83・84図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。 **重複関係** SE-384 → SE-390 → SD-393 → SD-379、SE-378 → SD-379 → SK-377の順に掘り込まれる。 **形状・規模・主軸** SD-393下・井筒は円形状である。南東側はテラス状に掘り込まれる。断面形は直線的に垂下する。SD-393下の東西の全長約1.4m、井筒径約1.2m・南北約0.7m、テラス状の部分の奥行き約3.2m・幅約0.55mである。 **底面** SD-393下からの深さ約0.78m、図中破線で示したレベル29.45m付近で湧水のため掘削を中止した。 **覆土** SP-G：9～14層を確認した。9層は壁面等の崩落層か。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第399号井戸跡 (SE-399) (第95図)

位置 C区K-10グリッドに位置する。SE-405と隣接する位置関係にある。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 開口部は円形状、井筒は円形状であり、直線的に垂下する。遺構確認面の規模



第97図 第243号井戸跡出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物

表 71 第 207 号井戸跡出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 石製品 硯	長：3.6 厚：1.1 幅：5.1 重：16.88	端部のみ残存 端部側が深く、上部か 黒色の付着物が粗らにみえる 墨か	内外 灰色	粘板岩	小片	OYAW3 S-202 207

(単位：cm, g)

表 72 第 209 号井戸跡出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：(5.3)	内 ヘラナデか 磨滅 外 平行叩きか 磨滅	内外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 S-209
2 砥石	長：8.3 厚：1.4 幅：3.4 重：48.80	下部欠損 左側面は欠損後も使用か 砥面は表・裏・両側面 左側面の磨滅は薄い 表面 右側面は磨滅薄い 削られたか 裏面 中央部：線状痕残る	内外 褐色	粘板岩	1/3	OYAW3 S209
3 石製品 硯	長：6.9 厚：1.4 幅：6.8 重：80.44	上半部欠損 中央付近やや凹む 裏面剥落するが、残存部に線状痕	内外 灰色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 S-209

(単位：cm, g)

表 73 第 243 号井戸跡出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 板碑	長：81.5 厚：3.1 幅：3.1 重：11850.0	頭部を山型に整形 底部はやや山型に成形 天蓋状の線刻の下の種子は阿弥陀三尊 (キリク (阿弥陀如来)・サ (聖観音菩薩)・サク (勢至 菩薩))か 種子間は蓮座か 種子下部：右側は唐暦元年の紀年 銘か 中央左側は「佛」の線刻以外は不明 供養者名や願文、月日が線刻されたものと判断される	表裏 明緑灰色	緑泥片岩	端部欠損か	OYAW3 A[E SE-243

(単位：cm, g)

表 74 第 263 号井戸跡出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径：— 底径：— 器高：(3.5)	口縁部小片 内面「×」状のヘラ記号あり	内 にぶい褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW3 S-263
2 内耳土器	口径：— 底径：[21.6] 器高：(6.0)	内 ナデ 外 ナデ スス付着	内 にぶい褐色 外 黒褐色	瓦質土器D群 良	1/8以下	OYAW3 S-263

(単位：cm, g)

表 75 第 269 号井戸跡出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 土製品 円盤か	長：3.3 幅：3.6 厚：0.8 重：9.12	東辺を除き研磨か 東辺は打ち欠き痕か 本来は土師器甕とみられ、性格等不詳	内外 橙色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	ほぼ完存	OYAW3 S-269

(単位：cm, g)

表 76 第 445 号井戸跡出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 こね鉢か	長：8.8 厚：5.5 幅：9.6 重：275.26	図 上：左側面は平滑 裏面 平滑でやや凹状 周縁部 右側を中心に敲打痕	内外 褐灰色	スコリア質 輝石安山岩	1/2	OYAW3 SE445

(単位：cm, g)

は径 0.9 ~ 0.95 m である。底面 遺構確認面からの深さ約 0.9 m、図中破線で示したレベル 29.8 m 付近で掘削を中止した。覆土 4 層を確認した。2 層に白色粘土ブロックが堆積する。遺物出土状況 覆土中から 2 片が出土する。土器類 2 片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類 2 片である。

土器類は内耳土器 2 片 (胎土 C 1 片・D 1 片) が出土する。

第 405 号井戸跡 (SE-405) (第 95 図)

位置 C 区 K-10 グリッドに位置する。SE-405 と隣接する位置関係にある。重複関係 重複する遺構はない。形状・規模・主軸 遺構確認面は円形状、井筒は円形状であり、直線的に垂下する。遺構確認面の規模は径 0.83 m 前後である。底面 遺構確認面からの深さ約 0.8 m、図中破線で示したレベル 29.9 m 付近で掘削を中止した。覆土 4 層を確認した。1・2 層に白色粘土ブロックが堆積する。1 層よりブロック径は大きく、量も多い。遺物出土状況 覆土中から 12 片が出土する。土器類 3 片、礫 3 片、陶磁器 6 片である。

出土遺物 小片のため図示し得なかった。土器類3片、礫3片、陶磁器6片である。

土器類は、縄文土器1片、粘土塊2片が出土する。縄文土器はLR縦方向に施文か。

礫は、凝灰岩2片、小礫1片が出土する。凝灰岩片は切石状ともみえる。石材か。小礫は自然礫片とみられる。

陶磁器は、陶器碗類2片・瓶類1片・鉢類2片、磁器瓶類1片が出土する。近世後半以降か。

陶器碗類は黄白色の釉を施し貫入の入る1片・黄白色の釉を施す1片である。瓶類は黄瀬戸釉に似た色調を施釉する。鉢類の1片は内外面に灰釉を施す。1片は暗褐色釉を施すが器種は判然としない。磁器は透明釉を施す。

第445号井戸跡 (SE-445) (第95・96図 表76 図版一五)

位置 C区J-11グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 遺構確認面・井筒の平面形は円形状である。断面はロート状であるが、南西部は垂直気味に立ち上がる。遺構確認面の規模は径約1.3m、井筒径約0.85mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.35m、図中破線で示したレベル29.3m付近で掘削を中止した。 **覆土** 8層を確認した。1～6層は白色粒子が堆積する。6層下面は水平に堆積する。 **遺物出土状況** 覆土中から8片が出土する。土器類6片、石製品1片、陶器1片である。

出土遺物 1は捏ね鉢か。見込みは深く、図上左側面・裏面は極めて平滑である。

図示し得なかった出土遺物は、土器類6片、陶磁器1片である。

土器類は、土師器甕口縁部1片、土師質土器小皿体部2片（ロクロ仕上げ）、土師質土器体部2片、内耳土器体部1片（胎土D）である。

陶器は皿類1片が出土する。灰釉を施す。見込みに重ね焼の痕跡が残る。外面底部～体下位は無釉である。近世後半以降か。

第788号井戸跡 (SE-788) (第78図)

位置 A区Q-21グリッドに位置する。 **重複関係** 重複する遺構はない。 **形状・規模・主軸** 井筒は円形状である。遺構確認面の規模は、東西約1.6m・南北約1.4mである。 **底面** 深さ約0.6m、レベル29.05m付近で掘り下げを中止した。 **覆土** 確認し得なかった。 **遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第862号井戸跡 (SE-862) (第83・84・94図)

位置 B区M-15グリッドに位置する。 **重複関係** SE-862 → SK-332 → SK-263の順に掘り込まれる。

形状・規模・主軸 遺構確認面は円形状、井筒は円形状であり、直線的に垂下する。遺構確認面の規模は東西約0.73m・南北約0.85m、掘削最下面の東西約0.67m・南北約0.77mである。 **底面** 遺構確認面からの深さ約0.6m、図中破線で示したレベル29.95m付近で掘削を中止した。 **覆土** 3層が確認される。

遺物出土状況 遺物の出土は確認されない。

5. 溝状遺構

(1) 調査の概要

3次調査区からは12基の溝状遺構が確認される。A区5基、B区5基、C区0基、D区2基である。

覆土は、いずれも、黒褐色・暗褐色・暗黄褐色土が堆積する。覆土の観察からは、長期間の流水・蓄水の痕跡は極めて薄いと判断される。

各区において留意される遺構の特徴は以下のとおりである。

A区SD-19は2次調査区Ⅱ区SD-19と位置・形状・主軸など特徴が極めて近い。このため、同一遺構と判

第3章 確認された遺構と遺物

断し、現地調査時より同一の遺構番号を付した。但し、底面の傾斜は、2次調査区 SD-19 では南側から北側への傾斜がみられるが、3次調査区 SD-19 の底面レベルからは傾斜は読み取れない。

D 区には SD-12・13・14・276 の4条が位置する。D 区 SD-12・13・14 は位置・主軸・底面の傾斜等、1次1区 SD-12・13・14 と特徴が似ることから、同一遺構と判断し、現地調査時より同一の遺構番号を付した。SD-13・14 については、1次調査の成果として、中世の薬研堀との指摘がある。今回の調査においては、断面形状は薬研堀状はあるが、出土遺物の時期は幅や出土状況からは、遺構の時期を明確にし得なかった。1次調査においても凶化し得た遺物はなく、断面形状からの判断であることから、遺構に時期については再考の余地があるものと考えられる。

SD-13・14・276 は、概ね北東-南西方向に主軸をもつが、SD-12 は概ね東西方向に主軸を持つ。

SD-12 は、1次調査における報告はないが、2時期の可能性が残る。

SD-13・14 の新旧関係については、1次調査では SD-13 → SD-14 であるが、本調査では遺構の重複は確認されない。平行かつ近接する位置関係、薬研状に近い断面形、SD-13 の覆土堆積状況から、重複、或いは、掘り直しの可能性が指摘でき、同様の性格を持つ溝状遺構である可能性が考えられる。

出土遺物については、SD-379 以外の溝状遺構から確認される。何れも、他の遺構同様、縄文時代から現代の工業製品（陶磁器・スレート・瓦・土管・ガラス等）までが出土し、多くは後世の混入遺物と判断される。遺構への帰属は判然としない。

B 区 SD-364・SK-374（地下式坑）重複部から出土する遺物については、後出する SD-364 に帰属する遺物が多いものと推察されるが、SK-374 底面までは重複が及んでおらず、その帰属を明確にし得なかった。このため、重複部の出土遺物については、現地の所見に従い、SK-374 に記載する。

この他、留意される点は以下のとおりである。

A 区 SD-19 からは、14世紀代とみられる古瀬戸瓶類（灰釉）や瀬戸窯登窯期（17世紀以降）の瓶類とみられる破片、銭貨「祥符通宝」が出土する。

A 区 SD-202 からは、銭貨「永楽通宝」が出土する。

B 区 SD-364 からは第71図-37の陶器坏と形状、釉調の似た不掲載11片（3個体以上分）、38と釉調、形状の似た不掲載4片（3個体分）が出土する。組揃の飲食器か。

B 区 SD-371 から出土する底部微細片は天目碗底部か。

B 区 SD-376 から出土する粘土塊にはスサ状の痕跡が残る。僅かな残存面からは羽口の可能性も考え得る。また、磨石状の礫の出土が確認されるが、C 区 SK-485 出土の磨石状の礫とあわせ、製鉄関連遺物の可能性の有無を考慮すべきか。

D 区 SD-12 出土の破断面の一部が磨滅する円形状の破片は円盤状の土製品か。用途等の推定は難しい。

D 区 SD-13 については、小片で器面の剥落する土師器壺片など、破碎後、廃棄された可能性が考えられる遺物が出土する。遺構の時期については、近世末～近代初頭とみられる陶磁器小片の出土が多く、近世後半以降と考えたいが、下層から須恵器坏・土師器甕・内耳・工業化製品（土管）が出土しており、明確にし得ない。

D 区 SD-14 については、近世後半以降の遺物が半数を占める。SD-13 同様、近世後半以降の時期を考慮したいが、他遺構同様に、縄文時代から工業化製品（瓦）までが小片で出土し、後世の混入や廃棄の可能性が高いと判断される。遺構内の攪乱からも同様の遺物出土状況が確認され、SD-14 帰属の遺物の再流入の可能性、或いは、覆土自体が攪乱を繰り返す堆積である可能性等が考えられよう。

SD-14 出土遺物は、須恵器・内耳土器も目立つ。須恵器のうち、時期の判別が可能であるのは第104図-1 蓋片（7世紀第3半期か）・4 坏片（9世紀前半）である。内耳土器はがSP-B-C間に集中する傾向にあるが、同一個体とは判断しがたい。小片のため判然としないが、器高5.0cm弱・3.0cmのものが多いとみられる。第119図-12は常滑産と記載するが判然としない。内部にベンガラとみられる付着物が観察される。

(2) 溝状遺構

第12号溝状遺構 (SD-12) (第98・103図 表77・92 図版一三)

位置 D区F・G-6グリッドを概ね東西方向に延びる。1次調査区1区SD-12と同一遺構か。 **重複関係** 調査区北端部付近で方形の掘り込みと重複するが詳細は不明である。 **形状** 南・北側は調査区外に延びる。概ね北東・南西方向に延びるが、やや北側に膨らむ弧状である。北辺にテラス状の中段部が確認される。1次調査区SD-12における確認はないが、南辺の遺構底面と北辺のテラス状の部分を底面とする2時期の重複、或いは、掘り直しの可能性が残る。 **規模・主軸** 長さ(9.6)mを確認した。遺構確認面の溝幅は、1.3～1.8mであり、調査区北側が狭く、調査区南側が広い。2時期の可能性を考慮した際、テラス状部分に堆積する覆土1層が新しく(A期)、遺構底面の深い部分に堆積する覆土2・3が古い(B期)。A期の底面の幅はSP-A付近：約1.53m・SP-B付近：約1.6mであり、B期の底面の溝は0.11m～0.37mである。A・B期とも、遺構確認面の溝幅同様、北側が狭く、南側が広い傾向にある。断面形状は概ね台形状と捉えられる。主軸はN-78°-Eであり、1次調査区の主軸に近い。 **底面** ロームを掘り込む。小さな凹凸が認められる。遺構確認面からの深さ・底面レベルは、A期では約0.22m、底面レベルはSP-A付近：31.0m・SP-B付近：30.9mである。B期ではSP-A付近：0.45m・SP-B付近：0.36m、底面レベルは、SP-A北側：30.86m・SP-A付近：30.72m・SP-B付近：30.77mである。A・B期とも、僅かながら北～南方への傾斜が観察される。1次調査においても同様方向への傾斜が観察されており、溝の特徴を示すものと考えられる。 **覆土** 3層が確認される。何れも暗褐色土であり、1層に比べ2・3層にロームの堆積が目立つ。覆土の堆積からは、長期間における流水や蓄水の痕跡は窺えない。 **付属施設** 遺構内にp1～4、北側調査区境付近に複数の掘り込みが確認されるが、帰属等詳細は不明である。P1は東西約0.31m・南北約0.4m、遺構確認面からの深さ約0.08m、底面レベル31.08mである。p2は東西約0.43m・南北約0.16m、p3は径約0.17m、p4は径約0.11mである。 **遺物出土状況** 覆土中から78片が出土する。土器類30片、石製品3片、鉄滓1片、陶磁器類30片、近・現代とみられるスレート・ガラス・瓦片を含む小片14片である。

出土遺物 1は須恵器底部。底部に木口状の工具痕が残る。2は内耳土器片。口縁部から底部にかけて残存するのは本片のみである。3は円孔が近接する。脚部の透かし部分か。4は播鉢小片。円形状の小片であり、判断面は一部に磨滅が観察される。円盤状の土製品か。5は大甕体部片か。6・7は砥石か。

この他、図示し得なかった出土遺物は、土師器坏2片、須恵器甕1片、土師質土器小皿3片、内耳土器13片、土師質土器2片、瓦質土器4片、小礫1片、陶磁器19片、鉄滓1片である。

土師器坏は1片はヨコナデ、1片は内面にミガキを施す。須恵器甕は内面に微かにあて具痕が残る。同心円状か。土師質土器小皿は1片は口縁部微細片、1片は体部片である。何れもロクロ仕上げである。内耳土器は口縁部2片(胎土C・D)、内耳周辺2片(胎土C・D)、体部1片(胎土C)、体～底部4片(胎土C3片・D1片)、底部4片(胎土C)のうち1片は厚手である。

小礫は、1面のみ残存する小片が出土する。残存面は平滑で磨滅する。石材はチャートであり、6同様の砥石の可能性も残る。

第3章 確認された遺構と遺物

陶器は無釉2片・施釉17片が出土する。無釉片は甕類口縁部1片、搦鉢体部1片である。施釉片は、内外面に白色釉を施す体部片1片・内外面に柿釉を施す体部片1片・外面に鉄釉を施す鉢類体部1片・透明釉を施す同一個体とみられる体部片3片である。近代以降か。この他、明らかに近代以降見られる11片である。

磁器は11片が出土する。7片は西洋呉須を施す碗類体部。瀬戸・美濃系6片、肥前系1片か。近代以降か。この他、近代以降の工業化製品とみられる4片が出土する。

鉄滓は表92に記載する。

第13号溝状遺構 (SD-13) (第99・100・103図 表78・90 図版一二)

位置 A区H・I-7・8・9グリッドを概ね北東・南西方向に延びる。1次調査区1区SD-13と同一遺構か。**重複関係** P-792～802と重複する。P-795・799→SD-13の覆土の堆積が観察される。これら以外の帰属等、詳細は不明であるが、P-798・800-P-796・797の東・西辺にあって、底面を挟んで対になる位置関係、P-799・802の東辺に沿う位置関係などから、SD-13に付随する施設の想定が可能と考えられる。また、P51・52-P-53・55とSD-13東岸SP-54・57のP-277～287とは、P-282・285・286の直線上に位置するSK-274に向けた位置関係にあることなどから、相互に関連する施設とも考えられよう。1次調査ではSD-13→SD-14の重複が確認されるが、本調査では重複は確認されない。**形状** 南・北側は調査区外に延びる。概ね北東から南西方向に直線的に延びるが、遺構確認面の形状は、攪乱により、不整である。断面形状は逆台形状であるが、壁面の屈曲は鋭く、極めて葉研状に近い。**規模・主軸** 長さ(18.6)mを確認した。遺構確認面の溝幅は2.4～2.9m、底面の溝幅は0.78～1.0mである。一方向への広がり等は観察されず、規格性・統一性は確認されない。主軸はN-38°-Eであり、1次調査SD-13と一致する。**底面** ロームを掘り込む。底面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さは、北側から、SP-A付近約0.93m・SP-B付近約1.0m・SP-C付近約1.0m・SP-D付近約0.97mである。底面レベルは、北側から、SP-A付近約30.13m・9グリッドライン付近約30.03m・SP-B付近約30.07m・SP-C付近約30.0m・SP-D付近約30.02m・調査区南端部約29.97mである。多少の凹凸が確認されるが、概ね北から南に向けて僅かに傾斜する。1次調査区1区も同様の傾斜が確認されている。**覆土** 8層を確認した。最上層の1層はSP-Dにおいて遺構確認面上の堆積が観察され、表土或いは攪乱である可能性が考えられる。層序関係をみると、2～4層：5～8層に大別が可能とみられ、掘り直し或いは埋没後の重複である可能性を考え得る。覆土は暗褐色土・黒色土・暗黄褐色土であり、長期間における流水・蓄水の痕跡は窺えない。**遺物出土状況** 覆土中から129片、覆土下層21片が出土する。図示した遺物は何れも覆土中から出土する。覆土中からは、図示した遺物を含み、須恵器1片、土師器60片、内耳土器12片、土師質土器3片、陶磁器35片、砥石2片、礫2片、現代の土管5片・瓦8片が出土する。覆土下層からは、須恵器3片、須恵器或いは土師器1片、土師器14片、内耳土器1片、陶器1片、鉄製品1片、土管1片が出土する。

出土遺物 1は須恵器杯。2・3は土師器杯。3はヘルメット形か。4は土師器壺か。3・4はSP-A-B間から出土する。不掲載の土師器片も同地区からの出土である。何れも、破片は小さく、器面が剥落する。詳細な出土状況は確認し得なかったが、これらは同一個体であり、破碎後遺棄された可能性も考え得る。しかし、覆土下層から土管片が出土することから、SD-13との関連は不詳である。5・6は内耳土器である。何れも器高は5.0cm前後である。器高が確認される破片は5・6のみである。7・8は陶器である。何れも近世後半か。7は遺構外出土第114図-20と似る。9・10は砥石である。11は石鏃である。押圧剥離を細かに施す。長さ：4.2cm・最大幅：1.6cm・最大厚：0.4cm・重さ：2.4gである。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

覆土中から出土し、図示し得なかった遺物は、土師器坏2片、土師器小型壺55片、内耳土器10片、土師質土器3片、陶器31片、礫2片、現代の土管5片・瓦8片である。出土位置の状況は、SP-A-B間：土師器坏3片、土師器小型壺55片（体部片・うち微細片34片）、SP-B-C間：内耳土器7片・陶磁器6片、SP-C-D間内耳土器1片・土師質土器2片・陶器18片・礫2片・土管4片・瓦8片が出土する。

土師器壺片は4の同一個体とみられる。また、土師器坏片は体部から口縁部にかけて内湾しつつ立ち上がり、口縁端部は細くなる形状である。体部片の積み上げ痕から剥落した破片の可能性もあり、土師器壺片とともに4同一個体の可能性が残る。また、これらの破片の中には、同地区から出土する3の破片が混在する可能性が考えられる。

内耳土器は口縁部1片（胎土C）・体部1片（胎土D）・底部8片（胎土C6片・D2片）である。土師質土器は甕とみられる体部片3片が出土する。陶器1片は甕体部とみられる。礫2片は何れも残存する両側面が裁断されたような鋭利な平滑面であり、何らかの石材と判断される。

陶器は、無釉1片、施釉5片である。無釉は甕類口縁部1片である。施釉は何れも碗・鉢類とみられ、褐色釉を施す連房式登窯期の小片である。磁器は26片が出土する。2片はクロム釉の碗類小片で近・現代か。残る24片は瀬戸・美濃系碗類2片・肥前系碗類6片を含む。肥前系とみられる小片のうち1片は内面見込み部に五弁花文を施し、1片は見込みに文様不明の小温容を施し、外面の施釉に凹凸がみられる。また、印判手の碗類3片・瓶類1片が出土する。

鉄製品は铸造品か。表90に記載する。

覆土下層から出土し、図示し得なかった遺物は、須恵器坏口縁部1片・体部2片、須恵器あるいは土師器坏口縁部1片、土師器口縁部坏1片・甕体部12片、内耳土器底部1片、陶器1片、土管1片である。

須恵器坏・須恵器あるいは土師器坏口縁部片は1に似る。土師器坏口縁部はフタ或いは身模倣。土師器甕体部12片は同一個体とみられる。内耳土器底部片は胎土Cである。陶器は器厚の薄い鉢類であり、内外面に白色釉を施す小片である。内面の釉は薄くハケとみられる痕跡がみられる。

第14号溝状遺構 (SD-14) (第99・101・103～105・119図 表79・90・92・94 図版一二・一五・一六)

位置 A区H・I・7・8・9グリッドを概ね北東・南西方向に延びる。1次調査区1区SD-14と同一遺構か。

重複関係 P-789・790と重複するが詳細は不明である。1次調査ではSD-13→SD-14の重複が確認されるが、本調査では重複は確認されなかい。**形状** 南・北側は調査区外に延びる。概ね北東から南西方向に延びるが、やや西側に膨らむ弧状である。断面形状は概ね「V」字状であるが、壁面の屈曲は鋭く、極めて薬研状に近い。また、SP-A・B付近の底面はに逆台形状に掘られ、浅い薬研状となる。東辺上位SP-D北側以南の東辺には遺構確認面下0.4m付近に中段部が確認される。1次調査区1区の形状に繋がるものか。

規模・主軸 長さ(12.0)mを確認した。遺構確認面の溝幅は、北側から、SP-A付近約4.35m・SP-B付近約4.55m・SP-C付近約5.0m・SP-D付近約5.67m・南側約5.42mであり、北から南に向けて広がる傾向にある。D区南側に位置する1次調査区1区の溝幅は5.9mであり、この傾向に準じるもの判断される。底面の溝幅は、北側から、SP-A付近約0.33m・SP-B付近約0.56m・SP-C付近約0.7m・SP-D付近約0.76m・南側約0.6mである。最大幅はSP-D付近にあるが、遺構確認面同様、北から南に向けて広がる傾向にある。主軸はN-37°-Eである。1次調査区1区ではN-38°-Eであり、ほぼ一致する。**底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さは、北側から、SP-A付近約1.62m・SP-B付近約0.72m・SP-C付近約1.58m・SP-D付近約1.62mである。底面レベルは、北側から、SP-A付近約29.4m・SP-B付

第3章 確認された遺構と遺物

近約 30.22 m・SP-C 付近約 30.28 m・SP-D 付近約 30.3 mである。多少の凹凸が確認されるが、概ね北から南に向けて傾斜する。1次調査区1区も同様の傾斜が確認されている。**覆土** 9層を確認した。上～中層の1～6層は黒褐色土・暗褐色土が堆積する。下層・壁際の7～9層は暗黄褐色土が堆積する。1次調査区1区では中層・下層に暗黄褐色土が堆積する点、特徴を違える。**特記事項** 夏季に、遺構中位付近から湧水が認められる。地下水の流出とみられ、一定レベルの水位が認められる。夏季には溝に水が入った状態であろうことが推測されるが、覆土の堆積からは長期間における流水・蓄水の痕跡は窺えない。**遺物出土状況** 覆土中から240点が出土する。土器類141点、石製品・礫40点、陶磁器類53点、鉄製品2片、鉄滓1片、ガラス片3片・鉄製針金1片である。

内耳土器がSP-B-C間から出土する。何れも小片であり、個体数は不明であるが、器高5.0cm前後・約3.0cmの個体が多いか。陶磁器の中には近代以降の工業生産とみられる6片を含む。また、ガラス片も工業生産と判断される。SD-14はSP-B-C間や北西部の攪乱内から同種の陶磁器・ガラス片等の出土が確認されている。SD-14出土陶磁器も攪乱に関連する出土の可能性が含まれよう。

出土遺物 1～5・7～13は須恵器片。出土が集中する箇所はなく、遺構から万遍なく出土する。1は蓋、2・4は坏、3は高台付き坏、4・5・7・8・13は瓶類か、9～12は甕とみられる。1は中央部に自然釉がかかる。7世紀中葉か。4は須恵器であれば9世紀前半の坏か。6は自然釉が厚く垂下するが端部は剥落する。5は須恵系陶器か。瓶類底部とみられるが判然としない。14は常滑産片口鉢か。15は土師質土器小皿。SP-C-D間からは土師質土器小皿片4片が出土するが、同一個体となるか不明である。16～19は内耳土器。16・17は器高5.0cm弱、18・19は器高3.0cmほどである。20・21・23は播鉢。20・21は瓦質土器、23は陶器である。22・24は陶器甕である。

第119図-12は小型の壺か。内部にベンガラとみられる赤色の付着物が観察される。第119図-14・15は染付の碗類。15は中丸碗。笹・竹・筍の文様を描く。14は半筒碗。丸菊文を描く。

この他、図示し得なかった土器類は、須恵器8片、土師器14片、土師質土器小皿5片、内耳土器67片、瓦質土器播鉢1片、土師質土器4片、陶器52片、粘土塊1片、被熱により炭化した竹片5片、現代の瓦片12片である。内耳土器・陶器播鉢は19・21の同一個体を含むか。

遺物の出土位置をみると、SP-A-B間からは須恵器甕体部片2片、土師器坏3片、内耳土器口縁部片1片（胎土D）・体部片2片（胎土D）、陶器甕口縁部3片が出土する。土師器坏のうち1片はヘルメット形か。

SP-B-C間からは須恵器甕体部2片、土師質土器体部1片、内耳土器43片、陶器13片、磁器7片、粘土塊1片、竹5片、瓦6片・ガラス片1片が出土する。内耳土器43片の内訳は、器面の色調が赤褐色の口縁部6片（胎土C2片・D4片）・内耳1片（胎土C）・体部6片（胎土D）体～底部5片（胎土C）・底部13片（胎土C12片・D1片）、器面の色調灰色の口縁部5片・体部7片（胎土C）である。

陶器は無釉4片、施釉片9片である。無釉片は、甕口縁部3片・播鉢1片である。播鉢は23の同一個体か。施釉片は、灯明皿片1片（褐色釉）、灰釉4片（碗類3片・瓶類1片）、透明釉に鉄釉を施す鉢類1片、黄色釉（瓶類）1片、緑色釉（器種不明）1片、白色釉（つまみ）1片である。何れも近世後半以降か。

磁器は染付碗類7片である。近世後半～近代初頭とみられる小片は5片は肥前系か。近代とみられる西洋呉須の小片2片は産地不明。

SP-C-D間からは須恵器甕1片、土師器坏6片、土師器甕2片、土師質土器小皿4片、内耳土器9片、土師質土器3片、陶器7片、磁器3片、瓦1片、鉄製品2片、鉄滓1片が出土する。土師質土器小皿はロクロ仕上げである。陶器は無釉の甕2片、灰釉を施す盃片1片、透明釉を施す筒型の体部片1片、褐色釉の播鉢2

片、褐色釉の瓶1片である。何れも近世後半以降か。磁器は肥前系とみられる染付碗類3片。近世後半～近代初頭か。うち1片は笹・竹・筭文様であり、第119図-14、SK-374など調査区内で出土例がある。鉄製品・鉄滓は表90・92に記載する。

SP-D-調査区境間からは須恵器甕2片、土師質土器小皿1片、内耳土器4片、土師質土器1片、陶器5片、磁器8片、瓦5片が出土する。土師質土器小皿は手捏ねである。陶器はヘラナデを施す常滑産とみられる大甕体部1片が出土する。この他、灰釉を施す鉢類1片・透明釉を施す盃2片であり、近世後半以降か。磁器は近世後半以降とみられる染付の碗類1片、近代以降とみられる印判手の碗類2片・染付の碗類2片が出土する。この他、近代以降の工業製品とみられる碗類4片が出土する。

覆土中から須恵器甕1片、土師器甕1片、陶器1片、鉄製品1片、ガラス1片が出土する。

また、攪乱内から内耳土器口縁部4片（胎土C）・底部6片（胎土C3片・D3片）が出土する。

25・26は磨石。25は上端部、26は下端部に敲打痕が観察されるが使用に伴うかものか判然としない。30は礫石器か。図下部は平滑な磨滅面である。27・28・34はこね鉢か。27・28は見込みが浅く、石皿の可能性が残る。34の底部の脚は3カ所か。31・32は石臼。何れも下臼とみらえるが、異個体か。31はもの入れとみられる孔が残る。穀物用か。32は茶用であるか穀物用であるが不明である。29・33・41は石製品・石材か。36～40は砥石。36・39には平行する条線が残る。

この他、図示し得なかった石製品・礫は22点である。出土位置の状況は以下のとおりである。

覆土中からは11片が出土する、破砕した小礫7片、緑泥片岩4片であり、緑泥片岩片は板碑片とみられる。SP-B-C間からは4片が出土する。何れも破砕した小礫であるが、このうち1片は磨石片とみられる。SP-A-B間からは7片が出土する。このうち1片は金色ガラス質粒子を多量に含む砂岩である。

第19号溝状遺構 (SD-19) (第77・106・115・119図 表80・90・94 図版一三・一五・一六)

位置 A区Q-21・R19グリッドを概ね南北に延びる。2次調査区Ⅱ区SD-19と同一遺構か。 **重複関係** SK-270・271、SE-265・269と重複するが詳細は不明である。 **形状** 南・北側は調査区外に延びる。断面形状は「V」字状であるが壁面に段を有する。 **規模・主軸** 長さ(12.0)mを確認した。遺構確認面の溝幅は1.4～2.0m、中段部の溝幅は、調査区南端部付近で約1.8mである。主軸はN-25°-Eである。

底面 ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。底面のレベルは遺構南端部約28.79m、SK-266付近約28.91m、SK-269-270間約28.83m、北端部約28.95mである。各所で区々であり、明確な傾斜は認められない。 **覆土** 調査区南端部において10層を確認した。2次調査区SD-19の覆土との類似性は薄い。1・2層は攪乱土か。遺構上半部の3～5層はロームブロック、黒色土ブロックを含む。遺構下半部の6-10層は、ロームブロックを多量に含む9層を挟んで堆積する。掘り直し等が考慮されるか。 **遺物出土**

状況 覆土中から66点が出土する。土器類21点、石製品・礫33点、陶磁器類9点、鉄製品2片、銭貨1点である。また、SE-265重複部から内耳土器内耳部片1片が出土する。胎土Dである。

出土遺物 1・2は須恵器甕。三毳産の可能性も残る。3は内耳土器。器高不明。4は瓦質の播鉢。5は瓦質の手焙りか。6は土錘。7～9は基石か。何れも円形状で平滑、光沢を有する。9の平面形はやや不整形。10は扁平な1小礫。方形状で磨滅し、図上、表面は光沢を有する。遊具或いは砥石の可能性があろうか。11は砥石。裏面・下半部欠損。表面は凹凸を有する。12は石臼片。13～15は板碑か。13・14は種子の一部が残るが、詳細は不明。13はキリークの一部、14は種子下の文様の一部か。15は山形の頭部か。無地で平滑な面が表面か。16は古瀬戸、瓶類か。第119図-13は陶器碗類か。瀬戸、登窯期か。第115図-8は「祥符通宝」である。

第3章 確認された遺構と遺物

この他、図示し得なかった出土遺物は、内耳土器9片、挿鉢3片、瓦質土器2片、鉢類1片、石製品・礫24片、陶磁器7片、鉄製品2片である。

内耳土器は胎土C口縁部4片・体部2片・底部1片、胎土D口縁部1片・体部1片である。瓦質土器は内耳土器か。色調は灰色、胎土Cである。挿鉢は10本一組の摺り目を施す体部片1片、5本一組の摺り目を疎らに施す体部片1片、深い摺り目を密に施す体部片1片である。鉢類は手焙り等の口縁部片。

石製品・礫は、玉隋2片、磨石1片、石臼3片、砥石4片、碁石4点、板碑9片、小礫1片、礫片1片等である。

玉隋は、1片は剥片とみられる小片、1片は目立った加工痕は観察されない。磨石は球形状の破片であるが時期・種別等判然としない。石臼のうち1片は高さ約8.2cmであり12とは異個体とみられる。2片は小片であり詳細不明。自然礫片の可能性も残る。砥石は何れも小片である。自然礫片の可能性も否めない。碁石は7・8のような整った形状ではない。2片は7・8に、1片は9に外見が似る。板碑片は13・14同様の石材片。小礫は不整は円形状で扁平、黄白色である。

陶磁器は、陶器4片、磁器3片が出土する。陶器は甕類2片、碗・皿類2片である。甕類は口縁部1片・体部1片であり、何れも施釉。口縁部は須恵器自然釉の可能性も残る。碗皿類の1片は内外面に灰釉を施す。折縁皿か。1片は内外面に飴釉を施す。近世後半以降か。磁器3片は瀬戸・美濃系の碗類か。染付を施すが、1片は近世後半以降、2片は近代以降か。

鉄製品は詳細不明の小片である。表90に記載する。

第201号溝状遺構 (SD-201) (第98・107図 表81)

位置 A区P-19グリッドを概ね南北に延びる。南・北側は調査区外に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状** 南端部確認面付近は調査区外に延びる。断面形はV字状に掘り込まれる。**規模・主軸** 長さ(2.35)m、幅4.4～5.0mである。溝幅はp3付近が最大幅となる。主軸はN-16°-Eである。**底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さ0.3m前後・表土下0.72m、底面のレベルは29.1m前後である。底面の傾斜は確認し得なかった。**覆土** 6層を確認した。2層は後世の掘り込みか。**付属施設** p1～3が確認される。p1・2西壁確認面付近、p3は東壁底面立ち上がり付近に確認される。p1は径約0.17m、p2は径約0.2m、p3は径約0.18mである。覆土・底面レベルは確認し得なかった。**遺物出土状況** 覆土中から9片が出土する。土器類4片、石製品・礫4片、磁器1片である。

出土遺物 1は砥石、2は台石か。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は内耳土器4片である。口縁部2片、内耳1片、体部1片であり、口縁部の1片は胎土D、これ以外は胎土Cである。

礫は4片が出土する。破碎礫小片であり、このうち1片は扁平な円形状である。

磁器は折縁鉢系の体下部小片。肥前系とみられる。内外面無文。外面に染付ともみえるシミ状の部分が観察される。

第202号溝状遺構 (SD-202) (第73・107・115図 表82・90・92 図版一三)

位置 A区P-18・19グリッドを概ね南北に延びる。**重複関係** SK-215・SK-237・SE-207・SE-231→SD-202→SE-230の順に掘り込まれる。**形状** 南端部確認面付近は調査区外に延びる。断面形は東側壁面、遺構確認面下0.2～0.25m、レベル29.4～29.35mに中段部が観察される。付近底面北端部から南へ6.4m付近、SK-228南側付近で北西方向にやや向きを変える。同様付近以南においては、断面形に観察される

中段部が確認されなくなることや、SP-A～DとSP-Eの覆土の堆積状況に対応関係がみとめられなくなることなどは指摘できる。掘り直し、別遺構の重複等の可能性が考慮される。**規模・主軸** 底面の長さ約8.65mを確認した。遺構確認面の溝幅は北端部～SK-228南側付近1.75～1.6m、SK-228南側～南端部1.2～0.95m、中段部の溝幅は北端部～SK-228南側付近1.3～1.1m、底面の溝幅は北端部～SK-228南側付近1.15～1.1m、SK-228南側～南端部1.0～0.5mである。主軸は北端部～SK-228南側付近N-10°-E、SK-228南側～南端部N-125°-Eである。**底面** ロームを掘り込む。掘り込み面は概ね平坦である。遺構確認面からの深さ0.65m前後、底面のレベルは28.95m前後であり、傾斜等は確認されない。

覆土 11層を確認した。SP-A～Dに1～6層、SP-Eに7～11層が観察される。1～6層・7～11層は対応関係は認められない。**遺物出土状況** 覆土中から11片が出土する。播鉢片1片、石製品・礫7片、鉄製品1片、銭貨1点、鉄滓1片である。この他、SE-207重複部から砥石他5片、SK-228重複部から礫1片、鉄滓1片が出土する。重複遺構に記載する。

出土遺物 2は瓦質土器播鉢。1は長円形の扁平礫。磨滅し被熱する。第115図-9は「永楽通宝」である。この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

礫は6片が出土する。3片は破碎礫片である。2片は小礫であり、1片は不整形、1片は極めて扁平な黄白色の不整形の小礫である。1片は玉隋片である。自然面或いは風化面を残すが剥片か。鉄製品は釘状の小片である。表90に記載する。鉄滓は表92に記載する。

第276号溝状遺構 (SD-276) (第102図 図版一三)

位置 D区H・I-7・8・9グリッドを概ね北東・南西方向に延びる。**重複関係** 重複する遺構はない。

形状 南側は調査区外に延びる。SP-B・C間で遺構が立ち上がるが、主軸、覆土の堆積状況から同一遺構と判断される。断面形は浅い逆台形状である。**規模・主軸** 底面の長さ(17.08)mを確認した。遺構確認面の溝幅は立ち上がり部を除き0.7～1.1m、立ち上がり部の溝幅0.45m前後である。主軸はN-37°-Eである。**底面** ロームを掘り込む。底面は凹凸が確認される。遺構確認面からの深さ0.15～0.2mである。底面のレベルは、北端部30.84m前後・SP-A付近30.9m前後・SP-A・B間30.93m前後・SP-B付近30.94m前後・立ち上がり部30.84m前後・SP-C付近30.85mである。SP-A・B間が浅く、溝としての底面の傾斜は現状では確認されない。**覆土** 1層を確認した。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第364号溝状遺構 (SD-364) (第67・68・107・120図 表83・90・94 図版一三)

位置 B区L-13・14グリッドを概ね北東・南西方向に延び、L-13グリッドラインでほぼ直角(N-88°-W)に北西方向に屈曲する。延長線上にあたるⅢ-2区M・N-12グリッドにおける遺構の確認はない。

重複関係 SK-374(地下式坑)→SD-376→SD-364の順に掘り込まれる。SK-373とは不詳である。

形状 西・北側は調査区外に延びる。断面形は明瞭ではないが、底面から0.3～0.4m上位で遺構確認面に向けて開く薬研堀状である。**規模・主軸** 底面の長さは東西(5.0)m・南北(14.0)mを確認した。遺構確認面の溝幅は、調査区北側境付近～SP-A付近まで0.8m前後、SP-A-B間で1.1～1.4mに広がり、これより1.6m前後で調査区西側端部に至る。底面の溝幅は、調査区北側端部～SP-B付近は0.4～0.5m、SP-B付近0.5m前後、屈曲部約0.68m、屈曲部西側付近約0.4m、SK-374東側約0.3mである。屈曲部にむけて広がる傾向にある。遺構確認面の溝幅の狭い調査区北側の底面より、遺構確認面の溝幅の広い調査区西側の底面の方が狭い。主軸はN-19°-E・N-68°-Wである。**底面** ロームを掘り込む。遺構確認面からの深さ・レベルは、SP-A付近:約1.05m・30.0m、SP-B付近:約0.98m・29.9m、SP-C付近:0.91m・29.83m、SP-E付近約1.2m・29.76mである。概ね、北方向から南方向への傾斜が確認される。**覆土** SP-A～L

第3章 確認された遺構と遺物

に1～8層、SP-Dに9～16層が確認される。屈曲部に近いSP-Cには7・8層の堆積は確認されない。7層は暗褐色粒子、8層はロームブロックの堆積が観察される。SP-C最下層の6層とSP-D13層は対応するか。

遺物出土状況 覆土中から150片が出土する。土器類84点、石製品・礫11片、陶磁器類50点、鉄関連遺物1片、鉄製品1片、工業製品のタイル2片・スレート1片・鉄製釘1片である。(遺構図No.1)は自然堆積3層中から出土する。不掲載遺物のうち内耳土器底部(胎土C)である。(遺構図No.2)9はSP-D上層の11層中から出土する。(遺構図No.3)第1ウ図-4・8からは不掲載遺物のうち内耳土器口縁部1片(胎土D)・体部1片(胎土C)・底部4片(胎土C)の出土も確認される。

SK-374出土の689片は本遺構に帰属する可能性が高いが、SK-374の可能性を否定仕切れず、SK-374に記載する。また、第69図-19はSD-364・374出土の破片が接合する。接合破片の1片を除きSK-374出土であり、SK-374に記載する。本遺構15はSD-364・374重複部からの出土が確認される。本遺構に記載する。

出土遺物 1は弥生土器か。2は須恵器盤か。3は須恵器甕か。4は土師質土器鉢類か。器種は不明であるが筒状か。5は瓦質土器鉢類か。火鉢等か。6～10は内耳土器。11は陶器甕口縁部。不掲載遺物の1片は同一個体か。12・13は砥石。13はほぼ完存する。使い減りしたものか。第120図-16は天目碗。17世紀後半の可能性があろうか。産地不明。17は陶器皿。産地不明。18は染付の半筒碗。産地不明。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は、須恵器3片、内耳土器33片、粘土塊微細片14片、近現代とみられる瓦3片、土管21片である。

須恵器は甕体部片であり外面に格子目叩きを施す。内耳土器は口縁部8片(胎土C4片・D4片)・体部9片胎土C2片・D7片)・体～底部3片(胎土C1片・D3片)・底部13片(胎土C12片・D1片)である。器高の判る3片は、4.0cm・5.0cm・6.0cmである。

石製品・礫は9片が出土する。砥石1片、礫8片である。

砥石は中央部の残る小片であり、残存する4面を砥面とする。礫は、3点は小礫であり、このうち2点は径約1.5cmの不整な球形状である。5片は破碎礫小片である。

鉄関連遺物は羽口とみられる筒状の土製品が1片出土する。ガラス質溶解等は観察されない。

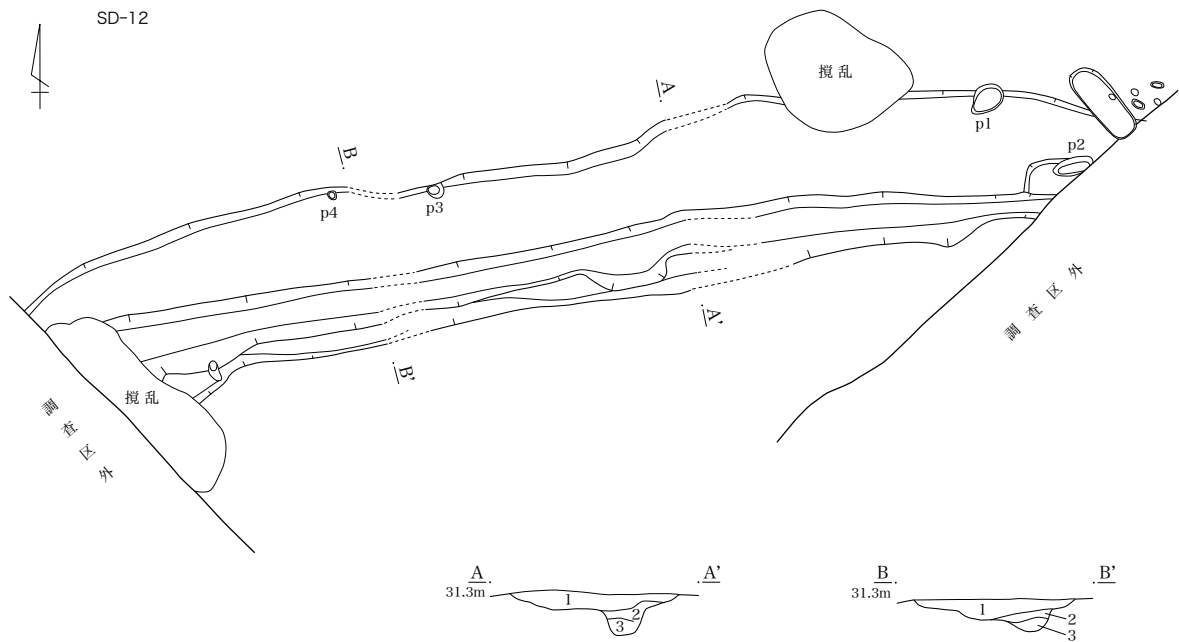
陶磁器は、陶器が28片、磁器17片が出土する。

陶器は、碗類8片、碗・皿類10片、皿類2片、耳皿片1片、鉢類2片、瓶類4片、甕類1片が出土する。多くは近世後半以降とみられるが、甕類1片は近代以降か。

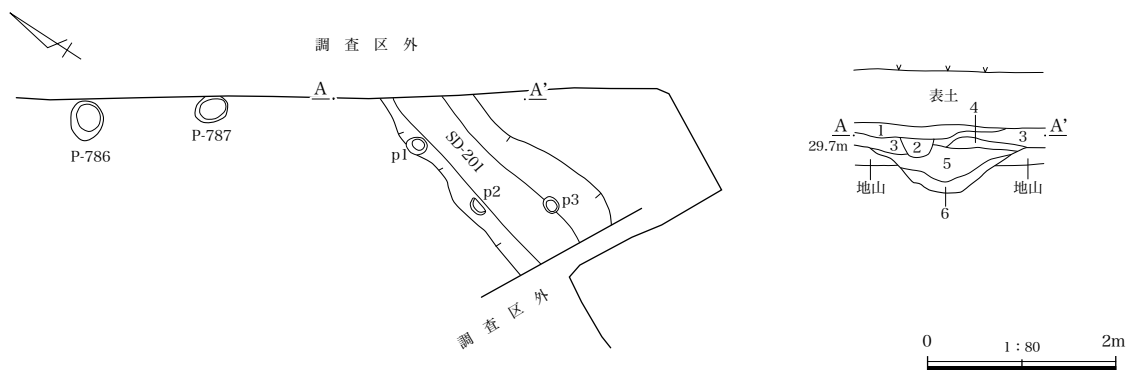
碗類は染付2片、灰釉5片、鼠志野風の釉1片が出土する。灰釉のうち明藍色の釉で文様を施す1片は近世末葉～近代初頭か。染付2片は同一個体か。灰釉のうち1片は鉄釉の付着がみられる。意匠か。碗・皿類はどれも灰釉を施す。3片は同一個体とみられる。美濃産か。2片は外面無釉。体下位部か。美濃産か。2片は内面灰釉・外面鉄釉。1片は内外面柿釉。壺・甕類とするには器壁が薄い。1片は暗黄褐色の釉を施す。皿類は灰釉を施す。1片は白濁色の向付碗か。瀬戸産か。1片は無釉の底部で粘土小塊を摘んだ脚を付す。美濃産か。耳皿は暗褐色釉を内外面に施す口縁部小片はであり、器種は可能性を示す。鉢類は外面に灰釉を施す。小型の香炉等か。瓶類は灰釉2片、柿釉1片、瀬戸黒1片である。灰釉のうち1片は暗緑色。柿釉は灰釉をかき分ける。小型の壺類の可能性はある。

磁器は、碗類17片が出土する。10片は染付である。このうち、8片は肥前系か、3片は瀬戸・美濃系か、4片は産地不明である。7片は近代以降か。

鉄製品は釘状の小片である。表90に記載する。



SD-201・P-786・787



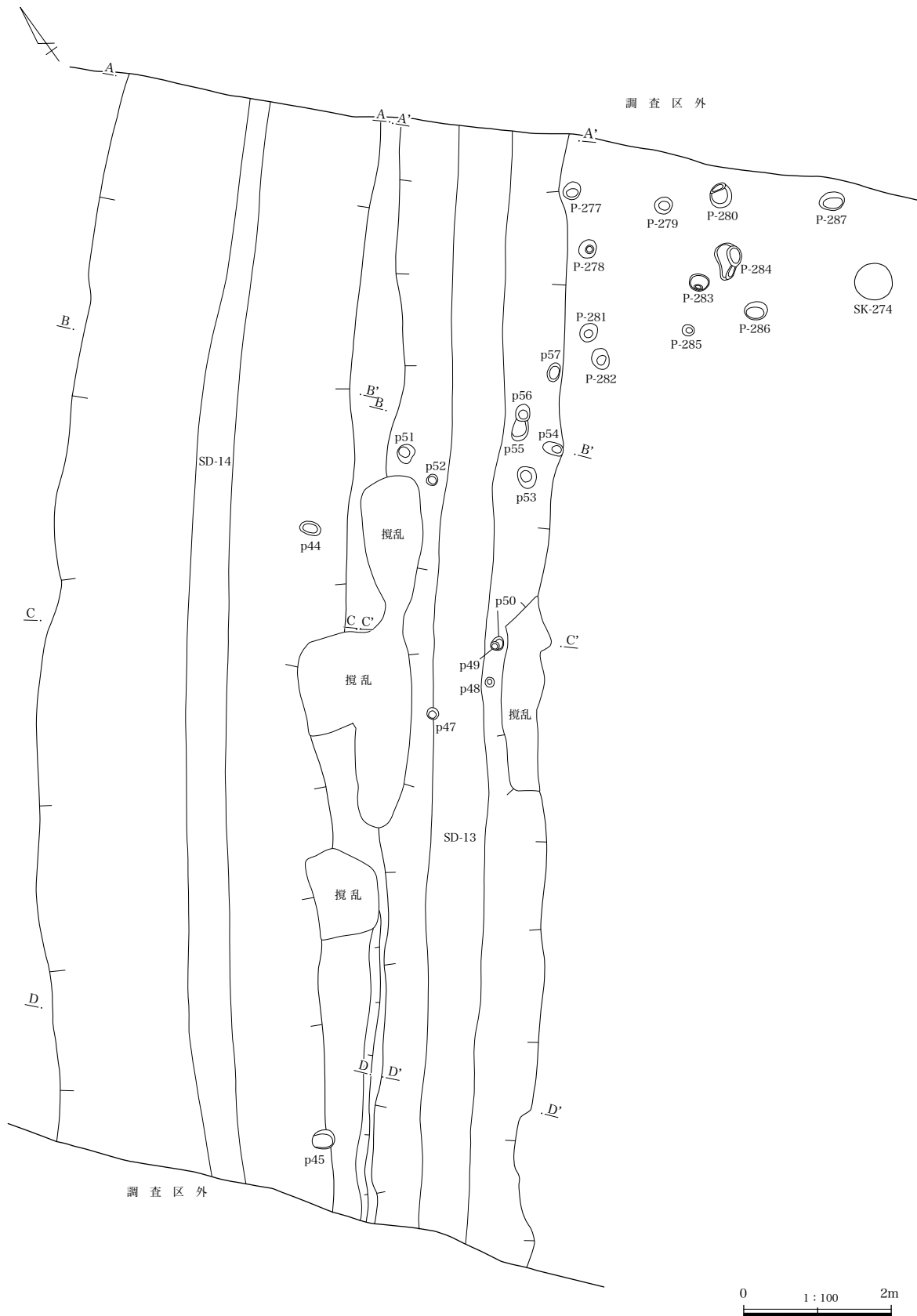
SD-12

- 1 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量。しまり強い。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。

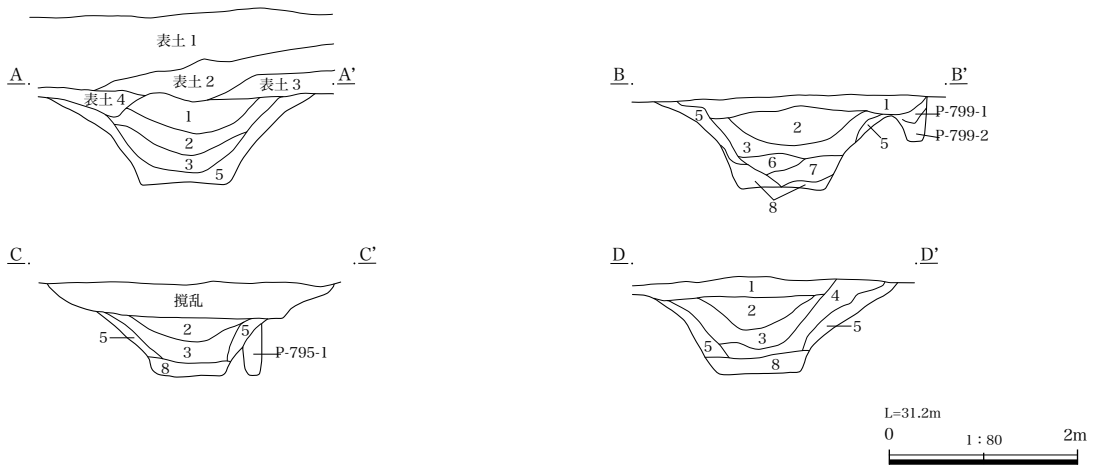
SD-201

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック含む。しまり強い。粘性なし。
- 2 褐色土 ローム微粒子・ローム粒子・ロームブロック含む。しまりやや強い。粘性なし。
- 3 暗褐色土 ローム微粒子含む。ローム粒子少量。しまりやや強い。粘性なし。
- 4 褐色土 ローム微粒子・ローム粒子含む。しまりあり。粘性あり。
- 5 明褐色土 ローム微粒子多量。しまりなし。粘性強い。
- 6 黄褐色土 ローム微粒子多量、ロームブロック含む。しまり強い。粘性強い。

第98図 第12・201号溝状遺構・第786・787号ピット実測図



第99図 第13・14号溝状遺構・第277～287号ピット実測図



SD-13

表土3 暗褐色土

表土4 黒褐色土

- 1 黒褐色土 ローム粒子・白色粒子微量。しまりややあり。粘性弱い。
- 2 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量、暗黄褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 黒色土 ローム少量、ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

- 7 暗黄褐色土 ローム粒子含む。5層よりも黄色味帯びる。しまりややあり。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ローム粒子多量。ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

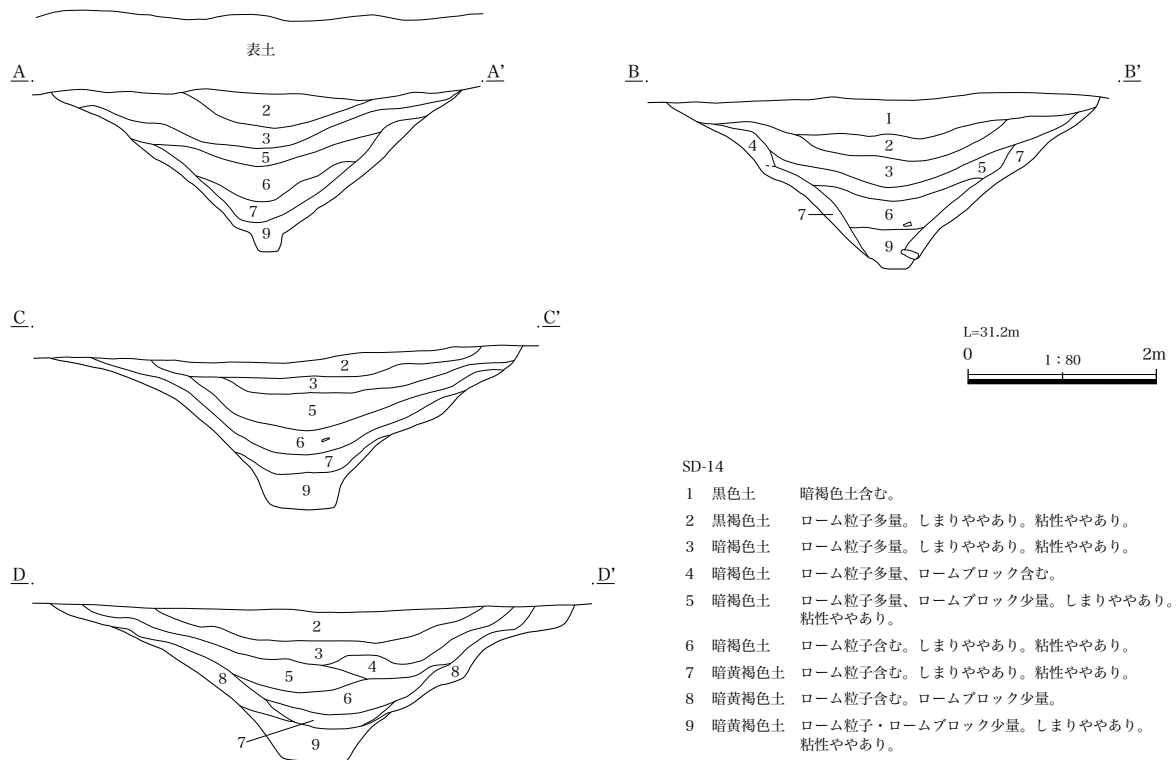
P-795

- 1 暗褐色土 暗黄色土含む。しまりややあり。粘性あり。

P-799

- 1 暗褐色土 暗黄褐色土含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性弱い。

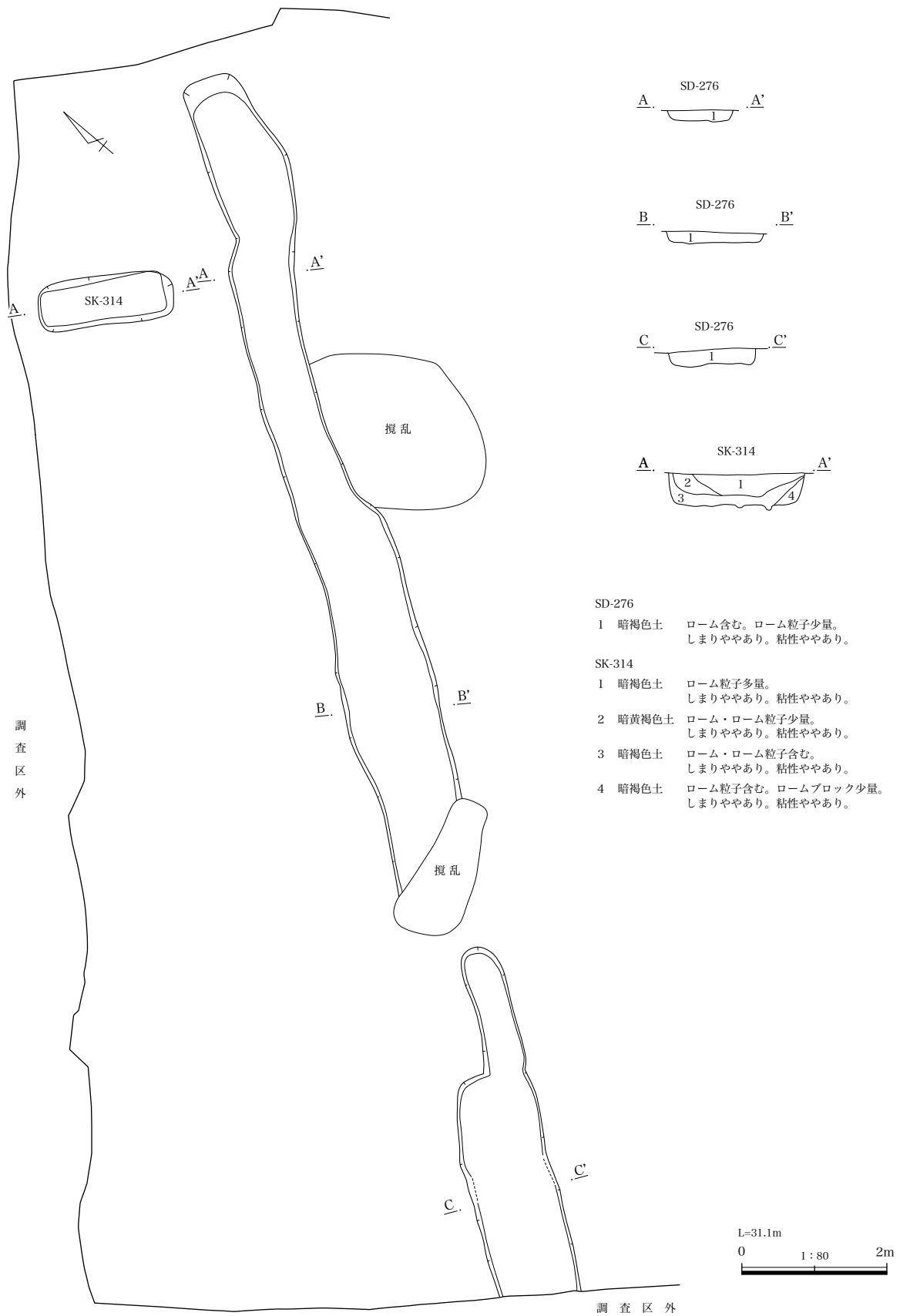
第100図 第13号溝状遺構・第795・799号ピット実測図



SD-14

- 1 黒色土 暗褐色土含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 6 暗褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 7 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ローム粒子含む。ロームブロック少量。
- 9 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。

第101図 第114号溝状遺構実測図



第102図 第276号溝状遺構・第314号土坑実測図

第371号溝状遺構 (SD-371) (第67・68・108図 表94・92)

位置 B区K-13グリッドを概ね北東・南西方向に延びる。南側の延長線上となるC区L-12グリッド南東部付近における関連遺構の確認はない。**重複関係** SD-371→SK-370(地下式坑)の順に掘り込まれる。

形状 東・南・北側は調査区外に延びる。断面形は逆台形状である。**規模・主軸** 底面の長さ(2.5)mを確認した。遺構確認面の溝幅は1.1m以上、壁面の屈曲点となる30.48m付近の溝幅0.65～0.85m、底面の溝幅0.3～0.5mである。主軸はN-23°-Eである。**底面** ロームを掘り込む。表土下からの深さ約0.1mである。底面のレベルは、北側30.3m前後・中間部30.26m前後・南側30.215mである。現状においては、北方から南方への底面の傾斜が確認されるが、溝の傾斜を示すものか判然としない。**覆土** 7層を確認した。1～5層は掘り直しを示すものか。**遺物出土状況** 覆土中から20片が出土する。土器類4点、石製品1片、陶器6片、磁器7点、鉄滓1片、スレート2片である。

出土遺物 1は内耳土器。2は砥石。使い減りか。

この他、図示し得なかった出土遺物は土器類3片、陶器6片、磁器7片、鉄滓1片である。

土器類は、内耳土器1片、瓦質土器1片、土師質土器1片が出土する。

内耳土器は底部片(胎土C)。瓦質土器は鉢類か。SD-375-2同様の意匠を施す。土師質土器は甕頸部～体部片か。外面は荒いヘラナデを施す。

陶器は6片が出土する。1片は天目碗底部か。内面黒褐色釉、外面無釉部。内面の釉調から天目碗でない可能性も残る。1片は碗類底部。内面灰釉・外面鉄釉を縞状に施す。近世後半か。1片は鉢類底部。高台等は付されない。内面オリーブ釉(灰釉か)・外面無釉部。近世後半以降か。1片は筒型の香炉片。内外面に黄褐色釉(灰釉か)を施す。近世後半以降か。1片は甕口縁部。内外面に灰釉かを施す。近代以降か。1片は仏しょう具か。小型の碗類か。近代以降か。

磁器は、碗類4片、瓶類1片、把手2片が出土する。碗類は肥前系とみられる染付小片である。瓶類はき厚0.9cm前後、外面に灰釉を施す。把手は詳細不明。耳・吊り手の可能性もある。飴釉・黄白色釉を施す。何れも近世後半以降か。

鉄滓は表92に記載する。

第376号溝状遺構 (SD-376) (第67・68・108図 表85・92 図版一三・一五)

位置 B区L-12・13, M-13グリッドを概ね南東・北西方向に延びる。延長線上のⅢ-2区M・L-12グリッド、C区J-11・12グリッドにおける遺構の確認はない。**重複関係** SK-376・383→SD-376→SD-364、SK-374→SD-364の順に掘り込まれる。**形状** 東・西側は調査区外に延びる。断面形は不明瞭ではあるが薬研堀状か。**規模・主軸** 底面の長さ[9.65]mを確認した。遺構確認面の溝幅は1.1～1.2m、底面の溝幅は0.32～0.65mであり、調査区東端部付近が広い。攪乱以西は不詳である。主軸はN-69°-Wである。

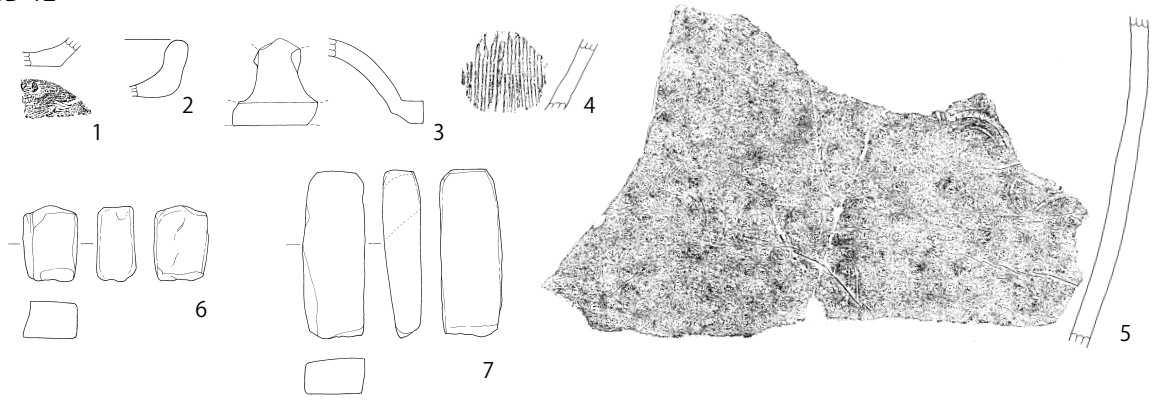
底面 ロームを掘り込む。底面レベルが確認し得るのはSK-375以東である。調査区東側端部30.24m・SK-383付近30.28m・SK-375付近30.3mであり、西方向から東方向への傾斜が確認される。高低差は約0.06mであり、溝状遺構底面の傾斜を示すものか判然としない。**覆土** AP-E・Fに1～4層、SP-Dに5・6'が確認される。2・4層:6'層は対応するか。**遺物出土状況** 覆土中から73片が出土する。土器類48点、石製品・礫9片、鉄関連遺物1片、陶磁器類12点、鉄滓3片である。

出土遺物 1は須恵器高台付き坏片か。2は瓦質土器挿鉢片。3・5は内耳土器。4は陶器甕口縁部。6は磨石か。7・8は砥石。

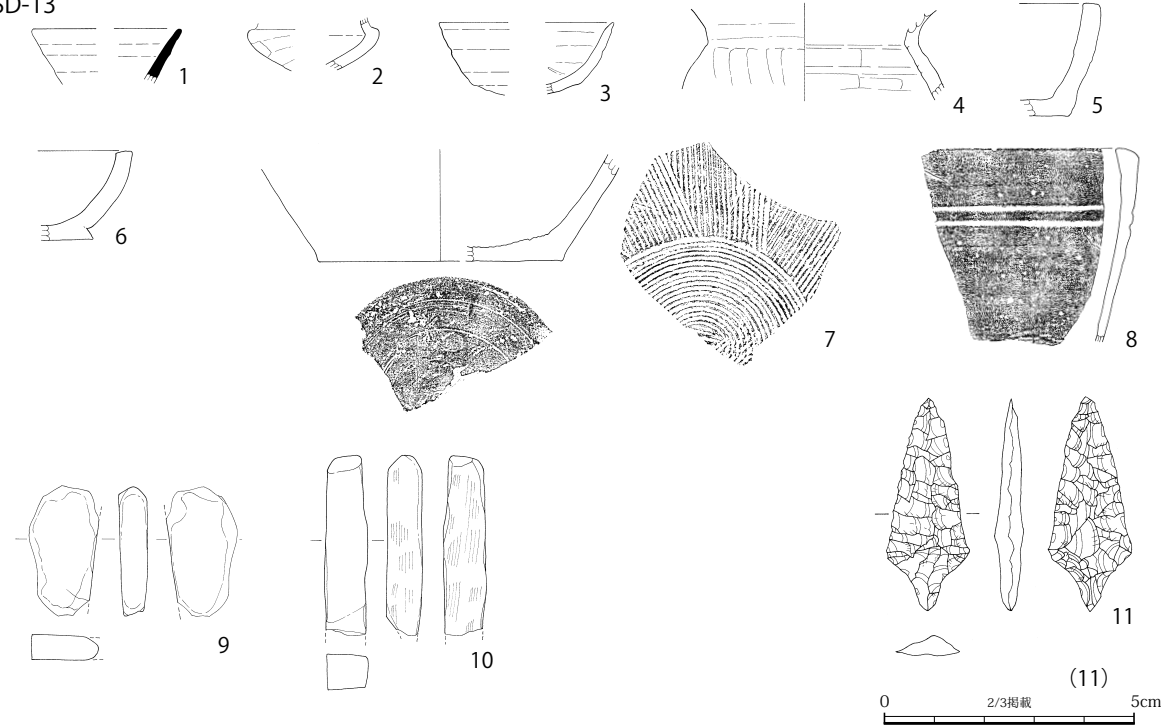
この他、図示し得なかった出土遺物は土器類44片、石製品・礫6片、製鉄関連遺物1片、陶磁器12片である。

第3章 確認された遺構と遺物

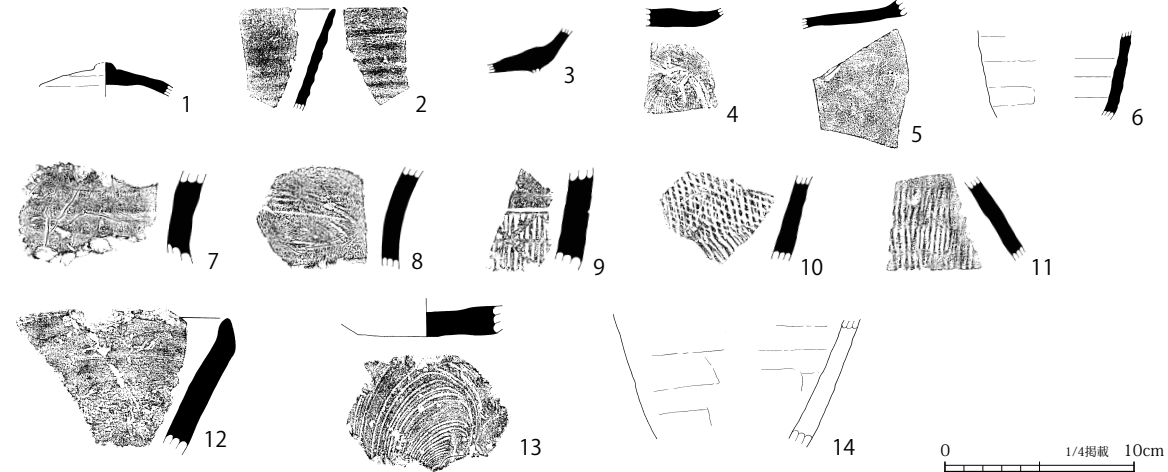
SD-12



SD-13

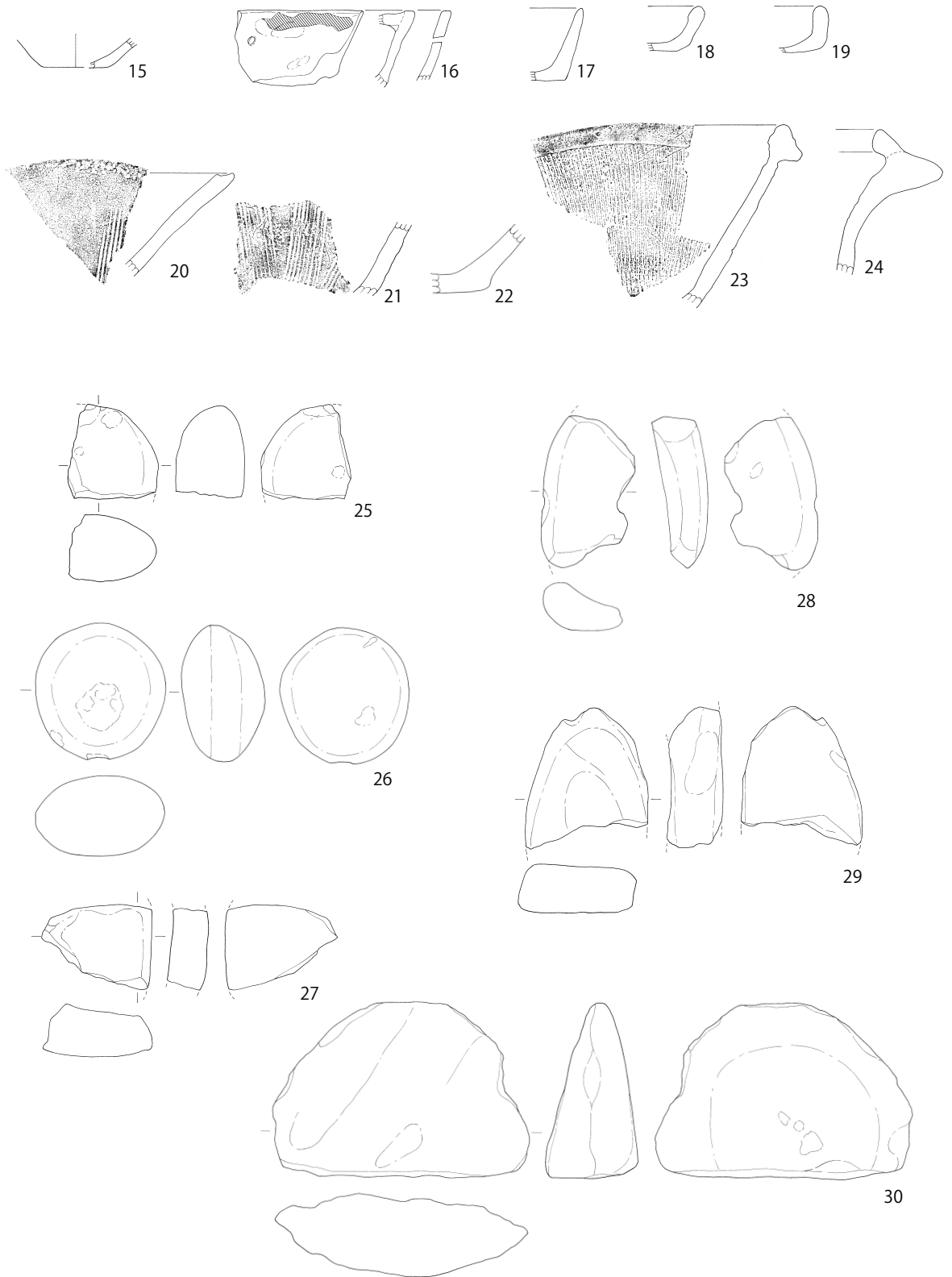


SD-14



第103図 第12～14号溝状遺構出土遺物実測図

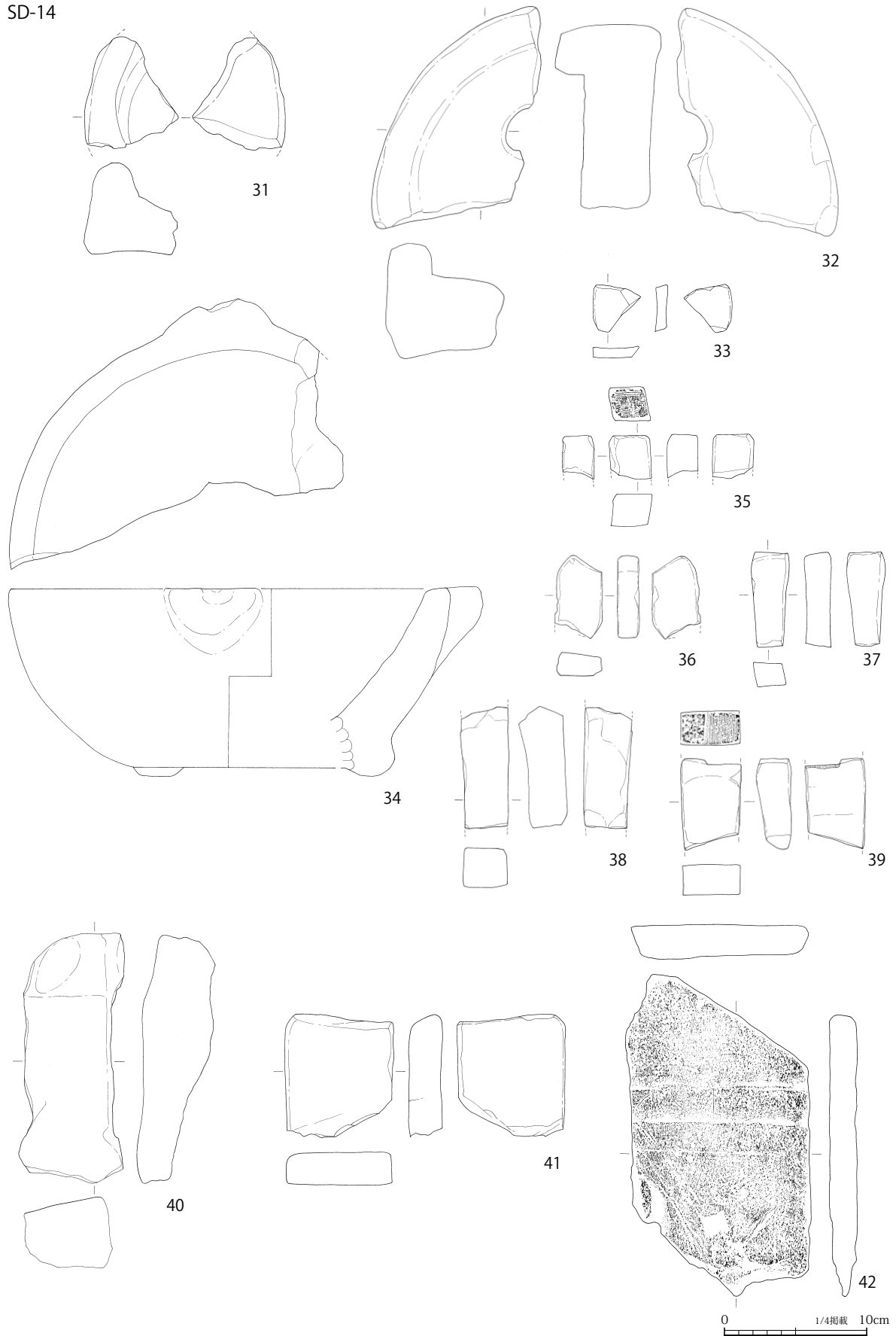
SD-14



0 1/4掲載 10cm

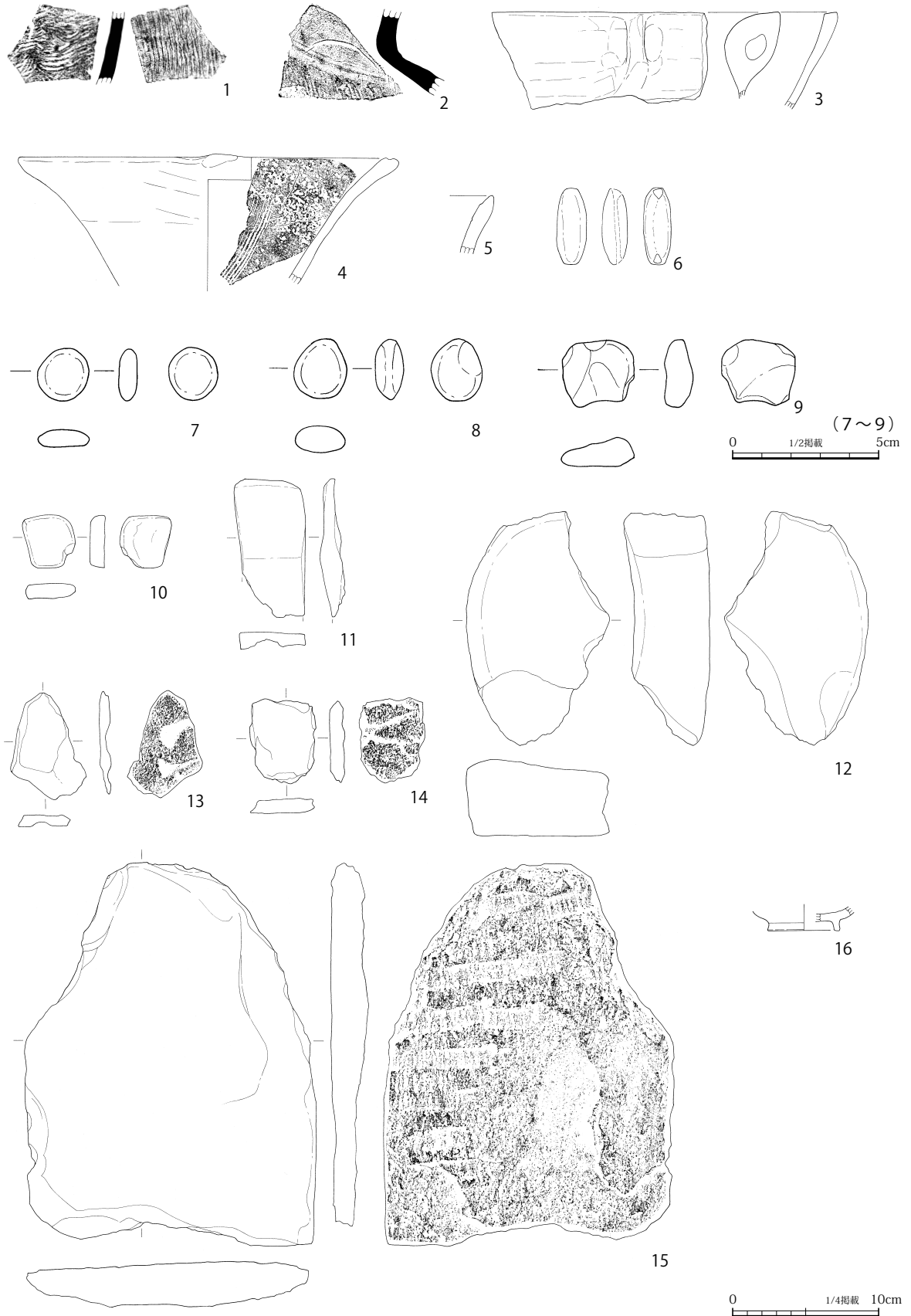
第104図 第14号溝状遺構出土遺物実測図(2)

SD-14



第105図 第14号溝状遺構出土遺物実測図(3)

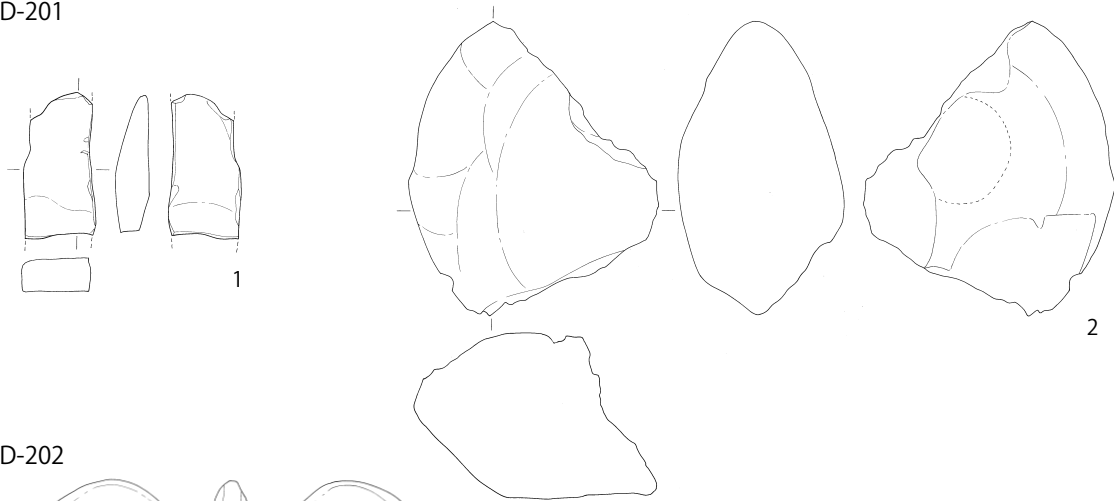
SD-19



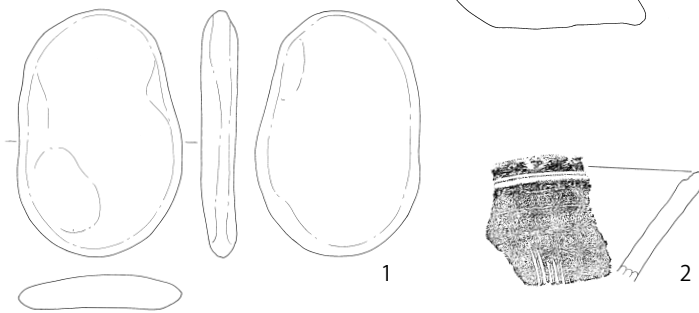
第106図 第19号溝状遺構出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物

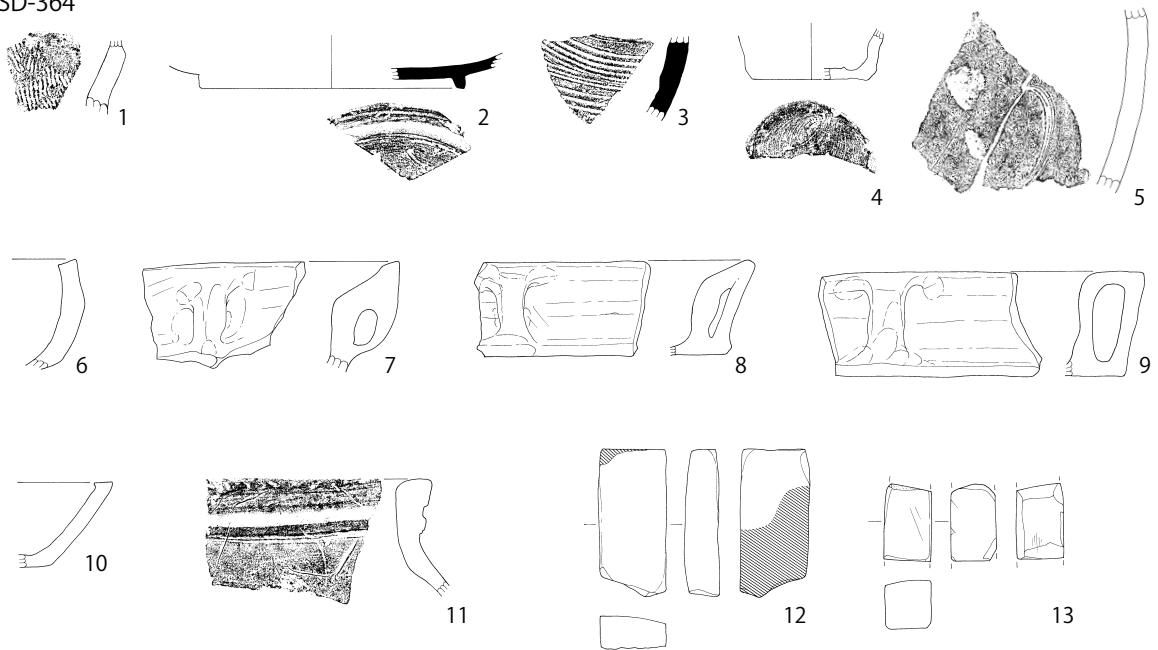
SD-201



SD-202

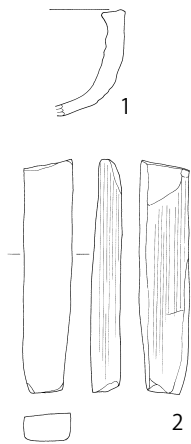


SD-364

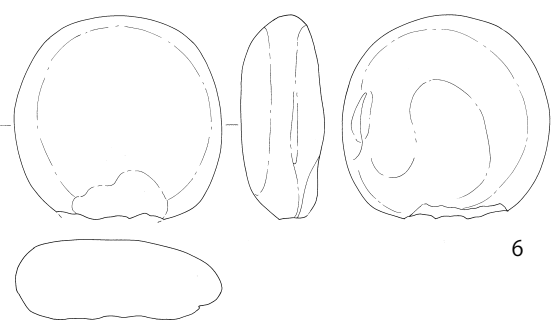
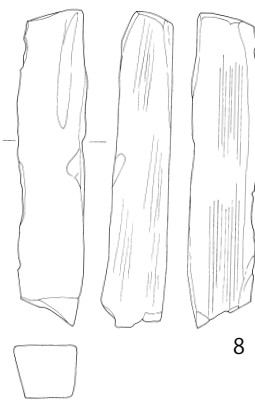
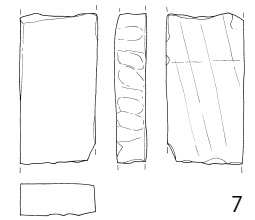
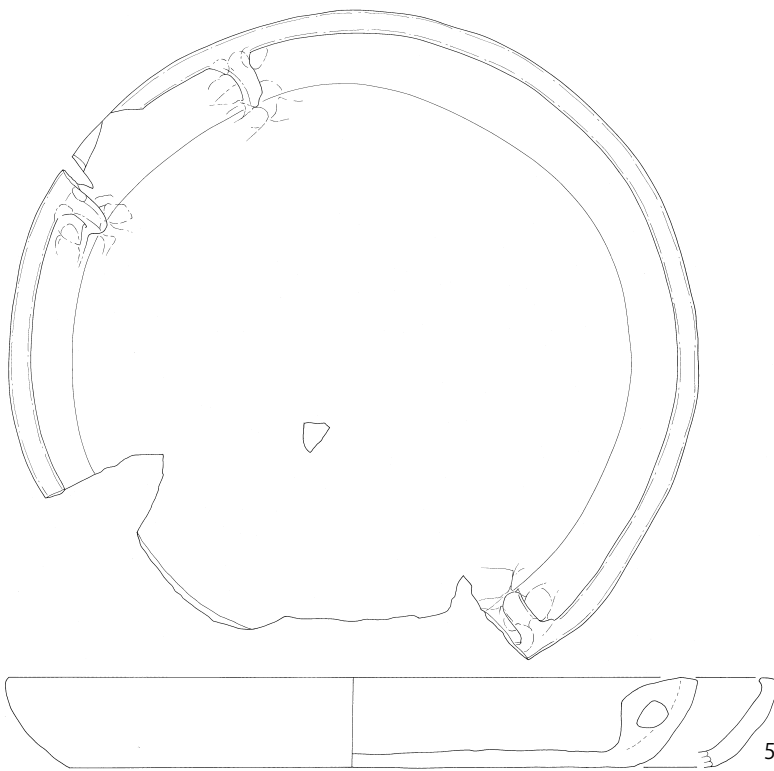
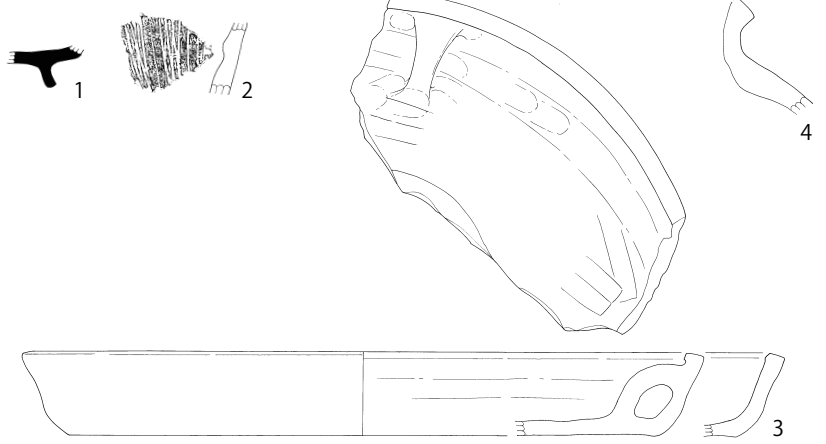


第 107 図 第 201・202・364 号溝状遺構出土遺物実測図

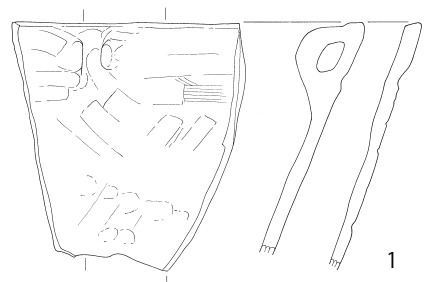
SD-371



SD-376



SD-393



0 1/4掲載 10cm

第108図 第371・376・393号溝状遺構出土遺物実測図

第3章 確認された遺構と遺物

表 77 第 12 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 坏か	口径:— 底径:— 器高:(1.5)	内外面 ヘラナデか 底部 ヘラナデの木口状の工具痕が残るか	内外 暗灰黄色	須恵器・土師器 B群・1・2 良	小片	OYAW3 SD12
2 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(3.0)	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ スス付着 底部 劣化	内 明褐色 外 にぶい褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW2 SD-12
3 瓦質土器 脚部か	口径:— 底径:— 器高:(4.5)	内外面ともヘラナデか 脚部の円形状の透かし部分か	内 褐色 外 にぶい褐色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW2 SD-12
4 瓦質土器 播鉢	口径:— 底径:— 器高:(3.8)	密に摺目を配する 現状・円形状・破砕面は部分的に磨滅	内 にぶい赤褐色 外 赤褐色	瓦質土器B群 良	破片	OYAW2 SD-12
5 瓦質土器 甕	口径:— 底径:— 器高:(17.5)	内外面 ヘラナデ 内外面とも工具痕残る	内外 明褐色	瓦質土器D群 良	破片	OYAW2 SD-12
6 砥石か	長:4.0 厚:2.0 幅:2.9 重:44.18	両端部欠損 砥面は上・下・両側面の4面か 主砥面は上面 両端部も磨滅する 仕上げ砥か	内外 にぶい褐色	チャート	完存か	OYAW3 SD-12
7 砥石	長:8.9 厚:2.0 幅:3.2 重:89.03	廃絶時の砥面は全面か 主砥面は表裏面 図 上:左側面にはタテ方向の磨痕がみえ、部分的に剥落する 右側面は破砕後に砥面か 左側面に比べ使用頻度高いが 上半部は剥落する	内外 にぶい黄色	粘板岩	ほぼ完存か	OYAW3 SD-12

表 78 第 13 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 坏	口径:— 底径:— 器高:(2.9)	ロクロ成形	内外 灰色	須恵器・土師器 C群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD13 南下層
2 土師器 坏	口径:— 底径:— 器高:(2.8)	口縁部 外面欠損 内 体部:ヨコナデか うるし仕上げか 外 体部:ヘラナデ(ヨコ)→ 口縁部:ヨコナデか	内外 にぶい褐色	須恵器・土師器 B群・1・2 良	小片	OYAW3 SD13 (SD-13覆土)
3 土師器 坏	口径:— 底径:— 器高:4.6	内 磨滅 口縁部:ヨコナデ 外 磨滅 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラクスリ	内 にぶい褐色 外 褐色	須恵器・土師器 B群・1・2 良	小片	OYAW3 SD13北 南から4
4 土師器 小型壺	口径:— 底径:— 器高:(4.7)	内 口縁一頸部:ヨコナデ 体部:ヘラクスリ(ヨコ) 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラクスリ(タテ:左→右)	内 褐色 外 にぶい黄褐色	須恵器・土師器 B群・1・2 良	小片	OYAW3 SD13北 南から4
5 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:6.0	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ 体部下半・底部剥離	内 オリーブ褐色 外 暗灰黄色	瓦質土器C群 良	1/8以下	OYAW2 SD13 (南から3 SPB-C開口)
6 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(4.7)	体部と底部の接合部突出する 内 ヨコナデ 外 ヨコナデ スス付着 底部 ナデか 劣化	内 にぶい褐色 外 灰褐色	瓦質土器D群 良	1/8以下	OYAW3 SD13 南から3 (SD-13覆土)
7 陶器 播鉢	口径:— 底径:13.0 器高:(5.7)	内 19本一組の摺目を密に施す 見込み:同心円状の摺目を施す 底部 回転ヘラナデ	内外 暗灰黄色	陶器C群 良	小片	OYAW3 SD-13
8 陶器 甕	口径:— 底径:— 器高:(10.7)	褐色釉を内外面に均一に施す 口縁部下 沈線2条巡る	内外 暗赤褐色	陶器C群 良	小片	OYAW3
9 砥石	長:7.8 厚:1.5 幅:3.7 重:43.37	両端部 左側面を欠する 残存する3面は砥面	内 にぶい黄褐色 外 黄褐色	流紋岩	2/3か	OYAW3 SD13 南から3 (SPB-C閉)
10 砥石	長:9.5 厚:1.9 幅:2.2 重:66.34	片側端部は破砕する 砥面は欠損する下端以外の5面か 主砥面は表面 残る4面は櫛歯状の痕跡が残る	内 にぶい黄色 外 オリーブ褐色	流紋岩	ほぼ完存か	OYAW3 SD13

表 79 第 14 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 蓋	口径:— 底径:— 器高:(1.8)	ロクロ成形 つまみ欠損	内 灰褐色 外 灰黄褐色	須恵器・土師器 C群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD14 南から3
2 須恵器 坏	口径:— 底径:— 器高:(5.3)	ロクロ成形 外面の水引痕明瞭	内 灰オリーブ色 外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・7 良	小片	OYAW3 SD14
3 須恵器 高台付坏か	口径:— 底径:— 器高:(2.3)	内外 ヘラナデか	内外 灰黄色	須恵器・土師器 C群・1・2・7 良	小片	OYAW3 SD14 南から4
4 須恵器 坏か	口径:— 底径:— 器高:(1.0)	ロクロ成形 底部 丸味をもって立ち上がる 底部 回転系切り	内外 暗灰黄色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD14
5 陶器 瓶類か	口径:— 底径:— 器高:(1.2)	ヘラナデ 底部か 歪みあり 体部の立ち上がりともみられる破片端部は、 底部とみられる部分よりも器厚がある	内外 褐色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD14
6 須恵器 瓶類か	口径:— 底径:— 器高:(4.6)	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ 自然軸が厚く垂下するが、端部は剥落する	内外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD14
7 須恵器 瓶類か	口径:— 底径:— 器高:(4.7)	ヘラナデか	内 灰オリーブ色	須恵器・土師器 B群・1・2・7 良	小片	OYAW3 SD14 南から2
8 須恵器 瓶類か	口径:— 底径:— 器高:(5.5)	ヘラナデか	表裏 灰オリーブ色	須恵器・土師器 B群・1・2・7 良	小片	OYAW3 SD14 南から2

第3節 3次調査

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
9 須恵器 甕	口径:— 底径:— 器高:(4.8)	体部小片 外面 沈線内にカキ目か	内外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・7 良	小片	OYAW3 SD14 南から4
10 須恵器 甕	口径:— 底径:— 器高:(4.5)	体部小片 内 ヘラナデか 外 平行叩き 重複か	内 灰黄色 外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・7 良	小片	OYAW3 SD14
11 須恵器 甕	口径:— 底径:— 器高:(4.9)	体部小片 内 ヘラナデ 外 平行叩き 破片上端はヨコナデか	内外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD14 南から3
12 須恵器 甕	口径:— 底径:— 器高:(7.3)	口縁部小片 内 ヨコナデ 外 ヨコナデ 破片下手 器面荒れ	内外 灰色	須恵器・土師器 B群・2・7 良	小片	OYAW3 SD14 南から4
13 須恵器 瓶類か	口径:— 底径:— 器高:(1.5)	底部片 回転糸切り	内 灰白色 外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD14 南から4
14 常滑 片口鉢か	口径:— 底径:— 器高:(6.7)	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリー上半ヘラナデ	内外 黄灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD14
15 土師質土器 小皿	口径:— 底径:(4.0) 器高:(1.9)	ロクロ仕上げ 底部:磨滅	内 にぶい橙色 外 橙色	土師質土器B群	小片	OYAW3 SD14 南から2
16 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(4.9)	内耳欠損 小孔を穿つ 補修孔か 内 ヘラナデ 内耳周辺:指ナデ 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ スス付着	内 にぶい黄褐色 外 褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SD14 南から3
17 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(4.7)	内 ヘラナデ 外 口端部:磨滅 体部:ヘラナデ スス付着	内 にぶい褐色 外 黒褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SD14内ヶヶ 北西区西
18 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(3.0)	内 ヨコナデ 外 口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ 底部 劣化	内外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SD14内ヶヶ 北西区西
19 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(3.0)	内 ヨコナデ 外 口縁部:ヨコナデ 体下位:ヘラナデ ヘラナデによって器面に稜が作出される	内外 にぶい褐色	瓦質土器C群 良	小片	OYAW3 SD14 南から3
20 瓦質土器 插鉢	口径:— 底径:— 器高:(6.7)	5本以上一単位の摺目を疎らに施す	内 褐灰色 外 黒色	瓦質土器A群 良	小片	OYAW3 SD14 南から4
21 瓦質土器 插鉢	口径:— 底径:— 器高:(4.9)	9本一単位の摺目を間隔を置いて施す	内 褐灰色 外 黒色	瓦質土器A群 良	小片	OYAW3 SD14 南から3
22 陶器 瓦	口径:— 底径:— 器高:(4.5)	内面 自然軸か	内 灰黄色 外 にぶい褐色	陶器E類 良	小片	OYAW3 SD14 南から4
23 陶器 插鉢	口径:— 底径:— 器高:(11.9)	摺目を密に施す 更に2.5cm前後の間隔で細い2〜3条の摺目を施す 同一個体とみられる一片が出土する	内外 赤褐色	陶器D類 良	小片	OYAW3 SD14内ヶヶ 南から3
24 陶器 甕	口径:— 底径:— 器高:(9.5)	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ 口縁粘土紐積み上げ部:指頭痕	内外 灰褐色	陶器C類 良	小片	OYAW3 SD14 南から2
25 磨石	長:6.2 厚:5.0 幅:5.9 重:206.77	両面とも研磨 表裏面に浅い凹孔状の凹み 上端部 敲打痕	表裏 灰白色	安山岩	1/4	OYAW3 SD14 南から3
26 磨石	長:9.0 厚:5.5 幅:8.5 重:487.66	図 上 表面:やや平坦 中央部に浅い凹み 図 上 裏面:やや凸状 下端 敲打痕	表裏 黄褐色	砂岩	完存	OYAW3 SD14 南から4
27 こね鉢か	長:7.3 厚:3.5 幅:5.5 重:125.70	小片 磨面は上面で磨滅顕著 研磨し平滑な周縁 磨滅する下面は整形痕か	内外 灰色	安山岩	1/6か	OYAW3 SD14 南から3
28 こね鉢か	長:10.0 厚:3.8 幅:6.0 重:164.23	小片 磨面上面 周縁部下面は整形による磨滅か 周縁部は丸味を帯びるか 幅狭の平坦な磨滅面によって作出される	表裏 灰黄色	輝石安山岩	小片	OYAW3 SD14
29 不明石製品	長:9.2 厚:3.7 幅:8.0 重:137.66	残存面全面磨滅 特に表・周縁部に顕著 裏面は破砕後磨滅 軽い	表裏 オリーブ黒色	スコリア質安山岩	約1/2か	OYAW3 SD14 南から3
30 礫石器か	長:11.5 厚:6.1 幅:16.8 重:999.13	図 上 表面:破砕後の磨滅面 図 上 裏面:磨滅 中央部により顕著 下端磨滅して平滑	表裏 褐灰色	安山岩	1/2	OYAW3 SD14 南から2
31 石臼	長:7.8 厚:6.4 幅:6.6 重:255.76	上臼 小片	表裏 暗灰黄色	輝石安山岩	1/6	OYAW3 SD14
32 石臼	長:15.9 厚:7.5 幅:11.7 重:1536.99	下臼 穀物用	表裏 黄灰色	輝石安山岩	小片	OYAW3 SD14
33 不明石製品	長:3.4 厚:0.9 幅:3.3 重:10.89	薄く平滑 やや凹状 下面 被熱による赤色変化か	表裏 にぶい黄褐色	砂岩	1/4か	OYAW3 SD14 南から3
34 こね鉢か	口径:[31.0] 底径:[21.0] 器高:(13.2) 重さ:2113.97	口縁部 突出部は持ち手か 底部 円形状の脚は3ヶ所か 全面磨滅 内面に顕著	表裏 灰色	安山岩	1/3	OYAW3 SD14 南から4
35 砥石	長:3.1 厚:2.3 幅:3.0 重:28.40	端部のみ残存 砥面は残存する5面か 主砥面は表・右側面 右側面 部分的剥落 残存部は平行する条線状の痕跡 上端部も同様の痕跡	表裏 にぶい黄褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD14 南から3
36 砥石	長:5.8 厚:1.5 幅:3.4 重:45.55	下端右側の一部を残し欠損 砥面は全面か 主砥面は上・下・右側面 上端は欠損部も砥面として利用か 左側面下半剥落 下端の右側の一部に砥面が残る	表裏 にぶい黄色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD14 南から2
37 砥石	長:6.7 厚:2.0 幅:2.7 重:48.39	下半部欠損 砥面は残存する5面 いずれも研磨が著しいが、上両側面に特に顕著	表裏 黄褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD14 南から4

第3章 確認された遺構と遺物

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
38 砥石	長: 8.5 厚: 3.1 幅: 3.3 重: 140.11	上・下半欠損 主砥面は残存する4面 右側面 直交方向の線状痕 金属器研磨か	表裏 褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD14 南から2
39 砥石	長: 6.4 厚: 2.4 幅: 4.2 重: 98.09	下半部欠損 砥面は残存する5面 主砥面は表・左側面 裏面 図上点線下部は研磨顕著 上部は研磨痕薄く凹凸あり 上端部は左端部を除き平行する条線状の痕跡 欠損後ついたものか	表裏 黄褐色	流紋岩か	端部欠損	OYAW3 SD14 南から3
40 砥石	長: 17.5 厚: 5.7 幅: 7.3 重: 639.31	表面のみ残存 上・下端は欠損 表面上部剥落 中央部スス状の付着物 左側面 部分的に平行する線状痕が観察されるが詳細不明	表裏 にぶい黄色	砂岩	端部欠損	OYAW3 SD14 南から3
41 不明礫	長: 8.7 厚: 2.3 幅: 7.5 重: 278.43	方形の破砕礫か 扁平で残存面は磨滅する 何らかの石材か、石製品か	表裏 暗オリーブ色	砂岩	小片	OYAW3 SD14 南から4
42 板碑	長: 22.6 厚: 2.0 幅: 13.0 重: 1014.39	頭部分 半部欠損 二条線 種子が刻まれる	表裏 緑灰色	緑泥片岩	頭部1/2	OYAW3 SD14

表 80 第 19 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 甕	口径: 一 底径: 一 器高: (4.6)	内 同心円状あて具痕 外 平行叩き 三壺産か	内外 灰色	須恵器・土師器 A群・1・2 良	小片	OYAW3 SD-19
2 須恵器 甕	口径: 一 底径: 一 器高: (5.8)	内 ヨコナデか 外 口縁部: ヨコナデ 体部: 平行叩き 三壺産か	内 灰色 外 オリーブ灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・6	小片	OYAW3 SD-19
3 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (6.6)	内 内耳接合部: 指ナデ 外 磨滅 内耳接合部: 凹む	内 灰褐色 外 にぶい褐色	瓦質土器D類 良	1/8	OYAW3 SD-19
4 瓦質土器 片口か	口径: [26.0] 底径: 一 器高: (8.6)	内外 磨滅 8本ごとに一組の摺目を疎らに施す	内 黄灰色 外 にぶい黄色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 SD-19
5 瓦質土器 鉢類	口径: 一 底径: 一 器高: (4.0)	内外面 磨滅	内外 にぶい黄褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 SD-16
6 土錘	長: 5.2 厚: 1.8 幅: 2.0 重: 17.66	外面 磨滅 孔は四角形の棒状工具で穿孔か 体部は板状の粘土を折り曲げたか	内外 灰色	やや緻密 1・2・6 良	完存	OYAW3 SD19
7 石製品 基石	長: 1.8 厚: 0.6 幅: 1.8 重: 2.57	極めて平滑 光沢あり	内外 暗灰色	粘板岩	完存	OYAW3 SD19
8 石製品 基石か	長: 2.1 厚: 0.9 幅: 1.8 重: 4.08	極めて平滑 光沢あり	内外 暗灰色	粘板岩	完存	OYAW3 SD19
9 石製品 基石か	長: 2.3 厚: 1.0 幅: 2.5 重: 6.50	円形状 扁平 全面磨滅 やや光沢あり	内外 暗オリーブ色	チャート	完存	OYAW3 SD19
10 不明小礫	長: 3.6 厚: 1.0 幅: 3.6 重: 21.47	平面方形状 上・下・側面平滑 表面光沢あり	内外 オリーブ黒色	頁岩	完存か	OYAW3 SD19
11 砥石	長: 9.5 厚: 1.7 幅: 4.8 重: 67.98	裏面: 下半部欠損 上端部両側面はわずかに残存 砥面は残存面4面 表面凹凸顕著 残存面スス付着	内 黒褐色 外 にぶい黄褐色	安山岩	完存か	OYAW3 SD19
12 石臼	長: 16.0 厚: 5.9 幅: 9.8 重: 880.57	下臼か やや凹 上・下・側面磨滅	表裏 灰オリーブ色	輝石安山岩	小片	OYAW3 SD19
13 板碑	長: 7.3 厚: 0.8 幅: 5.1 重: 29.55	種子とみられる線刻が施されるか 破片の上下等不詳 種子の一部か	表裏 緑灰色	緑泥片岩	小片	OYAW3 SD19
14 板碑	長: 5.8 厚: 1.0 幅: 4.5 重: 42.98	種子とみられる線刻が施されるか 破片の上下等不詳 種子の一部か	表裏 緑灰色	緑泥片岩	小片	OYAW3 SD19
15 板碑	長: 26.2 厚: 2.6 幅: 20.0 重: 2205.30	小形の頭部か 図 上: 表面は磨滅し平滑 裏面は横方向の彫跡がみられる 整形痕か	表裏 緑灰色	緑泥片岩	頭部片	OYAW3 A区 SD19

表 81 第 201 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 砥石	長: 7.7 厚: 1.8 幅: 3.9 重: 67.09	砥面 上・下・両側面 主砥面は上・下面か 断面凸状 使い減りか	表裏 にぶい黄褐色	流紋岩	1/2か	OYAW3 A区 SD201
2 石皿か	長: 15.5 厚: 8.8 幅: 13.3 重: 876.81	上面 磨滅 下面 凹状か	表裏 暗灰黄色	スコリア質 輝石安山岩	1/3か	OYAW3 A区 SD201

表 82 第 202 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 磨石	長: 13.1 厚: 1.9 幅: 8.8 重: 312.87	全面磨滅 被熱により赤色変化 (図上裏面に顕著)	表裏 にぶい褐色	礫質砂岩	完存	OYAW3 S-202

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
3 瓦質土器 すり鉢	口径:— 底径:— 器高:(6.5)	内外面 磨滅 内 口唇部凹線状 5本一組の摺目を疎らに施す	内外 黒褐色	瓦質土器B群	小片	OYAW3 S-202

表 83 第 364 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 弥生土器か 甕か	口径: 底径: 器高:(3.8)	2段の縄文を横方向に回転か	内外 にぶい黄褐色	須恵器・土師器 B群・1・2・6	小片	OYAW3 SD364
2 須恵器 盤か	口径:— 底径:14.0 器高:(1.9)	ロクロ成形	内外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・5・7 良	小片	OYAW3 SD364
3 須恵器 甕	口径:— 底径:— 器高:(4.5)	内 同心円状あて具痕か 外 木口状工具によるヘラナデか	内 灰色 外 暗灰黄色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD364
4 土師質土器 鉢類か	口径:— 底径:6.0 器高:(2.7)	ロクロ成形 底部 回転糸切り	内外 にぶい黄褐色	土師質土器C群 良	小片	OYAW3 SD364 No3
5 瓦質土器 鉢類か	口径:— 底径:— 器高:(9.6)	5条一組の条線を曲線的に配する	内 褐色 外 橙色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 SD364
6 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.8)	体部湾曲 ヘラナデか 外面 劣化	内外 明褐色	瓦質土器D群 良	小片	OYAW3 SD364
7 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.8)	ヘラナデ 内耳接合部:指ナデ疎ら 外面スス付着	内 明赤褐色 外 明褐色	瓦質土器D群 良	1/8以下	OYAW3 SD364
8 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.0)	ヘラナデ 内耳接合部:指ナデ疎ら 内外面スス付着	内 明褐色 外 褐色	瓦質土器D群 良	1/8以下	OYAW3 SD364 No3
9 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.5)	ヘラナデ 内耳接合部:下端を中心に指ナデ 底部から体部は鋭利に立ち上がる	内 にぶい黄色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	1/8以下	OYAW3 SD364C No2
10 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(4.5)	ヘラナデ 外面 口縁部:スス付着 体一底部:丸味をもって立ち上がる	内外 にぶい黄褐色	瓦質土器D群 良	1/8以下	OYAW3 SD364
11 陶器 甕	口径:— 底径:— 器高:(6.1)	口縁部 直線的に立ち上がる ヘラナデ	内外 褐色	陶器胎土D類 良	小片	OYAW3 SD364
12 砥石	長:7.8 厚:1.8 幅:3.5 重:77.60	片側端部欠損 砥面は残存する5面 裏面剥落 破砕面も含め全面汚れ	内外 黄褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD364
13 砥石	長:4.0 厚:2.5 幅:2.5 重:48.13	ほぼ完形 砥面は6面 上面はやや敲打痕がみられる 残る5面は線状の痕跡がみられる 使用のためすり減ったものか	内外 明褐色	流紋岩	ほぼ完形	OYAW3 SD364

表 84 第 371 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径:— 底径:— 器高:(5.6)	体一底部 湾曲しつつ立ち上がる 体中位 スス付着 ヘラナデ	内 褐色 外 にぶい褐色	瓦質土器D群 良	1/8以下	OYAW3 SD371
2 砥石	長:12.4 厚:1.6 幅:2.6 重:78.35	両端部欠損 砥面は残存する4面 表面側面は平行する条線がみられる 裏面は凹状に湾曲する	表裏 灰褐色	流紋岩	ほぼ完存か	OYAW3 SD371

表 85 第 376 号溝状遺構出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 須恵器 高台付杯	口径:— 底径:— 器高:(2.3)	ロクロ成形	内外 灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・5 良	小片	OYAW3 SD376
2 須恵質土器 描鉢	口径:— 底径:— 器高:(3.9)	4本以上一組の摺目を間隔をもって施すか 摺目の重複がみられる	内 灰色 外 オリーブ黒色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 SD376
3 内耳土器	口径:[36.0] 底径:[31.2] 器高:4.4	ヘラナデ 外面 底周部を中心にスス付着 内耳接合部 下端を中心に指ナデ	内 明赤褐色 外 橙色	瓦質土器D群 良	1/3	OYAW3 SD376
4 陶器 甕	口径:— 底径:— 器高:(6.2)	ヘラナデか 内面 剥落し赤色変化	内 橙色 外 にぶい黄褐色	陶器D類 良	小片	OYAW3 SD376
5 内耳土器	口径:36.5 底径:29.2 器高:4.8	ヘラナデ 内耳接合部:指ナデ 内耳は二つセットが反対側に施される 外面スス付着	内 橙色 外 にぶい褐色	瓦質土器D群 良	3/4	OYAW3 SD376
6 磨石か	長:10.8 厚:4.3 幅:10.9 重:408.05	全面磨滅 図上 表面:上・下端にやや傾斜 下端の欠損部は敲打によるものか 裏面:クルミ状の凹み	内 黄灰色 外 灰色	スコリア質安山岩	完存	OYAW3 SD376
7 砥石	長:8.0 厚:1.6 幅:4.0 重:86.46	両端部欠損 砥面は残存する4面か 主砥面は表・左側面 右側面 裏面:溝状の痕跡が平行する 表面は図下方にやや傾斜	内 灰色 外 灰オリーブ色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD376
8 砥石	長:16.8 厚:3.5 幅:3.6 重:290.37	図上:下端欠損 砥面は上端面を除く4面か 主砥面は表面、両側面 裏面は平行する線状痕 表面上位に溝状の鋭利な欠損あり 鋸器等の痕跡か	表裏 灰黄色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SD376

表 86 第 393 号溝状遺構出土遺物観察表

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 内耳土器	口径：一 底径：一 器高：(13.0)	内 木口状工具によるヘラナデ→指ナデ→ヘラナデか 内耳接合部はヘラナデ 体下半に指ナデ 指頭痕残る 外 口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ（荒く、ヘラ痕が 段状となる部分あり）	内外 灰色	瓦質土器C群	1/8以下	OYAW3 SD393

(単位：cm、g)

土器類は、須恵器 3 片、土師器 1 片、内耳土器 17 片、土師質土器 2 片、粘土塊 18 片、スレート 3 片が出土する。須恵器は甕体部片か。3 片のうち 1 片は内面に自然釉がかかる。1 片は外面に平行叩きを施す。土師器は長胴甕体部片か。内耳土器は口縁部 7 片（胎土 D）・体～底部 6 片（胎土 C 2 片・D 4 片）・底部 4 片（胎土 D）である。土師質土器は異個体とみられる体部片 2 片である。粘土塊はスサの痕跡が確認されるものがあり、羽口の破片である可能性が考えられる。

石製品・礫は、砥石片 1 片、破碎礫 5 片が出土する。砥石は厚さ約 0.3cm の小片。使い減りか。破碎礫のうち 2 片は被熱する。2 片は同じ石材とみられるが、このうち 1 片の形状は素形作出途中に破碎した打製石斧未製品状である。

鉄関連遺物は羽口とみられる筒状の土製品 1 片が出土する。器厚 2.5cm 前後であり、SD-364 等から出土する筒型の土製品とは異なる形状である。また、土器類で記したが、粘土塊に羽口の可能性が考えられる。

陶器は、陶器碗・皿類 7 片・鉢類 1 片が出土する。碗・皿類は、灰釉 3 片（うち 2 片重ね焼きの痕跡か）・灰釉に鉄釉を縞状に施す 1 片・灰釉に鉄絵を施す 1 片・黄白色釉 1 片・暗い青磁片 1 片である。鉢類は外面に鉄釉か。何れも近世後半以降か。

磁器は碗類 4 片が出土する。1 片は肥前系の染付か。近世後半以降か。2 片は明藍色の染付を施す。2 片は透明釉を施す。近代以降とみられるが、透明釉 1 片は更に時代が下るか。

鉄滓は表 92 に記載する。

第 379 号溝状遺構 (SD-379) (第 83・84 図 図版一三)

位置 B 区 M-14・15 グリッドを概ね南北方向に延びる。南側は調査区外に延びる。南側の延長線上となるⅢ-2 区 N-13 グリッド付近における関連遺構の確認はない。**重複関係** SE-384 → SE-390 → SD-393 → SD-379、SE-378 → SD-349 → SK-377、SK-395 → SD-393 → SD-379 の順に掘り込まれる。**形状** 東壁南側は攪乱により失われる。北側は立ち上がる。断面形は逆台形状、或いは皿状である。**規模・主軸** 底面の長さ (11.1) m が確認される。遺構確認面の幅は、北端部付近が最も狭く約 0.37 m、SP-G 付近が最も広く約 0.8 m、平均 0.6 m 前後である。底面の幅は、北端部が最も狭く約 0.2 m、SP-K 付近が最も広く約 0.4 m、平均 0.3 m 前後である。主軸は N-22° -E である。**底面** ローム面・SK-377・SE-378 を掘り込む。遺構確認面からの深さ・底面レベルは、SP-K 付近約 0.15 m・30.0 m、SP-F 付近約 0.24 m・29.928 m、SP-J 付近約 0.4 m・30.0 m、SP-L 付近約 0.46 m・30.026 m である。SP-K 以北は確認し得なかった。僅かではあるが南方向→北方向への傾斜がみられるが、溝の傾斜を示すものか判然としない。**覆土** 1 層が確認される。**遺物出土状況** 遺物の出土は確認されない。

第 393 号溝状遺構 (SD-393) (第 83・84・108 図 表 86・90 図版一三)

位置 B 区 M・N-14・15 グリッドを概ね南北方向に延びる。南側は調査区外に延びる。南側の延長線上となるⅢ-2 区 N-13 グリッド付近における関連遺構の確認はない。**重複関係** SE-384 → SE-390 → SD-393 → SD-379、SE-378 → SD-349 → SK-377、SK-395 → SD-393 → SD-379 の順に掘り込まれる。SK-394 とは不明である。**形状** 東壁南側は攪乱により失われる。北側は立ち上がる。断面形は逆台形状、

或いは皿状である。**規模・主軸** 底面の長さ(11.17) mが確認される。遺構確認面の幅は、北端部付近が最も狭く約1.0 m、SP-H付近が最も広く約1.5 m、南側の調査区端部付近[1.2] mである。底面の幅は、SP-Gが最も狭く約0.47 m、SP-K付近が最も広く約0.67 m、平均0.6 m前後である。主軸はN-22°-Eである。**底面** ローム面・SK-395を掘り込む。遺構確認面からの深さ・底面レベルは、SP-K付近約0.18 m・30.19 m、SP-G付近0.4 m前後・29.938 m、SP-J付近29.97 m、SP-L付近0.55 m前後・29.92 mである。SP-K以北は確認し得なかった。僅かではあるが北方向→南方向への傾斜がみられるが、溝の傾斜を示すものか判然としない。**覆土** 4層が確認される。**遺物出土状況** 覆土中から11片が出土する。土器類6片、陶磁器類4片、鉄製品1片である。

出土遺物 1は内耳土器口縁部片。内面体部に木口状の工具痕や指ナデ・指頭痕が観察される。内耳部分は指ナデ後ヘラナデか。

この他、図示し得なかった出土遺物は以下のとおりである。

土器類は内耳土器5片が出土する。口縁部2片(胎土C)・体部3片(胎土C 2片・D 1片)である。

陶磁器は、陶器2片、磁器2片である。陶器は甕類口縁部微細片。何れも褐色釉を内外面に施す。磁器は碗類2片。何れも明藍色の染付を施す。近代以降か。

鉄製品は釘状の小片である。表90に記載する。

6. ピット

(1) 調査の概要

ピットは238基が確認される。特に、C区K-11グリッド、D区G・H-7～9グリッドに多い。

各区において留意された点は以下のとおりである。

A区P-787は深さ0.9 mと他のピットと比べ深いものの、底面レベル・覆土等を確認し得ず、詳細は判然としない状況にある。

C区は調査区西半部J・K-11グリッドにピットが多く確認される。しかし、建物跡や柵列等を推定し得る明確な位置関係は確認し得なかった。しかし、柱間の不規則な建物跡などの推定は可能と判断される。簡易な建物や柵列等が繰り返し設置された結果の遺構分布、或いは、標柱等の可能性を念頭にすべきか。

先述のおおり、K-11グリッドは遺構密集区であり、直交方向に重複する方形状の土坑とピットの分布が重なる。P-441・442・830・SK-432- p 1・SK-433- p 1・SK-434- p 1・SK-439 p 1・SK-440- p 1・SK-444- p 1など、遺構内に位置するピットは、遺構に帰属するものではばく、ピット群に付随する可能性も考えられる。また、K-11グリッド東側のSK-432付近は、主軸の直交する方形状の土坑SK-438・444と、浅い掘り込みであるP-443・SK-437・439・440、ピット状のP-441・442は前後して掘り込まれる。近い時期の遺構とみられるか。

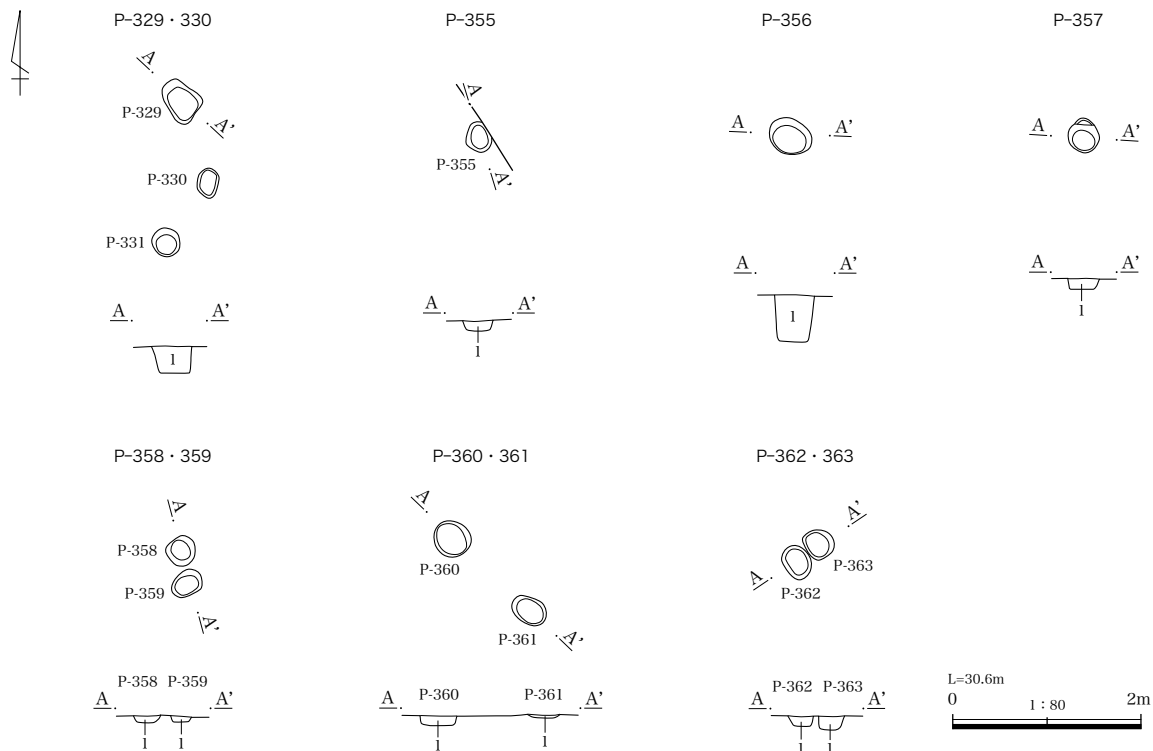
また、J-11グリッドSK-400・403・404・416・417は形状・大きさの似た土坑が集中する。深さは0.1 m前後と浅めの土坑が多いが、SK-400は深さ約0.5 m、SK-417の底面はピット状に掘り込まれ、深さ約0.26 mである。SK-418は深さ約0.05 mと浅いが円形状、同様の性格の土坑・ピットが繰り返し掘り込まれたか。

K-11グリッド、P-483・493～495・551は径0.3 m・深さ0.1 m前後のピットが集まる点、留意される。

D区はSD-13北半部、及びその東岸にP-47～57、P-277～287が位置する。

P-47～57はSD-13中央部から北半部に位置する。P-53・55-P-51・52は東・西辺にあって、底面を挟んで対になる位置に穿たれる。また、P-54・57は東辺に沿って穿たれる。SD-13との帰属等、詳細は判然

第3章 確認された遺構と遺物



P-329

1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-355

1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-356

1 暗黄褐色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-357

1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-358

1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-359

1 暗黄褐色土 ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-360

1 暗褐色土 ローム・ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-361

1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-362

1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-363

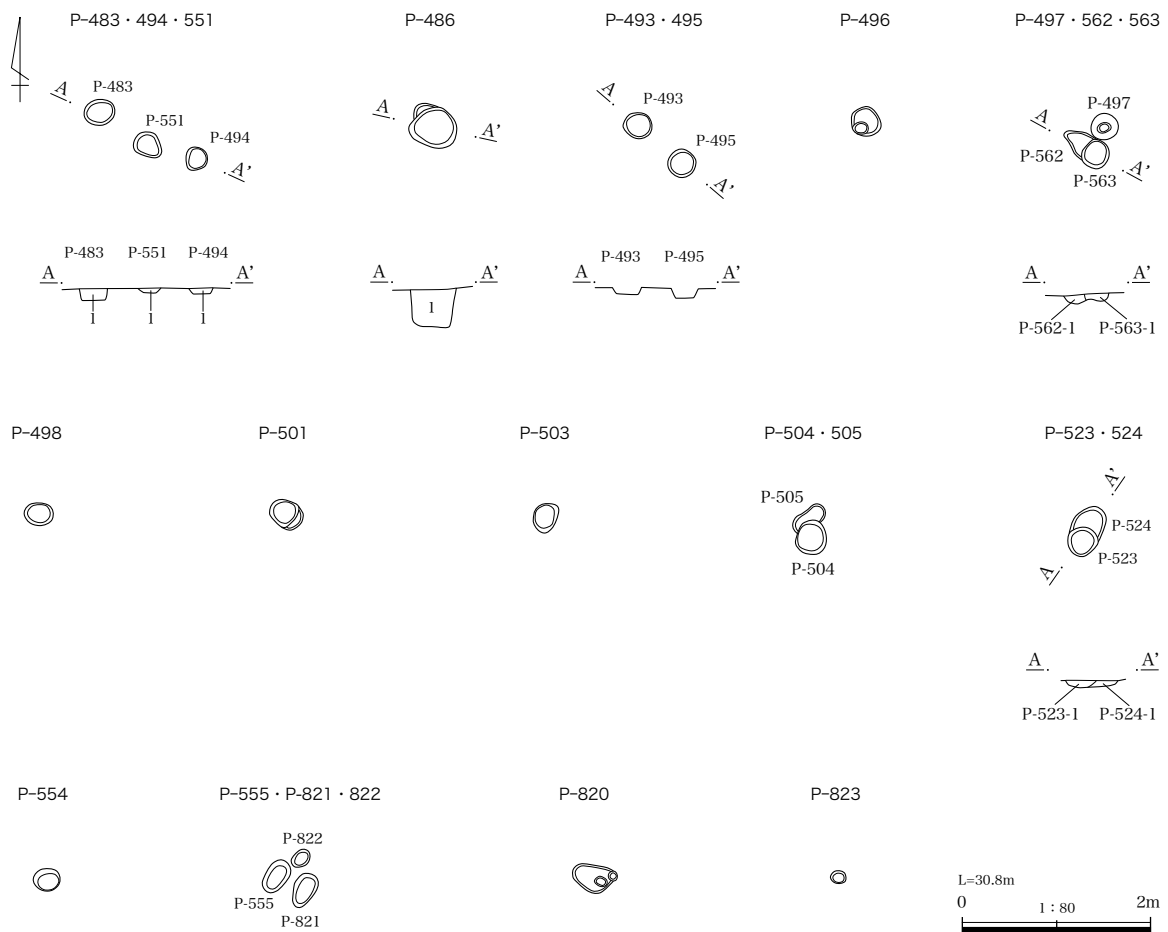
1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

第109図 第329～331・355～363号ピット実測図

としないが、SD-13に付随する施設の想定が可能と考えられる。

P-277～287はSD-13北半部の東岸、G-7・8グリッド境界部に纏まって位置する。遺構確認面からの深さは0.2m前後とさほどの掘り込みは持たないが、浅深に突出したピットが確認されない点、同一用途である可能性が考慮される。各々の位置的關係からは、整然とした間尺はとれないが、P-277・278・281・282、P-278・279・280、P-281・293・284、P-282・285・286、P-280・284・286、P-281・283・284・287など、直線的な配置がみてとれる。また、P-277・279・281・286、P-278・280・282・286を繋ぐ方形の配置も推定される。明確には判断し得ないが、標柱などのピット単体の遺構よりも、柵列や間尺の不均等な掘立柱建物跡などの複数ピットからなる遺構が想定されようか。ただし、D区内の土坑や溝状遺構とは主軸を異にする。

SD-13内のP51・52-P53・55、SD-13東岸SP-54・57のP-277～287は、P-282・285・286の直線上に位置するSK-274に向けた位置關係にあることなどから、相互に関連する施設とも考えられよう。

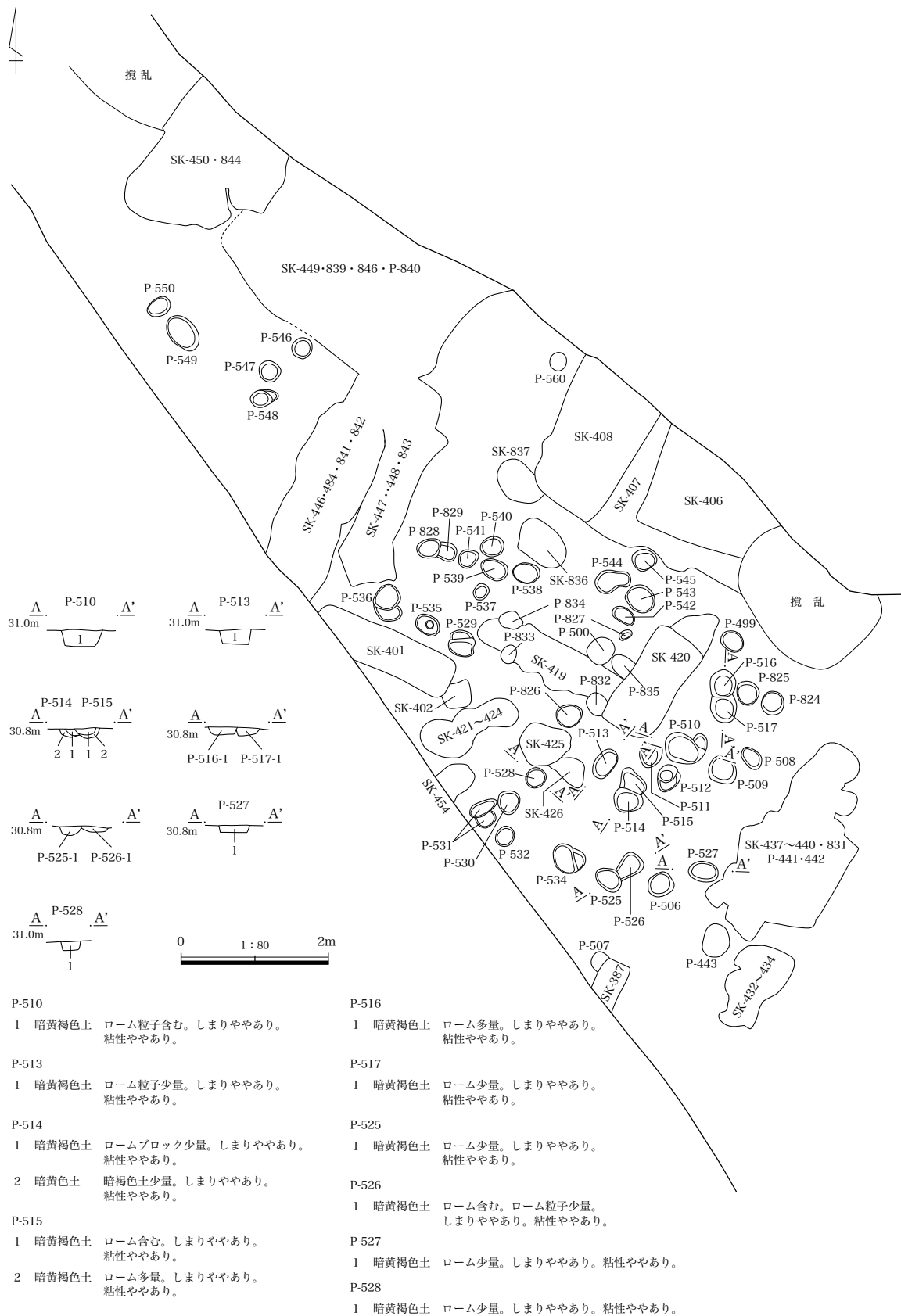


P-483
1 暗灰褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
P-486
1 暗灰褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
P-493
1 暗灰褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。
P-494
1 暗灰褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
P-495
1 暗灰褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-551
1 暗灰褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
P-523
1 暗灰褐色土 ローム粒子多量、白色粘土含む。しまりややあり。粘性ややあり。
P-524
1 暗灰褐色土 ローム少量。しまりややあり。粘性ややあり。
P-562
1 暗灰褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。
P-563
1 暗灰褐色土 ローム多量。しまりややあり。粘性ややあり。

第110図 第483・486・493～498・501・503～505・523・524・551・554・555・562・563・820～823号ピット実測図

G・H-7グリッド付近にP-288～313・318～320・803が纏まって位置する。遺構確認面からの深さは、0.3m前後を中心に、P-296:約0.06m～P-297・298・803:約0.53mであり、規格性に欠ける。また、P-308・310・312、P-296・298・313などピット間が等距離に近い直線的な配置や、P-311・318・319・320など平行四辺形に繋がる配置などがみられるが、整然とした間尺がとれるものは確認されない。しかし、ピットの群在する範囲に纏まりがあることなどから、SD-13東岸のピット群同様、間尺の不均等な建物跡や簡易な施設の重複である可能性が想定されよう。また、南東に近接するSE-321との関連を考慮すべきか。



第 111 図 第 499・506・508～517・525～532・534～550・824～829 号ピット実測図

(2) ピット

【ピット内出土遺物】

P-218からはSK-216と混在するが、土師質土器小皿口縁部微細片1片が出土する。ロクロ仕上げである。

P-229は覆土中から土師質土器小皿1点が出土する。ロクロ仕上げの小型品である。16世紀半ば以降とみられるが、遺構への帰属は判然としない。

P-232～239周辺から12片が出土する。SK-239に記載する。

P-232からは内耳土器体部2片が出土する。胎土C1片・D1片である。

P-233は覆土中から2片が出土する。内耳土器体部片1片、小礫1点である。内耳土器は胎土Cである。小礫は扁平な長円形であり、磨滅する。

P-442は覆土中から鉄製品2片が出土する。詳細は不明である。表89に記載する。

P-492は覆土中から3片が出土する。磁器1片、ガラス2片である。磁器は、染付を施す碗類小片であり、肥前系か。近世後半以降とみられる。ガラス片は工業製品である。

P-529・530は覆土中から陶器1片が出土する。鉢類とみられ、体部は内湾する。外面は細い平行線がみられる。叩き目或いは文様か。手焙り等か。

P-535は覆土中から陶磁器2片が出土する。陶器は皿類で、内面～外面口縁部の灰釉を施す。近世後半以降か。磁器は碗類小片。外面にコバルト呉須で文様を施す。瀬戸・美濃系か。近代以降か。

P-546)は覆土中から磁器1片が出土する。色絵を施す碗類小片であり、花蝶文様を施す。産地不明。近代以降か。

P-560は覆土中から土器片1片が出土する。内耳土器口縁部であり、胎土Dである。

表87 3次調査区確認ピット表

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
218	A	Q-20	0.42・0.58	0.33	29.52	2層	—	中段部あり 深さ約0.22m・レベル約29.78m SK-216と混在するが遺物1片出土	122
229	A	Q-20	0.33	0.58	29.05	2層	SE-209→P-229→SK-239	土師質土器出土 遺構中位(SP-B:6層中)	76
232	A	Q-20	0.2	—	—	—	SK-236・239	SK-236内 覆土中・SK-239周辺から遺物出土	76
233	A	Q-20	0.23	0.7	28.93	—	SK-236・239	SK-236帰属か(注記S-238) SK-239周辺から遺物出土	76
234	A	Q-20	0.23・0.38	—	—	—	SK-239・SE-209?	SK-239周辺から遺物出土	76
235	A	Q-20	0.32	—	—	—	SK-239	SK-239周辺から遺物出土	76
277	D	G-9	0.3・0.18	0.22	30.88	—	—		99
278	D	G-9	0.32前後	0.38	30.72	—	—	径約0.14mの中段を持つ	99
279	D	G-9	0.3	0.18	30.92	—	—		99
280	D	G-9	0.38・0.42	0.17	30.93	—	—	北東側に掘り込みを持つが詳細不明	99
281	D	G-9	0.31前後	0.24	30.86	—	—		99
282	D	G-8・9	0.3・0.4	0.27	30.83	—	—		99
283	D	G-8・9	0.32前後	0.14	30.96	—	—	径約0.12mの中段を持つ	99
284	D	G-8・9	0.42・0.62	0.17	30.93	—	—	3穴からなる しゅとなりのはaとみられる 深さ・レベルはaの値	99
285	D	G-8	0.12	0.21	30.89	—	—		99
286	D	G-8	0.4・0.32	0.17	30.93	—	—		99
287	D	G-8	0.43・0.22	0.26?	30.84?	—	—	深さ・レベルは判然としない	99

第3章 確認された遺構と遺物

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ビット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
288	D	H-7	0.3・0.35 中段0.12	0.32	30.58	-	-	中段部あり	125
289	D	H-7	0.42 中段部0.15・0.25	0.44	30.46	-	-	中段部あり	125
290	D	H-7	0.25・0.32	0.28	30.62	-	-		125
291	D	H-7	0.28・0.38	0.26	30.64	-	-		125
292	D	H-7	0.5・0.43	0.33	30.57	-	-		125
293	D	H-7	0.35前後	0.13	30.77	-	-		125
294	D	H-7	0.35・0.19	0.48	30.42	-	-		125
295	D	H-7	0.23前後	0.21	30.69	-	-		125
296	D	H-7	0.2・0.25	0.06	30.84	-	-		125
297	D	H-7	0.28	0.53	30.43	-	-		125
298	D	H-7	0.3	0.53	30.43	-	-		125
299	D	H-7	0.25前後	0.33	30.63	-	-		125
300	D	H-7	0.26	0.34	30.62	-	-		125
301	D	G-8	0.3前後	0.33	30.57	-	-		125
302	D	G-8	0.3	0.33	30.57	-	-		125
303	D	G-7	0.33・0.12	0.46	30.44	-	-		125
304	D	G-7	0.3	0.2	30.7	-	-	不整形	125
305	D	G-7	0.23・0.29	0.33	30.57	-	-		125
306	D	G-7	0.27・0.34	0.12	30.78	-	-		125
307	D	G-7	0.28	0.33	30.57	-	-		125
308	D	G-7	0.25・0.32	0.33	30.57	-	-		125
309	D	G-7	0.27・0.32	0.12	30.78	-	-		125
310	D	G-7	0.3・0.21	0.23	30.67	-	-		125
311	D	G-7	0.45	0.11	30.82	-	-		125
312	D	G-7	0.3前後	0.11	30.79	-	-		125
313	D	G-7	0.23・0.19	0.08	30.82	-	-		125
318	D	G-7	0.35・0.45	0.21	30.72	-	-		125
319	D	G-7	全長0.43・0.26 西穴0.26	西穴0.15	西穴30.95	-	-	2穴からなる 西穴が主穴か	125
320	D	G-7	0.43・0.35	0.22	30.88	-	-		125
323	D	G-6	0.12	0.12	30.98	-	-		125
329	B	N-15	0.22・0.47	0.28	30.25	1層	-		109
330	B	N-15	0.42・0.32	-	-	-	-		109
331	B	N-15	0.3	-	-	-	-		109
335	B	N-15	0.4	0.43	30.08	3層	SX-334 詳細不詳		109
355	B	L-15	0.33	0.11	30.62	1層	-		109
357	B	M-14	0.34	0.11	30.62	1層	-		109
358	B	M-14	0.3	0.07	30.66	1層	-		109
359	B	M-14	0.25・0.35	0.07	30.66	1層	-		109
360	B	L-14	0.4	0.11	30.62	1層	-		109
361	B	L-14	0.28前後	0.03	30.62	1層	-		109

第3節 3次調査

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
362	B	L-14	0.26・0.29	0.11	30.62	1層	—	P-363近接	109
363	B	L-14	0.32	0.15	30.58	1層	—	P-362近接	109
441	C	K-11	0.58・0.32	0.62	30.08	1層	SK-440→P-441か	長方形状	86
442	C	K-11	0.44	0.18	30.5	1層	SK-440→P-442か	鉄製品1片出土 第114図-8 表90	86
443	C	K-11	0.37・0.44	0.08	30.72	1層	—	鉄製品1片出土 第114図-8 表90	86
466	C	J-12	全0.7・(0.45)	南0.3 北0.36	南30.4 北30.34	南1層	—	規模2穴 別遺構の可能性もあり 規模南(0.4)・0.4北(0.32)・0.5	82
471	C	J-11	0.42・0.5	0.31	30.44	1層	—		82
472	C	J-11	0.25	(0.17)	(30.68)	1層	—		82
473	C	J-11	0.34・0.24	0.17	30.58	1層	—		82
474	C	J-11	0.4・0.54	0.37	30.38	1層	—		82
475	C	K-11	0.32・0.58	0.4-0.5	30.55- 30.43	1層	—	方形 底面傾斜	82
477	C	J-11	0.5・0.34	0.49	30.26	1層	—		82
479	C	J-11	0.3	0.18	30.58	1層	—		82
480	C	J-11	0.32・0.35	0.46	30.29	1層	—		82
481	C	J-11	0.35	0.48	30.27	1層	—		82
482	C	J-11	0.35・0.45	0.45	30.3	1層	—		82
483	C	J-11	0.3	0.13	30.62	1層	—		110
486	C	J-11	0.45前後	0.4	30.32	1層	—	西側約0.1mの突出部	110
492	C	J-10	(0.55)	0.57	29.96	1層	P-492→SK-435	出土遺物あり	86
493	C	J-11	0.32	0.07	30.68	1層	—		110
494	C	J-11	0.23	0.1	30.7	1層	—		110
495	C	J-11	0.23	0.1	30.7	1層	—		110
496	C	J-11	0.32	—	—	1層	—	暗灰褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり、粘性ややあり	110
497	C	J-11	0.3	0.08	30.6	1層	—	暗灰褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり、粘性ややあり	110
498	C	J-11	0.3・0.25	0.06	30.6	1層	—	暗灰褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり、粘性ややあり	110
499	C	K-11	0.33	—	—	1層	—	暗灰褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり、粘性ややあり	111
500	C	K-11	0.25	0.36	30.49	—	SK-419 詳細不明	暗灰褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	85
501	C	J-11	0.3	0.22	30.5	1層	—	東側テラス状 暗灰褐色土:ローム粒子含む。白色粒子微量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
502	C	J-11	0.3	0.2か	30.55か	1層	—		82
503	C	K-10	0.25・0.33	—	—	1層	—	暗灰褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
504	C	K-10	0.32	0.33	30.44	1層	P-505 詳細不明	暗灰褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
505	C	K-10	0.2・0.4	—	—	1層	P-504 詳細不明	暗灰褐色土:白色粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
506	C	K-11	0.24	—	—	1層	—	暗灰褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	111
507	C	K-11	0.27	—	—	1層	SK-387 詳細不詳	暗黄褐色土:白色粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。	81
508	C	K-11	0.24・0.2	—	—	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	111
509	C	K-11	0.4	—	—	1層	—	暗黄褐色土:白色粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。	111
510	C	K-11	0.54・0.39	0.22	30.56	1層	—		111
511	C	K-11	0.3	0.18	30.6	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	111
512	C	K-11	0.3・0.4	東0.15	東30.63	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	111
513	C	K-11	0.27・0.43	0.18	30.6	1層	—		111

第3章 確認された遺構と遺物

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ビット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
514	C	K-11	0.4・0.28	0.12	30.58	2層	P-514→P-515		111
515	C	K-11	0.26・(0.22)	0.12	30.58	2層	P-514→P-515		111
516	C	K-11	0.34	0.1	30.62	1層	P-517→P-516		111
517	C	K-11	(0.34)	0.12	30.6	1層	P-517→P-516		111
518	C	J・K-11	0.2	0.18	30.53	1層	SK-519→P-518		89
520	C	J-11	南0.2 北0.2	—	—	1層	P-521→P-520	2穴 暗黄褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	82
521	C	J-11	南0.4・0.36 北(0.1・0.27)	南0.26	南30.49	1層	P-521→P-520	2穴 暗黄褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	
523	C	K-10	0.32	0.08	30.6	1層	P-524→O-523		110
524	C	K-10	[0.32]	0.07	30.61	1層	P-524→O-523		110
525	C	K-11	0.4・0.3	0.12	30.62	1層	P-526→P-525		111
526	C	K-11	0.32・(0.4)	0.09	30.65	1層	P-526→P-525		111
527	C	K-11	0.4・0.3	0.1	30.67	1層	—		111
528	C	K-11	0.27	0.08	30.7	1層	—		111
529	C	K-11	0.36	—	—	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	111
530	C	K-11	0.3	—	—	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	111
531	C	K-11	東(0.2)・0.28 西(0.18)・0.4	—	—	1層	—	2穴 暗黄褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	111
532	C	K-11	0.24	—	—	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	111
534	C	K-11	東(0.16)・0.3 西(0.18)・0.44	西0.05	西30.64	1層	—	2穴 暗黄褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
535	C	K-11	0.34	—	—	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	124
536	C	K-11	北0.36・南0.36	—	—	1層	—	2穴 暗黄褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
537	C	K-11	0.2	0.11	30.68	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
538	C	K-11	0.35・0.26	0.15	30.63	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
539	C	K-11	0.36・0.27	0.18	30.66	1層	—	暗黄褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
540	C	K-11	0.32	0.3	30.46	1層	—	暗褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
541	C	K-11	0.28	0.3	30.46	1層	—	暗褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
542	C	K-11	0.32・0.2	0.05	30.72	1層	—	暗褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
543	C	K-11	0.4・0.34	0.05	30.72	1層	—	暗褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
544	C	K-11	0.42・0.2~0.3	0.04	30.71	1層	—	暗褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
545	C	K-11	0.31前後	0.05	30.72	1層	—	暗褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
546	C	K-11	0.28	0.12	30.53	1層	—	暗褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。出土遺物あり。	124
547	C	K-11	0.29	0.34	30.31	1層	—	暗褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
548	C	K-11	0.36・0.13	0.22	30.43	1層	—	暗褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
549	C	K-11	0.37・0.57	0.11	30.54	1層	—	暗褐色土:ローム粒子含む。しまりややあり。粘性ややあり。	124
550	C	K-11	0.34・0.25	0.18	30.47	1層	—	暗褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	124
551	C	J-11	0.3前後	0.05	30.7	1層	—	不整形	110
552	C	J-11	0.3・0.35	0.42	30.33	1層	P-仮848と不明		82
554	C	J-10	0.26	0.47	30.16	1層	—	暗黒褐色土:ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。	110
555	C	J-11	0.24・0.38	0.23	30.49	1層	—		110
556	C	L-10	0.37	0.23	30.42	1層	—		85
558	C	L-11	0.2	0.1	30.60	1層	—		85

第3節 3次調査

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
559	C	L-11	0.36前後	0.25か	30.48か	1層	-		85
560	C	K-11	0.14	0.12	30.64	1層	-	出土遺物あり	81
562	C	J-11	(0.3)	0.1	30.6	1層	P-562→P-563		110
563	C	J-11	0.28	0.08	30.58	1層	P-562→P-563		110
746	A	Q-20	0.54・0.46	0.2	29.66	-	-		74
747	A	Q-20	0.3	0.59	29.01	-	SK-239	やや方形状	76
748	A	Q-20	0.23・0.3	-	-	-	SK-239		76
749	A	Q-20	0.26	0.58	29.02	-	SK-239		76
750	A	Q-20	0.16・0.2	-	-	-	SK-239		76
751	A	Q-20	0.26	0.36	29.24	-	SK-239		76
752	A	Q-20	0.2・0.3	0.46	29.12	1層	SK-239	SP-A:12層	76
753	A	Q-20	0.25・0.32	0.34	29.27	-	SK-239	SK-239帰属か、2穴からなる 南側穴詳細不明	76
754	A	Q-20	0.16・0.3	-	-	-	SK-239		76
755	A	Q-20	0.16・0.24	0.57	29.03	2層	SK-239	SP-B:7層(抜穴痕か)・8層(柱痕か)	76
756	A	Q-20	0.32・0.24	0.06	29.54	-	SK-239		76
757	A	Q-20	0.14・0.2	0.42	29.15	2層	SK-239	SP-B:9層(抜穴痕か)・10層(柱痕か)	76
758	A	Q-20	0.2	-	-	-	SK-239		76
759	A	Q-20	(0.27)・0.13	-	-	-	SK-239		76
760	A	R-20	0.22・0.3	-	-	-	SK-239・SE-209?		64
761	A	R-20	0.37	-	-	-	SK-214		64
767	A	Q-19	0.24	0.5	-	-	-		72
768	A	Q-19	0.13	-	-	-	-		72
769	A	Q-19	0.26・0.21	-	-	-	-		72
770	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
771	A	Q-19	0.12・(0.16)	-	-	-	-		72
772	A	Q-19	0.29・0.2	-	-	-	-		72
773	A	Q-19	0.22・0.14	-	-	-	-		72
774	A	Q-19	0.08	-	-	-	-		72
775	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
776	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
777	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
778	A	Q-19	0.07	-	-	-	-		72
779	A	Q-19	0.1	-	-	-	-		72
780	A	Q-19	0.2	0.25	-	-	-		72
781	A	P-20	0.25・0.32	-	-	-	-	2段に掘り込まれる	72
782	A	P-20	0.26・0.24	-	-	-	P-783	P-783と新旧関係等不明	75
783	A	P-20	0.36・0.22	0.6	29.00	-	P-782	P-782と新旧関係等不明	75
784	A	P-20	確2.1・0.3 段0.3 底0.6	段0.3 底0.6	底28.93	2層	SK-226・227	SK-226・227より後に埋没 関連不明 2穴からなる 中段部に1層が堆積 中段は掘り直しか	75
785	A	P-20	0.22	0.45	29.15	1層	SE-213		102
786	A	P-20	0.43	0.43	-	-	-		122

第3章 確認された遺構と遺物

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ビット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
787	A	P-19	0.37	0.9	-	-	-	詳細不明	122
789	D	I-9	0.4・0.22	0.9	-30.10	-	-	大きさはSD-14底面 深さ推定	125
790	D	H-8	0.38・0.22	-	-	-	-	大きさはSD-14底面	125
791	D	G-6	0.32・0.4	0.09	31.01	-	-		125
792	D	H-8	0.2	1.13	29.87	-	SD-13	SD-13底面から西壁 底面からの深さ0,13m	125
793	D	H-8	0.16	-	-	-	SD-13	SD-13東壁	125
794	D	H-8	0.14前後	-	-	-	SD-13・P-795	SD-13東壁 重複の詳細不明	125
795	D	H-8	0.2・0.24	0.98	30.02	1層	SD-13・P-794	SD-13東壁 重複の詳細不明	125
796	D	H-9	0.3前後	0.63	30.37	-	SD-13	SD-13西壁 不整形	125
797	D	H-8	0.2	-	-	-	SD-13	SD-13西壁	125
798	D	H-8	0.33・0.38	0.76	30.24	-	SD-13	SD-13東壁	125
799	D	H-8	0.2・0.36	0.4	30.60	2層	SD-13	SD-13東壁 遺構確認面付近	125
800	D	H-8	0.27・(0.35)	-	-	-	SD-13・P-801	SD-13東壁 重複の詳細不明	125
801	D	H-8	0.26・0.3	0.64	30.36	-	SD-13・P-800	SD-13東壁 重複の詳細不明	125
802	D	H-9	0.22・0.32	-	-	-	SD-13	SD-13東壁	125
803	D	G-8	0.15	0.34	30.70	1層	SK-275内	SK-275より新しい やや斜方向に掘り込まれる	125
804	D	G-7	0.21前後	0.43	30.57	-	-		125
807	C	J-11	0.23前後	-	-	-	-		124
812	C	J-10	0.28前後	-	-	-	SK-461	SK-461重複 詳細不明	88
813	C	J-11	0.3	0.05	30.69	-	SK-457	SK-457重複 詳細不明	88
815	C	J-11	0.15	0.24	30.48	-	SK-814	SK-814重複 詳細不明	88
816	C	J-11	0.15	-	-	-	P-817	P-817重複 詳細不明	88
817	C	J-11	0.2・0.15	-	-	-	P-816	P-816重複 詳細不明	88
819	C	J-11	0.4	0.07	30.65	-	-	不整形	88
820	C	J-11	0.5・0.3	0.03	30.75	-	-	三角形状	110
821	C	J-11	0.24・0.38	-	-	-	-		110
822	C	J-11	0.16・0.24	0.14	30.58	-	-		110
823	C	J-11	0.15	-	-	-	-		110
824	C	K-11	0.3	-	-	-	-		111
825	C	K-11	0.3	0.26	30.52	-	-		111
826	C	K-11	0.32	0.08	30.70	-	-		111
827	C	K-11	0.2・0.12	-	-	-	-		111
828	C	K-11	0.32	0.14	30.64	-	P-829 詳細不明		111
829	C	K-11	0.25前後	-	-	-	P-828 詳細不明		111
830	C	K-11	0.31・0.23	-	-	-	SK-440・444 詳細不明		86
832	C	K-11	0.3	-	-	-	SK-419・420 詳細不明		85
833	C	K-11	0.3・0.25	0.05	30.67	-	SK-419 詳細不明		85
834	C	K-11	0.2・0.4	0.07	30.65	-	SK-419 詳細不明		85
835	C	K-11	(0.22)・0.22	(0.15)	(30.62)	-	SK-420 詳細不明		85
840	C	K-12	0.35	0.4	30.20	-	-	遺構確認面不整形・底面三角形状 北側区外	87

[径:東西・南北 深さ:遺構確認面 単位:m]

ピット	区	グリッド	径	深さ	レベル	覆土	重複	特記	挿図
842	C	K-11	0.27・0.16	0.43	30.14	1層	SK-841→P-842→SK-484		87
847	C	J-11	0.3	(0.1)	(30.65)	—	—		82
848	C	J-11	0.24・(0.24)以上	(0.3)	(30.47)	—	P-552 詳細不詳		82
849	C	J-12	[0.4]	0.18	30.52	—	—	西・南側区外	82
850	C	J-12	0.45・0.53	0.33	30.37	—	SK-409 詳細不詳		82
851	C	J-12	0.24・0.2	—	—	—	SK-409 詳細不詳		82
853	B	L-13	0.25	0.15	30.66	—	SK-372 詳細不詳		67
854	B	L-13	0.16・0.32	0.13	30.92	—	SK-328 詳細不詳		67
855	B	L-13	0.23	—	—	—	SK-328 詳細不詳		67
856	B	M-13	0.4	0.3	30.7	1層	—		67
857	B	M-13	0.36・0.27	0.25	30.76	—	—		67
858	B	M-13	0.08	—	—	—	—		67
859	B	M-13	0.4・0.24	—	—	—	—		67
860	B	M-13	0.4・0.33	0.4	30.6	—	—		67
861	B	M-14	0.36	0.28	30.44	—	P-862 詳細不詳		94
864	B	N-15	全長0.4 北0.24 中0.18 南0.2	北0.1 南0.19	北30.26 南30.19	北1層	—	3穴 南が深い	83
866	B	N-15	0.45・0.53	—	—	—	—		83
867	B	M-16	0.17	表土下 0.43	30.11	1層	SK-351 詳細不明	SK-351は付属層か	80
868	B	M-16	SK-346底面0.14	0.32	30.08	1層	SK-346→P-868		80
869	B	M-16	SK-347底面0.17	0.17	30.21	1層	SK-347→P-869		80
870	B	N-15	0.2	0.1	30.40	1層	SX-334 詳細不詳		80

7. 性格不明遺構

(1) 調査の概要

性格不明遺構は2基が確認される。B区1基、C区1基である。

B区SX-491は3土坑の重複の可能性が残る。

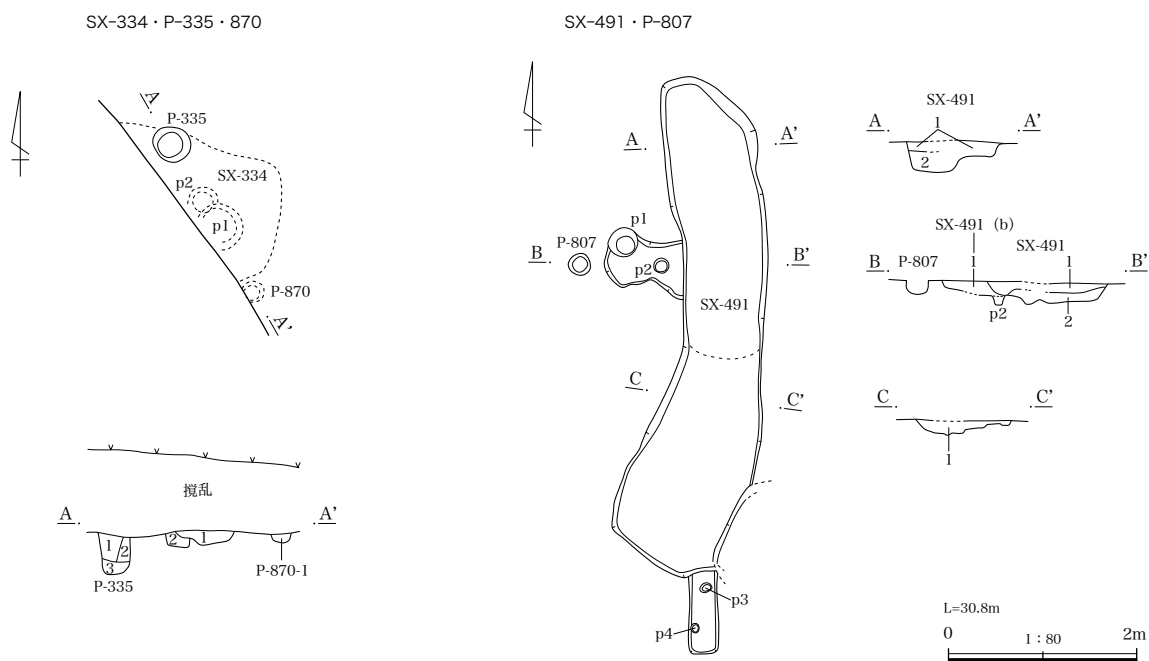
C区SX-334は攪乱下に確認される。現地調査では図中破線で示した方形の範囲内を掘り下げるが、セクション図のとおり、地山であるローム面の露出がみられる。SX-334p 1・2としたピット状の掘り込みのみが遺構か。また、P-870については、現地調査ではSX-334と同じ遺構番号が付されるが、掘り込みの範囲外であり、別番号を付した。

(2) 性格不明遺構

第334号性格不明遺構 (SX-334) (第112図)

位置 B区N-15グリッドに位置する。**重複関係** P-335とは不詳である。**形状・規模・主軸** 攪乱下の東西(1.6)m・南北(1.2)mの方形の範囲を示す。遺構確認面において地山であるローム面の露出がみられ、方形の範囲内が遺構であるか判然としない。セクション図からp 1・2が推定される。p 2→p 1の順に掘り込まれる。p 1は径[0.5]m・深さ約0.16m・レベル30.37mであり、覆土1層が堆積する。p 2は径[0.28]m・深さ約0.18m・レベル30.34mであり、覆土2層が堆積する。**遺物出土状況** 出土

第3章 確認された遺構と遺物



SX-334

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック少量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック含む。しまりややあり。粘性ややあり。

P-335

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム含む。しまりややあり。粘性ややあり。
- 3 暗黄色土 暗黄褐色土少量。しまりややあり。粘性ややあり。

P-870

- 1 暗黄褐色土 ローム粒子少量。しまりややあり。粘性ややあり。

SX-491

- 1 黒褐色土 ローム含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム少量。しまりややあり。

SX-491 (b)

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量。しまりややあり。粘性ややあり。

第112図 第334・491号性格不明遺構・第335・807・870号ピット実測図

遺物は確認されない。

第491号性格不明遺構 (SX-491) (第112図)

位置 C区J-10・11グリッドに位置する。**重複関係** 重複する遺構はない。**形状・規模・主軸** 南北に長い不整形である。西壁中央部・南東隅部が突出するが詳細は不明である。遺構の主軸・深さなどから、遺構北半(a)・遺構南半(b)・遺構南東隅部(c)の3土坑の重複の可能性も考え得る。底面の全長(突出部を含まず)東西0.9～1.4m・南北5.45m、主軸N-2°-Eである。概ね磁北に平行する。西壁突出部底面の東西(0.8)m以上・南北0.32～0.6mである。南東隅突出部底面の東西0.14m前後・南北(0.86)m以上である。**底面** ローム層を掘り込む。遺構確認面からの深さ約0.12～0.58m、レベル30.12～30.58mである。西壁突出部の深さ0.08～0.15m、レベル30.62～30.55mである。南東隅突出部に深さ0.09m前後・レベル30.61前後である。**覆土** 2層が確認される。**付属施設** p1～4が穿たれる。帰属等詳細は不明である。p1・2は西壁突出部、P3・4は南東隅突出部に確認される。p1は径約0.3m、遺構確認面からの深さ約0.13m、遺構床面との段差は僅か。レベル30.57mである。p2は径約0.15m、遺構確認面からの深さ約0.46m、遺構床面からの深さ約0.08mである。p3は径0.9m前後、p4は径0.04m前後であり。**特記事項** a・b・cである場合の詳細配下のとおりである。aの底面の東西[3.0]m・南北0.8m前後、深さ0.21～0.26m、レベル30.44～30.49m、主軸N-2°-Eである。概ね磁北に平行する。

bの底面の東西1.1m前後・南北(1.3)m以上、深さ約0.12m、レベル30.58m、主軸N-22°-Eである。cは深さ約0.58m、レベル30.12mであり、bを掘り込む状況にある。さらに東側に延びる可能性が残る。

遺物出土状況 出土遺物は確認されない。

8. 3次調査遺構外出土遺物

(1) 調査の概要

遺構確認面上や攪乱など遺構外から出土した遺物は402片である。土器類116片、石製品・礫24片、陶磁器242片、鉄製品11片、鉄滓6片、製鉄関連遺物3片、銭貨5点である。

D区攪乱(SD-14内・SK-272付近)からの出土遺物は、近世後半以降の器壁の浅い内耳土器や染付を主体に、須恵器、工業化製品の出土も確認され、溝状遺構等の遺構出土遺物の構成と似る。

留意された出土遺物は以下のとおりである。

D区SD-14内攪乱出土の小片は、不掲載としたが、茶入れの可能性が考えられる。内面に円形のかき分けを施す陶器鉢は、SD-13・D区・もう一つありに別個体の類似品が出土する。

灰釉に鉄釉を縞状に施す碗類もD区表採・D区SD-14内攪乱不掲載等、出土割合は高い。

D区SK-272付近攪乱から出土する第113図-19施釉陶器小型壺片、D区一括不掲載の施釉陶器壺類体部片(産地不明)の内面に漆の付着が観察される。

(2) 遺構外出土遺物(第113・115・120・121図 表88・90・94 図版一六)

【A区】

A区からは鉄製品3片が出土する。詳細は不明である。表90に記載する。

【B区】

B区からは、土器類22片、石製品・礫14片、陶磁器39片、鉄製品2片、鉄滓3片が出土する。北西部の攪乱穴、西部の攪乱穴からの出土が多い。ガラス等の20世紀の工業製品も出土する。

土器類は、第114図-9・10・12・14・15の他17片が出土する。9・10は須恵器甕小片。9は櫛描波状文が施される。12は土師質土器小皿。14・15は瓦質土器手焙りか。

図示し得なかった17片は、須恵器3片、内耳土器12片、瓦質土器播鉢2片である。須恵器は坏口縁部1片(ロクロ成形)・甕体部片2片(うち1片は外面自然釉か)、内耳土器は口縁部3片(胎土C2片(器高3.0cm前後)・D1片)・体部7片(胎土C2片・D5片)・体～底部2片(胎土D)、瓦質土器は播鉢2片(播り目重複)である。

石製品・礫は、第114図-1～3・6・7の他、9片が出土する。1～3は砥石である。6・7は白色の小礫であり、基石の可能性が考慮される。図示し得なかった9片は、砥石小片1片、小礫4点、破碎礫小片4片である。小礫のうち1点は扁平な円形状である。

陶磁器は、第120図-21の他、陶器16片、磁器22片が出土する。21は天目碗か。詳細は判然としない。肩部に張りがあるか。近世前半か。特徴の似た体部1片・底部1片が出土するが、内面は褐色釉である。

陶器は、無釉の甕類口縁部3片、灯明皿とみられる1片、碗・皿類とみられる5片、香炉1片、瓶類1片、播鉢1片、鉢類1片、微細片1片が出土する。灯明皿は耳部を欠損する。内面から外面口縁部を施釉する。碗皿類は内外面柿釉1片、内面灰釉・外面柿釉1片、内外面灰釉1片、内面灰釉・外面鉄釉の底部1片、内面灰釉・外面無釉底部1片である。香炉は内面口縁部～外面に灰釉を施す。器壁は薄い。瓶類は内面無釉・

第3章 確認された遺構と遺物

外面柿釉の徳利とみられる1片である。挿鉢は体部1片であり、挿り目は重複、内面は施釉される。鉢類は内外面に柿釉を施す。何れも近世後半以降か。

磁器は碗類4片、皿類10片、瓶類2片、器種不明微細片6片であり、何れも染付である。近世後半とみられる碗類1片・皿類1片である。碗類は内面見込みに文様を配する。判然としないが「寿」か。肥前系である。皿類は内面見込みに五弁花文、外面底部に渦巻き状の文様を配する。肥前系か。近世後半以降とみられるのは碗・皿類微細片3片、器種不明微細片6片、瓶類1片であり、何れも染付である。碗・皿類は内面に二重格子を描く1片、内面に花状の文様を描く1片、外面に菊花文を描く1片である。何れも産地不明。瓶類はつる首形。肩部に半菊文状の文様を施す。肥前系か。近世後葉～近代初頭とみられるのは小碗類の1片である。外面に笹や千鳥状の文様を簡素に施す。産地不明。近代以降とみられるのは、碗・皿類4片、瓶類1片であり、何れも染付である。碗・皿類は半菊文状の文様1片・蛸唐草1片・文様不詳2片である。産地不明。瓶類はつる首形の首部か。蛸唐草を施す。プリントの染付を施す碗・皿類4片は近代以降、20世紀の工業製品か。

鉄製品・鉄滓は表90・92の記載する。

【C区】

C区からは、石製品・礫3片、陶器5片、磁器4片、鉄製品1片、鉄滓1片、銭貨1点が出土する。この他、工業化製品とみられる磁器7片が出土する。

石製品・礫は、小礫3点が出土する。うち1点は表面滑らかで光沢を持つ。

陶器は、皿類2片、耳付き皿片（耳部欠損）1片、甕類（内面柿釉・外面柿釉に鉄釉が垂下）1片、器種不明体部（内面無釉・外面灰釉）1片である。何れも近世後半以降か。皿類は、内外面灰釉1片、内外面灰釉、内面重ね焼痕、外面底部無釉でる。

磁器は、近世後葉以降の染付片2片、近代の染付の微細片2片が出土する。近世後葉以降の2片は、肥前系の碗類・産地不明の碗類である。近世後葉以降の近世微細片のうち1片は印半手。内面瓔珞文、外面の文様不詳。瀬戸・美濃系か。残る1片は文様不詳。産地不明。

第115図-5は「寛永通宝」である。鉄製品・鉄滓は表90・92に記載する。

【D区】

SD-14内の攪乱穴、D区北東部SK-272付近の攪乱穴、D区南東部SK-321・322付近の攪乱穴、D区内から遺物が確認される。

・SD-14内の攪乱穴

須恵器1片、陶磁器63片、銭貨1点が出土する。この他、ガラス片等20世紀の工業製品が出土する。

土器類は第114図-11の須恵器壺か。8世紀後半以降か。第115図-4は「文久永宝」、第115図-5は「寛永通宝」である。

陶器は43片が出土する。

近世後半以降とみられる破片は30片が出土する。第114図-16は灯明皿。内面の一部、外面にススが厚く付着する。第120図-22は鉢類。SD-13・D区出土と同種であるが、底面等に違いがみられる。碗類は3片が出土する。1片は小丸碗。内外面に灰釉を施す。底部無釉。2片は半筒型で、内面灰釉・外面灰釉に鉄釉を縞状に施す。灯明皿片1片は耳部が欠損する。折縁皿片1片は灰釉を施し、外面は呉須で絵付けか。皿類は2片が出土する。内外面白濁色釉の口縁部1片、内面灰釉・底部無釉部の1片である。内面柿釉・底部無釉で底部回転糸切りの底部小片は茶入れの可能性があろうか。香炉片は6片が出土する。3片は同一個体

か。外面黄褐色釉。口縁部上端は受け口状。2片は外面に灰釉を施す体部片。このうち1片は内面にススが付着する。1片はうのふ釉を施すか。内面にススが付着する。挿鉢1片は14本或いは7本以上一組の挿鉢目を施す。内外面褐色釉を施す。鉢類は3片が出土する。1片はSD-13等と同種で、内面に円形のかき分けを施す。2片は挿鉢状に開く器形で内外面に灰釉を施す。内面にトチンが残る。瓶類は徳利とみられる1片が出土する。外面柿釉。内面はハケで柿釉を施すか。鉢類は手焙りとみられる6片が出土する。5片は同一個体か。内外面とも褐色釉をハケ塗りか。1片は内面斑な褐色釉・外面褐色釉。甕類は3片が出土する。寸胴形の1片は内外面に褐色釉。甕口縁部は内外面に柿釉を施す。1片は常滑産の体部か。

近代以降とみられる破片は13片が出土する。

碗類は筒型1片が出土する。内面～外面口縁部黒褐色釉・外面平行する刺突列を帯状に配し灰釉を施す。碗・皿類は3片が出土する。体部黄褐色釉の1片・内面灰釉・平行叩き状の刺突後灰釉を施す体部1片・白濁色釉の底部1片である。白濁色釉の底部片はガラス化が顕著である。瓶類は7片が出土する。5片は同一個体か。肩部の張る壺形の可能性も残る。内面無釉・外面薄いオリーブ釉。この他、内面無釉・首～肩部片褐色釉、体部灰釉の器壁0.2cm前後の1片、内面無釉・外面柿釉の体部片1片である。蓋とみられる1片は、内面無釉・外面透明釉で西洋呉須で文字或いは文様か。0.2cmほどの焼成前の小孔と中央部つまみとみられる欠損部が観察される。器壁は極めて薄い。急須の蓋か。

磁器は染付23片が出土する。肥前系とみられる6片のうち、近世後半2片、近世末葉1片、近世後半以降3片か。近世後半の2片のうち、1片は丸碗片。見込みに五弁花文を配する。1片は半筒碗片。見込みにダミで五弁花文を配する。近世末葉の1片は広東碗片か。見込みに文様を付すが判然としない。近世後半以降の3片は口縁部1片、体部2片。産地不明の11片のうち、近世後半以降2片、近代以降9片か。近世後半の2片は皿類か。1片は内面にカゴメ文を配する口縁部片、1片は見込みに文様を配す判別は難しい。底部は蛇の目高台か。近代以降とみられる9片は手書き6片、印判手3片である。手書きの6片は蓋、盃、半筒碗、徳利、香炉、瓶類か。何れも文様不詳。印判手は、内面瓔珞文・外面文様不詳の口縁部1片、内面見込み松竹梅文・外面松葉文とみられる碗類1片、内面見込み松竹梅文の碗類底部片1片、残る瓶類3片は銅板か。唐草文に笹を配する1片はやや角張るか。2片は徳利板か。1片は雷文と菱形文を帯状に配する。菱形文内部は松葉等が充填される。1片は雷文を帯状に配する。

・SK-272 付近の攪乱穴

須恵器1片、内耳土器1片、石製品1片、陶磁器26片、鉄滓1片が出土する。須恵器はロクロ成形の壺類体部か。三毳古窯跡群産か。内耳土器は第114図-13が出土する。石製品は第114図-5の砥石片が出土する。陶器は15片が出土する。第114図-18は近世中期とみられる徳利片。美濃系か。19は近世後半の壺か。美濃系か。内面に漆膜が付着する。漆の流通に利用か。

13片は近世後半以降とみられる。蓋は2片が出土する。無釉のつまみ付きの蓋は、下面に回転糸切り痕を残し、二文字の筆書きが施される。無紐の1片は内面無釉・外面灰釉。蓋ではない可能性も残る。大丸碗1片は内～外面上半灰釉・外面下半～底部鉄釉。碗・皿類は2片が出土する。内外面に灰釉を施す体部片、内外面の所々に灰釉が付着する底部片である。底部片の内面は重ね焼きの無釉部、底面は無釉の蛇の目高台か。皿類は2片が出土する。折縁皿1片・輪花皿1片であり、何れも内外面に灰釉を施す。瓶類は3片が出土する。何れも内面無釉。1片はつる首形の首部か。緑褐色釉。1片は黒褐色釉の体部片。1片は柿釉を施す、器厚0.2cm前後体部片。挿鉢1片は無釉か。10本一組の挿鉢目を密に配する。内面は自然釉か。鉢類は底部1片か。内面褐色釉・底部無釉。内面はトチンが残る。器種不明1片。内外灰釉の器厚1.4cm前後の体部片。

第3章 確認された遺構と遺物

磁器は染付 11 片が出土する。

近世後半以降とみられるのは肥前系 3 片・産地不明 6 片である。肥前系の小型の御神酒徳利は五弁花文と竹笹文を対角面に配する。近世後葉か。肥前系の皿類 1 片は SD-373 不掲載の皿と同形・同柄か。内面に重ね焼きの無釉部を残す。内面に簡素な文様を付す。肥前系の皿・鉢類は高台に一重圈線を施す底部片。産地不明の丸碗は草花文か。底部に文様付すが判別は難しい。産地不明の半筒碗は 2 片。笹文とみられる 1 片、内面に圈線を配する 1 片である。碗類は 3 片内面に圈線を施す。このうち 1 片は外面に草花文か。近代とみられる皿類 1 片は西洋呉須でダミタ文様を付す。1 片は赤褐色釉を帯状に配する。近代以降か。

鉄滓は表 92 に記載する。

・SK-321・322 付近攪乱穴

第 114 図 - 8 須恵器甕口縁部片の他、磁器染付 2 片が出土する。産地不明の碗類微細片である。何れもダミタ文様が施される。近世後葉以降か。

・D 区

D 区からは、土器類 15 片、石製品 1 片、陶磁器 70 片が出土する。この他、工業製品とみられる磁器類・ガラスが多数出土する。

土器類は、15 片が出土する。須恵器 1 片、土師質土器 1 片、内耳土器 13 片である。須恵器は坏口縁部片であり、ロクロ成形。土師質土器は体部片。内耳土器は口縁部 4 片（胎土 C3 片・D 1 片）・体部 11 片（胎土 C 7 片・D 2 片）である。

石製品 1 片は、図示し得なかったが砥石片である。方形状の隅部 1 箇所が残る。近・現代か。

陶磁器は、陶器 39 片、磁器 31 片が出土する。

陶器は無釉 3 片、施釉 17 片が出土する。何れも近世後半以降か。

無釉の破片は、甕類口縁部、播鉢口縁部・底部である。播鉢底部の見込みは同心円状の播り目内部に平行線の播り目を配する。

施釉の破片は、第 114 図 -17・20・21・22、第 115 図 -23・24 の他、灯明皿片 1 片、鉢類 7 片、壺類 1 片、甕類 2 片・播鉢 2 片が出土する。灯明皿は耳部を欠損する口縁部微細片。鉢類は内外面灰釉の体部 3 片・内面オリブ釉でトチンの残る底部片 1 片・内外面褐色釉の微細片 3 片である。壺類は濃いオリブ色釉の体部小片であるが、第 120 図 -19 同様、内面に漆膜の付着がみられる。産地は不明である。甕類は内外面褐色釉の体部片、内面無釉・外面褐色釉の底部片である。播鉢は口縁部 2 片である。20 に似るが接合せず、詳細は不詳である。

磁器は第 121 図 -26 の他、31 片が出土する。26 は印判手の皿。瀬戸・美濃系か。

肥前系とみられる染付破片は 5 片が出土する。近世後半とみられる破片は皿 2 片。1 片は内面「寿」と松葉を組み合わせた文様か。見込みに五弁花文を付す。外面は唐草文。底部は「渦福」と「寿」を組み合わせるか。1 片は内面見込みに松竹梅文を付す。近世後葉とみられる破片は小型の御神酒徳利片。外面は松竹梅文か。近世後半以降とみられる破片は丸碗片。外面に簡素な文様を付す。近世後葉～近代初頭とみられる破片は丸碗片。草花文か。底部に文様を付すが不詳。

産地不明の染付破片は 19 片が出土する。近世後半とみられる破片は丸碗片。内面見込みの文様が僅かに残る。外面は霊芝文か。近世後半以降とみられる破片は丸碗片 2 片、半筒碗 1 片、皿類 1 片である。丸碗片は内面四方禪文の 1 片、外面笹竹文の 1 片。半筒碗は菊花文。皿類は輪花か。内面に呉須がみえるが文様不詳。近世末葉～近代初頭とみられる破片は蓋 1 片、皿 1 片、碗類 1 片、碗・皿類 1 片、瓶類 1 片である。蓋は放

射状の染付を施す。皿は内面笹竹文・外面唐草文。唐草文は間延びする。碗類は内面四方禰文。碗・皿類は草花文か。瓶類は僅かな文様が見える。近代以降とみられる破片が、皿類1片、碗・皿類8片である。皿類は、西洋呉須をダミで描く文様間に淡緑色を施す。

印判手は第121図-26と皿類2片、碗・皿類2片、銅版摺り皿類3片が出土する。皿類2片は同一個体とみられる。内面微唐草に栗・紅葉を配す地文に丸文を配する。丸文内部は重ね升を中心に青海波を配する。碗・皿類は、内外微唐草文の口縁部片、内面微唐草文に菊花、瓢を配する。瓢内部は文書体。銅版摺り皿類は、内面連弁に草花文（或いは桐か）、唐草を配し外面無文の小片。内外面微唐草文の微細片。内面無文・外面文様不詳の微細片。

【D-2区】

D-II区からは土器類21片、陶磁器7片が出土する。

土器類は、土師質土器2片、内耳土器18片、瓦質土器1片が出土する。土師質土器は土師器長胴甕口縁部片か。内耳土器は体部10片（胎土C3片・D7片）・底部8片（胎土C5片・D3片）である。

陶磁器は、陶器3片、磁器4片が出土する。

陶器は、甕類口縁部片・体部片、外面柿釉とみられる碗類片である。

磁器は、近世末葉以降とみられる碗類3片、近代以降とみられる1片である。

【3次調査区】

3次調査区からは、土器類54片、石製品・礫5片、製鉄関連遺物3片、陶器15片、磁器11片、鉄製品4片、鉄滓3片が出土する。

土器類は、土師質土器小皿33片、内耳土器20片、土製品1片が出土する。土師質土器は何れもロクロ成形。口縁部6片・体部21片・底部6片。底部は回転糸切り未調整。内耳土器は口縁部5片（胎土C）・体部14片（胎土C7片・D7片）・底部1片（胎土C）である。

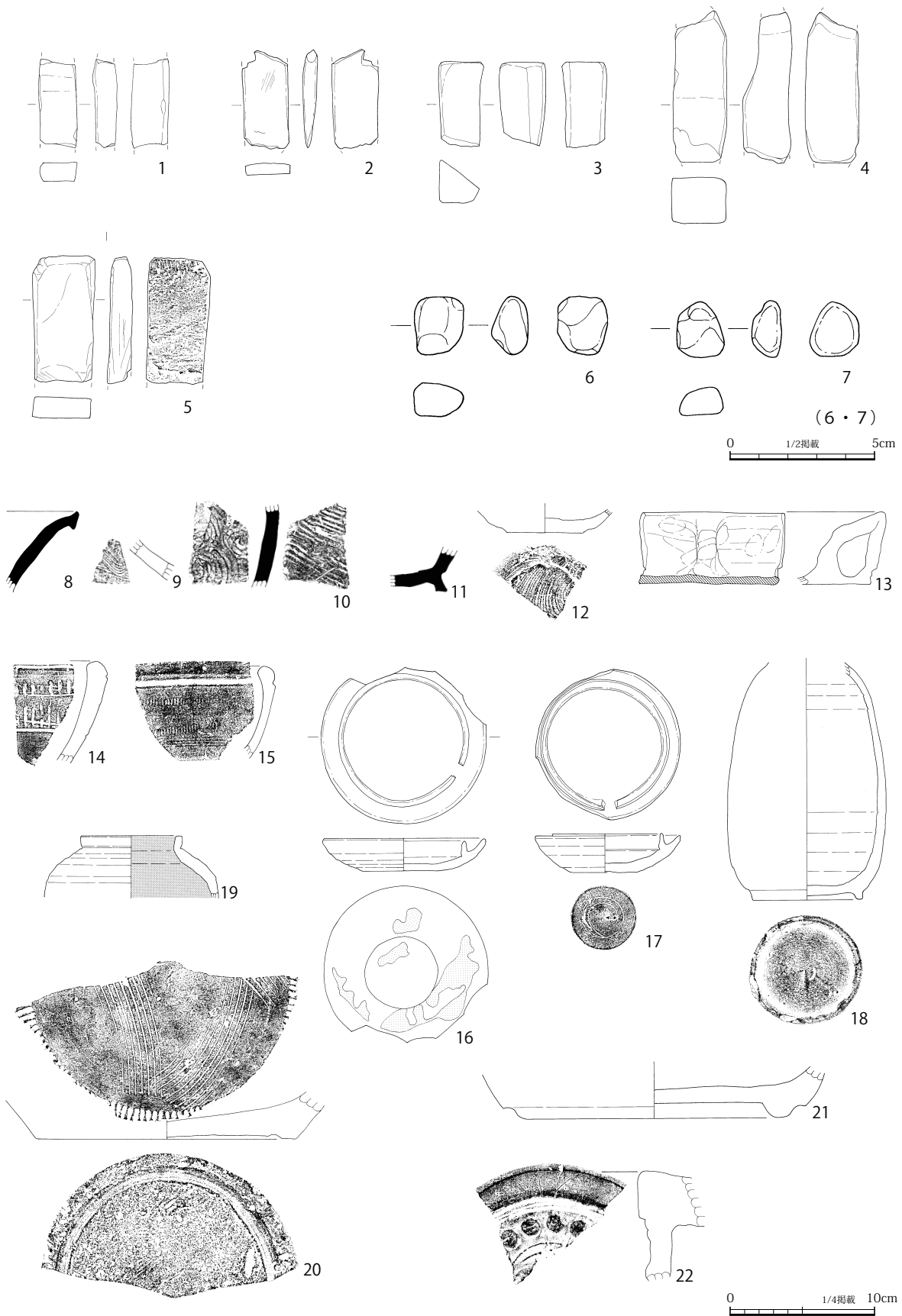
石製品・礫は、第114図-4の他、5片が出土する。4は砥石である。図示し得なかった5片のうち1片は表面滑らかで光沢を持つ。

鉄関連遺物は、羽口とみられる筒状の土製品3片が出土する。何れもガラス質溶解等は観察されない。

陶器は15片が出土する。第120図-20は志野様式。美濃系。器種は判然としない。近世後半以降とみられる破片は、甕類2片、皿類1片、鉢類1片、香炉1片、微細片8片である。甕類は口縁部である。うち1片は透明釉がかかる。皿類は内外面に灰釉を施す口縁部。鉢類は白濁色釉がかかる体下部である。香炉は口縁端部から外面に灰釉を施す。筒型。微細片は詳細不明。内外面柿釉の器壁の薄い体部片、内外面暗褐色釉の体部片、内面灰釉の口縁部片2片・体部片2片・底部片1片、内面灰釉・外面無釉の体部1片である。近代以降とみられる1片は工業製品の碗類か。

磁器は9片が出土する。第120図-19は青磁微細片。龍泉窯系の鎬連弁文か。25は半筒碗か。SD-374出土不掲載遺物のうち、肥前系の1片と同柄か。SD-374の破片は四方禰を意図したとみられる帯状の斜格子文に花菱状の文様を配するが、本遺物は対角線上の短い線4本が描かれる。近世後葉か。近世後半以降とみられる破片は2片であり、肥前系か。1片は筒型の碗類の体下部微細片は染付を施すが詳細不詳。1片は詳細不明の微細片。近代以降とみられる破片は2片であり、西洋呉須の染付である。1片は蓋片でダミで桐を描くか。1片は丸碗類でダミで松を描くか。碗・皿類微細片2片は詳細不明であるが、無文の口縁部1片、底部とみられる1片である。仏しょう具（花立て）とみられる3片は工業製品か。

鉄製品・鉄滓は表90・92に記載する。



第 113 図 遺構外出土遺物実測図

表 88 遺構外出土遺物観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 砥石	長: 6.1 厚: 1.7 幅: 2.6 重: 34.34	両端部欠損 砥面は残存する4面 主砥面は表・右側面 表面 段状に傾斜する	表裏 黄褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 SE340付近トレンチ
2 砥石	長: 6.8 厚: 1.0 幅: 3.2 重: 28.45	図 上: 上端欠損 下端細くなる 砥面は表・裏・両側面の4面 主砥面は表裏か 使い減りか	表裏 にぶい黄褐色	軽石凝灰岩	完存か	OYAW3 SK376付近 #7 トレンチ
3 砥石	長: 5.8 厚: 3.3 幅: 3.2 重: 65.25	下半欠損 断面・三角形状まで使用か 砥面は残存する4面	表裏 暗褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3 B区カケラ
4 砥石	長: 10.5 厚: 3.4 幅: 3.7 重: 178.48	上端部欠損 下端わずかに残存 砥面は残存する5面か 主砥面は表・裏面 表・裏とも凹状 使い減りか 裏面・右側面 上端部に傾斜 部分的に砥面とする	表裏 にぶい黄褐色	流紋岩	端部欠損	OYAW3
5 砥石	長: 8.8 厚: 1.7 幅: 4.3 重: 99.88	下方を欠損する 砥面は表・両側面の3面か 表面は上端部を除き剥落 上端部は平行する線状痕 表面は中央部やや凹む 右側面上部も狭い砥面	表裏 灰色	粘板岩	端部欠損	OYAW3 SK272付近カケラ
6 石製品 基石か	長: 2.0 厚: 1.3 幅: 1.7 重: 5.46	白色 小礫 表面 滑らかで光沢あり	表裏 浅黄色	石英	完存	OYAW3 B区北西カケラ
7 石製品 基石か	長: 1.9 厚: 1.0 幅: 1.6 重: 3.85	白色 小礫 表面 滑らかで光沢あり	表裏 淡黄色	石英	完存	OYAW3 B区北西カケラ
8 須恵器 甕	口径: 一 底径: 一 器高: (5.5)	ヨコナデ	内外 黄灰色	須恵器・土師器 B群・1・2・5・7 良	小片	OYAW3 321-322付近カケラ
9 須恵器 甕類	口径: 一 底径: 一 器高: (3.4)	外面 6本一組の櫛描波状文か	内 黄灰色 外 暗灰黄色	須恵器・土師器 C群・1・2・7 良	小片	OYAW3 B区北西カケラ
10 須恵器 甕	口径: 一 底径: 一 器高: (5.8)	内 同心円状であて具痕 外 平行叩き	内 灰黄色 外 にぶい黄色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 B区カケラ
11 須恵器 壺か	口径: 一 底径: 一 器高: (3.1)	ロクロ成形 底部: 回転ヘラナデ 体下部にわずかに稜を持つ	内外 灰オリーブ色	須恵器・土師器 B群・1・2・6 良	小片	OYAW3 SD14カケラ
12 土師質土器 小皿	口径: 一 底径: [5.2] 器高: (1.7)	ロクロ仕上げ 底部 回転糸切り	内外 にぶい黄褐色	土師質土器B群 良	小片	OYAW3 B区西カケラ
13 内耳土器	口径: 一 底径: 一 器高: (5.0)	内 ヨコナデ 内耳接合部: 指頭痕 外 口縁部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ スス付着	内 黄褐色 外 にぶい黄褐色	瓦質土器C群 良	1/8以下	OYAW3 SK272付近カケラ
14 土師質土器 鉢類	口径: 一 底径: 一 器高: (7.1)	内外面 黒色処理か 口縁下の二条間は未処理で文様を付す	内外 黒色	瓦質土器A群 良	小片	OYAW3 B区カケラ
15 瓦質土器 鉢類	口径: 一 底径: 一 器高: (6.3)	内 ヨコナデ 外 口縁部: 沈線 体部: 2段のキザミ下に条線を一段配する	内 明赤褐色 外 にぶい褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 D区一括
16 陶器 灯明皿	口径: 11.2 底径: 5.5 器高: 2.3	内外面にスス付着 外面は底部付近に厚く付着する	内 赤褐色 外 明赤褐色	瓦質土器B群 良	口縁部 一部欠	OYAW3 SD14内カケラ 南から3
17 陶器 灯明皿	口径: [10.0] 底径: 4.4 器高: 2.7	1ヶ所切り口あり 外面底部: 無軸 口縁端部・底部破断面: スス付着	内 にぶい褐色 外 明赤褐色	瓦質土器B群 良	口縁部 一部欠	OYAW3 D区表採
18 陶器 德利	口径: 一 底径: 7.6 器高: 16.5	内 無軸 外 灰軸 所々軸垂下 底部: 回転ヘラナデ	内 浅黄色 外 黄褐色	瓦質土器B群 良	1/2	OYAW3 SK272付近カケラ
19 陶器 小型壺	口径: 7.0 底径: 一 器高: 4.3	内 口縁部の所々に黄褐色釉 口縁部下からうろし付着 外 黄褐色釉	内 黄褐色 外 明黄褐色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 SK272付近カケラ
20 陶器 描鉢	口径: 一 底径: [18.0] 器高: (3.2)	摺目は深く密か 見込みは9本一組の摺目を疎らに施す 底部 周縁に凹線状の沈線が巡る	内 暗赤褐色 外 オリーブ褐色	陶器D群 良	小片	OYAW3 D区一括
21 瓦質土器 鉢類	口径: 一 底径: 一 器高: (3.5)	内 ヨコナデか 指頭状の痕跡があるが不明 外 被熱による劣化か 円形状の脚1個残存	内 にぶい黄褐色 外 橙色	瓦質土器B群 良	小片	OYAW3 D区一括
22 瓦	長: 7.5 厚: 4.8 幅: 10.5 重: 143.47	文様不詳	表 暗灰黄色 裏 黄褐色	やや緻密 良	小片	OYAW3 D区一括

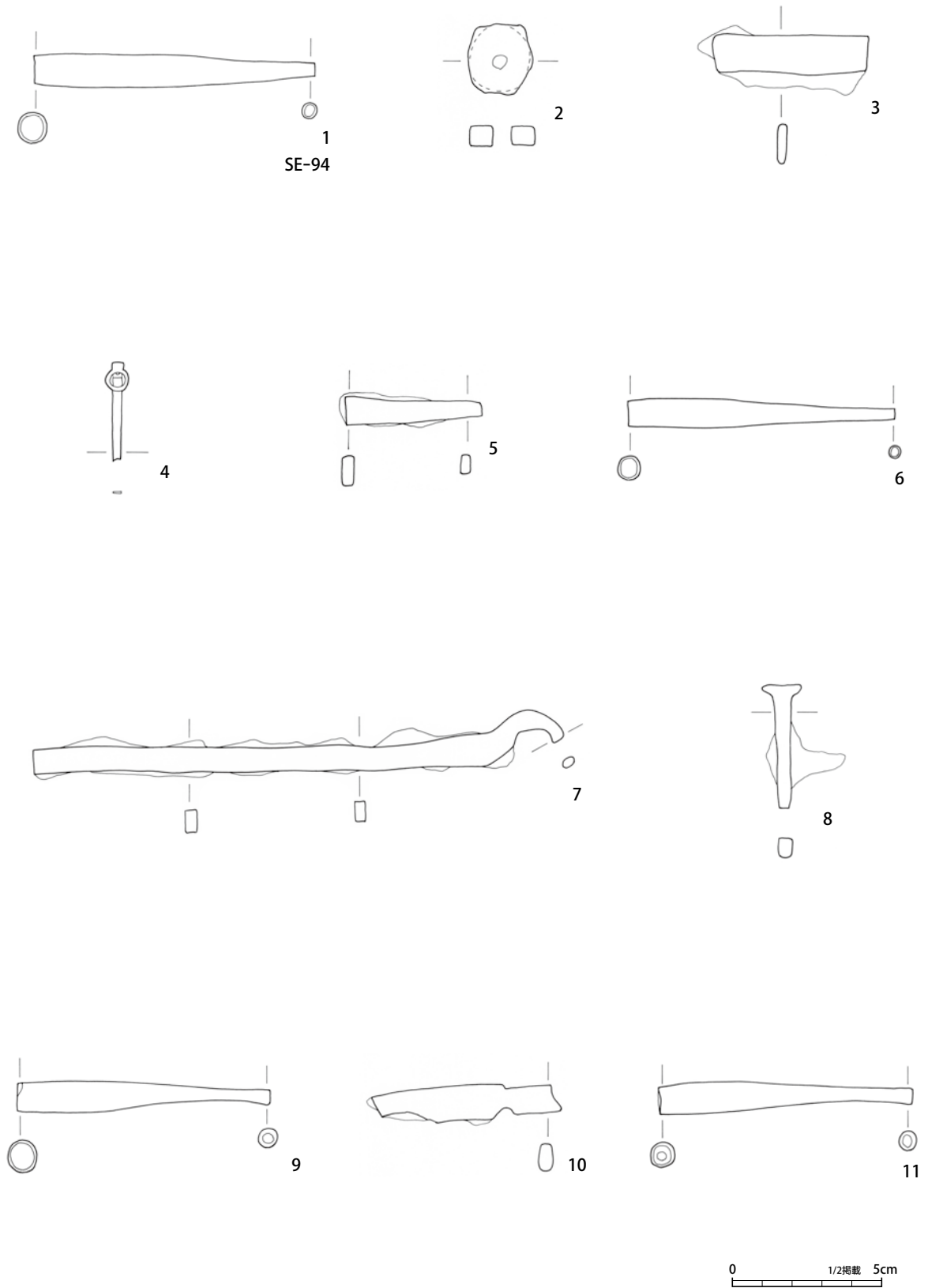
第4節 金属器・鉄滓・陶磁器

1. 金属器

2次・3次調査において出土した金属器を一括する。

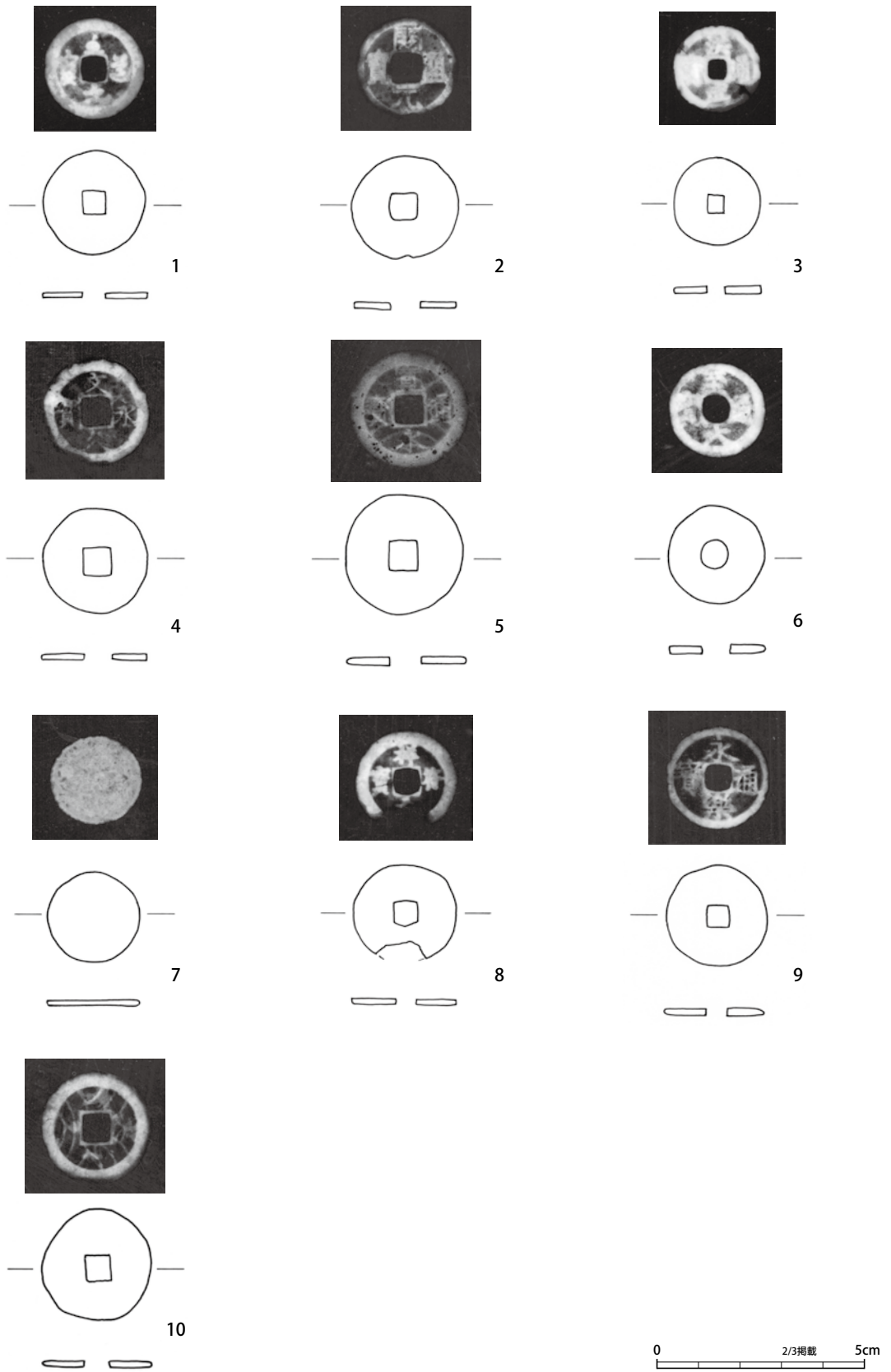
2次調査区からは、鉄製品34片、銅製品4片、銭貨7片が出土する。3次調査からは、鉄製品49片、銅製品5片、銭貨6片が出土する。鉄製品は種別・時期等に判別が明瞭でない小片が多い。銅製品は、2次調査区から出土する飾り金具状の1片以外は煙管である。銭貨は唐代とみられる渡来銭から「文久永宝」など近世後半に流通する銭貨までが確認される。詳細不明の2片を除き、ほぼ完存するものが多いが、脆弱である。各々の出土状況等は各遺構に記載する。

金属器



第114図 金属器実測図

古銭



第 115 図 古銭実測図

第3章 確認された遺構と遺物

表 89 2次調査区出土金属器観察表

挿図	番号	調査区	区	遺構	金属	種別	長さ	幅	厚	重	特記事項
		2次	Ⅲ-2	SK-705	鉄	目釘か	2.9	3.4	2.0	7.89	地下式孔
115	1	2次	Ⅱ	SK-24	銅	銭貨	2.4	2.4	0.1	2.75	「至道元宝」 方形鑿穴遺構
115	3	2次	Ⅲ-1	SK-37	銅	銭貨	2.1	2.1	0.2	2.97	「洪武通宝」
		2次	Ⅲ-1	SK-43	鉄	刀子か	1.3	2.5	0.6	2.12	
		2次	Ⅲ-1	SK-47	鉄	釘か	2.6	1.1	1.0	2.31	
		2次	Ⅲ-1	SK-47	鉄	釘か	4.1	0.6	0.5	1.43	
		2次	Ⅲ-1	SK-47	鉄	釘か	3.0	2.6	2.5	10.34	
		2次	Ⅱ	SK-51	鉄	釘か	4.8	1.5	1.3	8.41	
		2次	Ⅲ-3	SK-86	鉄	釘か	2.5	1.0	0.7	1.76	頭部 形状不明
		2次	Ⅲ-3	SK-86	鉄	釘か	2.6	1.1	0.8	1.63	
		2次	Ⅲ-3	SK-86	鉄	不明	8.2	1.7	1.2	29.60	棒状
114	3	2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	刀子か	4.6	1.4	1.3	8.12	
		2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	釘か	3.9	1.3	1.0	5.72	
		2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	釘か	2.8	1.4	1.1	3.76	
		2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	釘か	4.2	1.2	1.0	6.18	
114	2	2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	不明	2.6	2.6	0.7	5.32	円盤状 小孔あり
		2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	不明	4.9	2.2	1.7	21.73	棒状
		2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	不明	6.5	3.3	1.2	19.41	板状
		2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	不明	12.2	2.3	1.3	80.40	かすがいの延びたものか
		2次	Ⅲ-3	SK-94	鉄	不明	—	—	—	—	板状
114	1	2次	Ⅲ-3	SK-94	銅	煙管	9.3	1.1	1.1	15.00	
		2次	I	SK-104	鉄	釘か	3.9	1.2	0.8	3.50	
		2次	I	SK-104	鉄	釘か	2.5	2.0	1.7	6.78	
		2次	I	SK-104	鉄	釘か	4.6	1.8	1.9	11.20	
		2次	Ⅱ	SD-19	銅	銭貨	—	—	—	1.10	「元豊通宝」 細片6片
		2次	Ⅱ	SD-19	銅	銭貨	1.7	1.7	0.1	0.89	ニッケル硬貨 一銭
114	4	2次	Ⅱ	SD-19	銅	飾り金具か	3.3	0.7	0.6	1.03	
		2次	I	遺構外	鉄	不明	9.9	2.0	1.2	25.14	棒状 フィルム47・63接合
		2次	I	遺構外	鉄	釘か	4.4	2.0	1.4	15.03	棒状
		2次	I	遺構外	鉄	不明	6.0	2.5	2.3	27.73	釘か
		2次	I	遺構外	鉄	不明	5.6	4.6	1.7	68.28	鋳造品
		2次	I	遺構外	鉄	不明	7.0	3.6	1.6	49.42	板状
115	6	2次	I	遺構外	銅	銭貨	2.3	2.4	0.2	3.26	「至大通宝」
114	9	2次	I	遺構外	銅	煙管	7.8	1.1	1.1	6.14	
		2次	I	遺構外	銅	銭貨	—	—	—	1.36	不明 5片
114	10	2次	Ⅲ-1	遺構外	鉄	不明	3.5	1.6	1.0	5.24	刀子か 2片接合
		2次	Ⅲ-3	遺構外	鉄	釘か	3.6	1.6	1.5	6.88	頭部 形状不明
		2次	Ⅲ-3	遺構外	鉄	釘か	4.5	0.8	0.7	2.11	
114	11	2次	Ⅲ-3	遺構外	銅	煙管	8.3	1.0	1.0	6.96	
		2次	調査区内		鉄	釘か	3.4	0.8	0.5	1.39	
		2次	調査区内		鉄	蝶番	5.5	1.7	0.9	8.56	
		2次	調査区内		鉄	不明	9.3	3.8	1.6	39.85	棒状 フィルム72・73接合
		2次	調査区内		鉄	不明	9.9	2.0	1.2	25.11	棒状 調査区内出土フィルム47・63接合
		2次	調査区内		鉄	鎌	17.7	10.4	2.0	198.38	時期不明 鋳造品の可能性残る
115	2	2次	調査区内		銅	銭貨	2.5	2.5	0.1	2.44	「開元通宝」

表 90 3次調査区出土金属器観察表

挿図	番号	調査区	区	遺構	金属	種別	長さ	幅	厚	重	特記事項
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.0	0.9	0.5	0.89	刀子か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.9	1.9	1.0	5.31	刀子か 地下式孔
114	5	3次	B	SK-374	鉄	不明	4.8	1.8	0.9	9.14	刀子か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.6	1.1	0.9	3.84	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	3.1	0.9	0.7	2.43	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.0	1.2	1.2	6.38	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	3.1	1.5	1.1	4.00	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	3.8	1.0	0.7	3.02	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.5	1.0	1.1	4.90	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.9	1.1	1.1	4.44	釘か 地下式孔

挿図	番号	調査区	区	遺構	金属	種別	長さ	幅	厚	重	特記事項
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.5	2.5	0.6	2.32	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.1	0.8	0.6	1.95	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.1	0.9	0.7	(5.46)	釘か 地下式孔 小礫が接着
		3次	B	SK-374	鉄	不明	6.0	1.2	1.1	7.47	釘か 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	2.8	1.2	0.8	2.57	棒状 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	5.8	1.3	1.1	9.40	棒状 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	4.0	3.1	0.7	7.99	円盤状 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	6.3	1.4	1.2	12.31	棒状 地下式孔
		3次	B	SK-374	鉄	不明	(20.0)	2.6	1.0	78.56	地下式孔 6片
114	6	3次	B	SK-374	銅	煙管	8.8	1.0	1.0	8.30	地下式孔
		3次	B	SK-374	銅	煙管	3.0	1.2	1.1	1.27	地下式孔
		3次	A	SK-254	銅	不明	3.4	2.9	1.0	16.56	
		3次	B	SK-346	鉄	不明	2.6	1.3	1.0	3.09	釘か
		3次	B	SK-346	鉄	不明	3.1	0.7	0.5	0.90	釘か
		3次	B	SK-346	鉄	不明	—	—	—	—	
		3次	B	SK-346	銅	煙管	3.5	1.0	0.6	1.67	
		3次	C	SK-410・411	銅	不明	4.2	1.6	0.6	8.85	板状
114	7	3次	C	SK-485	鉄	不明	(17.8)	2.0	1.5	46.72	棒状 3片接合
		3次	C	SK-845	鉄	不明	2.6	2.0	0.9	4.51	半球状 硬化面出土
		3次	C	SK-845	鉄	不明	4.4	3.6	0.8	9.40	板状 硬化面出土
		3次	C	SE-206	鉄	不明	2.1	1.7	0.5	2.88	刀子か
		3次	A	SE-209	鉄	不明	6.1	2.2	1.5	16.90	
		3次	D	SD-13	鉄	不明	3.2	2.6	0.6	6.56	鋳造品
		3次	D	SD-14	鉄	不明	—	—	0.5	5.14	板状 SP-C-D間 13片
		3次	D	SD-14	鉄	不明	—	—	1.4	23.28	鋳造品 4片
		3次	A	SD-19	鉄	不明	2.7	1.8	1.0	4.52	釣り針状の屈曲
		3次	A	SD-19	鉄	不明	1.3	1.3	0.4	0.61	鋳造品
115	8	3次	A	SD-19	銅	銭貨	2.5	(1.9)	0.1	1.91	「祥符通宝」
		3次	A	SD-202	鉄	不明	7.7	1.2	0.9	22.89	鋳造品
115	9	3次	A	SD-202	銅	銭貨	2.5	2.5	0.1	2.23	「永楽通宝」
		3次	B	SD-364	鉄	不明	5.6	1.0	1.0	7.55	釘か
		3次	B	SD-393	鉄	不明	6.1	1.4	1.2	8.56	釘か
114	8	3次	C	P-442・443	鉄	釘	4.5	3.0	0.9	6.77	
		3次	C	P-442・443	鉄	不明	4.1	1.9	1.2	20.39	L字状
		3次	A	遺構外	鉄	不明	3.3	1.7	1.4	6.06	管状 2片接合
		3次	A	遺構外	鉄	釘か	2.0	1.5	1.1	3.30	
		3次	A	遺構外	鉄	不明	2.1	0.9	0.4	1.46	
		3次	B	遺構外	鉄	不明	7.6	1.6	1.4	11.63	釘か SE-368周辺
		3次	B	遺構外	鉄	不明	5.7	3.7	1.0	18.84	板状 SE-368周辺
115	10	3次	C	遺構外	鉄	不明	4.4	2.3	1.4	13.85	
		3次	C	遺構外	銅	銭貨	2.7	2.7	0.2	3.08	「寛永通宝」
115	7	3次	D	遺構外	銅	煙管	3.6	0.8	0.9	5.28	
115	4	3次	D	SD-14攪乱	銅	銭貨	2.2	2.2	0.1	3.16	不明
115	5	3次	D	SD-14攪乱	銅	銭貨	2.6	2.6	0.1	2.44	「文久永宝」
		3次	D	SD-14攪乱	銅	銭貨	2.9	2.9	0.2	4.16	「寛永通宝」
		3次	D	遺構外	鉄	不明	3.5	3.1	0.8	6.50	板状 鋳造品 SP-C-D間
		3次	調査区内		鉄	不明	3.0	1.7	1.3	4.85	板状
		3次	調査区内		鉄	不明	3.2	1.4	1.2	4.61	刀子か
		3次	調査区内		鉄	不明	4.0	0.9	0.7	2.49	刀子か
		3次	調査区内		鉄	不明	4.4	2.0	1.4	11.26	

2. 鉄滓

2次・3次調査において出土した鉄滓を一括する。

2次調査区からは10片、3次調査からは31片が出土する。小塊・小片が多い。碗形とみられるものや、砂粒の付着や鉄製品とみられる小片や小礫、スサ状の混入物等が確認されるものがある。各々の出土状況等は各遺構に記載する。

第3章 確認された遺構と遺物

表 91 2次調査区出土鉄滓器観察表

調査区	区	遺構	タテ	ヨコ	厚	重	特記事項
2次	Ⅲ-1	SK-41	6.1	4.4	2.3	35.4	小塊 不整形 下面平坦
2次	Ⅲ-1	SK-42	8.3	5.2	3.3	71.0	小塊 不整形 碗形か
2次	Ⅲ-1	SK-46	3.8	3.2	1.4	5.8	小塊 不整形 碗形か
2次	Ⅲ-1	SK-47	4.0	3.8	2.5	10.5	小片 不整形 狭小な空洞部分あり
2次	I	SK-105	4.8	4.0	2.8	26.1	小塊 不整形 下面平坦 小礫混入
2次	I	SK-105	5.4	4.0	2.5	28.5	小塊 不整形 下面平坦
2次	Ⅱ	SD-19	5.2	4.2	2.6	35.9	小塊 不整形 碗形か
2次	Ⅱ	SD-19	4.8	4.4	1.2	8.9	小片 不整形 碗形か
2次	I	遺構外	5.8	5.6	3.8	67.6	小片 不整形 碗形か 下面砂状の付着物
2次	調査区内		2.6	1.7	1.1	2.2	小片 不整形 狭小な空洞部分あり

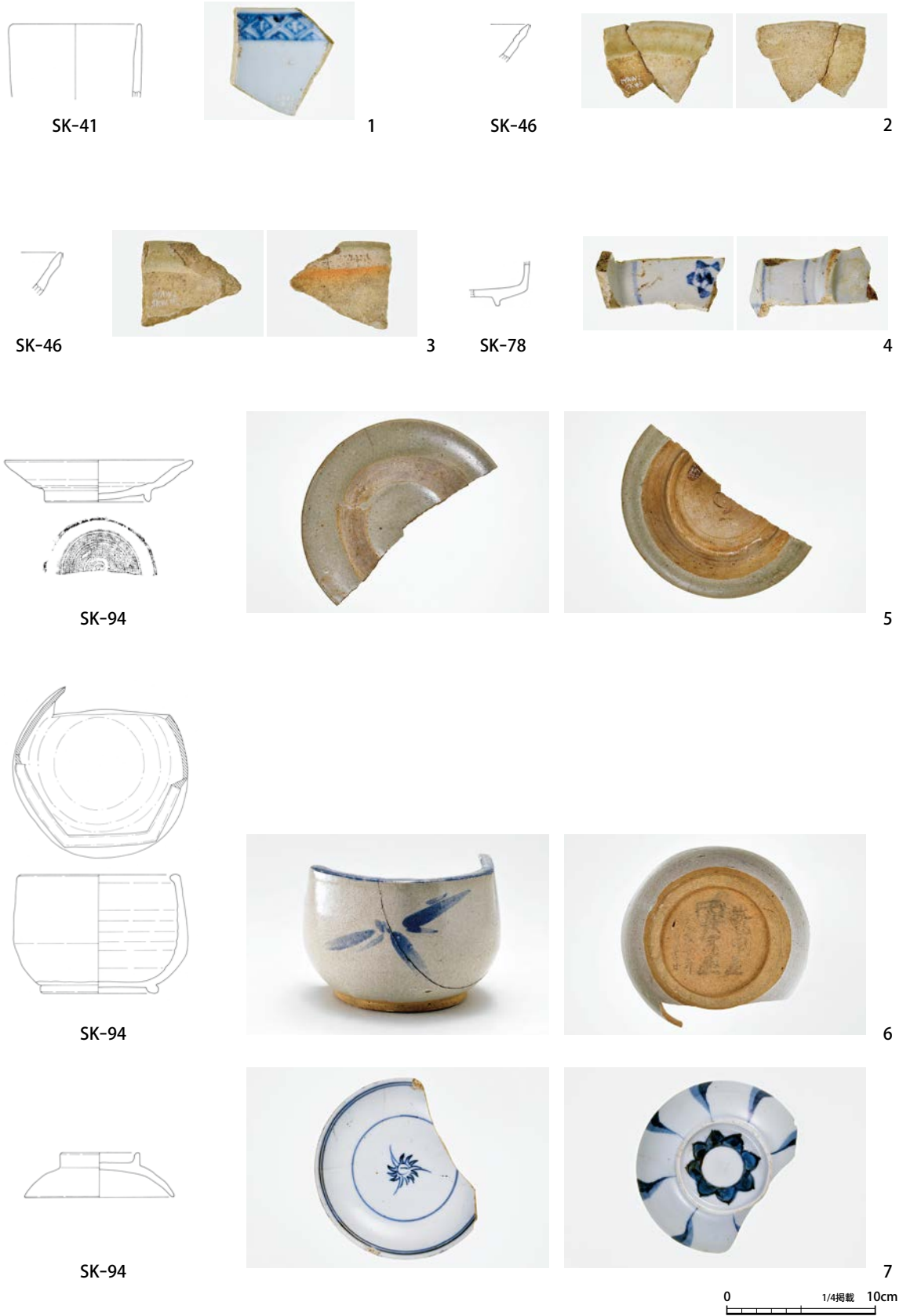
表 92 3次調査区出土鉄滓器観察表

調査区	区	遺構	タテ	ヨコ	厚	重	特記事項
3次	B	SK-374	1.7	2.2	0.7	1.2	地下式孔 不整形 微細塊
3次	B	SK-374	4.3	3.8	3.0	35.1	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	4.0	4.1	2.2	29.1	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	4.5	4.0	3.0	39.4	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	4.0	3.0	1.8	16.0	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	3.3	2.9	2.1	13.4	地下式孔 小片 不整形 碗形か
3次	B	SK-374	4.8	3.4	2.5	37.3	地下式孔 小塊 不整形 碗形か
3次	A	SK-239	3.7	2.4	1.3	6.1	地下式孔 小片 不整形 碗形か
3次	B	SK-346	8.9	6.6	3.2	121.4	破片 碗形鉄滓か 下面砂・小礫付着 円筒状の微細鉄施品混入
3次	B	SK-346	2.8	2.2	1.4	6.9	小塊 不整形 碗形か
3次	B	SK-346	2.6	1.6	1.6	4.9	小塊 不整形 碗形か
3次	C	SK-485	4.1	2.3	1.4	12.3	小片 不整形 平坦 碗形か
3次	C	SK-485	4.3	3.1	1.6	18.1	小片 不整形 平坦 碗形か
3次	A	SE-263	4.4	3.6	2.9	23.0	小片 不整形
3次	A	SE-263	3.1	2.2	1.9	4.2	小片 不整形
3次	D	SD-12	7.4	4.2	2.9	82.2	碗形鉄滓か 小塊1点・微細片2片 接合しない 植物繊維微量混入
3次	D	SD-14	4.4	4.4	3.0	77.0	SP-C-D間 小塊 下面碗形状
3次	A	SD-202	2.6	2.1	1.7	7.2	微細塊
3次	A	SD-202・SK-228	5.1	3.6	3.0	66.8	小塊 不整形 碗形か
3次	B	SD-371	7.9	7.0	3.3	199.4	小塊 碗形か 上面平坦で緻密
3次	B	SD-376	4.2	2.4	2.0	14.3	小塊 平坦
3次	B	SD-376	5.2	4.2	2.5	34.7	小塊 碗形か
3次	B	SD-376	2.5	2.0	1.9	7.5	微細塊 球状
3次	B	遺構外	9.2	7.0	2.6	100.1	破碎片 浅い皿状
3次	B	遺構外	1.4	0.9	1.4	0.5	微細片
3次	B	遺構外	7.6	4.8	2.4	60.1	小片 小礫混入
3次	C	遺構外	5.2	2.8	2.0	11.3	小片 不整形
3次	D	遺構外	7.4	6.2	2.6	120.8	SK-272付近 破碎片 碗形鉄滓か
3次	調査区内		3.8	2.5	2.6	19.0	小塊 碗形か
3次	調査区内		3.9	2.5	2.6	17.5	小片 碗形か
3次	調査区内		3.2	2.2	1.5	9.0	小片

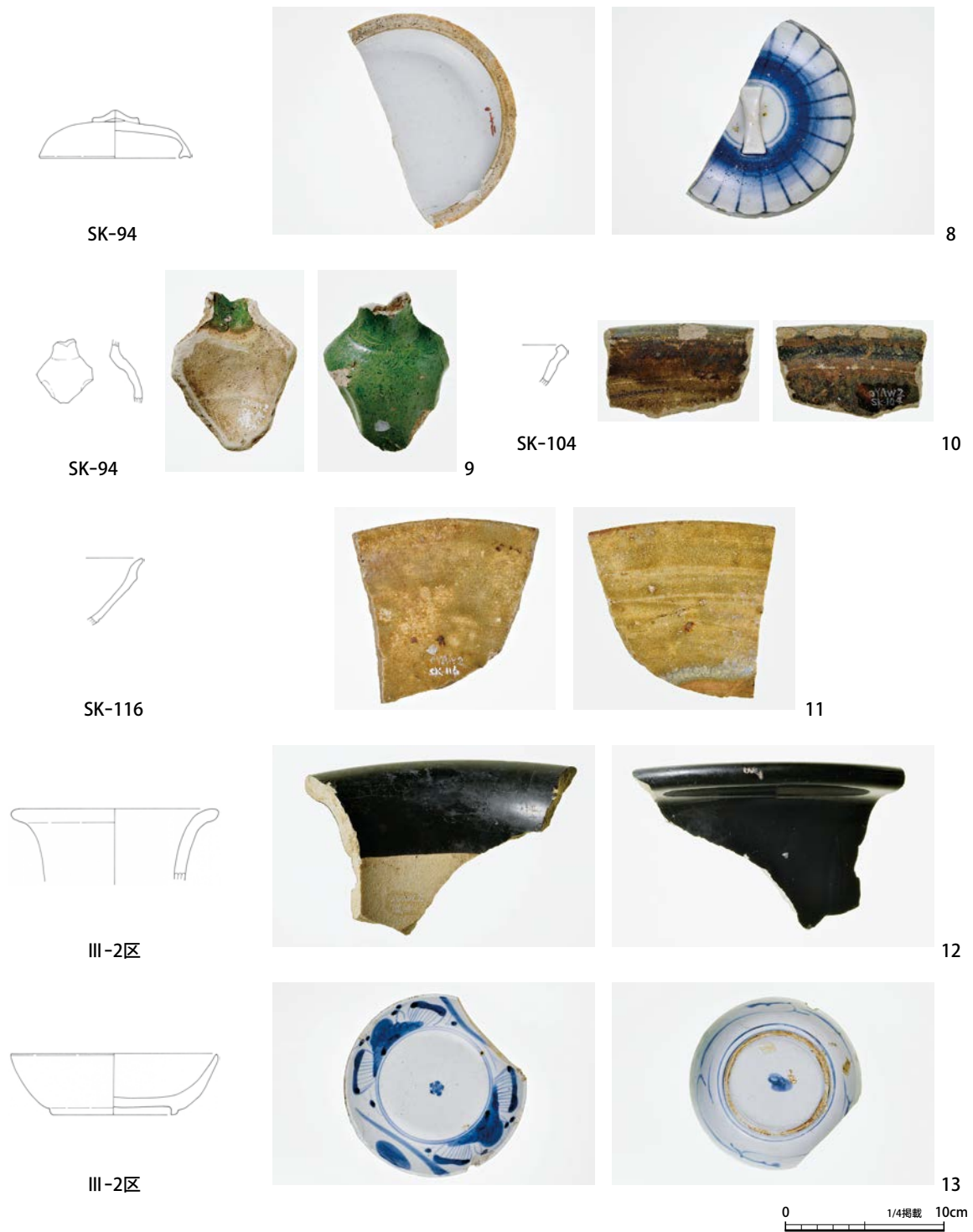
3. 陶磁器

2次・3次調査において出土した陶磁器の詳細については各遺構に記載する。近世後半以降の陶器・磁器が主体をなすが、古瀬戸や龍泉窯産とみられる青磁の出土も確認される。本節では、実測図とあわせ写真を掲載する。

2次調査区出土陶磁器



第116図 2次調査区出土陶磁器実測図(1)



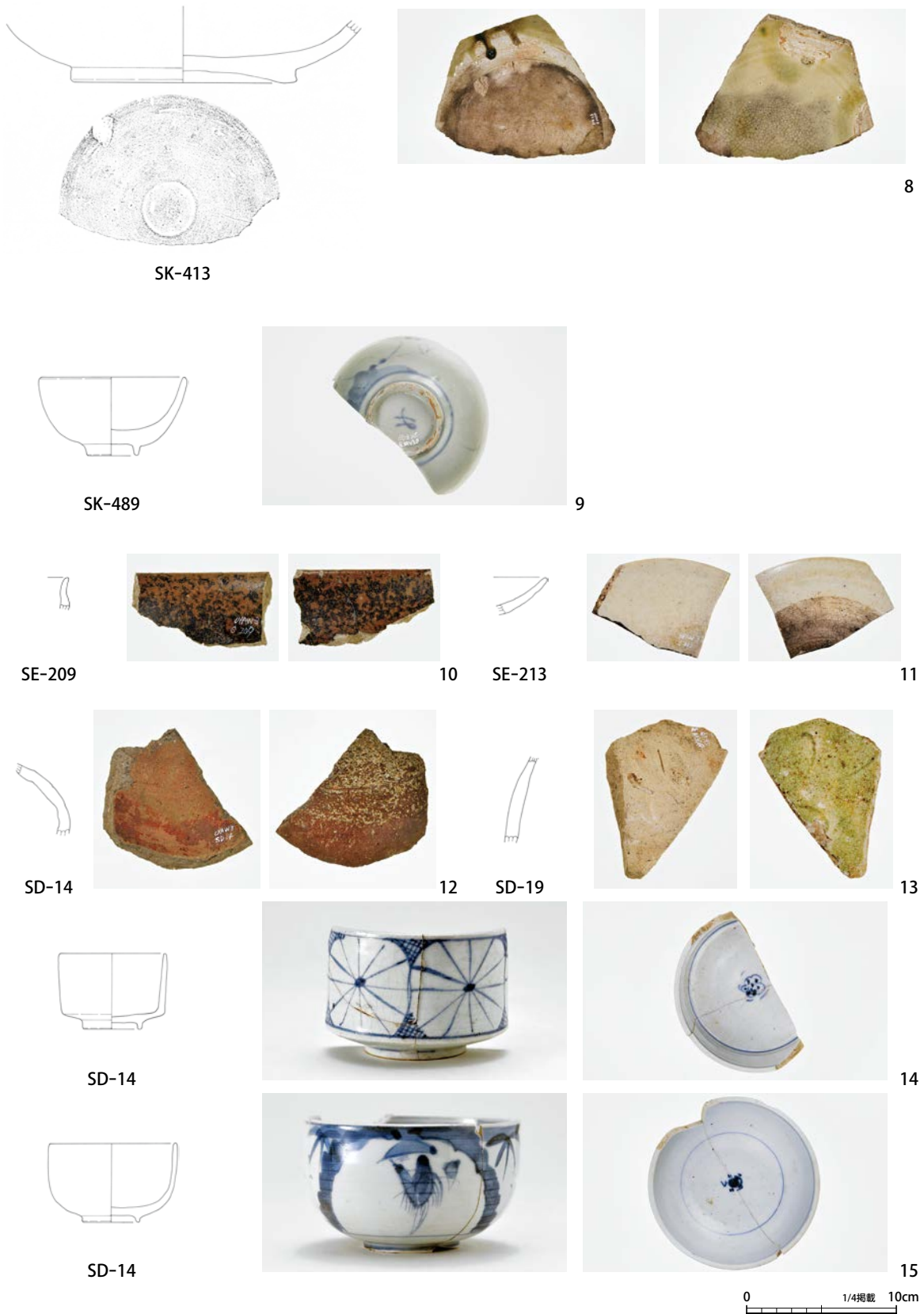
第117図 2次調査区出土陶磁器実測図(2)

3次調査区出土陶磁器



第118図 3次調査区出土陶磁器実測図(1)

第3章 確認された遺構と遺物



第119図 3次調査区出土陶磁器実測図(2)



第120図 3次調査区出土陶磁器実測図(3)

第3章 確認された遺構と遺物



第 121 図 3 次調査区出土陶磁器実測図 (4)

表 93 2 次調査区出土陶磁器観察表

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 磁器 半筒碗	口径: [8.5] 底径: — 器高: (4.9)	内面 四方たすき文 外面 無文	内外 明緑灰色	磁器C群 良	小片	SK-41
2 陶器 古瀬戸 碗類か	口径: — 底径: — 器高: (2.0)	ロクロ成形 内面口縁部—外面口縁端部灰軸	内外 浅黄色	陶器胎土B類 硬質	口縁部小片	OYAW2 SK-46 下と同一個体か
3 陶器 古瀬戸 碗類か	口径: — 底径: — 器高: (2.0)	ロクロ成形 内面口縁部—外面口縁端部灰軸	内外 浅黄色	陶器胎土B類 硬質	口縁部小片	OYAW2 SK-46 上と同一個体か
4 磁器 染付 碗	口径: — 底径: — 器高: (3.1)	半筒碗か 内 見込みに五弁花文 外 草花文か	内外 灰白色	磁器D類 良	底部小片	OYAW2 SK-78 江戸中期以降か
5 陶器 皿類	口径: 12.6 底径: 7.0 器高: 2.8	内面から外面中位施軸 内面見込み周縁は無軸 内面見込み周縁は無軸 重ね焼きか ロクロ成形 高台は削り出しか	内外 灰白色	陶器胎土D類 良	1/2	OYAW2 SK-94トレンチ 貿易陶磁か

第4節 金属器・鉄滓・陶磁器

(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
6 陶器 鉢類	口径: 10.8 底径: 7.6 器高: 8.0	六角形向付けか 口縁端部から外面施軸 口縁端部・竹笹文は淡藍色施す	内 明黄褐色 外 灰白色	陶器胎土C類 良	1/2	OYAW2 SK-94トレンチ 近・現代産か
7 磁器 蓋か	口径: 10.0 底径: 5.2 器高: 3.0	外面輪楯状の文様 内面中央は花か	内外 灰白色	磁器胎土C類 良	3/4	OYAW2 SK-94トレンチ 近・現代産か
8 磁器 蓋か	口径: 9.5 底径: — 器高: 3.0	外面菊花文 つまみを付す 内面銘か	内外 灰白色	磁器胎土C類 良	1/2	OYAW2 SK-94トレンチ 近・現代産か
9 陶器 小型茶碗	口径: — 底径: — 器高: 4.0	内 指頭痕 外 頸部沈線横巡 体部間隔をもって凹み 文様か 外面→内面口縁部施軸	内 浅黄褐色 外 鮮やかな緑色	陶器胎土B類 良	小片	OYAW2 SK-94トレンチ
10 磁器 天目茶碗	口径: — 底径: — 器高: (2.6)	鉄軸を施す 小片のため判断としないが「蓋」形か	内外 暗褐色を施す	磁器胎土C類 良	口縁部小片	OYAW2 SK-104
11 陶器 碗類か	口径: [16.0] 底径: — 器高: (4.6)	ロクロ成形か 内→外面下位 灰軸か 外面下位無軸	内 浅黄色 外 にぶい黄色	陶器胎土B類 良	口縁部小片	OYAW2 SK-116
12 陶器 瓶類	口径: [13.0] 底径: — 器高: (4.2)	内面口縁部→外面施軸 施軸は均一	内 浅黄褐色 外 黒色	陶器C群 良	口縁部片	注記: III-1 III-2区
13 磁器 染付 皿	口径: 12.5 底径: 7.6 器高: 3.8	内 唐草図風の文様 見込み: 五弁花文 外 唐草文風 中央部意匠不明	内外 灰白色	磁器C群 良	一部欠損	III-2区 肥前・波佐見系IV期

表 94 3次調査区出土陶磁器観察表

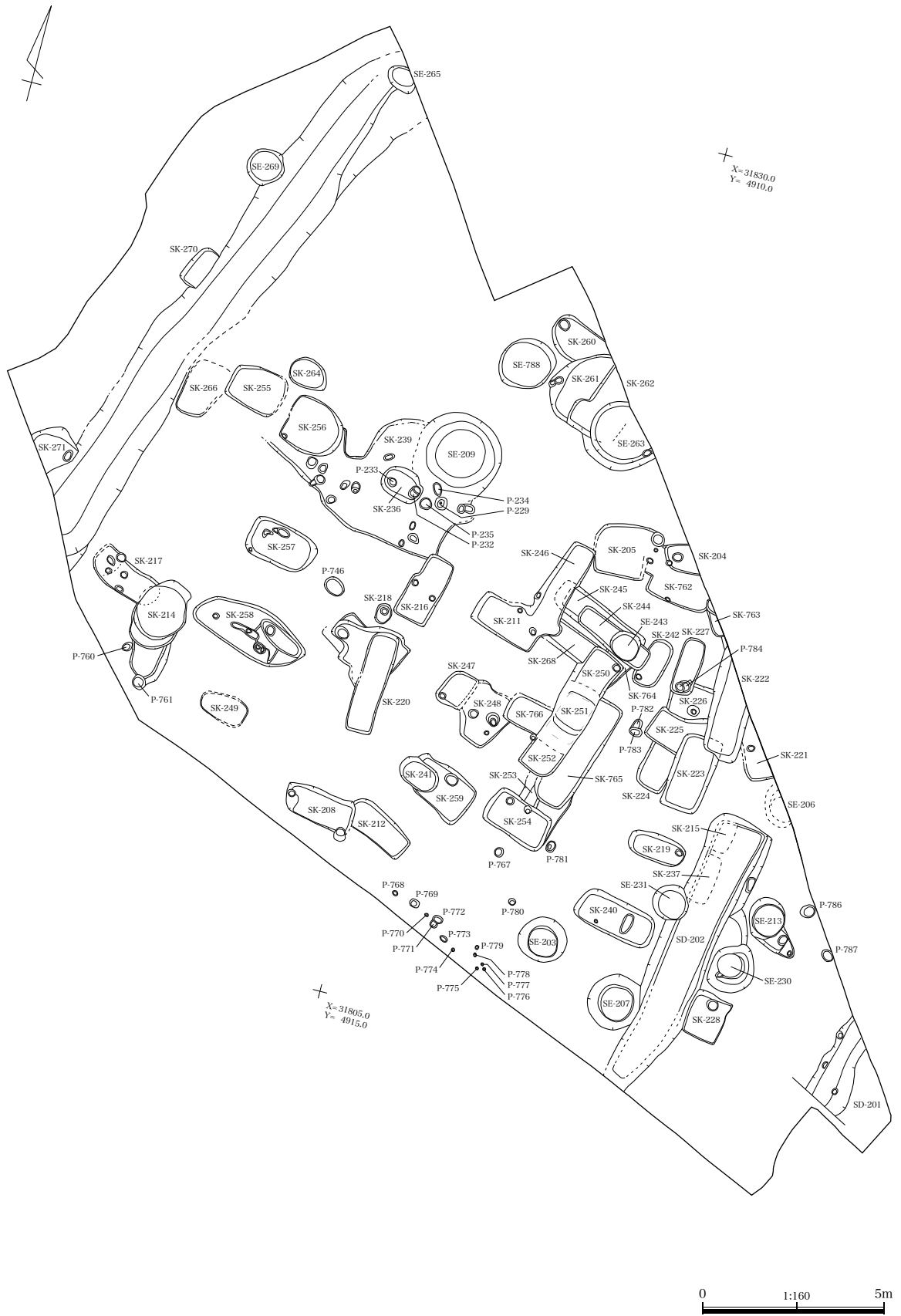
(単位: cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
1 磁器 小丸碗	口径: 8.0 底径: 2.8 器高: 3.6	山水図	内外 灰白色	磁器E群 良	完存	OYAW3 SK374
2 磁器 碗	口径: 9.5 底径: 3.8 器高: 5.4	草花文 底部 文様不詳 同柄とみられる14片 口縁→体部: 2 (うち1は底部文様なし SK-489と同じ) 体→底部: 4 口縁部: 3 体部: 5	内外 灰白色	磁器D群 良	2/3	OYAW3 SD374
3 磁器 碗	口径: 10.0 底径: 3.8 器高: 4.8	染付 印判手 内 口縁部: 環珞文 一重圏線見込み 菊花文か 外 亀甲文 微唐草 高台一重圏線 無文部を挟んで配する	内外 灰白色	磁器D群 良	ほぼ完存	OYAW3 SD374 SK374
4 磁器 染付 半筒碗	口径: 7.2 底径: 3.7 器高: 5.5	内 口縁部: 二重圏線 底部: 一重圏線 五弁花文 外 丸菊文 高台・底部: 圏線	内外 灰白色	磁器D群 良	ほぼ完存	OYAW3 SD374
5 磁器 皿	口径: 12.2 底径: 7.0 器高: 3.0	内 松竹梅文か 見込み: 文様不詳 外 蔓草文か 二重圏線 底部: ナデ残る	内外 灰白色	磁器C群 良	1/2	OYAW3 SD374
6 磁器 皿	口径: [10.2] 底径: 5.3 器高: 2.5	内 半菊文か 二重圏線 五弁花文 外 蔓草文か 一重圏線 高台二重圏線 底部: 「寿」か	内外 灰白色	磁器C群 良	1/2	OYAW3 SD374
7 陶器 瓶類か	口径: — 底径: — 器高: (1.9)	口縁部片 内外面に灰軸を施す 外面下部 破砕面付近に素地の盛り上がりが見られるが文様か 貫入がみられ、外面の軸は斑状	内外 浅黄色	陶器B群 良	小片	OYAW3 SK247
8 陶器 皿類	口径: — 底径: 15.0 器高: (4.2)	内外面 灰軸 内面 円形のかき分けを間隔をもって配する 外 底→体下位: 無軸 部分的: 軸が厚く垂れる	内 浅黄色 外 灰黄色	磁器D群 良	底部片	OYAW3 SK413
9 磁器 碗	口径: 9.8 底径: 3.4 器高: 5.3	外面 草花文 高台二重圏線 底部 文様判別不明	内外 明オリーブ灰色	磁器C群 良	1/2	OYAW3 SK-489
10 陶器 天目碗	口径: — 底径: — 器高: (1.9)	ロクロ成形 内外面 褐色軸、黒褐色軸が斑にかかる	内外 暗赤褐色	陶器C群 良	小片	OYAW3 S-209
11 陶器 皿類	口径: — 底径: — 器高: (3.5)	内→外 口縁部に白濁軸を施す	内外 暗赤褐色	陶器B群 良	小片	OYAW3 S-213
12 陶器 小型壺	口径: — 底径: — 器高: (2.2)	内面 ベンガラ付着 外面 条線横巡 自然軸 常滑産か	内 にぶい赤褐色 外 灰褐色	陶器B群 良	小片	OYAW3 SD14
13 陶器 瓶類	口径: — 底径: — 器高: (5.0)	内 ヘラナデ 外 灰軸 (緑色) を施す 曲線的な陰刻は草花文か	内外 にぶい黄褐色	陶器B群 良	小片	OYAW3 SK-19
14 磁器 筒碗	口径: 7.0 底径: 3.4 器高: 5.0	内 口縁部: 二重圏線 底部: 一重圏線 五弁花文か 外 丸菊文か	内外 灰白色	磁器D群 良	1/2	OYAW3 SD14 南から3
15 磁器 中丸碗	口径: 8.5 底径: 3.8 器高: 5.3	内 一重圏線 五弁花文か 外 竹・笹・菊文様 産地不明	内外 灰白色	磁器D群 良	ほぼ完存	OYAW3 D区一括 SD-14 南から2

第3章 確認された遺構と遺物

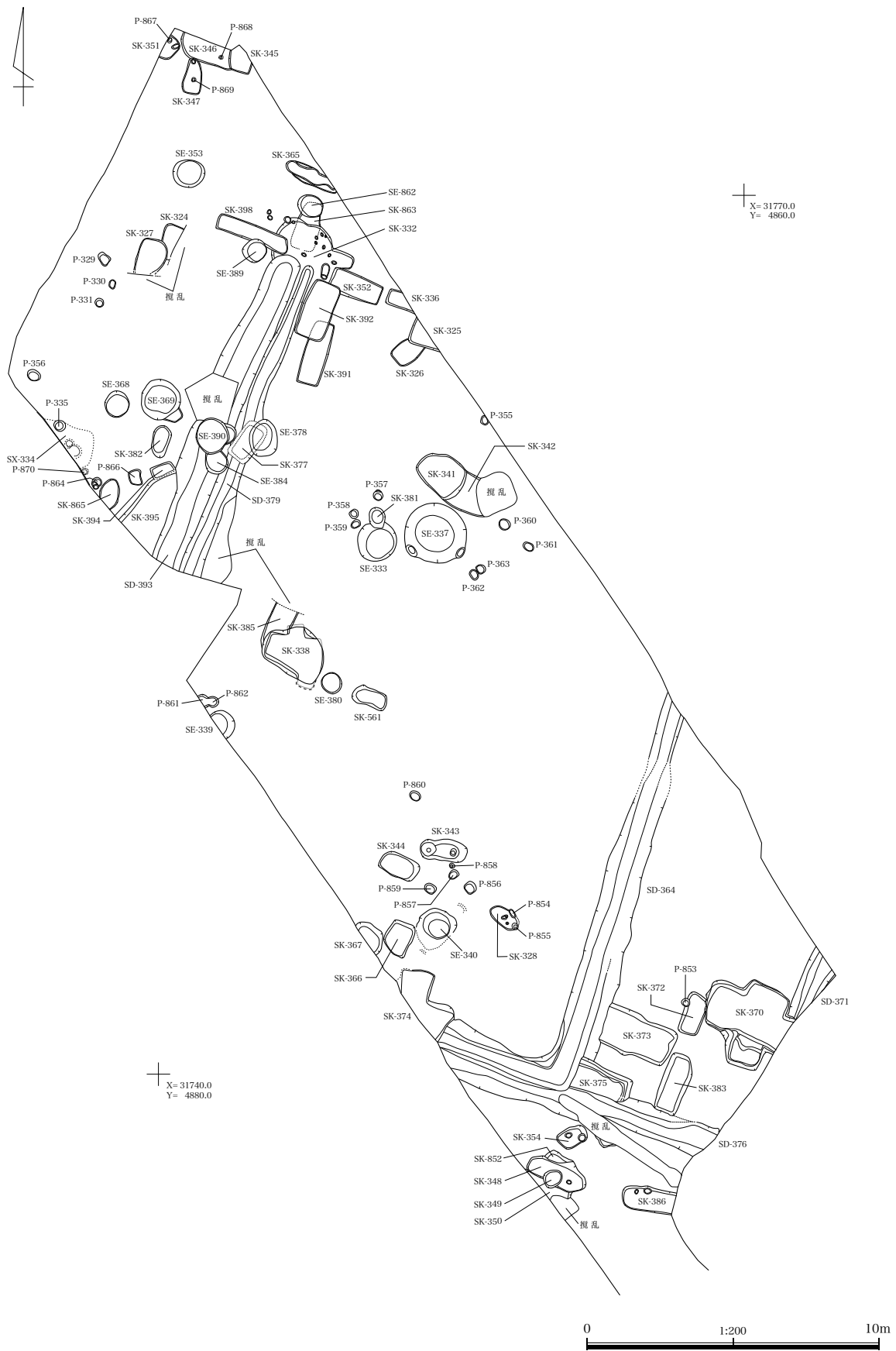
(単位：cm, g)

番号 器種	寸法	特徴	色調	胎土 焼成	残存 状況	備考
16 陶器 天目碗か	口径：— 底径：— 器高：(2.3)	体下位の稜線明瞭 付け高台	内 極暗褐色 外 灰黄色	陶器C群 良	底部	OYAW3 SD-364
17 陶器 皿類	口径：[12.3] 底径：6.0 器高：2.7	内 灰釉 立ち上がり部に釉が垂れる 中央部：麦穂状の鉄絵 外 口縁へ体部・中位：灰釉 底部接合時、工具が体部に食い込むか 底部 回転ヘラナデ	内 にぶい黄色 外 暗灰黄色	陶器D群 良	1/2	OYAW3 SD364 SK374 No. 2
18 磁器 半筒碗	口径：7.8 底径：3.7 器高：5.1	内 二重圏線 見込み：五弁花文を意識か 外 無文	内外 灰白色	磁器D群 良	一部欠損	OYAW3 SD364
19 青磁 碗類	口径：— 底径：— 器高：(1.6)	龍泉窯系か 鎔蓮弁文か	内外 オリーブ灰色	磁器C群 良	小片	OYAW3
20 陶器 不明	口径：— 底径：— 器高：(3.0)	志野様式	内外 灰白色	陶器B群 良	小片	OYAW3
21 陶器 天目碗	口径：— 底径：— 器高：(3.1)	口縁部下に張りのある形状か	内外 浅黄色	陶器C群 良	小片	OYAW3 D区表採 SD14内カクシ 南から3
22 陶器 鉢類	口径：— 底径：15.2 器高：7.7	内 灰釉 円形状のかき分けを数ヶ所に配する 外 灰釉 底部無釉 蛇の目高台 中央に墨書あり	内外 浅黄色	陶器D群 良	底部片	OYAW3 D区表採 SD14内カクシ 南から3
23 陶器 丸碗	口径：9.4 底径：4.2 器高：5.9	内面へ外面 口縁部：灰釉 外面 体部：鉄釉を縞状に配する	内 灰黄色 外 灰白色	陶器D群 良	一部欠損	OYAW3 D区一括
24 陶器 鉢類	口径：— 底径：12.0 器高：7.5	内外面 灰釉 内面 円形状のかき分けを配する	内外 浅黄色	陶器D群 良	底部片	OYAW3 D区一括
25 磁器 半筒碗	口径：7.8 底径：3.8 器高：6.1	内 口縁部に斜格子文を帯状に描く SD-374不掲載と似る SD-374は斜格子文の間に花菱文状の文様を描くが、対角線上に 4本の短い線を描く 見込みにダミで五弁花文 外 無文	内 灰白色 外 オリーブ灰色	磁器C群 良	一部欠損	OYAW3
26 磁器 印判手 輪花碗	口径：15.0 底径：(9.0) 器高：(4.3)	微唐草文 内面 見込み：鋸歯文内に松竹梅文 外面 唐草文を帯状に配する 高台に圏線	内外 灰白色	磁器B群 良	2/3	OYAW3 D区表採

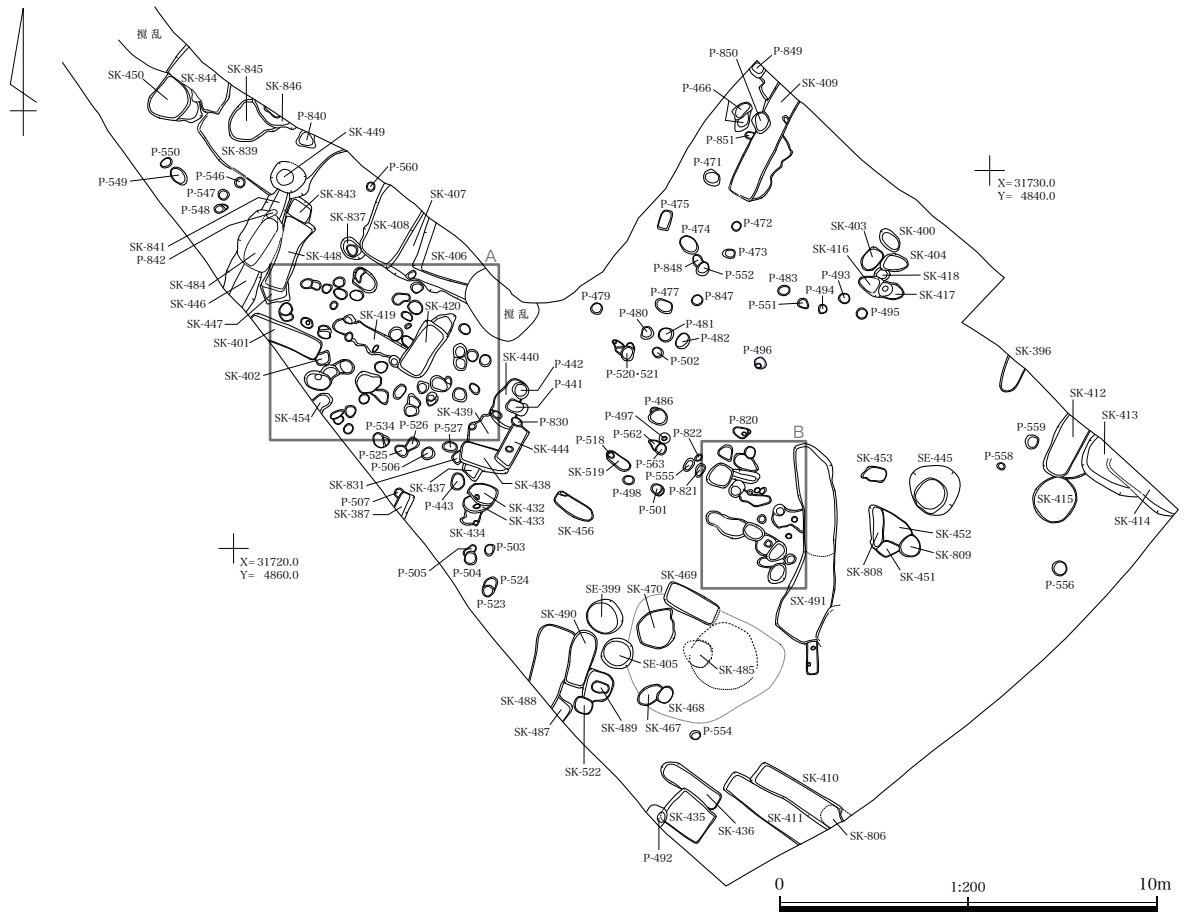


第122図 3次調査 A区 遺構配置図

第3章 確認された遺構と遺物



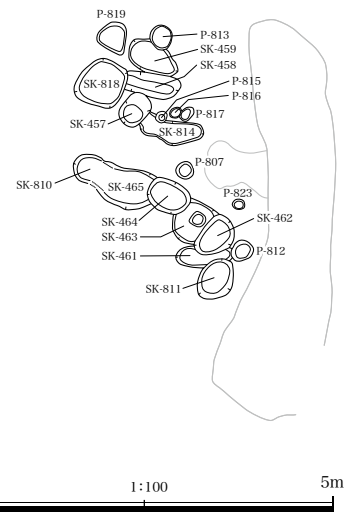
第123図 3次調査 B区 遺構配置図



拡大図 A

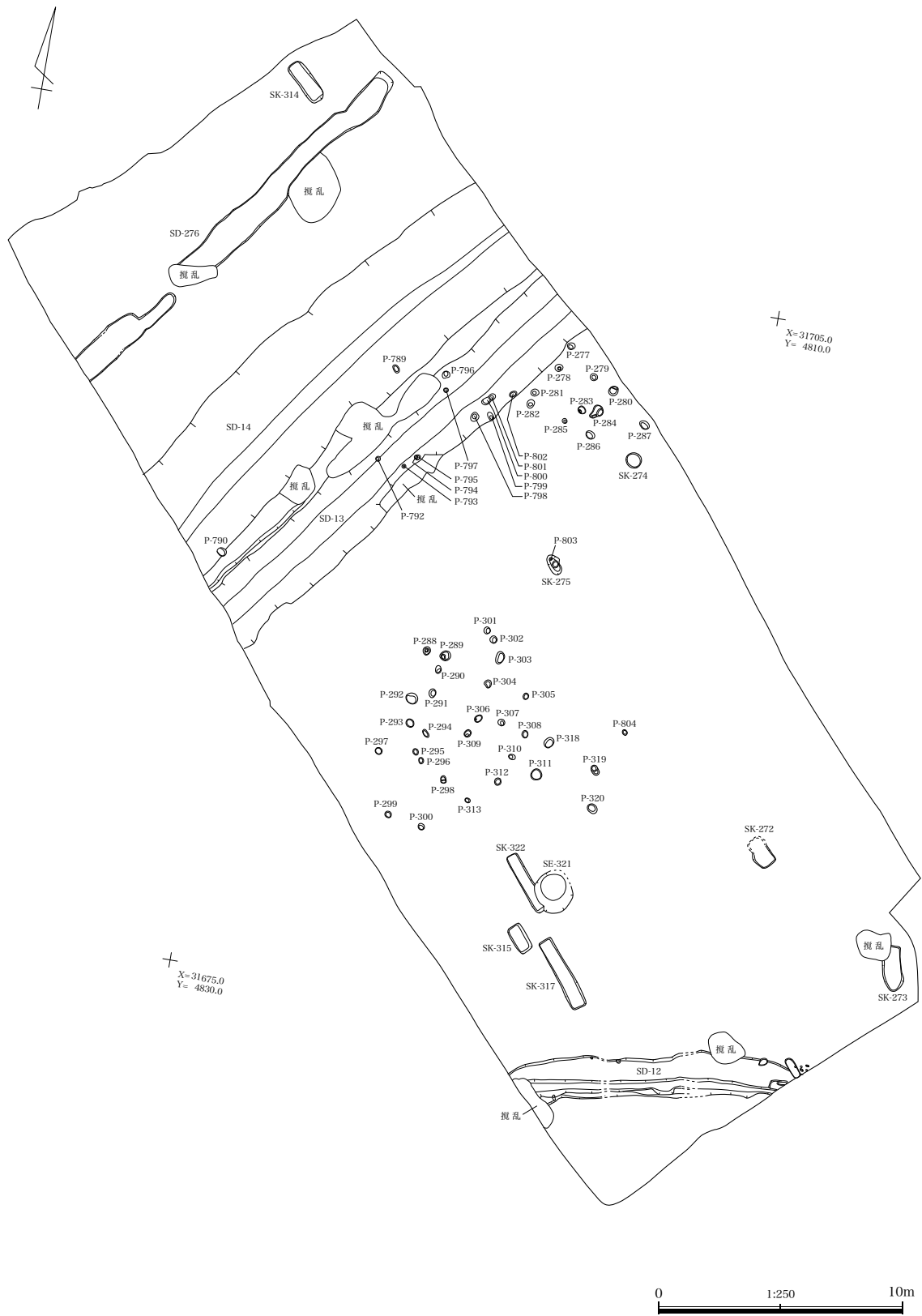


拡大図 B



第124図 3次調査 C区遺構配置図

第3章 確認された遺構と遺物



第125図 3次調査 D区 遺構配置図

第4章 まとめ

第1節 調査の概要

遺構は、2次調査においては地下式坑10基・方形竪穴遺構5基・土坑185基・井戸跡14基・溝状遺構7条・柵列1列・ピット154基、3次調査においては地下式坑4基・土坑186基・井戸跡29基・溝状遺構12条・ピット238基・性格不明遺構2基が確認される。

遺物は2次・3次調査を併せ、遺物収納箱約50箱が出土する。遺構数に準じ、量的には3次調査の遺物量が多い。遺物は縄文時代前期から現代の工業化製品まで出土する。縄文時代から工業化製品までの年代幅の大きい遺物が出土する遺構が多く、同様の傾向が下層から出土する遺物についても認められる。

以下、整理作業に伴い、遺構・遺物について留意された点を記載し、まとめとする。

第2節 遺構

1. 地下式坑

主室に突出部が付随する、所謂、地下式坑は、2次調査で10基、3次調査で4基を報告する。中には、SK-142などのように、重複や調査区外に遺構があることから全容を確認し得なかった遺構や、SK-214のようにテラス状の部分が竪坑とは判断しづらい遺構を含む。また、SK-1・10・17・106・114基は、竪坑とみられる突出部が平面形状では観察されるものの底面の境が不明瞭であったり、平面形状の竪坑の観察が不明瞭であったり、定型的な地下式坑の形状が観察されない点留意される。しかし、土坑の密集する外縁部に位置する点、通例的な地下式坑の特徴を備える。

SK-12・25は竪坑の壁面にオーバーハングが観察される。SK-110・115は、長方形の短辺にポケット状の小土坑を穿つ。地下式坑とした遺構の中で、竪坑の壁面に抉り込みの確認されるものは、この類の掘り込みの可能性が考えられようか。オーバーハングという形状からは、出入り口部の想定は難しいと判断される。SK-106の二瘤状の突出部を含め、本調査においては貯蔵用の小土坑である可能性、遺構自体が貯蔵穴である可能性を指摘しておきたい。

2. 土坑

2次調査では185基、3次調査では186基を報告する。調査区を総じて、形状・大きさ・主軸などが似る土坑の重複・近接が目立つ。形状は方形のものが多い。幅は総じて1.0m前後であるが、長さは1.5m前後を中心に長・短がみられる。主軸は、北東-南西方向（概ね南北軸）、及び、これに直交する北西-南東方向（概ね東西軸）の土坑が主体となる。共通の意識をもって、連綿と掘り込まれたものと考えられる。これとは反対に、SK-31・216・217など、土坑の形状・規模はほぼ同様でありながら、主軸を異にする土坑も散見される。同様の性格を持つ土坑の時期差の可能性も考えられよう。位置関係については、①同様の形状・規模・主軸を持つ土坑の近接、②土坑の重複、③小土坑の重複、④掘り直し状に分割される覆土の堆積状況、など、遺構間の距離の有無に差異はあるものの、群在する傾向が看取される。①については、I区-SK-5周辺、I区SK-3周辺、II区SK-22・23・28(158)・601・602などにみられる。II区SK-22・23・601・602は、約3.0mの距離をもって南北に位置する。ただし、SK-158はやや深いこと、SK-23・158は底面のピットが穿たれることなど、異なる点については留意される。②については、I区SK-8・126～128、SK-5・6・125、SK-41・635～639、III-3区-SK-94・711～714・716～733などに、

第4章 まとめ

主軸や形状の似るものの群在が認められる。Ⅱ区 SK-111・154～159 は底面レベル 29.8 m前後の土坑が重複する。同一遺構を含む可能性は残る。③についてはⅠ区 -SK- 3・123、SK- 4・124、SK-104 などにみられる。何れも、小土坑が深く、新しい。④については、Ⅰ区 -SK-104 等に見られる。SK-104 は西壁沿いに位置する小ピットを含め、掘り直された可能性を考え得る。③・④の特徴を持つSK-104 については、a：13層で埋め戻して平坦な底面を作出する可能性、b：B部短軸が南西から北西に狭まる形状からA～C部の3部分ではなく4部分に大別される可能性も考えられる。aの場合、A～C部分は時間をおかずに使用されるか。bの場合、堆積が分割される事由は不明であるが 平面形が狭まる形状の他遺構の成立要因も同様である可能性が示唆される。

SK-104 には、西壁際や出入口部想定可能箇所にピットが確認される。前述のとおり、遺構覆土は重複状に分割して観察され、ピットもこれに伴う可能性が示唆される。南東辺にはピットの確認はないが、壁際の底面に凹凸が確認され、壁際に柱穴を持つ竪穴建物の想定も可能と判断される。

SK-37 については底面中央部付近にピットが確認される。ピットが屋根を支える柱穴である可能性から、方形竪穴遺構の可能性も残る。また、遺構覆土の1層をきってピット覆土の2・3層が堆積することや、銭貨『洪武通宝』が出土することからは、墓標等の可能性が考慮される点、指摘しておきたい。円形状の土坑であるSK-107 については、覆土・底面・壁面・遺構周囲に焼土・炭化物が認められる。しかし、ローム等への火熱の痕跡は薄く、遺構内外における燃焼の可能性は低いとみられる。遺構底面に半部にススの付着した小礫が出土することから、火葬墓およびその標石である可能性が考慮される点、併せて指摘しておきたい。

SK-485 は安全のため掘削を中止したため底面は確認し得なかったが、袋状の空間を有する。貯蔵穴の可能性を考慮したが、覆土は水気を運び、井戸の可能性も残る。湧水レベルが低いエリアとみられ、近接するSE-399・405 は安全面を考慮し湧水の前に掘削を中止している。用途は判然としないが、調査区内に確認される地下式坑、土坑、井戸跡とは形状を異にする点留意される。

3. 井戸跡

2次調査では14基、3次調査では29基が確認される。

2次・3次調査で確認された井戸跡のうち、底面まで掘削し得たSE-100 以外は、湧水、及び、作業の安全のため、掘削を中止した。

2次調査における、湧水のため掘削を中止した井戸跡の湧水レベルは、Ⅱ区 SE-26：29.25 m・SE-27：29.25 m・SE-30:29.25 m・SE-118：29.84 m・SE-604：29.4 m、Ⅲ-2区 SE-93：29.3 mである。概ね29.3 m前後が湧水レベルとみられる。29.3 m前後で湧水の観察されなかった井戸跡は水脈の流路等、何らかの理由で湧水しない、或いは湧水しづらい環境にあり、早い段階で他地点への掘り直し等がなされた可能性を考え得る。3次調査における、湧水のため掘削を中止した井戸跡の湧水レベルは、B区 SE-333：29.81 m、SE-337:29.51 m、SE-353:29.7 m、SE-368:29.65 m、SE-369:29.45 m、SE-378:29.5 m SE-380:29.9 m、SE-389:29.48 m、D区 SE-321:30.15 mである。概ね、29.5～30.0 m前後の湧水レベルが看取される。0.3 m程度の近距離に隣合うSE-333・337、0.4 m程度の近距離に隣り合うSE-368・369の湧水レベルが異なる点留意される。

遺物の出土は総じて多くはない。また、SE-209・269・332・405・495からは縄文土器・須恵器・土師器から近世後半の陶磁器まで、SE-269・332・339・340・368・386からは近代以降とみられる施釉陶器・磁器を含む。出土遺物の時期幅は大きい、近世後半から近代以降の井戸跡の可能性が高いか。

B区の井戸跡の配置については、M-14～N-15にかけてN-70°-Wの軸線上に、東からSE-337・333・378・390・369・368が並ぶ。SE-390を除き、湧水のため掘削を中止している。湧水レベルはSE-333の29.81m～SE-369の29.45mであり、概ね29.5m前後であり、水脈の深さと判断される。各井戸跡の時期的な推移は明確ではない。1基の使用期間が長かった場合、総じて長期間にわたり水場として利用されたことを示し、水量が豊富であるか、或いは水質が高いことが推測される。反対に、1基の使用期間が短かった場合、水量が乏しいか、或いは水質が悪く、短期間で水場が放棄された結果と推測される。

4. 溝状遺構

2次調査では8条、3次調査では13条が確認される。SD-19は2次調査Ⅱ区から3次調査A区にかけて確認される。位置・形状・主軸が似るため、現地調査時より同一の遺構番号を付した。但し、底面の傾斜は、2次調査区SD-19では南側から北側への傾斜がみられるが、3次調査区SD-19の底面レベルからは傾斜は読み取れない。また、覆土の堆積状況も類似性は薄い。

遺構の主軸は、北東-南西方向に延びる溝状遺構と東西に延びる溝状遺構とに大別される。2方向の主軸は、SD-19・21の重複関係から明らかなように、概ね直交する。

底面の傾斜は、2次調査では、明確な傾斜が観察されるのはSD-19（南→北）のみである。SD-64・89・269のように、傾斜は確認されるものの僅かな高低差であるもの、溝長が短いもの、SD-21・260のように傾斜が観察されないものが主体をなす。SD-19については、3次調査において明確な傾斜は認められず、判然としない状況にある。3次調査においては、SD-12・13・14・364北から南方向への傾斜が確認される以外、判然としない。SD-12・13・14については1次調査において、同様の傾斜が確認される。

各遺構は概ね北西-南東方向に延びるが、D区SD-12は北東-南西方向、或いは円形状ともみえる。時期や性格を異にするものと判断される。

5. ピット

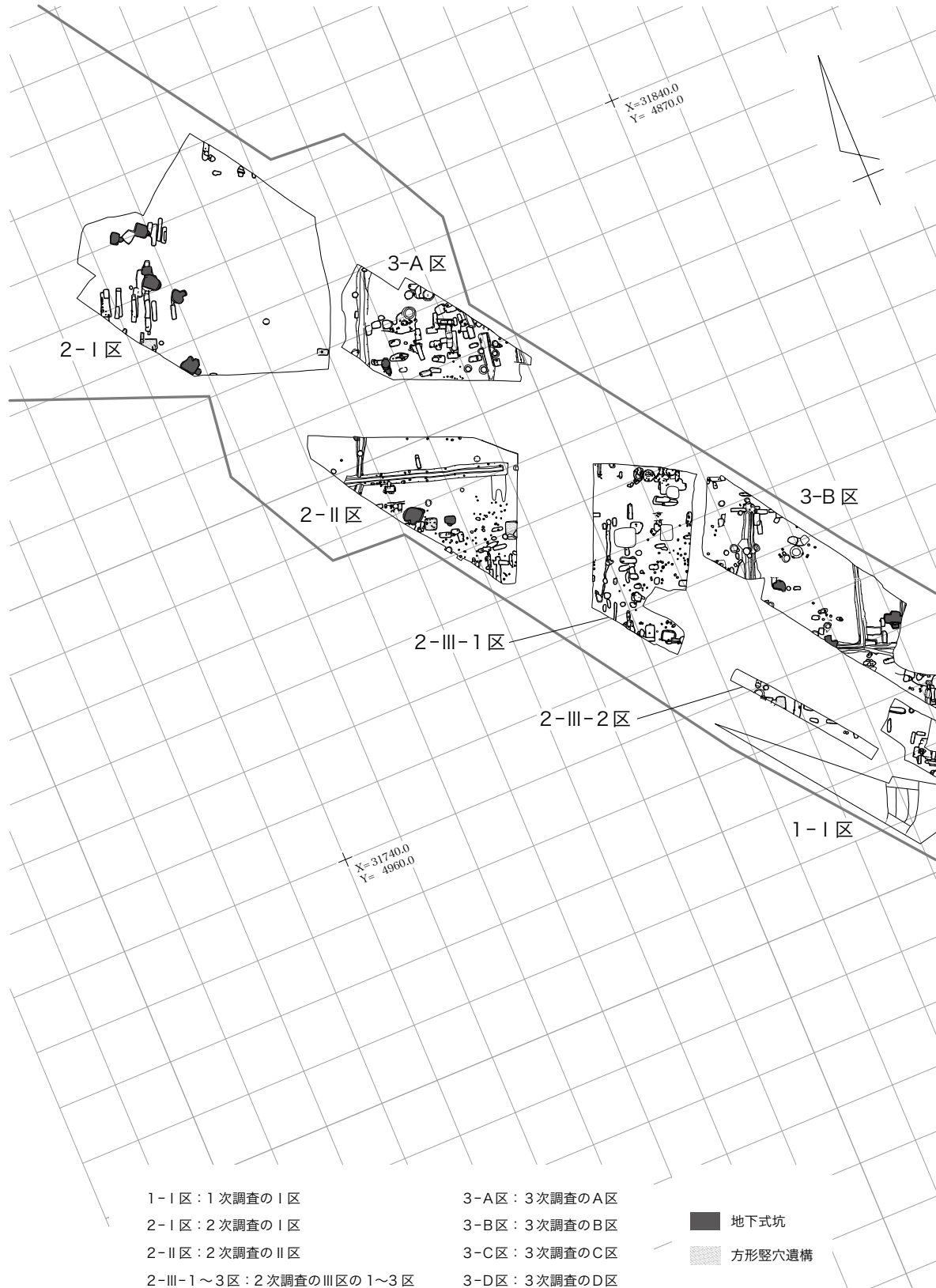
2次調査では154基、3次調査では238基が確認される。また、直線的に位置するSA-120が確認される。詳細は調査概要に記載するが、SA-120など直線的な位置関係が考慮されるピットの配置は北東-南西方向、或いはこれに直交する北西-南東方向に主軸を持つ遺構が多い。

6. 遺構配置

土坑・溝状遺構・柵列など主軸のとれる遺構については、同様或いは直交する遺構配置にある傾向が看取される。また、2次・3次調査各区の遺構の分布をみると、遺構が集中する傾向にあることが見て取れる。2次調査Ⅰ区は調査区西半部に主軸を同じにする長方形土坑が集中する。Ⅱ区はSD-21南側に主軸の直交する方形状土坑が集中する。Ⅲ-1区は調査区北壁付近及び南半部に集中する傾向がみられる。Ⅲ-2区は調査区内に散在する。Ⅲ-3区は調査区中央部に主軸の直交する長方形の土坑が群在する。3次調査A区はSD-19・202間に主軸の直交する方形状土坑と井戸跡の重複がみられる。井戸跡はSD-202に重複するものが多い。B区はSD-364・376-SD-378・393を東西に配し、溝状遺構周辺に方形状土坑・井戸跡が近接する。C区はK-11グリッドに直交する方形状土坑とピットが重複する。D区はSD-13・14-SD-12間に土坑・ピットが散在するが遺構の密度は薄い。

巨視的な遺構の配置をみると、調査区西端部のⅠ区の長方形土坑集中区からⅠ区東部の遺構空地を挟み、

第4章 まとめ



1-1区：1次調査のI区

2-1区：2次調査のI区

2-2区：2次調査のII区

2-III-1～3区：2次調査のIII区の1～3区

3-A区：3次調査のA区

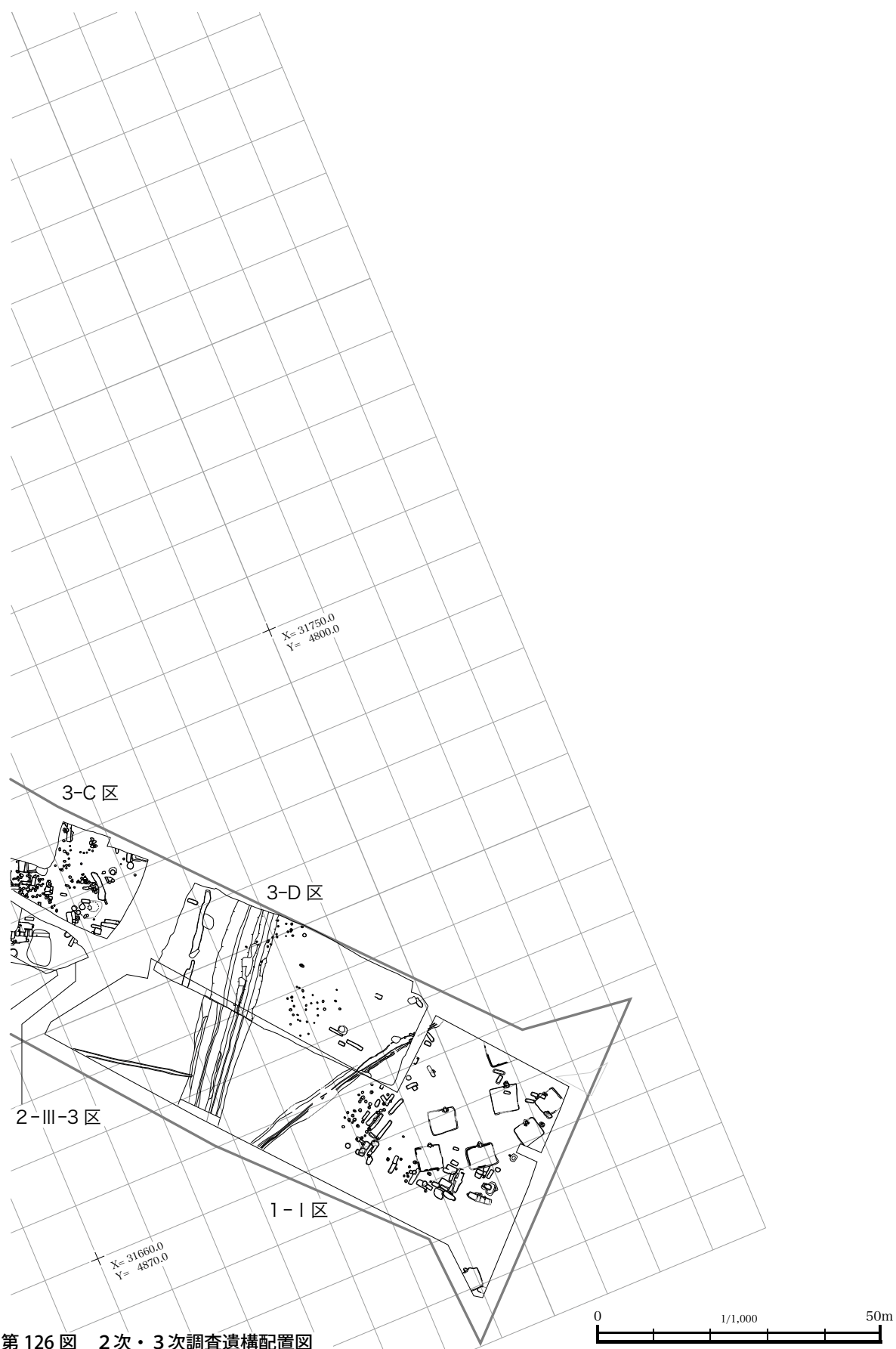
3-B区：3次調査のB区

3-C区：3次調査のC区

3-D区：3次調査のD区

■ 地下式坑

▨ 方形竪穴遺構



第126図 2次・3次調査遺構配置図

第4章 まとめ

3次調査A区SD-19・202、2次調査Ⅱ区SD-21間に東・西・南を区画されたA区土坑集中区と、SD-21(-Ⅲ-1区SD-72)に北(・東)を区画された2次調査Ⅱ区遺構集中区とに至る。東側には、A区SD-202-SD-201(-Ⅲ-1区SD-72)間を挟み、2次調査Ⅲ-1区の遺構集中区が位置するが、A区SD-201(-Ⅲ-1区SD-72)-B区SD-393・379間の配置と推察される。B区SD-393・379-SD-364の土坑の希薄なエリアを挟み、B区SD-364-SD-371-SD-375に東・西・南を区画された土坑配置と、その南側のSD-375に北側を区画されるC区遺構集中区・Ⅲ-3区中央土坑群(K-11グリッド)との連続した遺構配置となる。Ⅲ-2区はK-11グリッドの遺構配置に類するものか。SD-375のB区以東の位置は不明であるが、K-11グリッド遺構集中区の東側はD区SD-276 或いはSD-14・13に区画されるか。

巨視的な遺構配置からは、溝状遺構によって構成される複数の区画が認められる。A区SD-202-201間やB区SD-364-371間など遺構の希薄なエリアもみられるため、必ずしも、遺構が溝状遺構に区画されるとは限らない。しかし、エリアを区画する溝状遺構の付け替え等の位置の移動によって、例えば、小区画状にみえるA区SD-202-201間が本来A区土坑群の一角である等の可能性も考え得る。いずれにせよ、遺構の重複や出土遺物による時期的な変遷は不明確であり判然としない。

溝状遺構による区画が特に明確であるのは、SD-19・202・21を東・西・南に配するA区土坑群である。北側を区画する溝状遺構の有無は現状では不明である。土坑の群在する様相からはⅢ-3区中央土坑群を含むK-11グリッドの遺構集中区も溝状遺構区画内の配置となるか。

各遺構の配置をみると、地下式坑・方形竪穴遺構は群在・集中する遺構の外縁部、井戸跡は溝状遺構に重複、ピットは土坑群に併存する事例が多い。溝状遺構に区画された長方形土坑群とその外縁部に位置する地下式坑・井戸跡という配置は、中世墓域に類例をひくことができよう。墓域である明確な遺物や分析等はないが、A区土坑群に重複するSE-243からは「康暦元年(北朝 後円融天皇 1379年)」と読める紀年銘を線刻する板碑が出土する。その他、SD-14からは線刻のある板碑片や、複数の遺構から板碑片とみられる緑泥片岩片が出土する。墓域に造立されたものが、後年、混入した可能性が示唆される。井戸跡が溝状遺構に重複する事例が多いことから、土坑群・溝状遺構と時期差を持つ井戸跡の存在がうかがわれよう。調査時においても湧水が確認される井戸跡が多いことや、近世後半～近代の陶磁器の出土量が多いこと、粟宮宮内遺跡の西端部にあたる位置であることから(第6図)、近世村落を形成する井戸跡を含む可能性を考えておきたい。ピットについては、中世の墓域と推察される土坑群・溝状遺構に併存し、SA-120の主軸が土坑群・溝状遺構に沿うことから、関連性が考慮されよう。

第3節 出土遺物

1. 出土遺物の概要

各区を通じて、縄文時代から現代の工業化製品までが出土する。縄文時代の遺物は、黒浜式(SK-105・106・4・48など)・阿玉台式(SK-105・374)・称名寺式(SK-374)とみられる縄文土器小片や剥片石器(SK-1・SK-46・SD-13など)、磨石(SD-19・SK-485・SD-14など)、石皿片(SD-21・SK-485など)等が出土する。弥生時代は可能性のある土器片(SD-364)が出土するが判然としない。古墳時代はヘルメット形とみられる土師器坏片(SD-13・SD-14不掲載)や高坏接合部片(SD-21)、埴輪片(SK-104)等が出土する。古代以降は須恵器片の出土が多い。古墳時代に遡る可能性もあるが、蓋(SD-14)、小型壺(SD-14)、高台付き坏(SD-14)、甕(SD-14など)などがみられる。何れも小片であり詳細は不明である。中世は土師質土器小皿(SK-105など)、内耳土器(SK-41など)、古瀬戸中期(14世紀前半か SK-214・SD-21など)とみられる瓶類(3次調査

SD-19) や龍泉窯系とみられる青磁片(遺構外)などが出土する。土師質土器小皿(非ロクロ成形)や常滑産甕(SK-44 出土 常滑8型式か)、板碑(SE-243 出土「康暦元年(北朝1379年)」銘)など14世紀以降の年代が確認される。近世後半から近代初頭の内耳土器、陶磁器は最も出土量が多い。SK-31 などのようにスレート片のみが出土する遺構もある。

以下、報告書作成の過程で留意された点について記載しまとめとする。

2. 遺物の出土状況

遺物の出土状況を見ると、同一遺構からの時代幅の大きい遺物の出土が目立つ。SK-105 のような阿玉台式土器小片から非ロクロ成形の土師質土器小皿までの出土や、SE-332 のような須恵器高台付き坏・甕小片、土師質土器小皿5個体以上(うち1個体は灯明皿)、常滑産大甕片19片、羽口片1片、台石とみられる礫等の出土は、埋没の過程での混入とみられよう。SK-42-4(内耳土器深鍋)はSK-42 下層出土をSK-613 上層出土が接合する。また、完形となるものではなく、複数個体が破片で出土する。器種も、須恵器・土師質土器・内耳土器・鉄製品・陶磁器等、多岐に亘る。SD-21 は覆土中から土師器高坏(6世紀代か)・坏・羽口・古瀬戸・ロクロ成形土師質土器小皿(15世紀代か)・内耳土器(16世紀後半)・陶器甕(17世紀前後か)・近現代の磁器が出土が出土する。取り上げ番号を付した遺物は6世紀代～17世紀代と判断されるが、最下部からの出土は5層中の16世紀前後とみられる内耳土器である。近・現代磁器の出土層位が判然としないが、遺構配置から中世墓域の区画溝である可能性が示唆される点からも不詳な点が多い。時代幅の大きい遺物の出土については、現地調査の所見を鑑み、遺構に伴出するものではなく、何らかの事由により混入したものと判断されるに留まる状況にある。ただし、D区攪乱(SD-14 内・SK-272 付近)からの出土遺物は、近世後半以降の陶磁器を主体とするが、須恵器、工業化製品の出土も確認され、溝状遺構等の遺構出土遺物の構成と似る点留意される。いずれにしても、各遺構の遺物出土状況については、遺物により遺構の時期を明確に判断し得ない。

3. 出土遺物

年代の明確な遺物は紀年銘のある板碑、銭貨である。遺物の編年から時期が推定されるのは、土師質土器小皿、内耳土器などである。調査区内を通じて出土割合が高い遺物は近世の陶磁器である。近世前半とみられるSE-213 出土志野焼の皿や近世中期とみられる3次調査遺構外出土美濃焼の徳利なども出土するが、近世後半の陶磁器主体をなす。

各遺構から出土する個々の遺物の中で留意された点をは以下のとおりである。

〈板碑〉

板碑はSE-243 から出土する。天蓋、種子(阿弥陀三尊)、蓮座の線刻下に「康暦元年(北朝1379年)」とみえる紀年銘、線刻が薄れ判然としないが、「○月」・「佛」の線刻から供養者名、願文等が明示されていたものとみられる。SD-19 から出土する種子を線刻する板碑片と比べ、手が込んだ作りとみられることから、身分的に上層階級の造立が推察される。小支谷を挟んで隣接する千駄塚浅間遺跡内には小山氏に関連する氏族の居館とみられる仮称「十二所館」が位置する。地域性や時代性を鑑み、小山氏との関連を念頭におくべきか。また、奥大道推定ルート(第6図)から、街道を視野にした板碑の造立も考え得る。本節では、溝状遺構に区画された墓域に造立されたものが、年代を経て、「井戸鎮め」或いは湧水を祈念する習俗的祭祀に関わるなどして井戸跡に混入したものと判断しておきたい。

第4章 まとめ

〈錢貨〉

錢貨は13枚が出土する。渡来錢7枚・詳細不明の3枚を含む。年代の判別が可能であるのは、2次調査遺構外出土「開元通宝」（唐代621年から約300年間）、SD-19出土「元豊通宝」（北宋1078年～か）、SK-24出土「至道元宝」（北宋960-1127年）、3次調査SD-19出土「祥符通宝」（北宋1009年～）、2次調査遺構外出土「至大通宝」（元1310年頃）、SK-37出土「洪武通宝」（明1368年～）、SD-202出土「永樂通宝」（明1411年～）、3次調査遺構外から「寛永通宝」2枚・「文久永宝」、2次調査遺構外出土ニッケル硬貨「一錢」である。中世に流通したと考えられる渡来錢については、遺構配置から墓域に埋納された冥錢など埋葬儀礼に関わる可能性が考えられよう。

「至道元宝」の出土するSK-24、「洪武通宝」の出土するSK-37は方形竪穴遺構、方形竪穴遺構の可能性を残す土坑である。時期は判然としないが、方形竪穴遺構であるSK-105から非ロクロ成形の土師質土器小皿が出土することから、SE-243出土板碑（「康暦元年」1379年）銘の板碑と同時代（13～14世紀代）の遺構である可能性が残る。方形竪穴遺構の性格を断定することは難しいが、遺構の配置をみると、地下式坑と近接して方形状土坑群の外縁部に確認されることから墓域に関わる遺構とみられる。地下式坑との時期差は明確ではないが、形状による用途の分化はあろう。遺構の確認状況からは、堅固な施設は想定し辛く、簡易な上屋を設えた半地下式の施設である可能性が高い。前述のとおり、地下式坑については貯蔵穴の可能性を指摘した。方形状土坑を墓域とすれば、この他に埋葬地にあるべきは供養をなす施設であろうか。

SK-24・37の出土遺物をみると、何れも砥石が伴出する。2次・3次調査においては、砥石の出土割合が高いが、錢貨とともに、埋葬儀礼に関わる遺物と考えられようか。

「寛永通宝」・「文久永宝」については、近世村落に関わる日常生活的な遺物の可能性が高いか。

〈土師質土器小皿〉

土師質土器は非ロクロ成形（SK-105）、ロクロ成形の土師質土器が出土する。小片が多いことや、遺物出土状況が不確かな遺構が多いことなどから、詳細の判然としない点が多いが、遺構配置等から中世墓域に関わる遺物と捉えるべきか。

〈内耳土器〉

内耳土器も破片が多く不詳な点が多いが、器高の高・低・中間の形状の出土が認められる。器高の高い形状はSK-41・42・240にみられる。口縁部下に屈曲がみられることから、16世紀代前後の所産か。器高の高・低中間の形状はSD-21にみられる。器高の低い形状はSK-374・SK-485・SD-376に残存状況の良好な資料が出土する。既出のように、遺物の出土状況から遺構を推察することは難しいが、中世末～近世にかけての遺物とみられるか。

内耳土器の中には、補修孔とみられる小孔や、小孔を紐状のものでつないだとみえる痕跡が観察される。また、スズ状の付着物が顕著な例が多いことから、用途は日用雑記と判断される。土器の色調は赤褐色と灰色とに、胎土は雲母粒子を含むものと含まないものに大別される。色調の灰色の内耳土器については胎土に雲母粒子は含まない。

〈組揃え陶磁器〉

調査区内からは、形状・施釉の似た陶器、文様の似た磁器の出土がみられる。

SD-364からは第71図-37の陶器坏と形状・釉調の似た不掲載11片（3個体以上分）、38と釉調・形状の似た不掲載4片（3個体分）が出土する。

SK-374（重複するSD-364の遺物が主体か）から出土する磁器80片ほどの中に7種の同柄が認められる。

第118図-2と同柄の中丸碗（近世末葉～近代初頭か）は2を含め6個分以上、竹・笹・筍・人物文を描く
中丸碗（近世後葉）は2個体分、網目文様を描く中丸碗（近世後半以降）は4個体分、網目文様を描く半
筒碗（近世後半以降）は3個体分、草花文を描く半筒碗（近世後半以降）は4個体分、草花文（立花）を描
く半筒碗（近世後半以降）は2個体分が出土する。

同一遺構内に留まらず、他所から同柄の陶磁器の出土も確認される。

SK-374の第118図-2と同柄の中丸碗は遺構内の6個体分の他、SK-489からも出土する。同じく
SK-374から出土する外面無文・内面四方襷状の文様の半筒碗（近世後半）は、3次調査内出土第121図
-25を含め2個体分、菊花文を描く皿は、2次調査遺構外出土を含め2個体分が出土する。内面に数個の円
形を掛け合わせる陶器灰釉の皿は、SK-413、3次調査SD-13、3次調査遺構外出土（2片）に出土する。

何れも、組揃えの廉価品の類とみられる。調査区内出土の同柄が一組であったかは判然としないが、遺跡
近辺に多くの流通があったものと判断できよう。

〈茶道具〉

近世とみられる遺物の中には茶道具の出土も確認される。

天目碗は4片が確認される。SE-77出土の天目碗は第4段階（第7～8小期 16世紀後葉～17世紀前葉）
の美濃系か。SE-209出土の口縁部小片は第5段階（第9小期 17世紀前半か）の瀬戸・美濃系か。3次調
査B区遺構外出土口縁部小片、SK-254出土体部小片、SD-364出土底部小片は近世の国内産か。

小片のため図示し得なかったが、3次調査遺構外（SD-14内攪乱）から出土する底部小片は茶入れの可能
性があるか。内面に柿釉が施されており、皿類の可能性も高いが、外面の無釉部の状況や底部から体部の
立ち上がり、作り出し、大きさは肩衝き茶入れの底部に酷似する。仮に、茶入れであるとすれば、村落内
において抹茶法による飲茶が行われていた可能性が高まる。

抹茶法による飲茶の要件としてあげられる茶筌・茶杓・建水等の調査区内における出土は確認されない。
SD-14からは節を有する竹片（不掲載）が出土するが、茶筌の想定は難しい。また、残存状況からは比較的
年新しい年代が想定され、近世のものとは判断されない。

石臼の出土はSD-14・19などに確認されるが、穀物用と判断されるものが多く、茶臼と確認できるもの
はない。茶臼が村落に具えられるようになるのは15世紀後半以降との論説や、挽き茶をなりわいとなす挽
き屋の登場など、茶臼の有無は飲茶の文化深度、ひいては村落の文化的環境を推察する手がかりとなる。

〈容器〉

SD-21-28、D区遺構外（SK-272付近攪乱）出土する小型壺（美濃産）、3次調査D区遺構外出土不掲載
の施釉陶器壺類体部（産地不明）の内面に漆の付着が観察される。漆の流通に使用されたものと考えられる。
産地に拘らず容器が選定されたものか、容器の違いによって産地・品質等の違いがあった可能性などが考え
られる。

SD-14-第119図-12は常滑産と記載するが判然としない。内部にベンガラとみられる付着物が観察される。
容器への利用は判然としない。

〈基石〉

時期は判然としないが、SD-19-7・8など可能性のある小礫が出土する。比較的形状の整った平滑な小礫
であり、表面は黒色で光沢を持つ。この他、石材・色調・形状・重さなどが似ることから、基石、或いは遊
具の可能性が考えられるものに、SK-114-3、SK-374-33、SK-41-17、SK-94-8、SK-104-2、SK-113-2、
SK-221-1、SD-19-9・10 遺構外6・7がある。遺構配置などから、近世の可能性が推測される。

第4章 まとめ

〈製鉄関連遺物〉

時期は判然としないが、羽口とみられる筒型の土製品、鉄滓が出土する。

羽口とみられる土製品はSD-21、SK-485、SK-489などから出土する。何れも、被熱が観察され、片側端部にガラス質の溶解が観察される。径6.0cm前後、長さ15.0cm以上とみられる。鉄滓は表90・91のとおりである。工房等の痕跡が明確な遺構はないが、SK-845の硬化面については、現地調査の過程から、調査区内から出土する製鉄関連遺物（羽口・鉄滓等）を鑑み、鍛冶施設の可能性が指摘される。また、SK-374やSE-445から出土する石製品については、被熱や焼成の痕跡は観察されず、こね鉢と報告したが、あるいは埴塙等の可能性はあろうか。

〈用途不明の遺物〉

用途・時期の判然としない遺物は少なくないが、SK-94・SK-105（不掲載）出土の球形礫、SK-374出土の脚状の土製品をあげておきたい。

第4節 粟宮宮内遺跡2次・3次調査

2次・3次調査区は周知の遺跡である粟宮宮内遺跡の北西部（第6図）にあたる。遺跡の中心は、現4号国道（奥州街道・日光街道）を挟んだ東側にある。

今回の調査においては、溝状遺構に区画される方形状土坑群、その外縁に位置する地下式坑・方形竪穴遺構などが確認され、中世の墓域が推定される。遺物の出土状況からは判然としないが、板碑・土師質土器小皿・古瀬戸などの各遺物の時期からは14世紀以降の時期が推定される。「康暦元年（北朝1379年）」銘の板碑は井戸跡（SE-243）から出土するが、「井戸鎮め」或いは湧水祈念の習俗的祭祀に関わる可能性が考えられ、井戸跡との時期差が想定される。16世紀前後する時期には日用品とみられる内耳土器の出土がすることから、16世紀頃には墓域の意識、或いは、供養者への意識が希薄であった可能性を考え得る。14世紀から16世紀は、調査区以北に推定ルート（第6図）を持つ「奥大道（鎌倉街道中道）」の使用年代にあたる。調査区北西のお鍋塚墓地は「奥大道」ルート沿いにあたり、層塔・板碑五輪塔などの中世の石造物が現存する。前述のとおり、遺跡の中心は現4号国道（奥州街道・日光街道）を挟んだ東側にあるが、中世墓域と推定される遺構配置からは、調査区以北の「奥大道」推定ルートとの関連を重視すべきであろう。調査区内からは、小片ではあるが龍泉窯系とみられる鎬連弁を陰刻するとみられる青磁片の出土が確認される。小支谷を挟んで隣接する千駄塚浅間遺跡内には小山氏に関連する氏族の居館とみられる仮称「十二所館」が位置する。時代性・地域性を鑑み、1次調査の成果を併せ、小山氏や「奥大道」などとの関連を精査する必要がある。

出土遺物の主体は近世以降の時期にある。同一遺構の年代幅の大きい遺物の出土状況からは、帰属する遺構は判然としない。遺物の割合は近世後半以降の遺物量が多く、組揃えの廉価品とみられる陶磁器の出土が目立つほか、天目碗などの出土も確認される。調査区東側に近接する現4号国道は、近世においては「日光街道」であり、調査区は間々田宿-小山宿間に位置する。間々田宿助郷に制定された「粟宮」は粟宮宮内遺跡を含むものと考えられ、本調査区において近世以降の遺物が出土の主体をなすことに、日光街道に起因する人・物質の流通や消費・人の往来が大きく関与すると考えられる。前述のとおり、本調査区は、粟宮宮内遺跡の北西部にあたり、遺跡の中心からはやや外れるが、近世においては、街道沿いに集落が形成されたと推測され、遺跡全域における近世の遺構配置等から、本調査区を再考する必要がある。

附章 自然科学分析

栗宮宮内遺跡発掘調査に係る岩石肉眼鑑定業務

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

栃木県小山市に所在する栗宮宮内遺跡では、中世の年代を示す地下式坑や方形竪穴などの遺構が検出されている。今回の調査では、それらの遺構から出土した石器、石製品を中心として、石材鑑定を実施し、石材の産地について検討した。以下にその結果を報告する。

1. 試料

鑑定の対象とした試料は、石鏃 2 点、石鏃未製品 1 点、剥片 6 点、打製石斧 1 点、磨石 12 点、磨石？ 2 点、石皿 6 点、石皿？ 4 点、石棒 1 点、耳環？ 1 点、石臼 4 点、石臼？ 1 点、石鉢 1 点、砥石 48 点、砥石？ 26 点、硯 6 点、碁石 9 点、碁石？ 6 点、紡錘車？ 1 点、板碑 22 点、板碑？ 3 点、石材 3 点、被熱した礫 6 点、礫 52 点、礫？ 3 点、小礫 97 点、小礫？ 2 点、器種不明 19 の計 345 点である。出土遺構を鑑定結果とともに表 1 に示した。

2. 分析方法

平成 28 年 11 月 7 日および 12 月 8 日に、当社技師一名が栃木県埋蔵文化財センターに赴き、岩石肉眼鑑定を行った。岩石肉眼鑑定は、野外用ルーペを用いて行い、資料表面の鉱物や組織を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。なお、正確な岩石名の決定には、岩石薄片作成観察や、蛍光 X 線分析、X 線回折分析などを併用するが、今回は実施していないため、鑑定された岩石名は概査的な岩石名である点に留意されたい。

3. 結果

鑑定結果を表 1 に、器種別の石質組成を表 2 に示した。

鑑定の結果、石英斑岩（奥日光）、流紋岩、安山岩（第四紀）、スコリア質安山岩（第四紀）、軽石凝灰岩、砂岩、シルト岩、チャート、鉱物の玉髓などが出土している。砥石に多用される流紋岩、板碑に使用される緑色片岩が出土点数の多い石材として認められた。また、礫および小礫では、軽石凝灰岩や砂岩、チャートが多い。試料については、写真撮影を行い、図版に代表的な岩石を示した。

4. 考察

思川流域には段丘堆積物が広く分布し、段丘堆積物を構成する礫・砂・シルトを主体とし、鬼怒川、思川水系に分布する地質を反映した礫が河床礫もしくは段丘礫として採取可能であると考えられる。以下の地質の概要は、日本の地質『関東地方』編集委員会編（1986）、須藤ほか（1991）、山元ほか（2000）の記述に基づく。

足尾山地には中・古生層の年代を示す足尾帯が分布している。足尾帯を構成する地質は、足尾層群で、堅硬な頁岩、砂岩、チャートなどの堆積岩類を主要岩相とし、石灰岩や緑色岩類を伴う。

一方、鬼怒川流域には、白亜系～古第三系、新第三系、第四紀火山などの地質が分布している。上流域では、

前期白亜紀 - 古第三紀にかけて活動した珪長質火砕岩類が分布する。これらの活動時期は、前期白亜紀、後期白亜紀末から古第三紀前半の2つに分けられる。前期白亜紀の珪長質火成岩類としては、松木型花崗閃緑岩が栃木県足尾町に分布する。後期白亜紀末から古第三紀前半の珪長質火成岩類は、中禅寺湖周辺から南東部の栃木県塩谷町周辺に分布する奥日光流紋岩類と各地に分布する花崗岩、花崗閃緑岩、花崗斑岩および花崗閃緑斑岩などの貫入岩からなる。奥日光流紋岩類は膨大な流紋岩 - デイサイト溶結火砕流堆積物からなり、流紋岩溶岩、礫岩および砂岩を伴っている。このほか、花崗岩や花崗閃緑岩からなる沢入型花崗岩が分布している。

新第三系としては、下部中新統が認められ、栃木県塩原町周辺から宇都宮市周辺に分布する。この時代の地層は、大部分は珪長質の溶岩・火砕岩からなり、少量の玄武岩 - 安山岩火砕岩と非火山性の礫岩、砂岩および泥岩を伴っている。

第四紀火山は、鬼怒川流域に数多く分布し、女峰赤嶺火山、男体火山などの日光火山群や、高原山といった、玄武岩 - 安山岩 - デイサイト溶岩・火砕岩を構成物とする火山が点在している。他方、群馬県下では、赤城火山や武尊山の活動が知られている。赤城火山は、輝石安山岩およびデイサイトからなり、武尊山は前期更新世の安山岩溶岩・火砕岩からなる。

上記の地質背景をもとにして、今回鑑定対象とした岩石および鉱物について記述する。

半深成岩類の石英斑岩（奥日光）は、被熱した礫、礫、小礫に認められる。鬼怒川上流域の奥日光流紋岩類に類似する石英斑晶が散在する岩相を示し、堅硬緻密質である。硬質な岩相のため、下流域においても礫として採取可能であり、遺跡周辺でも容易に入手できると考えられる

火山岩類の黒曜石は、剥片などに認められる。黒曜石は、高原山、神津島、和田峠などの産地が想定されるが、産地を正確に判定するには、成分分析を併用することが望まれる。流紋岩（奥日光）は、半深成岩類の石英斑岩（奥日光）と同様の産地が推定される。石英斑岩に伴って産するものとみられる。流紋岩は、砥石に多用されている（図版 1-2）。斜長石斑晶が表面に散在し、緻密な岩相を示し、鬼怒川の中新統～鮮新統の流紋岩類に由来すると考えられる。デイサイトおよび輝石デイサイトは、磨石、礫などに認められる。新第三紀～第四紀の岩相を示す。新第三紀のデイサイトおよび輝石デイサイトは、上述の流紋岩と同様の地質に由来すると考えられる。第四紀の岩相を示すものは、北関東の第四紀火山に由来すると考えられる。多孔質輝石安山岩（第四紀）、輝石安山岩（新第三紀）、輝石安山岩（第四紀）、角閃石輝石安山岩、安山岩（新第三紀）、安山岩（第四紀）は、磨石、石皿、石臼、礫などに認められる。新第三紀の輝石安山岩および安山岩は、石基が変質しており、鬼怒川上流～中流域にかけて分布する新第三系に由来すると考えられる。第四紀の多孔質輝石安山岩、輝石安山岩、安山岩は未変質で新鮮な火山ガラスが認められ、北関東の第四紀火山の噴出物に由来するとみられる。スコリア質輝石安山岩（第四紀）、スコリア質安山岩（第四紀）、スコリア質安山岩は、磨石、石皿？、礫などに認められる。図版 1-3 に示すようにスコリア質で、同一火山を給源とする岩石の可能性が示される。

火山碎屑岩類の軽石凝灰岩は、礫および小礫などに多量に認められる。被熱しているものが多く、ベージュ色～緑色を帯び、中～多量の軽石を含むという岩相を示す（図版 1-4）。栃木県宇都宮市大谷地区から採石された大谷石に酷似している。火山礫凝灰岩（大谷石）も同様の地質に由来する。結晶質凝灰岩（奥日光）、火山礫凝灰岩（奥日光）、溶結凝灰岩（奥日光）は、ソロバン玉状を示す石英斑晶が散在する岩相を示すことが多く、レンズ状に引き伸ばされている軽石が観察されるものが認められる。鬼怒川の上流域に分布する、奥日光流紋岩類に由来すると推測される。凝灰岩（古期）は、紡錘車？に使用され、奥日光流紋岩類に由来する

と考えられる。流紋岩質凝灰岩および凝灰岩（新第三紀）は、砥石？、礫、小礫に認められる。鬼怒川の中新統～漸新統に由来すると考えられる。軽石（角閃石）、スコリア（輝石）およびスコリアは、多孔質な岩相を示し、斑晶鉱物として角閃石や輝石が観察されるものもある。第四紀に活動した火山噴出物に由来するとみられる。

堆積岩類は、砥石、礫、小礫などに多量に認められる。このうち、礫質砂岩、砂岩（新第三紀）、砂岩、砂質頁岩、頁岩、泥質チャートおよびチャートは、足尾帯の主要岩相であり、堅硬緻密質である（図版 1-5）。新第三紀の含礫砂岩および砂岩、凝灰質シルト岩、シルト岩は、礫および小礫などに使用されている。新第三系の地質に由来すると考えられる軟質な岩相を示し、原産地近傍で採取された可能性が示唆される。

変成岩類のホルンフェルス、粘板岩、緑色片岩は、砥石、硯、碁石、板碑などに使用されている。ホルンフェルスは、一般には泥岩を源岩とし、地下深所で、花崗岩などの貫入による接触変成作用により生じた岩石である。足尾帯を構成する頁岩と花崗岩の接触変成部に存在する。粘板岩は、砥石や硯などに使用されているが、図版 1-6 に示されるように碁石などに使用されるものは、良質な岩相を示す。良質な粘板岩の著名な産地としては、宮城県雄勝町、滋賀県高島郡が挙げられる。緑色片岩は、板碑に使用されている。図版 1-7 に示されるように緑色片岩は、斜長石の点紋が散在する岩相を示し、荒川源流域に分布する三波川変成岩類に由来すると考えられる。

変質岩類の変質流紋岩、珪化流紋岩は、礫および砥石？に認められる。いずれも流紋岩の変質部～珪化部に生じる岩石で、小規模な分布を示す。

鉱物の石英および玉髄は、剥片や小礫に認められ、一般的には花崗岩や流紋岩などの細脈や晶洞部に充填して生じる鉱物である（図版 1-8）。鬼怒川水系に分布する流紋岩類に随伴するものに由来している可能性が考えられる。

引用文献

日本の地質『関東地方』編集委員会編,1986,日本の地質3 関東地方. 共立出版株式会社,335p.

須藤定久・牧本 博・秦 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨・駒澤正夫・広島俊男,1991,20万分の1地質図幅「宇都宮」,地質調査所.

山元孝広・滝沢文教・高橋 浩・久保和也・駒澤正夫・広島俊男・須藤定久,2000,20万分の1地質図幅「日光」.産業技術総合研究所地質調査総合研究センター.

表1. 岩石肉眼鑑定結果(1)

No.	遺構・出土位置	種類	石材	No.	遺構・出土位置	種類	石材
1	SK-1	打製石斧	輝石安山岩(第四紀)	82	P-692	礫	軽石凝灰岩
2	SK-4	小礫	輝石デイスайト(新第三紀)	83	SD-19	板碑	緑色片岩
3	SK-37	砥石	粘板岩	84	SD-19	板碑	緑色片岩
4	SK-37	小礫	礫質砂岩	85	SD-19	板碑	緑色片岩
5	SK-37	小礫	凝灰質シルト岩	86	SD-19	板碑	緑色片岩
6	SK-41	剥片	黒曜石	87	SD-19	板碑	緑色片岩
7	SK-41	剥片	玉髓	88	SD-19	板碑	緑色片岩
8	SK-42	紡錘車?	凝灰岩(古期)	89	SD-19	板碑	緑色片岩
9	SK-43		チャート	90	SD-19	板碑	緑色片岩
10	SK-49	砥石?	流紋岩	91	SD-19	板碑	緑色片岩
11	SK-83	小礫	安山岩(新第三紀)	92	SD-19	板碑	緑色片岩
12	SK-83	硯?	粘板岩	93	SD-19	板碑	緑色片岩
13	SK-94		軽石凝灰岩	94	SD-19	剥片	玉髓
14	SK-94	小礫	凝灰岩(新第三紀)	95	SD-19	砥石	安山岩(新第三紀)
15	SK-94	小礫	砂岩	96	SD-19	砥石	チャート
16	SK-104	基石	頁岩	97	SD-19	砥石	砂岩
17	SK-114	基石?	石英斑岩(奥日光)	98	SD-19	砥石	頁岩
18	SK-114	礫	石英斑岩(奥日光)	99	SD-19	砥石	砂岩
19	SK-114	礫	安山岩(新第三紀)	100	SD-19	基石	頁岩
20	SD-19	磨石	輝石デイスайト(新第三紀)	101	SD-19	基石	チャート
21	SD-21	板碑	緑色片岩	102	SD-19	基石	粘板岩
22	SD-21	石皿	輝石安山岩(第四紀)	103	SD-19	基石	粘板岩
23	SD-21	礫	石英斑岩(奥日光)	104	SD-19	基石	チャート
24	SD-21	砥石	流紋岩	105	SD-19	基石	粘板岩
25	SD-21	礫	石英斑岩(奥日光)	106	SD-19	磨石	石英斑岩(奥日光)
26	OYAW2 1	砥石?	凝灰岩(新第三紀)	107	SD-19	砥石	砂岩
27	OYAW2 1	礫	砂岩	108	SD-19	剥片	玉髓
28	OYAW2 1	小礫	砂岩	109	SD-19	石臼	輝石安山岩(第四紀)
29	SE-77	石臼	輝石安山岩(第四紀)	110	SD-19	礫	軽石(角閃石)
30	SE-92	砥石	流紋岩	111	SD-19	石皿	輝石安山岩(第四紀)
31	SA-120	砥石	流紋岩	112	SD-19	石皿	輝石安山岩(第四紀)
32	OYAW2 1	砥石?	流紋岩	113	P-575	磨石	礫質砂岩
33	OYAW2 1	板碑?	緑色片岩	114	P-575	被熱した礫	石英斑岩(奥日光)
34	II-3	礫	頁岩	115	P-575	被熱した礫	石英斑岩(奥日光)
35	III-1	剥片	玉髓	116	P-575	被熱した礫	溶結凝灰岩(奥日光)
36	III-3	礫	頁岩	117	P-575	砥石?	頁岩
37	2区一括	砥石?	頁岩	118	P-575	剥片	玉髓
38	SD-19	板碑	緑色片岩	119	P-575・SK-601	礫	砂岩
39	SK-565	砥石	流紋岩	120	P-577・578	礫	砂岩
40	SK-565	砥石	チャート	121	P-575・580	砥石	チャート
41	SK-565	砥石	チャート	122	P-575・580	硯	粘板岩
42	SE-566	砥石	流紋岩	123	P-575・580	硯	粘板岩
43	SE-566	砥石	泥質チャート	124	P-575・580	礫	チャート
44	SE-566	石材	粘板岩	125	P-575・580	砥石	チャート
45	SE-566	石材	粘板岩	126	P-579	砥石?	安山岩(新第三紀)
46	SE-566	砥石	流紋岩	127	P-582	砥石?	砂岩
47	SK-567・568	石材	砂岩	128	P-582	砥石?	溶結凝灰岩(奥日光)
48	SK-567・568	石臼	輝石安山岩(第四紀)	129	P-582	小礫	デイスайト
49	SK-567・568	石皿	輝石安山岩(第四紀)	130	P-582	硯	粘板岩
50	SK-567・568	板碑	緑色片岩	131	P-582	砥石	流紋岩
51	SK-567・568	板碑	緑色片岩	132	P-582	砥石	珪化流紋岩
52	SK-567・568	板碑	緑色片岩	133	P-582	礫	凝灰岩(新第三紀)
53	SK-567・568	板碑	緑色片岩	134	P-587	板碑	緑色片岩
54	SK-567・568	石皿	安山岩(第四紀)	135	P-587	礫	砂岩
55	SK-567・568	砥石	流紋岩	136	P-593	被熱した礫	火山礫凝灰岩(奥日光)
56	SK-567・568	砥石	流紋岩	137	P-594~SK-598	小礫	安山岩(第四紀)
57	SK-567・568	磨石	石英斑岩(奥日光)	138	SE-230	礫	スコリア質安山岩
58	SK-567・568	磨石	輝石安山岩(新第三紀)	139	P-611・SK-612	砥石?	チャート
59	SK-567・568	砥石	砂岩	140	P-611・SK-612	礫	流紋岩
60	SK-567・568	磨石	スコリア質安山岩	141	P-611・SK-612	礫	軽石凝灰岩
61	SK-567・568	磨石	角閃石輝石安山岩	142	P-611・SK-612	礫	軽石凝灰岩
62	SK-567・568	石皿	安山岩(第四紀)	143	SK-615~619	礫	スコリア質安山岩
63	SK-567・568	礫	砂岩	144	SK-615~619	礫	デイスайト(第四紀)
64	SK-567・568	磨石	砂岩	145	SK-615~619	礫	砂岩
65	SK-567・568	磨石	砂岩	146	SK-615~619	礫	チャート
66	SK-567・568	石鉢	安山岩(第四紀)	147	SK-615~619	礫	石英斑岩(奥日光)
67	SK-567・568	磨石	安山岩(第四紀)	148	SK-615~619	砥石?	流紋岩
68	SK-567・568	砥石	砂岩	149	SK-615~619	砥石?	砂岩
69	SK-567・568	砥石	流紋岩	150	SK-241	礫	砂岩
70	SK-567・568	砥石	流紋岩	151	SK-623~625	礫	砂岩
71	SK-567・568	磨石	輝石安山岩(新第三紀)	152	SK-623~625	礫	粘板岩
72	SD-19	石臼?	安山岩(第四紀)	153	SK-623~625	砥石	流紋岩
73	SD-19	小礫	石英斑岩(奥日光)	154	SK-623~625	基石	粘板岩
74	P-611	礫	ホルンフェルス	155	SK-623~625	基石	粘板岩
75	SK-639	磨石	輝石デイスайト(第四紀)	156	SK-623~625	小礫	デイスайト(新第三紀)
76	SK-639	礫	頁岩	157	SK-627	砥石?	玉髓
77	SK-639	礫	石英斑岩(奥日光)	158	SK-627	砥石?	チャート
78	SK-639	石臼	輝石安山岩(第四紀)	159	SK-627	砥石?	チャート
79	SD-642	砥石	泥質チャート	160	SK-627	硯	粘板岩
80	SD-642	板碑	緑色片岩	161	P-631	砥石	流紋岩
81	SK-645	砥石	粘板岩	162	P-632	砥石	流紋岩

表1. 岩石肉眼鑑定結果 (2)

No.	遺構・出土位置	種類	石材	No.	遺構・出土位置	種類	石材
163	SK-636	被熱した礫	火山礫凝灰岩(奥日光)	244	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
164	SK-636	被熱した礫	ホルンフェルス	245	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
165	OYAW3	砥石?	頁岩	246	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
166	OYAW3	砥石?	チャート	247	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
167	OYAW3	砥石?	チャート	248	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
168	OYAW3	砥石?	チャート	249	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
169	SK-51	砥石?	粘板岩	250	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
170	SK-46-1	石鏝	砂岩	251	SD-374	小礫	火山礫凝灰岩(大谷石)
171	SK-41	基石?	流紋岩(奥日光)	252	SD-374	小礫	軽石凝灰岩
172	SK-113	基石?	スコリア質安山岩(第四紀)	253	SD-374	石皿?	スコリア質安山岩(第四紀)
173	Ⅲ区	基石?	スコリア質安山岩(第四紀)	254	SD-374	石皿?	スコリア質安山岩(第四紀)
174	Ⅲ区	基石?	砂岩	255	SD-374	小礫	軽石凝灰岩14点
175	Ⅲ区	基石?	流紋岩	255	SD-374	小礫	シルト岩
176	Ⅲ-1	砥石?	砂岩	255	SD-374	小礫	流紋岩
177	Ⅲ-1		頁岩	255	SD-374	小礫	土塊9点
178	C区 SD-13	石鏝	泥質チャート	255	SD-374	小礫	砂岩
179			黒曜石	256	SD-376	小礫	シルト岩
180	SK-41	砥石?	流紋岩(奥日光)	257	SD-376	砥石	流紋岩
181	SK-41	礫?	頁岩	258	SD-376	砥石	流紋岩
182	SK-43	砥石?	ホルンフェルス	259	SD-376	砥石	頁岩
183	SK-941	石鏝 未製品	頁岩	260	SD-376	磨石?	スコリア質安山岩(第四紀)
184	SK-737	砥石	流紋岩	261	SD-376	板碑?	砂岩
185	SK-737	砥石	流紋岩	262	SD-376	板碑?	砂岩
186	SK-737	砥石	流紋岩	263	SD-376	礫	土塊
187	SK-737	小礫?	砂岩	264	SD-376	礫	軽石凝灰岩
188	SK-737	小礫	チャート	265	SD-376	小礫	土塊
189	SK-737	小礫	スコリア(輝石)	266	SD-376	小礫	土塊
190	SK-737	小礫?	チャート	267	SD-376	小礫	礫質砂岩
191	SK-737	小礫	流紋岩?	268	SD-376	小礫	シルト岩
192	SK-737	小礫	チャート	269	SD-376	小礫	石英斑岩(奥日光)
193	SK-737	小礫	流紋岩	270	SD-376	小礫	土塊
194	SK-737	小礫	土器片	271	SD-376	小礫	土器片?
195	SK-737	礫	砂岩	272	SD-376	小礫	土器片?
196	SK-737		含礫砂岩(新第三紀)	273	SD-376	小礫	土器片?
197	SK-737	礫	シルト岩	274	SD-376付近	砥石	流紋岩
198	SK-737	礫	軽石凝灰岩	275	SD-376付近	小礫	頁岩
199	SK-737	礫	軽石凝灰岩	276	SK-705		砂岩
200	SK-737	礫	軽石凝灰岩	277	SK-739付近	小礫	チャート
201	SK-737	礫	軽石凝灰岩	278	P-741	板碑	緑色片岩
202	SK-737	礫	土塊	279	P-741	板碑	緑色片岩
203	SK-737	小礫	軽石凝灰岩	280	P-741		砂岩(新第三紀)
204	SK-737	小礫	軽石凝灰岩	281	SK-386	小礫	流紋岩
205	SK-737	小礫	軽石凝灰岩	282	SK-386	小礫	粘板岩(足尾帯?)
206	SK-737	小礫	軽石凝灰岩	283	SK-386	小礫	砂岩
207	SK-737	礫	軽石凝灰岩	284	SE-405	小礫	軽石凝灰岩
208	P-744	砥石	流紋岩	285	SE-405	小礫	軽石凝灰岩
209	SD-374	砥石	流紋岩	286	SE-405	小礫	砂岩
210	SD-374	砥石	流紋岩	287	SK-435・436	小礫	チャート
211	SD-374	砥石	流紋岩	288	P-741付近	小礫	凝灰岩(新第三紀)
212	SD-374	砥石	流紋岩	289	P-741付近	小礫	含礫砂岩(新第三紀)
213	SD-374	砥石?	チャート	290	SK-374	小礫	砂岩
214	SD-374	砥石	流紋岩	291	SK-374	小礫	軽石凝灰岩
215	SD-374	砥石	流紋岩	292	SK-374	小礫	軽石凝灰岩
216	SD-374	砥石	流紋岩	293	SK-374	耳環?	安山岩(第四紀)
217	SD-374	砥石?	チャート	294	SK-374	小礫	砂岩
218	SD-374	砥石	頁岩	295	SK-374	砥石	流紋岩
219	SD-374	硯	粘板岩	296	SK-374	小礫	砂岩(新第三紀)
220	SD-374	小礫	砂岩	297	SK-374	小礫	砂岩
221	SD-374	礫?	砂質頁岩	298	SK-374	小礫	頁岩
222	SD-374	石棒	砂岩	299	SK-374	小礫	流紋岩
223	SD-374	礫?	流紋岩	300	SK-374	小礫	泥質チャート
224	SD-374	小礫	シルト岩	301	SK-374	小礫	砂岩
225	SD-374	小礫	土塊	302	SK-374	小礫	砂岩(新第三紀)
226	SD-374	礫	軽石凝灰岩	303	SK-374	小礫	流紋岩
227	SD-374	礫	軽石凝灰岩	304	SK-374	小礫	シルト岩
228	SD-374	小礫	玉髄	305	SK-374	小礫	シルト岩
229	SD-374	小礫	土塊	306	SK-374	小礫	頁岩
230	SD-374	小礫	土塊	307	SE-445	石皿?	スコリア質輝石安山岩(第四紀)
231	SD-374	小礫	土塊	308	SK-447	礫	流紋岩
232	SD-374	小礫	土塊	309	SK-469	礫	チャート
233	SD-374	小礫	土塊	310	SK-469	礫	流紋岩質凝灰岩
234	SD-374	小礫	結晶質凝灰岩(奥日光)	311	SK-469		多孔質輝石安山岩(第四紀)
235	SD-374	小礫	珪化流紋岩	312	SK-485	砥石?	粘板岩
236	SD-374	礫	軽石凝灰岩	313	B区カクラン	砥石?	流紋岩
237	SD-374	礫	軽石凝灰岩	314	B区西カクラン	小礫	砂岩
238	SD-374	礫	軽石凝灰岩	315	B区北西カクラン	小礫	砂岩
239	SD-374	礫	軽石凝灰岩	316	B区北西カクラン	小礫	砂岩
240	SD-374	礫	軽石凝灰岩	317	B区北西カクラン	小礫	石英
241	SD-374	礫	軽石凝灰岩	318	B区北西カクラン	小礫	石英
242	SD-374	小礫	軽石凝灰岩	319	B区北西カクラン	小礫	チャート
243	SD-374	小礫	軽石凝灰岩	320	B区北西カクラン	小礫	シルト岩

表 1. 岩石肉眼鑑定結果 (3)

No.	遺構・出土位置	種類	石材	No.	遺構・出土位置	種類	石材
321	B区北西カクラン	小礫	土塊	334	SK-485	礫	石英斑岩(奥日光)
322	C区カクラン	小礫	砂岩	335	A区 SK-616	板碑	緑色片岩
323	C区カクラン	小礫	チャート	336	SE-405	小礫	頁岩
324	C区カクラン	小礫	チャート	337	III-1	小礫	チャート
325	OYAW3		流紋岩	338	SD-21		流紋岩
326	OYAW3	小礫	チャート	339	SK-567・568		緑色片岩
327	SK-713付近	小礫	流紋岩	340	SK-567・568		輝石安山岩(第四紀)
328	SK-485	礫	軽石凝灰岩	341	A区 SD-19		緑色片岩
329	SK-485	磨石?	多孔質輝石安山岩(第四紀)	342	A区 P-574		スコリア質輝石安山岩(第四紀)
330	SK-485	礫	軽石凝灰岩	343	A区 P-574		流紋岩
331	SK-485	石皿?	スコリア質輝石安山岩(第四紀)	344	A区 P-574		変質流紋岩
332	SK-485		砂岩	345	A区 P-574		スコリア
333	SK-485		砂岩				

表 2. 器種別石質組成

器種	石鏃	石鏃未製品	剥片	打製石斧	磨石	磨石?	石皿	石皿?	石棒	耳環?	石臼	石臼?	石鉢	砥石	砥石?	硯	碁石	碁石?	紡錘車?	板碑	板碑?	石材	被熱した礫	礫	礫?	小礫	小礫?	種類不明	合計	
半深成岩類																														
石英斑岩(奥日光)					2												1						2	6		2			13	
火山岩類																														
黒曜石			1																									1	2	
流紋岩(奥日光)														1			1												2	
流紋岩													29	4			1								2	1	6	3	46	
流紋岩?																										1			1	
デイサイト(新第三紀)																										1			1	
デイサイト(第四紀)																								1					1	
デイサイト																										1			1	
輝石デイサイト(新第三紀)					1																					1			2	
輝石デイサイト(第四紀)					1																								1	
多孔質輝石安山岩(第四紀)							1																					1	2	
輝石安山岩(新第三紀)							2																						2	
輝石安山岩(第四紀)				1			4			4																	1	10		
角閃石輝石安山岩					1																								1	
安山岩(新第三紀)													1	1									1			1			4	
安山岩(第四紀)					1		2			1		1	1													1			7	
スコリア質輝石安山岩(第四紀)								2																				1	3	
スコリア質安山岩(第四紀)							1	2									2												5	
スコリア質安山岩					1																			2					3	
火山砕屑岩類																														
流紋岩質凝灰岩																							1						1	
軽石凝灰岩																								19		32	1	52		
火山礫凝灰岩(大谷石)																										1			1	
結晶質凝灰岩(奥日光)																										1			1	
火山礫凝灰岩(奥日光)																							2						2	
溶結凝灰岩(奥日光)														1									1						2	
凝灰岩(古期)																				1									1	
凝灰岩(新第三紀)														1										1		2			4	
軽石(角閃石)																								1					1	
スコリア(輝石)																										1			1	
スコリア																												1	1	
堆積岩類																														
礫質砂岩					1																					2			3	
含礫砂岩(新第三紀)																										1	1		2	
砂岩(新第三紀)																												1	3	
砂岩	1				2				1				5	3					1			2	1	9	14	1	3	43		
砂質頁岩																									1				1	
凝灰質シルト岩																										1			1	
シルト岩																								1		7			8	
頁岩		1											3	3		2								3	1	4	1	18		
泥質チャート		1											2													1			4	
チャート													5	8		2									3	9	1	1	29	
変成岩類																														
ホルンフェルス														1										1	1				3	
粘板岩(足尾帯?)																										1			1	
粘板岩													2	2	6	5													18	
緑色片岩																					22	1							25	
変質岩類																														
変質流紋岩														1													1		1	
珪化流紋岩																													2	
鉱物																														
石英																											2		2	
玉髄			5											1													1		7	
合計	2	1	6	1	12	2	6	4	1	1	4	1	1	48	26	6	9	6	1	22	3	3	6	52	3	97	2	19	345	

図版1 岩石



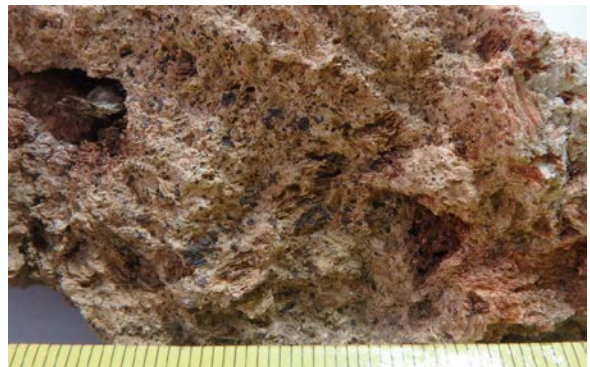
1. 334 SK-485 礫 石英斑岩(奥日光)



2. 214 SD-374 砥石 流紋岩



3. 331 SK-485 石皿? スコリア質輝石安山岩(第四紀)



4. 199 SD-364 礫 軽石凝灰岩



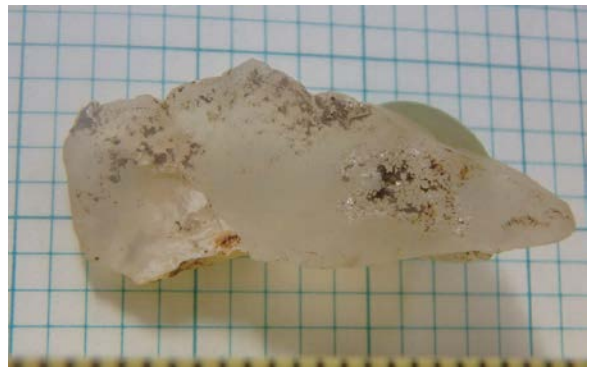
5. 261 SD-376 板碑? 砂岩



6. 154 S-250~252 基石 粘板岩



7. 335 A区 SE-243 板碑 緑色片岩



8. 94 SD-19 剥片 玉髓

写真図版



調査区遠景 - 思川をのぞむ（3次調査A区） - （西上空から）



調査区遠景 - 安房神社をのぞむ（3次調査D区） - （南上空から）

図版二
遺構



1～3次調査区全景



2次調査Ⅲ－2区全景（北西から）



2次調査Ⅲ－3区全景（北西から）



SK-1（地下式坑）・SK-2・3・16・122・123（東から）



SK-9（地下式坑）・10（地下式坑）（南から）



SK-15・17（地下式坑）（西から）



SK-25（地下式坑）（北東から）



SK-106（地下式坑）（北西から）



SK-114（地下式坑）（北東から）

図版四
遺構



SK-142 (地下式坑)・SK-144・SD-19 (南から)



SK-565 (地下式坑) (西から)



SK-705 (地下式坑)・SK-707 (方形竪穴)・SK-95・706 (北から)



SK-24 (方形竪穴)・SE-603・604 (南西から)



SK-105 (方形竪穴)・SK-101 (西から)



SK-109 (方形竪穴) (南西から)



SK-567 (方形竪穴) (南から)



SK-4・104 ((北東から)



SK-20 (南から)



SK-23 (南から)



SK-33・35・44・52・SD-64 (北東から)



SK-41 (南から)



SK-42・43 付近 (南から)



SK-42・43 付近遺物出土状況 (南から)



SK-46 (南から)



SK-47 (南東から)

図版六
遺構



SK-61 (北西から)



SK-82 (北東から)



SK-85 (北から)



SK-107 (南西から)



SK-111・155～159 (東から)



SK-113・228・229・P-189 (北から)



SK-115・137～139 (南東から)



SK-121 (北東から)



III-3区 L-10 グリッド付近土坑群 (北東から)



SE-13 (北東から)



SE-26 (南から)



SE-87 (西から)



SE-93 (南西から)



SE-118 (北東から)



SK-145・SE-110 (北東から)



SA-120 (北東から)



SD-19・21 (南東から)



SD-21 遺物出土状況 (西から)



SD-21 遺物出土状況 (東から)



SD-64 (北東から)



3次調査A区調査風景 (南西から)



3次調査D区全景 (西から)



SK-214 (地下式坑) (南から)



SK-370 (地下式坑) (南東から)



SK-338 (地下式坑) (北東から)



SK-338 (地下式坑) (南東から)



SK-374 (地下式坑)・SD-364 (北東から)



SK-204・762 (北東から)



SK-208 (西から)



SK-216 (西から)



SK-219 (西から)



P-19 グリッド SK-221 付近土坑群 (北から)



SK-241・259 (南西から)



Q-19 グリッド SK-211 付近土坑群 (北東から)



Q-19 グリッド SK-247 付近土坑群 (北から)



SK-255・256・264・266・SD-19 (北から)



SK-258 (南西から)



SK-260～262・SE-263 (北西から)



SK-314 (南東から)



SK-322・SE-321 (北東から)



SK-325・326 (西から)



SK-343 (北から)



SK-348～350 (北西から)



SK-365 (西から)



C区 L-11 グリッド付近 SK-418 周辺 (北西から)



SK-438 周辺 (南東から)



SK-485 (南西から)



SK-487 周辺 (南西から)



SE-203 (北から)



SE-209 (北西から)



SE-243 (東から)



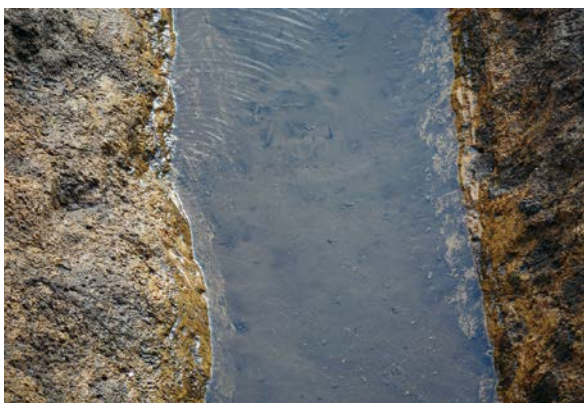
SE-337 (北から)



SE-380 (南西から)



SD-13・14 全景 (北東から)



SD-14 湧水状況 (北東から)



SD-14 調査風景 (北東から)



SD-12 全景 (西から)



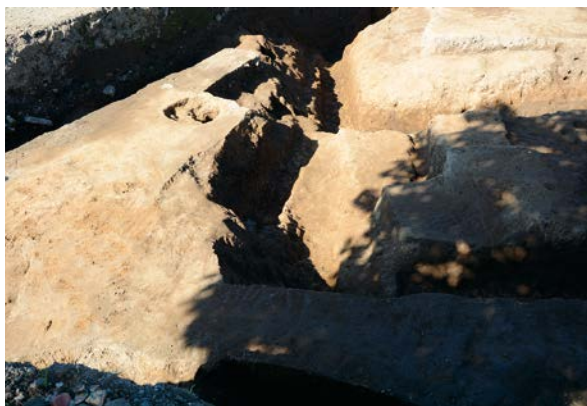
SD-19 (北から)



SD-202 (南西から)



SD-276 (北から)



SD-364・376 (南東から)



SD-379・393 (北から)



SX-491 (南から)



P-229 遺物出土状況 (南東から)

圖版一四
遺物





SK-239.1



SK-239.2



SK-332.1



SK-332.3



SK-332.4



SK-332.5



SK-332.6



SK-332.7



SK-485.2



SK-375.3



SK-485.3



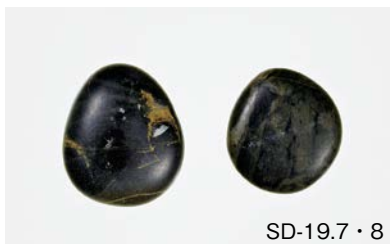
SK-485.4



SK-375.3



SE-445.1



SD-19.7・8



SD-19.6



SD-14.29



SD-376.5



整理作業状況 (遺物洗浄)



整理作業参加者

圖版一六 遺物



報告書抄録

ふりがな	あわのみやみやうちいせき
書名	栗宮宮内遺跡
副書名	快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第386集
編著者名	篠原浩恵
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦 2017年3月30日（平成29年3月30日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あわのみやみやうち 栗宮宮内 いせき 遺跡	おやまし 小山市 あわのみやちない 栗宮地内	小山市 57	16865	36° 17' 11"	139° 46' 50"	2次調査 20150803～ 20151130 3次調査 20160601～ 20170330	2次調査 3601.5㎡ 3次調査 2559㎡	道路整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
栗宮宮内 遺跡	集落跡	中世・近世 ～ 近代	地下式坑 14 方形竪穴遺構 5 土坑 371 井戸跡 43 溝状遺構 19 柵列 1 ピット 392 性格不明遺構 2	土師質土器小皿・内耳土 器・陶磁器・石製品・板碑・ 金属器・古銭 等	中・近世の 集落跡

要約	<p>栗宮宮内遺跡は思川の東岸に位置する。官衙関連遺跡である千駄塚浅間遺跡は小枝谷を挟んで近距離に位置する。今回の調査では地下式坑・方形竪穴遺構・土坑等を複数確認した。特に、土坑は形状や主軸に共通性を持ち、重複、近接して群在する。周辺に位置する溝状遺構は群在する土坑群の区画溝とみられる。土坑と重複する井戸跡からは「康暦元年」銘の板碑が出土する。土坑に関連したものの混入と判断される。この他、「開元通宝」などの渡来銭や、中・近世の土師質土器、近世後半以降の陶磁器などが出土する。</p>
----	---

栃木県埋蔵文化財調査報告第 386 集

栗宮宮内遺跡

—快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査—

発 行 栃木県教育委員会

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1 - 8

T E L 028 (643) 1011

編 集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

発行日 平成 29 年 3 月 30 日発行

印 刷 株式会社松井ピ・テ・オ・印刷
